京都大学自己点検･評価報告書Ⅲ 2001（別冊）

「教育･研究と社会」
ーアンケートの回答ー

平成 14 年 3 月

アンケートの概要

1．平成 13 年度自己点検･評価項目「教育・研究と社会」を実施するにあたり、学外者からの意見を聴取するため、平成 13 年 9 月にアンケートを実施した。

2．『京都大学卒業生アンケート』では、昭和 42 年度(1967)、昭和 49 年度(1974)、昭和 54 年度(1979)、平成元年度(1989)、平成 6 年度(1994)に学部または大学院を卒業（修了）した方を対象にアンケートを依頼した。

3．『京都大学の教育と京都大学卒業生について』では、本学卒業生が勤務する企業のうち約 800 社を対象にアンケートを依頼した。

4．『京都大学と共同研究に関する調査』では、過去に本学が外部資金（受託研究、奨学寄附金、民間等との共同研究）を受け入れたことがある企業を対象にアンケートを依頼した。

5．それぞれのアンケートでは、アンケート用紙で回答を得る方法と、インターネットを利用し回答を得る方法を用意し、数多くの回答と貴重なご意見等をいただいた。

6．本紙ではそれぞれのアンケートの結果と自由記述を原文のまま掲載した。自由記述のなかには、インターネットで回答していただいた際、不測の事態が生じたため文章が途切れているものや判読不可能な文字を〇〇と記載してある。また、自由記述において本人または企業が特定できるような表現や誹謗中傷に関する表現は、修正または削除した。

目次

京都大学卒業生アンケート

アンケート集計結果…… 1
自由記述（問１２）…… 7
自由記述（問１８）…… 74
アンケート本文…… 163

京都大学の教育と京都大学卒業生について

アンケート集計結果…… 169
自由記述（問７）…… 172
自由記述（問１５）…… 174
自由記述（問２１）…… 176
アンケート本文…… 179

京都大学と共同研究に関する調査

アンケート集計結果…… 185
自由記述（問６）…… 189
アンケート本文…… 206

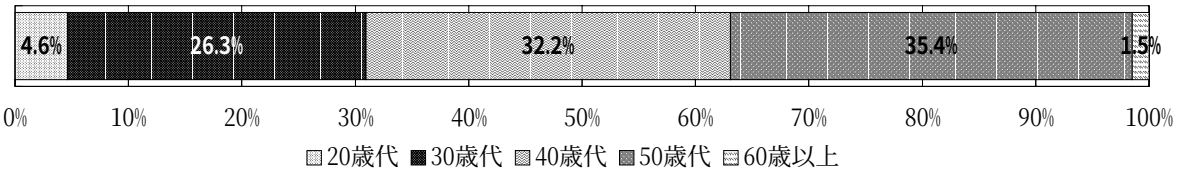
京都大学卒業生アンケート（集計結果）

		回答数	回答率
年齢	20 歳代	106	4.6%
	30 歳代	604	26.3%
	40 歳代	738	32.2%
	50 歳代	813	35.4%
	60 歳以上	34	1.5%
性別	男	2,004	89.4%
	女	238	10.6%
学位	学位	1,212	53.2%
	修士	679	29.8%
	博士	387	17.0%
卒業学部・研究科	総合人間	1	0.0%
	文学	168	7.4%
	教育学	71	3.1%
	法学	295	12.9%
	経済学	173	7.6%
	理学	102	4.5%
	医学	118	5.2%
	薬学	95	4.2%
	工学	903	39.6%
	農学	348	15.2%
	人間・環境学	2	0.1%
	ｴﾈﾙｷﾞｰ科学	4	0.2%
	ｱｼﾞｱ・ｱﾌﾘｶ	2	0.1%
学部卒業年	1969 年以前	515	23.3%
	1970 年代	885	40.0%
	1980 年代	381	17.2%
	1990 年代	433	19.6%
	2000 年以降		
修士修了年	1969 年以前	143	15.0%
	1970 年代	255	26.8%
	1980 年代	215	22.6%
	1990 年代	340	35.7%
	2000 年以降		
博士取得年	1969 年以前	1	0.3%
	1970 年代	50	14.1%
	1980 年代	143	40.3%
	1990 年代	142	40.0%
	2000 年以降	19	5.4%
研究指導認定退学年	1969 年以前	2	1.2%
	1970 年代	56	34.4%
	1980 年代	47	28.8%
	1990 年代	51	31.3%
	2000 年以降	7	4.3%

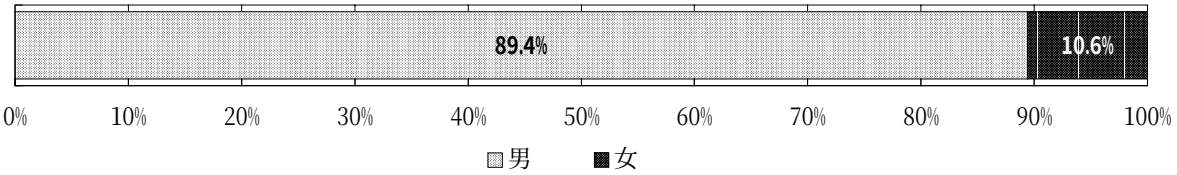
		回答数	回答率
問 1	①	36	1.6%
	②	151	6.7%
	③	483	21.4%
	④	1,045	46.2%
	⑤	545	24.1%
問 2（学部）	①	72	3.2%
	②	232	10.3%
	③	487	21.6%
	④	971	43.1%
	⑤	492	21.8%
問 2（大学院）	①	8	0.8%
	②	17	1.7%
	③	110	10.9%
	④	301	30.0%
	⑤	569	56.6%
問 3（学部）	①	152	6.7%
	②	451	20.0%
	③	610	27.0%
	④	633	28.0%
	⑤	412	18.2%
問 3（大学院）	①	358	35.6%
	②	368	36.6%
	③	161	16.0%
	④	87	8.6%
	⑤	32	3.2%
問 4	①	20	2.0%
	②	43	4.3%
	③	181	18.0%
	④	319	31.7%
	⑤	442	44.0%
問 5	①	190	8.3%
	②	471	20.7%
	③	562	24.7%
	④	511	22.4%
	⑤	544	23.9%
問 6	①	267	11.8%
	②	805	35.5%
	③	613	27.0%
	④	346	15.2%
	⑤	238	10.5%
問 7	①	260	11.6%
	②	776	34.5%
	③	655	29.1%
	④	316	14.0%
	⑤	244	10.8%
問 8	①	846	37.1%
	②	1,002	43.9%
	③	252	11.0%
	④	130	5.7%
	⑤	52	2.3%
問 9	①	908	39.7%
	②	903	39.5%
	③	303	13.3%
	④	118	5.2%
	⑤	54	2.4%
問 10	①	829	39.4%
	②	626	29.8%
	③	412	19.6%
	④	147	7.0%
	⑤	88	4.2%
問 11	①	608	26.8%
	②	745	32.8%
	③	660	29.1%
	④	159	7.0%
	⑤	99	4.4%
問 12		1,179	51.2%
問 13	①	1,914	83.1%
	②	1,060	46.0%
	③	742	32.2%
	④	406	17.6%
	⑤	456	19.8%
	⑥	386	16.8%
	⑦	127	5.5%

		回答数	回答率
問 14（学部）	①	326	14.3%
	②	460	20.2%
	③	925	40.6%
	④	405	17.8%
	⑤	161	7.1%
問 14（大学院）	①	195	18.5%
	②	189	17.9%
	③	280	26.6%
	④	238	22.6%
	⑤	151	14.3%
問 15（学部）	①	312	13.8%
	②	741	32.8%
	③	820	36.3%
	④	291	12.9%
	⑤	96	4.2%
問 15（大学院）	①	512	48.8%
	②	397	37.8%
	③	123	11.7%
	④	14	1.3%
	⑤	3	0.3%
問 16	①	658	28.9%
	②	621	27.3%
	③	505	22.2%
	④	329	14.5%
	⑤	160	7.0%
問 17	①	1,154	56.4%
	②	589	28.8%
	③	222	10.8%
	④	54	2.6%
	⑤	28	1.4%
問 18		1,270	55.1%
問 19	①	16	0.7%
	②	206	9.1%
	③	53	2.3%
	④	12	0.5%
	⑤	19	0.8%
	⑥	178	7.8%
	⑦	77	3.4%
	⑧	157	6.9%
	⑨	69	3.0%
	⑩	93	4.1%
	⑪	47	2.1%
	⑫	92	4.0%
	⑬	38	1.7%
	⑭	25	1.1%
	⑮	49	2.2%
	⑯	404	17.8%
	⑰	299	13.2%
	⑱	47	2.1%
	⑲	392	17.2%
問 20	①	282	12.7%
	②	354	15.9%
	③	366	16.5%
	④	529	23.8%
	⑤	586	26.3%
	⑥	107	4.8%
問 21（形成）	①	785	34.1%
	②	998	43.3%
	③	385	16.7%
	④	165	7.2%
	⑤	19	0.8%
問 21（内容）	①	1,679	72.9%
	②	345	15.0%
	③	560	24.3%
	④	218	9.5%
	⑤	72	3.1%
問 22	①	484	22.3%
	②	466	21.5%
	③	115	5.3%
	④	866	39.9%
	⑤	240	11.1%
アンケート回答数		**2,304 件**	
アンケート回答率		**29.3 %**	

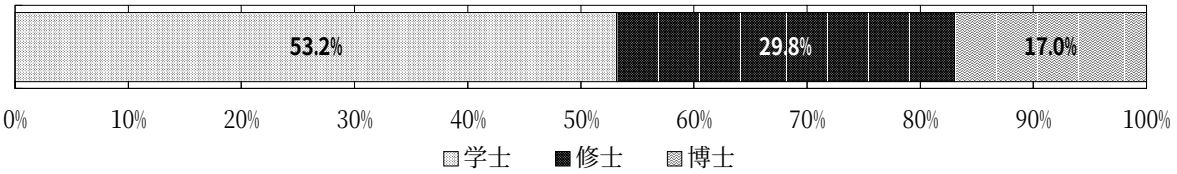
回答者の年齢構成



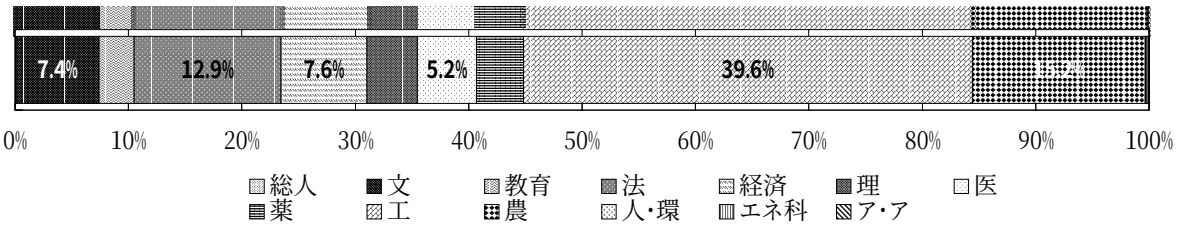
回答者の性別構成



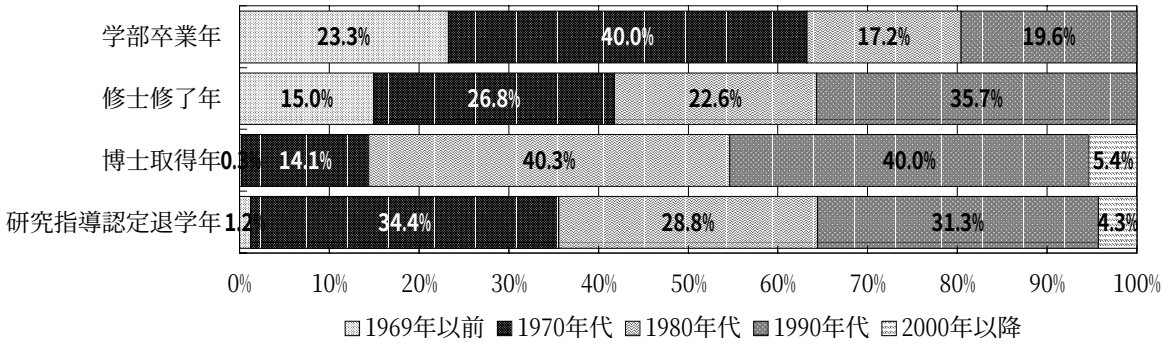
回答者の学位取得状況



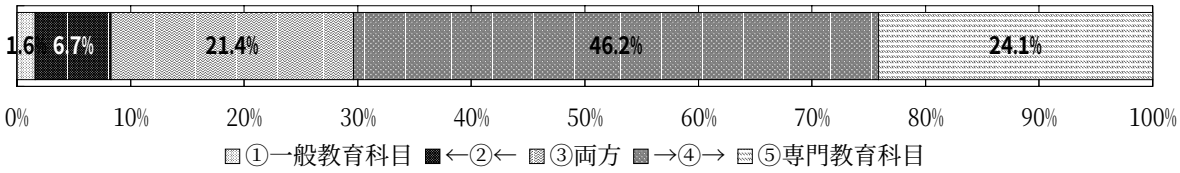
回答者の卒業（修了）学部・研究科構成



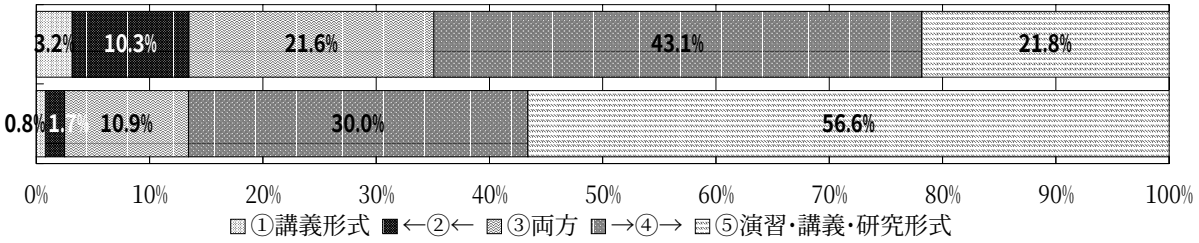
回答者の学部卒業年・修士修了年・博士取得年・研究指導認定退学年構成



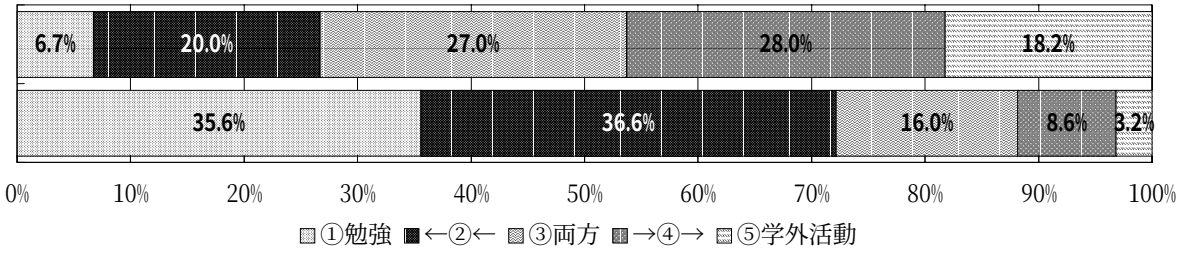
問1　学部の講義では、一般教育科目と専門教育科目のどちらを熱心に学びましたか。



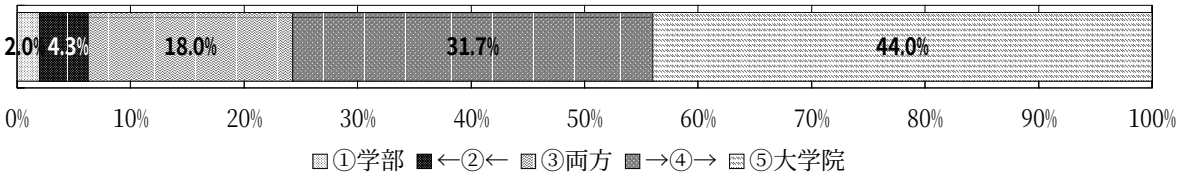
問2　講義形式と演習・実習・研究形式（ゼミ，卒業研究，修士・博士論文の研究活動を含む）では、どちらに熱心に取り組みましたか。



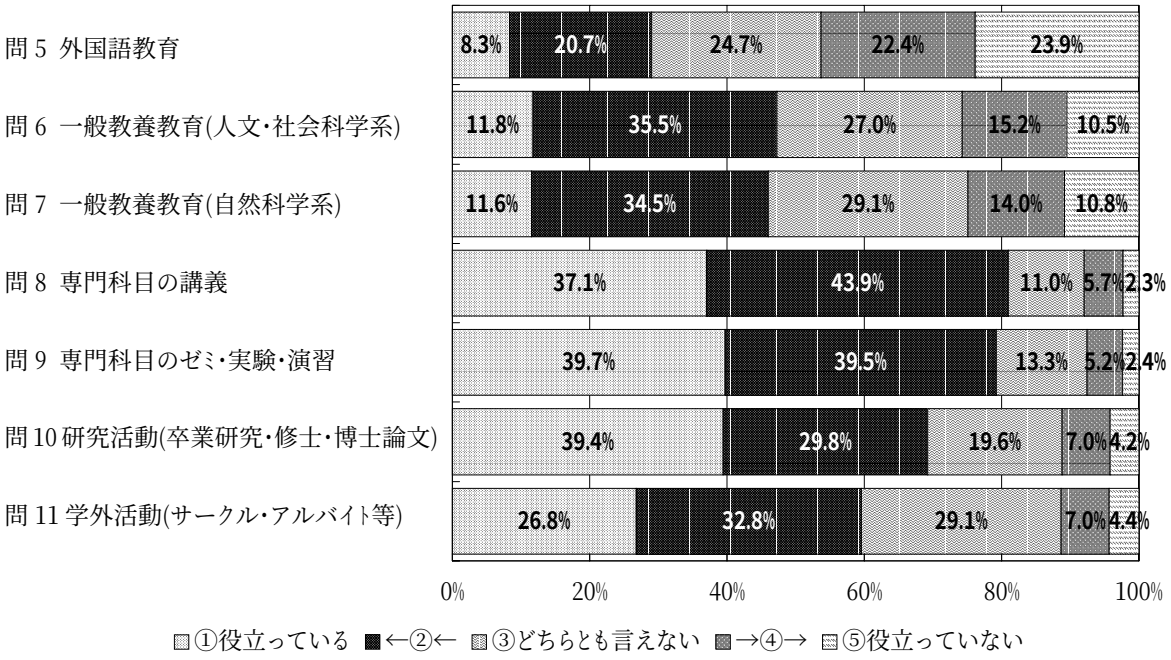
問3　大学での勉強と学外活動（サークル活動・ボランティア・友人との交際・アルバイト等）では、どちらに熱心に取り組みましたか。



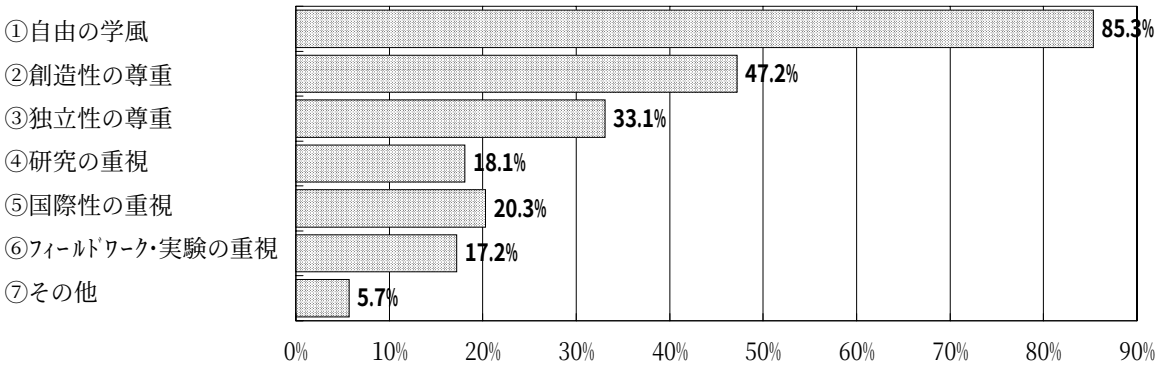
問4　学部の勉強と大学院の勉強とでは、どちらに熱心に取り組みましたか。



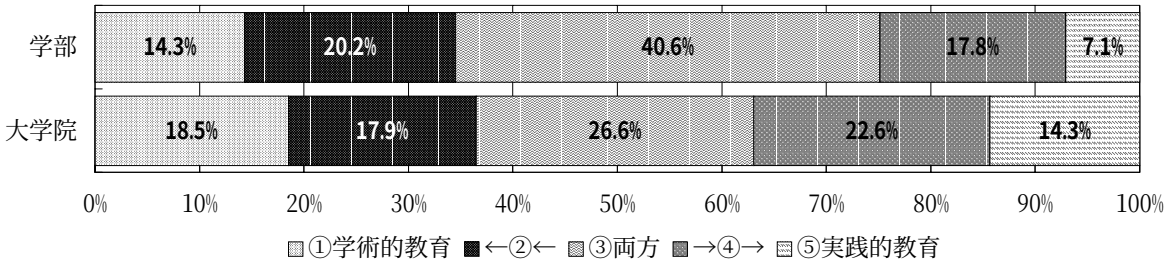
Ⅱ． 京都大学の学部･大学院における以下の学業･活動は、教養を高めるためや業務を遂行するために役立っていますか。



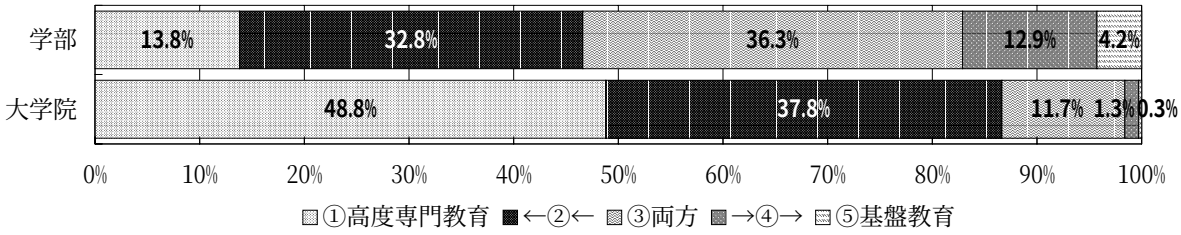
問１３ 京都大学では、以下の点を考慮しつつ特徴ある教育を行っています。これらの点のうち、特に優れているとお考えになるものをあげて下さい。（複数回答可）



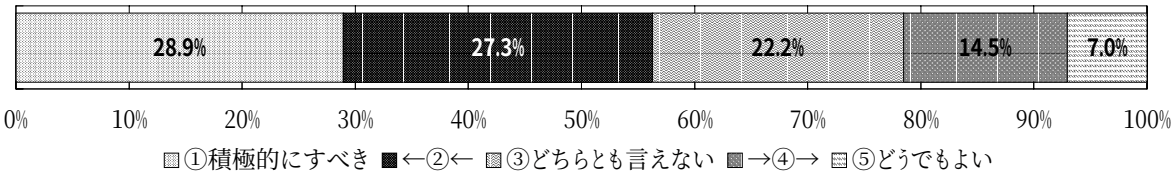
問１４ 学術（基礎）的教育と実践（応用）的教育ではどちらに重点をおいた方がよいと思われますか。



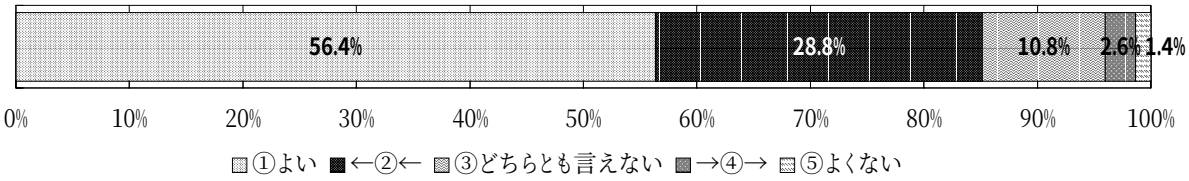
問15　研究活動を含む高度専門教育と講義中心の基盤教育ではどちらに重点をおいた方がよいと思われますか。



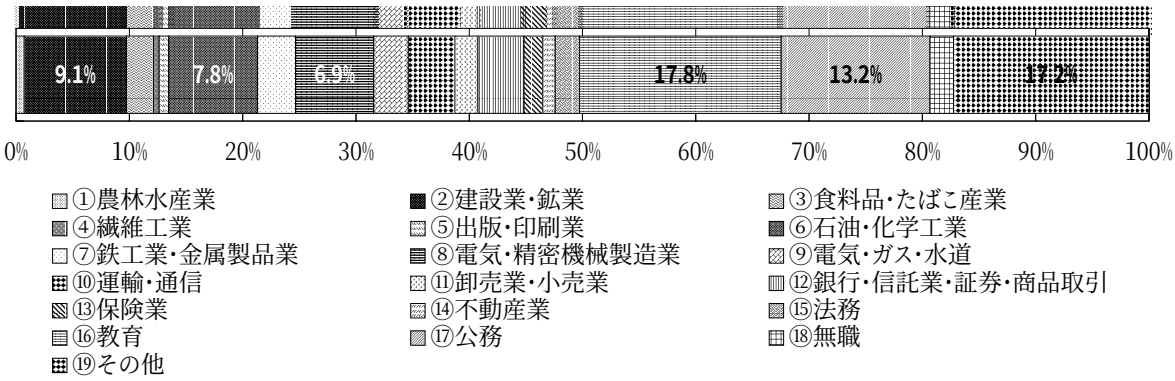
問16　教養教育に積極的に取り組むべきかどうか、お聞かせ下さい。



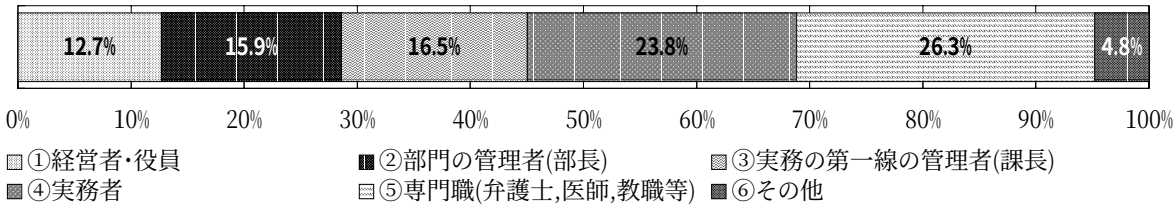
問17　大学院で研究に重点をおいて教育を行うことをどう思われますか。



問19　現在の業種をお答え下さい。

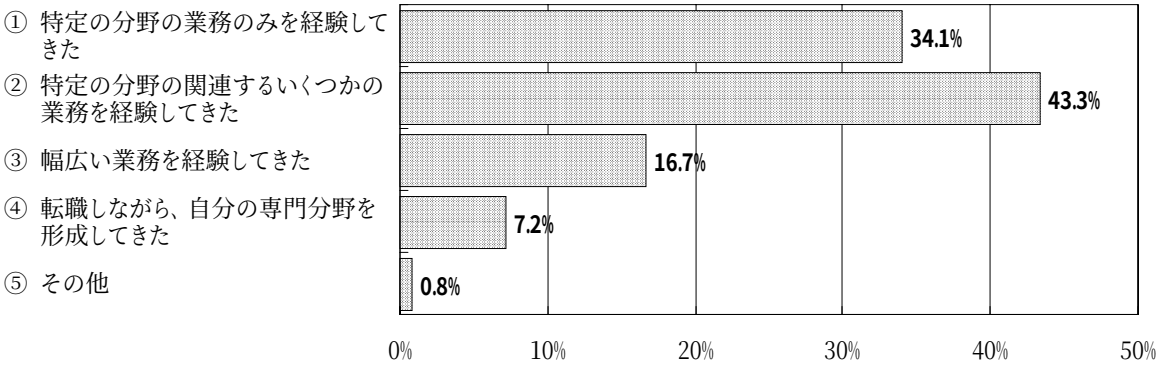


問２０　現在の役職をお答え下さい。

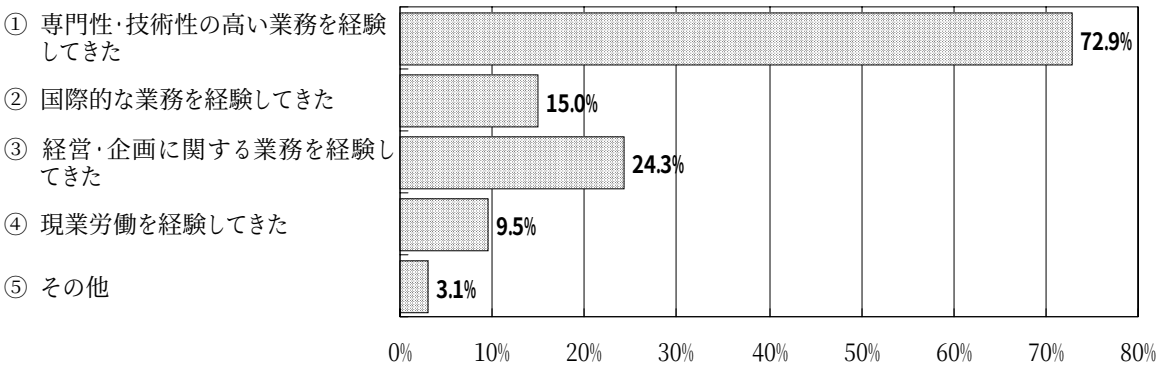


問２１　これまでの職業キャリアについてお答え下さい。

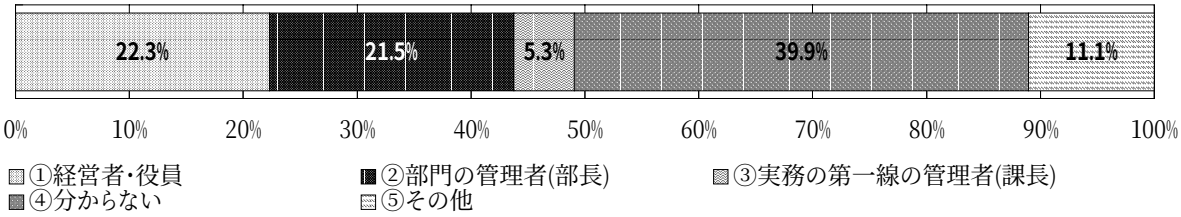
【キャリア形成】



【主なキャリアの内容】



問２２　将来の見通しについてお答え下さい。



問12　京都大学の教育についてご意見、改善策等を自由にお書き下さい。

文学部・文学研究科

◆勉学の中身は教養として役立っているが、実生活において役立っているとはいえない。大きいと感じるのは、有名な先生方の講義を受けたという人脈。（文, 20歳代, 女）

◆学生の自主性に任せた自由な校風を残してほしい。（文, 20歳代, 女）

◆基礎学力のチェック。教育課程が変わったことにより基礎学力が低下しつつあります。京大に入学するほどの学生は大丈夫とは思いますが、基礎学力をチェックしながら専門教育をしていくのはいかがでしょうか。当然既にやっていらっしゃるとは思いますが。（文, 30歳代, 男）

◆教養教育というものは、やはり一流の人士を育てるに当たっては欠かせないもので、ふとした事で人生にゆとりをもたらし、人の尊敬を受ける一因ともなります。教養部というものは、なくなってしまいましたが、各学部共通で「さすがは京大である」と言われるような教養を身に付けるシステムが何とか作れないものでしょうか。専門性は実務の中で身に付くのですが、教養というやつは、世間に出てからはなかなか育てる機会がないものなのです。（文, 30歳代, 男）

◆僕の在学していた時期は、全く自由という訳でもなく、かといって望む勉強ができたという訳でもなく、中途半端な気がしました。今の学生気質としては、結構勉強したくて京大に入学する人が多いと思うので、ビシビシ教えてやってもいいのでは、と思います。（文, 30歳代, 男）

◆外国語教育は購読中心で、実践的でなかった。もっともっと話す、書く中心にした方が社会に出たとき役立つと思う。（文, 30歳代, 女）

◆施設の充実ぶりが評価される近年、この状態を維持、さらに向上できるよう努力していただきたい。（文, 30歳代, 男）

◆自由な学風は決して「放任」ではなく、人を育てる気風として活きていると思う。また、中央に対する反骨精神の伝統は私の在学中は感じられたし、これからも続いてほしいと思う。ただ、教官の方も「自由」で、中には学生のことを全く顧みないかのような超難解な講義や退屈な講義もあった。教官の（「研究」だけでなく）「教育」に対する評価制度は必要かも知れない。（文, 30歳代, 男）

◆学部生については、卒業後の進路について早い時期から面談等を行い、方向を明確にしていく必要があると思われる。一般教養のウエイトが減少し、専門研究教育の方により重点が移行していくのはやむを得ないものと思われる。（文, 30歳代, 男）

◆専門性の高い知識を得るには最適の環境だと思いますが、もう少し「実社会とうまくやれる人間性」をつくる教育を取り入れてほしいです。（文, 30歳代, 女）

◆一般教養の場合、学生が多くて単に講義も話ばかりだったのが残念だった。もう少し人数が少なければ出席学生に合わせた程度や興味方面の授業ができたのではないか。一般教養など学部の授業は先生の「やる気」と教育熱心さ「分かってもらおうという心」がバラバラで、少し大変話も「専門的」なものが多く、大学院でやっと「何をしようとしているのか」が分かった授業も多かったように思う。（文, 30歳代, 男）

◆野放し状態で「教育」と仰せなのは、回答に困ります。たまたま、うまく何かに当たれば盲亀の浮木、優曇華(ｳﾄﾞﾝｹﾞ)の花では国費を貰ってやっていく価値はありますまい。（文, 30歳代, 男）

◆専門科目や研究活動については、大学の専門外の仕事に就いた私にも様々なプラスになっていると思う。またサークル活動についても人生の幅を広げてくれ大変感謝している。語学については、書物の読解より実践的な会話力の育成に努力をしてほしい。（文, 30歳代, 男）

◆大学は研究機関であって、いわゆる教育機関ではないと思うが、その点で非常に好ましく、今なお誇らしく思う。こうした学風を貫いて、「学力低下」した学生たちの「教育」に手を焼くような風にはならないで頂きたい。（文, 30歳代, 男）

◆学生による授業の評価のシステムを導入してほしい。学生が授業をどう受け取り、勉強になったと思うか、面白いと思うかなどを知るのは教授にとってもいいことだと思う。学生に迎合するということではないが、学ぶ者の要望や視点を全く意識しないような授業も、少なからずあるのではないかと思う。（文, 30歳代, 男）

◆学部段階では、もう少し「研究」より「教育」の方に重点を置いてもよいと思います。殊に文学部の3回生以上の講義・演習・講読は、ほとんどが院との共通科目なので、少し厳しいものでした。、また、論文について、その基本的な書き方など、ﾘﾃﾗｼｰと呼ばれるものの授業が、全学共通科目（昔の教養、ですね）にあればよいと思います。できれば、1回生には必須としてもよいと。（文, 30歳代, 男）

◆確かに教養学部時代の講義に関しては、卒業後の社会生活において、具体的に成果（効果）が表れるものではありませんが、すべての人格の基礎を形成する一過程として、実はかなり有効なものであると思います。速効性を重視する一部の教育機関／営利団体では、決して実行し得てないであろう、貴重な教育です。時代とともに、その形式は変えていくべきだとは思いますが、根本的なところでは、今の京都大学の精神を保ち続けてほしいと思います。（文, 30歳代, 女）

◆一般教養課程では、広く浅い形で学んだ。そこで得た知識は現在実生活で役立っているとは言い難いが、大学でだからこそ、一生のうちでそこでしか触れられない知識を得たことも確かであり、私の場合はそこで専門課程で学びたい興味の対象を得たので、大切であると思う。しかし最初から自分の究めたい専門分野を持っている学生には（今後そういう学生が増えるのではないだろうか）教養課程の比重を軽くして、早期から専門分野の内容を学べる選択肢を設けてはいかがだろうか。（文, 30歳代,

女）

◆講義の出欠などに余りこだわらない先生の方が多かったので、のんびりと勉強ができてよかったです。これからもこの伝統が守られていくといいですね。（文，30歳代，男）

◆一般教養課程において文系にまで自然科学系の単位を必須単位として課すのは、余り意味があるとは思えない。大学入学の時点である程度の専門選択をしているのだから、必須単位数だけを課して、科目選択は学生の自由に任せた方がよいのではないか。また語学単位は別枠だったと思うが、第3外国語以上の単位は一般教養科目の単位に振り替えられるようにしたらよいように思う。（文，30歳代，男）

◆教官の教授技術が余りに拙く、はっきりいって予備校講師の足元にも及ばない。一朝一夕には改善しないと思うが、まずはシラバス作成の義務付けと、学生による講師の評定を行うべきであろう。ただ一時間半しゃべっていればよいと思っているような教官はクビにすべきだ。（文，30歳代，男）

◆文学部における卒論・修論指導を複数の指導教官で行う制度は、多くの意見を集めた開かれた指導になるメリットがある一方、誰の弟子という意識が希薄になり、責任があいまいになる短所もある。現在の集団指導体制は維持しながら、一人の指導主任教官を決めて責任の所在を明確にする方法を提案したい。（文，30歳代）

◆工学部の移転に深い危機感を抱きます。文系・理系併せて、あの比較的小さなキャンパスにいたことが学部の壁を越えた学生の活動を可能にし、柔軟な発展の基礎を作ってきたと思います。それはせいぜい36単位の教養教育の功の比ではないと信じます。多様な専門を持つ諸集団が混在していることが必要です。京大で大きな学会（文系の場合）が余り開催されないことも問題です。事務と教員が協力して、もっともっと開かれた大学であるよう努力していただきたいと思います。（文，40歳代，男）

◆学生を信頼し、自由にさせてくれたのがよかった。上記アンケートの結果は、大学の体制に問題があるのではなく、本人が全く勉強しなかったのである。（文，40歳代，男）

◆改善しようと変化を求めるだけが正しい選択とは思えない。変えない勇気も必要。（文，40歳代，男）

◆私は今の学生の実態はよく分かりませんが、友人で教官をしている人間は、余りにおとなしく優等生だと嘆いています。確かに会社に入ってくる連中も、答えが出ないときにどうするか、臨機応変ということができない人間が多いように思います。（ただし、東大よりはまし）先日、学生一人当りのコストが京大が東北大より下であったことに、卒業生として若干の淋しさを感じました。（文，40歳代，女）

◆大変感謝しています。（文，40歳代，女）

◆非常にアカデミックな講義が多かった（25年前）。アメリカの大学のように実務的・実践的な教育も必要。アカデミックな面だけを追及すると、実社会から乖離してスノビズムに折り入りやすく自己満足に終る。（文，40歳代，女）

◆次の点を改善すべきと思います。・教官の間の、また教官と学生の間の身分格差をできるだけ解消し、民主的な協働方法を確立する。・研究の客観的評価法を確立し、研究の優秀性を確保する。（文，40歳代，男）

◆自由な学風は結構ですが、ルーズであってはならないと思います。学生教育についてはもっと厳しくしてもよいと考えます。（文，40歳代，男）

◆20年以上も前のことですから、今とは随分異なっていると思いますが、オリエンテーリングがほとんどなく、すべて、手探りで研究や演習をしたように思います。文学部がそういう学部だったのかもしれませんが、研究室にも入って行きにくい雰囲気があったし、教授達との接触もほとんどありませんでした。自分にやる気があれば、もっと勉強できたのにと後悔しています。（文，40歳代，女）

◆教養科目の充実実学無用反IT哲学復権。（文，40歳代，男）

◆各学部⇔総合人間学部間の壁をできるだけなくすこと。（文，40歳代，男）

◆直接的な結果、効果がすぐ現われる研究が予算面でも評価の面でも重視されがちであるが、そういうのは営利目的の大学や企業にやらせておけばよいのであって、京大においては、営利や効果・効率を度外視した研究を行うべきであろうと考える。教育もそのためのものでなくてはならないであろうし、教員に対する評価も論文の数がいくつだのというような形のものは避けるべきであろう。語学やコンピューターなどは、必要とする学生が必要とするだけ身に付ければよいので、大学の授業として取り上げるべきものではない。（文，40歳代，男）

◆環境の恵まれた利点を活用した、熟成型の基礎研究や基本的な教育活動が有効と思われる。大学の卒業生が各界で活躍していることから、インターネットなどを通じて、これら卒業生の有する知的、経験的、資源（有形、無形の）を汲み上げ、現京大教育に活かしてはどうか。（文，40歳代，男）

◆（自分の在学当時とは変わってきている点もあるかと思いますが。）【英語以外の外国語教育について】①中国語、ロシア語以外に、スペイン語あるいはポルトガル語と朝鮮語などを、一般学生でも、第2外国語として取れるようにすべきである。②また、第2外国語教育の中身が（特に2年目は）、講読偏重である。①②いずれの点においても、明治以来の旧態依然とした状況である。（ドイツ語、フランス語中心で、講読偏重）より広い視野と人間性を磨き、国内の国際性について考え、実践できる機会を提供できるものに改めるべきである。【教職課程の科目について】①在学当時、「人権教育」については、教育実習前にオリエンテーションで触れられただけであった。講座を設けてじっくり学ぶ機会が必要である。また、教職課程を取らない学生にも開放すべきである。②教科教育法、特に指導案作りについて、もっと充実した実践的な教育を行うべきである。これは、現在教員をしている立場からの切実なる意見です。（文，40歳代，女）

◆東京と異なり、多くの学生が大学の近くに下宿するというのが、京都の良さです。夕方から読書会を始め、真夜中から朝まで

酒を飲み、明け方まで議論する、などということが可能なのは京都だからこそです。（文，40歳代，男）

◆良くも悪しくも教員個々の力量に依存していたのが、私のいた京大の実状でした。よく言えば、個人の裁量を生かすことが可能であったことといえ、それをある意味で”システム的”に保障していくことがベストだと思います。学部でも、所属の学科は100人を超える大所帯で、教員は学生を消耗品程度にしかとらえていなかった。偶然に先輩の院生と自主研究会を始め、そこで学んだことの方が、正規の授業で得たことより大きかったと思っています。（文，40歳代，男）

◆専門分野の基本的な研究方法（研究手段）の教育を充実させる。研究テーマは自由に選択させ、創造性を養う。（文，40歳代，男）

◆学生自身の判断で、ゆとりを持って、学ぶことのできる美点を失ってほしくない。一部の私大等で行っている。「おせっかいな」教育とは、一線を画してほしい。「社会に出て、すぐに役に立つ」技術を身に付けさせる教育ではなく（それもある程度は必要だが）、それにとどまることなく、「その気になれば、何でもやれる」人材を育ててほしい。すぐに役に立つ技術や技能は、すぐに陳腐化してしまう。（文，40歳代，男）

◆私どもが在籍していたころの大学は実に自由な雰囲気で、先生方も学生に対して無責任と思えるくらい離れた存在であったように思います。学生達もそれぞれ好きなことをし、個性にあふれていたように思う反面、互いに交流する場が少なく、必ずしも学問の場に、活気や熱気、互いに高めあうムードなどは多くなかったです。もっと自分や友と交わり、卒業したことを誇りに思える場であってほしいと思います。（文，40歳代，女）

◆教養教育の在り方に関する検討が叫ばれ、夏期のシンポジウムや少人数セミナーなどの試みがなされているものの、根本的な改善は見られない。教養部が廃止になって以来、教養教育の責任が一層不明確になってしまっている。研究所を含め、すべての部局がこの問題に対処すべきであるが、やはり責任部局が再編の際に、この点の改善に重きを置き、教官人事を含めて正面から対応しない限り、改善はしないであろう。教官の中には、そもそも「教養」の理念や「教養教育」の目的について全く理解されていない方がおられること、様々な場所での御発言や記事で知り、愕然としている。欧米の伝統の中で培われた「教養」とその教育について、文理関係なく京大のすべての教官が学ぶ機会を持つことが望ましい。ノーベル賞を取る可能性のある学生を一人育てることよりも、国際社会の中で充分な信頼を得て活躍できる「品位と知性持った」学生を多数育てることの方が、京都大学に課された大切な仕事と考えるべきである。（文，40歳代，男）

◆自分の在学中のことしか分かりませんが、大教室での講義などは余り意味がなかったように思います。語学ももっと小人数の授業にして外国人の講師も増やした方がよいと思います。私の在学中は諸事情により、よく試験が中止になりレポート提出に切り変わりましたが、その方がよく勉強して身に付いたように思います。自分の子供達など見ていて思うことは、最近の若者達は、本当に本を読まないし、文章も書けないので大量の文献を当たってレポートや論文を書くような授業をした方がよいと思います。IT化の時代とはいえ、学問の基本だと思います。（文，40歳代，女）

◆・私の学生時代、理科系の人と、法学部で司法試験を受ける人は勉強していたが、それ以外の文科系は、遊んでいる人が多かった。幅広い経験の中から学ぶという面もあるが、自由を与えられると人間は楽な方に流される傾向にあるので、京大にあっても、もう少し勉強させる方向に改善してもらいたいと思う。・教育課題での英語教育の質を上げてほしい。高校までに磨いてきた語学力は、一般に、大学に入ると落ちると言われます。これではもったいないので、「英語教育」のできる方に、しっかり教えていただきたい。また東大のように、現代的な内容を盛り込んだ新しいテキストを作るとか、工夫してほしい。また外の英会話スクールに行く必要がないように、会話、実用面も充実させていただきたい。・京大は一回生から専門科目の授業を受けられる、ということに魅かれて、志望した学生がいました。「早く勉強したい」という気持ちに応える、この制度はよいと思います。これからも存続させてほしい。・雑誌で「ポケットゼミ」なるものがあることを知りました。面白そうです。・とにかく、ヤル気を持って入学してくるフレッシュな1回生をがっかりさせることなく、知的刺激と高度な授業を与えてやっていただきたいと思います。（文，40歳代，女）

◆専攻でなくても、もぐりでも自由に聴講できたことがよかった。（文，40歳代，女）

◆自由という点で、大変感謝しております。有難う。（今は亡き諸先生方に、感謝いたしております。）（文，50歳代，男）

◆自由の学風が強かったのがうれしい。（文，50歳代，男）

◆ガイダンスを徹底し、学内に残る人以外の就職を確保すること。（文，50歳代，男）

◆文科系においても、もっと電子機器（機材）の設備を取り入れるべきだ（ex.語学等）。（文，50歳代，男）

◆真に自由で創造的な学問を追求できる教育を目指してほしい。学問の成果を客観的に評価し、業績本位の人事及び学内システムの改善を行い、若い研究者に夢と活力を与えるような方向性を常に発信し続けていただきたい。（文，50歳代，男）

◆私の就学時代は広範囲でレベルの高い教養科目を提供してもらい、そのころ学んだものが後の人生の多分野への視野を広げる基礎となったことを最も感謝している。京大の学風は良く言えば自由、悪く言えば「ついて来れる者だけついて来い」式の学問的権威に裏打ちされていたので、非才の私は苦労が多かった。学窓を離れ他大学出身者と交わって、他大学には非常に親切、丁寧な教育、仲間内の約束（sectionalismにもつながるような）を固めていく傾向が顕著なことを感じた。是々非々ではなく、そういう大きな違いがあった。文学部、文学研究科出身なので、外国語は中心toolだが、文献に基づいた講義、研究のみであった。のち地方で教育に当たると語学としての外国語、実用としての外国語、communicationとしての外国語という時代が到来し、私の場合、大学、大学院の研究が直接役立たぬことになった。その面で個人としても社会活動面でも葛藤を感じつつ、努力していった。（文，50歳代，女）

◆東京に対抗した京都とか「京都学派」とかを意識しない方がより自由で独創的な研究・教育が可能だと思う。（文，50歳代，男）

◆人文系において、我々が学んだ時代、教授陣にそうそうたる高名な（その時代をリードした）先生がたくさんいた。最近は慶應

大学にお株を奪われてしまっている。東大ももちろんそうだが、元気がなくなってきた。京大はアカデミックの伝統を発揮し、新しい理論の展開のできる教授を育成すべきでしょう。国立大学全般が元気がなくなってきているように感じる。（文, 50歳代, 男）

◆学部の授業においては、学生の実態に即して授業してほしい。ともすれば高度な内容を教えすぎる。（文, 50歳代, 男）

◆文学部宗教学専攻であったが、主任教授が一人だけで、とても学生や院生の多様な興味や研究対象をカバーしきれていなかったのではないかと思う。学生・院生の指導が極めて不充分だったと思う。（文, 50歳代, 男）

◆自由な校風はよいが、それが教授等が何もしなくてよい（自分の研究だけしていれば）ことにつながって、教育者としての自覚がないのはよくない。私の在学中は何一つ教わることもなく、卒論の時たたかれただけ。外からの講師の授業の方がよほど厳しくためになったのは情けない。（文, 50歳代, 男）

◆昭和36年〜42年の6年間、文学部（仏文科）で学びましたが、受験地獄から開放されて、自由に伸び伸びと大学時代を過ごさせていただいたことは感謝しています。反面、教養部でも、学部でも特に目標がないので、仏文科には入ったのだからガイド試験位、受けなければと思ったのは卒業してからでした（二次試験の会話で二度も落とされ、外人実習に出なかったことをちょっと後悔いたしました。）。教養部時代に、仲間の友人、6人でささやかな同人誌（詩集）を数回、出したことがあり、青春の思い出ですが、卒業後、10年以上経って、自費出版で、一、二度、詩集を出しました。別に功名心はありませんが、身銭を切って本を上梓するのは、文学を志した者として、それなりの充実感があったように思います。家業（アパート業）ではホワイトカラーよりブルーカラーの仕事が多いのですが、晴耕雨読的生活もよいものです。陶淵明ほど達観した境地ではないので、文学だけでなく、政治経済なども広く、浅く研究できればと考えております。（文, 50歳代, 男）

◆現在の状況を知悉しているわけではないので、余り具体的なことは言えない。私の在籍した時代、文学部、文学研究科というところは学生の面倒をほとんどみない。放任主義が貫徹していた。文学部、文学研究科としては、あれでかえって独立心の高い研究者が育ったという言い訳があるかも知れないが、実際のところ教師たちはかなりのサボリであった。あの雰囲気を懐かしいと思う気持ちもないではないが、今のあのようなことを続けているとすれば、批判は免れまい。（文, 50歳代, 男）

◆私が学んだのは昭和30年代後半から6年間（2年オーバー）であり、教授法は旧態依然たるものであった。寄宿舎での多彩な人達の交わりの中から、得たものの方が大きかった。その反省から申し上げれば、1. 人脈を構築するような仕掛け。2. 少人数のゼミなどを設けて、学生に積極的に発言、発表させる。1、2は関連するものである。講義による一方通行、ゼミが教授のノート読み上げを筆写であったことを思い返しての意見であります。（文, 50歳代, 男）

◆どの大学も個性がなくなってしまっている。共通一次…センター試験…と、ワンパターン化してしまっている。そして、アカデミック性は失われ、「学」のレベルは低下している。「象牙の塔」がよいとは言わないが、かつて「女子大生忘国論」とか「駅弁大学」とかいろいろと批判された様々の大学と同じように、日本のすべての大学がレベルダウンしてしまっている。京大もこの中の一つなのだろう。やはり京大は学のレベルアップと個性の尊重なのではないだろうか。（文, 50歳代, 男）

◆大学紛争や各種学生運動が構内で激しかったため、十分な授業が受けられない状況であった。（文, 50歳代, 男）

◆最近、最初から研究目的で入学する学生もいるが、余りにも近視眼的な部分が目に付く場合がある。（文, 50歳代, 女）

◆・学部1、2年（教養）の授業は生ぬるかったが半面サークル活動に熱中できた。・教養の外国語を厳しくやってもらいたい。中途半端だと意欲を失う。・専門課程（3、4年）ではまずまず有意義に勉強できたが自分の今の生活に活かせていないと思う。（文, 50歳代, 女）

◆自由、自由、自由であってほしい。（文, 50歳代, 男）

◆①教師の手抜きが甚だしい。②シラバスを作り、配るくらいは必要。③学生の側に評価させる（アメリカ等では普通にやっている）。その評価を、教官の給与、業績評価等にちゃんと反映させるべき。（文, 50歳代, 男）

◆・このことと問13を合わせて、在学中は切実に感じなかった。六、七年で分かるはずがないし、分かっても本当に卒業してから、ああ、そうだったのか、と自然に目覚め、理解されてくる。長期的な視点で考えねばならない。・「自由」が目標や主義になってはいけない。自由・放任の中で、何をどうするかである。ところが、行き過ぎて、勝手放題、無責任に流れる傾向もあった。初代の自重自敬の気風をもう一度振り返ってほしい。・教養部の意義も卒業してから分かってくる。高校を出たくらいで、教養と外発的にいえても、受け入れる基盤になってなっていない。しかし、後になって分かる教育の大切さを思うと、それでも、いいかもしれない。・最近の実学重視、技術偏向の一般的風潮を受ける。少なくとも、文学部は「虚学」の精神を大事にしてきた。文化の創造を、この点から考え直してほしい。（文, 50歳代, 男）

◆私の学部時代、主任教授の授業がほとんど休講で、その理由の説明もなかった。無責任と自由は違うし、馴れ合いもよくない。国立大学としての誇りを持って責任を果たしてほしい。研究と教育の充実は、一つのことの両面であり、基本的に公の精神の乏しい人は、国立大学の教官に向いていないと思う。（文, 50歳代, 男）

◆専門科目の基礎学をもっと明確にして学んだらよかった。（文, 50歳代, 男）

◆大学院：自由すぎる面があった。授業をもう少し強化する必要がある。（文, 50歳代, 女）

◆小生が受けた教育を今振り返ってみますと、特に改善すべ点があったとは思われません。（文, 50歳代, 男）

◆1. 学部ではアカデミズムより実践的教育を重視した方がよい。2. 外国語教育は、ネイティブによる少人数クラスlistening重視で。ESSに2年間所属したが、授業よりこちらの方が役立った。3. 一般教養科目は大講義室で多人数であったが、これは好ましくない。また試験の在り方も工夫が必要。4. かつては卒論指導はほとんどしてもらえなかった。これが心残りで、後々マイナスであった。5. 通信制の大学院があれば母校でと思うのですが。（文, 50歳代, 女）

◆・少人数教育を実施すべきだと思う。・手取り足取りの教育やマニュアル教育は、時代の流れに沿っているようにみえるかも知

れないが、大局的にみて弊害が大きい。自分達で考えるように仕向ける教育が理想だと思う（一時的に混乱はあるとしても、それを乗り越えることが必要）。（文, 50歳代, 男）

◆四十年前、小生は京大の自由の学風と在野精神に憧れて入学しました。当時の京大は確かに自由の砦でした。社会に出てからは、吉田山の麓に吹く風とは正反対の不自由な風に吹かれてきました。この不自由のクニでは「権威・管理・利益・便利」至上主義の暴風が限なく吹き荒れていますが、市民の大多数が無批判にこれを肯定しています。「天下り」や「過労死」などの不思議が存在するこの不思議のクニでは、人の上に人を作り、人の下の人を家畜のように管理支配することが白昼堂々と行われています。目先の利益を貪る人々は、やがて若者・子供たちが解体などでそのツケを払わなければならない危険な原発を狭い列島に五十基も建設しました。一基の原発建設で、甘い汁（血税）を吸える吸血鬼のような人々が官僚を始めとし、ごまんといるのです。子供たちの生きる場を奪う危険な農薬も便利至上主義によって至る所に振りまかれています。これはまともなクニではありません。我らが先輩の本島元長崎市長が誠の言葉を語って襲われたように、言論の自由もない不自由のクニなのです。最近奇妙な体験をしました。9月30日（日）午前、S氏とT氏が司会する二つのTV番組を見ていたら、アーミテージ米国務副長官が柳井駐米大使に語ったというshow the flagを、司会者・識者・政治家の皆が「旗（日の丸）を見せろ」と誤った解釈をしているのに驚き、翌日（日曜日は電話を受け付けない）TBSに電話をしたら、応対者は「外務省が間違うはずがない」の一点張りです。埒が明かないので、毎日新聞東京本社に電話し、小生の解釈を説明したところ、外信部のF氏が検討すると約束し、ようやく10月6日の夕刊に「旗幟鮮明にする」と出ました。政治家・識者・報道陣のすべてが外務省（田中康夫氏は外無能省と呼ぶ）の錯誤または陰謀に振り回されていたのです。国会討論も「日の丸」の解釈でなされていたので、二つの革新的政党の一つは党本部に、一つは地方支部に電話し、真剣に検討すべきだと話しましたが、どちらも「話は聞いておきます」と木で鼻を括るような反応でした。マスコミも革新といわれる政党も官僚主義に汚染されています。外務省だけでなくすべての省庁に、魂の腐った浅ましい官僚がのさばっていられるのも、これを支える「権威・管理・便利」至上主義者が至る所にいるからです。京大が再び自由の砦となって、閉塞してこの不自由のクニに自由の新風を発してほしいものです。（文, 50歳代, 男）

◆自由、独立を標傍しつつも、実体は学生の恣意、放縦に任せている。きちっとした一定の「指導」はやはり必要。（文, 50歳代, 男）

◆自分自身が学生として京都大学にいたころ受けた教育の印象に基づいて左の各問に答えましたが、この30年間に京都大学の教育も大いに変化しているはずなので、何を書いても的外れとなると存じます。あえて申し上げるならば、10代後半から20代前半に掛けての一番頭脳が柔らかで、よく働く時期にある若い学生の方々が本当に幅広く様々な分野における知的刺激を受けられるように、大学の先生方には、それこそ刻苦精励、奮闘努力して頂きたく存じます。個人として、自らの持つ能力を十分に開発するには社会的基盤が必要であることを忘れない人間を育てて下さるようお願い申し上げます。（文, 50歳代, 男）

◆授業が年半分、休みが半分という自由さは、京都大学のみで可能だったと思う。演習はとても厳しかったし、課外の研究会もあり、年の半分は自由に本を読むよう、学生が信用されていたことも、今思うと嬉しい。指導もたいへん緩やかだった。これは今後も続けてほしいものだと思う（今はどうだか知らないが）。（文, 50歳代, 男）

◆目先だけの浮ついた「学生サービス」的なプログラムに走らず、真に基礎訓練的な教育（特に初学年）を施し、後は学生の自由性に期待するのが望ましいのではないか。（文, 50歳代, 男）

◆学生当時は、（産学協同）を全面的に否認していたが、社会人・企業の立場からは少し異なった受け止め方をするようになった。大学の学問・研究は社会から孤立して存在できないのだから、常に社会との窓は開けておくべきであると考える。ただそれは、①いわゆる時の権力との「癒着」であってはならない。②社会の動きに大学が「迎合」するものであってもならない。一定の距離は必要でと思うが、大学は常に窓が社会に向けて広く開かれているべきだ。（文, 50歳代, 男）

◆専門バカでも困りますが、基礎的な教養がないのはなお困ります。京都大学の卒業生ということになれば、世間もそういう目で見ることは間違いありませんので、恥ずかしくない程度には一般教養も必要だと思います。後は本人のヤル気だとは思いますが、そこが一番難しいとは思います。専門科目については、一般教養とは異なるのだということで、より高度な内容を目指していただきたいと思います。（文, 50歳代, 男）

◆教養部時代、文学部だったが、自然科学系の講義も魅力的だった。全方位的な教育（一般教養）は、京都大学が最高と思った。今後もこの路線は堅持して頂きたい。（文, 50歳代, 男）

◆問18で書きましたが、後輩を送り出す立場として入試の英語問題の形式は今のままでよろしいかと思います。しかし、大学側の希望する(理想？)新入生に対して、英語の学力など、何を期待しているのか知りたいと思います。できることなら、採点規準の公開などがあれば望ましいのですが…それとセンターによる門前払いの枠をもっと広げ、全学が理学部並みになれば理想的だと思います。（文, 50歳代, 男）

◆大学時代に勉強した記憶はないから、大学教育について意見など述べる資格はないと思っています。ただ一点だけ言えるのは、「自由で知的雰囲気の学風」で育ったことが時間の経過とともに社私が市民として、ビジネス人として生きる礎になっていることを深く感じます。60年安保闘争の翌年に入学した当時は、ある種の思想的空白期（日本中に充満していた左翼、唯物的思想状況が退潮期に入っていたとも言える）に入っていたようにも思います。いわば「ノンポリ時代」の到来です。自由な研究の時代の回復期と（以下、不明）（文, 50歳代）

◆専門的で気に入っています。（文, 60歳以上, 男）

◆学園紛争の前までの教育方針が最もよいと思います。（文, 60歳以上, 男）

◆学部で専攻したことを直接活かすことのない職種についたため業務を遂行するために、必ずしも役立なかった。教養という点

では、サークルというよりは仲間との議論や情報交換で読書に励んだことが大きい。大学の講義も、それ自体役に立ったというものよりも、何かの情報や刺激を受けて、読書して、自分でテーマを見つけて勉強したことの意味が大きいように思われる。外国語教育や一般教養科目は、それぞれ単位数の枠を取り外し、自由に集中的に選択できるようにしてはどうか。例えば、外国語だけを集中的に徹底的に勉強できるようにする。こうすることによって教養学部の2年間をもっと充実したものにすることができるように思われる。教養科目を平均的に学んで教養が付くものではない。教養は自分で学んで身に付けるしかない。（文, 60歳以上, 男）

◆私の学生時代（6年間、2年留学）の大半は学外活動（サークル、新聞部）に費やされたので、大学の責任ではなく私自身の問題で「教育」を受けたという側面はほとんどない。自分で勝手に好きな本を読み、それらに大きな影響を受けた。とともに、多くの友人に得たことが、間接的に私が京都大学から得た財産であった。以上のような事情なので、京都大学の「教育」についてはほとんど評価する術がない。強いて言えば、①教養部では、語学の授業がどうにもならず興味がなかった。テキストが少し高度になった程度で、高校の延長のようなもの。授業もキンチョウ感がなく、出席する意欲すら沸かなかった。②学部では、できたばかりの専攻（アメリカ文学）だったので、専門の教師が少なく、テーマも時代がかったものばかり。わずかに、東京からの非常勤講師のゼミ（集中ゼミ）に活路を見出していた程度であった。総じて、京大は現代文学に弱い。（文, 60歳以上, 男）

◆30数年前の大学院しか知りませんので、現在に当てはまらないかもしれませんが、教授と学生の結び付きが緊密でした。それは良い面でもありましたが、学内における研究よりも、学外（喫茶店。呑み屋など）で指導が行われることがあるらしく、それに参加しなかった学生は取り残されて、不公平に感じました。オフィス・タイムとアフター・ファイブの区別をはっきりつけるべきだと思います。（文, 60歳以上, 女）

◆権力に屈服・迎合しない、風潮に流されない、学問の自由・独立を守ってほしい。東京大学の真似をする必要はない。かといってお高くとまって他大学を見下さないことを肝に銘じ、常に謙虚さを保つべきである。（文, 60歳以上, 男）

教育学部・教育学研究科

◆学生の自主性を尊重して、余り細かい指導をしない点（出席を取らないなどを含め）は、今までのままでよいと思う。ただ、先生方にもう少し教えたいという意欲があればなおよいし、講義もよいものになるのではないでしょうか。テキストや科目名にとらわれない自由な講義は、よいと思う。先生方のご自身の研究の話などが聞ければ、もっと面白くなると思う。（教, 20歳代, 女）

◆学部・学科によって入学後、卒業までに要する努力が違いすぎるような気がする。遊んでいても、卒論も適当に書いて卒業できてしまうところもあれば、毎週実習等大変なところもあるし。現況はよく知りませんが。（教, 30歳代, 女）

◆京都大学、特に大学院は研究大学に位置付けられるであろう。そのため、博士後期課程は研究者養成の責務を負うと考えられる。一方大学院の機能として高度専門職の養成が考えられる。ただし、研究者養成と高度専門職の養成は異なるカリキュラムで行うべきであり、具体的には後者は修士課程のみの専修コースを設けるべきであろう。というのは、京都大学の場合、臨床心理士等の本来高度専門職教育を受けた者が、そのまま博士課程に進んでしまい十分な研究能力等を持たないままに課程を修了するという状況が現在でも起こっている。研究大学としては少なくとも高度専門職の養成は研究者養成と切り離した方がいいのではないだろうか。（教, 30歳代, 男）

◆自由を最大限に尊重する姿勢が素晴らしいと思う。特に文系だったためか、様々な個性ある人間がそれぞれ一定以上の敬意を払われつつ、共存し合える雰囲気がとてもよかった。イモの子をゴロゴロ洗うようにという感じで楽しかったし、私たちの年代で既に多く認められたことが、その自由に耐えられない学生が、自己の在り方に迷い、納得のいく生き方やテーマを見つけられずに破綻を来すケースが増えてきていると思う。自由を存分に享受して個性を伸ばせるタフな生きる力が未発達なまま入学し、いきなり昔ながらの自由に接することは危険なことだ。だから、京大らしい自由の気風に耐え得る学生を選ぶための選抜の仕方を見直すか、あるいはカリキュラムの枠組みをもっとかっちり組み立ててレールを作ってやるか、どちらかを考えてやる必要があると思う。個人的には新しい時代の動きに柔軟でありつつも、昔ながらの良き伝統的気風を守り育てる威厳は保ってほしいと思う。（教, 30歳代, 女）

◆学部の間は、テキストを量的にも十分読み込むようなトレーニングがあった方がよかったと思いました。大学院は個々に個別のテーマで研究を掘り下げていくので、それほど細かなコース・ワークはなくてもいいと思います。むしろ自由にさせてもらって、それがとてもよかったと思います。しかし、そういったことも学部の頃に、学生全員の外国語読解力や、専門書の精読を量的にできてこそなので、この点をもう少し考慮した方がいいと思います。（教, 30歳代, 女）

◆卒業して13年経過しているため、現在の様子については分かりませんが、自由な校風（学風）に入学当初戸惑い、サークル等で何とか自分を位置付けていた感じがします。右も左も分からない新入生については、もう少し学校側からオリエンテーションがあっても、とは思います（不登校学生の家庭訪問について読んだような気もしますが）。希望者に対してアドバイザーグループ等（他大学にある試みですが）があると少しはましだったかもしれません（教養時代、自分も不登校に近かったための感想です。）。（教, 30歳代, 女）

◆選択科目の多さが、何より魅力だったと思う。しかし、もっと、一年目から専門的分野を多くした方がいいと思う。（教, 30歳代, 男）

◆基本的には“自由な学風”を維持するために、“放任主義”を通すべきだと思う。しかし、広い分野で「教養」がレベル低下していることや、今後は更に幅広い知識が必要になってくることから、“放任主義”を貫きながら同時に様々な“知的刺激”を与えていく工夫がますます必要とされるのではないかと感じている。（教, 30歳代, 男）

◆・他学部の授業も、単位の認定はされませんでしたが、自由に聴講できる雰囲気がありました。私自身も、文学部のインドネシ

ア語など半分趣味で受けていました（学生は3人だけでしたが、そのためにわざわざ、講師の先生が天理大より見えてました。）。現在、すぐ「教育の効果」を問われるようですが、そういった「採算度外視」の「ムダに見えること」も大切にするのが京大の良さかと思います。地味な学問も大切にしていってほしいです。・今はどうか知りませんが、教養の2年がとても長く、早く専門を学びたいと思いました。専門に進んだら進んだで「勉強したければ、大学院に来てほしい」雰囲気で、4年で卒業した人間は結局心理学のいろはの「い」位で終わってしまいました。・教職科目を英語で取り、社会人になった後、海外勤務も経験した点から言うと、英語教育は、もっと実践的であってもよかったかと思います（英文学・英語学でない、時事的なもの）。・とにかく、余りがんじがらめに学生をしないところが良い大学だと思います。・皆が思うことかもしれませんが、なぜもっとあの時、勉強しておかなかったのかと後悔しています。せっかく宝の山の中にいたのに、それに気が付かなかった4年間でした。（教，30歳代，女）

◆学生時代の自分の経験を振り返ってみて、特に今考えつくことを書きます。語学実習はレベル分けをして、各自が自分のレベルに合ったクラスを取れるようにした方がよいと思う。ペーパーは取れても会話は全然ダメという人がやはり多かったが、中には話せる人もいるので。特に今後、どの分野に進む人にとっても、英会話力はますます重要になってくる。学生時代から語学をマスターしたいという志を持っている学生に対しては、大学の授業の中でそれを可能にするシステム作りが必須と思う。ある講義に出たものの、教授が、何十年も使っているのでは？と思わせるノートの棒読みだったので、「これなら自習した方がよい」と思い、がっかりした記憶があり、講義には、生の講義でしかできないことがあるはず。教授陣は、最高の授業を用意してほしい。京大生なら必ずそれを察知し、応えてくれると思う。（教，30歳代，女）

◆いろいろな現場、実際を知ることもあわせて必要ですね。フィールドワークの必要性ですね。でも、そればっかりでもダメですから、○○○的な知識等の上にということです。（教，40歳代，男）

◆【学部教育の教養課程の重視】1／3の学生の大学院進学時代にあって、とりわけ幅広い一般教養力は極めて重要となる。また、学部卒業生にしても、大学院生にしても自由に創造できる能力のベースは一般教養だと考える。過度な専門教育（学部において）は中途半端で、かつ社会にとっても不益であると考える。専門教育は今の時代は大学院で行えばよいのでは（教育年数の長期化と内容の進化）。【自由と創造性の重視】東大の進路振り分け方式が逆のパターンだが、京大は本人のやる気と意欲（希望）を重視し、自己責任で、かつ自由に知識等の教育の場の提供を行ってほしい。管理教育の方向はよくない。（教，40歳代，男）

◆「衆流を容れて厭わず」という寛容で自由な雰囲気がよい。現在「役立っていない」と回答した授業も、大らかな気風を育てるという意味では役立っていたと思う。（教，40歳代，男）

◆他大学との単位の互換を積極的に推進する。以前に比べて学生が大人しく、創造性の面で劣るようになってきたのでは?!（教，40歳代，男）

◆現在はどう変わったか分かりませんが、教養でのマスプロ授業は一方的で意味がなかったように思います。特に語学の授業は退屈な訳読を行うのではなく、専門分野へ進むための実践的な内容（英語での発表や、討論などを含む）のものを増やすべきと思います。（教，40歳代，女）

◆最近の京大の事情はよく分からない。一部「タレント」的な名誉教授の方のお顔などメディアで拝見する程度である。「過去の記憶を元にして意見を述べるしかないのだが」と断ってから記述する。自分が学生時代だったときに、これは残すべき『伝統』だと考えたものは以下の3つである。①時代に超然と自由、独立の気風をもって学問・研究に当たっていた。②個性的で他の追随を許さない研究がなされていた（官僚主義的でなかったことが東京大学との質的な違い）。今西、松尾先生など多数。③学生の意識がよい意味で「政治的」、「社会的」であった。京都大学がその名の通り「大学」uniteで有り続けるためには以上の3つは伝統として残ってほしい。（教，40歳代，男）

◆現在進みつつある大学の評価の仕方そのもの自体に対し、忍従するのではなく、常に批判的姿勢を忘れないで頂きたい。（教，40歳代，女）

◆単位制度についての理解が、学生時代にはなかった。もっと周知徹底させたい。（教，40歳代，男）

◆文献を押さえるのだけはやめてほしい（教，40歳代，男）

◆在学当時は学生運動の残滓がまだ残っている時期でもあり、講義を受けるより自分で本を読んでいる時間の方が多かった気がします。そういう生活を許してもらえたのが、一番の魅力というべきか…（教，40歳代，男）

◆京都大学教育学部、筑波大学医学専門学群を卒業し、現在、京都大学の大学院に在学中ですが　京都大学における教育は、筑波大学に比べ、個人の自主性を尊重する面が非常に強いと思います。筑波大学では、ほとんどの学生をある一定レベル以上に達するよう教育されましたが、京都大学では、できる人は非常に伸び、できない人は低いレベルのまま低迷していると思われます。この方針を貫く以上、入学者の選抜を厳密にしていく必要があると思われます。大学院においては更に厳密な見極めが必要と思われます。なお、全く学生を指導する考えのない教授もおり、そのような教授の存在が全体の研究に影響することも考慮しなければならないと考えます。（教，40歳代，女）

◆学部と教育課程がつながらないものとしてあり、がっかりしたことを覚えています。各々の問題意識に応じて、専門分野への見通しが遠いもの（2年後）ではなくて、今やることの積み重ねの中で得られるようにしてほしい。そのためには「教養」を経て「学部」へではなくて、「学部」の構成・ゼミに参加しつつ、一般教養をも学ぶという組み合わせが各自できるようにシステムを変えてほしいと思ったものでした。各自に対し、どんな希望を持って入学したのか聞き、相談に乗ってくれるガイダンスのような「学習設計」の場が必要だと思います。今、どうなっているのか知らぬまま書きましたが…（教，50歳代，男）

◆一般社会で仕事し、生活している身からすると大学ほど化石化しているところはないと思う、おそらく世間が育ててきた「大学」

というイメージを教育制度などに縛られているのでしょうが、その中でもし「京都大学」の教育を改善しようとするなら、コトは大学の入と出のところをどうするのか、に行き着く。私見では入を易しく、出を厳しくして、大卒の権威を新しく作り出すしかないように思える。京都大学は歴史と予算を持ち、世間のイメージもあるのだから、最もラジカルな大学入試、卒業制度の改革の先頭に立ってほしいと思う。一般社会の人々は支持すると思います。(教, 50歳代, 男)

◆自由な気風、学生の自主的な雰囲気を維持してほしい。(教, 50歳代, 男)

◆・デジタル革命、金融自由化、商流の変化等、世の中の変化が急ピッチである。そのニーズに合った、あるいはその変化に順応し得る人材の輩出を模索、推進しなければならない。・教官と学生をもっと身近にする。ゼミ、学科等を研究テーマ、専攻等で細分化し把握し得る状況を確保し、自由な学風は継続。そして各学生の意欲には積極的支援ができ得る体制確立。・専門知識者(スペシャリスト)ゼミ等を通じ人材発掘、インターンシップ等実施。柔軟な考え方ができる者(優秀なマネージャー)一般教養は重要ボランティア活動等導入の2極化が必要ではなかろうか。(教, 50歳代, 男)

◆自由、独立性の学風を更に推進して戴きたい。(教, 50歳代, 男)

◆論理的に物事を考え、既存の体制や権威を無批判に受け入れることを潔しとせず、仕事にも先ず批判的に考えた上で行動に移すというよき批判精神を培うことができたことは、意義があったと考えている。(教, 50歳代, 男)

◆自由だが、縛りのきつい高校卒業後すぐの身には、何をしてよいか分からず、戸惑いの方が強かった。新入生にもっと丁寧にガイダンスや相談の機会が必要ではないか。学部のガイダンスも十分とはいえなかった。研究重視のために学生は放任されているのではないか。現在は知らないが。(教, 50歳代, 男)

◆自由な校風という看板を口実に学生を鍛えることを怠り、スポイルする傾向があったように思います。学生の個性や創造性は尊重し、伸ばしていく配慮と同時に、学問的基礎体力だけはしっかりと付けて世に出す、付けられなかった学生は「出さない」という原則を明確に、到達すべき基礎学力の目標も明確にし直して、教育に当って頂ければ、京都大学の名声も復活するのではないでしょうか。語学・数学・統計学・コンピュータについては、学生の学力向上のため補習でもして督励する必要があります。入れた以上は放置するのは無責任です。(教, 50歳代, 男)

◆ブランデーではありませんが、伝統のVitality Speciality Originalityを堅持してほしい。(教, 50歳代, 男)

◆それぞれの個人が自分のペースで勉強することを許容してくれて、自由な発想を妨げない雰囲気が有り難かった。(教, 50歳代, 男)

◆よく言われていることだが、まず大学生が受験勉強のみという貧しい知識だけで大学に入ってくる。そこから問題が発生するのだから、大学がどういう教育をするとかしないというレベルではないような気がする。本も読まず、最近は漫画も読まない大学生は、社会に出てもまるで役に立たないのは最近の傾向であろう。まず、基本的な教養を持たない受験生は落とすというところから始めないと、中に入って改革といっても意味がないような気がする。(教, 50歳代, 男)

◆世の中のより一層の、国際化、高度技術・情報化社会の中にあって、グローバルでスピードアップした動きが必要とされています。そんな中でこの大学に入学してくる学生は最低限英語が話せる(TOEIC 800以上)などを条件としてはどうでしょう。そして、高等学校の間に教養科目をしっかり学習した者に、学部でより高い専門教育を授け国際化に対応しなければならない実業界等に出ても、その専門が活かせるような人間になるよう教育する事が大切だと思います。(教, 50歳代, 男)

◆実務経験者から学ぶ場をもっと学生に提供すべきである。基礎学力の積み上げは大切だが、何のための学びか、学んで自分は何で社会の役に立とうとしているのか、事例を通して学ぶ場を泥臭くても提供する場をもつべきです。学者同士の学びの場だけでは、井の中の蛙に終わります。(教, 60歳以上, 男)

◆京都大学で培った自由で幅広く個性を大事にするモノの見方、考え方は、40年近く経っても仕事や生き方の原点となっています。(教, 60歳以上, 男)

◆在学中、ほとんど、学費にみあう教育を受けた記憶がない。教授陣はもっと教育にも力を入れるべきだと思う。(教, 女)

法学部・法学研究科

◆「学問」として文献を研究したりすることは思索を深めるという意味で重要だとは思いますが、私のかかわった授業に関していえば、「実学」「学外との交流」という点が弱いと思います。アメリカのカリフォルニア大学バークレー校の授業に参加する機会がありましたが、あちらは実際大学の外でおこっているプロジェクトに学生、教授が授業として積極的にかかわっています。具体的な案件にかかわることで、狭い学内、固定化された文献だけでない新たな視座が開ける機会は多いと思いますので、ぜひこの点をふまえた上での、研究の深化に努めてほしいと思います。(法, 20歳代, 女)

◆一般教養のゼミは、型にとらわれず自由に議論できる有意義なものでした。専門科目ばかりでなく、こうした一般教養のゼミに力を入れて頂きたい。(法, 20歳代, 男)

◆自らが考え目的を持って学べる学風はすばらしく自己責任の考えを身につけることが可能である。社会人として京都大学の卒業生に期待されている最低減の教養、知識は必修化すべきではないか？(例えば法学部における民法・商法等)さらに産学ではよく少人数ゼミを早期に導入して考える教育を実践していただきたい。(法, 20歳代, 男)

◆大学教育の問題が指摘されている現状とは思いますが、「自由な学風」については維持して頂きたく、存じます。(法, 20歳代, 男)

◆一般教養科目は、必ずしも関心がない分野についても履修しなければいけない形となっていたが、もう少し柔軟な選択ができるようにしたらよいのではないか。仮に、教養を目的としている以上、幅広い分野の科目を勉強すべき、というのであれば、もっと講義内容を工夫し、当該分野を専門とするつもりのない学生にも理解できるような内容にした方がよいのではないか。(法,

30歳代, 女)

◆学生の自主性を尊重し、科目を選択制としている点は評価できる。ただその一方、勉学の目標を設定するのが難しい。大学院への進学や国家試験合格を目標とする学生を除くと自己目標は「教養を高める」という抽象的な目標か、「優秀な成績」という自己満足でしかない。学生が自己の努力に誇りを持てるよう表彰などの制度を設けるのも一案である。内部評価にとどまらず、公開することが重要。(法, 30歳代, 男)

◆自主性が求められる素晴らしい環境でしたが、自由をはき違え堕落する人もいそうです。逆に熱心に勉強しすぎて各論に埋没し、全体が見えなくなっています。また、エリート意識が強く社会ではマイナスになっている人が多いようです。学部ではエリート高校と一般高校が入り交じり楽しかったです。(法, 30歳代, 男)

◆とても自由で学生の主体性意欲に任されていました。それは長所でもあるのですが、私のような怠け者には、より遊び半分な学生生活を助長してくれたような気もします。でも学問は自主的にするものなので、それでいいと思います。ついていきたい者だけ尊敬すべき師についていく、それが大学ですよね。もう一度戻って勉強したい・・・と今さら思います。(法, 30歳代, 女)

◆一、自由でよい。一、外国語の充実が必要。(practical＆academic) 一、キビしい授業 (スピードの早いスパルタ式) を自分で選べるようにする。(法, 30歳代, 女)

◆伝統・学風に良さがあるので、このまま維持してほしい。(法, 30歳代, 男)

◆現在の教育状況・システムがわかりませんので書きようがありません。(法, 30歳代, 男)

◆「学生の自主性の尊重」は麻薬にも似て、これを適正に使いこなせた卒業生が一体どれ程いるのか知りたい位である。(私は失敗した部類に入ると思う) (法, 30歳代, 女)

◆・OBの活用余地があると思います。(法, 30歳代, 男)

◆教養科目をもっと実践的なものにした方が良い。卒業後役立つあるいは生涯学習の一助となるような基礎であるべき。(法, 30歳代, 女)

◆○私見では教養学部 (2年間) はいらないと思う。大学1回生の一番やる気のある時期にやる気をなくす講義はいらない。一方で、法学部に関して言うと、2年間で専門を極めるのは不可能である。講義に出ているだけでは「優」をとることができないので予備校に通う学生がたくさん出てくる。むしろ、1回生のときから、専門をはじめ、ゼミ形式をもっと増やした方がよい。アメリカの大学のように同じ科目でもレベルの差を設けた方が学生もcatch upができる。また、教授は自分の研究室に学生をもっと質問にこさせるべきであるし、学部の方でも、学業アドバイザーをおいて、学生の勉強の仕方等への相談にのるべき (とりわけ新入生のときは全員を対象) である。(法, 30歳代, 男)

◆文献や資料から研究 (勉強) するだけでなく、実社会、実際の現象に直接取材したりインタビューすることも学生が学べるようになれたらよいと思います。東京大学が、社会の一線で活躍する安藤忠雄氏や立花隆氏などを教授陣に迎えたように、学生が外の世界にアクセスし易いような教授陣を増やせないでしょうか。(何も調べもせず書きましたので、もう既にこうした取り組みをされていたら大変失礼します) (法, 30歳代, 男)

◆平成元年に開講されていた自然科学Ⅰという講義は文学部以外のほぼすべての学部の教官がリレー講義するというもので興味深かったです。受講して総合大学に来て良かったと思いました。もっと高度なものも含めて、リレー講義や学部のわくを超えた講義を増やされたら、と思います。また、教育学部で司書になるための単位が取得できること等、かなり後になって知り残念に思いました。「高度な専門教育」というのは京都大学に求められている事のひとつでしょうが、「職業の選択」という観点からいうと自分の学部の外に可能性を見いだす人々もいるわけですから、全学部の講義のガイドブックをつくる、学部間単位互換を柔軟にする、など、可能性を広げてあげてほしいです。京大は市販されているガイドブック (大学紹介本) も多数ありますが、大学サイドは大学サイドで、学生の自主性を尊重しつつも大学で存分に学べるように新しい道をつくって頂きたいと願います。(法, 30歳代, 女)

◆中央を意識しない自由な学風は、今後も貫いてほしい。求めれば求める程得られる～これは在学中には分からなかったが～この教育姿勢も維持してほしい。(法, 30歳代, 男)

◆第一線で活躍する人物を、その領域の生きた講師として、スポットで活用することをご検討下さい。(法, 30歳代, 男)

◆やる気のある教育熱心な若手の先生が、自由にやれるようにしたらもっと良いと思います。私達の頃はまだ「教養部」だったので、何だか本体学部の先生になりそこねた人達、といった不当な評価もあったようですが、今振り返ると、一番面白かったのは専門外の自然科学系の先生のお話でした。単位の取りやすさではなく、講義案内を読んで、選んで良かったと思います。すぐ何かに役に立つわけではないけれど、人間としてのまさに「教養」を深める事ができました。(法, 30歳代, 女)

◆理論重視 (現状分析よりも) の講義は、長い目で見た場合、物事のとらえ方、分析方法を向上させる意味を持っていたと思います。私は他大学の講義も経験したのですが、京大の浮世離れした様な講義は、とても好きでしたし、今までにも役に立ったと思える事が何度もありました。(法, 30歳代, 女)

◆形態が少々官僚的で、硬直的であった印象がある。しかし、内容自体はしっかりしたものだったと思う。(法, 30歳代, 男)

◆私が在学中は教養部2年、専門課程2年というカリキュラムであった。教養部には熱心に通ったが、今思えば余り身に付いたとは思えない。その理由を考えてみると、まず語学必修課目は、出席さえしていればよく、何を身に付けようとするか、目標が不明確であったと思う。その他の課目も、教授、助教授の特定の範囲の関心分野の話を聞いたにすぎない。そこで一般教養科目についても到達目標をはっきりあげて、学生を募集してはどうかと思う。外国語についても同様であり、出席を合格の条件にすべきではない。専門科目 (法学部) については、自由な学風を保ちつつ (つまり多くの必修科目をすることなく)、予備校のようにある程度、試験の合格を目標としたカリキュラムを設けるべきと思う。また、卒論がなかったのは楽だったが、論文構築能力

は必要と思われ、また、最低1つのテーマには、深く突っ込んでみるという意味でも、卒論は必要と思われる。(法, 30歳代, 男)

◆最近高校生・大学生の基礎学力の低下が、新聞等で言われていますが、大学の方で調査等はされているのですか。また、必要ならば何らかの対策をとった方がよいのではないかと思います。(法, 30歳代, 女)

◆・目的別カリキュラムの編成。・最小限の必須科目の履修。(法, 30歳代, 男)

◆法学部について・卒業論文を必須とすべきであると考える。不十分なものであったとしてもひとつのテーマに真剣に取りくみ、、教授のアドバイスも得ながら達成したという事実は、将来に必ず役に立つものと思う。・ゼミの人数制限をすべきである。多すぎるゼミは講義と何ら変わりない。・模ぎ裁判をもっと積極的に導入してはどうか。・将来の職業選択を考慮してコースを分けるべきである。例・公務員・民間企業(ビジネス)・もっと学生に勉強させるべきである。自由の気風はよいが、学生がそれを享受しているかどうかが問題。・学生による教授の評価を制度化すべきである。・めんどう見のよい大学になってほしい。・学生が入学したことでなく卒業したことを誇りに思えるようにしてほしい。(法, 30歳代, 男)

◆各学部での専門科目の履修に必要な基礎的な講義を1回生の段階で必習とした方がよい。(例、法学部生は「法学入門」を1回生で必習にするetc)(法, 30歳代, 男)

◆・高校で学んだのと同じような一般教養科目は必要ない。・専門科目では学術的な教育を行うべきだと思うが、一部実務家による教育が行われてもよいと思う。(法, 30歳代, 男)

◆諸々の規制(例えば、出席を取る等)は極力、少なくし、学生の自主性を尊重する方向性は維持した方が良いと思う。(法, 30歳代, 男)

◆京大時代は授業は語学を大変熱心に学び、今でも職業上、大変有益だったと思う。残念ながら授業は非常につまらなく、フランスの大学院で深めざるを得なかった。もちろん、京大の自由な環境のおかげで、授業には出ず、友人との読書会や自主ゼミで徹底的に学問に取り組んだ。今でも、そうした自主的な読書会や自主ゼミで得たモノが力となってくれていると感じているし、仏の大学院でもおかげで他の学生にもヒケをとらなかった。(法, 30歳代, 男)

◆講義の形式として演習を増やす等、画一的でない教育を目指すべきと考えます。(法, 30歳代, 男)

◆・大学校における教育は、学生の自発的学風意欲に基づくべきものである。(自己責任)・従って、自由放任であるべきで強制色を持ってはならない。・(現況は把握していないが)私が学んだ当時は正に自由放任であり、それで十分であった。(法, 30歳代, 男)

◆教養科目については、教官の教え方に熱意がなかったり、メリハリがなかったりして、全般に退屈だった印象がある。社会の変化等に対応して、年ごとに講義内容を修正する努力は必要だと思う。少なくとも、惰性で講義するのは止めてほしい。また、専門科目については、講義をきちんと受けたからと言って、国家試験や実務対策には、余り直結していないように思う。教授の自説のみを強調しないで、最新情報や社会のニーズに合わせて、「浅く広く」よりも、どちらかと言えば、狭くてもいいから深く考察する方向で教えられればいいように思う。(法, 30歳代, 男)

◆基本的には、学生自身が考えていくことだと思いますが、専門科目など履修する場合、ある程度大学側において、指針を示していただければ、学生側も将来展望を見すえた履修が可能であるし、その方が学生にとっても助かるのではないかと思います。(法, 30歳代, 男)

◆学生の自主性に任された、強制的でない教育は、京都大学ならではのことと思うし、卒業生としてもとても誇りに思う。しかし、一方で司法試験合格者(特に4回生までの)の数の低迷などは、残念ではある。学生の自主性に任せつつ、尚、国家試験等の合格者数増加を目指すことができたらよいと思うのだが…。(法, 30歳代, 女)

◆大学卒業後、業務上の必要性を痛感して、改めて神戸大学大学院に入学した。学問において明確な「目的意識」を持つことが、成果につながると感じた。(法, 30歳代, 女)

◆学究面での研究のみならず、ビジネススクール(MBA)の面で実社会で有効性の高いケーススタディ的大学院教育の充実を大いに望みます。欧米のビジネススクールに負けない。それをもしのげるような、アメリカンスタンダードを超える。日本発のビジネスモデルやビジネスクレームの創案を次々に出しうる人材の育成に、ぜひ尽力していってほしい。日本の社会をよくしていけるのは、有能な人材の輩出しかないと考えます。そういう意味で、母校の、文系の大学院教育の改革に期待しております。(法, 30歳代, 男)

◆基本的にはこれまでのままでよいのではないかと思います。(私が卒業してからどう変わったのかは知りませんが)(法, 30歳代, 男)

◆個人に任されているので、自由な学生生活を送れてその時は楽しかったですが、もう少し勉強をさせる仕組みがあっても良かったと思います。(法, 30歳代, 男)

◆社会人入試の幅を広げてほしい。社会心理学を勉強してみたいんですが・・・。東京にサテライト教室を作ってもらえると有難いです。(法, 30歳代, 女)

◆自由な時間が与えられ、自分の興味のある事項について知識を深めることができた。(法, 30歳代, 男)

◆外国語教育については、原書購読のみでなく、実践的なカリキュラム中心にすべきと考える。また、社会科学系においても、基礎的な研究手法を早期に教育すべきであると思う。更に、一般／専門分野とも、今まで以上に社会に開かれた教育を行っていただきたい。(法, 30歳代, 男)

◆学生の質がよいのだから、余り私立大学のように学生に迎合するようなサービスをする必要はないと思います。教員は、教育にさく時間があるなら、もっと研究に注力すべきだと思います。研究レベルこそ京大の命です。(法, 40歳代, 男)

◆もう遠い昔のことで忘れてしまいましたが、大学の講義は比較的興味の沸いた科目を中心に1年程は聞きました。今なお名講義と言われているのもあります。卒業直前には、学問も面白イと思いましたが、特にしたいこともなく、才能も無かったので、ビジネスマンになりました。ただ社会人になってまず、大原簿記学校に簿記3級の講義を聞きに行かされたのですが、学問的香気はないものの、その分かり易さにびっくりしました。そして簿記の基本原理は会計だけでなく、法律やマクロ経済の理解を容易にします。私は、算数は大の苦手でしたが、高校の中途半端な勉強ののち、本格的に勉強したことはありません。授業にも真面目に出なかったので、よく分かりませんが、通り一遍のものであったようなイメージです。しかし、例えばブラック＝ショールズを理解したくなると、もうその基礎知識がない。サボっていたお前が悪いと言われればそれまでですが。しかし、ピカールの逐次近似法による確率微分方程式のバナッハの不動点を要領よく説明すると、ブラック＝ショールズもすぐそこではないかと思いました。そして、この一連ほど数学音痴をもワクワクさせる初等領域もないとさえ思えます。（法，40歳代，男）

◆自由な学風を堅持してほしい。（法，40歳代，男）

◆私自身は法学部の出身なので、法学部のカリキュラムについて述べたいと思う。4回生の時に司法試験と国家公務員試験（上級法務職）を受験し、司法試験は短答式で不合格、公務員試験は最終合格まで行ったが、結局銀行（民間）に就職した。当時の法学部の教育は司法試験対策には余り向いていなかったのではないかと思う。京大といえば反権か反中央で、私もそんな学園に憧れて東京の私立高校からわざわざ京大に入学したのだが、司法試験というと出題傾向がどうしても東大法学部の学者の通説どおりに答案を書かないと合格できないというイメージがあるので、京大在学当時は随分悩んだものだった。改善策としては、京大の先生方の学説が通説となるようみなさんで頑張ってほしいと思います。（法，40歳代，男）

◆まず入試について、センター試験の点数は足切りだけに利用して、二次は論文のみにするべし。そうすることで、無意味な知識の詰め込みが不要になる。本来はすべての大学においてバカロレア制が採用されるのが一番だと思うが、一斉には無理なので京大が先頭を切ってほしい。受験秀才には未来は担えないから。教授陣について、任期制を採用し、学外者からなる専任委員会で公募審査すべし。それぐらいしないと今のぬるま場ではどうしようもない。人が変わればカリキュラムも変わるだろう。（法，40歳代，男）

◆専門科目（法学部）の講義は、概して単調かつ大教室で興味がほとんど沸かなかった。（法，40歳代，男）

◆75年～79年の大学の有り様は、教授も学生も関わり方を薄くし、相互不干渉な状況であった。与え方も超越的ならば受ける方も自己本位で相互に他者へのフィードバックは前提にしていなかった。その意味で実社会におけるアメリカン・プラグマティズムの実相とはかなりギャップがあった。大学が世の中／世間への窓口だとすると、世間の有り様を大学に入れようとする今日の動きは正当な方向かと思われる。（法，40歳代，男）

◆京大の自由な学風が、多種多様な人材を育ててきたことは否めない。今後とも自由な学風は維持しつつも、実際の社会との交流、実践に役立つ教育も重視してほしい。（法，40歳代，男）

◆効果的な学習を行うには、強い目的意識が必要だが、高校新卒では難しい点が多い。最近は産学官連携や社会人教育の必要性が高まっているが、そのような社会人との交流機会の増加は、高校新卒の学生にも良い影響を与えると思います。広く社会の風を入れて、実業に直結するような教育を推進する必要があると思います。（法，40歳代，男）

◆（今は卒業時S42年に比べ改善されているかも知れませんが）もっと外国語教育－英語、ゼミ、演習に力を入れて欲しかった。（法，40歳代，男）

◆私が在学していた当時、全国でも入学するのは難しいけれども、卒業するのは簡単な大学（学部）だったと思います。法学部は卒論もなく出欠も取らず、とにかく試験さえ通れば卒業できました。それだからこそ大学で好きなことが出来ました。当時もそうですが、今でも日本や世界の情勢や歴史、その中での自分の生き方、ものの見方などは、大学の4年間で初めて突き付けられて考えることだと思います。自分なりに悩みながらいろんな事に取り組むことができるように、卒業しやすい大学であってほしいと思います。（法，40歳代，男）

◆現代は非常に変化の激しい時代であるので、大学の教育が直接社会に役立たない、あるいは就職した環境が大学の学問を直接必要としていない場合があると思います。従来の学部、学科については、現在の社会、今後10年20年の社会が必要とするものにどんどんダイナミックに再編成していただきたい。また、前人未踏のジャンルにどんどん挑戦する研究を盛んにやっていただきたい。就職してからは否応なしに前人未踏の分野、仕事に取り組むことも何度もあります。教官、事務のみなさんが、協力して優れた大学の伝統を維持、発展していただければ幸いです。（法，40歳代，男）

◆京大のみではないが、現状大学以外の専門学校へのWスクール化が叫ばれて久しい。資格至上主義もいかがなものとは思うが、大学教育がいかに実践教育と乖離したものかを関係者は反省いただきたい。弁護士、会計士向のプログラムもニーズがあれば用意すればよいし、それ以外でも社会人の活躍についてもう少し学生に広く提供するプログラムが必要。（法，40歳代，男）

◆2年間の教養課程は自分の場合、体育会系運動部に属していたこともあり、充分な時間を割けなかったが、それでも心理学、社会学等幅広い学問に触れることが出来た時期として、貴重な期間だったと思う。3～4年の法学部の講義、ゼミは内容は充実していたと思うし、自分なりに勉強に打ち込めたと考えている。当時はもう少し実用的な部分も充実させてほしい（すなわち公務員、司法試験対策として）と考えていたが、今考えてみると、物事の本質や論理を突き詰めていく京大らしい教育であったわけで、そういう「こだわり」は引き続き堅持していくべきものと考えている。（法，40歳代，男）

◆自分なりの方向を定めて入学したつもりでしたが、目標を達することが出来ず、当初とは異なった日々を送っています。最後は単位のみを取得して卒業したという思いがしていますが、私が在籍していた法学部は大教室による講義形式の授業でしたので、熱意のある学生とそうでない学生との格差が次第に広がっていったような気がします。ゼミのみは担当教授とのコミュニ

ケーションもあり、また他のゼミ生とのコミュニケーションもあり、自分なりに努力をして事前に調べ、事後にも検討し、学生時代の一番の思い出となっています。（法，40歳代，男）

◆学生の学習、研究のサポートのための環境をととのえることは重要であるが、手とり足とりの指導にならないように注意すべきである。（法，40歳代，男）

◆専門課程に進んでから、自由にさせてもらったのが一番良かった。自由な時間、多くの書物を読み、視野を広げることができた。余り管理教育をしない方がよいと思う。（法，40歳代，男）

◆・「アカデミック」という形容詞に捕われすぎて、実業という視点に欠ける。・国際性の欠如。（法，40歳代，男）

◆京都大学の教育としては、自由な学風は今後とも維持すべきものである。この学風は個性の尊重から生み出され、創造性や独立性はその結果を生じてくるものである。問題は、この学風を維持するための制度的基礎や経済的基盤が充実しているかということである。制度的基礎とは教員の選任方法の合理化と継続的評価方法の確立であり経済的基盤とは、教員の報酬高額化と研究予算の財産的基盤強化である。前者のためには教員の評価の透明化と公表制及び教員の公募制の導入が必要である。後者のためには、大学自ら出版その他の情報発信機関を持つことと、大学内の技術情報の管理センターを持ち起業家との提携を計るとともに、卒業生との関係強化により寄付を増大させることである。（法，40歳代，男）

◆・私が学んだ時代（昭和50年頃）は勉強したければいくらでも勉強でき、遊ぼうと思えばいくらでも遊べた。・この自由さは良い面もあり、また、つい怠惰に流されるといった悪い面もある（自己責任ではあるが）。・最低限の学業は強いるべきと思うが、良い意味の自由（管理教育でない）の伝統は残してほしいと思う。（法，40歳代，男）

◆・余りに放任すぎて、高校とのギャップが大きく、何をすべきかわからない人も多いと思う。例えば、就職を前提とした専門コースがあってもよいと考える。・経営学・財務・会計学・会社法・英会話・社会人との交流等・社会人（事務系）となって、仕事上統計分析のため数学・物理の理論が必要な場合もあるため、科学の一般教養も充実させるべきと考える。・講義を行った教授陣の多くは、話しが下手で退屈な内容でほとんど興味が持てなかった。生徒の立場に立った発想がこれからは必要と思われる。自分で選択できるゼミの方がよほど興味があった。（法，40歳代，男）

◆卒業して20年以上が経ち、外国語の教育も変化しているのでしょうが、ディベート等実践的な英会話の教育向上を期待します。（法，40歳代，男）

◆教養部制度の廃止、大学院大学化、独立行政法人化など、制度の変遷が目まぐるしいが、自由な学風は守っていってもらいたい。（法，40歳代，男）

◆自由闊達な雰囲気の中で自主性を重じる学風に憧れ入学した。創造性を発揮されている教授陣は、充実されていると考えている。教育を重んずる土地柄も合って、研究に適している。唯、関西の地盤沈下を憂える声も有る通り、経済活動は東京を中心としてグローバル化しているという環境の変化も有る。このような中、より学際的な、実践的な分野の研究が、半公的な機関を中心として進められている。この為、ややもする孤高であるという位置に有るのかもしれない。世情は未だ必ずしもその真価を理解していないかもしれないので、こちらから歩みよる努力が必要かもしれない。従って、関西のみならず、広く学際的分野に於いても参加されてはと考える。一般教養に於ける外国語会話、ビジネス英作文や統計学等の履習は将来有用であると考える。又、法学部に於いても卒業論文を必須としては如何か。（法，40歳代，男）

◆これまで世の中が平和で豊かであったせいか、先生も生徒もぬるま湯につかっていたところがあったように思います。大学で学んだことは、基本として今も役立っていると思いますが、今後は、より少人数化し（1クラス当りの員数）内容豊かな教育を行うべきと考えます。その為には、教師も、生徒も努力しない者は落だいさせるようなシステムを作る（今もあるのでしょうが十分に機能していないのではないでしょうか）ことが必要と思います。（法，40歳代，男）

◆・外国語教育に関しては、失礼ですが、①昭和40年代半ばの英語教官の中には、発音、イントネーションが実践からは乖離された方もおられ、模範とはなりがたかったこと。②当時は授業の開講日数が少なかった事という特殊事情により、「役立っていない」とさせて頂いた。・大学在学原則4年を前提にする限り、現代のスピードの早い時代下に、一般教養の教養部1～2年というのは、時間のロスが大きく実践的でなかった。逆に、専門コース2（～3年）（法学部）では、中身の濃さ、幅の広さに対し、短すぎ、同様実践的でなかった。・専門コースを目的に入学している以上、一般教養に関しては、思い切って半年位に圧縮し、その分時間を半日程度に延ばす等し、かつ取得単位枠も大幅に減らした方が良い。他方専門コースは3年以上を保障した方が良い。・一般教養科目については、教養部のみならず、専科の受講、単位取得も認めてもいいのではないか。（私は単位は目的とせず、心理学に関し、文学部、教育学部の科目（河合教授等）を受講した。）（法，40歳代，男）

◆・学部教育については、各教官が教育方法を工夫して、効果的で魅力的な講義を行うよう努力してほしい。・外国語教育については、当時（今も同じかもしれないが）外国語文学（英文学、独文学等）担当の教授が、外国語教育を担当していたが、外国語文学を学ぶために、語学教育を受けていたわけではない。実践的な外国語教育をするためには、学部から切り離し、「語学センター」のような組織を設け、実際的な外国語を指導できる者（文学担当教官ではなく）による教育を行うカリキュラムを構成すべきであると考える。（法，40歳代，男）

◆ゼミの一層の強化。（人間関係、ディベート等のベースになると思います。）（法，40歳代，男）

◆問13の国際性については、更に重点的対応が必要では？フィールドワーク、実践的な機会はもっとあっても良かったかも。（法，40歳代，男）

◆図書館の法律書が勉強になった。新しい本をどんどん入れるといいと思う。（法，40歳代，男）

◆卒業後22年経つため、的外れかも知れませんが、以下コメントしたいと思います。①教養科目は不要。あくまで専門科目を軸として関連する範囲で他学科へ聴講に行くのがよい。②ゼミを充実すべき。またゼミの教官が学生の生活指導も含め学生を

総合的に面どうを見るのが望ましい。(相談に行く先生がいない)③教官の教育者としての意識を高めるべき。問13に掲げる京都大学の特長が講義を通じて習得されない。言いかえれば教官は研究熱心だが教育熱心ではない。(法, 40歳代, 男)

◆・自由な学風は、継続すべき・講義形式よりも議論を中心としたゼミ形式等の充実が必要。・文型学部においても、実業界から教授、講師を招くことが大切。(法, 40歳代, 男)

◆大学の一般教養の重要性が低下しているようにも喧伝されているこの頃であるが、専門性の基盤としての教養を今後とも専門性と調和させながら修得できる形がいいのではないか。(法, 40歳代, 男)

◆・自由闊達な研究・教育風土は良いトコロと思います。・何人かの先生の個人的な能力あるいは警句めいた言葉が今も記憶に残っています。・法学部の学生だったのでマスプロ教育の害は免れませんが、当時の龍田教授(会社法)の教材はケースやアンソロジーを取り入れた斬新なものでした。・法学部は今や存在意義そのものが問われていると思いますが、法の存在理由・・・歴史的・沿革的分析と実態・・・判例・ケースによる分析の両面を深め、学生の達成度合いを評価することが必要です。(私は法学研究科修士課程二年まで在籍したので特にそう思います。)(法, 40歳代, 男)

◆他大学で学んだわけでないので比較はできないが、卒業後22年経過し社会人として他大学出身者と交わり合う中で京大出身者の教養は秀れたものがあると自負している。幅の広さ、特定面での底の深さ等々。(法, 40歳代, 男)

◆専門教育の充実英語教育の充実(法, 40歳代, 男)

◆・実践的教育の機会を増やすことも考えられたい。(企業へ入って分かったことは、英語よりも簿記のほうが必要度の高い知識である。)・企業との交流や研修訪問など設けてもよいのでは。(法, 40歳代, 男)

◆文科系についても理科系のように学生数に対する教員数を増やし、実践的な科目をきめ細かに指導できるような制度が望ましい。(法, 40歳代, 男)

◆学生の自主性にほとんどを任せる従来のスタイルが最もすばらしい。 その中で、学生が創造的なことに興味を持てるような講議を如何に揃えられるか。 その為には、現在の受講者や今後の受験生を対象にニーズ調査をすることは非常に重要。一方で、学生は無知な面もあることから、リスクを取って、ニーズ開発的な先端教育のラインナップは大学の責任で準備すべき。(法, 40歳代, 男)

◆学部学生としては大変自由度の高いいい環境であると思います。学問をすることを求めるのであればこたえてくれる、という感じ。とくに卒業後にそう感じました。私は共通一次前の世代ですから、その感は強いと思います。学問をしたければその環境があり、そうでなければそれなりの生活が可能で、基本的に自由度が高い。大学院の進学も考えましたが、当時は語学のウェイトが高く、ちょっと変な感じ。大学院に自由度が低いような感じでした。学生生活最後の年に、ある教授の手伝いをして、図書館や計算機センター等出入りしましたが、感覚としては法学部のGraduateレベルはちょっと自由度が足りない感じでした。その後門戸を開放して改善されたようですが。私もその後米国のロースクールに留学しましたので、目的は達しましたが・・・(法, 40歳代, 男)

◆自由闊達が特徴であるが、最近個性がなくなってきたような気がする。(法, 40歳代, 男)

◆学科、卒業論文がないことが、当時は良いと思うたが、今にして思えば、もう少し専門といえるものを探すべきだったように思う。(法, 40歳代, 男)

◆30年以上前のことなので恐縮ですが、昔の法学部は帝国大学のままで官吏養成を目的としていた型を維持していた様に思います。より実学的にならないと消えていくのではないか。(法, 50歳代, 男)

◆法学部の講義を卒業後の仕事にいかに役立てるかは、その学生の心構え次第で決まる(私の経験)。ただし、講義内容は実業にも法律専門職にも適したものではなく、学生は自分の力で基礎力、応用力を身に付けるしかなかった。従って、アカデミックな内容であるにも関わらず、講義は実務に役立っていない。ロースクールを創設するのであれば、講義内容と形式は全く違ったものになろう。果たしてそれが可能か、不安を拭えない。学部としての教育も根本的に見直すべきではないか。教授陣の充実が望まれる。(法, 50歳代, 男)

◆・学園紛争時のためか、学生の交流に無関心な先生が多く、講義も一般教養に極めて義務的なものが多かった。二年間もの教養学部は正直無駄なものが多すぎるように感じた。 ・ゼミ方式は若く(40代前半)新進教授が人間味の豊かな方で公私ともに世話になっている。 ・現状を十分理解していないが、より専門分野とその関連分野のカリキュラムを増やし、大講義方式は極力減らしてほしい。 ・研究者と教師は必ずしも両立しない。学部の教育者と研究員は選択もできるような大学制度があっても良いのではないか。 ・学部からの講師陣による実学的な講座も増加してはどうか、私たちも参加を拒まない。(法, 50歳代, 男)

◆『自立型経営コンサルタントの実践指導ノートー会社の品質・管理の品質の向上を求めてー』参照。(法, 50歳代, 男)

◆自由な学風があり、教育・勉学は自己責任という理屈からは、よい教育・勉学環境であっ確かし、18歳では余りにも社会を知らなさすぎる。自己責任や自覚を持たせる教育も必要ではなかったかと今にして感ずる。(法, 50歳代, 男)

◆文学部の倫理学を受講し、法学部で単位を認められた。役に立ったとは思わないが、他学部の雰囲気を知ることができて、思い出になっている。(法, 50歳代, 男)

◆今から考えるに、専門科目(司法試験)をやっていたとしても、これに加えて英会話が必修とか義務的であったらと思います。若ければ理解、熟成が容易であったと思いますので、大学教育以前の問題かも知れませんが。専門科目自体は演習と講義で自分としては十分であったと思っています。(法, 50歳代, 男)

◆英語はヒアリングとスピーキングに重点を置き、英米人と普通に会話ができるようになるようにする。学部の授業は、一方的ではなく、双方向かつグループディスカッションに重点を置き、基礎の理解と論理性の体得を実現する。(法, 50歳代, 男)

◆国立文系の教育の在り方がよく分かりません。結局マスプロ教育で旧態依然とした講義ノートを棒読みする授業の連続では学問に対する興味が沸かないのではないかと思います。本当の勉強は大学院に行って少人数の専門教育でも受けないと出来ないのかも知れません。それと国家試験の受験勉強が予備校主体となるなど、学部の勉強の在り方を歪めているのかも知れませんが。（法, 50歳代, 男）

◆私たちが学部に在籍中は、教授達にも教育というもの（対学生）についての定見がなく、それぞれが自分の専門を教えていれば良いといった感じを受けておりました。したがって、より優れた本をじっくりと自分で読んだ方がbetterとも考え、むしろ友人たちとの交流に力を注いだように思います。どちらが良いのか（この方が自立、独立の気風が育まれるか）決めつけることは出来ないと思いますが、もう少し学生と教授達の関係が近いものであった方が良かったのかとも思います。（法, 50歳代, 男）

◆もう30年近くも前のことですから現状との比較で意見を申し上げることが出来ません。でも、今でも思うことは（楽しかったけれど）教養に2年間も割くのはもったいないということです。入学までさんざん一般教養など学んでくるのだから、もう十分!!少しでも多くの専門分野を学ぶべきだと、今でも思っています。それからインターン制など実ビジネスとの関連を明確に認識できる教育システムが望まれます。高校からいきなり自由な･･･というか自主的にやらなければ何も得られない世界に放り込まれ、戸惑っているうちに4年が終わってしまった感じもします。最初に大学の活用法を伝授されていたなら･･･（法, 50歳代, 男）

◆大学入学前に自分の進路を人文･社会科学系か自然科学系に完全に選別できる人は少ないと思う。その意味で総合人間学部の創設は画期的な試みと評価している。他の学部でも選択の幅を広げ教養科目の充実を図ってほしい。（法, 50歳代, 男）

◆各種資格試験への現実的対応教育も考えてほしい。社会の第一線で活動している人、または活動していた人の講義、ゼミ等を充実してほしい。（法, 50歳代, 男）

◆考える習慣は大学時代に培われた。（法, 50歳代, 男）

◆学部では実務に直結する方策を検討願いたい（法学部では判例主体とした研修等）。（法, 50歳代, 男）

◆京都における地盤沈下を憂います。在野精神。アンチ中央精神の復活を。二流の東大、中央よりになってどうするのか。目先の流行に走るなかれ。基礎的学問、真理を追求することの大切さを教えるべき。（法, 50歳代, 男）

◆1. 語学教育にも力点をおかれること。国際性を重視した教育が必要。2. 自由な学風。創造性の尊重を発展されること。3. 倫理、哲学の重視を図られること。4. 論理的思考をできる学生を多く育てられること。（法, 50歳代, 男）

◆共通一次以降、偏差値で大学･学部を選ぶ傾向が強まり、学生の個性の多様化が薄れてきているように感じます。その原因は、小･中･高での教育にもあるかもしれませんが、以前の京都大学生は、性格、考え方、生き方、学生生活の過ごし方が多種多様で、中には変人もいましたが、これが京都大学らしさ、自由･創造･独立精神を形作っていたように思います。これを変えるためには、個性豊かな人材も含め、入るは易く卒業は難しいという米国形の大学へ変えていくのが一方法ではないかと考えます。（法, 50歳代, 男）

◆教養学部には失望したことをはっきり記憶している。第一は教授陣に全くやる気がなく学問の息吹を感じなかった。授業の休講が多かった。2年（2回生）の時は従って目一杯専門科目をとった。専門科目は概ね満足でき、かつ専念できた。学問というものをようやく実感できたという気持。於保不二雄先生のゼミに入れたことは最大の喜びであり、先生を通して専門ということのレベルの深さを思い知らさせた。その時以来、専門家に対して謙虚に尊敬するようになった。（法, 50歳代, 男）

◆私の在学中は比較的自由で明るい雰囲気の中で講義が行われていた気がする。その雰囲気が今も続いていれば良いと思う。ただ、教授と学生の間は教授→学生の一方向での講義がほとんどではあった。何らかの形での双方向性が必要ではなかろうか。（法, 50歳代, 男）

◆法学部は卒論がなかったので、自由に過ごすことができた。（法, 50歳代, 男）

◆自由な学風を守って下さい。但し、独断にならないこと。（法, 50歳代, 男）

◆外国語教育は会話のみでよい（法, 50歳代, 男）

◆要するに、京大でまともな教育をうけたことは考えていない。原因としては、①教官のレベル②カリキュラムの内容③施設、があるが、特に①が問題。法学部卒であるので教官の名前を例にしてもよいが、もっと業績中心に独創性のある研究者を採用すること。（法, 50歳代, 男）

◆偏りのない視点で広く世界の現象を理解し、判断できる人間を育てるよう教養課程をプログラムしてほしい。専門課程では演習、ディベートを増やし、実戦的な思考力、判断力を育ててほしい。（法, 50歳代, 男）

◆･文系理系を問わず入学試験の科目は多くする方が良い。入学前に教養科目はマスターしておくべきである･入学後はできる丈早く専門科目に取組み、入学者の前向きの勉学意欲を減退させないようにするべきである･その為にも教員とその講義内容、カリキュラムの管理を強化すべきである。教員の教える意欲と進取性が重要である不意の休講などはもっての他である･大学に入ってからもダブルスクールなどしなくてよい内容とすべきではないか？（法, 50歳代, 男）

◆･人文･社会科学系には物理の基礎を･自然科学･人文共に哲学を必修科目にし、物･考え方の基本をしっかりと身につければ良いのでは。（法, 50歳代, 男）

◆自分は、法学部の卒業ですが、昭和46年当時の法学部は必修課目が少なく、科目選択が自由で、勉強が非常にやり易かったのを覚えています。2年の時から（単位にはなりませんが）民訴の授業を受けたり、経済の科目をとらせていただきました。京大の自由な校風は今後も残していただきたいですね。（法, 50歳代, 男）

◆卒業してから思うことは、「社会人となり、職業を持ってからも勉強のできる場があれば」ということです。社会人、一般にも、開かれた大学であってほしい。これは、他の大学にも言えることで、夜間･休日にも、教養講座のようなものを適宜スケジューリングして、開催したら、と思う。（法, 50歳代）

◆・一般教養として、日本の歴史、文化、政治体制をキッチリ認識させること。これが話せる英語教育と相まって、真の国際化が図れると考える。例として茶道を勉強するだけでも絵画史、政治体制、焼物史書家史、日本人の所作等広範囲な認識が身につく。(法, 50歳代, 男)

◆私の時代には教養部がありましたが、最近はないと聞いております。若い法曹世代をみると一般教養科目を大学で履修することが不可欠であると思います。(法, 50歳代, 男)

◆体育会運動部に熱中し、1年留年して卒業した者として、余りおこがましいことは言えませんが、要望としては次の通りです。1. 入試制度最近はどうなっているか知れませんが、高校での勉学は入試に合格するために終始しました。教養部で少しかじった幅広い一般教養は、高校時代に親しんでおけるようにすべきと今でも思っています。2. 専門教育(法学部)運動部の活動で、余り講義に出席しませんでしたが、成績はともかく単位は取れました。(留年は自己意思の方が強かった。)ゼミも任意、卒学論文もなしで、非常に有難たい面もありましたが、本当にしっかりした基礎的学力を得たかは大いに疑問です。国民の税金での学ばせて貰ったことからすると、反省の意味もこめて、厳しい勉学を必要とする制度にすべきと思います。(法, 50歳代, 男)

◆基礎的な学力を身に付けることを重視し、論理的な思考力を養うようにすればよいと考えます。(法学教育に関して)(法, 50歳代, 男)

◆高校時代は、大学入試を突破することだけ考えてひたすら受験勉強に没頭していたので、いざ大学に入ると、何を勉強したいのか、勉強すればいいのかさっぱり分からず、広い草原に放り出された感じでした。一種の虚脱状態です。今の学生も、35年昔の私とほとんど変わらないように思います。ほんとうは大学を受験する前に学問する目的や自分の将来の希望について十分考えるべきですが、高校生ではなかなかむつかしいです。と、なると、大学側で、そういう学生へのオリエンテーションを個別にしっかり行ってもらいたいと思います。もちろん各自が判断すべきことですが、考える材料の提供やヒントを与えてもらえたらよかったと思います。(法, 50歳代, 女)

◆単位取得科目を真剣に検討させた上で、単位取得のための勉強をしっかりとさせる。試験もきびしくしてどんどん落とす。(今になって考えるともっと真剣に勉強しておけばよかった)自分の選択がまちがっていたと気づいた時にすぐに方向をかえることができるようにしてもらいたい。(例えば　法律→経済　民法→刑法　etc.)(法, 50歳代, 男)

◆自由闊達な学風が維持されることを望みます。(法, 50歳代, 男)

◆・30余年以前の私自身の経験であり、現状は相当変ってきているかも知れないが、　・その後、最近入社してくる京大卒業生からも感じられるところであり、　・私自身が企業留学生として30年前に米国大学のlaw schoolに留学し、40代の後半の数年を米国企業(買収したもの)に勤務(legal部門)した経験からみて、次の点を法学教育に対して感じる。 1. 学部教育は、もっと徹底して基礎的知識の涵養を目ざす。そのためには、小テスト等を含め理解度をあげさせる仕組も必要である。 2. 講義の内容は多数説、公権解釈、有力少数説を明確に区分してコンパクトにすることである。講義の絶対時間に制約ある以上、これが実践教育のポイントの1つである。 3. 教授個人の自説に固執した講義は、あるいは特定のテーマの深い考察は、研究を志す、一部の学生に対し大学院以上で行う。 4. 以上を、司法試験改革と、これに対応する大学教育の中でも活かして対応されたい。(法, 50歳代)

◆30数年前に経験したことしか知らないので、一般論のようなことをいう資格がないと思う。経験からいえば、学生の自主性に期待した教育であったと思う。そうした意欲のある学生は十分成果をあげたと思うが、意欲がなければ空っぽのまま卒業して行ってしまったのではなかろうか。卒業することは非常にやさしいという印象が強い。自分はどちらかといえば、後者であったと自覚し、社会に出てから勉強することを心がけてきた。こういう気持ちにさせてくれたのは京大の教育であったと思っている。(法, 50歳代, 男)

◆金融機関に勤めているが、現在も周囲には京大卒業生、東大や私大の卒業生がいる。この中で京大卒業生はその自由闊達さ、悪く言えば組織を無視することで、一見してそれと分かる。会社においては、勿論団体行動をとる必要もあるが、京大卒業生のユニークな発想、モノオジしない態度は他大学卒業生のうらやむところである(ただし、あたり外れが大きいとも言われているが)。このユニークネスの源は、一般教養にあるのではないか。特に一ヵ所に集中した大学として他学部学生とも交流できる地理的事情も大きいと思う。これは引続き維持していただきたい。(法, 50歳代, 男)

◆自由な学風は大らかで伸び伸び学ぶことができまし確かし、自律性に欠けていた私は、今から思えば、先生方がもっと厳しく宿題などもさせてくだされば、その中から、知識が進む喜びが増したかも知れないと、勝手ながら感じます。もっと勉強しておけばよかったと後悔する現在です。全く自由に放たれますと、気付くのが遅くなる人がいると思います。(法, 50歳代, 女)

◆米国のビジネス・スクールにて、勉強し、MBAを取得しましたが、日本の大学と余りにLearning Styleが異なります。Case Study中心で実践的であり、ビジネスに即、役立ちます。京都大学ならこそできる実践的ビジネス・スクールを作って下さい。(法, 50歳代, 男)

◆現状がどうなのかよくわからない。大学教授には優秀な人を。教養教育に力を入れざるを得ないのか？高校教育以下が、余りにお粗末になっている。(法, 50歳代, 男)

◆個性ある先生が多いのであるから、本当に学生(院生)を育てる気持をもってやってもらったら、いい教育ができると思う。(法, 50歳代, 男)

◆1. 卒業後30年以上経過しているため、的を得ているかわからないが、我々が受けた当時、余りにも企業、経済界のニーズ、実務からかけ離れた授業が少なくなかった。(例1)手形法を学んでも、手形交換所の存在、罰則の意味も知らなかった。(例2)英語授業で、シェークスピアを読了したが、会話ができない。ニュースペーパーも読めず、そのアンバランスがひどすぎた。

教師自身が英会話をバカにしていた。今にして思えば、全くムダな時間を消費したと思う。2. 基礎教育と応用教育は、その性格でウェイトを大幅に変えるべき。いずれの分野でも、一律教育が実施されているのではないか。例えば、憲法や政治学では、考え方、思想にウェイトをかける。商法や行政学では、徹底的に実践実務教育に徹する。語学では会話とビジネスレターの作文と読解に徹する。3. そのためには、いわゆる「学問のための学者」を実務分野では排除し、民間の経験者を採用する事が必要。(法, 50歳代, 男)

◆振り返って反省すべき事の1つは、学生の時余り勉強しなかった事だ。あれだけ恵まれた環境を与えられていたにもかかわらず。それというのも、自分自身が何をやりたいのか、そのために何を勉強するのか、はっきりしていなかったことに原因がある。そうしたことは、本来自分自身で発見すべき事であるが、その点のガイダンスでもあれば、これからの若い人達にも、役に立つのではないかと考える。(本来こうした事は、大学に入る前にあった方が望ましいが、日本の教育システムの中にはどこも組み込まれていない。) (法, 50歳代, 男)

◆故高坂正堯先生の外書講読(英語)は、代返した者、された者は0点だった由、かつ、先生が教えた範囲内の答えしか書かれなかった者には、正解でも60点しかつけられかったらしいことが、10年位前に判明。(同期で調べた者がいた。) 東大教授にその話をしたら、自分も自分のゼミ生には特に厳しくやったら、教授会に呼び出され、就職にさしさわりがあると注意された由。(法, 50歳代, 男)

◆これまでの社会生活、また会社人生で感じていることは、専門的知識ももちろん大切であるが、それ以上に一般的教養の有無、深さがその人物の魅力を大きく高めることになるということ。その意味で、一般教養科目を決して軽んずることのないようにすべき。(法, 50歳代, 男)

◆小生の在学期間は、昭和44年から49年の間であり、大学紛争とその収拾期であった。その為特殊な時期の経験にすぎないかもしれないが、京都大学とは、ただその名の下に、教える立場の者と、教わる立場の者が集まり"それなりの交流をする場"にすぎなかったという印象である。即ち"教育"というマネージメントが欠落していたように思う。従って、改善策というのは"教育"というマネージメントの目的、手段をはっきりさせて、それを公表、公開していくことにあると思う。(但し、最近の実情については知らないのであるが…。) (法, 50歳代, 男)

◆授業の進め方について。教師が一方的に講義するのではなく、学生と双方面に応答する形で進めるのがよいと思う。学生に参加意識を持たせ、聞くだけではないという役割を持たせるべきである。演習形式の授業を増やしていけば良いのではないか。(法, 50歳代, 男)

◆例えば、理学部で2回生のうち、半年間サラワク州で、rain forests研究を窮地で行なうので、その応募受付を1回生の春に行なう。応募者にガイダンスをし、費用を示し、かつ1回生の終了時に課すべき、試験内容を公表する。学生の自由かつ積極的な勉強の動機づけになると思う。夏休みなどに、応募者有志を集めて、合宿、現地見学、演習などを実施するとさらに良い。(法, 50歳代, 男)

◆対極にある東大の連中との付合いの中で、京都としてのアイデンティティーの何たるかを思う時「在野の精神」「ベンチャー気風」「自由闊達」というところか。一定の水準の維持を大前提にそうした形を生かす学風造りに、地勢的条件も生かし、一層取組まれたい！！(法, 50歳代, 男)

◆専門課程にあっては、当時大半が講義形式で、偉い先生が、とうとうと学術的見地を述べる形で行われていた。これは学術研究に進む方には良いのだろうが、実社会へ進む人には、余り意味がない。もっと個人参加形式のカリキュラムを作るべきで(ケース・スタディによる討議形式とか)その方が、確実に身につくものと思う。(法, 50歳代, 男)

◆1. 教育プログラム、とくに必修科目に次の2点を入れておいて頂きたい。(1) 教養～東西の古典学習∵人格の陶活と物を考える基本を身に付ける。(2) 会社インターン制度活用又はボランティア活動∵現実と交わる。2. 講義よりゼミ形式を増やす。∵a) 考えをまとめ、説得力のある発表ができるようにする。b) 文章の表現力を向上する。○法曹分野は司法試験の合格者を大幅に増す動きがある。豊かな識見と健全は判断力を備えた人材を育てて頂きたい。(法, 50歳代, 男)

◆編入試験を受けて、三回生から入ってくる学生の受け入れ方に足りないものがあるように思われます。私の在学中に編入生(私と同年生)が、一学年下のある女子学生に片思いとなり、ストーカーのようになってしまいました。その女性は逃げ廻っていましたが、一度、私の下宿に飛び込んできました。その男性は私の下宿の周囲に二、三日刑事の張り込みのように付きまといました。これが12月でしたが、翌年1月学生末の試験場に現れて、真っ赤になって「○○さん、××さんを何処にやった。」と大声でどなり、私に殴りかかるような剣幕で詰め寄りそうになりました。数人の男子学生がとり囲んで止めました。この編入生は留年しました。この時の私の受けた印象は、この人は、自分が編入生であるという劣等感に耐えられなかったのではなかろうかという事です。二十才前後の多感な時期に厳しい競争が行われているのですから、弱い立場で傷ついた人が、将来社会に出てかえって良い活躍ができるようにきめ細かい対応をお願いします。私は、この試験場で問題を間違えて59点となり、1点の不足で卒業延期となりました。この男性にまた会ってトラブルのが嫌だったので、9月卒業という変ったスタイルで学生時代を終えました。この時期体調の悪かったことも手伝って、かなり重いノイローゼとなりましたが、父がある方から紹介された浄霊をしていただいて回復することができました。(法, 50歳代, 女)

◆在学中は余り授業にも出ていないので、教育内容について書くのも気がひけるが、学生の自主性を尊重する自由な教育方針は堅持して戴きたい。人間の能力は「学問」だけで磨かれるものでもなく、大学時代に何を考え、何に打ち込んだかによって大きく変わるものであり、特に、日本の小・中・高と自主的、個性的な人間を育てようとしない教育制度の下では、大学時代の授業以外での学生の生活の過ごし方が重要な役割を持つと考えます。小生の大学時代には、「自主ゼミ」なるものがあって、それに積極的に参加していたが、大変面白く、勉強もよくした。同様なゼミとかワークショップ形式の授業があると意欲をもって

勉強できると思う。(法, 50歳代, 男)
◆「自由の学風」は高く評価されるべきであるが、その名の下に、東大に比べ、学生が勉強しない大学側もそれを容認しているきらいがある。もっと勉学には厳しくあるべきであると思う。(法, 50歳代, 男)
◆1自由な校風は良いことだが、社会の一員としての必要なマナーやボランティア精神の育成も重要と考えます。①福祉・奉仕を尊ぶ人格の形成。(人にやさしい) ②自然や環境や物を大切にする人格の形成。(環境にやさしい) 2身体や精神の鍛錬(別に激しいスポーツをせよと言うことではない) 3語学教育の充実。(法, 50歳代, 男)
◆30年近くも前のことなので、今どんな教育がなされているのかよくわかりません。ただ、今年入学した息子から少し聞いた限りでは、興味深い教養の講義も少なくない。一方やる気を疑うような先生も何人かいるようです。学生の側に余り勉学の熱意を持たない者も少なくないそうです。自由でほったらかし、というのが京大の魅力だったのですが、今では教員、学生双方について少し「評価」のシステムを整える必要があるのではないでしょうか。(法, 50歳代, 男)
◆学術的教育をベースとした教育であったことは、評価できるが、ある程度実践的教育も選択できるほうが良かったかもしれない。(法, 50歳代, 男)
◆私の卒業後30年近くが経ちつつあるわけで、先月末米国勤務から戻ったところで、最近の情報を充分持っているわけではないが、帰国子女や留学生受入れ等を通じての国際化が進んでいるようで結構なことと思います。ラテンアメリカ(スペイン語)と米国で約10年勤務したが、外国語に弱い日本人の中で、京大卒業は特に弱いような印象もあり、役に立つ外国語教育の充実を望みます。(法, 50歳代, 男)
◆1. 教養科目について基礎的な部分と専門的部分の2段階(2講座)で学べる機会があってほしい。(同一の科目について) 2. 国際性を高める為に、世界の民族史、宗教史を広汎に且つ高いレベルで学べる機会がほしい。3. 社会人となれば、経済が最重要の一つであるので、実際の社会の動きに役立つ経済講座が必要。(法, 50歳代, 男)
◆我々の時代の外国語教育は教科書を主体としたもので、会話中心ではなかった。大変残念に思っている。　自分が社会人になって思うに、専門課程において、社会人になった先輩の話、つまり実際に役に立つのはどういった点かを聞かせて貰ったら良かったと思う。また、東大の教育のいい点、あるいは社会人になるに当たって配慮している優れた点などを聞かせて貰ったらよかった。私は、自治省に入ったが、東大出身の同期に言わせると、在学時代に先輩が来て、飯を食べながらいろいろ官僚についての話をしてくれた由。こういう対応が、官僚に東大生が多い背景かもしれない。(法, 50歳代)
◆自由放任過ぎて無責任すぎないか。学生のせいだけにしてはかわいそう。指導者が必要だから大学に行っているのだから、教授は自分の研究だけに没頭せずに学生を育てると言う気持ちを半分は持ってほしい。(法, 50歳代, 男)
◆変な人を教授にしないで下さい！　現在はどうか知りませんが、「こんな人が教授？」という人がいました、小生が学生のころ。歴史と伝統を大切にして下さい。京都大学で学んでノーベル賞をもらう人、多いです。(法, 50歳代, 男)
◆現状は不明であるが、当時は指導陣の「知識を伝達する技術」の向上が望まれた。(法, 60歳以上, 男)
◆教授の中には全く業績がなくても、そのまま居続ける人がいた。論文、教育のいづれの面でも第三者による評価がされ、それによって進退を決めるのが競争社会の原理である。(法, 60歳以上, 男)
◆1. 全般的に自由・新進で良い大学であったと感謝している。2. 大学紛争の経験を生かしつつもそれ以前の大学の姿を基本として運営されるのが望ましい。3. 学部の独立(学問分野として)を進め、国家の介入を許さず将来の人材育成の基盤づくりとなる大学であってほしい。(法, 60歳以上, 男)
◆我々の時代は、自由放任、悪く言えば無責任。学部(法)では、真剣に講義をする先生は、ほとんどいなかった。教育にほとんど時間をさいているとは思えなかっ確かし、自由な時間を与えてくれたことが、私とは、よかった。ほとんど講義には出なかった。それには良い点もあったが、よくなかったとも思うが、どちらが良いが一概には言えない。(法, 男)
◆専門科目では、もっとゼミを多く取得できるようにしても良かったように思います。(当時は法学部では1科目でしたが現在は変更になっているかもしれません。) 一般教養科目では、職業生活に入ってから生活を精神的に豊にしてくれるような契機となり得るような科目、例えば、音楽史、美術史等芸術関連の科目や、ITや生命科学など現代社会生活の大きな変革に密着した自然科学の基礎科目などを学びたかったと思います。(現在は工夫されているかも知れません。) (法, 男)

経済学部・経済学研究科

◆現在の状況はわからないが、当時は学生自身の意思・責任次第という、良い意味でいえば「自由」、悪く言えば「放任・ほったらかし」という感じがしていた。最近「学力低下」が叫ばれているが、こうした世代の学生に放任主義は危険ではないか。(しかしこうした「自由」な京大がいまだに好きであるが・・) また、大学院重視路線を進んでいるようだが、4年で学部を出て社会の荒波に飲まれる者がほとんどだと思うので、学部のレベルキープ・レベルアップも推進してほしい。(経, 20歳代, 男)
◆自由な学風を大事にしてほしい。(経, 20歳代)
◆私は、京都大学の自由な校風に憧れて入学を目指し、経済学部に入学できたのですが、学部選択も大学選択も、自由＝勉強しなくていいという意味で本当に想像したとおりでした。学生時代の4年間は体育会系のクラブに全力投球し、当初の目的どおり、人生のモラトリアムを満喫しましたがしかし今、仕事の関係から経済学と会計学の勉強の必要が生じ、恥ずかしながら一から取り組んでいます。やはり、経済学部卒業と人に言えるくらいの基礎的な知識を強制的に付けさせるカリキュラムを組んだ方がいいかもと思っています。(経, 30歳代, 女)
◆文系学士は幼稚園並の放任。もう少し教育を。(経, 30歳代, 男)
◆産学の交流をもっと進めるべき。(経, 30歳代, 男)

◆役立っていると思う。が、「教養」が高い事への価値は余り感じない。生活をしているのでもったいない気がする。(経, 30歳代, 女)

◆大学時代にもっと勉強しておくべきだったとは、誰もが思うことかもしれないが、本当にもっと勉強すべきだったと感じてる。しかしながら、今回思い出してみても興味深い内容の講義が非常に少なかったように思う。現在自分が語学教師をしている上で、いかに興味を持たせるかということに力を注いでいることを考えると、京大の講義は教授や講師の研究のサイドワーク的にやっているだけで、学生主体ではなかったように思う。とは言え、数少ない興味の持てた講義やゼミで学んだ事は直接的ではないが、実社会でも教養というレベルで役に立っているように思う。この不景気の時代、学生が実社会で役立てられる実践的な内容の教育がなされることが世の役に立つことでないかと思われる。(経, 30歳代, 女)

◆従来からの特徴である自由と反骨精神は、これからも大切にして頂きたい。特に中央集権的傾向、大ざっぱに言えば小さくまとまる傾向にある東京系の大学とは一線を画し、良く言えば自由、悪く言えばけったいな校風は大切にして頂きたい。私の卒業時、世の中はバブルの最盛期でしたが、その時の学長の言葉は、「日の当たる所に群がるな」でした。将来を見つつ、自分を見失わない視点で見た、見事な言葉だと思います。当校も世の中の流れに安易に従わず、しっかりした考えの下で。(経, 30歳代, 男)

◆自由のままで、学生をしばらない方が・・・・・(経, 30歳代, 男)

◆近年、専門科目への感心が高まりつつありますが、幅広い視野を持つ、新しい発想をする上で、他分野の体系的な知識を得ておくことは重要な意味を持つと思われます。特に経済学部においては、数学、哲学、統計学等の専門を理解する上で基礎となる科目への認識が甘く、三回生にもなると、ゼミ内での学力差が激しく、またその差は個人の資質と不整合にある傾向が強いです。自由な教育が、ユニークな人材を輩出する反面、原石を原石のまま終わらしてしまう学生も多く、教養科目を学部単位で管理し、効率の良い学習が行える環境を整備していく必要があると思われます。(経, 30歳代, 男)

◆在学時、京大は日本一楽な大学といわれたように授業に出席しなくても試験は通り、無事卒業できた。教師側も毎年同じ教科書で同じことを言っているようだった。授業はよく出た方だと思うが、我々のレベルと教授の話す内容にかい離がひどく、内容は現在ほとんど覚えていない。現在はそんなことはないと思うが、やはり今になってもっと勉強しておけばよかったと感じる。それと、経済学を分かりやすく教えてくれる教師が一人位いてもよかったのではないかとも思う。高校時代に経済学を学んだ者はいない。そんな彼らに経済学の興味深さを教えることをもっと主眼においてほしい。(経, 30歳代, 男)

◆・現在の教育は昔の旧制高校のように大学で専門の勉強に入る前に教養を身につける期間・場に乏しいので、大学入学後の一般教養科目もそれを補う意味で重要だと思う。・学生生活を何に重きを置いて過ごすかが、学生の自由に任されている。自由度の高さが京大の良さだと思う。しかし、これは入学時点で、大学教育を受けるに足る基礎学力があり、自分の興味で独学しても習得できる能力があるということが、大前提である。現在のように全体的に基礎学力の低下が危惧される状況では、補習をしたり、必修科目を増やして、対応することもある程度仕方ないと思う。(経, 30歳代, 女)

◆京都大学の特徴、強みである自由な校風、学風を尊重しつつ、これまで以上に「望む者」に対しての高度な教育を導入してほしいと思います。・実社会に出ても通用する一般教養・専門教育と共にすすめる外国語教育・演習による独自の考えThinkingを展開できるような訓練決して他の大学のコピーとならないよう、それだけは守り抜いてほしいと思います。(経, 30歳代, 男)

◆一般教養科目の充実。(経, 30歳代, 男)

◆専門的教育に特化してほしい。いわゆる「一般教養」科目をすべて自前でやる必要は無い。他学で単位を取らせても良いではないか。(必須にすることに意味を感じられない)各専門科目で、前提となる(一般教養の)知識レベルがあるなら、それをはっきり示せばよい。そこに到達できてない者は、受講しても単位を取得できないだけである。どの知識がどのレベルまで必要か明示されていないことが問題。(それが明示されていれば、みな一生懸命一般教育科目を受けるなり、他学や語学専門学校で勉強するだろう)また、経済学部でありながら、その価値等が数値的に測られていないのは疑問であった。経済学部からそのような行動をどんどん起こしてほしい。(経, 30歳代, 男)

◆他大学との差別化を徹底するべきかと思います。他大学がカリキュラムの多様化や、選択の自由拡大を既にはかっていますが、そうした他大学のカリキュラムでさえも育たないような人材こそ輩出していく役割を京大は持つべきです。(経, 30歳代, 男)

◆外国語教育はNOVAだとかに外注したほうが効果があがるかも。(経, 30歳代, 男)

◆自主性を重んじ自ら考えることを重んじる教育方針を是非続けてほしい。(経, 30歳代, 男)

◆経済学部卒です。アメリカの大学も経験したことがありますが、もっと厳しく、そしてもっと基礎を重視してほしいです。それは、ミクロ・マクロ経済学に限らず、アメリカの大学では軽んじられている、経済思想や、マルクス経済学、古典派理論、歴史なども、基礎を重視してほしいです。アメリカの大学がベストとは思いませんが、少なくとも、科学としての経済学を体系的に学べるようなカリキュラムを望みます。それから、やる気のない教授・スタッフは排除してほしいです。(経, 30歳代, 男)

◆現在でも京大の教育、研究環境は最高であったと確認できます。施設、優秀な教授陣のみでなく、多様性を認め自由、創造性を尊ぶ学風そのものが財産でありましょう。(経, 30歳代, 男)

◆大学を卒業して10年余り経過しました。 その後の母校の状況について詳しくないので的はずれな点があるかもしれませんが、自分が在学していた頃の京都大学の教育の問題点を指摘させていただき、参考になる点があればと思います。 1980年代後半の学部専門教育(経済学部)、教養教育の問題点は次のような点に集約されるかと思います。 1。専門教育と教養教育の接続性の欠如 学部と教養部との連絡がほとんどなく、効果的な学習・研究ができたとは言い難い面があります。 事務的な(以下、不明)(経, 30歳代, 男)

◆厳しく学問をさせた方がよい。卒論は必修にした方がよい。外国との交流を活発にした方がよい。基礎と実践、教養と実学、どちらもバランスを取る教育を行ってほしい。企業に近すぎてもダメ。遠すぎてもダメ。（経，40歳代，男）

◆実際、一般教養を2年かけて学ぶ必要があるかという疑問がある。大学に入学して、何を期待するかというと早く専門教育を学びたいということではないかと思う。単位を取るための一般教養よりは、専門性を深く掘り下げるような教育が必要かと思う。（経，40歳代，男）

◆自由な学風は大切にしてほしい。（経，40歳代，男）

◆私自身の大学時代は、ストも多く、講義自体が休講になることも多かった。その中で授業に極力参加し、かつ他学部の授業も受講するよう心がけてきました。一方、社会人として22年間数多くのことを経験し、実務を身に付けてきました。その中で大学時代の大学教育がほとんど役に立っていないことを実感せざるを得ません。社会人として役に立つ教育を今後実践していただくため、次の事項に注力して下さい。1.英語教育（TOEIC730点のクリア） 2.コンピュータ教育（ITソリューションの意味理解） 3.パソコン・スキル（インターネット・Word・Excel・PowerPoint等によるプレゼンテーション）上記の事項が実践出来なければ、グローバル化の進む最近の状況の中で生き残ることは出来ません。（経，40歳代，男）

◆経済学部ではマル経の影響力が強すぎた。そのため、世界で主流となっている内容の教育がやや遅れていたように思う。（経，40歳代，男）

◆教えるのではなく、探求する心を育ててほしい。学部の教授は、これまでの学生をおおらかに見守る姿勢を大切にしていただくとともに、講義等においては、学問の楽しさ、大切さを伝える感動的な授業をしてほしい。研究を大切にされる教授は、大学院や研究所教授とし、学部は教育者意識を持った方に教授になってほしい。学問の大切さを社会に出てから実感した経験から、長期間の（半年程度）のインターンシップを取り入れるのも効果的ではないか。とにかく、探究心と学問の楽しさを知らしめれば、後は放っといても京大生ならそれなりにやると思います。なお、高等学校が予備校化している今日、教養科目も4年間の教育でバランスよく取り入れていただきたいと存じます。（経，40歳代，男）

◆社会に出てから、初めて大学の講義内容の重要性を知った。ということは、ある程度の社会人生活を過ごさないと、講義が空理・空論になって耳に残らないのではと思う。ついては、社会人学生をもっと入れて活性化を図るべき（経，40歳代，男）

◆我々の時代は世の中の価値感が大きく変わるところでしたが、常に自主独立、権力にスリ寄らないことを大事と教えられ、今も心に留めています。時流に漂わず、学問の本来の在り方を追求しながら現在～未来を切り拓く教育に努めていただきたいと思っています。（経，40歳代，男）

◆・京大の自由な学風は、講義形式よりも、より自由に討論できる場とか、学外活動等により、より実践的側面も養われるのではないかと思う。実践的かつ、自由な発想ができる人材を養えない何如なるworkingでもこなしていける。・ただし、今日国際的感覚が求められており、語学（TOEIC600点以上）、西洋史、東洋史、中東史等各国の歴史、文化にふれる機会をもっと楽しむべく多くすべきであると思う。・当時の語学勉強は学位を取得することが、主眼で、全く実践的でなく、国際感覚を養うというよりも、何如にうまく最小限の努力で学位取得するかに奔走したかとの印象が思出に残るのみ。（どこに行ったドイツ語）（経，40歳代，男）

◆正直に言って、学校の授業には出ず、クラブ活動と遊びに夢中でした。社会人になっても、よく卒業できず困るような夢を見ました。意見としては、社会に出て実際に役立つ勉強（株式投資や税金問題、起業のノウハウetc）を中心にカリキュラムを組み、しっかり勉強しないと単位が取れないようにすべきと思料します。役立たぬ知識の上乗せのような教育はオミットすべきと思います。（経，40歳代，男）

◆私の学生時代は、竹本処分で最後にもめた年代で、教養時代からまともに授業がなく、せっかく入学しながらも、まともな学園生活を送ったとは言えない生活であった。その結果、クラブ活動にのめりこむこととなった。会社に入って思ったことだが、京大はややもすると放任主義であるが、東大は教育しているという実感である。慶応、早大に比較して、自分の意見を持たない、元気がない点も気になるところである。（経，40歳代，男）

◆外国語の修得は、大学においてもっと重視されるべき。人文系においては、ゼミナールに所属しての研修が特に有益であったと思う。（経，40歳代，男）

◆（1）京都大学の教育の特徴である独立性や創造性の尊重を残しながら、学生が大学に在学中にきちんと集中して勉強する環境作りをすべきと思う。具体的には、単位取得を厳しくすべきだし、社会との接点を持った活動を義務化すべきだと考える。（2）社会に出て使える事のできる外国語教育を行うべきと思う。（社会人になって英語をマスターするのに苦心した経験有り。それでも社員教育のしっかりした会社であったので、非常に幸運で、国際化ビジネスで使えるレベルに到達できた。）（3）アメリカの大学でひんぱんに行われているように、教授と学生との間での対話がもっと活発に行われるような講義。演習を行うべきである。（経，40歳代，男）

◆入学当時は大学に入ることが目的化しており、紛争ともあいまって中だるみになったのは事実。今から思えば著名な先生方の授業を身近にうけることができたのに、とも思うが、やはりこの年にならなければわからないことなのかもしれない。一方勤務後（4年後）入った海外のＭＢＡコースでは時間の有難さもわかっており一生懸命身についた学問ができた。ゼミで先生が英書を使ってくれたことはその後の外国語アレルギーをなくす上でも大きなプラスであった。自然科学分野での華々しい活躍に比し社会科学が目立たないのはパワーを行使できる立場に人が少ないからか。学問的になりすぎず、社会の現象の中から問題点を分析し理論につなげていくその過程で学生の対人説得力（プレゼンテーション力資料作成力）がみがかれ社会で企業に入っても、学術分野に入っても実績を残せるのではないか。（経，40歳代，男）

◆私が在学した頃からは年月が経っておりますので、現在はいろいろと変わっているかと思いますが、当時の経済学部につい

て書きたいと思います。経済学部では二回生から一部の専門科目を受講することができました。入学してから早く専門科目に触れたいと思っている学生にとっては、一回生で語学など一部を除いてほとんどの教養科目の単位が取れることもあり、とてもよい制度だと思いました。また一回生から自主ゼミのチューターを担当して下さる院生の方も多く、恵まれていたと思います。しかし、3回生になって受講した専門科目の中には先生方のご研究分析に重点を置いた講義もあり、基礎的な経済学の土台ができていなかったため余り興味が持てませんでした。これは法学部の講義が基礎から積み上げ全体を見通すようなものになっていたのと対照的でした。以上のことから、入学して希望に燃えているときに早く専門科目の基礎固めをする、即ち一回生から専門教育をし三回生にはある程度土台ができた上でのより高度な専門教育を行うのが良いかと思います。逆に語学などは4年かけてもよいと思います。なお、一般教養科目も専門科目も教養として、仕事上のものの考え方として非常に役立っています。（経, 40歳代, 女）

◆大学移転の話もあるようだが、位置も大学のブランドの一つであり移転すべきでない。（経, 40歳代, 男）

◆1963年に経済学部に入学、1967年に卒業し、大学院は阪大に行った。教養の英語は出席したので少し覚えている。Arnoldや、Conradなど印象に残った。一回生の時、ESSに3ヶ月ばかりいた。ディベイトで発展途上国をとりあげ、準備のためミュルダールを読んだ。サークルでは本を読み議論した。専門ではゼミで勉強した。講義にはほとんど出なかった。これは私の性格であり、講義出席するより下宿で本を読むのが好きだったのである。教養は語学、専門は演習という教育でよかったと思う。（経, 50歳代, 男）

◆私はどちらかといえば、不真面目な学生で、講義・ゼミとも、余り勉強してこなかった。スポーツと読書に明け暮れた生活だったように思う。大学の教育は、将来役に立つような実践的教育（外国語・経営・会計）と一般教養、徳育科目に注力し、将来の社会生活の実践に役立つようにしてもらいたい。厳しく。国際人として、欧米ビジネスマンと対等に対応できるような教養と知性と体力、精神力がある人を育ててほしい。（経, 50歳代, 男）

◆・社会人の入学枠を増やすことにより、研究者、教員、学生に社会との接点を教えることができる。 ・基礎研究と実践教育とを併存させる。（経, 50歳代, 男）

◆経済学部の教育に思想的な面が多すぎる。客観的に社会を評価するためのベースやツールの教育の割合を増やすべき。（経, 50歳代, 男）

◆京都大学の自覚と誇りの下、自由な学風を忘れず、議論を交わす教育を期待する。（経, 50歳代, 男）

◆私にとって、京都大学の教育は、学業ではなくそのリベラルな学風と文化的伝統こそがかけがえのない価値であったと思う。（経, 50歳代）

◆伝統的な自由を尊重する気風を守りつつ、広く社会人や産業界とのコミュニケーションを深め、日本に有為な人材の育成に努めてほしい。バランスが大切。単なるアカデミズム、象牙の塔のような学問の府であってはならない。（経, 50歳代, 男）

◆教養科目は自分の興味の範囲内で独学でできるし、それで十分。専門科目に特化すべき。（経, 50歳代, 男）

◆①社会人のそれぞれの分野で活躍している人の特別講義やセミナーを多く設けた方がよい（教養／専門問わず）。特に社会科学関係は現実の世の中の変化が速いので、その現場の感覚や諸困難に直接に触れることが、学ぶ人たちにより多くの刺激を与え、学ぶ意欲と様々な視点に気付かせる手助けとなるのではないだろうか。②NHKのようこそ先輩ではないが、先輩との学び合いの機会があってもよいと思う。（経, 50歳代, 男）

◆①外国語については実用化に注力すべき。ただし教養として文学的知識の習得も必要。②専門科目についてはより実社会との接近を図るようにしてほしい。（経, 50歳代, 男）

◆「役に立たない」ことを積極的に学べるのは、教養の時代であって、これが本当の大学の姿と今でも確信している。「役に立つ」という考え方そのものが、学問のタイハイを示していて、誰にとって役に立つのかという視点が論じられないのは情けない。（経, 50歳代, 男）

◆東京の大学のように余り流行に流されずにしっかりした教育をして下さい。（経, 50歳代, 男）

◆専門科目のゼミをなるべく早い時期に開始するなど、そのウエイトを高め努力をすべきである。一般教養もそれなりに有益であった。極端な縮小はよくない。単位とは関係のないオープン講座を学外講師（第一線で活躍中の卒業生を中心に）等を活用して活発化してはどうか。（経, 50歳代, 男）

◆外国語教育はより実践的な内容にすべき と考えます。（経, 50歳代, 男）

◆今どうか知らないが、私の学部時代（1962～67）に経済学部では卒論がなかった。卒論は必修科目にすべきだと思う。（経, 50歳代, 男）

◆いわゆる京都学派的な、余所に無い、独特な教育、研究を維持してほしい。（経, 50歳代, 男）

◆大学の学部間の交流を増やし、新技術に対応できる体制にしてほしい。（経, 50歳代, 男）

◆国立大だけあって、小人数のゼミ教育等が十分に行われていたと思う。自分自身もゼミ、論文作成を中心に研究し、それが現在、非常に役立っていると思われる。（経, 50歳代, 男）

◆孤高主義から脱脚し、産学連携を強めた方がよい。（経, 50歳代, 男）

◆大学には、教育と学術・研究の両面があると思う。しかし、教育とは、と言うと、何の為に何を教育するのかという疑問がわく。つまり企業社会あるいは行政組織で活躍するにふさわしい教養・知識・技術に重点をおくのか、一般教養的な点に力を入れるのかである。現在の京都大学は、学術研究における面と企業社会が要請する人材育成という面がすっきりした形でおこなわれていないように思える。これまでの京都大学の歴史・伝統・特色（自由・独立の気風・創造性の尊重等）を考えると、一般教養などではなく、大学院・大学的な方向に進み、学術・研究とビジネス・行政の両部門において国際的時代を意識した教育人

材育成を推進すべきである。(経, 50歳代, 男)
◆自己責任に裏付けされた自由の学風は、是非守り育ててほしい。(経, 50歳代, 男)
◆自由(自学自習)の重視は結構だが、勉強の方向を示して勉強もさせるべきである。(多くの事を教えよということではなく、方向を示して勉強させよということ)・(文科学)1、2年の間から専門科目を教えるべきである。3、4年の2年間では専門科目を学ぶに充分ではない。・(教養科目)多く教える必要はなく深く勉強させるべきである。数少なく、そのかわり専門的な高度な事をじっくり教えるべきである。(それを通して、学問とは何かや学問の研究方法について思考させるべきである。)・(英語)高校までと同じ勉強の仕方では意味がない。実用的なあるいは実践的な授業にすべきである。(実用的なものでよい。高校までと同じ勉強をさせても仕方ない。)(経, 50歳代, 男)
◆自由活達な学風で大変良かった様に思う。一方、どんどん一定水準に到達しない学生については落すべきではないか。(経, 50歳代, 男)
◆経済学部は勉強をせずとも卒業出来たが、余り縛られず自由に人生のことを考えられた。世の中に出てすぐに役立つ実学的なものを詰め込むより(どうせ嫌でもそうなるのだから)、その方がよいと思う。(経, 50歳代, 男)
◆人文科学系の教養を相当高度なレベルまで教えるべき。(経, 50歳代, 男)
◆自分は、大学時代チャランポランにやってきたので、大きいことはいえないが、現代の大学教育は、国際競争にさらされてきているといえる。日本の大学で、あき足りなければ米国の大学に行くであろう。そういう点で、日本の大学は、「ぬるま湯」ではなかったか。①大学の教授、教官に対して、業績評価を、厳格に行い、業績を上げていない教官は降格させる②他大学、実業界より優秀な教官を招ヘイする。③学生に対しては、出席試験を厳格に行い、米国の大学と同様に卒業することをむつかしくさせる。④実業界との交流を活発化し、大学院にOBが再入学できるようにする。(経, 50歳代, 男)
◆世間にもっと密着した実践的なもの。時代に対応した、またタイムリーな内容の充実。(経, 50歳代, 男)
◆大変むずかしいですが20年30年先に何が役に立つかはわからないので、運命にまかせつつ、できるだけ、各人の自由度を確保することだと思います。(経, 50歳代, 男)
◆1. 2年間の教養部(現在それに準じたものがあるのでしょうか)は充分な内容とはいえませんでした。むしろ最初から専門学部で良いのではないでしょうか。その中で、多少の一般教養的な項目が入れば充分と思います。 2. 語学については、高校教育との関連も含まれますが、余りにも凝った難解な語学は、全国的に、1年20～30人のスタッフで充分と思います。それよりも、日常の会話、読物が可能な外国語を1人3～4つマスターさせるのが、実践的と思います。例えば、A君は、英、仏、独、露、B君は仏、独、中国語等。 3.「面白学問」的なチャンスを、放送。地方にもっと広げるべきでしょう。 4. 当時は批判的でしたが、やはり産学協同は絶対に必要です。社会とのつながりのない学問では長続きしないと思います。(経, 50歳代, 男)
◆①産学交流をもっとやってほしい。 ②社会人講座の開講は？(経, 50歳代, 男)
◆私の在学中(S. 38－42)の経験では、教養部でのとくに語学教育は高校の延長で殆んど意味がなかった。又、経済学科に進んだものの、経営学科的な時事的な分野も併せて修得しておくことが、卒業時の国家公務員試験などで必要であったと思います。理論、伝統は十分に保持しつつも、一面では現実の世界にも常に接点をもつような、カリキュラムを構成することが必要ではないでしょうか。(経, 50歳代, 男)
◆(40年近く前のことですが)経済学部では特定政党のシンパ的言動の目立つ教授、助教授が少なからずいましたが、その後はどのような状況になったのでしょうか。教員の選考は、①京大出身者は少なくとも他大学、外国の経験を経たこと、②第三者の評価を経ていること、を条件にすることが必要かと思います。(経, 50歳代, 男)
◆フィールドワークをするチャンスがあれば良かったのに、と思う。(経, 50歳代, 男)
◆現在の受験勉強を経て来た学生の多くは、記憶力が一定水準以上というのみで、このままでは本来あるべき大学教育に値しないと思われる。この固まった頭をもみほぐし、何事にも疑問を持ち、解決方針を自分で考えていく姿勢を、大学時代に身に付けさせる為に、少人数によるゼミや、演習の機会等をより充実させるべきと思う。(経, 50歳代, 男)
◆学生時代の良き思い出として残っているのは、教養部時代の宿泊研修です。22回参加しました。教官数名と学生20名前後が、中型バスで名所旧跡・工場・大学付属施設などの見学旅行に出かけ、宿泊先の国民宿舎や、宿坊・ユースホステルなどで夕食後、フリーディスカッションを行うものです。受講していない様々な教科の教官や、全国各地から来ている他学部の学生と知り合え、話を聞く事ができて、とても有意義でした。講義で印象に残っているのは、教養部時代の「生活科学」です。いろいろな分野の教官が、入れ替わりで自然科学系の各種テーマについて話をするもので、知識が拡がる感じがして、大変興味深く聞けました。(経, 50歳代, 男)
◆大学は自由or創造性の場であるとは思うが、教育内容が教授の恣意に任されすぎと思う。ある程度の基準、基本が教育内容にあるべきだ。(経, 50歳代, 男)
◆基礎研究も大事で、大きな成果をあげておられると思うが、実学＝企業との連携を意識した部分などについても、強化が必要。例えば、ビジネススクール、MBAコースの開設、学部の専門科目の中に、実務的な科目をもっと増やすなど。理科系だと共同研究、企業化のための支援、etc。(経, 50歳代, 男)
◆(私自身は学生時代に不勉強でしたので、アンケートにお答えできる資格はないと思いますが)会社に就職して感じましたのは、京大卒は、1. 独創性で存在感がある。2. 実践面では他大学に比べ弱い気がする。3. 社会ですぐに役立つよう、外国語教育が必要と思います。(経, 50歳代, 男)
◆1. 有力な外国人講師の招聘 2. 欧米系諸大学との交流の活性化(最先端の研究・学説に触れる機会の拡大) 3. 学内派閥にとらわれぬ教育者の育成(経, 50歳代, 男)

◆問1～問10に関する回答は以上の通り。 大学時代の授業等により得た知識等が実社会におけるビジネス活動に直接的に役立っているか、との観点からは否定的である。 しかし、それは入学時、または、学生時代を経る過程で「目標設定がきちんとしていたか、または、確立できたか」に依存するところが大きい。 私の場合、その点では「目標探しに終始し、探しきれなかった」との感を否めず、回答としては自ずから上記のようになる。 しかし、仮にそうした形ではあっても、それでよかったと評価している。「人格形成も、学生生活を送る上でのひとつの意義」であると考えれば、私の場合、「京都で4年間学生生活を送った」意義はまさにそこにある。その意味で、京都での4年間は「私の内面で、大きな意味を持っている」ということである。 学生が大学に対し期待するものは多様である。また、社会が大学に期待するところも多様である。 しかし、特に企業社会ということを想定する場合に、社会が大学に期待するところは産学連携、企業体が直接的に受容可能な技術力等を社会的技術として社会に還元するということになると思われる。 従って、大学の側としても、「学生要求の多様性」同時に「社会要請の多様性」の二つの側面があることを考慮し、その二つの側面を「京都大学の今後の教育戦略に取り込む」ことが必要であると考える。 また、米国のいろいろな大学が、ベンチャー企業を多く排出し、現に社会的機能を果たしていることに鑑みることが必要である。 現在、経済学部の教授が「ベンチャー企業を念頭においた諸活動」を行っているが、そうした取り組みも含め多様性を追求する必要がある。 また、学内の研究者の知的財産権等の「対価を得る形での社会への還元ということ」も追求する必要がある。 いずれにしても、大学が取り入れる必要のある教育手法、また、社会との係わり方、学生に対する対応の仕方、欧米の大学の在り方等、種々の面を「京都大学としての戦略的な教育プログラム」の中に取り入れることが必要と考える。（経, 50歳代, 男）

◆外国を含む他の大学との交流をもっと活発にしてもらいたい。 単位修得の範囲を思い切って広げ、自分の考え方をモノにした場合の評価を高くしてもらいたい。 保護者の年間所得に応じた特待制度の充実を望む。 （経, 50歳代）

◆演習の充実：実践的外国語教育（英・独語とも90点以上を取るほどに勉強したつもりであるが、余り役立ったとはいえない）。（経, 60歳以上, 男）

◆私は学部在学中に英独仏の経済書購読を履修した。独仏語についてはサラリーマン生活でこれを生かせる機会はなかったが、英語を使う機会が多かった。退職した今、独語を改めて勉強している。大学に感謝します。現在の大学教育は国民の知的レベル・教養を高める役目を軽視しているのではないか。月刊誌の論文は、テレビのワイドショー的内容で知的興味の沸くものは少ない。実践面重視の世相に迎合してはいないか。例えば娘の勤務する保険会社では、TOEIC950点の新入社員は契約書英文を和訳できない。私の学生時代のような難解な文学をやらせ、外国語を嫌悪させる機会を作るのではなく、新聞や雑誌を楽に読める力と習慣を養う必要がある。独語教科書Themen nenは内容が優れている。（経, 60歳以上, 男）

◆学生を信頼し、勉強を強要することもなく、自主性を大切にする点は、大変良かった。どの先生にも良い意味での批判的姿勢が感じられて高校までの勉強と比べ、大変驚かされ、強い刺激になった。（一種のカルチャーショックを感じたものだ。）（経, 60歳以上, 男）

◆とりわけ、自由の学風をいつまでも失わないで下さい。東大よりも優れているのはこの点においてです。私の他にも、会社定年後、学士再入学者がおります。（いづれもドイツ文学科）。この事に対して、厚く感謝致しております。（経, 60歳以上, 男）

理学部・理学研究科

◆【外国語教育（問5）について】以下では、私の教養時の授業（九十年代初め）を思い出して書いているので、今の授業形態とは違うだろうし、また記憶違いもあるかもしれない。率直に言うと、私は、大学での自分の受けた外国語教育（特に二回生配当分）に不満を持っている。私は英語と仏語の履修者であり、二回生時に「外書購読」を主にとった。その授業は、いずれも次のように進んだ。出席をとる・学生が訳す（教官によっては前の授業時に次回に訳す人を決めておく）それから教官が後コメントする、ただし。教官が板書したり、資料を配ることは非常に稀である。こうやって、一年歩かけて比較的分量の少ない本を一冊、あるいは二冊読む、学生は、自分が訳すのではない限り、ただ授業に出席して人が話しているのを聞くだけである。私はこのような授業が面白くなかった。（私がとった授業だけが、たまたまこういう進め方だったのだろうか？）また、二回生の初めに履修したい講義の希望を提出したように記憶している。希望講義に人気が集中した場合は抽選だったと思う。一方で、特に英語の授業で（英文の読み方の流暢さなどで）感じたのだが、同じ講義を受けている人の英語力には大きなばらつきがあった。《英語について》英語は今や単にアメリカやイギリスなどの国語というだけでなく、世界の人々のコミュニケーションの言葉となりつつある。確かに、英米文学や英語圏の文化を知ることも大切だろう。しかし、コミュニケーションの道具としての英語が身につけられる講義を提供してもよいのではないだろうか。英語会話として提供しているというかもしれない。しかし、少なくとも私の受講した英語会話はそのようなものではなかった。そこでは、発音の規則（英単語でストレスのない部分はあいまい母音化されるとかelisionなど）を習うのが主であった。個人的には、テーマを決めて英語で発表し議論する授業とか、あるいは作文の授業（narrative style, comparison and contrast, cause and effectなどいろいろなタイプ・構成で英文を書いて添削してもらう、あるいはテクニカル・ライティングみたいな）など、intensive courseがあっても良いと思う。もちろん、同じ程度の英語力の学生を選ぶために、placement testを行う必要があるかもしれない。（←今の状況は知らないので、とんちんかんなことを書いている？）私は、京都大学は余り職業訓練的になるべきではないと思うので、例えば大学ではTOEFL対策講座などを提供しない方がよいと思う。しかし、英語がコミュニケーションの道具として重要なことも事実だから、上の段落で述べたようなことを意欲のある学生（理系・文系を問わず）に提供してもよいのではないか。《第二外国語について》以下では仏語の二回生配当科目について書く。確かに私が受けた時のように、一人の作家による一冊の本を深く読むというのも一つの考えだと思う。ただそのときには、授業の仕方を工夫してほしいと思う。文中の文法・語彙を説明したプリントや、作家や本に関する社会的・文学的な背景なども図版も付けて説明したプリントを作成して配布すればよいと思うし、学生が授業に積極的に参加できる

(つまりただ聞いているだけでない) 方法を考える必要があると思う。(←今の状況は知らないので、とんちんかんなことを書いている？) 他には、何人かの作家を取り上げて比較すれば面白そうに思うし (例えば、現代作家をテーマにして、Toussaint, Le Clezio, Ernaux, Sarraute, Kristofなどの作家の文章を読んでいくとか、そしてToussaintの多くの作品やLe CleziooのMONDOは映画化されているのでそれを見るとか)、あるいは、一つの都市・地方を取り上げてその歴史や現在を学ぶ (例えば、プロヴァンス地方を取りあげて、図版によって景勝巡りをしたりする) のも面白そうに思える。(←二回生配当科目でどういう講義があったか忘れてしまっているので、こういう講義もあったかもしれない、そのときはご寛容に、) フランス語履修の意義に何が考えられるだろうか、フランス文学や文化への誘いだろうか、コミュニケーションの道具だろうか。(例えば、中国語なら、コミュニケーションの道具としてとろうとする学生もいると思う。) 最近、東京大学出版会から教育課程のフランス語教材Passageが出版された。そこでは、「フランス語を通して世界をみる」という理念で様々な文章が採りあげられている。京都大学では、第二外国語履修の意義について議論が重ねられているのだろうか？以上。(理, 20歳代, 男)

◆・学部教育：1、2回生の一般教育の充実を願う。(語学：会話中心の実践的な教育割合の増加　その他：内容の充実、出席の強要、レポート提出回数の増加) 同時に、可能であれば、必要単位数を削減して、少数の分野 (専門教育とは異なる) をよりしっかり学ぶようにすべき。・大学院教育：より広い知識の習得、異分野との交流、機会をより得られるようにすべき ①講義・演習内容の充実。②学部→院、もしくは院前期→後期課程での研究室変更の義務付け。③複数の研究室への同時所属を原則とする。(理, 30歳代, 男)

◆一般教養科目の講義では前半と後半でイメージが変わるものが多かったように思える。(理, 30歳代, 男)

◆昔からの自由な学風を大事にしてほしい。必修科目は従来通り最小限にして、学生の自主判断による選択科目を多くしてほしい。昔に比べ学生間の縦のつながりが弱くなっているため、学生が何かを身に付けたいと考えても、そのために何をすべきかが分かっていないことが多い。そこで低学年セミナーなどを強化し、教官が学生に道筋を示す機会を増やす必要があると考える (本来は先輩から後輩に自主ゼミなどを通じて伝えられるべきものではあるのだが)。(理, 30歳代, 男)

◆研究者として一人立ちする人を全体の基準においているような風潮が (当時は) あったがしかし、実際にはそういう人はひと握りなので、大半はとりこぼしていたような気がする。大学院をやめて一歩引いて見たときの感想としては「もう少し面倒を見てもいいんでは」(教養課程の話です。大学院では非常によく面倒を見てもらい感謝しています。そのわりに教養課程の関連科目の内容が、散発的で専門へ向けての「興味の引き出し」「問題点の喚起」といった機能を十分果たしてなかったように思える。もちろんその分野へ進む人以外も受講する講座なので、多少の手かげんは必要と思うが、「手かげん」というよりは「やりっぱなし」で他との連携を考えていないような印象を受けた。) という気持が強かった。((問18のスペースにつづく)) (理, 30歳代, 男)

◆数学系を卒業した者ですが、私は、自分の受けた教育が一番良かったと思いました。三回生からの演義や講究で学問の厳しさと面白さを学べたことがとても有難いことであったと、今でも思います。講義の方は、残念ながら、私の理解できる速さをはるかに超えていたので、余り出席はしませんでした。今から思うと細部までこだわって、話しの流れを見失うことが多かったので、もう少し、大局的に理解するようにしていたらよかったなと後悔しています。後輩等の話をきくと、数学教室での演習の授業も随分様変りしたようで、少々残念です。学生の気質も変化したのでそれに対する対応なのでしょうが、あえて、従来の形態でも良かったのではないかと思います。(理, 30歳代, 男)

◆学生の教育にある程度の配慮は必要なものの、京都大学のポジションを考えると、大学院教育をより充実させ研究を通した教育に重点をおくべき。また教官の側に教育面を軽視するきらいがあるので改善すべきである。(理, 30歳代, 男)

◆自由は感じはいいが、それがいき過ぎて放任的な感じとなっているような気がする。大学とはいえ基礎的な学力は、少し強制的にでも身につけるようにさせるべきだと思う。例えば、宿題を出すとか、小テストを行うなどである。そういった地道なことを行った上で、より高いレベルの学問をできる環境を提供すればよいと思う。(理, 30歳代, 男)

◆世間では、大学の独法化が話題となっているが、独法化にこだわりすぎた教育に偏らない事を希望します。京大がこれまで築き上げた、基礎研究を重視した風土も残してもらいたい。勿論、独法化は合致した教育もおおいに進めてもらいたいですが。(理, 30歳代, 男)

◆研究活動が心の余裕を十分に持たず、あわただしく追われてやっている気がする。どうだろうか。(理, 30歳代, 男)

◆・自主性を重んじる校風はすばらしいと思います。ただし、教養課程の科目のうち専門科目に通じるものや語学については、一定のレベルをきちんと修得させる配慮が必要だと思います。・その他の科目や専門過程については、昔(15年以上前)と同様。科目選択、力の入れ具合ともに学生個人の判断を尊重したものであってほしいと思います。(理, 30歳代, 女)

◆・悪い点・学生の初歩的な質問に対し、教育者として、半人前の学生をどのように育てていくのか、ということを考えて、解答していないし、啓発していない。・学生や研究者の就職活動に全く親切でないし、責任を果たしていない。改善すべき点：・学生は誰でも、研究のキャリアも人生経験も半人前である。だから、教育者として、学生をどのように育てていくのかを考えて、たとえ初歩的な質問でも手取り足取り教えてあげてほしい。学生は、普通は自信がないし、最前線の研究を知らないのだから、彼らのヤル気をなくすような発言や行動は慎んでほしい。(理, 30歳代, 男)

◆視野の広い人材を育てるためには、幅広い教養を身につける必要がある。まっとうな人間関係を作り上げることができることも大切だ。(理, 30歳代, 男)

◆自由な学風は良いのですが、もう少し勉強をさせるような機構を作ることが必要かと感じます。関東の大学の卒業生に比べると基礎的な学力を付けていないのではと感じられます。創造性などには評価できると思います。(理, 30歳代, 男)

◆学部在籍時から各研究室の研究内容が見えると良かったと思う。(理, 30歳代, 男)

◆卒業してから時間がたち過ぎて現状が分からないので、何とも言えません。(理, 40歳代, 男)

◆ノートを取るに精一杯で理解できない講義がかなりあった。本当に理解させるつもりがあったのか。教えることにももっと研究を。（理，40歳代，男）

◆今のままで（自由）よいと思いますが、私の頃と今の学生たちでは気風が違うかも。（理，40歳代，男）

◆理学部数学に限り、私にとっては必要かつ十分でした。（理，40歳代，男）

◆（自然科学の分野で）企業は基礎研究から撤退を続け、産業の基本部分の空洞化が進んでいます。国立大学も法人化のプレッシャーがかかっていますが、企業ではリスクが大きく手を出せないような基礎研究を進めてほしい。ただし、内容が一人よがりにならないように、産学共同体制をとることも必要。とは言え、産業界から遠い分野（宇宙物理や素粒子のような）も大事にしてほしい。安易に時代の流れに沿ってほしくはない。（理，40歳代，男）

◆個々の教育内容よりも自分の頭で考える習慣をつける場、友人関係を作る場としての意味の方が私にとっては大きかった。今後もそうあるべきと思う。（理，40歳代，男）

◆・外国語教育は、もっと実践的な方が良い（たとえばdrafting、会議英語、論文etc.）リーダーは不要。・専門教育は、あり余る能力のある学生には当時のままで良いだろうが、やや要求水準が高すぎる（自然科学系）。・・・・当時の話だが。・自然科学系は6年制と考え、その枠のなかでもう少し効果的な教育体系に組み替えていってはどうか。（理，40歳代，男）

◆コメントはありません。（私は学生時代、うまく、あるいは良く教育カリキュラムを利用したとは言えません。コメントする資格はありません。）（理，40歳代，男）

◆卒業生にとっても、開かれた大学としての方向を持っておられることは存じておりますが、昨今の学界の動向などを公開シンポのような形で、一層紹介していって下さると有り難く思います。また、大学出版会の出版物を、より啓蒙的なものにも拡充して下さることを望みます。（大学外のことでしょうが。）（理，40歳代，男）

◆専門以外の他の学部に関する学問を知る、という意味において、教養学部的な授業は意味があると思う。最初から専門ばっかりにしてしまうと、他の知識を吸収する機会をなくし、幅の狭い人間になってしまったり、自分の進路を考え直す機会をなくしてしまう。（理，40歳代，男）

◆昔は教養部があり、様々な学問に触れることができて、良かったと思っています。寄道かも知れませんが、私の場合、教養で独語とフランス語（ロシア語）を学習して面白かった。3回生になったので、専門の方が忙しくなり、学習はそこで終わりました。（独語は1，2回生でフランス語、ロシア語は2回生で勉強しました。）（理，40歳代，男）

◆私が現在住んでいる地方では、京都大学がいかに改革を進めているかを知る機会がない。東京大学が危機感を持って改革を進めているのはマスコミの情報やホームページ等、また、学内の研究者の発言から知ることができる。大衆に媚びを売る必要は決してないが、知りたい情報（教育内容等の）を社会人、または京都大学に進学を希望する高校生の目に触れるような機会を設けることは必要なことと思われる。かつて、教養部があったが、現在、1,2回生がどのようなカリキュラムのもとに、勉強しているのか全く知らないので、改善策に当たるかわからないが、私見を述べたい。理系の学生は社会科学系・人文科学系の教養（「哲学」「倫理学」等）を身に付けておくべきであり、文系の学生は自然科学系（特に、「物理」「化学」の基本とそのクロスする部分）を身につけておくべきである。専門教育を急ぐ余り、人間としての土台が軟弱では、社会に有用な人間にはなれない。「教養」（かつて、「教養」と呼ばれたものは、旧制高校－帝大に進学する者には、家庭環境からも、旧制高校での講義からも身につけて当然のものであったはずだ）を身につけてこそ、見えるものがある。地方の国立大は、そういう「教養（含む第二外国語）」を切り捨てている。京都大学はそうすべきではない。社会の上に立つ人間を輩出しようとするならば、教養教育を切り捨てるべきではない。（理，40歳代，女）

◆日本社会も、ようやく価値観が多様化して、人間の能力を推し量る物差しが多種多様になってきています。欧米では、如何に自分は他人と違うか、違うことができるかということを尊重するように幼い頃からしつけられたり、教育されてきている。個人間で価値観が多種多様に異なるのは当たり前という社会であり、それを前提に社会が築かれています。様々な価値観を持った人間が共存できる社会があって、その中でお互いに競争したり、協力することで、より優れた新しい価値が産み出されていくものでしょう。暗記中心の試験問題（価値観）だけで人間の能力をすべて一律に推し量るような制度の下で教育を行うようなことは、日本（および一部の東アジア）だけで行われているいびつな制度ではないでしょうか。たった一つの価値観（尺度）でしか人間の価値が判断されないというのであれば、その尺度から外れた人間は生きていく上で立つ瀬がないではないですか。様々な能力を持った学生にも門戸を開くという意味では、ＡＯ入試は、これから拡がってよい制度と思います。学生は老若男女、国籍を問わず、広く受け入れてほしいと思います。教官についても同様です。（理，40歳代，男）

◆特に改善の必要はないと思います。今のままでいいのではないですか。（理，40歳代，男）

◆「自由の学風」や「学生の資質」に甘んじて、教育が手薄な気がする（1970年代のこと）。自分自身の反省でもあるが、理学部の場合などとくに、ろくな勉強もせずに楽々と卒業できてしまう。その結果、私自身は、本来専門科目のはずの化学でさえ、会社に入ってから相当勉強せざるを得なかったのが実状である。（理，40歳代，男）

◆よく言われるように、自由なところが良い。学部によるとは思うが、余り勉強しなくとも卒業できる。これは、教授陣や学生のレベルが低いことを意味しているのではもちろんない。矯正されなくとも、非常に高いものを目指している学生がおり、教授陣は充分にそれに答えている。一方、勉強を余りしない学生たち（私もその一人であったが）は良い意味でほっておかれる。これは、実社会の姿、あるいはあるべき姿にかなり近い。個人の自主性を育てるには理想的なシステムであろう。（理，40歳代，男）

◆学生自身に考えさせよ。知識は所詮廃れる。通用するものは研究（課題）への興味、研究のやり方。これらは研究の対象が変わっても社会でも通用する。これらを学生に教えよ。（理，50歳代，男）

◆どの世界に進むにしろ、大学時代に身に付けておくことは、①基本事項の把握②論理の組み立て、の2項目と思う。あとは社

会へ出てからでも修行できる。コノ2項目を重視するような内容にすべきである。また教授の終身身分保障は絶対廃止すべき。競争原理が働かない。(理, 50歳代, 男)

◆かつての大学(S42年卒)は教えようとはしなかった。先輩としての経験を学問の1パターンを教官が披露していた。一方、米国や東大は必死で記憶させようとした。現在の京大はその良さをほぼ失っている。(理, 50歳代, 男)

◆教養科目に海外留学の科目を設置する。例えば1回生、または2回生で海外留学したとき、そこで履修した科目については単位を与える。米国で化学の単位を取ったときは、英語と化学の単位を修得したと見なす。もちろん、大学と学部は京大が決めた大学とする。(理, 50歳代, 男)

◆京大以外の外部講師を多く導入するのがよい(マンネリ化の防止)。(理, 50歳代, 男)

◆学生の自由にまかせすぎている面もあるようなので、少々強制を伴う教育があってもよいのでは？(理, 50歳代, 男)

◆・30年前の理学部で、全く自由単位制のもとにいましたが、やる気のある学生には、大変都合がいいのですが、やる気のない学生に対しては、つめたすぎるのではないかと思います。・30年前の一般教養の講義は一部をのぞきひどいものでした。・最近は可能になっているかもしれませんが、学部の段階で付置研究所(宇治など)で、研究ができるだろうと思っていました。(理, 50歳代, 男)

◆・自由の学風は是。・実践的教育も見える形に。自由と実践を2つの柱に。(理, 50歳代, 男)

◆理学研究科の教育は自由で、しかも研究に焦点が合っていて良いと思う。(理, 50歳代, 男)

◆教育(講義、ゼミ、卒研、修論、博士論文)が余りにもずさんです。これまでの京大の研究は優秀な学生に支えられてきたものと思われますが、今後は教育が重要であると思います。現在はどうか知りませんが昔はいい加減な時間に来てたばこをふかしながら講義をする教官がいました。また、そのような姿勢がカッコよく見えるといった雰囲気がありました。休講が2回に1回くらいの割合の講義も多かったように思います。今後は1年30回の講義時間を厳守して、休講の場合は補講すべきであると思います。(理, 50歳代, 男)

◆とにかく、あの時代は勉学より、大管法、全共闘の時代であった。勉強より学ぶ物は多かった。この年令になってやっと"東大をつぶせ"という意味が判った。社会と学生のつながりを学ぶようにしてほしい。(理, 50歳代, 男)

◆原理・原則を大事にする基本的考え方を教育してほしい。観察する眼と考える頭脳が大切。(理, 50歳代, 男)

◆私の経験では、京大は、研究中心で学生の教育はそれほど熱心ではなかったように思えた。今は、少子化で過保護の状態で成長してきた学生の割合が多いようなので、ある程度かみくだいた教育を実行しなければメリットよりデメリットのほうが大きいと思われる。(理, 50歳代, 男)

◆卒業後30年近くとなり、今となっては直接的に教授頂いた内容よりも、先生方の人となり、学問へのかかわり方、哲学に学ぶ所が大きかったように感じます。大学の在り方、求められるものは、時、時代と共に多様に変化すべきものとは思いますが、形態、社会とのかかわり方によらず、全人的なふれ合いの中から、生きたものが生まれる場であってほしい、と願います。(理, 50歳代, 男)

◆1年次にもゼミ形式の授業があったらよいと思います。(それに近いのが、選択科目としてあったような気がしますが。)主体性・目的意識のなさは私自信の責任ですが、私のような学生も少なくないと思います。1回生の時にゼミ形式で教官と接触する機会があればもっと展望を持って勉学できたのでは、と思います。(理, 50歳代, 男)

◆学生時代は「やらんかな」という意欲に満ちた友人に数多く巡り会えたことがもっとも刺激的であり啓発を受けた。教養部の頃、学生の自主ゼミに、先生につきあってもらい指導を受けたことは、その後の研究に非常にプラスになった。いろいろな意味でのポテンシャルの高い学生、教官が京都の町に集まり、様々な接触交流の場を提供することが大学の重要な役割であると思う。必ずしも組織だった教育研究がその方向に有効とは限らない。(理, 50歳代, 男)

◆私にとって最も役に立っている教育は「先生との1対1の議論」でした。マス教育は知識を得ることができても「考える力」を得ることはできません。京都大学に「いい先生が沢山いる」ことが最も大切なことだと思います。(理, 50歳代, 男)

◆人間形成の場として、寮(自治寮からある程度管理型まで幅広く、また留学生との同居を含めた国際型まで広く含む)を充実した方がよい。考え方に幅と自由度を持たせるため5. 6. 7問項目をさらに充実した方が良い。(理, 50歳代, 男)

◆我々の頃の大学生活は、もっぱら学生個人の主体性にまかせ、自分で自分の道を切り開く風潮がまだまだ色濃く残っていたように考える。今、昨今の学生を新入社員として迎える立場にいると、多分かつてなら信じられない位の細部にわたる指導教育が必要であると実感される。そのような背景の下では、ひとり京都大学だけが学生個人の自主性と主体的な活動にのみ任せておくことは不可能で、今の時代に即した京都大としての特徴を有するカリキュラム、指導理念、システムの再構築が重要と考えられる。(理, 50歳代, 男)

◆徒らに時代や時の権力におもねず、基本的なことがらをしっかりと教育することが大切である。各専門家であると同時に、社会人としての常識を備えた人間に育てるための教育、個性を伸ばすための教育が肝要と思われる。(理, 50歳代, 男)

◆若い時代には、目と頭と汗の3つをうまく組み合わせた教育をしてほしい。スポーツ、実習の更なる充実が必要(青白き評論家タイプはいらない？)。(理, 50歳代, 男)

◆小生在学中のように、自由放任がよい。(理, 50歳代, 男)

◆進学校、あるいは 大学入学予備校指導教官による アンケートでは、生徒に進学を勧める大学のトップが本学との事。 良く東大と比較されるが、今回のノーベル賞受賞を見ても、本学は学問にジックリ取り込む所謂「骨太」な学問、及び自由闊達な教育の雰囲気を見てトップになっているのだろう。 今後共、世間に阿く東大的なチャラチャラした教育では無く、更に「骨太」な処を伝えてほしい。 以上は理系であるが、文系、特に法学部においては「司法試験」、「国家公務員試験」等の合格数でも、

東大を脅かす立場に立ってほしい。 (理, 50歳代, 男)

◆私は理学部卒業ですが、専門そのものとして、就職したことはありません。でも、現在の仕事(直訳・翻訳業)にとって、京大の学生生活で得たものはとても大きいです。そして、私の誇りともなっています。60年代の京大は(湯川秀樹先生に憧れて入学しただけあって)すべてがよかった。先生方も真の教育者だったと思います。反論自由の伝統といわれた学内の雰囲気もよかった。東大とちがって官僚ではなく、在野の優れた人材を育てるといった考え方もよかった。京都大学らしさをいつまでも失わないでほしいと思うのは私のノスタルジーでしょうか? (理, 60歳以上, 女)

医学部・医学研究科

◆学生の自由な発想を幅広く受け入れられる自由度の高い教育を続けてほしいと思います。講義が分かりにくいという批判は以前からありましたが、講義に頼らず、必要なことは自分で勉強するという姿勢が、京大生にはあってしかるべきで、学生が講義を評価するという形で善し悪しを判断する最近の傾向はどんなものかと思います。もちろんずっと以前からの講義を繰り返すだけで、新しい研究成果の紹介などもない退屈な講義も多々あるのも事実だろうと思いますが・・・(医, 30歳代, 男)

◆教科書を読むのと講義を聴くのと大差がないので、特に授業が必要とは思えなかった。(医, 30歳代, 男)

◆京都大学の学風は「自由」であると信じています。能力のある人物を集め、気ままにさせれば、いづれ存分に発揮する人も出てきます(脱落していく人も多数おられるでしょうが)。画一的な講義は、いかがなものかと思う。教養部はまだ学生の人間的育成のためには必須のものであったと信じ、廃止は非常に悲しい。(医, 30歳代, 男)

◆今となっては教養部の授業にも熱心に出席するべきであったと後悔している。大学入試で燃え尽きてしまったことも原因と思われる。ただ、授業内容にも学生を引きつける「何か」が足らないと思えた。これは、専門課程にもいえることだが。(医, 30歳代, 男)

◆私の在学中、単位を取っていないと留年させる傾向が強化されましたが、これは学生が昔と比べて勉強しないからでしょうか。余り締め付けても京大の求める創造性は身に付かないと思うのですが。(医, 30歳代, 男)

◆やはり学生・教官ともにやる気のない教養の授業が目立った。体育は楽しかった。語学も熱心に教えて頂いた。専門の講義はすべて出席した。大学院の講義は意味がない。(医, 30歳代, 男)

◆一般教養の位置づけを明確にすべきだと思います。私が教養部の頃は、受験勉強から開放され専門課程を進むまでの2年間を「会楽」に過ごすような雰囲気が周囲にありました。私自身、ボート部の活動に熱中し余り講義にも出席していませんでしたが。今となってみれば、自分の専門分野(医学)以外の、宗教や哲学、文学などが、自分を支えるバックボーンのようなものになっており、現在の仕事や人生において大きな影響力をもっているように思います。しかし、これらは残念ながら大学の教養で学んだものではなく、仕事をしていくうえで、様々な壁に直面した時に、自分で本を読んだり、講演を聞いたりして積み重ねていったものです。大学時代にこのような人文系をもって積極的に学んでおけばよかったと思っています。また、外国人と接するにあたり、自国の文化に対する深い理解が必要なことも、最近痛感しています。学生自身のモチベーションの問題もあると思いますが、大学としても一般教養が必要な理由を学生に十分説明し積極的に学べるような環境を作っていただきたいと希望します。(医, 30歳代, 男)

◆一般教養は非常に大切で、他の分野を学ぶ数少ない機会だと思います。大学院生も聴講できると良いと思います。専門を余り早く学ばせるのもどうかと思います。例えば米国ではほとんど4年かけて一般教養を学び、大学院にて日本での専門を学んでいるのですから。余りに早く学ばせるのは将来の幅を狭めることに継がるかと思います。(医, 30歳代, 男)

◆専門の講義は、各担当教員の専門(研究)のことが多く、一般(基礎)的なものではない。各教員の趣味の範囲のものばかりである。これでは学生も聴く気になれない。(医, 30歳代, 男)

◆学生の講義への出席率を上げるのに、講義の時間を減らして(中身は濃くして)はどうでしょうか。(医, 30歳代, 男)

◆研究者養成のための教育としては今でも充分機能していると思うが、医師養成という点で言えば全く不充分である。統一されたカリキュラム下でシステマティックに育てるという視点が欠けている。大学病院における研修医のトレーニングにしても、一応カリキュラムらしきものは作られているが、全く機能していない。研修医は最下位の労働者としての位置づけにあり、とても教育されているとは言い難い。通常二年を待たずして関連病院と称する所に追いやられ、まるで将棋のコマの様に扱われている。21世紀に入っても、法律的根拠のない"医局"が厳然として存在し続けることは全く耐え難いことである。教授一人に権限が集中しすぎることによる弊害はことあるごとに非難されているにもかかわらず、現状を変えようとする気配さえ感じられないのはなぜなのだろうか。(医, 30歳代, 男)

◆語学:外国人講師による実習等を増やして役に立つ実感をもてるようにしていただければと思います。 卒業生で、社会で働いている人の話などが聞けるチャンスが増えると、自ら学ぶ姿勢が増すのではないでしょうか。(医, 30歳代, 男)

◆教養科目; 高校までの学習内容と大学での、特に自然科学系教養科目講義内容にgapがありすぎ、特に専門分野以外での講義内容には興味がわかず、理解も困難であった。 学部科目; 自主性を重んじるのは良いが、教官が多忙のためか、講義に対する一貫性や工夫がなさすぎているように感じた。 なお、語学教育には、もっと熱心に取りくみ、指導をしてもらうことを期待する。(医, 30歳代, 男)

◆教養での担当教官への多数、専門での一部の教官に、10年前と同じ教材、同じ講義を繰り返す方がみられたように思います。そのような教官を教育から排除し、研究に専念して頂くしくみが必要と思います。現状では研究と教育が両立するとは思えません。(医, 30歳代, 男)

◆学生の自主性を重んじるところが本当によかったと思う。また、学生の興味があればそれに対応できる素晴らしい教官がおら

れたことも他に代えがたい。(医, 30歳代, 女)
◆学生が自由な校風のもと、学べる体制を今後も維持してほしい。大学教育が押しつけであってはならず、取得単位数の増加などは由々しき問題に感じる。特に自然科学系は自由な柔らかい発想を育てることが必要だと思う。(医, 30歳代, 男)
◆大学院の教育については、もう少し系統だった教育体制を確立させてほしいと思います(私は医学部大学院卒なので、他の学部については知りませんが)。4年のうち、少なくとも1年間はみっちりと講義などで、そのフィールドにおける現状、何が課題となっているのかなどにつき教育したほうがいいのではないかと思います。もっともこれは、私が劣等生であったせいかも知れませんが。利根川進氏も、立花隆氏との対談の中で指摘されていたことです。(医, 30歳代)
◆医学教育においては、人格形成の充実すなわち患者様の目線と同じくして医療スタッフと対等の立場でチームでの医療を展開できる素養を磨けるようにして頂きたい。 まず素直に『ごめんなさい』といえない妙なプライドが邪魔している研修医諸君をよく見かけます。人の痛みをどうすれば共感できるかを考えられる人間となってから医師としてスタートしてほしい。(医, 30歳代)
◆1. 私が在学中の頃は、未だ学生運動の余波が続きストライキの日々でしたが、その中でのいろいろな意見、人々との交流の方が大切であったと思います。 2. 京大らしい自由さが最近は少なくなったと聞きますが、放任とは違う自由をこれからも持ち続けてほしいと考えています。(医, 40歳代, 男)
◆外国語で講義する外国人講師がもっと多くなった方がいいと思う。専門分野では特に。学会出張ですぐに語学力が必要と感じた。英文のテキストで学習したが読めはするものの、講演したり質問したりする機会に語学力不足から臆することが多々あった。(医, 40歳代, 男)
◆即戦力を期待する。企業の要求に迎合することなく、真の一般教養と専門教育を追求してほしい。優秀な学生の資質に依存した「自主性・創造性」尊重は裏を返すと教育者側の「手抜き」に陥る危険性をはらむ。教育に熱心な教官の待遇・評価を高くする。広く教師を学外・国外にも求めること。(医, 40歳代, 男)
◆学生にやる気を向上させる潜在的能力があれば、学外活動に重点を置こうが、勉学に重点を置こうが関係ない。大学は学生に合わせてこちょこちょと方針を変更する必要などない。能なし学生は、それに呼応する力などないからである。受験技術しかないミニ東大生もどきを入学させないことが肝要である!!(医, 40歳代, 男)
◆最近、他大学では低い学生のレベルに合わせた授業や学生に媚びを売る授業が「学生のことをよく考えた」授業として評価される向きがあるように思えます(京大ではそのようになっていないことを願っています)。私も余りレベルの高い学生ではなかったので、学部の専門の授業で良く理解できかねることもありましたが、後から振り返ってみますと授業をして下さった先生の研究にかける情熱を非常に感じることが出来て、良い教育をしていただいたと感謝しています。大学の教育とはこうあるべきだと思います。(医, 40歳代, 女)
◆特に医学部での教育はほとんどの教官が講義することに熱意を感じていないように思われた。特に臨床系は講座の教官が少なすぎて無理もないとは思うが、教育者であるという自覚を余り持っておられないように感じた。医師(臨床医)になるに必要な教育とは何かを真剣に論議する必要があるのではないだろうか？私が学部で学んだのは診断学がほとんどだったと思う。しかし臨床では問診の取り方、患者の心理のとらえ方、患者(家族)への悪い知らせのうち明け方、チーム医療のリーダーとしての在り方などが極めて必要とされている。こういった教育が必要と思われる。(医, 40歳代, 男)
◆現在学生を講義する立場にあるが、講義への出席率が低い。実習中心のスタイルに変更していく必要があると感じる。(医, 40歳代, 男)
◆既にかなりの変更点があり、その評価については、まだできないと考えます。(医, 40歳代, 男)
◆当時大学(学部)の講義の出席率がとても悪く、悪天候の日には3－4人(学年120人)しかこないこともありました。もったいないと思います。出席率を上げる工夫を。学生の自主性に任せるというのもいいのですが何らかの規制も必要では？(出席をとるなど)(医, 40歳代, 女)
◆教養では非常に魅力的な教授陣の講義が聴けて、将来の目標とすべきレベルを見た様に思いました。高いレベルの講義はそれなりに有意義だと思います。一方、そうでない講義は自学自習で十分対応できると思います。むしろ議論を中心としたグループ学習を取り入れれば、知識だけでなく社会性や人間性を多少とも向上させることができ、又、独善的な思想や思い込みによる事故を減らす事につながると思います。(医, 40歳代, 男)
◆総合大学で自由度が高かったため、専門以外のことがいろいろ出来て良かった。(医, 40歳代, 男)
◆特に一般教養科目において、真の教育されているのか？講義のみで、しかし一方的にあたえられるものでしかない双方向でdiscussionするような講義を考えるべきでは？(医, 40歳代, 男)
◆気楽な学生生活でのんびりできました。のんびりしすぎたかもしれません。でも小説など自由に読めて楽しかったです。(医, 40歳代, 男)
◆入学生選抜の在り方を検討すべきだと思います。現在の入試制度では、選抜できるとは思えない。具体的には決定的なことは言える立場にはないが、現在の学力試験プラスその他の能力・技能・人格等の評価を加えて、総合点として選抜すべきと思う。そこには、厳密性、公平性は欠くが、いろいろな能力の寄り合い世帯が生まれ、互いに刺激し合ってより豊かな発想が生まれると思われる。(医, 50歳代, 男)
◆最新のことについてはよく分からない。当時は一方通行のものがほとんどであったように思う。自由さは感じていた。教官との接触を感じることは少なかったように思う。(医, 50歳代, 男)
◆ラッセル卿は哲学とは神学と科学の間を扱うと言われた。やっと今頃その意味が分かった。ともかく、ある程度までは自由にや

らせてみて、やれるようであればそれでよいし、とにかく科学的不合理なものはやめないといけない。それを分からせる必要がある。(医, 50歳代, 男)

◆卒後5年10年30年先に残る(役立たなくてよい。少しでも残れば)授業を真っ先にやってほしい。全教員の意識改革が最も重要と思われる。(医, 50歳代, 男)

◆今から考えるとたくさんの必修科目があり、試験が厳しく無理矢理勉強させられた科目が最も身に付いている。(医, 50歳代, 男)

◆自由にしてほしい。(医, 50歳代, 男)

◆教養の2年間は長すぎたと思う。1年でよい。専門は4年受けたが、もう1年あってもよかった。(医学部)学部の教授は教育職であるから、もう少していねいに学生に教えるべきである。研究を重視すぎていたように思う。大学院の教授ならば、それでもよいので、分けるべきであろう。(医, 50歳代, 女)

◆''62年度入学、'68年度卒業前半さまよい後半は例の学園闘争の嵐の中でした。いずれも、私の場合友人…すぐれた友人から学んだことがほとんどです。大学はその場を与えてくれた以上のものではありませんでした。大学そのものについては、私はほとんど語る資格がありませんが権力に負けないようにし、自分自身が権力に依存しないように願ってやみません(医, 50歳代, 男)

◆教員は教育に熱心であったと思うが、事務職が教育に協力的であったとは思えない。教員以外の意識を改革する必要がある。(医, 50歳代, 男)

◆現在の一般教養の内容について知識が不足しているので正しい意見は困難ですが、当時の教育については、1)専門以外(自然科学、人文の2大分野)の分野は単科大学に比し充実しており魅力的と考える。2)専門分野の教育の全体像をなるべく早く学生に示し、教養での専門分野教育を開始すべき、自然科学、人文科学の2大分野は専門分野と重なる分野については、軽減すべき。(医, 50歳代, 男)

◆特に医学部にあっては学生時代より臨床的な基礎訓練が必要。学生の自主性と重んじる学風ではあるが、具体的なプランを作製し、それにのっとって学外の関連病院の協力を仰ぐべき。臨床教授、助教授、講師といった姑息的な手段では、根本的に解決しない。(医, 50歳代, 男)

◆教養課程時代、語学、実習、体育等出欠をとる学科はできる限り出席した。一般教養科目は一年目で6科目選択し、心理学、論理学等殆んど落し、芸術学、世界史、古文と大学入試に近いものや、興味のあるものを選択して何とか2年間の6科目が終了した。古文の伊勢物語は、一つの章節について自由に意見や感想を学生に喋べらせ、先生がまとめるというユニークなもので、毎回楽しみの授業であった。力学の授業でわからなかった所があり、授業が終って、教壇に近ずき、教授に質問箇所を示しながら、顔をあげると、教授は背中を向け黒板を消していたので、びっくりして教室の外へ逃げていったのを憶えている。数学の授業で微分方程式のわからない所があり、職員室へききに行ったら答の書いた答案のコピーを渡され、皆に配っておく様に言われた。この2つの出来事から、授業の質問が出来なくなり、教授の前へ出ると緊張する様になり、口答試問はにが手の1つになった。専門課程では100名や200名相手の講義では最後列に坐ると、黒板や先生の声がどんな風に感じられるかを考えると、講義というものは50名ぐらいが限度ではないだろうか(医, 50歳代, 男)

◆私の在学中は学園紛争中で通常とは思っていたかもしれませんが、教科撰択(特に教養の時)基準になる資料やアドバイスが受けられなかった。一、二回体験講義を受けたり、その担当の先生の授業に対する思いを聞いてから撰択できる方がよかった。あるいは途中での変更もある程度認められるとありがたいと感じる時もあった。心理学等は紛争中であったからこそゆっくり少人数で学べて今も役立っていると思う。(医, 50歳代, 女)

◆医学部教育について、①講義以外の実習クラークシップへの努力が足りない。お座なりなポリクリになっていないだろうか。②講義中の遅刻がひどい。欠席多い。出入りの際の騒音飲食など目にあまる。 ③社会的マナー、身だしなみ、時間厳守などもう少し教えなければならない。 ④患者さんに対するマナー、など倫理的方面も教育が必要。(医, 50歳代, 男)

◆私達の頃は、教授以下の教員は教育に対して、全く、careをしてくれなかった。教員は自分達の研究が中心の生活であったので、学生も、実践的な能力(医学)は全く、身につかずに卒業した。最近は医学教育の改善が急務とされているが、この様な状態できたので指導する人材が育っていない。京都大学の場合は他大学よりもこの傾向がつよかったと思う。(医, 50歳代, 女)

◆従来の自由にみちた学風、創造性豊かな学風を尊重してほしい。権力におもねるようなことはしないでほしい。(医, 50歳代, 男)

◆伝統(戦前の反戦自由)を強調しすぎ、おぼれていたように思う。時代に合った、しっかりとした(肝のすわった)個人を育てて頂きたい。(医, 50歳代, 男)

◆最低限、英会話(ヒアリングを含めて)ができる様な教育は必要である。英文が書ける事も必要。(医, 50歳代, 男)

◆業績至上主義、paper至上主義はよくないと思います。(医学系)人の評価を教育、医療の面からも行う総合的なものにしていくことが望まれます。教育は、その視点にそったものにすべきです。(医, 50歳代, 男)

◆医学部では放任で、おかげでボートに専念できた。卒後医学研修はもっと責任ある指導が望ましい。臨床医学は一人ではなかなか身に付かず、我流になりやすい。(医, 50歳代, 男)

◆私は医学部を卒業しましたが、医師となり医業を開業しております。われわれの学部は、性質上、いろんな職業に就けない。そのため医業1本のいわゆる専門ばかというような立場ですがしかし友人、知人に京都大学の人々がおられるおかげで、大変人の輪が広がり、人生大変役立っております。(医, 50歳代, 男)

◆海外の一流大学（スタンフォード大学等）と、姉妹校提携をし、自由に受講できるようにしたらどうでしょうか？又、京都に立地してる特性を生かし、古典芸能（茶や能）などを授業の一部として取り入れてはどうでしょうか？（医，50歳代，男）

◆学生への伝達事項が掲示板のみでなされ、不親切だった。中学、高校の時のように、最低1人、クラス受け持ちの教官をおいて、そのクラスの支点となるべき存在がいてほしい、といつも感じていた。（医，50歳代，女）

◆現在どうなっているのかわかりませんが、私の学生時代の外国語教育は「読む」ことにかたよっていました。「聞く、話す」を重視すべきだと思います。（医，50歳代，女）

◆①入学基準（入試）は易しく卒業（各学年の教育レベルを上げて）を難しく。②他学部、他大学等で自由に単位取得、実験演習できるように。③教授、助教授の評価制（学生部門、教官部門等）により、教育者としての評価を行ない、例えば辞職勧告、配置転換等が行えるようにできればよい。④医学部に関して、教育者としての教授と臨床者としての教授があるべきで、例えば1人の外科の教授が両分野に長じていることを期待するのに無理があると思われる。（医，50歳代，男）

◆◎教官と学生相互に行う評価システムを構築する。◎他大学の講義を受講しても単位が取得できる。あるいはもっと積極的に講師を招請する。（医，50歳代，男）

◆卒後30数年経過しておりますので、現在の講義をはじめとする教育の細部はどの様な形態か分かりません。当時の記憶では、講義する者は必ずしもその方面の専門でなく、むしろ専門以外の部分の講義を担当させられていた（特に助教授で）ので、学生の質問にも答えられない事がよくあった様です。これは専門馬鹿にならない様にするための方策でもあったかも知れませんが、昨今の情報化時代では考えられない事ですが、講義する方も懸命になっていた様に思われます。時々非常勤講師として医学部の講義に出ますが、学生諸君は優秀ですが、縦割りのカリキュラムの中に多くの抜けている部分がある様ですので、カリキュラムの点検が必要でしょう。（医，60歳以上，男）

◆世間、世界の分かる教育が必要。（医，60歳以上）

薬学部・薬学研究科

◆一般教養はもっと役立つ講義をして欲しかった。英語なら会話と専門分野の論文の読解力とか。京大は本来学生が積極的に学ぶところで、教員はそれに応えればすんでいたけれど、最近の学生は受け身すぎていて、勉強させるように仕向けないといけないのが残念。京大でも教育のプロを育てないとならないか。いつまでも自由な研究だけやっていれば京大らしさが維持できるとはとうてい考えられない。（薬，20歳代，男）

◆国語力を高めるための教育が不足していると考える。（薬，20歳代，女）

◆英語など語学教育にもっとnative speakerと実際にcommunicationをすることが必要であると思います。hearingを重視したclassをもって増やすべきだと考えます。語学のなかで、hearingが最も苦手とする卒業生が多いように思うからです。（薬，20歳代，男）

◆学部教育における一般教育科目は、在学時ほとんど重要と思っていませんでしたがしかし、社会に出て痛感することは、専門的教養に加えて、一般教養の重要性です。つまり幅広い知識及び教養が高い水準の社会では必要となります。私は教養部における一般教育科目（特に自分の専門とはかけ離れた分野）の充実を望みます。そして単位修得を容易にしないでほしいと思います。（薬，30歳代，女）

◆・授業内容について：教授の方々は研究には熱心だと思われるが、教育には熱意を持っておられる方は少なかったように思える。勉強は自分でやるものであることは学生も充分承知しているが、もっと熱心に教えて下さる教授が多い方が良いと思う。・大学存在意義：学問を究めるための機関であることは否定しないが、卒業生の多くは社会で働くことになる。その点で社会の要請にすぐ応じられるような新社会人を養成するための部門が大学にあってもよいと思う（学生に選択させるのがよいと思う）。また、社会に出てから必要に応じて学べる場所となってほしいが（卒業した学部に関係なく）、社会人が必要としているような知識、技能と大学が現在提供できる教育とは隔たりがあるように思われる。（薬，30歳代，女）

◆医学部を卒業して医療品メーカに就職してみると、薬剤師国家試験の出題範囲はどれも大変重要であることに気付いた。薬学部では、もう少し体系的に薬剤師養成のための教育を行った方がよいように思います。一般教養は各学部の専門教育に必要な基礎のみでよいように思います。薬学部では、SASを利用した統計演習、英語の論文作法、数学・物理学・化学の基礎等です。また、将来研究者として必要なプレゼンテーション演習なども加えるとよいように思います。薬学研究科は、医学研究科ほど病気に密接な研究をするわけでもなく、理学研究科ほど基礎的ではない。少なくとも生命科学系の研究技術は共通点が多くなっているので、生命科学系大学院はすべて共通にしてもよいのではないでしょうか？（薬，30歳代，男）

◆学業を押しつけるのではなく、自由にできることが京大の特徴であり、それによって個人の興味に合った分野での機能を育成する。この風潮は今後も存続されるべきである。ただ、もう少し国際社会へ対するために英語の会話コース等を設置してスピーキング・リスニング力を高めるべきである。（薬，30歳代，女）

◆一般教養科目、外国語教育が、卒業後の実務・教養を高めるという両方の面で、全く役に立っていない。一番の問題は、教える先生方のが、自分の日頃研究している、極めて狭い専門的すぎることに重点を置き授業をおこなっている点にある。教養課程の学生に必要なのは、より幅広い視点からなる、「広く浅い」授業だと思う。より専門性の強い「深い」授業・教育は、専門課程・大学院で行えばよい。教養の先生方は、学生が、どのような教科書を使いどのような教育を受けてきたかという点に余りに無頓着で、高校と専門（あるいは社会人）とをつなぐ、かけ橋としての意味を全くなしていない。（薬，30歳代，男）

◆一般教養科目もタイトルを見て興味をひかれるものもあったが、余り授業は心ひかれるものではありませんでした授業のすすめ方をもう少し工夫していただきたい。英会話もとってみたが、身につかなかった。（薬，30歳代，女）

◆世界に通用する大学となるようなカリキュラムを組んでほしい。また、単位取得のハードルを高くしないと、学生は遊ぶだけ。また、勉強している内容が将来に直結したものでなければ（将来に直結しているんだと学生自身がわからなければ）単なる点取りゲームの繰り返し。学術（基礎）教育と実践（応用）教育は目的が全く異なるから、大学2～3年位で学生に選ばせるチャンスがあると良いと思う。（→入学時点ではまだ何が何だかわからない）（薬，30歳代，女）

◆各教官により方向性が全く違うことで、どちらかといえば迷走状態に学生を導いてしまう方が強く出ている。各教官のコミュニケーション不足がそうさせている部分が多々見うけられるので、ここが原因の中でも最も考慮すべき点と思われる。また、一般企業や官庁等の実務経験者や、現に働いている者がもっと教官として教壇に立つべきだと思う。（薬，30歳代，男）

◆語学は、実践で使えるものにすべき。授業ではなく、英会話を楽しくやれるように。基本的に転部しない方針ならば、一般教養科目はいらない。一般教養を学ぶことより、将来のプランをたてるのであれば、簡単に転部できなければならない。大学院の研究と、企業の研究が同じ内容であってはならない。大学院の研究は、お金を払っている。企業の研究は、お金をもらっている。全く同じ研究をして、お金を払うのともらうのでは大きく違う。助手や助教授の能力不足のため、学生に教えるのではなく、学生を労働力として研究している。これでは、企業でタダ働きしているようなものである。研究内容の差別化と、教育者レベルアップを。（薬，30歳代，男）

◆本人の自由を尊重する学風は、良かったと思います。（VS．管理教育）（薬，30歳代，女）

◆私は京都大学の“自由”という学風に憧れて入学しました。また、その京都大学の卒業生であることに大きな誇りを持っております。この“自由”の学風を損なうことのない京大であってほしいと願っております。ただ、その“自由”を、「何でも好きなことをやっていてよい」と勘違いさせてはなりません。1つの目標に対して「自由に発想を豊かに」考えなさい、ということはしっかり伝えなければなりません。本来、自由とは知恵と思考の多大のエネルギーを有する広大な空間に他なりません。この空間を居心地良い、居て楽しいと感じさせる最も有効な手段は、周り（上に）優秀なスタッフが揃っていることではないでしょうか？。余程の天才でない限り、ある優秀な人との出会いが、その人の興味・能力を覚醒させることが、多いのではないでしょうか？。世界一線の研究者を学内だけでなく学外からも広く集める見識の広さを願う次第です。（薬，30歳代，男）

◆外国語教育について（教養）「読解力」を養うことが中心だったように思う。もちろんそれも大事だが「聞く」「話す」の実用的な要素も入れるといいのではないか。外国人講師の導入など。（薬，30歳代，女）

◆学生の要求を充分満たすべき施設・環境を整えてあげるだけで良いと思います。決して勉学を強要させるようなことだけは、止めていただければ幸いです。京大の学風はいつまでも守っていただきたい。（薬，30歳代，男）

◆一般教養について、在学中は単位を取る事しか考えていなかったが、今になってこのような事にも興味を持ち始め、勿体無いことをしたと思う。必要単位を減らして、本当に興味のあることを深く学べるようにしてはどうか。（薬，30歳代，男）

◆薬学部を卒業した後勤めておりましたが、その後2年程、宇治の農学系研究所で研究員をなりました。そのときの指導教授は地方国立大学出身者の方で知識も乏しいとしか思えませんでした。教授、助教授の選考には専門の業績（ペーパー）だけでなく全般の教養も必要だと存じますので、もう少し配慮された方が宜しいかと存じます。（薬，40歳代，女）

◆外国語教育は高校のReader（英文を訳す）みたいで、単調で面白くなかった。もっと会話を重視した方がよい（テーマを決めて討論とかスピーチ等）。（薬，40歳代，女）

◆理系の学部、大学院を修了したが、実験設備、器具の老朽化が激しい。各研究科とも同様な状況にあり、どの研究科から着手するかは難しいが、何とか更新への動きを進めてほしい。（薬，40歳代，男）

◆各個人の個性を大切にする教育方針には賛成します。（薬，40歳代，女）

◆時代のブームに流されることなく、独自性を尊重すること。ただし、新しい時代の風には速やかに、反応しなくてはいけない。（薬，40歳代，男）

◆学部学生の間に専門教育に触れる時間（特に実践的な面での時間）をチャンスを多く取れる様に、情報を多く学生に流してほしい。”私達の頃の教養部”は、通過点でしか過ぎなかったが、外国語を含めて、国際的視野に立った教養を高める一年次二年次としてほしい。理科系については特に思うことです。（薬，40歳代，男）

◆学風が自由でのびのびと学生生活が送れた。1回生の間につめるとかなり単位がとれ、2回生は語学・体育だけの為に、大学へ行ったので勉強しなくなってしまった。均一に勉強するようにした方が、学部へ行くまでのstepとして大切な時期を、遊んでしまわなかったと思う。（薬，40歳代，女）

◆現在の京大の教育については全く知りませんが、私たちの頃は教養部がありました。3回生から専門科目受講のために南部に通学し、ほとんど吉田へ足を運ばない私たちにとっては、教養の2年間は他学部の学生と学問上の交流やdiscussionもでき、視野や底辺を広げるよい場だったと思っています。又、講義もそれぞれの分野のスペシャリストによるものでしたので、“いまの自分”があるために有意義な2年でした。ただ語学については、4年のうちのどこかで専門と関連のある語学(英語による論文の書き方etc)を学びたかったと思います。薬学部卒ですので、薬剤師という今の仕事に専門科目の講義はもちろん役に立っています。卒業研究はそのゼミの手がけている研究の末端の一部をさせていただくという形ですので、卒後はその分野の研究者とならない限り“interests”としてしか残らないのは仕方ないと思います。今となれば、あの4年間をもっと学問的にもactiveに過ごせばもっともっと有意義であったのにと思います。（薬，40歳代，女）

◆教養部では、授業の多くを自分で自由に選択できたのは良かったです。楽しんで授業を聴くことができました。専門では、学部の時に一流の研究に触れることができ、京都大学へ来た甲斐があったと思いました。それを誇りに思い、感謝しています。（薬，40歳代，女）

◆外人講師を含む外部講師の積極的な招へい、社会との関わりを維持されたい。（薬，40歳代，男）

◆自由な校風は今も受け継がれているようですが、教養部時代は、随分ぼーとして暮らしてしまったように思います。 自分ではっきりした目的意識を持てる人にはとても有意義な時期となるのでしょうが、もう少し導いていただけないものかと感じていました。（薬, 40歳代, 女）

◆研究では一流でありながら教育では三流の教官が多すぎる。また、熱心な教育を行っている教官に正当な評価を与えるべきである。（薬, 40歳代, 男）

◆・京大のモットー：「自由」がなくなっている。 ・「活気」がない。第二の「東大」の感さえある。 ・他大学との交流を盛んにすべし。他大学（外国も）から教授陣を迎えること、企業から教授陣を迎えることが近い道と思う。歴史を振り返ったとき、大きな仕事をした人は「他所」から来た人が多いと思います。 ・我らに自由をしからずんばーー。（薬, 50歳代, 男）

◆時代の最先端を行く教育・研究はもちろん重要であるが、それをともに時代に迎合しない分野も大切にすべきと考える。特に京大の伝統ある哲学、史学、文学等の更なる発展を望みたい。（薬, 50歳代, 男）

◆京都大学の4年間に学んだことは形には見えないが、大きな力になっています。何（どんな科目、内容）が良いかはそれぞれの道が違うし一概には言えませんが、大切なのは知識ではなく、どう考えるかです。改善策の1つとして課題解決を入れてほしいと思います。テーマ（課題）を与え、あとは図書館等を利用し、解決策を考えさせるといったやり方です。社会に出て最も必要な能力は問題解決能力です。（薬, 50歳代, 男）

◆①在学当時の薬学部教授の多くは化合物を医薬品の素材として扱うことよりも一つの化学物質として扱うことの方が高度の学問性を持つと考える方が多かったように思います。若手研究者からは薬学部としてスタンスが逆ではないかとの議論が提起されていたように思います。今はどうなのでしょうか。②全国的に薬学教育の中で生薬学が消滅しつつあります。生薬の知識、特に鑑定判別の知恵が消えてしまうのを憂い生薬学会が卒後教育に取り組んでいます。京大薬学部に生薬講座植物園を残すという骨のある決定は難しいのでしょうか。検討願いたいことの一つです。（薬, 50歳代, 男）

◆global時代への対応として語学（英語）を通しての教育の充実。（薬, 50歳代, 男）

◆研究のあい間に教育をするのはよくない。（教育は雑用ではない）。学生に各授業に対する評価をうけ、それによって全教官が授業内容、方法を改善する必要あり。大学教官の重要な使命の一つは教育である。教育評価を給与に反映させることも検討すべきではないか？（薬, 50歳代, 男）

◆これから増々、グローバルな世界になるので、海外の優秀な人材を教員スタッフとして拓へいし、英語での授業を学生に受けさせるとよい。（薬, 50歳代, 男）

工学部・工学研究科

◆一般教養科目や学外活動は幅広い知識・経験を得るチャンスなので積極的に行うべきだと思う。社会（会社）では幅広いものの見方・考え方が必要とされており、専門的知識にコリかたまっていては柔軟性がなく、これからの世の中の変化の早さに対応できないと思う。京都大学の専門科目・研究活動はレベルが高く、すばらしい。これからもこのレベルの高さを維持していく必要があるだろう。外国語教育、特に第一外国語である英語教育は無意味。今、英語を活用するのに必要なものは、高校以前の勉強と研究活動を通した勉強で得られたものである。英語でのコミュニケーション（会話・表現力）の必要性は痛感している。この部分をもっと外国語教育（理系の）に取り入れてほしい。（工, 20歳代, 男）

◆学生に自主性を求める自由な校風は今でも誇りを持っています。昨今の学生の学力低下や無気力を指摘されるなか、今後は学生に対する締め付けが強くなることを危惧しています。私が入学した時の西島総長は「受験戦争に勝った今からは学問を楽しんで下さい。」とおっしゃられました。学問を楽しむ遊び心・気持ちの余裕が今までの京都大学を支えてきたと思います。これからも高い能力と遊び心の両面を持った学生を輩出していかれることを一卒業生として願っております。（工, 20歳代, 男）

◆一般教養科目は、中途半端にしか身に付かず、なかなか社会人になってから役立つことはない。高校の勉強の方が一生懸命やったこともあり、役に立つ場合が多い。専門は各々が自分の将来を考えて自主的にやる部分が多いので私の時の感じでは今のままでいいと思う。一般教養については、同じように自分の将来について考えた選択ができるシステムにするのがよいと思う。（工, 20歳代, 男）

◆教えられたこと、言われたことをやる能力を京都大学の卒業生は求められているわけではないので、教育に関しては、もう少し基礎的な方面に重点を置いてもいいのではないか。また、幅広い教養・基礎も重要である。しかし、語学は訳が分からなかった（1990～93年）。あれは教える方の意欲・工夫がないと思う。（工, 20歳代, 男）

◆これからは自分自身で考え、答えや答えに至るプロセスを見つけ出す能力が要求されると思います。学生の頃から自分で考えなければいけない状況を体験するようにさせて下さい。（工, 20歳代, 男）

◆大学1年生の時から研究活動に参加できるようなシステムの方がより積極的に勉強できると思いました。（工, 20歳代, 男）

◆世間の流行に左右されることなく、本当に大切なことに重点を置くとよいと思う。様々なコース（講義・実習）設備を準備し、学生に自由に選択させることにより、将来の指導者、天才的研究者の出現を待つくらいの余裕を持っていただきたい。極端に言うと1人の天才が出れば999人の落ちこぼれが出ても許される位の教育（？）でいいと思います。「同じような人間の大量生産」は京大には求められていないので、他大学にまかせておけばよい。（工, 20歳代, 男）

◆工学部では基礎研究よりも最先端の研究に特化すべきであると思います。（工, 20歳代, 男）

◆大学1、2回生時の講義には無駄が非常に多い。社会勉強という意味で「ある程度遊ばせながら少し勉強すればよい」という方針なら今のままで良いが、実質的には1～2年短縮しても習得できる教育内容のように思う。（工, 20歳代, 男）

◆卒業に必要な単位を少なくしてほしい。（本当に学びたい科目をより多く受講するため。専門の選択必修単位を増やす、ということでもよい）（工, 20歳代, 男）

◆授業は学生に判らせようとする意識が感じられない。雑用としていやいや講義している感じのある講師が多い。（工, 20歳代, 男）

◆一般教養科目（在学当時の教養部）では講義が肥大化し、正しく学生の評価がなされていない、要領の良さが問われているだけ。一般教養と専門科目のかい離が激しい。一般教養で学んだ実験方法が専門に入った段階で正しくないとされるなど、混乱するし無駄をおぼえた。一般教育科目でも、教官、学生双方にやる気があるもの（フランス語8時間コースなど）では非常に優れた授業がなされていたように思うが、概して科目間で違いが大きい。（工, 20歳代, 女）

◆学生本意で常に考え、決して文部科学者の言いなりにならないで下さい。国は大して考えていないと思います。（工, 20歳代, 男）

◆工学部・電気の卒業だが、社会に出てすぐ活躍できる、訓練されている人が少ないと思う。研究テーマ、姿勢について考えて頂きたい。（工, 20歳代, 男）

◆正直、私が在学していた頃は、一般教育科目は、全く役に立たず、また魅力のないもので、ほとんど出席しませんでした。やはり、一年次より、専門科目を（特に実験を）適度に組みこんでいくべきでは？。（工, 20歳代, 男）

◆京都大学の学生は基礎的な知識を勉強する能力はあると思います。実際、応用研究などにもっと時間をとってもいいと思います。特に人文社会科学は、単位をとるために一夜漬けでノートのコピーを覚えましたが、それが社会に出て役立ったりはしません。（もっともそういう苦労が大学生ならではという気もしますが）。（工, 20歳代, 男）

◆もっと、企業との共同活動を前面に出して、教育を実施すべき。専門性をアピールし、実践的に将来役立つことが確信できれば、学生たちは、もっと、熱心に学業に取り組むと思う。今、現在の学生のレベルの低さには危惧の念を抱かざるを得ない。私は、半導体関連の仕事に従事しているが、特に進歩の速いこの分野では、企業だけの力では、勝てないことを実感している。大学と連携し、共に底上げされなければ日本の未来は暗い言わざるを得ない。京都大学が、企業、そして国際社会に対して、アピールすることは、日本の全大学を大いに刺激するものと思う！（工, 20歳代, 男）

◆難解すぎて理解できない授業が多かった。理解できないような授業はやるだけ時間と労力の無駄ではないか。演習や実習形式の授業を充実させることで、理解が容易になると思う。（工, 20歳代, 男）

◆すばらしい研究者が、すばらしい教育者とは限らないというのを思いました。解りにくい講義も数多くありましたので、講義内容を査定するなどして講義の質を高めていく必要があると思います。特に専門課程ともなると講師の選択肢はないので、さらに講師の質は重要となると思います。（工, 20歳代, 男）

◆学問であるからには知識を積み重ねていくことが重要だと思うが、 学生の理解度を全く考慮せず、講義を進めていく方が沢山おられた。 頻繁に小テスト、レポート等を行い、学生の進度を確かめるべきだと思う。 また、講義はとっかかりにすぎないと、おっしゃる教官もいた。 大まかにいえばそうであろうが、自分の講義がつまらなことへのいいいわけにしか 聞こえなかった。 学生は金を払っているのだから、学生をあるレベルに引き上げる義務があると思う。（工, 20歳代, 男）

◆外国語教育の意味も含めて、月に1回程度海外の企業・大学等から講師を招いて講義をする時間を設けては？大学卒業後あるいは大学院終了後に社会に出た際、国内だけに目を向けて働くということはあり得ないと思いますので。（工, 20歳代, 男）

◆1. 問題点 ⑴ 授業が一方通行で、教授が「教えてやっている」的な態度だった。教えよう又は分かってもらおうという気持ちが感じられなかった。 ⑵ ⑴ により学生は徐々に学習意欲を喪失し、授業に出ない学生がほとんどだった。 ⑶ 授業の内容が実学的ではなく興味が持てなかった。 ⑷ 各専門分野全体の概要を鳥瞰するための講座がないため「木を見て森を見ず」になってしまった。 2. 改善策 ⑴ 全授業について出席をとる（大人数の講座については何らかの措置が必要）。 ⑵ 前期・後期それぞれについて学生が教授の授業を評価する（米国では常識）。 ⑶ 専門分野全体を鳥瞰するための講座を創設する。 ⑷ 実学的な内容の講座を増やす。 （特に、京大の優秀さを対外的にアピールするため、資格試験受験に特化した講座を開設しても良いと思う。）（工, 20歳代, 男）

◆一般教養科目は軽視するべきではない。幅広い視野を持つための役に立つし、思いもかけないところで学んだ知識が利いてくることがある。 例えば、私は現在、認知心理学に関わりの深い業務を担当している。専門ではなく、一般教養で学んだ心理学の基礎知識が生きてきていると感じられる。（工, 20歳代, 男）

◆どの勉強をどの程度するか、学生の自主性にまかされる部分が多い点は、京大らしい部分ですし、個人的には気に入っていました。今後も管理色が余り強まらないことを願っています。（工, 20歳代, 女）

◆時間はかかっても、自分のやりたいことを徐々に見つけ出していくのが、京都方式で各自の自主性や、教育スタイルにとらわれない独自性、またはいい加減さが、京大の基礎研究や個人の能力の源になっていたのではないか。ただ近年（15年くらい？）古き良き京大のカリスマ教官や自由な校風、自由といっても責任感を伴うフレキシブルさが損われてきているように思う。（工, 30歳代, 男）

◆京都大学に入学する学生の多くはその独自の校風、気風を好ましく思っており、自由に独立して先端的な授業を受け、創造性を刺激されることを期待しています。従って、学生たちにより多くの選択肢を与え、興味のおもむくところ望むだけ深く学問を深められるよう支援するのが京都大学における教育の在り方であると考えます。義務的な必須科目や得点だけで単位が得られるような講義は不要です。その講義においても、学問の深みが感じ取れるような内容がよりやる気を高めることができます。一般教育という言葉にとらわれず、より専門的な講義に触れられるように望みます。（工, 30歳代, 女）

◆・英語、第二外国語の教育において、会話にも時間を割くべきだと思う。 ・一般教養課程の出席、合否については、やや甘いと思われるので、もう少し合格基準を厳しくしてはどうか。（工, 30歳代, 男）

◆自由な学風とすべてが、学生の自主的な行動や判断が重視されるという基礎が出来ており、独立自尊の風が育てやすい最高の環境を与えられたと考えている。講義などformalな教育の場としての教室や講義室でなく、学生が普段informalな交流や対話の場となる学生会館の充実が望まれる。生協の食堂や西部講堂、尚賢館や図書館で私たちはよく頭を耕したと思い起こされるからである。（工, 30歳代, 男）

◆・専門以外の講義は必要（私では人文・語学系）だが、教授の自己満足で何の知識のプラスにも興味喚起にもなっていない。（すべてではないが）ただのムダ。～高校の時の知識の方が今すごく役立っている。 ・ソフトはfortrunではなくC言語をやれ！時代オクレ！（今は知らないけど）（工, 30歳代, 男）

◆京都大学で一番学んだのは 自ら学ぶ意志 の重要性。これは京大の放任主義が良い方向に働いているのだと思います。学生の質が変わってもこの伝統は変わらないでほしいと思います。（工, 30歳代, 男）

◆自主性重視であり、過ごしやすい。また、素晴らしい人材が育つと思うが、多くの企業に勤める際、最初は他の厳しく教育されてきた人と差があるように感じた。自由の学風の中にも厳しい一面を少し加えた方が良いと思った。（工, 30歳代, 男）

◆一般教養より専門科目に力を入れ、一回生からできるだけ専門科目を勉強させるべきである。特に英語に関しては、講義形式ではなく、ネイティブスピーカーとのレッスンにしてはどうか。（工, 30歳代, 男）

◆英語を通した講義を増やすなど専門教育に英語力を養える機会を多くする必要があるように思います。（工, 30歳代, 男）

◆大学の独自性が求められている現在、他大学で実施しているからやるといったような考えで物事を進めるべきではない（大学入試の簡素、容易化など）。特に入試は学生の品位を決める重要なもので充分に検討してもらいたい。エリート創造の道を模索すべき（他大学では不可能なため）。（工, 30歳代, 男）

◆一般教養科目や外国語教育を軽視する傾向に与することなく、より一層これらを充実すべきだと思います。大学院重点化が進むのであれば、専門教育は3回生からで十分であると思うからです。そしてこれからは専門教育をどれだけ受けてきたかということ以上に、それらの基礎であるべき一般教養が求められると思います。（工, 30歳代, 男）

◆実践的な外国語教育により力を入れるべきである。（工, 30歳代, 男）

◆①一般教養課程はつまらなかった。本来の意味の一般教養はとても重要だと思うが、大学の授業は教官の研究の一部のようで、よほど興味のあるテーマでないと関心が持てない。もっと中学や高校のように基礎的なことをじっくりやるべきではないか。それに教官の教え方（授業のやり方）のよい方は少なかった。学術研究の方は一流でも教え方については、例えば有名予備校の講師の方を見習ってはどうか。②第二外国語は必修から外すべきである。私も含めてほとんどの日本人は英語すら満足に出来ない。興味のないドイツ語やフランス語をやらされるより、もっと英語教育を充実させるべきである。例えば工学部なら英語の文学作品なんかでなく、いずれ論文を研究する際必要になるのだから、技術英語をみっちりやるべきである（もちろん希望者は複数の外国語を選択できるようにするべきである）。（工, 30歳代, 男）

◆学生の基礎学力を高めるため、日々の授業の中で宿題や小テスト等を課すべきだと思います。つまり半ば強制的に勉強させるということです。（工, 30歳代, 男）

◆自由、創造性、独創性をコアとした教育を行っていってほしい。（工, 30歳代, 男）

◆自由（ある意味でルーズ）な学びの環境は非常によいので、そのまま伝統を維持してもらいたい。（工, 30歳代, 男）

◆大学に入学した後に進む学科を決められるようにするべき。（工, 30歳代, 男）

◆語学のクラスは工、法、農、理、医、文、教育等1年生時より混合クラスにする方が望ましいと思います。教養時代はかなりまじめに授業に出た方でしたが、全く活気がありませんでした。高校や予備校の10％程度の熱心さでもあれば、授業に出席する喜びも増えようものですが、結局単位のためだけに仕方なく出席する学生が何と多いことか。活気のなさの原因の大半は学生が遊びたい気持ちがあるからでしょうか、教官の方にも問題がないわけではありません。学生時代よく思いましたが、教養部は時代の流れ方が遅い、そののんびりさがよいという人もいますが、続けて勉強したい学生もいることであろうし、門戸（飛び級とか）を開けてもよいのではと思います。（工, 30歳代, 男）

◆入学時点では志を持ち、専門的な知識を身に付けたいと思っていたが、教養の2年間でその志はどこかに消え、3回生になった時には勉学への熱意は失せていた。私個人としては1・2回生の時間を有効に使い、貴重な社会学習を行うことが出来たので、結果として大いに感謝しているが、在学中は教養の2年間に大きな疑問を抱いていた。（工, 30歳代, 男）

◆1990年当時の話、教養課目、講義の内容が難しいことについては問題はないが、教える先生の熱意が感じられないことが多々あった。いわば右も左もわからない状態で、大学の授業に出てくるため、何のためにやっているのか、この先どんな面白い世界が広がっているのか伝えてほしかった。（工, 30歳代, 男）

◆工学部出身の卒業生です。就職後、海外のエンジニアと仕事をする機械が多いのですが、日本の大卒（含院卒）エンジニアは他の国（例えばアメリカ）の大卒エンジニアと比較して基礎的な専門知識・学力が非常に弱い様に思います。日本の場合、学生時代は適当に講義に出席して、試験直前にいわゆる過去問を勉強して切り抜ければ、いっぱしの大卒エンジニアを名乗ることが出来ます。しかし、例えばアメリカでは、エンジニアを名のるためには公的な資格試験をパスしなければならず、学生は大学でよく勉強しています。日本のエンジニアは会社に入ってから業務に関連する特定の分野をあわてて勉強し直す場合が多く、幅広い専門知識を必要とする仕事では海外のエンジニアに比べて見劣りがします。大学の教育活動が余り生かされないのが実状です。この様な状況を改善するために以下の提案をします。・過去問だけ勉強すれば通る様な試験をしない。・基礎力の無い学生は留年させる。・エンジニアの公的な資格制度を導入する。そのほか、教養部の教育内容は大学生の教

養のために重要であるとは思うが、実際には学生のほとんどは勉学もせずに要領よく単位をとることだけを考えている。学生時代には友と語り、遊ぶことも大切だが、それだけでは大学生としては失格である。学生の意識改革を捉すとともに、大学側も講義のやり方や、単位の認定方法を見直すべきである。また場合によっては教養部の教育内容期間を減らし、専門課程の教育機関を増やすことを検討すべきである。（工, 30歳代, 男）

◆日本の教育は、大学入るのにまず第一に価値がある。大学院だけ、他大学から編入して京大院となるのは、おかしい。入学試験を通った、そのことに一番意義がある。（工, 30歳代, 男）

◆15～10年前も周囲からレベル低下がよく言われたが、最近はさらにレベルが下がっているのではないか？（単に人間の質が落ちただけかもしれないが）（工, 30歳代, 男）

◆工学部大学院では、修士課程などの院生が教官の研究の手伝いをすることが多い。しかし、院生といえども授業料を払って教育を受けに大学へ来ている者であり、大学院での主目的はその課程にふさわしいレベルの知識・学ぶための方法論を獲得させるための教育であることをわかっていない教官が一部いるので、ちゃんと指導してほしい。（工, 30歳代, 男）

◆京都大学の校風が自由だという風によく言われるが、悪くいえば野放し。もう少し基礎的な部分を重点的にしっかり教育するシステムにしても良いのではないかと思う。社会に出て、自分が修士等で専門としている分野にたずさわる人はごく限られている。基本的な部分だけで良いから幅広い知識を身に付けることが重要と思う。（工, 30歳代, 男）

◆理工系学生の数学力が落ちているという実感があります。さりとて、教養課程や学部専門課程の数学教育をただ強化すればいいというものでもないと思います。数学を教える際に、なぜこの科目が必要なのか、この部分の知識があればどこでどう役に立つのか、知識がなければなぜ困るのかを、数学の教官ではなく工学部の教官、理学部の数学以外を専門とする教官が説明できるようになっていなければならないでしょう。学生のモチベーションを高めること、そのためには教官は学生に対してどのような働きかけをしなければならないのかを検討する必要があるように思います。それをするためには教官は忙しすぎると言われそうですが…（工, 30歳代, 男）

◆90分の講義は、冗長に感じられることが多かった。（工, 30歳代, 男）

◆一般教養科目の講義をわかりやすくレベルアップを望む。（工, 30歳代, 男）

◆先生が教育をされなくとも、学生自らが学ぼうという意欲がある、あるいは、意欲が乏しくてもやれば何とかなる学生が多かったように思う。さらに、それで何とかなってしまう科目も少なくなかったようだ。私自身、現在、教育する側に立ってみて、そのような学生の少ないことに衝撃をを受けるとともに、京都大学においても、徐々にポテンシャルの低い学生が増えてくることが予想され、不安を感じることもある。知識を与える教育も重要だが、いかに問題に取り組むかという姿勢を身に付けさせることが、これからますます必要になってくると思う。（工, 30歳代, 男）

◆教養課程の授業は、出ていておみしろみがない。教授陣の工夫がほとんどみられない。そもそも、京大からほとんど外に（つまり、社会、事業法人など）出ていない人が、教授をすることじたいが、問題であり、そんな人々に教えてもらっても余り、いみがない。少くとも、京大の教授陣は、京都大学以外の事業法人又は、他大学、諸外国の大学で、数年勤めなければならないような仕組みをつくるべきである。（工, 30歳代）

◆・自由度はあった方がいい（下名の頃の程度には）・外国語は「聞く・話す」ことも学べた方がよい。（工, 30歳代, 男）

◆良い点、問13の答改善すべき点・幅広い評価体制を整えること。・（工学のみに）専門のみの片寄らず社会的倫理感もあわせ、指導すべき。・社外、実社会での実践を単位として積極的に取り入れてはどうか。（工, 30歳代, 男）

◆・語学の講義はもっとやりようがあるように思います。（工, 30歳代, 男）

◆一般教養科目には余り必要性を感じません。専門科目の学術的（基礎）教育にもっと重点をおいた方がよいのではないでしょうか。又、専門科目の演習が少なかったように思います。外部からの講師を増やし、実務をとり入れた講義を増やせないものでしょうか？（特に工学部）（工, 30歳代, 男）

◆今はどうか知りませんが、私が在学した頃は「勉強しなくても卒業できる大学」という認識でした。これを「勉強しなければ卒業できない大学」にする必要はありませんが、勉強しない学生もその代りに何かを得ることができなければせっかくの大学生活がムダになります。もちろんバイトやサークルで何かを得られればそれはそれでよいのですが、せっかくの京大ですから、知的満足を得られる何かがあるといいなと感じます。（工, 30歳代, 男）

◆・語学教育（英語）英文学をやるよりもdiscussionとかpresentationのための授業がほしかった。（工, 30歳代, 女）

◆東京にくると京大の存在感が全くない。いかにも関西の一地方大学だとみられていて、特徴のない大学だと思われているのが卒業生にとってははがゆい。だからといって教育で特徴を出すことができるとは全く思っていないが、どこの大学も同じことを考えているから、でも何か目立つもの、というか広告パンダみたいなのがあるといいのかな、と思う。（工, 30歳代, 男）

◆外国語教育においては、会話教育を取り入れるべきだと思う。(教養）研究活動では、問題解決の思考手順が学べるため、会社生活の中でも役に立つことが多い。（専門）（工, 30歳代, 男）

◆外部の経験豊富なエキスパートとの交流。〇〇講義など。（工, 30歳代, 男）

◆教育は教えるだけでなく育てるものである。京都大学に入る優秀な学生に基本的に教えるのではなく育てる事を主にすべきである。ではいかにすれば育てることができるか、それはつまり教える側の問題である。教える側が人間的に尊敬され、風格のある人物になることである。京都大学が、阪大や東大の様に単位の義務化を厳しくすることには反対であり、自由さをつら抜いてほしい。その自由を安定させる原点は、それぞれが素晴らしい人物となることである。（工, 30歳代, 男）

◆更に留学生を受け入れ、、また交換留学制度の導入を行い、国際性を高める必要があると思う。（工, 30歳代, 男）

◆理科系学生にとっては自然科学系一般教養科目は概ね良好だったと思われる。強いて言えば1、2回生の頃からもう少し専門

科目との融合があっても良かったかと思う。工学部の学生としては、数学は工業数学など応用寄りの方が良かったように思う。教養時代の外国語は全くといっていいほど役に立っていない。英語は特に悪く、基礎、応用のどちらを向いているのかその方向性もはっきりしていないため体系化されておらず「忘れない」程度にしか感じられなかった。数学、外国語は学部、学科に応じて実用性を考慮していただいた方が良いと思われる。人文・社会科学系は、3、4回生になってからも1つぐらい聴講できる余裕が持てると面白かったかもしれない。（工, 30歳代, 男）

◆自由な学風は今でも強く誇りに思っています。是非この伝統を次世代にも引き継いでいってほしい。（工, 30歳代, 男）

◆基礎を重視する姿勢を保って頂きたい。（工, 30歳代, 男）

◆入学して早い時期に数週間でも企業など実社会で研修のようなことをして自身が研究したい、勉強したい事柄を考える機会を作ると良いのではと思う。目標なりが明確にでき、その後の研究などが実のあるものにできるように思う。（工, 30歳代, 男）

◆自由の学風を続けていただきたい。友人の中には、三度の飯よりも勉強が好き、という者もいれば、道を踏み外したと言われそうな者もいる。（本人の強い意志があればそれも道なのだが）そのような環境の中にいて、自分というものを考える機会が多く、それが大学の価値と思っている。（工, 30歳代, 男）

◆自由な雰囲気の学風は気に入っており、これからも無くしてほしくはない。ただし、語学教育に関しては徹底的に厳しくしてほしく思い、特に、ヒアリング、討論等、実践的内容の濃い講義の選択枝を増やすべきである。また、修士から博士課程に進む場合の節目には、別の研究室に移らねばならない、などの視野を広げる措置の必要を感ずる。理学部、文学部のような基礎的部門においては入試をなくし、入学後のレポート提出、討論、教授との質疑応答などの評価を厳しくして、進学（場合によっては退学）を決めるようにしてはどうか？（工, 30歳代, 男）

◆学部在学中は教養課程が2年間あったが、もっと、専門課程にどっぷり浸る方が、濃い知識が身に付いたと思う。（工, 30歳代, 男）

◆財務などの実学を教養課程で教えるべきである。（工, 30歳代, 男）

◆人材はそろっていると思われるので起業家を育ててほしい。（工, 30歳代, 男）

◆自由な学風は尊重すべきだが、社会人となった時のギャップにとまどう場合がある。また、自由の中で、何かを成す事ができずに、埋もれて行く人もいると思うので、何かフォローする体制があると良い。又、逆に、自ら主体的に行動を起した時に、規制・規定を厳密に適用してつぶす事が少ないと良い。目的や情況に照して、大局的に判断する事も、場合により必要と思う。（工, 30歳代, 男）

◆（問18の回答内容に相当するかもしれませんが・・・）「学習指導要領が新しくなり、高校卒業時での低学力化が問題となっている」ことについて、自分自身を振り返って（私はS60高校卒なので、前年度卒業生とは指導要領が異っています）高校までの内容の理解が不十分だったとは思わないのですが、数学や物理では大学の教養科目と高校までの内容との間に溝があると感じました。受験時の科目であったにもかかわらず・・・です。先生方はテキストの最初から講義をされているケースが多いと思いますが、その最初の部分を理解できるレベルの学習を高校生がやってきているのかということを考えていただきたいと思います。もちろん学生も理解するための努力はしていますが、高校までで求められている内容、レベルが大きく変わってきているにもかかわらず大学での講義内容が数十年前と同じというのではとり残されてしまう学生の割合が増えていくのでは・・・と心配します。（単位は取得できるのでしょうが・・・）決して高校の補習をした方がよいというのではありません。京大に入学してくる学生は、受験科目においては補習など必要ないと思っています。（工, 30歳代, 女）

◆教養や学部での自由さには魅力が多いと思います。勉強してもしなくても、どちらも選択できるというところが、”勉強しなくてもよい”という他大学とは違うところと感じます。小生が学生であった頃は大講義が多く、魅力を感じる講義が少なかったように思います。社会に出てから感じたことですが、京都大学としては、どのように学生を教育するのか、という点を学内・学外問わずに発信していただきたいと思います。小生が受けた1986年頃の入試は、各科目のコンセプトが、明確であったように感じました（英語で、単語やアクセントを問わない、文意の把握を重視する等）。今でもそうなんでしょうか？小生は化学系の研究室でしたが、教官の必要以上の拘束が嫌でした。特に時間的に、しばられていました。この点が改善されると、尚よいのではないでしょうか。教養の講義は専門課程の先生が片手間に教えるのではなく、それなりの教えるプロが講義する（場合によっては学外から招く）方がよいと思います。（工, 30歳代, 男）

◆学生の自主性を重んじた自由な学風を維持してほしい。国際的に貢献できる人材の育成ができる教育を望みます。（工, 30歳代, 男）

◆自由な学風を守り続けてほしい。やりたい学問、研究がある人々のために道を開き続けてほしい。（工, 30歳代, 男）

◆あらたな枠組で意図的に新領域、中間領域を作るよりも、学部・学科の交流を盛んにして、自然発生的に独自の領域を生み出していく方が京大らしいと思います。（工, 30歳代, 男）

◆専門科目における英語での講義、レポート提出等をとり入れると国際社会に対応できるのではないかと思います。一般教養では英語の比重を大きくした方がよいのではと思います。（工, 30歳代, 男）

◆学生時代、単位取得に苦労した訳ではないが、必要単位数を減らしてその分中身を濃くした方が良い。幅広く学べたが、振り返ると余り残っていないように思える。授業を選択する時に、情報が少ないように思えるので、最初の1～2週は講義の概要を説明し、選択の一助とするのはどうでしょう。それからサークル活動も単位にする。例えば体育会系の学生は体育の単位が不要とか、演劇、音楽等活動をレポートにまとめて単位にするとか、ボランティア活動を評価するとか、学生が打ち込んでいることを教育と結びつけられれば、面白いように思う。（工, 30歳代, 男）

◆アカデミックである。画一的でなく、選択の幅が広く良い。（工, 30歳代, 男）

◆京都大学に入学してくる学生は、基本的に皆さん優秀ですが、学問、あるいは野心的な試みを行おうとするのは少なく、孤立しがちなのですが、それを大学としてサポートすることができていません（講義、研究室、教授）。優秀ですから、自分でなんとかやっていきますが、全体のレベルが彼らによって引き上げられずに、非常に低いところにとどまっていると思います。鍛えられることが少なく、それを自由さと混同しているのかも知れません。（工, 30歳代, 男）

◆・一般教養について、もっと実社会に根ざしたものを教えるべきではないか。特に英語やPCは、知識ではなく、”単位”をやる、やらないための授業ではなく、”役”に立つ立たないを基準にして授業を行ってほしい。・大学1. 2回生は、ほぼ完全に自由にしても良いと思うが、3. 4回生については、専門授業を増やすべきだろう。その際”教育”をしているのであることを忘れず、”出席していれば単位をやる”ような空間にはしてほしくない。・教室に、社会人を取り入れてもいいのではないか。個人的な会社を退職した人や、弁護士、弁理士の人の授業があれば受けていたと思う。又、税金や株式のようなことこそ、一般教養として学ぶべきことだと思う。（工, 30歳代, 男）

◆大学に入る以前の問題として、学生が「知」に対してもっと興味を持てるような環境づくりが必要だと思う。また、仮に「知」に対する興味からでなく、受験勉強の成功者として京都大学に入学した学生に対しても、京都大学は「知」の楽しさ、素晴らしさを目覚めさせてあげられる場であってほしい。（工, 30歳代, 男）

◆英語教育をもっと根本的に改善すべき。（工, 30歳代, 男）

◆論文の書き方、読み方について、もっと指導するべきだと思います、特に、英語論文の書き方については専門の指導教官を置く必要があると感じています。（工, 30歳代, 男）

◆引き締め過ぎて、東大のようにならないでほしい。実践で使える人（smart）は京大の方が多いとという評価が多く、自由な学風が役立っていると思う。京大生は元々ポテンシャルは高いので、創造性が付加されれば非常に強い。独自カラーを大事にしてほしい。（工, 30歳代, 男）

◆もっと先端の技術や知識を得られたらと思う。例えば、産業や官庁と協同で研究する機会を増やすことをすれば、もっと研究が楽しくなると思う。高校までせっかく一生懸命勉強してきても、大学がその延長だと全くつまらない。具体的な目標（つまり先端技術や最新の研究）がないと研究に目がいかず、遊びほうけるのみだ。（工, 30歳代, 男）

◆1989年の話で考えれば、一般教養科目・専門科目（講義）は平易にして厳しくする。難しくて過去問以外は勉強する気になれなかった。専門科目（ゼミ）→実務に有用だが、内容が狭くて浅い。他大学に比べ、社会人になって勉強する必要量が多くなりがち。（工, 30歳代, 男）

◆自由な雰囲気の学風が好きで、京都大学に入学致しました。我々が余りに勉強しなかったためか教育が厳しくなり、最近の卒業生は真面目になったものの、以前と比べると面白味がなくなってきているような気がします。放っておくと、ほとんどの学生は勉強しなくなるのはよくわかりますが、自由な発想を育む環境は守っていって下さい。（工, 30歳代, 男）

◆一般教養については、学生の自主性にまかせ、選択技を多くすべき。今後に生かすという視点で、学部学科によっては必修を定めている場合があるが、それは専門分野に絞るべき。（工, 30歳代, 男）

◆外国語学習の意味合いが全く不明。何故外国語に力を入れるのか、社会人になっても理解不能。（特に第二外国語）全く役に立っていません。英語力は必要ですが、それ以外は全く不要です。（工, 30歳代, 男）

◆個人のやる気以前の問題として、教養の先生方の教育に対する考え方、意識のレベルの低さに愕然とした記憶がある。少なくとも新入生は、大学では勉強するものと思って入学している。そのやる気を全く失わせる教師たちは、やはり社会的問題である。予備校の先生の1／10でもやる気があるなら、必ず京大生は相当レベルの高いものになるはず。（工, 30歳代, 男）

◆・講義形式の教育より、議論を重視した教育を行う。・英語教育の充実を行う。（工, 30歳代, 男）

◆特に英語教育として、最低限会話が可能となるような教育をすべき。国際化するために、海外の学生をもっと受け入れてはどうか。（工, 30歳代, 女）

◆自由で放任主義、自主性を重んじる、進んで学ぶ者にとっては良い環境。（工, 30歳代, 男）

◆工学の建築で設計課題を与えて、提出させ、発表させる形式で、重点もおかれていましたが、設計以外のことも考慮した課題、例えば、エコリサイクル・温暖化・特殊構造など加え、意匠にのみ片寄ることのないものにすることも必要ではないでしょうか。既に学部内の統合などがなされていると聞いていますので、よい改善がされることを期待します。その他、他の分野の学科との共同研究など、枠をこえた研究やゼミができるとよいと思います。（工, 30歳代, 男）

◆特に教養科目については、講義がつまらないものが多かった。私は工学部高分子化学科を専攻したが、教養の中には数学・物理・化学など必修科目が多かったが、先生は生徒に理解してもらおうと講義しているふうが全くなく、たんたんと話している感じで、興味も持てなかった。又、学風が自由すぎて、学生もうまく間合いが取れず、授業をさぼり続けたりする傾向があるので、何か良い解決策がないかと思う。（工, 30歳代, 男）

◆一般教養よりも専門科目に比重を大きくしたほうがよい。（工, 30歳代, 男）

◆卒業後、アメリカの大学で研究活動に携わることができた。（テキサス大学に客員研究員として）その際、セメスター制などの制度を知ったが、短期間に多くの情報を伝えるのに、驚きましたが、前回の授業との間が短かいので、非常にわかりやすかったと認識する。私の京大教養等の時代では週1回の講義で、前回何をしたか忘れかけていた覚えがある。課目にもよるが、セメスター制の導入も検討されてはいかが？。（既に検討されてるんでしょうが・・）（工, 30歳代, 男）

◆・在学中における教育について特筆すべき課題があるとは、感じませんでした。・教育とは、自らを教え育てることが根本にあるべきと思います。すなわち自分に責任を持ち、自分で考えることができるような大学環境であってほしいと思います。・外国語教育に関しては、まずコミュニケーション教育の延長線上にあるという位置付けで整理できるとわかりやすいと思います。例

えば、ある言語についてその使われている社会歴史推学、言語圏内でのコミュニケーション方法etc。そして、それらの言語も総括する整理と異なる言語間でのトランスレーション方法。言語は外国語のみならず、日本語はもとより、コンピュータ言語等も同じ座標軸で、横串をさして。その前提を説明した上で、深く習得する言語の選択と永続的な実践環境があるといいと思います。（工, 30歳代, 男）

◆個人的な考えになりますが、専門教育に入るまでの2年間が長過ぎました。一般教養の何が、いつ必要になるか、その2年間ではわかりにくかった。3年からの専門課程が始まると一般教養の受講もままならず、もう少しバランス良く専門課程と一般教養をリンクさせるべきだと思います。一般教養は一生かかって学ぶべきもの、専門課程は、その分野に携わるかぎり修得・研究するもので、互いは切り離せないのではないでしょうか。（工, 30歳代, 男）

◆一般教養(1～2回生)は、教える側の熱意も伝わってこないし、学ぶ側の意欲も余りない。アメリカの大学などを参考に、もっと幅広い教養を身につける場とすべき。外国語教育ももっと力を入れるべきだ。文を訳すだけでなく、会話にも重点を置かないと、世の中で役立たない。中国語、スペイン語、ポルトガル語、韓国語も選択できるようにすべきだと思う。（工, 30歳代, 男）

◆基礎というよりは、理論を教えるという形の教育であったと思う。実際に企業にて、「物を造る」には、理論を基に、現在使用可能な技術を使用した応用力が必要となっている。確かに、理論を知っている人が「考える」ことを行うのは当然であるが、大学にて、「教育」を行うのであれば、この応用についての「教育」を多く行うことを検討しても良いと考えます。学部、学科により、各々に適した方法があるはずなので、一律には決まらない。また、理論と応用の割合についても、学部と大学院で変えるべきと思います。（工, 30歳代, 男）

◆教育・研究の目的・、意義を企業や市民といった一般の社会活動との関係で意識させるようなカリキュラムづくりが必要と考える。講義や研究の内容をかえるといった小手先の変更・改善でなく、教職員・学生をまきこんだ問題意識の明確化・共有といったことが必要ではないでしょうか。（工, 30歳代, 男）

◆就職先にもよると思うが、私の場合、勉強内容が就職先の業務と、「かけ離れ」過ぎている。（工, 30歳代, 男）

◆教師陣の研究レベルが国際的に見劣りする人が多い。研究成果を出さない教授・助教授は（民間企業同様に）配置転換できるようなシステム作りが必要。（工, 30歳代, 男）

◆・魅力ある先生と興味が湧く面白い授業が必要。そのために学生が先生を評価する仕組みを採り入れて、つまらない授業をする先生は交替してもらう。それぐらいの緊張感を持ってもらわないといつまでたってもお気楽公務員感覚は抜けないと思う。・産学交流をもっとすべき。企業の一線で働く（若手）ＯＢの話なんか、絶対興味深いはず。目を輝かせて授業を受ける姿は、どれほど多く普段見られるのであろうか。（工, 30歳代, 男）

◆実務的な内容が少ない指導者（教授など）が専門としている内容しか教育していないのはおかしい。学生が必要としている、また、習得すべき内容が何かという発想から、指導内容を選んでいないのではないか。（工, 30歳代, 男）

◆・やる気の無い教官が多い。教官の評価をしっかりと。・一般教養は、社会に出て、本当に必要とされる科目に絞って。・専門は、もっと狭く深く。（工, 30歳代, 男）

◆専門科目は現在も仕事（研究）をする上で役立っているが、研究活動においては、知識のほかにも研究を行う背景、経緯をおさえて、目的を明確にし、結論に至るまでを論理的に展開する技術を習得するのに非常に役立ったと思われる。一方で一般教養については、余り興味をもつことができず、自分のものになった科目は少なかった。特に歴史などは、その重要性を認識できていなかった。（工, 30歳代, 男）

◆社会で求められる人間は、必ずしも教養や知識だけではない。より個性的な人間、多様な人間が求められると思う。そういう意味では、知識をつめこむ教育ではなく、今まで通り、自由放任させ学生自らが考える学風でよいのではないかと思う。（工, 30歳代, 男）

◆英語、第二外国語については、もっと会話力を重視した授業が望まれる。時間を増やしても良いと思う。一般教養科目の習得が役立つと思うのは就職後であるため、一般に身が入らないと思う。学部の時は、余り専門を意識しない授業とし、教養科目が実生活にどの様に関係あるかを示しながら授業を進めるなど工夫が必要では？専門科目は、特に意見はないが、企業人の講師を招いて、もっと平易に授業をした方が、学生には良いのではないか？（一般に先生は高度な学問をしているせいか、平易な事を飛ばす傾向がある）（工, 30歳代, 男）

◆学生生活4年間過ごしたわけですが、教養、学部ともに、自由な校風のもと、自由に勉強や、サークル活動に打ち込むことが出来ました。非常に有意義で、思い出深い学生生活でした。現在の仕事に就いているのも、大学生活のおかげだと思っています。このような、自由な校風は、今後とも残していってほしいと思います。（工, 30歳代, 男）

◆外国語教育では、古典的な労作を読むことも意義深いですが、英字新聞等の外国語新聞の講読やディスカッション、文章表現化といった外国語そのものの実力を高める教育ももっと力点を置かれてもよいのではないでしょうか。人文・社会科学系一般教育科目では、講義を通じ、物の見方が深まることや語藁の蓄積が図れました。ちょいかじりの耳学問であっても全く知らないのとでは大違いです。またレポートにより、文章表現力が高められることが期待できます。自然科学系一般教育科目では、物理・化学等でまだ習っていないベクトル解折などの数学が先行して使われているため、数学・統計学といった基礎的な分野にもっと重点が置かれてもよいのではないでしょうか。専門科目では余り勉強をしなかったことが残念ですが、やはりここでも基礎的な分野における学力不足がネックとなりました。卒業研究は実験主体でしたので不器用な私には有益でしたが、公務員となったため、直接的な効果は不明です。（工, 30歳代, 男）

◆工学部の授業について、具体的に社会で（メーカー、研究所など）使われている実例を出して講義した方がよい。それによって学生の受け取り方、吸収のし方が大きく変わると思う。（工, 30歳代, 男）

◆自由な学風で良いと思うが、学生の自主性に任せるため、勉強する学生とそうでない学生の差が大きくなる。（工, 30歳代, 男）
◆私の頃は、1･2回生が教養で、3回生から専門であった。2回生からもっと専門を増やしてはどうか。4回生･院生のうち希望者が、もっと一般の会社を体験できるような教育にしてはどうか。（工, 30歳代, 男）
◆外国語教育、一般教養については、専門科目と異なるが故に、ある程度の強制をもって行うべきではないかと思う。また、教える側のレベルにも少し問題があるように思う。（工, 30歳代, 男）
◆私は工業会社に勤務していますが、今の自分から観て大学および大学院で学んだことは、間違ってはいないが、現実に即していないことが多かったと思います。もう少し、特に一流企業との共同研究などを通じて、大学教育を現実に合ったものにしていっていただきたいと思います。（工, 30歳代, 男）
◆自由ではあるが、やはり放任といえた。自己責任をきちんと認識させることが重要。（工, 30歳代, 男）
◆本当に学業に専念したい人の為の受皿は十分に用意すべきだが、押し付け、強制にならぬ様考慮した方がよい。（工, 30歳代, 男）
◆教職員に「研究」と「教育」の2つの仕事を両立させるのは非常に困難だと思います。「教育」専門の職員もいていいのでは？（工, 30歳代, 男）
◆･教育者の姿勢がよくない。教えられる姿勢が悪いからと言うより、教え方が悪くわからないから生徒が離れていくとの自己反省に立ち、もう一度教育方針、教材について検討してほしい。･もちろん教えられる側にも問題はある。今の大学資格取得のためのものであり、大学に合格すればそれは半分以上達成されてしまう。やはり卒業はもっと厳しいものにすべきではないか。（工, 30歳代）
◆カリキュラムの自由度を高めつつ、単位取得に対してはより厳しくした方がいい。（工, 30歳代, 男）
◆自由な学風が良い。（工, 30歳代, 男）
◆無意味な、教授の趣味に走っているような教養の授業は廃止すべきである。（工, 30歳代）
◆学生時代、私は余り熱心に勉強していた方ではないが、京大に限らず、大学生は余り勉強しなくていいといような風潮があるのは良くないと思う。特に京大はその傾向が強くて、私が入学したときは、教養は授業に出なくてもいい、みたいな感じだった。教養課程でももう少し学生が社会に出て役に立つような内容にすればいいと思う。（工, 30歳代, 男）
◆教授の専門と講義の内容が乖離している。学部レベルに教える内容と先端研究でギャップがあるのは致し方ないが、もう少し何とかならないものか。大学院では、研究ばっかりやっていたが、近視眼的な見方になりがち。博士後期課程にも講義を充実したほうが良いのでは?（工, 30歳代, 男）
◆英語教育に関しては、英文学の講義ではなく、英会話、英作文中心に改めるべきである。また、私の当時は外国人講師の英会話は倍率が高かったが、全員が受講すべきである。近年では、大学での講義だけでなく企業実習等も必須だと考える。（工, 30歳代, 男）
◆企業交流（国内、国外とも）に力を入れるべき。 起業を前提とした教育方針をとるべき。自分自身が成し遂げたいことを社会の中でいかに実践していくのかも理念と同時に考え、身に付けることが必用。（工, 30歳代, 男）
◆(私の発言の背景については問18自由欄末尾で述べます)　1) カリキュラム：ゼロからの再構築。 教養課程･専門課程も含め、すべてのカリキュラムを白紙から組みたて直し、 能力ある人材の育成という観点から真に合理的なものを確立すべきです。日本の他の大学の範たるのみならず、国際的にも最高水準のものを確立する必要があります。海外の大学のカリキュラムの徹底調査が必要と思います。最大注入主義はとらない、という明治以来のポリシーは、時代の変化により、も （以下、不明）（工, 30歳代, 男）
◆工学部だったので感じたことかも知れませんが、教養課程の物理･化学の内容について、3回生以上で学ぶ内容とかなりの部分で重複していたように思えます。余り重複しないようなカリキュラムを組んでほしかった記憶があります。（工, 30歳代, 男）
◆学部、大学院を通じて、特に講義形式の専門科目の内容は薄かったと感じている。10年前から変わらない講義ノートを使った板書や、全体像を見せることなく重箱の隅をつつくような各論は、研究活動にも卒業後の生活にも余り役に立っているとは思えない。（工, 30歳代, 女）
◆外国語教育をより一層重視して下さい。私が学部生の頃は英会話系の授業をとることができませんでした。 専門系科目に関しては、講義内容に全体観、つまり自分が今何を学んでいて、どういう意味があるのかということを学生にわからせることができるかどうかが重要だと思います。 卒論、修論、博士論文指導に関しては、個々の学生の能力に依存するところが大きいので特に教育という面での問題はありませんが、たとえば国際会議参加費の補助などはもっと多くていいと思いました。（工, 30歳代, 男）
◆学生が勉強せざるを得ないような環境作り、学業に対するモチベーションの向上維持のための工夫が必要。 実践的外国語教育が必要。大学卒で英語もまともに操れないのは日本くらい。お粗末。（工, 30歳代, 男）
◆専門に関心のあるものには早くから専門の講義等を受けられるように配慮した方が良い。そうすれば、一般教養の選択や取組み、更には熱意も変わってくる。（工, 30歳代, 男）
◆何事も個人の自由にやらせるのが良い。（工, 30歳代, 男）
◆工学については、正直な感想として、産業界に対するアピールがほとんど無い（世間一般からすれば、何をしていて、どういった協業ができるのかさっぱり判らない。）。（工, 30歳代, 男）
◆一般教育科目と専門科目のリンケージが充分でないために、 一貫した知識体系として身につきにくいと感じた。（専門科目を履修する際に必要とされる分野を独学する必要があった）（小生が学部学生の頃。現状は改善されているかもしれません

が…）（工, 30歳代, 男）
◆学生に必要なもの、学びたいことを把握してから、絞り込んだカリキュラムをすべき。（工, 30歳代, 男）
◆在学して非常に有意義でした。（工, 30歳代, 女）
◆旧教養部の復活を熱望する。（工, 30歳代, 男）
◆個々の自主性を尊重し、熱意のある者には応えられる環境が望ましいと思う。 前者はこれまでにも当てはまると思うが、後者はより改善が必要では。 最近の一般的な大学における、専門学校的な教育を重視する議論とは一線を画した スタイルを貫いてほしい。（工, 30歳代, 男）
◆自習で学べる環境がより整えばよいと思います。 なかなか講義によっては教科書だけでは難解でついていけないと思います。（工, 30歳代, 男）
◆在学生だけでなく卒業生などにもある程度門戸を開き、大学内だけの閉鎖的な部分でなくもっとグローバルな研究ができる環境作りが必要かも。勿論、企業に媚を売るわけでは決して無い。在学・卒業生の交流機会があってもいいのでは。（工, 30歳代, 男）
◆学部生にとって、研究のイメージをつかむ機会が少なかった気がする。演習や、一部の講義では、特定の分野の研究がどんなものか垣間見る機会もあったが、かなり意識の高い学生でないと、早い段階から問題意識がもてるところまでいかなかったように思う。　体系的なカリキュラムも重要だが、たとえば「こんななぞを、いま世界中の研究者が解明しようとがんばっている。こんな説やこんな説がある」という所から出発して、そのために必要な基本の学習をする…というのであれば、問題意識を鮮明にして講義にのぞめるのではないか。　そうしたオリエンテーション的な機会を充実させるべき。入学時、3年次の2回くらい。（工, 30歳代, 男）
◆漫然と講義を受けるだけでなく、何故それを学ばなければならないかを知る必要がある。したがって、インターンシップ等1回生のうちから、会社実務でどんなことをするかを学んでおく必要がると思います。（工, 30歳代, 男）
◆単位の認定・不認定等に関わりのない自主ゼミ等に対するバックアップの強化。（工, 40歳代, 男）
◆実社会は、基礎の上に立った応用動作の連続で、いろいろなバリエーションが出現します。ですから、いろんなベースを持っておくことも必要ですし、それをどう応用したらどうなるかということを道筋・パターンを知っておく（引き出しをいくつも用意しておく）ことが生きてくると思います。 大学入りたての頃はまだまだ情報の洪水の中で、自分の興味や関心を絞り切れていない人が多いと思うので、徐々に自分の進路方向を見極めるのに必要な事が教育機関として出来ればよいのではないでしょうか。（工, 40歳代, 男）
◆学生の自主性を尊重する雰囲気は、伝統として根付いていると思う。時代に流され、管理漬けの教育方針とならぬようお願いしたい。（工, 40歳代, 男）
◆卒業し、同じ会社の同期入社社員と接触すると大学によって、学業、研究そして会社の中の仕事（技術検討、研究など）に対する取組み方、姿勢が、まちまちであることを感じる。まじめ人間か、私生活を優先しているか、などなど。京大OBはどちらかというと、バリバリまじめ一本ヤリというよりは、知的に一歩引いているような感触である（自分がそうであるから）。それは、大学、大学院生活の過ごし方と関連していると考える。自由な束縛されない学生生活であったかと思う。京大での教育を上から改善しても、学生はついて来ない。自主的に変わろうとすることこそ、価値が、京大らしさが出ると思う。（工, 40歳代, 男）
◆大学卒業生の集団は、今は二つの山のある分布になっていると思われます（成績、修得レベル）。もともと、ポテンシャルが高いのにも関わらず、卒業時にこのような差が現れるのは、大学での教育、単位修得のシステムにあると思われます。必要以上に専門的な分野を重視しすぎないようにすること。基礎教育の徹底と厳格な単位認定を実行するべきだと思います。研究も大切ですが、これができるためには基礎の部分を重視する方が、結局近道であると思います。（工, 40歳代, 男）
◆（本来家庭やそれまでの学校で行うべきであるが）人間としてのしつけ教育を最低限行ってほしい。地球環境を論じる人がデッカイ車で通勤・通学したり、人前でタバコをふかしたり、平然とポイ捨てする人が教授でさえいるのだから情けない。（工, 40歳代, 男）
◆先生の講義は面白くなく、学生は勝手に勉強すればよいという感じであったが、これが京大のよいところであり、悪いところではないか。（工, 40歳代, 男）
◆高校と大学は違うと思って入ってくる学生に研究室、ゼミの魅力を最初に与えることが必要と思う。（工, 40歳代, 男）
◆大学の1年生より、演習を中心とした教育が重要である。数学教育と語学の演習が一般教育としては弱く、社会に出て欧米の研究者と競争するうえで、ハンデとなった。特に数学教育にもっと力を入れるべきである。専門科目としても、実験や演習を中心として講義形式の形態は退屈なだけで、学ぶ喜びが低く高校生の延長としてしか感じられない。（工, 40歳代, 男）
◆専門科目について学ぶのは、当然であるが、一般教養科目が非常に重要であると考える。社会に出たときの行動の規範になるのは、一般教養であり、少なくとも小生の場合、大学時代に学んだ一般教養の影響は極めて大きい。京都大学には、それを学べる環境があった。それを大切にしてほしい。（工, 40歳代, 男）
◆就職の採用活動で面接する機会が多いが、東京の六大学と比べ、余り政治・経済の基礎知識に乏しい気がします。京都というのんびりした風土・環境がそうさせるかもしれませんが、京大 自由な風土が逆に学生に何も勉強せず遊ぶだけの人間を生み出してはいませんか。能動的、積極的な学生が余りに少ない気がします。（工, 40歳代, 男）
◆自己の教養を対外的（外国）に示し、自己主張ができるよう英会話能力が必須と考える。大学のみの問題ではないが、2年間外国語教育を学ぶのであれば、実際に役立つような内容にすべきであろう。数学教育については、基礎と応用（実際問題への適用）を併用し、（概念のみでなく）実感をもてるようなものにしてほしい。自然科学、人文科学いずれも教官側の努力も不

可欠である。学生に興味をもってもらいたい。ここが面白いんだ、というような意気込みが感じられなかったので、是非教官側の自己点検を行ってもらいたい。（工, 40歳代, 男）

◆教養課程は不要。（工, 40歳代, 男）

◆・一般教養科目：大学院においても学ぶ必要があると思う（科目として）。卒業後の社会または研究活動及び人間形成の点からも不断の勉強・努力が要求されるためである。 ・専門科目：大学院に入って専門性を増すのは仕方ないことであるが、卒業後のこと（特に企業にとって）を考えれば、専門的なこと以外にも、その前後の融合領域の学問についても幅広く知っておいてもらいたい。 以上のような幅広い教育を望む。大学教育によって、個人の活躍の場を狭くすることのないようにしておいてもらいたい。（工, 40歳代, 男）

◆学際研究に役立つように、広い範囲で学部間の交流が必要です。（工, 40歳代, 男）

◆・学生が教授や講義を評価する制度の導入を希望する。 ・国際化に対応した教育(例)英語での人文・科学系の学習、英文での研究論文発表の義務化。（工, 40歳代, 男）

◆大学院大学としてより研究にシフトした教育を期待する。（工, 40歳代, 男）

◆一般教育も必要だし、専門教育の比率をupしても良いと思う（特に理科系）。（工, 40歳代, 男）

◆1. 実践的でない。 2. 産業界の動向に対し、全くといっていいほど、目を向けられていない。 3. 教養課程は高等学校とのダブリが多い。2年間の不毛！（工, 40歳代, 男）

◆専門教育における基礎部分の教育をもっと重視すべきである。社会の現場では専門性のある理論なり考え方を直接は使えず、自由な発想での応用問題が数多い。その際、専門分野の基礎的な知識や経験があるとないとでは、応用の仕方にも自然と大きな差が出てくる。高度な理論だけが頭に入って、基礎的な部分が抜け落ちると応用の利かない堅いだけの社会人になってしまう。（工, 40歳代, 男）

◆工学部であれば、関連する企業の研究所・工場等で実地教育でやった方が良いと考える。（工, 40歳代, 男）

◆学外講師の積極採用：私の専攻した土木工学の卒業生は、当時は国家公務員、建設会社、コンサルタント、メーカー（製鉄、重工業）等に就職しましたが、そういう就職先の方々を学外講師として招き、実社会では何が必要か、何を求められているかを伺うことは有意義だと思います。（工, 40歳代, 男）

◆外国語教育：実際にビジネスマンや学会で使えるレベルから余りにも程度低い。全世界でプロが集まって激論するので、Debate能力であり、どれだけ説得力ある意見をまず英語で言えるかである。経験や米国人に言わせると、まず文法や言い回しよりpronunciation発音がきれいでないと聴けないと言う！卒業して20年間実践的な習わなかった表現と発音とヒアリングに集中して毎日勉強しているが、大学がいかに世間知らずかよく分かった。失礼で申し訳ないが、すぐ大変革して社会から教師を求めるべきだと思う。 専門・研究教育：世界は大学に人と種を求めている。残念ながら人は共通一次でロボット人間化された人を作られているので、社会、特にグローバル化した今の全世界競争の時代では役に立たない。いかに自主的に何をやりたいか自分で考え、そこで磨ける人を作らないと社会でも学会でも遅れていくだけだ。研究はもっと世界から学者や教授を受け入れるべきだ。世界は今一つになり生き残るものは誰かの競争の時代だ。世界一の人、物を集める組織だけが社会と学会に貢献できる。（工, 40歳代, 男）

◆・社会人教育、実社会との交流にも注力するべきと考えます（※私どもが在学していた20年以上前の感想ですので、今がどうか分かりませんが）。 ・入学後の転部、転科を条件付き（試験、面接）で、より流動的にすればどうでしょうか（そもそも入学時に明確な将来像を持った者は少ないので・・・）？ ・問13にある良い点を今後とも守り得ることが、実は大事と考えます。 ・不動産、経営（私どもの領域）をもっと取り扱ってもらえれば有り難いのですが・・・その際は是非協力します。（工, 40歳代, 男）

◆・京都大学が日本の最高学府として社会に有用な有能な人材の教育を行っていただきたい。基礎的な学力はもとより、ものの見方、考え方、幅広い判断力を養うことに大学として影響を与えてほしい。 ・大学院として自然科学、工学の学問的基本を究めるのは当然であるが、国内の製造業にいる立場から、日本の国際競争力強化に京都大学に集まる優秀な研究者、研究成果が活かされることを切望する。21世紀に入り、米、韓、台等の復活、台頭に対し、日本の理工系の卒業生の相対的競争力の低下は、後に続く世代の将来を思うとやりきれない。これは企業側の体質にも問題があるのは言うまでもないが、まず、優秀有能な人材を供給、社会が育てる必要がある。（工, 40歳代, 男）

◆教育は自由を重んじる学風を推進されたい。ただし訓練に力を入れる必要があるのではないか。アカデミックな基礎研究と社会のニーズを関連付けて明示する必要がある。はっきり言って過去の遺物で居座っている教授が多くいるのではないか。 外部や一度外部へ出たことのある人材を広く採用すべきだ!!（工, 40歳代, 男）

◆世界で活躍できる人材。つまり、人格に優れ、視野の広い人材を育ててほしい。（工, 40歳代, 男）

◆自主性を重んじる気風の何たるかを理解するのに多くの時間を要した。入学時に大学とは、京都大学とはについて議論、教育する場が必要ではなかったか。（工, 40歳代, 男）

◆授業（教育）に力を入れるべきである。・少人数の授業・教官の学生による評価・熱心で分かりやすい教育・小テスト（quiz）の頻繁な実施。（工, 40歳代, 男）

◆最近は様変わりしているのかもと思いますが、最近の状況は知りませんので、昔の私が学生だった頃の印象を書きます。1。外国語教育はすべての基本。もっときっちりした教育をしてほしい。私はドイツ語を選択したが、文庫本を1冊読むだけでほとんど役に立たなかった。専門に入って原書をゼミで読破した方が役立った。多読、会話等より実践的な教育を望む。2。一般教育を身に付けさせること。高校までは受験技術だけを身に付けるしかないので、大学の教養部で一般教養を身に付ける必要がある。よりよい選択肢を提示し、身に付けるべき教養の幅広さを示してほしい。3。研究は自由・独自性を。私の頃は実験設

備も手作りで、自由・独自の風があった。今はどうなっているのか・・・？（工, 40歳代, 男）
◆学部時代はキチンとした基礎学力教育、大学院ではその応用としての研究を中心とした創造力を養う教育でよいと考えるが、常に全体構想の中での先進研究であることを十分に認識させる訓練をしてほしい。教員のビジョンと学生のやっていること、取り組む考え方に乖離があるのではないか。単なる研究員にしか大学院修了生がなっていないと思う。（工, 40歳代, 男）
◆最近の卒業生で当社の場合、社会人として通用しない社員が増えている。非常に自分本位でマザコンというパターンが多い。無責任な先生方が増えているのも事実ではないか。もっと肉体労働、ボランティア、体育会運動部を進めてはどうか。（工, 40歳代, 男）
◆学校の成績が良い人で役立つとは言えない。実感からいくとむしろ逆。高校の延長のように学位取得に重点を置かず、確固たる物の見方、教え方のできる人を育成していただきたい。（工, 40歳代, 男）
◆もっと社会に出て役立つことを教育すべし。企業実習などを取り入れるのも一案では。一般教養課程が長すぎ。大学の4年間は専門科目でも充分。（工, 40歳代, 男）
◆【教養科目】数学では難しくてついていけなかった。例えば線形代数。教授の自己満足のような講義であった。ポイントを絞り、分かりやすく教えて欲しかった。【学部教育】2年生の時の①計算機演習（フォートラン）②確立・統計の応用、で分かりやすいきちんとした講義を受けた。これは学部における教育であった。【大学院教育】よい講義もあったが、教授の自己満足のような講義もあった。☆講義に対する生徒評価を実施すべきです。（工, 40歳代, 男）
◆自由闊達な精神を育む教育をこれからも是非お願いいたします。（工, 40歳代, 男）
◆【教養教育について】社会に出て役立っているのは、大学での教養教育よりむしろ高校の日本史であり、公民であり、世界史であり、化学である。特に人文・社会科学系においては記憶にほとんど残っていない。本人の関心テーマがどうかによるが、印象に残るような講義内容・方法を追求してほしい。【専門教育について】実習、演習は学術と実践の間にあって、最も必要・重要であると思うが、社会に出ていかに活用されるか、どの様に仕事をするのかが、まだ分からないままに卒業した感あり。一般的に就職してから、企業教育により、技術をほとんど身に付けている技術者がほとんどであると思う。在学中に企業体験、社会経験できるような制度（インターンシップ）が工学系では是非とも必要である。（工, 40歳代, 男）
◆専門課程で必要な科目の講義を質量とも高めることが必要だと感じます。3回生までに集中して基礎を固め、4年次は研究（卒論）にあて、その質を高めることが必要なのではないでしょうか。教養教育も必要と考えますが、そのレベルを高めるためゼミ形式、小教室形式にした方が良いと考えます。専門分野の教育、研究については、民間との交流をもっと多くして、考え方、ニーズ、進め方等良い面をどんどん取り入れるようにされた方が活性化に向けて得るところが多いと考えます。（工, 40歳代, 男）
◆一般教養科目を勉強する機会を減らさないでほしいと思います。（工, 40歳代, 男）
◆・一年から専門科目の講義がある形式が良いと思う。（従来の教養部方式に比べて）・年次が上がるにつれて忙しくなるのでバランスを保った方が良いと思う。（工, 40歳代, 男）
◆一般教養科目の内容が不十分である。（工, 40歳代, 男）
◆※質問の意図には反しますが、私は、高校教師（数学）をしておりますが、夏休みに京大へ行き、数学の公開講座を受講したりしておりました。本来は、相対論や、量子論に興味があり、独学しておりますが、本を読んでも理解できない所が多くあり、教えていただきたいと強くも望んでおります。物理学に関しても、社会人が、学べる場がほしいと思います。（工, 40歳代, 男）
◆昔のことなので、現在はどうかわかりませんが、「自由の学風」がややもすよく勉学からの逃避に結びついたキライもあったと思いますので、改善の余地があったと思います。（現在はそのようなことはないのでしょうが。）（工, 40歳代, 男）
◆入学した時点で、問13にある教育の特徴、世の中の動向等を充分理解させ、学問に取り組む姿勢を自覚させることが重要と考えます。そのためには、オリエンテーション等を1回生、2回生に対してくり返し行うなどの対処が必要でしょう。*昨今の状況（不景気、デフレ）、バブル期の状況、終身雇用制や手功序列制の崩壊の可能性等を大学側から、あるいはＯＢを動員して、周知することが必要と考えます。（工, 40歳代, 男）
◆企業においては、実践的能力が重要視される為、創造的能力を上げる教育を実施していただきたい。又、国際化にともなう英会話能力は必須となっている為、この点の能力開発も重点的に実施してもらいたい。（工, 40歳代, 男）
◆大変に自由な学風で自主的な勉強を尊重することはすばらしいと思う。是非継続して行ってほしいと思います。（工, 40歳代, 男）
◆基礎学力と共に、①人と話をするor交渉することのできる人材。②自ら考える人材を育生いただきたい。従って、ある程度学力レベルの高い集団で、学生生活を送る場を形成いただきたい。（工, 40歳代, 男）
◆研究生として医学研究科に入れてもらったのは、うれしかった。（工, 40歳代, 男）
◆すべてのアイテムをこなすには、時間的制約もあり無理。これだけはという項目を徹底的にたたきこむ方が良い。（例：熱力学等）専門馬鹿にならないため、人文系も力を入れるべき、その場合、具体的問題（時事問題学）で進めるのが良いと思う。（工, 40歳代, 男）
◆社会人になって思ったが、京都大学の専門科目の研究は現実離れしていて、実社会にすぐ適用できないものが多い。阪大は実社会向きの研究が多く、会社で行き詰った場合阪大へ相談に行くことが多い。もう少し、実社会に即した研究を行ってほしい。また、外国語教育も実際に使える外国語教育を目指してほしい。一般教養は必要なかったように思う。（工, 40歳代, 男）
◆学風は、基本的に学生自身に任されており、環境は非常に整備されている。（学内、学外含めて）この点は、今までどおりでよ

いと思う。向上心に燃える学生が勉強すればよいのだと思う。そう思わない学生は勉強しなくてもよい。問題は、そういう学生が入試に合格することだと思う。（自分も含めて反省している。）但し、勉強しない学生にとっても思考の組立て、研究のやり方等社会に入って役立った事は多くその点は感謝している。雰囲気としては、デキの悪い学生には、多少冷たく感じるかなぁ。教授にしても、何年かに一人デキる学生が居れば良いさという考えが見てとれる。別に、今までの方法は変える必要はなく、時代に迎合することはないのでは。（工, 40歳代, 男）

◆学部大学院での研究活動は人間形成や物事を進めていく上での考え方の確立など、就職してからの業務遂行するために大変役立った。学部での講義は、こちらの自覚も足りなかったのか、ただ受身的に講義を受けてしまい、自分のものにできなかったのが現在悔やまれてならない。学生が、何らかの意識を持って、講義を受けれるような体制を検討されたい。（工, 40歳代, 男）

◆1. 民間の研究者との人事交流も進めていって下さい。2.「独立行政法人化」というような話もありますが、”変えたほうが良いことと、変えてはならないこと”とを区別して、ご検討下さい。（工, 40歳代, 男）

◆大教室での講義は楽しくない。研究室やゼミといった小単位で互いの人間性を感じながら授業できるとよいと思う。（工, 40歳代, 男）

◆研究活動（卒業研究・修士・博士論文）をとおして様々なことを学んでいくところに意義があると思う。講義形式の一般教養科目から得るものは少ないようだ。（工, 40歳代, 男）

◆半ばシャレではあるが、教授たちから打倒東大と言われ、教育されましたが、今もそうなのでしょうか。今考えてみるとそれも良かった、と思えます。（工, 40歳代, 男）

◆一方的な講義形式が多かった。双方的な方式にすべき。（工, 40歳代, 男）

◆必要単位数を減らし、深く学ばすべきと思う。特に教養課程。社会に出てから役に立たない物が多い。（工, 40歳代, 男）

◆外国語教育だけは、何とかすべきと思う。全く役に立ってない。もっと実践的な「しゃべる」「聞く」能力に焦点をあてた講義が望ましい。（工, 40歳代, 男）

◆・英会話を強化すること。・卒業してしまったと思うことが多いため、英会話については強制的に学習するようにした方がよい。・専門科目は一般社会では「常識」として活用される。ただし、専門科目だけでは使い物にならず研究活動を通じた「思考力」「分析力」の強化が重要と考える。（工, 40歳代, 男）

◆自由な反面、学生がのんびりしている傾向にある。もっと学生間に競争を促すようなシステムを入れるべきだと思う。京都という場所の特性があり、それが特徴を出している点もある。しかし東京にいると情報発信量が少なく感じる。（工, 40歳代, 男）

◆企業側から見ると、旧帝大や早慶等有名私立大が優秀な人材を輩出しているとの評価に変わりはなく、今後もその責務を担ってほしいと思う。しかし、今の大学教育制度、即ち、入試だけむつかしく入学後は、2年の一般教養課程、2年の専門課程で単位さえ取れば誰でも卒業できるという制度は、効率的とは言えない。結局企業は一部ブランド校に入学できる能力が、企業にはいってからの活躍を保障してるということで採用しているのだと思う。大学の教育は世界で戦って行く能力を養成するという目的を果たすために、改革されねばならないと思う。私は一般教養課程は全く役立っていないと思う。この2年間に、日本の大学生は①コンピュータの能力②Native並みの英語能力の2つは最低身につけるべきだと思う。②のためには、最低半年できれば1年は留学させるべきだと思う。①も半年くらいの教育は必要である。また、ビジネスを目指すなら③経営学も半年程度の教育期間が必要だと思う。①～③をしっかり、一般教養課程の2年間に学べれば素晴らしいと思う。こう言った一般教養課程を過ごした学生に、専門課程を受けさせ、社会に送り出すことが京都大学に求められていると思う。こういった課程で育つ学生は、相当前向き積極的かつ優秀でなければならないので、成績のみ優秀な人間をスクリーニングする今の入試制度ではダメかも知れない。やはりよく言われるように、高校時代の各種活動を評価したり、論文で自分の考えを述べさせることで、その人間の能力を評価することが必要になって来るであろう。入学後の学生の評価も担当の教員をつけて木目細く行う必要があろうし、やる気・能力が欠けるなら、卒業資格を与えないことも当然考えるべきである。この実験的試みはいっせいに全学部で行うことはできないであろうから、ある特定の分野、例えば、ビジネススクール学科として発足させ従来と異なる入試、一般教養課程、専門課程を経て、学生を卒業させるということからスタートしてはどうか。この実験が成功するには、学生の意識改革と教員の意識改革の両方が必要であり、大変であるが、米国などでできていることが日本にできないことはないと思う。今の日本の学生は、受験勉強から解放され、もっと様々な活動に積極的に参加するとともに、英会話の能力をつけるべきだと思う。これからの国際競争に打ち勝つためには、そう言ったことが備わっている人材がいないと、企業は生き残れないと思っている次第です。（工, 40歳代, 男）

◆学部卒では、実務には全く通用しない。又専門での、ゼミ活動は中途半端で消化不良気味なまま卒業してしまった。ストライキ世代の後悔かもしれない。基礎研究、教養の講義も大切だと思うが、それに実社会の実務感覚が卒業前に体験できていたならと・・・今頃思っても仕方がないのですが・・・。（工, 40歳代, 男）

◆教養部の教育レベルは高く、自由度もあり大変よかった。学部は教師の熱情（教育に対する）がうすく、又、将来への展望が見にくい感がした。教官が研究に多忙で、もっと学生と交流できる余裕がほしい。（工, 40歳代, 男）

◆自由な学風を続けてほしい。（工, 40歳代, 男）

◆現在の大学の状況は良く分りませんが、私の在学時には教養科目にも専門科目にも教育者として魅力ある先生が少なかった思い出があります。現在はどうなっているのでしょか？（工, 40歳代, 男）

◆当時の京大の教え方（校風）は間違いではないと考える。入試を突破したとは言え、単なる詰めこみ、ゲーム感覚で得た能力である。大学では、自由に考え、討論することにより、自分の考えややり方を身につけることが社会に出てから重要。例えば、

私の工学部等、理系に於いては、例え研究成果はたいしたことはなくとも、学生が一から考え、研究・実験し、得たものであれば、実社会では必ず役に立つ。しかし、これとは別に、もっと実務的な指導も必要とも思う。即ち、プレゼンテーションの技術、コミニュケーションの技術。ほとんどが、会社員となる訳であるから、単なる成績の良さだけでは世の中は厳しい。（工, 40歳代, 男）

◆ふりかえってみると、9割以上は満足したと言える。教養の授業も充実していた。専門（工学部、高分子化学）はこれ以上は望めないと思えるほどだ。（昭和51年～昭和60年）一部の教官には大いに問題があった。特に独語。語学（教養）は非常勤が多いので、問題教師もいるのだろう。授業中、何度も喫煙していた。煙たかったことを覚えている。生徒をよく「バトウ」した。 研究と教育とは一体だ。研究のおそまつな教官にすばらしい教育はできない。しかし、いくら研究がすばらしくともやはり教え方の「ヘタ」な教官もいた。ごく少数ではあるが。（声が小さい。板書の字が小さい。語いが不明瞭）（しかし、レベルの高さが維持されれば半分は満足すべきであろうと思う）（工, 40歳代, 男）

◆当時の教養部はアクティビティーがなかった。（工, 40歳代, 男）

◆①他の大学（大阪大学、横浜国大）に較べると京大は、良く言えば「自由」悪く言えば「野放し」である。（講義等） 技術系ではあるが、大学で学んだ事が即座に役立つことは余りないし、卒業後に十年以上経過すれば、それらの知識は陳腐化するのである。 陳腐化しないのは ・新しい問題に対するアプローチ方法 ・新しい問題を見つける臭覚 等である。 ここらを大学時代に訓練しておけば社会に出てから数十年役立つ技術となる。「自由」な校風を踏まえて、「しっかりとした基礎」を教育することを望みたい。 ②京大は総合大学のためか、他大学出身者（東工大）に比べて幅広い考え方をする者が多い気がする。この特質を生かした教育ができるようなシステムを行えば日本の将来に寄与するのではないか？例えば、技術系、文科系を組ませたグループで演習、ゼミを行うなど。（工, 40歳代, 男）

◆昔のことで余り覚えていない。当時は、先生方が教育より研究を優先していたように思う。当時と今では違うだろう。実社会を意識した教育をすべきではなかったか。もっとも先生方自身が実世間から遊離しているかもしれないが。インターン制度の導入etc（工, 40歳代, 男）

◆カリキュラムをグローバルスタンダードに近付けることが重要。「自由な学風」の美名の下に、教育への責任が、果たされていない面があるのではないか？文科系においてこの傾向が顕著。従来の終身雇用、社内教育を前提とした社会、会社の中にあっては、学生個人個人が自問自答していく期間としての学生生活が許容されていたのであろうが、これからますます激化するメガコンペティションの中では、経済系、法政系を問わず、グローバルスタンダードの知識を持っていることが重要。カリキュラムの整備に力を入れていただきたい。（工, 40歳代, 男）

◆研究者の育成、有能な職業人の育成の両面で高等教育としての大学の教育の在り方と現状を見ると、京都大学においては（工学部）時代の産業のニーズに沿った学科の構成を昭和30－50年代にとっていたが、最近は大学院大学（学科専攻）など専門研究の高度化指向もみられる。それらの推移と、研究論文の傾向（実用研究、理論研究、海外投稿など）を統計化し教育の成果としての研究論文の今後の在り方等参考にしてはどうか。（工, 40歳代, 男）

◆①学生の自主性を尊重して下さい。 ②管理は、程々で良いと思います。 ③グローバルな視点を養う一般教養を取り入れて下さい。 ④校風の良い面は、これからも是非引き継いで下さい。（工, 40歳代, 男）

◆社会で活躍するために以下の点が望まれます。 ○国際化へ適応できる人材教育 そのためには 1. 教養科目で英語スキルのアップ 2. 海外研修制度等、海外知識へ目を向けることのできる機会の創出 ○変化している社会で真に望まれている研究の推進。 常に研究内容の評価を行い、新規有望分野への対応を迅速にできるような制度、予算化の確立 ○学生が社会の状況を理解し、興味を持ち、自分の将来をその中で発展させる（青写真が持てる）教育。 講義と実習などが社会の実像と離れる事がないように。理系の専門期間であっても社会の情勢、政治、国際問題などに触れる講義の必要性。（工, 40歳代, 男）

◆大学は専門性の高い人材を育てる所だと思う。教養課程の人文、数学、物理、等は化学の研究には全く役立たなかった。それらの科目は高校程度で十分だった。一方、化学に関しては全く力不足で、会社にはいってから、かなり勉強せざるを得なかった。マスターして行った方々も同様だと思う。20年間高分子を研究してきたが、その重要性は高まってきている。日本化学会の次に大きい化学系の学会は高分子学会であることからもわかる。高分子化学あるいは高分子科学にさらに力を入れる必要がある。（工, 40歳代, 男）

◆才能ある人材が多いが基礎的教育も重視すべきである。（工, 40歳代, 男）

◆ほとんど授業に出席しなかったが、どのような科目を教えているのかには興味を持続させ、自己流に勉強した。”研究”の仕方を大学（研究室）から教えていただいた。教えることに及々とする大学になってほしくない。まわりの卒業生は自由な いいかげんな大学とそれを持続させている教職員の皆様に敬意を払っている。（工, 40歳代, 男）

◆従来からの良い伝統に立ちもどり、自由、闊達な学生生活を送れるように、強制目的の手段は極力採らないように希望します。（工, 40歳代, 男）

◆本学だけの問題ではないが、自分が教育を受けた25年前と比べ、学生が非常に受け身的になってきている。また数年前に行われた学部改組によって、教養部が廃止された。このことも、間接的には影響を与えているような気もする。本学の教育の理念として、「自由、創造」といったキーワードがある。まず、自分で考え、学ぶ、といった点が、我々の時代にはあったと思う。しかし、これを実現するためには、高校までの「詰め込み教育」と、3回生からの「専門教育」の間に、「教養部」が必要であり、もちろん、「旧制高校」と比べると、お叱りを受けるかもしれないが、良いクッションになっていたと思う。「教養部」では随分遊びもしたが、文化系の科目も、それなりに、先生方の学問に対する姿勢は伝わり、カルチャーショックを受けるとともに、自然と専門

教育への準備ができていたように思う。現在の学生を見ていると、何となく、学部卒業生は昔の高校生、修士課程を出てやっと昔の学部卒業生といった感じである。学生の変革に大学がついていっていない。根本的には、小学校から高校までの教育を何とかしなければいけない。とりあえずは、現在の社会情勢から教官の定員増は期待できないであろうから、1）学部生をもっと減らしてきめ細かい教育をする、2）教える内容を減らし（昔の学部程度）、学生に学問体系の理解を深めさせる、といった対策が必要と思われる。また、研究が進歩しても3回生までの教育内容は増えないわけであるから、3）卒業論文で学会発表のに値するような研究をすると学生は内容を理解せず、逆効果にもなる。「答えのない／複数ある問題に対する取り組みを勉強する」といった感じに変更するのも一案である。（工, 40歳代, 男）

◆外国語教育については、専門に入ってからも行うべきと考えます。社会の要求するレベルは、どんどん上がっています。（工, 40歳代, 男）

◆自分は工学部出身だが、人文･社会科学系の一般教養講義は、非常に興味深く、京大での教育の幅の広さを示している。単に専門家養成だけでなく、人間教育に今後も力を入れてほしい。（工, 40歳代, 男）

◆最近の若者に共通して。①忍耐不足②プラス指向不足③プラス思考不足、を感じる。個人性の問題であり難しいが、大学生のうちに教育、改善できないだろうか。（工, 40歳代, 男）

◆現在の教育状況は知らないが、自分の経験からすると、学生に課題（宿題）をもっと課すなど、強制的に勉強させた方が良かった。教養科目は幅広い教養を身につけるものであるから、教授の専門とする部分のみを教えるのではなく、広い知識の提供に努めるべきであった。（工, 40歳代, 男）

◆私が在籍した1980年当時は、教養部と学部の間で、専門科目の配分がうまく調整されておらず、楽な2回生からいきなり詰め込みの3回生になってとまどった。4年間でバランスよく配分されていてほしいと思っていた。（最近ではかなり考慮されているように聞いていますが。）私自身は、当時は専門科目こそ重視していましたが、就職して、専門科目から離れた業務も経験するうち、人文･社会科学系の講義を、もう少しとっておけば良かったと思います。学生の意識の問題ですが、一般教養科目が選択できるのはありがたいことだと思っています。（工, 40歳代, 男）

◆専門知識を身に付けるだけでなく、物事を考える力、答えのない問題へ対処する力、問題を見つける力等を学べる様な大学教育を望みます。（もちろんある程度実践されているとは思いますが、一層の努力を期待します。）（工, 40歳代, 男）

◆･外国語、特に英語によるコミュニケーションが、益々重要になっていく。コミュニケーション力を増すような外国語教育に、力を入れてほしい。･社会人となった時に必要な資格を、もっと取るように指導してほしい。（工, 40歳代, 男）

◆教育は大学の責任ではない。受ける側がいかに取得するかである。その仕組を私は京大で学んだ。（工, 40歳代, 男）

◆一般教養は少なくしても良いのでは。（工, 40歳代, 男）

◆教養では幅広い分野で、最先端の授業をし、今後必要とされる視野の広い人材育成、また才能ある人が、目標を発見しやすい場とする事が望ましい。（工, 40歳代, 男）

◆昔のように教養課程において、一般教養を学ぶ時期もやはり必要であると思う。この時期は、十分に時間的余裕もあり、自分のやりたい事ができた時期である。社会に出てからは、専門も大切であるが、それ以外の活動も重要である。（工, 40歳代, 男）

◆私が在学していた当時しかわかりませんが、論理的な思考、プレゼンテーションetc.が養成できる教育が必要と感じます。また会社の新人採用で、学生の方々を面接する機会がありますが、こと英語力に関して、レベルアップしている感じはなく、むしろ低下していると思われるケースがあります。世界のTop levelの他大学との交流機会を増やし、井の中の蛙とならぬよう、学生を刺激することが、ひとつの改善策と考えます。（工, 40歳代, 男）

◆基礎研究的な教育を、応用研究的な教育の、両方を大事にしていただきたいと願います。（工, 40歳代, 男）

◆京大の近くに住む教授が、相対的に減っているので、学生と教授の交流が少なくなった。大学教官がサラリーマン化してはいけない。（工, 40歳代, 男）

◆京都大学の学生は、大学周辺に下宿しているものがほとんど（1970年代）で、昼夜の区別なく自分の信念を持った深い教養のある、多くの学友と密な交流を持ったことが、一番の教育であったと考える。大学教育の内容も、学生同志で、あるいは教官も含めて論じ合えることが、大切なことでないかと考える。その為には、内容だけでなくて、環境の整備（皆が集まって話し合える環境米国の大学のFraternity houseとか、Sorority houseなども参考に）が重要であると考える。（工, 40歳代, 男）

◆自分の学生時代、京大の教育の特徴を一口に言うと「勉強したい人にとっても、大して勉強したくない人にとっても、、それなりの自由を与えてくれる大学」という風に言えると思う。勉学の志ある学生にはそれなりの環境があり、勉強したくない人にとっては適当にやればまあ卒業はさせてくれる大学であり、そうした寛容さが大学のひとつの雰囲気を作っていた。学問に寛容さは大切なことであろう。何でも学生に点数をつけて容赦なく落第させる管理型大学にはこうした寛容さは感じない。そうした点は引き継いでもらいたい。また、学生／社会人といった画一的な線引きにとらわれず、社会に出ても仕事の経験から生まれた新たな疑問に対し、これを探索できるよう、必要に応じて大学に立ち戻れるような制度も考えていただきたいと思う。（工, 40歳代, 男）

◆専門課程において、余りにも“science第一”であったように思われる。（’70年代のことしか知りません）社会実務に眼を向けろとは思わないが、scientfic mindで社会needsを解決するという訓練を受けたかったと思う。その面では、教官も殻に閉じこもらずに、社会を見た上でscienceを極めるという姿勢がほしい。（scienceは何も理科だけでなく、logicalという面では文科でも同じ）（工, 40歳代, 男）

◆随分昔のことなので記憶が薄れていますが、専門科目よりは教養部での科目の方が（大学入学直後というせいもあって）印象

が強く、多く影響を受けたような気がします。現在の仕事が、学生時代の専門とは違う分野なので、残念ながら大学での勉強は役立ってはいませんが、これは京大のせいではないでしょう。ただ、これまでの仕事の中で感じたのは、専門科目について、理論的な部分はかなり教えられましたが、実践につながる部分がなく、実際の仕事に役立たないということです。教授方は研究者であることにプライドがあり、高級な理論を振り回したいのでしょうか。おそらく現場で利用できる部分は少ないものと思われます。高度な理論と実際の生産の現場の知恵と両方バランスよく教えてもらえればベストだと思います。（工, 40歳代, 男）

◆“自由”に重点を置きすぎている。少なくとも1. 2年の間は基礎教育(全教育)をどんどんつめ込み。3年以降に自由研究の時間を与えるべき。（工, 40歳代, 男）

◆・在学中、他学部の講義を多く受けたが、視野を広げるのに役に立ったと思う。このような自由な学風を維持してほしい。（工, 40歳代, 男）

◆・社会における技術者へのニーズが高度化、多様化してきている。このため、特に学部での、ニーズの変化にも対応しきれる基礎的な科目の充実が必要ではないかと考えます。（工, 40歳代, 男）

◆ ⑴ マンモス教育（1つの講義に50人以上時には500人も居る）はやめてほしい。⑵ 選択科目制度は廃止すべきだ。すべて必修とすべし。⑶ 文学部等のような文科系は2回生になるとほとんど履修科目が無く、学業に勤ますにブラブラ学園生活をおくる温床となっている。2回生から専門にするか、2回生もビッシリカリキュラムを組むべきだ。⑷ 教授の講義の態度も改めるべきだ。本当に学生に教育を授けようという気持ちが無い。自分の研究に重心を置き過ぎているから、無味乾燥な講義がほとんどである。教授の使命とは学問そして人材育成であることを肝に銘ずべし。⑸ 他の大学の様に卒業や教養修了の認定はもっと厳格にすべし。大変難しい入試を受験出来たからといって甘やかすことなく、真剣に学業に取り組まない人間はどんどん退学させるべし。⑹ もっと現実の企業・社会に役に立つ教育システムとしてほしい。本学の卒業生は企業や社会に入ると不評で暫く使いものにならない人材が多い（自分もそうだった。）（工, 40歳代, 男）

◆本学の卒業生の多くは有為な人材であるにも拘らず社会的変化や科学技術の進歩に柔軟に対応して創造性や指導性を発揮している人は意外に少ない様に思います。特に文科系より理科系、は工学部卒業者が多く企業に就職し、産業の変遷の波を被っている事に依る処は有るにせよ何か足りない様な気が致します。例えば専門家であっても行動力に欠け、小さな問題にも自らが使命感をもって解決や改革に取り組む事を避ける様な傾向はないか、大きな流れに乗る。沿う事を良しとして社会への貢献を見逃していないか等教育を少し離れた問題かも知れませんが、一卒業者として自ら自省するところです。本学の教育は確かにレベルが高く、先生方も立派なのですが、やや学者風に社会から見られ、又、卒業者も在学中に開拓精神を身に付ける事が出来ず、上品な優等生として社会に出ても今日の競争社会にその力を発揮できないのではないでしょうか。教育の原点、自分が何に向かって何を目的として進むのかを自己主張し、社会に認められることを実利を以ってなし得る事が今、再び問われている様な気が致します。（工, 40歳代, 男）

◆現在の教育がどのように行われているかよく知りませんので、自分の時代に受けた教育の経験で述べます。一般教養課程の2年は、受験勉強から解放されてのんびり自由にいろいろなことができたという点では、有意義だったと思いますが、大学での講義は余り面白くなく、その後にもほとんど役に立っていないと感じる。教養課程全体の位置づけ、年数については抜本的に見直した方がよい。例えば、1年で必要単位を取得し、次の専門過程に進めるようにする。もちろん2年やりたい人は2年でもよい。また、大学外の人（社会人）も広く受け入れる。理系の語学教育は、第2外国語を必須にするのはもはや無意味。また、専門課程でこそ英語の教育をする。テクニカルライティングなど技術系の人間にとって不可欠なものをしっかり教えてほしい。大学院での研究活動は重要であり、役立っていると思うが、研究設備を充実させないとやっていることがすぐに陳腐化する。（工, 40歳代, 男）

◆大学は基本的に「場」を提供するところであり、何をどう学ぶかは本人次第だと思うので、より「役に立つ大学」ということを過度に意識する必要は無いと思う。その範囲において、大学院はより「学者」養成の場に、学部は実社会に出て行く人のための基礎及び応用学力養成の場として位置付けをはっきりしていく方が良いのではないか？（工, 40歳代, 男）

◆・自由な学風は大事ですが、学生の学力の低下がおこらないよう、基礎学力については、強制的に大学が指導しないと学生は自主的には何々できないのではないか。（反省も込めて）・講義をより実践的に行ってほしい。・ゼミについても2回生や3回生から行ってほしい。文系では行われているが、工学系では行われていなかった。・ゼミも1つに入るのではなく複数ゼミをかけ持ちできるようにしてほしい。特に2回生や3回生の時には様々な問題意識に少し深く関わりたい時に必要ではないか。（工, 40歳代, 男）

◆数学中心の講義が多すぎる。工学関係の科目も、抽象的理論に多く時間をかけすぎてわかりにくい。具体事例を多く取り入れた方が良いと思う。また個人の意欲の問題もあるが、具体的に問題を多く解きながら理解を深める方が良いと思う。（工, 40歳代, 男）

◆第2外国語は必修とすべきでない。工学部でもスペイン語か中国語の選択ができるようにするべき。（工, 40歳代, 男）

◆専門科目で学んだことは時とともに古くなる。学部では、学問とは何であるかを考えさせる教育が必要で、人文社会、自然科学の分野を問わず教養科目を重視すべき。学部での専門科目は、基盤、基礎となる知識に重点を置くべき。（工, 40歳代, 男）

◆在校当時（1970～74）は臨時職員の問題等で授業が十分には、行われなかった時期でもあった。従って、正しいコメントにはならないかも知れませんが、…大学での教育では、基礎、基本、ものの考え方を教えて頂いたと理解しております。具体的な勉強(知恵、知識)は会社に入ってからの経験の中で得ております。又、小生にとっては寮生活、ハンドボール部(体育会)で得た社会教育が、大変役立っていると感じております。（工, 40歳代, 男）

◆私が学生生活をおくっていた頃は、学業や私生活について学校から干渉されたことはなく、すべてにおいて自己責任のもと、自由な時間を過ごせたことが貴重な財産になったと思う。学界にとどまる人を除き、多数の学生は、人格形成の仕上げの時であり、自由な学風のもと、自らの進むべき方向を見出すことができるような機会に数多く出会えることを期待する。(工, 40歳代, 男)

◆5年間海外勤務をして痛切に感じたのは、英会話力の無さであった。外国語教育では、外国人講師を投入して生きた外国語、使える外国語を学ばせることが、重要であると思う。(工, 40歳代, 男)

◆Ph. D.制度の導入。(工, 40歳代, 男)

◆一般教養科目が充実している。特に工学系の人間にとっては、最後の一般教養充実の機会とも思える。この伝統を大切にしてほしい。”自由⇒野ばなし”となるか、”自由⇒自己責任”となるかは、本人次第。本学の伝統に対して、自信をもって下さい。(工, 40歳代, 男)

◆サークル、アルバイトのみに流されないようある程度強制的に研究、勉強させるシステムも必要では。(工, 40歳代, 男)

◆20年以上前の事なので、時代は変わっていると思うが、当時はほとんど大学に行ってなかった(2年生の頃)。それでも、現代余り困ることは無いし、勉強不足だったとは思わない。ただ、他学部の人達との交流が余り出来ず、(私は建築学科)それが今もって残念と思う。日本の教育は専門職を余りの狭い教育で育てすぎると思う。最近入社してくる若い人を見ていてもそれを強く感じる。もっと幅広い情報を持った人間の育成に力を注いでいただきたいと望む。(工, 40歳代, 男)

◆昨今、大学の即戦力性を問われる事が多い様に思う。しかし、京都大学の卒業生は、即戦力でないと採用しないような、余裕のない所に就職してはいない。即戦力の知識など、数年で役に立たなくなる程度のものである。京都大学では、学生に対しては、何年も使える深い知識、知恵を授けて頂きたく思う。(工, 40歳代, 男)

◆研究成果に対する第3者による評価制度の導入講座制の廃止助手のポストの教授からの独立と助手の任期制教授のポストの50%は京都大学卒業生を採用しない。外国人教授の積極的な採用企業からの客員教授の採用学内からのベンチャー企業の創設の奨励時代遅れの研究室の廃止と新分野の研究室の創設クラブ活動の奨励。(工, 40歳代, 男)

◆自由な学風、やる気を持つものを伸ばすといった教育方法は、継続していただきたい。こういった方法が効果を発揮できるのは京大学生の資質が平均して高いためで、他の大学ではできないことと思います。また、勉強の面で不真面目な学生が社会の中で経済を動かす企業家として結果的に国を発展させると考えるが、そういった学習ができる場を提供できないか。たとえば、TLOを一般企業家プログラムに発展できないか。たとえば、その種の専門学校を学内に置くなど自由な学風の中に手付かずな優秀な人材を開発し、社会に送り出していただきたい。(工, 40歳代, 男)

◆京都大学の伝統である自由闊達の精神と学問追究の理想を維持し続けるためには、大学入試技術だけに長けた人達だけを入学させていたのではいけないと考えます。彼らは自分達の青春を入試突破だけにかけてきた不幸な人達であり、「懐の深さ」がありません。入試時点での点数は70点でも、様々な経験をし、自分の夢を持っていたり、悩みながらも生き方を考え続けているような「将来の成長余裕が残された人材」を探すような入試制度改革を断行していただきたいと思います。(工, 40歳代)

◆「東の東大、西の京大」というのは、実際大間違いである。大都市に存在する、大阪・名古屋が情報等の先端を行っており、京大は優秀な人間を集めていながら、「墓場」に等しい存在になりつつある。事実、かつて、東大が官僚的とされたが、現在は、その情報量の違いにより、リベラルになってきており、大阪・名古屋にある面(というか、一部を除いてほとんど)が抜かれている。京都にあっては、京大の将来が無い。(工, 40歳代, 男)

◆専門性は大事だが、学生に対しては、特定の分野に、捕らわれない、人材育成を目指し、ある比率で、世界的研究をしている、先生の講義が選択できるようにする。実社会との接点を、拡大すべく、自らが、経営する施設を持ち、その中で教育を行う。(工, 40歳代, 男)

◆自由闊達な気風で、好きですが、最近の学生の精神的なもろさを鑑みると(弊社の新入社員を見ていての感触ですので、京都の学生は違うかもしれませんが)、いいか悪いかは判断しかねますが、自身で問題点を見つけ、解決する能力を育成してただきたい。(工, 40歳代, 男)

◆私の在学中の講義では他大学と比して、余り実践的な内容は無かった様に記憶している。(工, 40歳代, 男)

◆学生の自主性に任せて自由に学問させるのはよいが、ある程度の方向性を示すことも必要である。たとえば、「この講義の単位を取得していないと、就職してから資格申請できない」などの情報は与えるべきである。(工, 40歳代, 男)

◆授業を軽視している教官の意識を変える。担当科目間での関連を検討する会議を持ち、調整する。また、授業内容をWWWに掲載するなどして、何を教えているか他の教官も調べられるようにする。長期的な視点として、「新教養」とでもいえるような講義・実験体系を作ってはどうか。旧教養的な授業科目はやはり必要である。(工, 40歳代, 男)

◆独創性を重んじる雰囲気を大切にしてほしい。また、海外の大学および研究機関との交流を積極的に進めてほしい。(工, 40歳代, 男)

◆選択科目が多すぎるのはだめ。必修科目が必要。ただし、その必修科目は、どの分野の専門家を育てるのかを考えた一貫性のあることが大事。(工, 40歳代, 男)

◆学生が十分な指導を受けられるように、教官の雑務を軽減して時間的余裕を持っていただきたい。(工, 40歳代, 男)

◆学生の主体性に任せた放任主義は継続すべき。学生による教官の公開による評価制度等を導入し、教官の質向上に努める必要があると思う。(工, 40歳代, 男)

◆アメラクの水野監督のような実践的教育を望みます。水野監督のような指導者を学校に招へいすると良いと思います。それと動機づけ教育を重視すること。(工, 40歳代)

◆一昨年、外資系企業への移籍を余儀なくされ、コミュニケーションとしての英語教育が全く欠けていたことを痛切に感じます。（工, 40歳代）

◆講義に対する先生方の関心が余りにも低いように思われました（特に教養課程）。（工, 40歳代, 男）

◆・国内の産業構造に適合しない古い科目は早々に入れ替えるべき ・工学関係では特許に関する予備教育が必要 ・各種資格、試験等のガイダンスが入学後早めにあれば学生にとって役に立つ。（工, 40歳代）

◆自由な学風で、いいと思います。ただ、卒業してから外国の大学の状況を見聞きするに及んでだいぶ差があると感じています。講義のレベル、知的興奮度、学問に対する熱心さ、図書館を含む設備の差、学会の先端に近い優れた教科書などなど。また基本的な訓練の差もだいぶあると思います。特に、以下の教育が欠けていると思います。 (1) 論理的思考法 (2) 論理的作文 (3) 口頭による発表訓練 (4) 情報探索手法 (5) 外国語（特に英語） ユダヤ系の人が千年以上も続けているTalmudを用いた教育に類した物を取り入れてはどうでしょうか？（工, 40歳代, 男）

◆一般的な表現になりますが、時代の環境変化も大きく影響していることもあるが、自由度の高い教育環境が時代と共に窮屈になってきているように感じている。 例えば、実社会に出てみると学生時代の教養課程で学ぶような学問が、基礎的な教養、強靱で余裕のある精神力を養成するのに大いに役立っていることが実感できる。 したがって費用対効果を問われる状況になっているけれども、直ぐには効果が見えない前述の教養課程での教育の充実を図っていただきたい。（工, 40歳代, 男）

◆人間的素養を高めることには役立っているが、実業面での能力を養う形にはなっていない。 教授のポストも固定化し、時流を先取りした講座編成になっていない。 いわゆる、クラシカルな大学の機能となっている。（工, 40歳代, 男）

◆卒業以来、20年以上を経過しているため、自分の学生時代の状況を想定してコメントすることが、意味あることかどうか疑問がある。 ただ、少なくとも、大学というところが、初めて自らの考えで将来に向けて取り組む課題を見つける場を提供してくれるところであるとの考えに従えば、数々の著名な研究者を生んだ環境で自由な勉学の場を提供してもらえたことに大変感謝している。 大学教育自体は、いろいろな専門分野、社会へ向かう道筋をアドバイスしてもらえれば、よいのではないかと感じている。そのための基本的技術や知識を提供して （以下、不明）（工, 40歳代, 男）

◆京都大学の教育については基本的に満足しているが、外国語教育については将来の仕事に不可欠と思われるので、会話も含めてもう少し上達できるような教育が必要と思う。特に、英語については研究論文にも必要であるので、その点についても教養課程から指導できるような体制があればよいと思う。（工, 40歳代, 男）

◆私の学生時代は、学園紛争のまっただ中にあり、教養、学部ともまともな授業はなかった。（工, 40歳代, 男）

◆講義形式のものでも学生が調査・説明する機会のあるものは、準備が大変だったが考えをまとめるのに大いに役立った。大学院での研究活動も毎週の研究室での教授にどのように報告するか、自分の考えをどう論理的に根拠を与えるかなど、大いに悩んだし、教授の厳しい追及が研究することの意義や方法を学ぶのに役立っている。 自分で学び考えなければならない状況だったからこそ、実力がついたと思う。 最近、学生に評価させる制度を導入する私学があるが感心しない。 研究成果の学外での評価でこそ、その研究室、指導教官の実力評価ができると考える。（工, 40歳代, 男）

◆一般教養科目が、教養を高めるためや業務を遂行するために役立っていないと答えましたが、これは私が在学中に一般教養科目を全く勉強しなかったためです。あの頃、もっと勉強しておれば、自分の人生はもっと精神的に豊かなものになってであろうと思います。反面、勉強しなかった分、クラブに注力し、得たものも大きかったとは言える訳ですが、もう少し勉強しておけばよかったです。（工, 40歳代, 男）

◆京都大学の卒業生も含めて、大学は出たが教養の少ない人間が多いことに困惑しています。例えば、環境問題や国際紛争について、歴史的経緯や社会経済的背景なども含めて理解し、その上で主義主張を語れる人間を育てる必要がありまた。こうした教養の上に、はじめて文化学術の花が開くのではないでしょうか。高校の受験勉強は、魅力ある教養人を育てず、その後の大学の教養科目も、人生や社会を考えさせるものが少なく、単位だけを稼ぐ感があります。（工, 40歳代, 男）

◆今にして思えば、進級時の取得単位に関する制限が甘かったと思います（単位を落としていても進級できる）。ただし、学生の頃は大変ありがたかったですが。（工, 40歳代, 男）

◆社会研修（企業etc。）（工, 50歳代, 男）

◆単位の価値をもっと向上すべき。もっと単位を取りにくくし、単位を取れば、その科目での専門家として世の中に通用するほどに、科目の中身もupすべき。（工, 50歳代, 男）

◆国際人として討論できるよう、英会話能力を充実する場を拡張してほしい。（工, 50歳代, 男）

◆教授の先生が忙し過ぎるので、大学院生の研究指導などを学位を持っていない助手や教務職員は100％任される事が多かった（当事者）。これは、明らかに設置基準のようなものに違反しているし、貴重な時間が教務職員達との無駄な時間潰しに費やされるのは非常に残念。途中、韓国人留学生に対しても同じか、もっとひどいほったらかしが行われていた。今でもやっているのですか。（工, 50歳代, 男）

◆入学後、専門科目の変更が大変厳しい。もっと柔軟性が必要と考えます。（工, 50歳代, 男）

◆S37年入学ですが、○○○に教育が始まった年で、大きな室でマイクを使って講義されるのですが、マイクの性能が悪くてガーガーいって、何をしゃべっているのか分からない。少人数教育がやって欲しかった。（工, 50歳代, 男）

◆（一般教育）外国語教育（特に英語）は高校と同じ教育方式（書物を読む）であり、高校とは少なくとも別の実践式（ヒアリング、スピーキング）の教育にしていっては、グローバル化に向けて必要と考えられる。また自然科学系も前半は高校の時の教育の延長という程度でもう少し異なった高度なあるいは実践式（実験演習中心）にし、実践に基づいた思考力、創造力の創出に寄与するようにしてはどうかと考える。今後は自律（自立）性を持った自由な思考を持った人間が必要と思われる。そのため、宗

教、哲学を必修科目にしてはどうか。（工, 50歳代, 男）

◆研究活動は、個別テーマ追求に片寄っており、企業の役に立っているとは、十分に言えない。（工, 50歳代, 男）

◆自由な校風が損なわれつつあるのは、極めて嘆かわしい。（工, 50歳代, 男）

◆私、現在私立大学に勤務していますが、私の勤める大学と京都大学を比較したとき、余りにも大きな差があり、これが同じ大学といえるのかという感じを強く持っています。私が学生だった頃、教授一人に女性秘書が一人ついていて、教授に会うときは女性秘書を通じてアポイントを取らねばならず、教授と話をしたことは卒業までにほとんどなかった。今の大学ではオフィスアワーと称して先生は一週間に2時間、強制的に部屋にいることを義務付けられ、その間は自分の仕事をしないで、学生の相談を受けるように義務付けられている。それも全課目についてである。学生は授業で分からないことがあったら、一対一で納得いくまで説明をしてもらえる。私が学生の頃は、先生は雲の上の人で授業を受けているときだけ顔を見る。それ以外は姿を見ることすらできない存在であった。オフィスアワー以外にも随時先生の部屋へ訪れることができ、時には勉強以外の雑談もできる。先生は部屋に鍵を掛けるなとかいわれており、いつでも学生が気軽に先生の部屋に行くことが可能である。就職も専門の先生がいて、いつでも相談にのってくれる。学生の頃、そういうところがなくて、自分で探し回って決めた。勉強が遅れている人には、夜の9時まで先生がいて、放課後学生はそこへ訪れて無料で教えてもらえる。しかも全課目である。図書館も夜10時まで開館している。正月休みの4日間を除いて、日曜、祭日も含めて365日図書館を開いている。学生がもの作りをできるように365日図書館を開いている。工作機械から金槌、鋸に至るまで自由に使えるようになっており、希望者には旋盤、フライス盤、溶接、現像の仕方、ホームページの作り方、Photo Shopやイラストレーター、CADの使い方、電気の基盤作成など、ほとんどのものを無料で教えてくれる。学内に資格取得講座を設けて、無料で3ヶ月～6ヶ月にわたって教えてくれる。電検3種から弁護士、宅建など25種の講座が用意されている。父兄会もあり、親も先生と話すことができる。涙ぐましいくらいサービスに努めている。教職員の負担も大きいが、ほとんど無料奉仕に近い形で運営している。もし私が今学生だったら、京都大学は受験しないで今の大学を受験するつもりである。京都大学は殿様ぶっていて、黙っていても受験生が集まると高を括っているみたいだけど、今後は学生にサービスすることを考えていかないと廃れてきますよ。気が付いたら受験生が来なくなったということにならないようにサービスに努めることである。クラス担任というものを設けて、学生の個人的な悩みにも相談相手になっている。冷たい仕打ちばかりしていると、学生は来なくなる。昔は授業料も安かったが、今は国立も高く、学費の面でも私立とそう変わらなくなってきている。学生の身になって学生が入学して良かったという気持ちを持たせるとそれが後輩や親類など口伝えで伝幡していくものである。それと、私が大学で学んだ知識は何一つ役に立っていない。理論や座学ばかりでなしに、実際に世の中に出て役に立つ実学をもっと教えて欲しかった。今いる大学はこれでもかこれでもかというくらい実社会にすぐ実学を教えている。お高く止まっている時代はもう終わりだ。（工, 50歳代, 男）

◆一般教養（文系）について：仕事上は特段役に立ったとも思わないが、知的好奇心の刺激には役立った。今にして思えば、もっと勉強しておくべきだったと後悔している。（工, 50歳代, 男）

◆工学のもつ経済性にも目を向けてほしい。（工, 50歳代, 男）

◆私の在学時（院修士～博士）では院生たちのグループで読書会（輪読）や研究論文の進行状況の発表会等があり、特に教員に指導された研究生活という意識はありませんでした。現在は大学でも（私も大学の教員です）そうですが、指導者の指示や命令のない限り、自分たちで自分たちの目的のために研究をしようとする院生が少なくなったようです。私の現在勤務する大学では、京大ほど学生・院生のレベルも高くないので、ほとんど「手とり足とり」の指導状態でいつも何とかならないものかと思案しております。ただ、大学院に進学しても指導者から指示がない限り何もしないような院生は、結局骨を折って指導しても大した研究成果を上げるとは思えません。つまり、目的意識が一番大切で、これが欠けている限りどうにもなりません。では、学生・院生にどのようにして目的意識を持たせるか、あるいは見出させるか？この点が問題だと思います。（工, 50歳代, 男）

◆自由な学風の継続。（工, 50歳代, 男）

◆本当に　これがやりたい　という追求心を育てるような教育、さらにそれが社会と閉ざされたものでなく、社会の実際の先端の動きを感じられるものであってほしい。しかもそれが単に実学に走ることなく、開学以来の批判性を持ち続けることが求められる。そのためには、学内のみならず、学外の実践で活躍中の講師を招くとともに、教師、学生を含めた学外への働きかけの場を充実させる必要がある。（工, 50歳代, 男）

◆当時の工業化学教室では、特徴のある講義が結構あった。例えば分析化学の舟坂教授の講義ではドイツ語のテキストでの講義があり、ドイツ語の勉強になった。厳しい先生であったが、懐かしい感じがする。この講義は他大学でも知っている人が多かった。特徴のある教育をしてほしいと思う。京大を東大や東工大の卒業生と比較すると、実務知識は劣るが、考える力は強かったように思う。このような特徴も継続させてほしい。（工, 50歳代, 男）

◆難しいことかも知れませんが、研究の動機付け、楽しさ、そしてその根底にある歴史等をひとまとめにして、じっくりと個人が先で思い出せるような教育が京大らしいと思います。小さな事をせっせせっせと出すよりも個人が先で自分に頷くというような思いで作りがよい。私の場合は先生が卒業する前に書かれた小冊子が2、3年後の学位論文まで影響したということからいうのですが、私も学生時代先生に本でも書いて欲しかったのですが、一冊の小冊子が後々まで影響しました。基礎を重視する学風ですが、その基礎にはいろいろとあります。時代と共にアプローチの仕方も変わってくるのではないかと思ったりします。（工, 50歳代, 男）

◆私が在学したときが、少々特殊だったのか（70～74年）いわゆる「学業」とは相当に縁の遠い4年間でした（もちろん個人の資質、あるいは責任もありますが）。しかしながら「学問のやり方」というようなもの、そして「教室の友人」という身に付けた2つは、30年近く経た現在でも、技術職の公務員としての私の公私ともに大きな財産になっています。特に日進月歩の感のある理系

では4年間で学ぶ量というものは、それほど多く出来ません。基礎的なものの考え方や発想（気持ち）を大切にしていくような教育が望まれているように思えます。（工, 50歳代, 男）

◆専門家としての大学教授、研究者を育てるのか、社会人として成功するための教育をするのかを分けてカリキュラムを考えるべきである。（工, 50歳代, 男）

◆卒業生のごく一部である研究者のための教育に偏重しているのではないか（特に理・工系）。大多数の実務家にとって重要なことは何かを考慮すべし。（工, 50歳代, 男）

◆工学部の講義はもっと民間企業に目を向けたものを取り入れることが重要。（工, 50歳代, 男）

◆一般レベルの常識を持って社会で生きていくなら高校までの教育で十分と考える。京都大学での教育は特に、優秀な人材を対象に行うのだから、もっと専門的な教育を徹底的に行えばよい。今から思うと我々の時30年くらい前は、自由な時間が余りにも多かったように思う。もっともっと勉強させるべきである。（工, 50歳代, 男）

◆学部、大学院いずれの教育においてもマスプロは授業を極力やめ、教員と学生のコミュニケーションが図れる少人数（30～40名まで）の授業を行うべきである。大学の教育はまた基礎に重点を置くべきでこれまでの伝統をさらに推し進めるべきである。（工, 50歳代, 男）

◆卒業して四半世紀が過ぎており、現在がどのような教育がなされているか分からないが、学部の枠を越えて好きな科目を選択できるように。（工, 50歳代, 男）

◆専門教育について：教育内容について熟知していない教官がいる。（担当講座と専門が違う）→講義することに意味がない。実務にどう結びついているのかについても、若干の説明がほしい（基本のみで終わっているものも多い）。講義の仕方が下手な教官が多い（受ける側が理解しやすいかどうかについて考慮すべき）。参考図書では学べない高度な専門性について解説をすべき。（工, 50歳代, 男）

◆現在はどうなっているか判らぬが、私が入学した当時（昭和38年）の教養の2年間は学問の面では意義あるとは思えなかった。講義は大教室でのマスプロ方式で、内容も高校で習ったことの繰り返しであり、知的好奇心をそそるものは皆無であったと過言ではない。新入生は皆、大学に大いなる期待を持って入学してきているのだが、その期待、特に知的好奇心に応えられるような教育形態を考えていただきたい。（工, 50歳代, 男）

◆ノーベル賞学者を日本で最も輩出してきた、というのが京都大学卒業生としてのプライドのもとになっている。今後も独創的で個性的な人材を育成することを基本に進めてほしい。（工, 50歳代, 男）

◆学外、特に産業界との人的交流促進による活性化。（工, 50歳代, 男）

◆「学問の為の学問」なのか「実業に役立たせんとする授業・講義・演習」なのかメリハリをつけるべき。社会に出て思うに文学系とか社会学系とか、工学部の専門分野とは関係しない分野の授業も結局人間関係で生きている（無駄にはなっていない）。ただし、授業としてやる以上は厳しくやってほしいし、理解できてないのに単位を与えるようなことは絶対にあってはならない。学生も決して馬鹿ではないので、学生による教える者の評価も公にし、勤務の評定に利用（反映）すべきである。限られた4(6)年であるからこそ、厳しさが大切だと思う（今になってよく分かる）。（工, 50歳代, 男）

◆社会に出て役立つのは、大学で学んだ知識よりも未知のもの、問題／課題に対するアプローチの仕方、解決の仕方だと思う。これは研究活動により教えられたように思う。もちろん学んだ知識も役立っている。（工, 50歳代, 男）

◆学部や学科の名称が変わり、内容が名称だけからは分からない。専門性が増しているのだとは思うが、基本的なことが軽視されているような感じがする。直接は役立たなくとも、学ぶべきことがある。（工, 50歳代, 男）

◆大学の教育とは幅広い知識、教養を身に付け、自由で創造性豊かな人格を形成することを助長すると考える。京大では他大学と比較し、よりましではあるが、充分とは言えず、また進むべき方向は必ずしもよい方向とは思えない。例えば私は工学部出身で現在も技術者として従事しているが、専門だけでなく、社会、文学、歴史等の人間の基本的部分を形成する教養を身に付けることは、それが役立つか否かに関わらず、人生を豊かにし、広く社会人として生きるうえで大変重要であると痛感している。しかるに今の大学及び教育は受験科目は少なくなっているし、入学後の一般教養にも力を入れておらず、単に社会に出て、職業として成り立つかどうかだけに留意しているため、人間味の乏しい何の魅力もない人間しか作り出していない。一見に役に立たないようではあるが、一般教養は極めて重要である。短絡的単細胞人間ではなく柔軟な頭脳を持つ若者を育てていただきたい。（工, 50歳代, 男）

◆現在は不明であるが、語学力も含めた国際化への対応に力をいれてはどうか。（工, 50歳代, 男）

◆一般教養を軽視してはいけない。特に高校生以下が受験科目以外を勉強しない現今においては。科学技術に携わる者には哲学、文学、歴史、地理等の教養が必要。文科系の者には自然科学の基礎的教養が必要。（工, 50歳代, 男）

◆大切にすべき点：1。オリジナリティー2。国際性（工, 50歳代, 男）

◆日本の大学教育のリーダーシップをとって学生を導いてほしい。（工, 50歳代, 男）

◆世の中の流れに左右されないで、研究に没頭するには京都は最高の街だと思うが、時々京大の先生を話していて、京都以外の街の情報に疎いと感じることがある。学問の府として気をつけなければいけない点である。（工, 50歳代, 男）

◆難しいことではあるが、基礎科学と応用科学の両立①基礎科学の重要性：ノーベル賞（賞そのものが客観的にどう評価されるのかは別として、なぜなら米国に偏りすぎ）受賞者をどの大学よりも多く出している。 知により世界に貢献する学風を一層高めてほしい。②応用科学の重要性：象牙の塔に陥らないことが重要。TLOの活用等、 知の活用に力を入れていただきたい。（工, 50歳代, 男）

◆大学と企業が自由に情報交換出来やすい場の設定が望まれる。（工, 50歳代, 男）

◆京大の特色は問13の中にもあるように①自由の学風②創造性の尊重③学問の自由の尊重、そして何より基礎研究の重視（理系、文系問わず）であるべきである。これらは他の日本のいかなる大学にもない特色である。この伝統を受け継いで、世界中より広く人材を集めること。今日の教育の最大の欠点である共通一次試験は出来れば参加しないこと。あるいは高校教育の達成レベルをチェックするに留め入学選抜は京大独自の試験で行うこと。（工, 50歳代, 男）

◆当時は教養は全く趣味の世界で外国語、人文・社会系、自然系と本当に役に立たないものであったと記憶している。特に自然系はよくなかった。（工, 50歳代, 男）

◆我々の頃にあった自主講座があるのかどうか知らないが、非常にいい経験でした。（工, 50歳代, 男）

◆大学の規模は大きくなる必要はない。たとえ小さくとも特色のある質の高い教育を施し、有為の人材を社会に送ってもらいたい。（工, 50歳代, 男）

◆【一般教養科目】ゼミ形式等、少人数による、かつ基礎理論と現実社会への適用について、より突っ込んだ教育の工夫がいるのでは。【専門科目】社会の流れにマッチングしていない講師が多すぎる。当然専門性も深くない地位に安住しているのでは。社会の現実問題に対して取り組める内容に改めるべき。（工, 50歳代, 男）

◆1. 外国語教育の充実。インチキで単位やらない。2. ドイツ語よりフランス語。3. 学部に機械英語等の工学英語の導入（工, 50歳代, 男）

◆教育の原点は人と人とであり、教授個人を中心にした教育の場を期待する。（工, 50歳代, 男）

◆・教官の流動性を高める。・学術レベルを評価するシステムを導入する。・社会が納得する研究、技術移転できる研究、データーにもとずいた解釈をベースにした研究に重点をおく。（シュミレーション、ＣＧによる解釈をある程度おさえる。）（工, 50歳代, 男）

◆（1）自由な学風、発想をベースに、独創的な研究で世界をリードしてほしい。（2）すべての分野で、第一線で活躍できる人材の養成に力を入れてほしい。（工, 50歳代, 男）

◆卒業して随分になり、現在教職についてはおりますが、残念ながら京都大学の教育の現況をわかっておりません。私は25年も前に土木工学科を卒業いたしましたが、現在は他学で情報科学を教えております。そのため当時の教育と現在のわたしとのつながりしか申し上げられません。当時は教養部がしっかりあり、物理、数学ばかりをみっちりやりました。これは現在も大きな宝です。群論や微分幾何、テンソルなど興味は別として、当時はなぜこのようなものが必要かと思ったものです。しかし科学技術、とくに情報系の技術は恐ろしい勢いで変化しますが物理、数学がしっかりしていればどんなものでもそれほど困難なく理解できます。要するに基本が重要だと言う平凡な一言に尽きます。当時語学とくに英語の授業がアカデミックすぎたと言う印象があります。むろん英文学の内容はそれ自体興味を引く、心豊かなものでありましたが、英語の新聞を読み、外国の研究者と議論するために、あとから必要に迫られて苦闘いたしました。もっとも今でも十分からほど遠いものがありますが。そのほか、中国文学や政治経済などの文科系の授業でも高名なかたがたの話を直接聞く機会が多く、贅沢な時間をすごしました。結論としては、大学院大学への移行が時の流れとは言え、教養課程の充実こそ教育の観点からは、実はもっとも重要だと考えるものです。余白がなくなり、専門課程に言及できません。残念。（工, 50歳代, 男）

◆現状がどうなっているのか良くは存じませんが、最近の京都大学の卒業生をみていて先ず比較的優秀です。どんな教育をしても良い人材は良い人材（人財）になる。自由にやらせておくのがよいと思います。だが遊ばせては駄目で、徹底的に勉強させて戴きたい。（工, 50歳代, 男）

◆昭和30年代～40年代にかけて在学しましたが、現在のシステムとはかなり違っているのではないかと思います。社会生活を送る上で案外と教養科目の法律関係、経済学関係の講義が役立った様に感じます。文系の学部についてはよく分かりませんが、早いテンポで世界が動く時代になると毎年蓄積される知識、技術の量も膨大。学部の間に充分な基礎学力を身につける教育が必要と思います。学部を中弛みさせない為に。（工, 50歳代, 男）

◆教養部時代は、自由な学風と伝統の中で、必ずしも将来の専門にとらわれずに幅広い知識の習得を、ものごとをじっくり考えることに力を注ぎました。こうしたことが可能になったのは「京都」という立地条件によるものと思います。学部3. 4年時代は専門分野の習得と実社会に出るための実践に重点を移しましたが、2年間では短いため、大学院に進みました。今から考えると、4年間かけてもっと基礎力の強化をじっくりとり組み、大学院に行ってから専門分野をやってもよかったのではないかと思っています。京都大出身者は、基礎力がしっかりしているという特色を出すべきではないかと思います。（工, 50歳代, 男）

◆自由な雰囲気で学業に専念出来たのが良かったと思います。（工, 50歳代, 男）

◆昔は産学共同というのはタブーであったが、今や大学が発展するためには産学共同が不可欠であると考えられる。大学もやはり社会に役立つものでなければならないしそうでなければほろんでいくと思われる。この点では米国の大学を見習う必要があると思われる。（工, 50歳代, 男）

◆理学研究所は、より基礎的に、工学研究科はより産業に密着した型にして、特徴と鮮明にすべき。（工, 50歳代, 男）

◆大学院大学となって、昔の教養課程の意義・役割が損なわれてきているのではないか？（人間としての幅を育てるという意味で）（工, 50歳代, 男）

◆学園紛争（臨職闘争）の時であり、通常の大学教育はうけていない。その分、個別のゼミナール教育の機会が多く、充実していた。（工, 50歳代, 男）

◆自主独立の気風こそ社会に貢献する力を養う最大の価値なり。（工, 50歳代, 男）

◆・他大学（外国の大学も含める）との単位の交換制度の充実。（工, 50歳代, 男）

◆卒業後だいぶ時間が経っていますが、時代の要請も考慮した基礎的な教育を充実されるのがよいと思います。（工, 50歳代,

男）

◆比較的自由な雰囲気の中で学べたと思います。私達が学生の頃学園闘争がピークな時代であり、実社会とのコンタクトにいわゆる過激派学生が、反対をしていましたので、学園の中のかわずという感じでした。これが社会的無知という状況にまで発展することになり実社会で苦労しました。（工, 50歳代, 男）

◆・近年のことは知りませんが、教養科目、専門科目とも本当に学生をひきつける「講義」がどれ位なされているかが問題と思います。研究重視型の専門教育といいながら、実際は学生の興味とは無関係に担当教官の押しつけやノルマ処理に終始していないか。（工, 50歳代, 男）

◆教授は全員民間人を登用するべきである。大学から一歩も外へ出たことのない人ではこれからの産学協同は不可能である。（工, 50歳代, 男）

◆1）他大学との交流2）インターンシップ教育3）専門科目の英語による講義、及びディスカッション。（工, 50歳代, 男）

◆・全般的にはいいと思います。・外国語がしゃべれるような強化策を望みます。（工, 50歳代, 男）

◆教育の受容側への量的目安としていわゆる宿題（事前及び事後）を活用するのも有用と思います。（工, 50歳代, 男）

◆・企業、社会との連携で、真の社会に役立つ研究、教育の構築をお願いします。企業の評価は利益ですが、大学も上記にもとづく評価指数を定めて、活動の原点にするのが、よいと考えます。（工, 50歳代, 男）

◆卒業基準等はもう少し厳しくすべきと考えます。（工, 50歳代, 男）

◆大学時代は全く勉強せず、実力がついていなかったが、社会人になってから「京大卒」のブランドに恥じないように、ということのために一生ケン命勉強し、実務を通じて理論を身につけてきた。その意味では、大学時代の教育にもっと工学的な興味をそそるような講義があったらよいと思う。（工, 50歳代, 男）

◆大学の目標とする自由の学風、創造性・独立性の尊重等は非常にすばらしいと思う。しかし、それをどのように実施し、学生の素質を伸ばしてやるか、常に見守ってあげるか、ほったらかしておくのがよいかそれは、京都大学の教育陣の今までの経験、実績で当然わかるものと思う。我々に意見を求めること自体ちょっと首をかしげたくなるのだが、大学の思う方向に自信をもって進めばよいと思う。（工, 50歳代, 男）

◆表面的に数式を追いかける教育でなく、その根源的なもの、歴史とか背景とか現象とか興味と情熱をかきたてる教育がほしい。日本の教科書より米国の方が感覚的に理解しやすく面白い。要するに学問は面白くなくてはいけない。京大の自由な雰囲気は評価できるが、サークル活動ではなく、学問での教官、学生の自由闊達な交流がほしかった。（工, 50歳代, 男）

◆自由にやらせる気風が最大です。自由を守るためにがんばって下さい。勉強するかどうかも学生の自己責任、勉強しなかった卒業生の方が社会で活躍していることを御理解して下さい。（工, 50歳代, 男）

◆京都大学の先生は研究者としては優秀だが、教育に関しては熱心ではない人が多いと思う。社会人として感じることは、専門的な技術や知識は職業人となってから修得するものが圧倒的に多い訳であり、学生時代の数年間はその助走期間として全人格的教育や自分の進路を見据えるための教育を中心的に行うべきであると思う。（工, 50歳代, 男）

◆少人数、実戦教育の強化を図るべき現代の若者の気質を見抜いて教育すべき、過去の学生に固執すべきではない。（工, 50歳代, 男）

◆専門科目の講義に、興味をもたせ、理解しやすい工夫をすべきである。私の学生時代は、まわりの友人や書物から教養・知恵を得た。（工, 50歳代, 男）

◆（理科系での場合ですが）社会における理科系出身者の最大課題は：①（上級管理職への研修以外は）”広い意味でのマーケティング”つまり市場分析、戦略・戦術、弱み・強みなどの勉強ができる機会がない②技術戦略・技術戦術を考えるゆとりが（現実）もてない③経営指標が身をもって、理解できない。④英語の会話に弱い。・従って、学部の期間は、文科系の講義、サークル比率を上げるべきと考えます。・そのために、産業人の、とくに学生にうける人材からの講義をすす（勧）めたいと考えます。（工, 50歳代, 男）

◆独創性を重視した専門性の高い教育と国際的に通用する学者の育成を行ってもらいたい。（工, 50歳代, 男）

◆教育以前に教官の定年今何才ですか。65才に東大ではお年盛りでしてしまいましたが、京大では、そんな事のないようにして下さい。民間では55歳で子会社給料カット。60才定年です。教官に緊張感がなくて教育どこころではないと思います。65才迄給料上がり続け働けるとなると緊張感なくなります。（工, 50歳代, 男）

◆議論をする時間をもっと多くとるべき。例えば講義のあと、1／2～1／3位の時間を討論に充てる。教養課程を廃止～縮少することは絶対に間違い。高校を卒業したこの時期こそ、自由にいろいろな教養を身につけるべきで、これがしっかりとした自我の形成に役立つ。異分野の人達との交流も大事。（工, 50歳代, 男）

◆言わゆる「教養学部」が無くなり、従来の教養課程に相当する内容の教育を行う専門家ではなく、「研究者」が研究の合間を縫って「一般教養科目」の教育を行っているようであり、やはり最近の学部学生の基礎学力については疑問が残る。（工, 50歳代, 男）

◆京大の他大学（旧帝大）との相対的比較において、レベルが急速に低下しているように感じる。・専門馬鹿より、まず知的エリート教養人を世に送り出してほしい。（工, 50歳代, 男）

◆一般教養科目の単位取得についてペーパーテスト及びレポート提出等で厳しく採点し、けじめをつけさせること。落第者続出をおそれないで。（工, 50歳代, 男）

◆専門課程と修士での学業が、又、その時に教示して頂いた「課題への取り組み方」が、社会に出てから、役立った。（工, 50歳代, 男）

◆1) 大学としての教育ポリシーを。(企業に於ける理念などに相当するもの) 2) 企業即戦力となる学生を育成するコースと、基礎的研究をする学生を育成するコースに分けてはどうか。 3) 世界的に特徴ある講座(教授)を設け、世界から学生を集める。 4) 社会人にももっと開放された大学とする。 5) S. 40年頃の教養部時代は先生と学生との間にほとんどコミュニケーションがなかった。(→学生紛争の因?) 6) 大学の"成績なるもの"(教育以外の成果など)を毎年公表すべき。(業績評価)(工, 50歳代, 男)

◆①講義はキッチリできていると思うが東大の方がより基本から力をつけるよう努力しているように感ずる。(東大の先生に仕事等で話を聞いたときに感じた。) ②他大学出身の教官をもっと増やすべき。又京大出身者を国内外を問わず他大学に出し修養させ戻すようする。少くとも3割位は他大学出身者がいるようにし活性化を図る。 ③社会人教育で東京に場所を設ける話を聞いているが大変良いことだと思う。(工, 50歳代, 男)

◆余り、具体性はありませんが、基礎となる学(理論)は教養で終え、その先は研究の道、実業の道を選択した上で、夫々に世界に通用するレベルへ育成する場にしてもらいたい。実業でいうならば、産学協業のプロジェクトを準備して、 1. コアになる先進技術開発、 2. 商品化への開発 など、実践の中で育成を図るイメージ。これにより、専門分野をまたいだ技術、時代に即した、世界レベルの技術かどうか、学生自らつかむことができるのではないでしょうか。(工, 50歳代, 男)

◆自由でユニークな伝統を守り続けてほしい。(工, 50歳代, 男)

◆職業人の育成という観点からは専門教育に重点を置くべきだ(特に理科系に於いては)と思いますが、幅の広いバランスのとれた人間形成と人生の送り方を学ぶことはまた別の意味で非常に重要なことと思います。したがって設問1、2にあるような教養科目と専門科目を相反する対立項目ととらえるのは良くないと思います。双方両立させる必要があります。(工, 50歳代, 男)

◆教養ではもっと、実践的な教育、例えば、外国語では会話ができる、経済では新聞の種々の経済指標などが理解できるようにしてもらいたい。これからは、専門知識に加えて、幅広い一般教養(人文、自然)が必要である。(工, 50歳代, 男)

◆外国語教育について ○教養課程での外国語教育は、授業時間数も少なく、将来の基礎づくりとしても物足りない。 ○教授法の巧さを考えれば、街の語学学校に教育を委ねた方がよい。 一般教養科目について ○なぜ、あんなにツマラヌ印象しか受けなかったかとの感想がある。 ○大人数を相手に、ボソボソした声で、書店で安易に購入できる新書程度の内容を、聞かされた気がする。 ○教える内容、教える方法を間違えたとしか思えない。例えば米国式のプレゼンテーションのやり方などを、教師が学ぶ必要があるのだろう。(工, 50歳代, 男)

◆専門外の科目が役に立つと思います。(工, 50歳代, 男)

◆教養～学部においては基礎的なところに主眼を置き、より高度なものについては大学院での研究(教育)を充実すべきと考える。(工, 50歳代, 男)

◆外国語教育は読解に重点をおき過ぎであった。実戦力が身につかなかった。せめてビジネス上の議論ができるような教育が必要。工学部といえども会社の運営、株式のあつかい等の最低限の社会的教育は必要と思われる。学生時代から特許取得をさせるような研究指導が必要。(工, 50歳代, 男)

◆最近の学生は、記憶型の勉強しているタイプが多い。設計するにしても、ある式を借りてきて使用する。その式が出てきた仮定や条件等がわからずに。基礎学力をつけてほしい。最近は、低学年から英語の学習を取り入れる風潮があるが、大学生が会社に入ってきても日本語の文章が満足に書けない。これは多分昔から言われてきた読み、書き、そろばんの読み、書きが不足しているのであろうと思う。英語もグローバル化で重要であるが、日本人はまず自分の国の語に誇りと自信を持つように教育する必要がある。レポートでも技術チェックだけでなく、日本文もチェックして指導してほしい。(工, 50歳代, 男)

◆勉学の楽しさを教えるべし。個人のみではなくグループでの協力活動の重要さを教えるべし。語学はいかにも旧式に過ぎる。現代用語、日常会話に力を入れるべし。(こむずかしい文学でないと本質的価値、面白さがないとの先入観?)総じて学力に比して高度過ぎる。(工, 50歳代, 男)

◆自然科学の哲学的側面の教育を行う事。(工, 50歳代, 男)

◆工学部、化学工学科卒です。演習が多く履修中は大変でしたが、力は大いについたと思う。(工, 50歳代, 男)

◆問14では学術的教育と実践的教育のどちらに重点をおくか、となっているが、現状で実践的教育が存在しているのだろうか?学術的教育に重点をおくべき、が私の考えであるが、実践的教育(社会とのつながりを明らかにする)も少しは存在させてほしいところである。(工, 50歳代, 男)

◆大学の教育は基礎研究機関として、専門科目の育実を図るため、専門科目を3年間とし、一般教育科目を1年間としてもよいのではないか。また、一般教育科目は自ら学ぶべきものであり、大学で教える必要性は少なく、学生に課題を出させ、半年間くらい自由時間を与え、自分自身で一般教養の勉強をするようにしたらどうか。(例えば、語学を学びつつ、NGO活動に参加するなど。)(工, 50歳代, 男)

◆暗号解読のような外国語の教科書は後に残らない。専門課程の単位取得数を減らし、基礎科目を充実させる。カリキュラムを変えても先生が変わらなければ内容は変わらない。(工, 50歳代, 男)

◆大学院教育の充実。アメリカの大学院と比べると天と地ほどの差がある。京大内部だけでは必要なスタッフが(残念ながら)足りないので、西日本の大学または卒業生などのネットワークを活用して、せめて全国で2つ(例えば東大と京大)でもアメリカの一流大学に互しうるドクターコースを設置してほしい。(工, 50歳代, 男)

◆・理系でも、人文・社会系の一般教養科目の修得はぜひ必要で、社会に出て、生きていく上でも大いに役に立ちます。 ・クラブや同好会活動も大変大切で、大学生活が充実する上、卒業してからも、けがけえのない友人達を得ることができ、不可欠な

ものだと思います。(工, 50歳代, 男)
◆○人格形成にも重要と考える寮生活等団体生活を体験する場の充実を期待したい。(工, 50歳代, 男)
◆京都大学に限らないかも知れませんが、研究に比べ教育がおろそかになりがちであり、この改善が必要と考えます。これについて、問18で詳しく述べさせて頂きます。(工, 50歳代, 男)
◆・外国語は、会話力、プレゼンテーションに力を入れ、native speakerによるコースを増やすべき。・他大学、外国の大学からでも良い教授を招へいし、教授の研究レベルの自己研鑽による大学としての研究の更なる高揚をはかる。(工, 50歳代, 男)
◆1. 大学進学後の進路変更は、少し柔軟でも良いのではないか。程度によるが、電子→機械、経営→法など、可能な範囲で。2. 一般教養科目は、教育側、受講側とも、もっと本気でやるべきではないか(熱意を持って)。教授により、常に一番前で聞きたい教師と逆があり、ギャップが大き過ぎる。(工, 50歳代, 男)
◆1. カリキュラムにおいて、基礎から応用へシステマティックに流れる構成を目指すべき。2. 講義や実習を取り入れ、米国大学並に厳しく教育すべき。(Midterm, Final Term－Project等をやらせ、採点する。)3. 外国語、論理的な思考ができるようになる教養講義は、重要であるが、それ以外は学生が自発的に本を読めば良い。(工, 50歳代, 男)
◆実務者による実践的教育を充実させる。(工, 50歳代, 男)
◆昭和39年、京大工学部合成化学科に入学させて頂きました。当時は教養学科で、2年間授業を受けたと思いますが、この時政治学・経済学と工学部専門教育以外の授業を受けられた事が、楽しく思い出されます。当時は東大・京大といわれた時代で、教育内容、一流の教授陣と揃っていて、授業が嬉しかったものです。40年も前に学生だった、と小生は企業に入って研究、技術関係一筋に生きてきましたので、その後京大がどのような教育をされているか、意見を持ち合わせておりません。申し訳ありません。(工, 50歳代, 男)
◆・実務との関連に重視した教育。・自ら体験も実行できる教育。・学部4年間と大学院の一貫した教育と、その時系列を重視したプログラミング。(工, 50歳代, 男)
◆自由な学風と、学生を紳士として扱っていたことが良かった。現在はどうか知らないが。(工, 50歳代, 男)
◆私の学んだ時期(昭38～6年間)は、教養科目、専門科目、いずれもバランスがとれていたものと思う。(工, 50歳代, 男)
◆講義やゼミ、実験、演習が、より関連している方がよい。一方、じっくりカリキュラムについて、検討されるべきである。(工, 50歳代, 男)
◆学外から人を招いて講演などをしてもらう。(特に各界で活躍している人で、学者、研究者に限定しない。)(工, 50歳代, 男)
◆大学を昭和42年(1967年)に卒業して34年たった。この間、大学時代の活動等振り返った(このアンケート質問のようには)ことがなかったので、その後の変化も知らず、とまどっている。余り熱心に勉強した憶えはないから、後輩には随分優秀な人がいたので、それなりに教育されていたんだろう、というのが感想。(工, 50歳代, 男)
◆文部省(文科省)の方針に左右されないで、京都大学らしさをもった伝統的教育方針を貫いてほしい。(工, 50歳代, 男)
◆現在の京都大学がどのようなものであるかわからないので改善策は述べられない。(工, 50歳代, 男)
◆実社会との接点を重視した教育を強化した方が成果へと結びつけやすいのではないか！。(工, 50歳代, 男)
◆在学中は、学生運動の末期で、教養部の2年間はストライキが多く、今思えば、もう少し勉強・運動をしておけば(できる環境であれば)良かったと残念に思える。専門課程に於いては教官・院生にも恵まれ、勉学に励むことが出来た。当時は、自由な気風で卒業が容易で良いと感じたが、もう少し大学教育を全員に行うようなシステムつくりを希望します。(工, 50歳代, 男)
◆化学の基盤教育(有機化学・無機化学・応用化学)が業務に非常に役立っている。基盤教育の充実を望むと共に、広い国際性、一般知識の充実も望まれる。語学教育はほとんど身につかなかった。独語は今はほとんど使わない。必要性があるのか。英会話などの導入の方が望ましいのではないか。(工, 50歳代, 男)
◆一般教養科目および外国語(いわゆる第2外国語も含めて)の教育は是非重視していただきたい。世界的視野をもつことの重要性は京都大学の良き伝統だと思います。(工, 50歳代, 男)
◆今のままでいい。(工, 50歳代, 男)
◆つい最近京大出身の野依名大教授がノーベル賞を受賞された。京大の出身者として喜ばしく思っている。新聞に畑中京大名誉教授の言として「自由かっ達な学風と基礎研究、独創的な仕事を重んじる伝統が受け継がれている」とあったがしかし、この受賞は30年以上前の研究成果が認められての事であり、今の京大にもその伝統が引きつがれているのかはよく分かりません。是非古くからいわれる京都学派の自由で独創的な研究を重んじる風土をベースに新しい分野にチャレンジするベンチャー精神も育む教育をお願いしたい。(工, 50歳代, 男)
◆在学中に京大の教育とはどんな特性を持っているとか、他大学との差異は何であるとかの明瞭、統一的な説明を受けた記憶がない。したがって、受身的な態度の学生であった為もあろうが、比較論的にどうあるべきという意見が出せない。ただ、在学時、京大であるから云々でなく好感を与える個性の強い教授にひかれて、かなりな影響を受けたことが印象に残っている。個々の教授のたまたまの個性によるものでなく、大学又は、学部、学科全体として、京大の方針は何であるかの判り易い説明を学生全体に対して最初にすべきであると考える。(工, 50歳代, 男)
◆1. 学部時代は講義中心で良いが、ハードワークを課して、基礎学力の強化を図って頂きたい。2. 一定レベルの学力を有さない対象者には卒業資格を与えない。3. 学部時代に於いては、選択肢の自由度を拡大し、受験のミスマッチと、能力、意志を見直す機会を与える。4. 基礎学力の評価は、思考能力を基準として頂きたい。(工, 50歳代, 男)
◆一般教養科目の講義が面白く、自然科学系の専門でも、年令がいく程役立っている。教養科目にも重点をおいてほしい。(工, 50歳代, 男)

◆1. 1970年入学1974年学部卒業の時代は、大学にしばらく残っていても異和感のない時代でした。働きたくなった時、自らの決心で社会に出ていく風潮があったように思います。2. 社会に出て、25年、新人に会って思うのは、彼らのひ弱さです。なきむし、なまいきであった我々と異なり、巣立つには早いのではないかと思わせる大学卒の彼らです。3. 何がかわってきたのかはよくわかりません。しかし、社会、国際社会における日本の国力が弱まっている中で、今一度、日本をひっぱっていく、支えていける人材（ひとりではなく、多数の）が、必要とされています。4. 私は工学部卒業の人間です。生産技術の発展が、あるいは、生産技術発展の基礎的力の確実な修得が、あらゆる面での、起爆剤のように思われます。（工, 50歳代, 男）

◆①社会人になってから大学時代の基礎的教育の重要性がわかるし、できるだけ幅広い基礎的学力知識を身につけておくべきだったと思う。②最近は学生をあまやかしきびしく鍛えることが、無くなった、という表現が多いが、むしろ学生に自然科学工学の面白さを訴えることのできない。無味乾燥な講義が多いことにより学生の興味を引けないというこうではなかろうか？。（工, 50歳代, 男）

◆自主性、創造性、柔軟性を養う教育を。（工, 50歳代, 男）

◆我々の学生当時は学生運動の盛んな時であり、まともな勉強が出来なかった。これは大学教育に対する失望もあった。学生に対する当時の教育に対する無責任さは感じる。現在も、大学自体の教育の限界を感じる。（工, 50歳代）

◆外国語教育は、他の科目の中でテキストを選択することで、オンザジョブ的に学生が勉強するように構成する。昔は、文学書からの抜すいで授業をすすめることがあったと思うが、新聞や専門書が読解でき、その過程で会話も一定程度できるようになれば良い。一般教育科目は、専門分野への細分化が進む今日、幅広い視野を持った人材を育てるうえで、京都大学として重視すべき。（工, 50歳代, 男）

◆1. 語学実習（会話等）の義務づけ2. 産学共同研究を、もっと充実させる必要がある。3.企業研修の強化。（工, 50歳代, 男）

◆新しいもの、変わったものを受けいれる自由な雰囲気が、京都大学の特色です。学問の自由と独立をいつまでも守ってほしいものです。（工, 50歳代, 男）

◆もっと演習を強化すべき。（米国流に）（工, 50歳代, 男）

◆英語教育が不充分。（工, 50歳代, 男）

◆・学生の自由な学習や研究を、これまで通り尊重してほしい。・個性的で独自性のある教授陣の選任に心掛けてほしい。・京都（歴史的都市として）ょの特異性を強調してほしい。・外国の歴史的都市に存在する大学との連携を強めてほしい。（工, 50歳代, 男）

◆専門科目は当然のこと、一般教養科目の充実を図ることが重要であると考える。（工, 50歳代, 男）

◆19才とか20才の人は、学問に関しても初心者である。導入部で、もっとわかり易く、親切な講義を期待する。先生方は言葉の説明とかは御自分がわかっているので“めんどう”と思って省略する傾向がある。初心者は、導入部、基礎的な部分を省略されると、学問を理解できなくなる。学部の1、2年生は、まだまだ幼いので、よろしくお願いしたい。先生方の興味の対象と学生の興味の対象は、異なっている。先生方は、給料をもらっている以上、学生の興味に合わせてほしい。（工, 50歳代, 男）

◆大学を卒業して33年を過ぎ最近の大学の様子が分からないので、的を外れているかも知れません。最近の新入社員（工学部出身）をみるとコンピューター等を使用した計算には強いと思いますが、現場での問題点を自分で把握する力が少し弱いという気がします。どちらかというと研究室志向が強く、製造現場で汗を流して問題を解決しようという意識がやや弱い気がします。学生時代において、自分で疑問をもつテーマに何でもとりくんでいく意欲をもたせるように教育することが大事だと思います。（工, 50歳代, 男）

◆首都から離れた位置に設立された意義、いままでに培われてきた校風を尊重し、また学生に伝えていってほしい。（工, 50歳代, 男）

◆1.基礎学力はある程度もって入社してきますが、応用力に欠ける人物が多々見うけられます。自分で考える力、自由に考える力、思考範囲を拡げる力が必要で、このためには種々改善が考えられますが、少くとも講義方式よりも実践教育実務教育に力を入れてほしいと考えます。専門分野の件で企業に派遣するとかも一手法。2.英会話は必須能力として企業は求めていますので大学教育の中で育成しておいてほしい。3.パソコン、ワード、エクセルは必須条件として駆使できる状態で入社すること。4.一般教養、一般常識は大切。（工, 50歳代, 男）

◆基礎研究や過去の学会的、学術的内容や、公式、解析手法の理解を深めるための講義が多い。社会に役立つ工学者（研究者・エンジニア）の養成には、程遠い。もっと社会でのニーズ、社会（企業、官、自治体、財団）で研究している人を講師（客員教授）として受け入れるか、共同研究を産学で進めることを、教育の一貫としてすべきだ。（工, 50歳代, 男）

◆1. 外国語の能力は、レポート等の発表を外国語で発表し、質疑応問できるだけのものが望ましい。2. 一般教養科目は一方的な講義ではなく、学生間を含めた討論方式により、時事問題を例として議論することが望ましい。3. 特に自然科学系の科目は工学部においては、技術者として必要な基礎的知識を十分教育すべきである。（工, 50歳代, 男）

◆学部・学科別に入学者を合格させている以上、入学者は、目的とする分野の教育を早期に学習したいという希望を持っていることを理解すべきである。教養科目は、能力、人格の偏りを修正する位置付けとすることが望ましい。教科の内容を考えることに目的を置かず、その分野・領域の研究が進んで来た時代・思想的背景等を明らかにする事に重点を置いた方が後々印象に残る。知識教育から、理解教育への転換を望みたい。京大の学生をもっと信頼してよいのではないか。興味・関心を持てば、自ら知識を吸収しようとする力を十分持っているはずだと思う。考えるという立場から、学生自らが学習するのを支援する教育という形になれば、自発的・創造的な人財(人材ではない)に育って行くと考える。学部での教育は専門性を持つ社会人の育成という観点が必要だと思う。（工, 50歳代, 男）

◆現在については良くわからぬが当時の状況からの感想・工学部と理学部の違いの明確化・芸術を学ぶところがほしい、対抗意識かは別として反中央の精神は持ち続けてほしい→独立性。（工, 50歳代, 男）

◆教養部、学部、大学院とよく考えられた良い教育だったと思います。もう1/4世紀前のことですが、学年が上がる程、良い教育で、特に、研究室での3年間(4回生～修士)は今でもよく思い出します。最近は余り存じませんが、昔の良さが残っていることを期待致します。（工, 50歳代, 男）

◆専門外のことに参加することがあり、忘れ去った一般教養時のことを聴講時のイメージづくりに利用する年齢になっています。現況を知らず、外部からの想像で的を射てないかもしれませんが、低年次で一般教養、後専門と単純だった構成を、教養部の解体及び1年次からの専門教育の導入に編成変えしたことへの学生、教職員、学外による評価は高まっているでしょうか。一般教養科目の担当教官には、専門学科の教育・学生指導の他に多人数の他学科学生への教育と、負担が過ぎるのではないかと思われます。一般教育を専門とする担当者でないと、現代の「何に役立つか」、「目的は何か」などの意識が過剰と考えられる新入生への教育が難しくなりそうに思われます。また、若手の担当教官の教養・専門への教育・研究意識や負担についての配慮が必要かと考えられます。（工, 50歳代, 男）

◆・基礎的な知識の習得も大切な事であるが、社会へ出てからは問題意識のあるなしが一番大切。・又基礎的知識の習得意欲を増すためにも「自分が知らない」ことを知る必要があり、大学教育と平行して実社会の場に研修的に送り出すカリキュラム、単位認定制度が必要。（工, 50歳代, 男）

◆大学では、学生が主体的に人格完成をめざして精進できるような環境（自己教育のための環境）を提供することが、何よりも大事だと思います。(1) 教養科目を選択的に履修できることはバランスのとれた人間形成のための重要なステップだと思います。例えば、工業高校や高専出身の学生にとっても (a) 教養科目を広く履修する機会があること (b) 専門科目を基礎から体系的に学習する機会があること (c) 教育科目と専門科目を無理なく連関づけられることについて十分な配慮がなされていることが大事です。(2) 本人にとって不本意な中途退学、除籍が起こらないような環境（適性や進路に関するカウンセリングの充実）も大事です。（工, 50歳代, 男）

◆自然科学系では、高学年になっても、必修科目に偏らず、選択科目の幅を広範囲に認めるカリキュラム配慮をしてほしい。必修以外に、時間をさけると、将来にわたって幅広い人間性を養えるものと思う。実用面での実験やゼミ以外に、科学概論や科学史をむしろ必修として修得することが、学問研究あるいは社会で大いに役立つと思っています。（工, 50歳代, 女）

◆特に不満はなかったが今になって思えば、語学教育に実践の場が少なかったように思う。卒業後苦労したのが英会話であったからかもしれないが。（工, 50歳代, 男）

◆教養の2年間をもっと特徴のあるメニュを増やしてもらいたかった。高校の延長のようなメニュだったと感じていた。（工, 50歳代, 男）

◆・外国語教育に全く不満。1. 目的の第一に外国人との意志疎通におくべき。2. 英文学等は趣味の世界であり、文学部の専攻者が受ければよい。・教養科目では生き生きとした授業が感じられなかった。・正確な名称は忘れたが、東大で作成した「知の技法」のような教育が望ましい。（工, 50歳代, 男）

◆生涯学習あるいは社会に出てからリフレッシュのために学習する、そういったニーズにもっと応えるべき。また、地域コミュニティー（産業界、一般）向けのかかるニーズに沿ったオープン講座の開設（テレビ、インターネット利用も含む）はどしどしやるべし。米国の大学で学ぶ機会を得、比較の上で感ずる最大の課題。（工, 50歳代, 男）

◆問5に関連して卒業後独学でやった外国語の方がより役にたっている。大学（教養）の語学がその後の役にたつような視点で行なわれていなかったのではないか（今は知りません）（工, 50歳代, 男）

◆①京都大学の教育が、他大学とどの点が違うか。例へば東京大学とどこが違うか不明。②講師に学外社会人の登用が少ない。開かられている大学との印象が薄い。（工, 50歳代, 男）

◆教える者と学ぶ者との間により高い緊張感をもった環境づくりをしてほしい。（工, 50歳代, 男）

◆・教養教育は小中高と受験教育を受けて来た学生にとっては人生等を見直す息抜きの時間として必要なものであり、その意義を云々する必要は余りない。・学部の専門教育は体系化された学問の基礎科目を必須科目として徹底的に教育すればよい。特に体系化された何の学問を学んだのかを明確にしておくことが必要で、学生の自由性に任せた科目選択では根なし草のような学生を作る危険性がある。・大学教育の基本は、研究の第一線で活躍したあるいは、しつつある教官が迫力のある講義をすることが第一であり、最近の教育法のテクニック向上に関するようなことは、京大には意味がない。京大はいい教育をするために、研究に優れた教官を集めることに集中すべきである。・大学院の教育の基本は研究室での研究である。ここでは、問題解決能力、独創性などいろいろの教育を活きた形で行なえる。学生が休日を返上してでも研究をやりたくなるような研究環境をどのように作るのかを考える方が、講義課目云々をするより余程重要である。（工, 50歳代, 男）

◆私が教育を受けた時代について考えると、①外国語教育の重要さに比し、教育内容が一面的であったように思います。②専門科目に比し、一般教養科目の教官との人間的な接触が少なかったように思います。クラス担当教官との接触によって、人格面での影響を受けた方は少なくなかったようでした。（工, 50歳代, 男）

◆教養専門を問わず講義方式の授業は極力減らし、ゼミ方式に移行すべき。教養終了時（2年生末）に論文、もしくはレポートを提出する方式も考えるべき（例えば工学部に進む学生が、源氏物語についてゼミ方式で研究し論文を書く、ということを検討されたい）。（工, 50歳代, 男）

◆工学部出身者として、教養における人文社会科学系について興味があったが、現実の講義は、エキサイティングなものではなかった。40才後半になって、人文系の大先生からお話を直接お聞きできる機会に恵まれたが、大いに興味惹かれる内容で

あった。教養課程における教育の内容や方法について改善すべき点があるのではないだろうか。少なくとも、他学部学生にとっては、ガイダンス的な取り組みがあってもよいと思う。（工, 50歳代, 男）

◆『幅広く、基礎的な教育を重視こます。』今まで、実務的な仕事に従事して来ましたが、原理・原則を始点にした取り組みで、途中の様々な障害をクリヤーして来ました。目前の現象は何かと複雑ですが、支えとなる基本的な考え方、発想は、以外と単純明快で、そのような方法論・手法を考えつかせてもらえたのも、かつての教授の指導でした。応用的な素養は、個人的な努力で、伸展できると考えます。とにかく、『もと』を構築する事です。（以上）（工, 50歳代, 男）

◆教養過程での語学、自然科学系の能力開発を重視する必要がある。（工, 50歳代, 男）

◆自由、創造性を維持しながら、もっと産業界との協業を進めたらと思います。社会のスピードが大変速くなっている、グローバルになっている、技術にしろ経済にしろその枠が取り払われ多様化している。産業界は今後大きな変化にさらされるのは間違いなく、個性の強い人こそ要望されるわけで、その時京都大学がその供給源であってほしいと思います。（工, 50歳代, 男）

◆最近、工学部においてもＰＣによるシミュレーションを行うことが多いと思われる。しかしこれは一つの道具であり、シミュレーション結果は実験により確認すべき事柄を多く含んでいることを学生に認識させていただきたい。これは京都大学だけの現象ではありませんが、新入社員を見ていると、その辺を十分わきまえていない人も居るように思われます。実証を重んじる気風は今後も伝えていきたいと思います。（工, 50歳代, 男）

◆小生の時代に比べ、最近入社の学生を見ると、時事情報に疎い又は浅い傾向にあり、これらを会得するチャンスがないのだろうか。（工, 50歳代, 男）

◆独創性を養う教育を実施してほしい。（工, 50歳代, 男）

◆京都大学という自由・闊達・反権力（権力に媚びない）の風土をもつ大学で学べたことを大変誇りに思います。社会に出て、京都大学で学べたことをさらに感謝しています。（工, 50歳代, 男）

◆グローバリゼーションとローカリゼーションの両極を理解したうえで、京都大学の教育としてアイデンティティーを確立し、世界、アジア、日本の他大学との交流を今まで以上に進めるべき。世界、アジア、日本の学術研究の発展に独自性を持つ教育で貢献することが大切であり、それを推進する組織、人、システムの改革が求められる。 独創性の創造には専門性の高度な追求と学際性が両立する教育が必須。（工, 50歳代, 男）

◆大学で教える学問は10年1日のごとしで社会の要求・変化に対応したものになっていない。もっと社会性を反映すべきだ。（工, 50歳代, 男）

◆教養部時代、自分と同じ学科の人間だけでなく混合クラス編成が有意義であった。 またクラブでは他学部の人間との交流がありこれも有意義だった。 さらに宇治の学寮に1年間いたが（工, 50歳代, 男）

◆学部の講義では随分権威と厳しさのある先生方が多く、学生を鍛えていただいた。現状の教育の実態はよく分かりませんが、（京大に限らず）論文の書き方に始まり訓練が不足しているように思います。（工, 50歳代, 男）

◆知識、技術の習得だけでなく人格の形成にも留意してほしい。 自由、創造的な大学風土を生かしてベンチャー・ビジネスの創出・育成にも他大学に先駆けイニシアチブを取って下さい。（工, 50歳代, 男）

◆・京都という土地柄から大都市のダイナミズム、地方工業都市の活力と隔絶した環境で学生諸君が生活してます。 ・その結果、知りたい、学びたいといった動機付けのきっかけがなかなか見つけにくいのではないかと考えます。 ・社会人聴講生が教室で一般学生と同席できるようなオープンな制度が必要です。（工, 50歳代, 男）

◆私は、京大では例外的な厳しい指導教官のもとで研究生活を送りました。私にとっては得がたい経験でした。（工, 50歳代, 男）

◆教養部は、決して無駄にあらず。（工, 60歳以上, 男）

◆自由な学風は京都大学が存在する限り、受け継いでほしい。将来を展望した基礎研究と現在に役立つ実践的研究の両方をやってほしい。（工, 60歳以上, 男）

◆一般教養を今少し熱心に学べておればと思う。その気の実習カルキュラムにあれば、面白かったのでは？教育は訓練と思う。従って、苦しみが伴わない。苦しみを乗り越えて興味も探求心もでてくるのではと思う。この点学生時代、少し足りなかった気がする。（工, 60歳以上, 男）

農学部・農学研究科

◆受講の目的が単位取得のためだけという学生が多い。進級のシステムが画一的でバリエーションに乏しいためではないか。もっと能動的に自己の可能性を探求できるように、カリキュラムの選択肢を増やすべきでは。（農, 20歳代, 男）

◆外国語教育をもっと強化すべき。listening speakingを必修とすべき。（農, 20歳代, 女）

◆360°評価（上司、同僚、学生、学外関係先、評価専門者が行う）の実施による厳しさの追求、なんてのはいかがでしょうか？→ただこれは余り行き過ぎない方がいいと思います。（農, 20歳代, 男）

◆教養、学部と分けへだてなく、もっと1回生からでも専門教育や、4回生でも教養を取得してもよいようなカリキュラムにしてもよいと思う。必須科目に絞られず、自由に専攻、取得した科目を単位として認めてもよいと思う。かなう自由な自主性を重んじた教育だとは思うが、必須科目に絞られることなく、勉学したい科目を、自由に選べるようになってもよいと思う。また、転学部、転学科についても、自由にできるようにしてほしい。今の日本の教育では、18、19才では中々専攻を決断することはできないのではないだろうか。（農, 20歳代, 男）

◆強いられる部分が少なくそれが各方面の能力がのびた原因だと思う。ただ、それは時として何もしていないとの批判を受けるこ

ともあろう。しかし、それに屈せず、自由な気風というのを保ってほしい。最後に、能力が伴なわないものには学位を与えないシステムにすることも、バランスをとりながら行なっていくべきではあると思う。（農, 20歳代, 男）

◆学部では、特に低学年のうちは、幅広い知識、思考力を得るべく、教養科目も重視していただきたいが、ゼミ等もとり入れた形にしてほしいと思います。（農, 20歳代, 女）

◆一般教養科目については、幅広い知識を見につけるという点で、役に立った。授業等で束縛が少ない（他校と比較して科目の選択が自分自身で決定できる）点は良いと思う。（農, 20歳代, 女）

◆一般教養は興味の持てるものが少なかった。本人のやる気の問題かもしれませんが・・・。一般教養については確かにもう少し魅力的なものに改善する余地は有る様に思います。特に外国語は文学の読解よりも会話や時事ねたを用いる方が良い。（農, 20歳代, 男）

◆教養科目においては専門外の講義を積極的に取得した。専門的なものは最低限であったが、自身の成長には専門外のものを学ぶほうが為になったと考える。専門、研究活動は最新とは言いがたかったが、知識および技術の向上に役に立った。教養、専門は意識的に切りわけたほうが、人間成長、人格形成に良い結果を得られると思う。（農, 20歳代, 男）

◆単位の取りやすい講義を中心に選択していた。簡単に単位をくれる先生が多すぎるのも今、考えると問題あったかもしれない。ただし、研究室に入ってからは、急にまじめに勉強することを要求されるが、やっと大学生活が始まったように感じた。（農, 20歳代, 男）

◆（最近の動向は存じ上げないですが）専門性を高めるため、一般教養の取得単位を必須とせず、1回生から専門の単位を取れるようにしてはどうか。もしくは、単位制度をなくして、卒論・卒研だけで卒業（修了）資格を判断しても良いのではないか。（農, 20歳代, 男）

◆学生が自由に自分のやりたい事に打ち込める環境（時間、設備面で）があることは素晴らしいことだと思うが、教養の授業では、学生の方が最初はヤル気があっても、授業が余りにマンネリで、次第に足が遠のく場合が多々あった。授業によっては教官にも、もう少しヤル気を出してほしかった。（農, 20歳代, 女）

◆・教育に専念できるスタッフを置くべきであり、学部教育は予備校などへの一部外注も考えるべきである。現状のままでは、大学院に進学する学生の平均的レベルが低下するため、京都大学の研究能力が低下する。（農, 20歳代, 男）

◆・自分の経験から考えると、ほとんどの講義は、強制的ではなく、自主的に勉強しなさいという感じだったので、私はクラブ活動に専念していました。1〜3回生の間のほとんどの時間をそれに費やしてはいましたが、今では、それはそれでよかったかと思います。ただ、もうすこし「勉強」しておけばよかったと思うこともあるので、大学における「勉強」というのがどういうものかということや、その方法などを、少し教えていただければと思います。・高校までは、勉強一筋でやってきた人が多いようなので、どこか世間知らずな部分のある人が自分も含めて多かったと思います。それで、宗教などに入る人も多いのかとも思いますが、そんなことは「京都大学の教育」とは関係なく私の問題なのでしょうか？。（農, 20歳代, 女）

◆listening重点をおいた語学教育を必須科目にした方が良いと思う。↓社会人になって痛感した。又、ビジネスの場面でhearing／speekingが必ず必要になる。更に、TOEICも力を入れて行った方が良い。一専門はだまっていても絶対にやると思います。（農, 20歳代, 男）

◆四年で卒業できないことはあっても留年はほとんどない仕組みはすばらしいと思う。（今でもそうあってほしい）1年ごとに求められる単位をそろえて、その成績でその後の配属がきまる、という成績主義は「広く浅く、まんべんなくこなす」高校生のような大学生を推奨していることになる。それでは京大の存在意義はない。テストができる人と、学問・研究を深められる人は同じでないし、学問、研究はやる気のない人に強制するものではない。したがって、成績主義は強化せずに、残りの時間で何をするのかは学生次第、でよいと思う。その結果、全く大学と関係ない活動にあけくれる人もいるだろうが、つきつめた学問をしたい人も必ずいる。そういう人の講義外でのアプローチに対して何ができるかが、京大の懐の深さを見せるところではないか。大学に集まっている図書・文献・研究会の情報等は膨大で貴重なものだし、教授から助手、院生にいたるまでこれほど頭脳の集積している、充実した議論のできる場はなかなかない。1, 2回生から、そういう場に出入りできる環境はもう少し整えてもいいかと思う。最後に一般教養：川端先生の言学が面白かった。生物学実習でスケッチや山歩きをしたのは今役立っている。でも語学はたいてい面白くなかった。いろいろでしたが高級な雑学という気分で受けていましたしそれでよいかと思います。（農, 20歳代, 女）

◆学外活動を単位として認めるべき。（農, 20歳代, 男）

◆狭い。スタッフは優秀だと思う。（農, 20歳代, 男）

◆講義の中にはマンネリのものや、自分の著書の内容そのままのものが多かった。そのような講義であれば、自分で本を読めば済むこと。自由な学風なのだから、自分でできることは自分でする。そうではない生きた講義が必要なのでは。また、教授の負担もあろうから、自分で勉強できたことについても試験なりで単位をあげるような実力主義にする必要もあるかも。それで単位をとれないようであれば、（以下、不明）（農, 20歳代）

◆キャンパスの移転はしないでほしい。（農, 20歳代, 男）

◆講義形式について、語学学習など予復習が必須なものを除いては 週ごとのコマ割りではなく、4回生の学生実験のような短期集中型の方がよいのでは。 自分の経験上、講義外に一週間ほどのまとまった時間がとれることが非常に役立った。 また、なによりこの形式の方が断然実力が付いた。 そのためには、各集中講義の最後に試験を設け、試験期間を短縮（語学系のみ）し、 学休期間を短縮（特に期末試験後は長すぎる）すればよいと考えます。 また、論理的思考を鍛える場を拡充してほしい。 例えばディベート実践を経験する機会も教育の一環として設けていただきたい。 そして知識を得るだけではなく一般社会への開陳（意見、情報等）にも目を向けるべき。公開により市民にも知識の共有がはかれるばかりでなく、 学生も自らが

発信することにより理解が深まり、さらに深く勉学に励めます。 ここで大事なことは、上記二点に学生が積極的に参加してくるよう、 これを「単位認定に含める」ことです。 悲しいかな人間は（自分も含め）見返りがないとなかなか動かないので、 学生がその時点でどう考えようとも、長い目で見て結果的にプラスになることならば、 言葉は悪いですが「単位で釣る」のも必要と考えます。 （農, 20歳代, 男）

◆個人の自主性を尊重したシステムが自由な発想の創造や能力を伸ばすことにつながると思います。（農, 20歳代）

◆京大に限らず、やはり大学教育を受けた者に求められるのは、幅広い教養、知識、物を見る目だと私は思っています。現在は「専門以外はやらない」という偏った考えの学生が多いようですが、そうではないもっと全体のバランスを求めている学生もきっといるはずです。最新のことを教えたり、自分の研究を紹介しつつも、今まで不変的と考えられている学術的なことを教えることは（講義として）重要だと思っています。でもそれを強制しないところが、本大学のよさなのではないでしょうか。（農, 30歳代, 女）

◆実務とつながるものは企業の資金力、研究設備を活用した方がよい。基礎研究については、公的資金でも仕方がない。（農, 30歳代, 女）

◆個人の創造性を生かす教育を推進していってほしい。（農, 30歳代, 男）

◆おおむね満足している。やりたい人はやれる環境があり、やりたくない人はすぐに出ていく。京大の学風として、皆のレベルを上げるより、ピンからキリまで幅広い方が楽しい。（農, 30歳代, 女）

◆私は満足であった。（農, 30歳代, 男）

◆現在の社会人としての生活には、大学での一般教養科目で学んだことは、ほとんど役立っていません。高校まで（もしくは予備校まで、私の場合、この部分が大いに役立っています）の学んだことの方が、役立っていると感じます。大学は専門科目を重点的に入学当初より学ぶようなカリキュラムにすべきではと思います。（農, 30歳代, 男）

◆自由で美しい大学であってほしい。大学は学問をするところであって、職業訓練所ではないことを明確にして下さい。日本の中で唯一の大学であり続けて下さい。（農, 30歳代, 男）

◆実社会に出て役立つ専門知識の講義を行うなど実務者が必要とするものを選択する等の講義内容自体の見直しをする必要があるように思います。現在商社に勤務していますが、学生時代英語や経済学等、勉強しておけばよかったと反省していますが、果たしてその当時今考えるこんな講義をというものがあったかと思い出してみると見当たらないような気がします。（農, 30歳代, 男）

◆長い間、本人の自由な意思を認めるという素晴らしい教育を行ってきた京都大学ですが、世界的視野で見た場合の京大の教育は十分とは言い難い。特に学部、大学院（修士）における専門講義では、学生は基礎力を身につけることさえ出来ていないのではないかと思える。日本の将来を真剣に考えるなら多少つめ込みと批判されても、もっときっちりとした教育が必要ではないでしょうか。（農, 30歳代, 男）

◆一般教養課目（語学、専門基礎など）は、強制力を高める（必須科目を増やす）等の改善を行って、学生の基礎学力の維持について考えていただきたいと思います。最低限これだけやればいいというラインを下げれば、言われなければやらない層にあたる学生まで、基礎学力が低下して専門に進んだ特に支障をきたす者がふえると思います。（農, 30歳代, 男）

◆自由な学風を尊重しつつ、各学位の取得の審査を厳しくするのは、可能でしょうか。（農, 30歳代, 男）

◆一、二年の教養課程の授業がもっと現実的な一般教養を高めるのに役立つ内容であってほしかったです。特に、自然科学系の科目は、高校を卒業したばかりのレベルから一気に高度な内容となり、理解に至らないものが多かったように思います。教授の方も一方的に進めるのみでした。興味のある人、専門でも学ぶ人は、理解に至るよう努力されたのでしょうが、それ以外の者にとっては何も残らない結果となっていたように思います。もう少し、文系、理系を問わず、教養として、されに深く知りたい人にとってもその入口として、役立つ授業であれば有難く存じます。（農, 30歳代, 女）

◆入学時は、学問への意欲が高く、やる気もあるのだが、一般教養の2年間で興味のない授業を受け学問なんてこんなものか、とやる気を一気になくしてしまう教育スタイルはやめた方が良い。入学時から基礎的な実験と創作的な実験を両方学べるようにすると、自分では学ばねばならなくてはいけない事が明確になり、学問への意欲も増大すると思う。（農, 30歳代, 男）

◆やる気さえあればいくらでも学ぶチャンスはあったのですが、必要な単位を取ると、それ以上はできなかった。今から思うともっと勉強しておけば良かったと思っている。学風には合わないかもしれないが、普通にやる気のある学生がもっと勉強するようにするためもう少し取得するべき単位を増やすとともに特に重要な科目についての単位取得のハードルをもっと上げてはどうかと思う。一部のスーパーエリートを生むことも大切だが京大生の半分くらいは、社会に出て恥をかかないようにすべきではないかと思う。（農, 30歳代, 男）

◆学びたい者だけ自由に教育するシステムが良い。通過するだけのシステム（従来のように）があってもそれはそれでいいのではないでしょうか。（農, 30歳代, 男）

◆教育について、余り熱心でない教官が多いように思います。（農, 30歳代, 男）

◆一般教養でフランス語を選択していた。ドイツ語より週に1限多く、フランス人による実習も必修で厳しかったが、フランスに行った時、役立ったし、いまでもほんのカタコト程度だが少し話せるし、良かったと思う。現役学生にもラクな（単位のとり易い）講義ばかりではなく、大変だけれど、将来役に立つものも選択した方が良いことをＰＲすると良いと思う。（ただし、私は他大学でフランス語を既に学んだ上で京大に入学しているので、ふつうの新入生にはかなりむずかしく厳しい科目かもしれない。）・学部が違っていてもかなり自由にいろいろな講義や実験を受講させてもらえるのはすばらしいシステムだと思う。（農, 30歳代, 女）

◆・大学時代の学業については、内容云々より、学生時代にもっと積極的に取り組んでいれば良かった、と感じる時が有ります。

実社会に出てから、いろいろと勉強する機会が有りましたが、その時になって、「あ、京大の○○回生の時にとっていた××学の内容やなぁ、でも、ほとんど出席してなかったから・・・・」と後悔の様な事を感じるからです。これらは、京大のプログラム内容と云うよりは、日本の受験システムの問題という気がします。（余りポイントが絞れてなくて申し訳有りません。）・卒業後、米国の大学院で修士号を得る機会が有りましたが、「生涯学習」の大切さを実感した気がします。一度社会に出て働いている人が、30代や40代になってから、再度大学（院）にもどり、新たな専門性を得るための教育を受ける、と云う事について、大学側のみならず、学生も社会も、（企業も含む）含めたコンセンサスが得られており、その様に大学にもどる人々に対してバックアップする仕組みが整っています。日本においても、その様なコンセンサスを形成出来れば、と思います。（農, 30歳代, 男）

◆京都大学の自由な学風は尊重したいのですが、最近は、「自由」という言葉をはきちがえてとらえる学生もいる様です。私もそうでした。この様な学生に誤ちをできるだけ早く気付かせることも必要ではないでしょうか。（農, 30歳代, 男）

◆教養を高めるという意味で「芸術」分野をより拡充したらよいのでは、と思います。1つは一般教養科目に「芸術」分野の実習系単位を増す。もうひとつは「芸術学部」を創設する。こちらは実習系というよりは、言語以外の世界を研究する場として。（農, 30歳代, 男）

◆社会にでて、他大学の同僚と比較しても、自由に勉強できていたことを感じています。また、その立地についても、大学の学風を際立たせるだけでなく、アルバイト等による社会勉強を行うのに良い環境だったのではないでしょうか。（農, 30歳代, 男）

◆・学部は今の自由なままでいいんじゃないでしょうか。　・生徒の学外活動をもっとバックアップする。（農, 30歳代, 男）

◆他大学と比べて自由であったと思われます。学びたい人は学ぶことができ、そうでない人はそれなりに・・・。（農, 30歳代, 男）

◆教育の成果は本人のやる気、興味次第だと思う。学ぶ意思のない学生は振り落として構わない。その一方で、自主性や興味をそぐような教育をすべきではない。（農, 30歳代, 女）

◆教養課程におけるカリキュラムを、もっと多様化させるのもいいと思う。例えば、ゼミ形式のものをもっと奨励し、幅広い学部の学生が、分野にとらわれることなく参加しやすいものがあれば、面白いと思う。（農, 30歳代, 女）

◆講師の評価制度を、早急に導入してほしい。（農, 30歳代, 男）

◆自由な学風、創造性が、独立性が尊重されるのが、よいところではありますが、それらが生かされてるかどうかは学生の自立性にかかっているところも大きいと思います。受験勉強偏重で知識だけをつめ込んできた学生にはしばしば論理的なものの考え方に、欠ける者も存在するわけで、もう一歩親切に補う教育が必要ではないかと考えます。研究が重視される場合には、研究のすすめ方について独自で構成できないケースも多々あると思われます。大学院においても研究重視の環境の中ですすめ方に対する基礎的な考え方をしっかり持つことが必要で、私が経験した限り、より詳細な（些末というと失礼ですが）狭い領域専門知識を収集する方に重きがおかれていたように思いました。（農, 30歳代, 女）

◆本人の自主性に任せる自由な風潮に甘え、真険に勉強したのは、ごく一部の授業だけで、私自身、社会人になってから非常に後悔した。専門直接関連のない科目でも、後から気付くには、一流の教授の素晴らしい授業だったワケで、現在の私の思考方法に少なからず影響を及ぼしている。京大で学ぶということは、国の税金の一部を使わさせて頂いているという意識をもう少し学生に持たせ、日本の将来のためには、自由と放任との区別をしていただければと思う。（農, 30歳代, 女）

◆・講義内容がおざなりであると感じたことがあった。・最新の手法・研究成果が十分に盛り込まれていない。（農, 30歳代, 女）

◆一般教養科目はできるだけ幅広い分野を取るチャンスを与えるべき。一方、専門科目については各講義の充実とともに、一連の講義をとったときにどのような知識体系を与えられるのかを考えるべき。このためには専門の講義全体を見渡し考えるオーガナイザーが必要だろう。（農, 30歳代, 男）

◆外国語・専門課程に進んでから（3年生以降）の英語（論文の読み合わせも含めて）はもちろん約に立った。教養課程の英語は英語力をなまらせない為という意味はあったと思う。ヒアリング／スピーキング重視の授業が増えると良かったのでは？。第2外国語（独語）は面白かったが、現在は役に立っていない。一般教養・人文・社会系は自分が興味のあるものだけを選択した。選択したものは教養を高めるのに役立ったとは思う。自然科学系はその後現在に至るまで自分の専門・業務に役立っている。（農, 30歳代, 男）

◆“学内で”自由だがしっかりと学ばせる仕組を整えてほしい。（自分の余り勉強しなかった経験を踏まえて。）人間は、一般的に易に流されやすいため、学ばせるようにしないと、大学で勉学に励まないため。社会人になって、特に企業で働くようになって必要かつ重要な能力は、口頭でのコミュニケーション能力である。大学で直接的に教えるべきことでは無いと思うが、ゼミ・演習・実験・フィールドワークなどでの教官と学生、そして学生間の議論・討論は間接的にこうした能力をアップさせる。講義形式で学生が受身となる。教育は減らしてゼミ・演習を積極的に取り入れれば良いと思う。（農, 30歳代, 男）

◆農学部という専門にもかかわらず、教養課程においては、人文・社会科学の勉強が出来たことは大変良かったと感じています。専門課程、教養課程のどちらにも言えることですが、学んで初めて進路が見えてくるということもある為、カウンセリングの様な制度があれば良かったのではないでしょうか。私自身も入学時と卒業時では大分方向性が異なっていましたので。（農, 30歳代, 男）

◆最近は、幅広く学ばすようになりすぎている気がする。もう少し、エキスパート養成であっても良い。（農, 30歳代, 男）

◆自分で考える力を付けることに力点を置いて頂きたいです。（農, 30歳代, 男）

◆学生が主体的に履修できる科目を数多く取りそろえいほしい。（農, 30歳代, 男）

◆講師や教授の方々の講義は、わかりにくいものが多かった。知識は豊富でも教えるのは上手とは限らないから…。（一部の本当に優秀な勉強好きの人のみ独学で理解しているといった講義もありました。）教える先生方に魅力的な講義はどういうものか勉強してほしいと思う。（農, 30歳代, 女）

◆問題解決型の演習を行う。・課題を出し、調べ方のヒントだけ示して、放っておく。・レポートを詳細にチェックし、一定の水準以上になるまで再提出させる。こういう演習が全単位の1／3くらいあっても良い。（農, 30歳代, 男）

◆大学の職員（助手・講師など）への採用の際に教育者としての適正もきちんと考慮した方が良かったのではないか。といったケースが見られた。採用時の検討はもちろんきちんとするべきだが、採用後のガイダンスなどをもっとしっかりするべきではないのか。（農, 30歳代, 男）

◆自由な校風にあこがれて1浪して京大に入学しました。学生自治を尊重する校風は今となっては学校側、教授方の理解なくして成り立たず、心から感謝しております。私は1回～4回生まで熊野寮に入っており、生活費の点で本当に助かりました。また、ここでの共同生活で得た体験（一部の過激派の思想に触れる事ができたのも含め）は青春の想い出です。また、同じフロアの先輩後輩との交流は今でも続いており、熊野寮の存在は今の私のアイデンティティ形成の上で非常に大きなものです。また、体育会アメリカンフットボール部に入部し、勉強だけでは学べない大切な事を水野監督から学びました。不勉強の結果留年してしまいましたが、企業、会社の方々に大目に見てもらえるのも有難かったです（税金の無駄遣いでしかないので申し訳なく思いますが）ギャングスターズの存在、そして活躍できる土壌、ＯＢや後援会、関係者のバックアップなど、京大があってこそだと思います。私は企業で採用を担当しており、昨年人間科学部主催の企業研究セミナーに参加しましたが、残念ながら学生の覇気を感じませんでした。「京大生だからアクセクしなくても、そこそこの会社に就職できる」という思いがミエミエでした。「京大生だから少々の無茶を学生時代にしたとしても就職できる」と考え、もっと他校の学生ができない事に打ち込んでほしいと思います。「粒」が小さくなってしまえば、他の国公立大と同じレベルになってしまうと思います。（農, 30歳代, 男）

◆自由な校風に甘えすぎ、どうやら自分を見失っている者が多くみかけられるようになったと思う。（農, 30歳代, 男）

◆他大学との講義単位の共有などは、もっと進めてよい取り組みだと思う。広い視野を持った人が各分野で活躍できるよう、単位の共有などを学部間、大学間で広く認めて、違う分野でのバックグラウンド、経験を持つ人が別の分野で活躍できるような環境を整えてほしい。（農, 30歳代, 男）

◆学生が自主的な学業をすることを尊重することは重要である。しかし、そのことは、教員が教育活動より研究活動を優先してよいことは別である。明らかに、教育に熱心でない教員が専門教育に多かったと思う。10年前の生化学の教科書を使う教員がいたことは残念である。（農, 30歳代, 男）

◆現状がどうなっているのかよく知らないので、的はずれかもしれないことをお断りしておきます。専門教育を早くから始めるのも必要でしょうが、一般教養も大事にするべきだと思います。副専攻といった形で、自然科学を専門にするなら人文科学を勉強する、というようなことができればいいと思います。「パンキョウ」の制度は、そういう意味では中途半端でした。いろんな科目をつまみ食いするだけで、結局どれもものにならなかったと思います。もちろん、学部の年代の人にそれだけの動機付けを与えられるかという問題はありますが、今どきの学生は、やれといったらやれる気がします。全員がうまくできなくても、ものになる人が出てくればいいから、制度的にそういうことを、間口を広げて保証しておくのはよいと思います。（農, 30歳代, 男）

◆最近は状況が変わっているかもしれないが、学部在学中、大学院在学中ともに、講義といえば、何年も使っているであろうノートをもとにした講義が主で、新鮮さに欠け、退屈な内容であった（年輩の教授は特にそうだった）。人文社会系、自然科学系ともに、タイムリーな内容の講義や実験をくめば、学生ももっと興味を持って、勉強するのではないでしょうか（先生方の負担は増えるでしょうが）。（農, 30歳代, 女）

◆学生生活においては経済的な負担が大きく、アルバイトに時間を費やさざるを得ず、勉強のための時間を犠牲にしたように感じられました。アルバイトも社会に関する重要な勉強の一つですが、京都大学である以上学問が最も重要な勉強であり、どんな学生でも安心して学問にいそしむことができるような学校であること（例えば福祉の充実）が、京都大学の学問・教育・研究の一層の向上に必要ではないかと考えます。（農, 30歳代）

◆当時は、教養過程もあり、選択枝が豊富であり、自分の興味のある講義を選択できた。 私の専門は、水産学であったが、同時に数学にも興味があった。教養過程で、かなり突っ込んだ講義を受講することが出来たことには感謝している。現在の仕事でもこのときに学んだ知識は、利用しており、専門知識よりも重宝している。（農, 30歳代, 男）

◆1、2年での専門教育が少なすぎる。この期間でも、教養の単位と専門の単位の比率を1:1ぐらいにすべきだ。（農, 30歳代）

◆私は大好きです。自分で考えるというスタイルが特によいと思います。（農, 30歳代, 男）

◆早い時点で専門科目があってもよい。（農, 30歳代, 男）

◆大学の授業というより学友と下宿でアカデミックな議論をしたこと。また、そのために諸々本を読みました。大学そのものより、良き友人にめぐりあえたことが大きな成果でした。（農, 40歳代, 男）

◆講義　もう少し対話形式に。レポートも必要。大学院講義　いい加減なものが多いので改善を。 まともな学生自治組織が教職員と交渉しながら、より良い授業をつくる努力が必要。教官は、学生のレベルを把握して授業内容を考える必要がある。民主主義社会でありながら、民主主義の重要性を理解していない卒業生が多い。民主主義・人権教育をしっかりしてほしい。民主的討議の練習が必要。（農, 40歳代, 男）

◆京都市左京区にあって、すばらしい友人、京都人（京都に来る人？）と知り合い、知り合って話し合える、議論できることが、最大の財産。京大のscheme。（農, 40歳代, 男）

◆「教養を高める」と「業務を遂行する」とは別ものでしょうね。知識そのものが役に立つ場合もあれば、手法が後々の役に立つ場合もあります。しかし、京大は学術を中心に据えて特化してはいかがでしょうか。他の大学は違う路線を歩まれると思いますが。その意味で研究者を育てる教育に重点を置いてはどうでしょうか。それが、嫌な方は、他大学を受験されたらよいと思います。（農, 40歳代, 男）

◆自由な学風の維持を強く希望する。短期的かつ視野狭さく的な教育と研究に陥ってしまうと京大のよさが失われてしまう。京大のよさとは「放任主義」の下に生まれる独創的発想を可能とする環境にある。しかしむしろ、最近では、管理主義傾向が強まり、小粒な人間しか生み出しているように思う。大胆な構想力を許し、鍛錬する教育を望む。ただし、教育研究の手抜きは許されない。中にはその傾向が見られる教官もいる。この点は教官相互の建設的批判が必要ではないか。（農，40歳代，男）

◆語学教育の充実。（農，40歳代，男）

◆学部においては専門と一般教養を順を逆にしたらどうか。単位を取るために一般教養を受講するのはもったいない。（農，40歳代，男）

◆問5～10で「役立っていない」としたのは、大学の講義等の直接的な教育が「役立っていない」としたのであって、その自由な学風から得られる人間形成といった意味では、これほど役立っているものはない。すなわち、講義等は受講しなかったが、大学（院）の6年間は、自由の中で実に様々なことを学んだ。「自由度が高い」ということから、私は多くを学び、それが今でもすべてが役立っている。（農，40歳代，男）

◆一般教養（人文・社会科学系）では、憲法概論等は役立ったと思っている。また、北一論も興味深かった。一方自然科学発達史や短時間で学べる総論的な内容があれば幅広く学べると考える。語学では、詩の翻訳の内容と記憶しているが、このようなものより時事英語や研究論文のような実場面で役立つものが良いと思う。（農，40歳代，男）

◆①入学時（76'）なぜ教養部があるのか理解できなかったし、その説明もなかった。大学に入れば専門性の高い授業が受けられると思っていたので戸惑った。たった2年間の学部生活でどこまで深い研究ができるのだろうか。②高等学校での知識の延長線上に大学での講義がないように思えた。③結局、学生を引きつける魅力ある講義（単なるテクニックではない）が用意されれば、学生は自ずからついて行くように思う。（農，40歳代，男）

◆「自由で独自な発想の考え方」を重視して行くべきである。戦後の没個性の教育潮流を少しでも変革すべきであり、そのベースは充分に大学で備わっていると考えます。扱いやすい学生社会人は将来を暗くする大きな因子です。その意味で「恒常性」を絶えず追求していく姿勢が大切でしょう。いつでも、どこでも意見が述べられる、そして他人の主張を受け入れられる学生、職員、教員が大学としての大きなIdentityになるはずです。（農，40歳代，男）

◆外国語教育は実践力が必要です。単に読み書きにならない教育が求められていると思いますが、私たちの時代は論文を読解するための外国語修得が主でした。一般教養で民法や心理学を取ったことはいまだに少し役立っています。多分今後もこういう幅広い「常識」を形成させるための教育は必要でしょう。また、何よりも自分で答えを出すために考えるという機会を教育の場で何度も与えることが重要だと思います。知識の詰め込みでは何も回答を導き出せませんので。（農，40歳代，男）

◆1. 研究重視の専門教育を充実してほしい。 2. 教員の質のレベルアップ。 3. 優秀な人材への経済的援助を行う。（農，40歳代，男）

◆京都大学には、学習能力（学力）の優れた子供が集まってくることには変化がないのでしょうが、彼らは社会人として一般常識や問題解決能力、創造力に乏しい感じがします。これは京都大学の問題というより、社会や初中等の学校教育、家庭での教育の問題や、社会全般に関わる課題かと思います。結果としてこれまでのようなブランド校としての京大の存在は薄れていくのではないでしょうか？（農，40歳代，男）

◆教養の在り方が中途半端である。特に理系の場合、語学などは教養として文学系の購読を取るのか、論文のように専門の英語を読むのか、選択もしくは学年による違いを持たしたらよい。また専門に関してはもっと基礎の物理、化学、生物等をしっかり詰め込むことが必要である。特に今のように高校までの教育レベルが低下している現状であっては。そのためには教育専門の教員が必要であるし、その教員が自信を持って研究職員と両立できるような新たな評価（例えば本を書く等）が必要である。大学では研究職が一番評価されるようでは教育レベルは下がり、最終的には研究レベルが下がるであろう。（農，40歳代，女）

◆少なくとも私が在学していた当時、教育機関としての認識は、京大の教官の中に希薄だったような気がする（特に専門課程）。体系的にその分野の専門知識を身に付けるためのカリキュラムと各講義の内容企画を充分に詰めておく必要があると感じた。実社会からのニーズを反映してカリキュラム作成を行う必要があるのではなかろうか。（農，40歳代，男）

◆①入学後に今後の方向を修正することもあり、京大はより一層いろいろな講義を自由に受講させ単位として認めるべきである。自由な受講の姿が「求められている新たな学問のユニット」を示している。自分も薬学部に入ったが、経済学部か農学部に転入しようと真剣に悩んだ。農学部に入っても専攻は農芸化学であるが、畜産、林産工学、農林経済など幅広く学んだ（単位に組み込まれず、表面的な少ない単位に終わった）。②社会の中で必要なのは、自分が何に興味があり、どのような知識を主体的に修得しようとしているかであり、学部、学科は不要（縦割り過ぎる）。 最終的な卒業論文を提出した研究室が所属する学部で卒業とすればよい。（農，40歳代，男）

◆①現在の状況がよく分からないのですが、私が在学中の頃、転学科、転学部が比較的容易だったので、この制度は良いと思います。入学した後でも変更可能性があるのは素晴らしい。それとともに一般教養で特に人文科学系の講義が充実しており（卒業後も強く印象に残っている）、高校生までに知らなかった学問分野を知ることができる。この2つの制度がよく機能することがよいと思う。②優秀な学生によく学べるより良き環境を。（農，40歳代，女）

◆卒業後、地方の国立大学に勤務してから感じたのですが、京都大学は学部生と教授とがふれあう機会が少ないという事です。もう少しアットホームな雰囲気があっても良いのではないでしょうか。（農，40歳代，女）

◆問13にもありますように京大の伝統を尊重した教育をおこなってほしいと思います。特に自由、独立の精神、フィールドワークの重視は貴重だと思います。（農，40歳代，男）

◆・主体性を尊重する気風はその後の人生を主体的に取り組むうえで良い。・戦略性を持った魅力的な「実学」のコーギ、演習

があれば良かった。（農, 40歳代, 男）

◆いろんな自由度が認められていて勉学意欲がわいた。学部を越えていろんな授業、実習、ゼミにもぐり込ませてもらえたことは今でもありがたい思い出である。（農, 40歳代, 男）

◆基礎を重視した教育をすべきと思います。国立大学の独立行政法人化が、まず不可避となった現在、外部資金の導入や、大学の経営に民間的発想を導入することが、強く推し進められようとしています。しかし、日本の文化、学術の将来を考えると、大学こそ、そして、いまこそ、基礎を重視して教育を進めなければならないと考えます。現在、華々しく進められている応用研究も、かつての基礎研究の上に成り立っているわけで、基礎研究、基礎を重視した教育、且つ自由な研究教育の積み重ねにより、大きく進展する応用研究が芽生えてくると考えられるからです。（農, 40歳代, 男）

◆教育方法は好ましいと思う大学院入試は以前のように厳格に評価してほしい。地方大学の4年生卒業生が多数京大に進学するので地方大学の大学院教育が今後益々厳しくなっていく。（農, 40歳代, 男）

◆学生のやりたい勉強と、実社会で要求される仕事の間に、大きなギャップがある。特に自然科学系ではこの傾向が強いのではないか。私個人は、農学部の水産学科を卒業し、水産庁の水産研究所に就職したが、最近特に水産資源解析などの仕事が主体となり、在学中にはこの分野の勉強をほとんどしていなかったので、大きなハンディキャップとなっている。水産資源解析学の充実を要望します。（農, 40歳代, 男）

◆小さな学科単位でおこなわれた講義や演習、さらには実験が有用であったと思われる。一方、大学院における自由な研究の雰囲気は、自立心の形成に有効であったと思われます。（農, 40歳代, 男）

◆1980年卒でありますが、その後聴講した大学（上智大）に比し、国際性に欠ける面が目立った。オリジナリティー「個」を大切にする学風は、たいへん良いと思う。（農, 40歳代, 男）

◆語学教育（外国語）については、会話・論文作成に不自由なく使いこなせるよう、工夫が必要だと思います。（農, 40歳代, 女）

◆どこの大学でも同じかもしれませんが、講義が面白くないのはなんとかならないものか？あれでは学生の大半は眠るかサボルかのどちらかであると思う。先生方はほとんどの人が話術にしても説明のしかたにしても下手であるといわざるをえません。（農, 40歳代, 男）

◆未知らぬ土地で川に行き当たったとき、川上へ向かい水源を探すか、川下へ向かい水の行方を見届けるか、科学者は前者を、技術者は後者を選ぶのではないかと思う。今の京都大学（大学全般かも）の教育は、前者の「水源探し（＝基礎研究）」重視であるように思える。それは方向性としては、基本的には正しいとは思うが、例えば、農学や工学のように産業と直結している分野では、もう少し「水の行方を見届ける精神」を重視しても良いのではないか。日本に今最も必要とされているのは、優秀な技術者であると思う。（農, 40歳代, 男）

◆今はどう変わったかわかりませんが、教養部の2年目というのは少し無駄な時間が多かった気がします。もう少し専門科目や、他学部の科目を自由に受講できれば、教養を深める時間にできたのでは、と思います。英語に関しては、大学教育までの部分で、ある程度実用として役立っていますが、ドイツ語は会話としては全然身につかず、後にドイツ語学校でようやく「使えるドイツ語」になりました。第2外国語の教育法には改善すべき点があるのではないかと思います。（農, 40歳代, 女）

◆自分の経験からいえば、学部時代に1～2年は海外に出て、言葉をはじめ、多様な状況を認識して帰国し、よりインセンティブの高い状態で講義などを選択すれば、もっと実践的な、身についた勉強ができたと思います。昔に比べ、海外や実社会で経験をつんで、また大学に戻るという機会は増えていると思いますが、大学の制度としてつくっても良いのではないかと思います。（農, 40歳代, 男）

◆私達が卒業してから、かなりの年数が過ぎていますが、京大の自由な学風は印象的です。卒業論文は大変稚拙なできだったと思いますが、必要単位が不足するため、苦しみながらの提出でした。 ・卒論は、単位取得の項目ではなく、卒業のための必須事項として位置付けた方が良いでしょう（その際は単位数はゼロ） ・自由な学風を基本にしながらも、自分の成長、研究、主張を論文を通して表現することは大変重要です。（農, 40歳代, 男）

◆教養科目は廃止するか文系と理系に完全に分けるべきと思う。（農, 40歳代, 男）

◆1. 変化の激しい時代にあって、幅広い視野に立ち、将来を見据えた生き方、業務遂行により社会に貢献する人材を育成するため、専門科目、教養科目、語学等の総合的な教育を一層進めるべきである。 2. 京大の良いところは、京都という歴史的な地にあり、他の大学とはまた異なった学生、教官との交流の在り方が可能な空間。学外活動にも配慮が必要である。（農, 40歳代, 男）

◆他学部（他大学）の単位を認定するなど、自由度の高いカリキュラムに取り組んでほしい。（農, 40歳代, 男）

◆教官相互の連けいをもっと密にして講義課目の体系を整備するべき（特に専門科目）（農, 40歳代, 男）

◆他学部（工業部）の講義を受けられたのは、とても良かったと思う。（未知の分野でも勉強すれば何とかなるという気がして、すっと入れた。）（農, 40歳代, 女）

◆就職してくる後輩を見ていると、個性のない人が多くなっているような気がする。そこそこの能力は有しているが、エネルギッシュに欠ける。社会の変革を担えるような学生を育てていく事が大切なのではないか。（農, 40歳代, 男）

◆人間味豊かな国際人が育ってほしい。（農, 40歳代, 男）

◆先生の独創的な考え方が強いほど印象に残るし、その根幹にある信念などが、何年も経ってからであっても理解できる事があります。一般的な話ではなく、極まった話を聞けるのが楽しみです。（農, 40歳代, 男）

◆指導教官と学生が、自由に意見交換ができる自由な学風が、京大の最も良い点であると思います。ゼミを中心に指導教官と学部学生・大学院生がディスカッションできる機会を、多く設けて頂ければと存じます。（農, 40歳代, 男）

◆創造力、挑戦的精神を高める教育に、力を入れてほしい。（農, 40歳代, 男）
◆最近の学生は、与えられた課題をソツなくこなすが、一歩進んで何かを工夫し、何かを考え、何かを創り出すという点で、少し物足りなさを感じます。大学の教育は、物の考え方、取り組み方の基礎を与えてやる事に重点を置くべきではないでしょうか。そして学生はそれをもとに、創造性の芽を育んでほしいと思います。（農, 40歳代, 男）
◆京都大学の場合は、他大学に比べると、外国語教育は充実している方だと思います。第1外国語（英語）以外に、第2外国語（ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語等）を教えてもらい、ドイツ語やフランス語の文献を読めるようになるということは、将来社会人として、特に技術者として活躍できる時の強みになると思います。今後も外国語教育の単位数は少なくしないことを望みます。（農, 40歳代, 男）
◆教養はは2年で良いが、専門をもう少し幅を広げ教養をラップさせて、社会に応用できる視野を身につけることができるようにさせるべき。（農, 40歳代, 男）
◆・幅広い独自の評価項目を設定する。・教育、研究の個人評価を行なう。・任期制をとる。（農, 40歳代, 男）
◆一般教養の2年間は無駄であったような印象が強い。各講義の内容が特に1回生の時は情報に乏しく、期待していたものとの隔離が多かった。単位取得の問題もあろうが、1年間は自由にどの講義も受けることのできるカリキュラムがあった方が良いと思う。（農, 40歳代, 男）
◆一般教養と専門が2年づつとなっていたが、専門をもう少し比率を高めても良いのではないかと思った。（農, 40歳代, 男）
◆京大教育のモットーは、自主・自由です。学内でのプログラムに限定せず、学外の生きた社会活動の応用をできるだけ体験できるよう幅広いoptionsを用意してあげて下さい。また、インターンシップについても、より多くの学生に体験させた方が、受けいれる社会にとってもメリットが高まると思いますので、今後応用させて下さい。研究の題材について、社会の事象をもっと用いるべきではないでしょうか。特定の分野に偏ってよいものではありません。（農, 40歳代, 男）
◆自由、創造性の重視を軸にしつつ、国際社会でも確立した個を主張できる人材の育成に力を注いで頂きたい。（農, 40歳代, 男）
◆卒論での日々深夜までの研究が知識・技術として自分の身についたように思います。（農, 40歳代, 男）
◆教養の2年間は長すぎた。期間を短くし、密度の濃いものに。専門の時間を長くするべきと考える。（農, 40歳代, 男）
◆幅広く一般教養を養い、その上に立って専門教育、研究活動を行っていくべきだと思います。（農, 40歳代, 男）
◆とにかく、自由に、好きな研究をさせてもらってよかった。（農, 40歳代, 男）
◆1・自由と自主性を重んじる教育方針は、今後も貫いてほしい。・しかし、自らの反省点として、京大の優れた先生方、豊富な図書、そして将来性豊かな人材群～こうした他では得られ難しい教育環境を十分活用しなかったことが残念でならない。今一度京大に戻られるなら猛烈に勉強・研究がしたい。・勉強する・しないは、あくまで個人の判断に委わるとしても、勉強しない者への進級・卒業資格は厳しくすべきと考える。2・京大の研究成果や資源が京都の経済・社会活動にもっと活用されてよい。基礎研究はもちろん重要であるが、狭い学内に止まらず、視野を拡げ、地域や社会に役立つ京大を目指すべき。単なる点取り屋のおりこうさんの集団になってほしくない。（農, 40歳代, 男）
◆現代、大学で教職についています。特に最近、学生に感じる事ですが、主体性、独自性が欠如してきている様に感じます。思うに、共通一次試験の導入時期と、この様に変化し出してきた時期が重なる様に感じます。これを確かめる統計的解析をきちんと行う必要があると思います。これらは大学教育だけの問題ではありませんが、全体の質を下げ、きわめて深刻な問題と受け止めています。この様な現実の中で、京都大学外部に対して（特に、大学以前の教育に対して）問題提起を続けて頂きたいのと同時に、大学内部では、風潮の様なものに迎合する事なく絶対的な価値感で進めて頂きたいと思います。（農, 40歳代, 男）
◆大学では学生が自由に何でもできた。それがよかった。一番の勉強になった。行動することそのものが勉強であった。今でも役に立っていると思っている。しかし、裏を返すと、大学は何もしてくれなかったということでもある。典型的な例が語学だと思う。自分でこつこつ研究するものには役に立つ機会があるかもしれないが、一般的には社会の要請と大きくかけ離れた教育内容だったと思う。「実用」という点で、もっと「サービス業」に徹しないと、これからの時代には名前だけでは生き残れないと、息子が大学（他大学）に通い始めて、つくづく考えている。（農, 40歳代, 男）
◆文科系の教養科目の中で、もっとダイナミックな社会の流れや経営のような分野を学べると幅広い教養として役立つのではないかと考える。MBAのような技術的基礎もしっかり持った経営者候補を育てることが必要ではないか。また国際交流の場も設けて（留学の機会を持ちやすい工夫）広い視野で学び続ける人材を育てていくべきである。（農, 40歳代, 男）
◆教官から受けた「研究に対する自主独立と自由」は今もしっかり自分の中に根づいています。東大とは違う学風を大切にして下さい。（農, 40歳代, 男）
◆企業（官庁）実習をもっと充実する方向で検討したら、個人の将来において、目指す方向が明確になってくるのでは？（農, 40歳代, 男）
◆自由な学風は素晴らしいと思う。ただ私のいた頃からかも知れないが大人しい学生が多いような気がする。もっと人間的に癖のある人を、つまりは個性豊かな人を育んでほしい。（農, 40歳代, 男）
◆京大の自由な雰囲気が大変気に入っている（但し、学部生まで）。実際、学部生時代はクラブに力が入り、適当に卒業させて頂いたという感が強い。小生は卒業後、企業から京大の研究所に派遣され、その間の研究で学位を頂いたが、その4年間は、企業から研究開発のために派遣されたという自覚で研究にいそしんだ。 当時は修士以上のものは研究のために上にあがるという自覚が各人にあったように思える。昨今、大学院大学となり、猫も杓子も修士にあがる（我々の時代も工学部にはこの傾

向があったようであるが）様になり、院生の質の低下を良く友人や先輩から耳にする。あと二年遊びたいので院に進むという輩が結構いるとのこと。また、昨今の高校教育と入試システムの改革で、数学のできない理系などが結構多いという。　大学院大学で定員枠を広げるのなら、広く門戸を開いた院試を行い、他大学からでも熱心で優秀な人間が入学できる環境をこれまで以上に、作っていかれれば学内の活性化が進むのではないだろうか。（農, 40歳代, 男）

◆1. 外国語教育の充実を希望します。 2. 私が言及することではないかも知れませんが、留学生に対する講義（英語）の充実をはかってほしいと思います。ほとんどが日本語では留学生を受け入れる状況にないと思います。（農, 40歳代, 男）

◆学生が主体性をもって科目を選択できるよう、カリキュラムの枠にはめたような教育をしないようにしてほしい。（農, 40歳代）

◆自由独立、創造挑戦の精神を涵養する。学際的講座を積極的に開設する。（農, 40歳代）

◆研究目標を自由に決め、調査、研究をゼミ、先生が指導することが一番身に付いた。自ら学ぶために入学するのであるから、押しつけることより、自主的に調べる方法がより身に付くと思う。成績がよくて出る＋本人の意識が大学で学んだにふさわしいかで卒業さすべきを考える。（農, 50歳代, 男）

◆現在の自分は、大学・大学院での講義・演習・クラブ活動抜きにはありえない。社会で実務を学ぶ基礎として役立っている。（農, 50歳代, 男）

◆1. 教育者としての評価制度を設けること：大学の教育は付帯業務化している。大学は研究機関とともに教育機関である。まずは教育があり、次に研究があるべきで教育に対する評価制度がないとともに教育方針がない。 2. 一般教養科目の充実：大学受験科目減少のため基礎学力や一般常識が低下してきている。人文・社会科学系、自然科学系ともに必須科目を増やすとともにランク付けした高度な内容の教育が望まれる。 3. 課題適応能力の育成：研究方法や考え方等、課題に対するストーリ作りができるような人材の育成が望まれる。（農, 50歳代, 男）

◆学部時代はぎっしりと授業が詰まり、充実していた。大学院の教育は先輩らによってなされたが、大系化されておらず、充実したものではない。一人よがりであったと思う。もっと学外の研究者等による批判が重要であったと思う。もっと深いレベルでの学問に接したかった。（農, 50歳代, 男）

◆教養教育を重視してほしい。（農, 50歳代, 男）

◆地理的状況からみても中央政府に媚びることなく、自己主張を守ってもらいたい。とりわけ現場を大事にする京都大学の伝統はしっかりと受け継いでいってもらいたい。（農, 50歳代, 男）

◆卒業論文が必須単位ではなくなって久しい。卒論のレベルや内容はともかくとして、論文の完成までの課程ので修得したことが、卒業後大いに自信となった。担当教官から日夜にわたり指導を受け、物事の思考の手順や物事をまとめていく目配り等大学の4回生の時でしか得られなかった。「卒論の必須」復活を望みます。（農, 50歳代, 男）

◆子供が大学受験をするようになってセンター試験との二本立ての入試を行っていることを知った。なぜ、自らすべての入試を実施し、入学を認めることをしないのか不思議だ。また、北大、東北大、九大などで行っているAO入試などの取り組みを行わないのだろう。個性あふれた学生を集めて活力のある学園にしてほしい。帰国子女の問題は身近に話されるようになり、国際化の進展が著しいが、教育学部に附属の小中学校を設けて幅広い人材育成を進めてはどうか。（農, 50歳代, 男）

◆卒業が33期前になり、現在の教育について知らないので、答えにくい。農学部の改組が成功しているのか気になっている。学生にとって力がついているのであろうか。中途半端になっていないか。（農, 50歳代, 男）

◆実学をもっと取り入れるべきで米国の様に途中で社会に一度出て、社会が何を要求しているかを体感する制度も必要。又、教授も象牙の塔に居るだけでなく社会に出ることも必要。（農, 50歳代, 男）

◆研究と同じように教育に熱心な教官が評価されるようなシステムにする必要がある。教育は十年一日のごとくカビのはえた講義であったように思う。（農, 50歳代, 男）

◆国語の必修化を希望します（農, 50歳代, 男）

◆課外活動、特に実社会での体験等にもっと重点をおいて学習を行う事が必要と思われる。但し、研究畑と実社会畑とは方向を異にすべきであり、これらの融合を計る意味で双方の会合を卒業後も定期的に行うべきである。（農, 50歳代, 男）

◆①体育会活動、サークル活動等、学部において支援することが必要。人格形成においてプラスになる。（農, 50歳代, 男）

◆自由な学風という名のもとに全体に勉強しない雰囲気が漂っている。関西では突出した大学であるので競争心が薄くお山の大将である。これらを克服するためには学生に勉強のノルマを果たすようなシステムを作り出すべきである。（農, 50歳代, 男）

◆押しつけ教育ではなく、学生に自由な発想を許す学風を大切にしてほしい。（農, 50歳代, 男）

◆創造性の尊重など非常によかった。私は地方の大学・学部出身で大学院を京大で学んだが、地方大学とは驚くほど異なる。自分達が世界のリーダー日本のリーダーとの自覚と目覚が大切で、今もありがたく思っている。（農, 50歳代, 男）

◆基礎教育を重視するが、応用のきくように指導必要。応用のきくとは専門性を高めるということである。基礎がないと専門は成立しない（農, 50歳代, 男）

◆語学教育が文学に偏っているのが問題。文学の情緒的な表現ではなくて、自分の意思を明確に伝えるための表現を重視した教育が必要。（農, 50歳代, 男）

◆このアンケートの設問は不難な回答が集まり、余り改善策に役立つとは思えない。また私のような昔の卒業生では、現在の京大の状況を肌で感じていないので、適格な意見を述べているか自信はないが敢えて言えば自由の学風を標榜するなら、少なくとも学閥を排することが必要である。大阪大学、慶応大学のように学外に広く人材を求めて教授陣のみならず学生の入替えまで踏みこむことも必要だろう。年寄りじみた意見で恐縮だが、最近の卒業生は、賢いが管理されることに慣れている人材が増えているように思える。何が問題なのだろう？（農, 50歳代, 男）

◆もう30数年も前になりますのでほとんど忘れてしまっております。あしからず。ただ、自由でかなり自分の好きな事に時間を割く事が出来たように記憶しておりますので、そうした気風は失ってほしくないと思っております。(農, 50歳代, 男)

◆教育の本来にもどり学生の自由を尊重し学ぶ者へのモチベーションを高めること。学生は比較的優秀なために自己の欲求をもち、それと教官が教育の観点から陰でサポートすること。(農, 50歳代, 男)

◆①哲学を根底にもった、一専門家を育成すること。 ②時流に安々とのらないこと。 ③国家でなく民衆、人間志向たれ。 ④アジアにしっかり眼を向けること。 ⑤国内でも老人、病人、子供等弱い人の立場に立っての学問を。(農, 50歳代, 男)

◆①自由の学風の下に、クラブ活動、特に運動系のクラブ活動に熱中して、授業にほとんど出ない学生もいる。教官も、これを自由な学風の名の下に奨励する風潮があるが、必ずしもいいとは思わない。②英語教育については、専門的な外書講読に片寄っており、社会に出てからはほとんど役に立たない。あと、英会話などの有益な教育をすべきである。③京都大学の場合は、専門教育はともかく、教養教育が余り魅力的ではないと思う。(農, 50歳代, 男)

◆各講義者が講義内容の位置付け、テーマの必然性をもっと充分に明確にする事により、学生に講義を受ける目的や、やる気を引き出せると思う。(農, 50歳代, 男)

◆より「本質」なところから、物事を考えるような学生を養成してほしい。(農, 50歳代, 男)

◆伝統ある歴史と社会貢献実績に、裏打ちされた学校としての教育スタッフ及び学生の集団であってほしい。常に次代を担う人材を、多方面に輩出する使命感を忘れてはならない。その為の大切な事は、厳しく、そして、高度(high level)に教育することである。入学から卒業まで、しっかり選定を強化し、集中力をもって学ぶ。運営と環境づくりをお願いしたい。(農, 50歳代, 男)

◆1. 卒業に必要な単位数を増やす方がよいと思います。現状より10単位。2. 単位認定を複数の教員で実施し、情実により甘くならないようにしたらいいと思います。3. 教育に専念する教員の優遇処を施す。4. チャランポランな単位認定はやれないようにすべきである。(農, 50歳代, 男)

◆教育自体について私自身に述べる資格も素養もありませんが、大学においては各々の先生方がご苦労されていることで十分だと思っています。ただ一般社会に出てもリードできる、社会貢献できる人材の教育をお願いしたいと思います。もちろんそれは生涯教育を前提としていることは当然なのです。もう1つの地道な教育研究の多大な成果を上げている京大ですが、特色を社会にPRすることは官学と云えども今後は必要なことではないのでしょうか。(農, 50歳代, 男)

◆現役の学生から聞いた話として(時代の流れとは思いますが) イ)セクハラ問題の適宜、適切な対処を期待したい。 ロ)資格取得(例えば司書の資格など)の単位が隔年毎の履修(授業)の場合その為資格取得のチャンスを逸する等カリキュラムの編成、構成などに留意し、その改善策とより広い情報提供を願いたい。(農, 50歳代, 男)

◆教養部門では一般教養の基本として、真実を探究し正義を見抜く力一哲学的素養の涵養に力を注ぐべきと思います。専門分野では自由な発想、独創的な研究が行われる環境づくりになお一層配慮されたい。(農, 50歳代, 男)

◆一般教養の外国語には、専門分野の概論を教材にしたものも選択できるようにしてはどうか。自然科学系の学生の場合、英文学等には感心が低い者も多い。概論で幅広く専門用語に触れておくと、将来役に立つ。・「専門科目のゼミ・実験・演習」「研究活動(学会発表等を含む)」には、力を入れるべきと思う。そこできたえられたことが、実社会で役立っていると思う。・入学したての学生にも、できるだけ早く専門分野に触れる機会を与えた方がよい。そのほうが学習意欲をかき立てることができる。(農, 50歳代, 男)

◆1)農学部農経の出身ですが、70年代前半での教育改革が改悪としていまだに定着してしまっています。当時学生の要求は学生の選択性の強化にあったのですが、結果として、安易な履修を可能とするものになりました。そこでは、教員による教育理念に基く改かくとは悪なったものになってしまっています。(2)農経のカリキュラムでは、講義形態による理論指向の教育とともに農家薄記論や農場実習などの現場との連携による実践的な教育が、なされていました。安易な教育改革の結果後者の教育柱が失われ、講義中心の抽しょう的な教育にとどまっています。(3)日本の社会科学の教育上の弱点ですが、分析方法論が共有化されていない為、共通項のとぼしいタコツボ的な教育におちいっている。これは特に大学院レベルでの教育ではきわめて重大な欠かんである。(4)教員の研究者意識が強いため、教育に対する組しくみが手薄となっている。研究のために授業がしばしば休講になってしまっている。又、そのための補講も行われることが非常に少ない。(5)全体としても、各科目でも教育目標が不明確である。どういう教育によってどういう人社会に送り出すのか概念が不明確である。各科目でも他の科目との連携が弱く、全体のカリキュラムの中での役割が不明確な状態である。具体的に各科目でどのような授業が行われているかは不問の状況である。(農, 50歳代, 男)

◆実践重視の教授のもとで学生生活を送らせて頂き、この考え方は私にとってよかったと思います。学生にもそれぞれ個性があり、画一的でないゆとりを持った教育方針で教育に当ってほしいと思います。(農, 50歳代, 男)

◆学部(農)が改組して訳がわからなくなってきました。時代の流れか？さみしい気も致します。(農, 50歳代, 男)

◆卒業して30年もたってしまったが、当時、ラテン語と美学(仏教美術)の講義を受けようと思って文学部に申し込んだことがある。しかし、農学部の学生はダメだと言われてしまった。現在はもっと開かれた大学になっているかも知れないが、学部のセクト主義みたいなものが残っていると、時代に取り残されてしまう。(農, 50歳代, 男)

◆独自の伝統を活かし、オリジナリティを尊重して下さい。産学交流を効果的に進めて下さい。(農, 50歳代, 男)

◆今月初めて、秋田県を訪れる。狩野亨吉、内藤湖南の育った地をこの眼でみたい。司馬遼太郎・街道をゆく「秋田県散歩」を読み、京都大学の素形というものがわかったような気がした。テロのニューヨーク・ワシントン攻撃、イスラム原理主義過激派、これらについて、梅原猛さんは、中日新聞夕刊「思うままに」でマルキシズムと絡めて述べておられた。京都学派の先人諸先輩

は、この時代をどう生きていくかを示されるのであろうか。今、それを、教え請いたい。（農，50歳代，男）
◆大学改組に伴って揺れている大学の姿が残念でなりません。（農，60歳以上，男）
◆当時の教養課程での2年間、高校の延長的なこともあり、少し長すぎるのでは？いきなり学部課程の教育を受けても良かったのではなかったか？（農，60歳以上，男）

人間・環境学研究科

◆研究を大切にしてほしい。研究というよりも学問かもしれない。成果をあげられるための研究も行わなくてはいけないが、思想を育てる学問ができる大学であってほしい。今の世の中「研究者」が忙しくて仕事をしているが、京大を訪ねれば、「学者」の先生と話し、ゆっくりとものが考えられる、といった場所であってほしい。私は自分がよい教育を受けたと感謝しておりますので、特に変えてほしいことはありません。むしろ、極端に変えることによって、カルチャーセンターとか職業学校に変わってしまうことを、心配いたします。（人・環，30歳代，女）

エネルギー科学研究科

◆単位数をそろえることだけが目的の一般科目（理系にとっての人文科目）は意味がない。むしろ、専門教育をうける意欲のある1回生に専門科目をとらせ、専門だけではだめで広い教養を得ることの必要性がわかってくる3、4回生で一般科目をとる方がいいと思う。（エネ科，20歳代，男）
◆入学した時は大きいくくりで（学部単位）入学し、1、2年の成績で3年以降の専門学科を選ぶというシステムに変わったと聞いています。このシステムは元に戻し、やめた方がよいと思います。もう一度長短所評判をきき検討してみて下さい。＜理由＞①一般教養科目で不得意もしくは未知の学問を受講しにくい。私の時は本当に習いたい事を習いたい分だけ自由に受講することができ人間形成や幅を広くすることに役に立ったと心から思っています。②小中高とどちらかと言えば競ったりつめこみで勉強してきて、大学1、2年位はのびのびと勉強したい。遊ぶのも結構。③常に（1、2年）頭の隅に勉強をしなくてはならないというストレスを持ち続けることになり他の事（例えばクラブ、旅行）などに集中できない。④大学生ともなると自分の事は自分で責任をもつ事が基本。不登校も本人の責任。⑤京大らしさが失われる。⑥学科が合わないと変わりたくなれば努力次第で受け入れるシステムを導入することで、入学時の不一致はフォローする（エネ科，30歳代，男）

アジア・アフリカ地域研究研究科

◆・語学教育はもっと充実させ、実務に役立つレベルを期待する。　・海外との交換留学制度の充実を期待する。（ア・ア，30歳代，男）
◆勉強を強要しない、自由な学風は素晴らしいと思います。自由であればこそ、興味のある部分を徹底的に掘り下げることもでき、サークル活動等の運営に積極的に関わる余地が生まれると考えます。但し、社会に出て感じることは、東京や大阪の私学出身者の方が即戦力になり易いようにも思います。京都大学でも従来の学風を踏就しつつ、実践的な学習内容を取り入れていくことが必要であると思います。（ア・ア，30歳代，男）

◆社会人が仕事を続けながら研究できる仕組みを作ってほしい。特に経営分野。私は別の大学の研究しやすい大学院に入ってしまった。出来れば京大と思っていたが・・・（40歳代，男）
◆自由な学風と放ったらかしとが混同されているところがある。必要な知識が十分身についていない京大卒業生が社会に送り出されているように思われる。大学としては、ある学部、学科、あるいは、修士を卒業した人はあるレベルの知識等を身につけていることを保証する必要がある。（40歳代，男）
◆一般教養についても、より実践的な教育を目指すべきものがあると思う。特に外国語などは、会話を中心にした教育の方が社会に出てから役立つことが多い。第二外国語は必要ない。徹底的に英語中心で進めて良いと思う。（専門は別）教養教育で、幅広くいろいろな分野を学ばせているが、結局全く興味のない科目については、単位を取得するためのみの受講になっており、結果的に何も残っていない。もう少し的を絞った興味分野に、ディスカッション等を取り入れて、自発的な授業参加方式を考えられないか。企業の集合研修でも、単なる講義形式では、全く、役に立たない動機づけをいかに行うかで、教育の成果は大きく変わると思う。（40歳代，男）
◆最近の教授人事を見ると流行に流されているのではないかと思う。（40歳代，男）
◆伝統的学問分野を大切にすることも必要であるが、グローバル化の中で、新分野への移行をスムーズに、またその方向性を外部者を交えて検討することが望ましい。（50歳代，男）
◆・教育環境の整備が必要。・キャンパスは研究・教育の場であり、一部の“狂人”達のフリースペースではない。・少なくとも、エリートに対してふさわしい教育内容の提供が行なわれなければならない。・自由の学風を利用した、便乗が教官と学生の一部（多数派？）に見られる。・不確実な未来の中で不屈な精神力を持った創造力豊かな人材の養成が望まれる。（50歳代，男）
◆大学のコマーシャルを良くして、優秀な人を集めて、卒業後の指導も必要と思う。慶応の大学院とかは、国立大卒業、社会人にも教育しているとかの、説明、事例を聞いています。乱筆等、許されたし。（50歳代，男）
◆一般教養で講義を受けるより、ボランティア等の活動を積極的、かつ義務的に行わせるべき。（50歳代，男）
◆かっての自学創造の気風は残してほしい。（60歳以上，男）
◆学生の資質の高さに頼りきっており、教授する側の方々は教育に対する準備がたりない。30年前であるが、それに感じ入って

入学したが、自分で勉学するしか高める方法はないのだ、ということを京都大学は教えてくれたので、今日の自分があると思う。しかし、今日又は今後はそれでは存在する意味がないと思う。自分の子供たちには、東京大学を勧めている。（女）

◆私（農学部、植物分野の現教職員）の京都大学で受けた昭和40年代の教養課程の教育では、一般教養科目は別として、生物学の基礎分野は教育されたとの印象が極めて薄い。しかし、各担当教官の学問に対する興味やその人物にむしろ興味をもった。3年次の専門課程では、4年次でより専門的な植物分野に分属するために、植物分類学、生態学、生理学、遺伝学、生化学などの植物学の基礎を教育して頂きたかったが、それはなかった。4年次では、ほとんど専攻した分野での卒業研究のための研究指導のみであり、担当教授自信が植物の基礎諸分野に知識をもっていることに疑いをもった。その後、私は一時就職の後米国に留学したが、そこで初めて植物学の様々な基礎分野を教育されたのが実情である。例えば農学部の植物系を含めて植物学分野では、京都大学創立直後の記録をみると、植物の分類学、生態学、生理学、遺伝学などの基礎分野は理学部と農学部の教官が担当して精力的に行った。現在は、学部間だけでなく、学部内専攻間の障壁が極めて大きく、また学部内でもこれらの基礎分野の教育は非常に少なく、社会に出た学生、院生が卒論、修論、博論のみ範疇以外で活躍できるとは期待し難い。したがって、1年次に一　（以下、不明）

◆理学部。理学研究科の学生で、現在、国立大学で教員をしております。今の勤務先を含めて京大以外に4つの国立大学ですごしたことがあります。そのため、京大とこれらの4つの大学を比較して考えることがありました。京大に対して否定的なこととしては、京大の授業は学生のレベルにあわせておらず、教員の教えたいレベルで教育をしていることがあげられます。教員の立場にたつと、大変教育しやすい体制であるといえます。学生の立場では、しばしば授業についていけずおちこぼれてしまう傾向があると思います。わたしの学生時代も、学生が理解しているかどうかはほっておいて教員の教えたいことを教えるという授業がほとんどだったと思います。最近、この点はマスコミにも取り上げられていて、最近の京大の学生のレベルが下がったと報道されていますが、既に15年前ぐらいからその程度だったのではないかと思います。ただ、そのような体制を変更すべきか？と問われたとすると、個人的には、それは必要ないと思います。他の国立大学では京大よりも学生の習熟度には配慮が行き届いていると思います。ただ、そのようなことを　（以下、不明）

問18　京都大学の卒業生として、大学に期待すること、要望、問題点、改善すべき点などを自由にお書き下さい。

文学部・文学研究科

◆教官や先輩、後輩など多彩な人脈を持てたことが大きかった。おそらく現在はメールなど学内での様々な周知が徹底されているかと思うが、当時はそれほどでもなく、自分でかなり情報を集めないといろいろ分かりにくいこともあった。独立行政法人になるとすれば、もっとサービス業のようになることが必要では（ただし、強制力を持たない形で）。（文, 20歳代, 女）

◆他の大学とは異なり、ある程度レベルの高い教師や学生がいる中、本来の学風である自由や独立性を尊重し、尚かつ京都という地方都市にある利点を生かし、すべて「右にならえ」といった風潮から遠ざかることで、大学及び学生自身の進歩があると思う。時間に追われる現代社会においては、斜に構えたものの見方というのも重要なのではなかろうか。中央に迎合しない大学運営を強く希望する。（文, 20歳代, 女）

◆日本人は、多数意見に流される傾向があります。その中で、少数意見であっても論理的に主張する大学であり続けてほしい。また、そのようなことができる卒業生を送り出してほしいです。仕事で独立行政法人化が関係することがありますが、ここでも自ら意見を主張する大学であってほしいです。（文, 30歳代, 男）

◆セクハラで教授が指弾されていたが、大変恥ずべきことでがっかりさせられた。公表されただけ、ましなのかもしれないが･･･大学院重点化で学生を満足に確保できない大学が増える中で、京大の役割はますます大きくなるものと思う。学生と密接に関わることになる大学院教育で、研究以外の面で教授陣の資質が問題になるようでは思いやられる。大学院で得た読解力、思考力、分析力には、私自身誇りを持っているし、感謝もしている。院に進学する全ての人が、満足感を持って学業を修められるように願っている。（文, 30歳代, 女）

◆京都大学はその設立の理念として、「官吏と医者を養成する東京大学」に対して、「野にあって木鐸を叩く人を養成する」という方針があったように聞き及んでいます。そのせいか、ややもすると世の実利に疎い世間の荒波を高踏的に見下す風が涵養される気味があります。これはこれで孤高の視点を得るという良い面があるのですが、これだけ社会情勢が変わってしまいますと、やはり生きていくうえに不利な面もあるように思えます。そのあたりの実利面の教育といったものを、受験受験で無菌育ちの学生諸君にも与えていく必要があるのではないでしょうか。（文, 30歳代, 男）

◆何といっても卒業生自体の活躍を望む。その意味でも「卒業生名簿」の復活は是非ともお願いしたい。京大で学んだことを社会で活かすことは、京大生の義務だと思うが、多くの卒業生が今の日本に対して諦めているのではないか。大学自体の変革も大切だが、優秀な人材が社会で無駄になっている現状に見るにつけ、京大ネットワークを作り、京大生による会社を立ち上げるぐらいの気合いがほしいし、そうであれば微力ながら出来ることはするつもりです。とにかく今の中央集権国家に対抗できるほぼ唯一の大学としての京大の役割は大きいと考えます。東京に京大の支店（大学院？作ると聞きましたが）を作って下さい。とにかく京大生には東京に打って出てほしい。京都で眠っていないで。（文, 30歳代, 男）

◆自由で独創的な学風は、誇るべきことだと思うので、今後もこの姿勢を崩さず、いい意味で我が道を行ってほしい。そうすれば、あらゆる分野で世界に通用する人材が生まれるのでは。ただし、企業に通用する人の育成という点では、まだまだ改善すべき点があるのではないかと思う。（文, 30歳代, 女）

◆京都大学は日本が誇る名門大学であり、その自由で創造的な気風で日本の人々にも広く親しまれ、愛されている。しかしながら、その「京都大学」の名が国際的舞台で口にのぼることは少ない。京都大学の出身者の活躍は大いに評価されるが、「京都大学」が「ボストン大学」や「ハーバード大学」、「ケンブリッジ」、「ソルボンヌ」といったように国際的ネームバリューを持つことはない。京都大学の研究成果は国際的に高く評価されている現状からさらに一歩進めて、欧米、アジア、南米と広範囲にわたる地域からのポストドクトラル研究生の受け入れ、または学生の受け入れをするべきだろう。とくにポスドクについては、学術振興会、文部省などの奨学金で来るポスドク生はいても、京都大学が設立したポスドク枠で来るという者はいない。枠自体が存在しないからである。インターネットで探しても、日本への（京大への）ポスドク枠はない。米、加、欧の現状に比べて日本はほとんど鎖国状態である。京大が率先して人的交流をさらに活発化させればそこから育った人々が「Kyodai」の名を世界に広めていくことだろう。地道で長期的な計画が必要になるが、それこそが「京大」、そして「Kyodai」の未来を豊にしてくれるのではないだろうか。（文, 30歳代, 男）

◆卒業生として伝統と学風を誇りに思っています。これからも独自性を維持し、創造的な教育を続けてほしいと思います。また具体的に①社会人教育の新しいスタイルの模索②国際的な交流の増大、国際的な日本文化の発信、について学内の要職にある方に考えていただきたいと思います。（文, 30歳代, 男）

◆アカデミズムの大学として、国際的に誇れる業績を残していき、人物を輩出し続けるべく、高度な研究･教育活動を今後も維持していただきたいと思います。（文, 30歳代, 男）

◆教養課程の1、2回生に広く学問の世界を紹介する講義は意義のあることであると思う。しかし専門課程、大学院以上に対しては、変なカルチャーセンターみたいな講座（私立大学の様相を見ていてそう思う）をする必要はないし、バリバリ学術本位の研究活動を行う場であってほしい。あと最近の学生ですが、私の入学した頃（現在研修員）に比べて常識に欠けるというか、公共心のない者の数が多いように思う（どこでも自転車を止める、タバコのかすを散らかす）。これは世の中全体の風潮であって、ここに書いても仕方のないことかも知れませんが。（文, 30歳代, 男）

◆大学の外に出ると、自分が実際の日常生活のレベルからはかけはなれたところにいたのだと思い知らされます。（要するに「変人」と見られるということ）知識を高めるだけでなく、人間性、人間味を失わないような、心を育てる教育もあわせてしてほしいです。（幼稚な（精神的に）学生が多いように思われました。）また、教授同士の派閥、学閥の争いに学生を巻き込まないようにしてほしいです。（これまた、幼稚な派閥争いをしている先生方も多いように思います。）（文，30歳代，女）

◆基礎研究専門に片寄らない授業他大学との交流がもっとあっていい。単位・国内留学などドイツみたいなやつ。衛星放送などでも授業を行う週2〜3回で半期などの人文系授業をもっとふやしてほしい。他大学の先生を集中講義でもっとよんでほしい。公開講座など短期ものも頻繁に行ってほしい。みんな月2回行くくらい単位を出してもいいし。（文，30歳代，男）

◆入学した当初には、いかにも官学共同御用達の東大なんぞに行かずに良かった、と思った束の間、無責放任主義の中、どうやって生き延びればよいのか、非常に困りました。暗中模索の中、幸か不幸か、色々の事があって、今に至っていますが、人生を宝くじやロトやらにする教育があっていい訳はありません。個々の教官が学生の責任を全て負える訳はないと思いますが（僕が教官ならまず辞退しますが）、少しは天下有為の人材を送り出す体勢があるべきでしょう。あと、今の教官・事務官のトップクラスだと、大学紛争の当事者の筈ですが、昨今の運動に活を入れる気はありませんか。三高の設立者をモアイ像にして、今出川通に「文化遺産だ」とか言わせるテイタラク振り、京大出身と言うのを恥じて、とうの昔から世間様に隠しております。他、環境破壊を戒める立看が、期日1ヶ月以上も野ざらしになって、付近一帯のヒンシュクを買ったなど。声高な人々にあと始末をちゃんと付けさせるだけでも、「教育」の価値があろうかと存じます。（文，30歳代，男）

◆非常勤講師として研究活動を続けています。本務校がないため、文献入手に当ってしばしば苦労します。卒業生も、附属図書館、閲覧室の書籍を、借りられるようにしていただけるとありがたいです。（文，30歳代，女）

◆研究のための設備（図書など）を充実させ、一般の人々ももっと利用しやすいように（図書館、公開講座など）なるとすばらしいと思う。（文，30歳代，男）

◆○創造性豊かな人材をより一層多く育てられる様、講義形式でなく、研究や実習といった形式の授業を増やしてほしい。　○民間企業就職へのサポートが余りに弱いように思われる。大学ブランドで、一流企業に就職する学生も多いが、民間への人材提供も大学の大きな使命ととらえ、大学側の積極的な支援を期待する。（文，30歳代，男）

◆・新しい時代を荷えるような人材の教育　・国際レベルの研究者の育成　・研究成果を広く一般に還元できるようになることetc.（文，30歳代，男）

◆「東大」の2番手ではなく、「京大」独自の道を歩んでもらいたい。一流サラリーマン養成所のようにはならずに、個性的な研究を尊重した学風を第一に考えてほしい。「学力低下」した学生たちに引きずられて、研究レベルも下がらないようにしてもらいたいが、彼らの「教育」は彼ら自身に任せて学力の底上げに手を焼いてはいけないと思う。（文，30歳代，男）

◆京大で自由に研究できたことは自分にとって大きな財産である。独法化の問題など変わらざるをえない現状はよく理解できるのだが、業績第一に走りすぎて京大の良いところが失われ、薄っぺらい研究者しか生まれてこなくなっては本末転倒であり、危惧される。特に、文系の研究に対して理系と同じ状況にもっていこうとする態度は理解しがたい。京大文系研究の特質を改めてよく理解した上で、改革を行っていってほしいと思う。（文，30歳代，女）

◆・キャンパスが狭い。・大学院修了者を対象とする研修員制度で、あのように法外に高い費用を払わせるのはひどいと思うし、理解しがたい。せめて大学院修了者には、図書館くらいは自由に使わせてもらいたい。（貸出ができるようにしてほしい。）できれば、この制度そのものを廃止してほしい。・図書館（室）の相互利用証は、早く全廃してほしい。（文，30歳代，男）

◆高度な専門性のある教育・研究を、常に遂行することが、第一義的に大切と思います。その一方で、学部の講義レベルの授業を、広く社会に開放してゆくことも良いことと思います。具体的には、科目履修生のような存在を増やす事、外部の人間にそれを知らせる事、シラバスのオンライン公開、科目履修の容易化（手続上のものです）などが考えられます。それで、単位を発行するかどうかは難しい問題ですが、「ちょっと大学に戻って何々を勉強したい、でも会社を辞める程ではない」というニーズは、可成りあると考えられます。夏休みの集中公開講座のようなものではなく、あくまで通常の授業で、これを行うのは知の社会への還元、という意味でも意義のあることと思います。（文，30歳代，男）

◆在学中は自由に興味の向くこと（研究）に門戸が開かれていた点が、今でも良かったと思います。社会に出てから初めのうちは、実践的教育も良いように感じていましたが、何年も経たないうちに、必要な事は身に付けられたように思います。在学中は学術的な面に、重点を置いても良いのではないでしょうか。要は置かれた状況下で、必要な知識を身に付ける姿勢だと思います。（文，30歳代，女）

◆今年もノーベル賞受賞者が京都大学から出ました。これからも京都大学の自由な学風の下で優れた研究者が生まれることを期待しています。これからはクラブやサークルの施設などの充実に大学が取り組んでほしいです。もしも大地震が起きたら大変なことになるでしょう。古い木造の建物は危ないです。（文，30歳代，男）

◆研究機関としての大学の充実を求める。また、図書館などの施設を研究者一般に開放していただけるとありがたい。（文，30歳代，男）

◆最近、京大が東京に社会人向けビジネススクールを新設するなどという計画が発表されたが、愚の骨頂である。京大が京大たる所以は、京都という地にあるのであって、京都にない京大は京大ではない。独立・反中央・創造性、こういった学風は京都にあればこそ育まれてきたのであり、それが故に、何につけても東京にあらずんば二流の烙印を押される日本の社会にあってなお高いステータスを保つことが出来たのだ。一流の学府というのは、学生を惹きつけるものであって、学生に媚びるものではない。東京だけにビジネスマンがいるわけでもなかろう。逆に、京都に来なければ一流のビジネス教育は受けられないという評価を確立してこそ、東京一極集中の愚かな日本経済の構造に風穴を開けることができる。その気概を持たずして京大の看板を

掲げるなかれ。アメリカを見よ。一流大学のいくつがニューヨークになびくか？Harvardを見よ。MITを見よ。Stanfordはパロアルトの片田舎にあって、自ら吸引力となってシリコンバレーを築いた。私の通ったNorthwesternはシカゴ郊外の田舎町にあって、世界最高のビジネススクールの一つとして名声を轟かせている。これらに比肩しうるNYの大学は、わずかにColumbiaのみである。京大は京都になければならない。京都の街、京都の歴史の持つ重みこそが、京大の格を支えているのであり、この格は阪大がや九州大がいかに努力しても得られないものである。この競争優位を生かした戦略こそ、京大の第二世紀を占うものになる。（文，30歳代，男）

◆非常勤教員として母校の授業担当しています。大学院生の学生と接する機会もあります。私自身も関西地区の同じ分野での大学の教員をしているので、私の所属しているところの学生との比較も思わずすることがあります。そういう立場ですから、現在の一連の大学改革の流れには複雑な気持ちです。京都大学がいわゆる「競争的環境」の中でますます発展していくことは疑いません。うれしい反面、余りにこれまで異常に突出してしまうことには危惧も感じます。できれば、そのような面での共存あるいはリードといったこともお考えいただければと考えます。（文，40歳代，男）

◆市民への開放をもっと大胆に、博物館だけでなく、もっと日常的な開放を求めます。外から見るとやっぱり京大はエラソーにしている感じがありますね。生協の京大グッズなど最近少し鼻白む思いのすることが多くなってきました。いつの間にか権威化していないか、再考が必要ではないでしょうか。久しぶりに行ったキャンパスでは学生の自主的な活動が余り目立たぬように感じました。規制を思い切って減らし、自主ゼミなどなど、学生の活動を側面支援してほしいと思います。（文，40歳代，男）

◆学風を誇りにしている。（文，40歳代，男）

◆文部科学省の動向に左右されがちな東京大学に対し、自由で独立性豊かな京都大学の良さを全面に打ち出してほしい。（文，40歳代，男）

◆【実社会とのかかわりの重視】京都大学に限らず、大学の先生と一緒に仕事をする中でいつも感じることは、学術研究という名のもとに、あるいは理論の厳密性という名の下に、実社会が何を求めているか、その研究が人間にとって人類にとってどういう意味をもつのかに余りに無頓着であることです。そもそも学術研究といえども人間のためにあるはずと考えます。【流動性の向上】実社会での経験と研究生活の流動性を確保すること。【教養のある人間の形成】高校教官とか関わりも大きいが一般教養のない人間が多い。【方法論、ものの考え方を形成する教育】知識レベルは高いが、方法論やものの考え方を確立していない卒業生が多い。ある一分野できっちりした基礎ができていれば応用がきく。学部ではきっちりした学問的基礎を、大学院レベルでの学際性を求める。（京大の卒業生はまだましだが、他大学の新しい、あやしげな卒業生は、知識だけはあっても何ができるかわからない。使いものにならないのが多い。）（文，40歳代，女）

◆今まで通り権力に屈しない独立独歩の学風を重んじてほしい。（文，40歳代，女）

◆・日本を代表する先端学術研究・教育拠点として、さらに発展されることを期待します。・改善点については問12に述べました。・要望としては、卒業生・修了生にも利用しやすい継続研究施設・制度が増えればよいと思います。（文，40歳代，男）

◆教員を京大出身者で固めるような愚は犯さないこと。（文，40歳代，男）

◆学部の再編等について、よくわかってないので、特に述べることはありませんが、大学院の質の低下の心配はないのでしょうか。（文，40歳代，女）

◆学問の基礎は人文教育により、一切は哲学に帰着す。地味でもよいから教養する力が大学だ。（文，40歳代，男）

◆教官任用人事において、他大学卒業者の採用は、必要最小限にとどめる事が大切だと思う。（文，40歳代，男）

◆京都大学は、早慶だの東大だの東工大だの一橋だのとは異なり、超世間的、すなわち、世俗的な価値を超越した、知の規範を追求すべき存在と考えます。独立行政法人化にあたって世間世俗の風潮にすり寄ったのでは存在価値を失ってしまうのではないでしょうか。時代に合わないと言われようと、すぐ役に立たない学問をしていると言われようと、時代を超えた普遍的な学の追求に誇りをもって邁進して頂きたいと思います。（文，40歳代，男）

◆京都風土を生かして、即効性や即戦性よりも、熟成型の教育研究に重点を置くことが望ましい。ただし、成果や教育活動、内容は、積極的に外の世界にプロパガンダすべきであって、いわゆる、象牙の塔や、秘密の奥義になってはいけない。京大の講義や授業等が、インターネットなどメディアで（有料であれ、無料であれ）広く世に公開されるべきであるとともに、外部からの評価や批判にもたらされながら、改善を加えるべきである。（文，40歳代，男）

◆①学部によって実情は異なるでしょうが、自分自身が感じた大学の姿勢は、、「ほうっておいても優秀な学生が入学してくるし、その中から少数でも、有能な研究者の卵が出てきて残ってくれればよい。あとの学生は、適当に卒業してくれればよい」というものでした。「自由な学風」の別角度の一面でしょう。「自由」なおかげで、自分自身は講義室の「外」で大いに学ばせていただき、縛られず、伸び伸び学生生活を過ごしました。反面、研究活動に関しては、自分の努力不足ももちろん、まずありますが、大学・学部側の姿勢が「尊大」である、と感じました。平たく言うと、面倒見が悪い、とでもいいますか。女子の就職に関しても、同様に感じました。昨今、世の中全般に、人間関係に揉まれていない社会的トレーニングの乏しい、また極限られた分野にしか興味や知識を持たない、そんな学生が増えています。優秀な研究者も大切ですが、（大半の学生は、研究者とはかけ離れた仕事に就いてゆきます）人間形成上、大学が負う役割も小さくない。大学側の意識改革も求められている、と思います。学生の自己世界を刺激し、つき動かす工夫が、より求められているのではないでしょうか。抽象的な表現しかできませんが、人間としてのトータルな成長を助けられる場であってほしいと思います。何のかんの変化は見られても、まだまだ「学歴」偏重の世の中です。京大の卒業生を上司に持ち、その元で働きそうな高校生たちに関わる一人として、京大生には是非、豊かな人間性を育んでほしいと思います。②社会人向けの開放講座をもっと幅広く設けてほしい。またそういう情報をもっと広く知らせてほしいと思います。（文，40歳代，女）

◆京都で大学・修士を経て、東京に出てきましたが、京都と東京では時間の流れのスピードが違います。100年単位でものを考えるか、1日単位で考えるかの違いだと言ってもいいのですが、それぞれ一長一短あります。少なくとも学生の間は、長い時間を視野に置きながら、自分のやりたいことを探れる環境を、これからも維持して頂きたいと思います。（文, 40歳代, 男）

◆京大に進学すべく、子どもたちが小学生の頃からいたずらに、学校の勉強の上に、さらに塾通いなどをして疲れています。入りやすいが出にくい、大学は勉強するところだというお手本を、京大が示していただければ、日本の教育も変わると思います。（文, 40歳代, 女）

◆何よりまず「市民」の為の大学であってほしいと思います。目先の利益のためだけでない、10年後・30年後・50年後・100年後の社会に役立つ学を追求できる場として、維持してほしいと考えます。それは言い方を変えると、私学や他の専門分野を志向した国公立大学とは、異なる役割を果たす、ということであり、世間のトレンドに流されないが、しかし「市民」にとって役立つ研究・人材育成の場である、という事です。（文, 40歳代, 男）

◆・多方面の専門分野の研究者・学生が、比較的狭い土地にいることのメリットを活用すること。・普段の生活の中で、他の専門や最新の研究成果を見聞きする機会を、多く持てるようにすること。・上回生・下回生の交流、院生、学部生の交流、他の専門の学生との交流を重視し、多様な視点を持つようになる機会を増やすこと。（文, 40歳代, 男）

◆京都という、すばらしい都に位置しながら、キャンパスが美しくない。このことは、とても悲しいことです。多くの外国人が訪れる地でもあり、どうか美しいキャンパスをつくって下さい。車をキャンパス内に入れることは、最小限にし、あたたかい雰囲気をつくって下さい。（文, 40歳代, 女）

◆・京都大学は、「自由な」学風をモットーとしてきたが、学生の中にはその意味を誤解している者が少なからずいるようである。自由であること、唯我独尊や野放図であることとは意味が違う。教官の中にも、自由放任をベストと称して、指導責任を放棄する言い訳に使っている可能性なしとしない。21世紀である。創立100年も過ぎたのであるから、世界にアピールできる新しいモットーを考えるべきだろう。国内向けには、首都の東大に対抗して、中央に対する独立覇気の精神に基づくものが引き続き有効であろうが、内実を伴わなければならない。京都大学の様々な行動が、学問の純粋な精神に立脚したものとして、政府中央からの、あるいは経済界などからの価値観の押しつけから自立しているかどうかが、その重要な目安となる。効率化と合理化を求める姿勢や理系の研究を基準とした業績評価のシステム、日本経済の建て直しに役立つ学問の尊重等々を、真に学問的要請から、そして自然と人間の尊厳から築いた価値観に照らして検証し、必要ならば批判して、日本の大学行政と教育を本来のあり方に導くことが、現時点で京都大学に与えられた重要な役割と考えるべきであろう。・京都大学は、ノーベル賞学者を生み出す大学として世間で知られているばかりでなく、大学自身もそのことを宣伝している。卒業生にノーベル賞受賞者が出ていることは誇りにしてよいかもしれないが、そのことを目的に大学教育を導くのは間違いである。研究は受賞を目的になされるものではもちろんない。京都大学が、ここ50年間に30人ほどのノーベル賞受賞者を出すという政策を掲げた政府発言の愚かしさを指摘すれば、世間から評価されるであろう。逆に、他の研究機関に所属の研究者がノーベル賞を受賞したことを、卒業生であるからといって京都大学の「栄光」などとして宣伝すれば、評価を下げることになる。要注意である。ノーベル賞を取る可能性のある学生を一人育てることよりも、国際社会の中で充分な信頼を得て活躍できる「品位と知性を持った」学生を多数育てることの方が、21世紀の京都大学に課された大切な仕事と考えるべきである。・京都大学は、筆者の学生時代に比べれば少々改善されたが、それにしてもまだ「汚い」部分が他の大学に比して相当目立つ。きれいになったらよいというものでもないかもしれないが、老朽化した建物に代わって出来上がった新しい建築物が、かつての建物より著しく見劣りすると言われるのはなぜだろうか。付属図書館は、壊された古い図書館や本郷の東大総合図書館に比べると余りにも味気ない建物であるし、吉田キャンパスに新しく建てられた文系の高層2校舎も、病院か役所のようだと卒業生から評判が悪い。建築関係者の御努力には敬意を表するが、出来上がった一角が余りにも殺伐とした印象を与えるのは、大学施設の建築や敷地利用にあたって、何か大切な要素が欠けているのではないかと邪推してしまうのも無理からぬことである。研究する者の研究意欲をかき立て、また訪れる卒業生に親しみを感じてもらえるような建物や敷地利用を実現するためには、もっと利用する者の声が反映されなければならない。大学と「施設部」との関係、「施設部」の役割とその範囲を、とくに独立行政法人化に移行する際に重点的に見直すべきという御意見には、賛成せざるを得ないのである。（文, 40歳代, 男）

◆詳しい事情はよく知りませんが、教養部が廃止になったとのことで、「何故？」と思いました。確かに、単位の為だけに興味のない分野の授業に出るのは無意味だと思いますが、最近、余りにも教養というか、基本的な知識を身につけていない若者が多すぎるので、大学、特に京大で学んだ者には、それにふさわしい「教養」を身につけてほしいと思うのです。大学とは専門バカを作るところではない！と思う次第であります。それから、東大と競争したり（国家公務員試験や司法試験の合格者・・・等々）まねしたりするのは全く無意味で、京大は京大の学風を生かして独自の道を歩み、今後もノーベル賞やフィールズ賞を受賞する人がたくさん出てくるといいなと期待しております。（文, 40歳代, 女）

◆日本の学生(小学〜大学まで）の学力低下と、その結果としての国力の低下を心配しています。経済学部の先生(ご出身は東大のようですが)等がご発言されています。ご活躍で応援したいと思います。 元教授のような楽観論は、無責任と思われます。センター試験で、理科の受験科目を増やすなどの改革が行われつつありますが、なおいっそうの改善を京大の方でもお願いしたいと思います。野依先生のノーベル賞受賞のニュースが入ってきました。嬉しいです。知人も「また、京大だねえ」という反応です。立花隆氏が「大学間格差が広がっている。東大と京大の差も大きくなっている」といった事を書いていましたが、そういうことを言われないよう、大学の評価を高め、優秀な学生を集め、ますます業績を上げてほしいと思います。（文, 40歳代, 女）

◆学部時代の教養部の講義は本当にひどかった。 やたらと休講が多く、教官は自分の研究を優先して、余り授業には力をいれていないのではないかという印象を持っている。 自由の学風という名の下に単に教官がさぼっていたのではないでしょうか。

今はもうそんなことがないことを願っています。（文, 40歳代, 男）

◆基礎を大事にするとともに、自分の言葉で語れ、創造力のある学生を育てて下さい。（文, 40歳代, 女）

◆かつての京大のよき伝統（自由さ、独立性、創造性）が大学入試に共通試験（偏差値がいやで幅をきかせる結果になった）が取り入れられてから失われるようになっていませんか？今むしろ東大の方に自由さが感じられるのは残念なことです。二番手というような意識を持たないですむような入試の方法、自分の能力や学力にプライドを持ちこの大学の学風や校風が好きで、それを慕って来る学生を集められる工夫を、授業でも、研究方面でも、社会活動でも行って下さい。（文, 50歳代, 男）

◆自由を基本に、少数精鋭でリーダーを育てていただきたい。（自由のもとで、しっかり学べば、自ずと謙虚で責任感のあるリーダーが育ちます。）（文, 50歳代, 男）

◆京大のある先生が昔の学生と今の学生との相違を鶏の飼い方に比較して、「放し飼い」と「ブロイラー」に比較した。そして曰く。昔は「放し飼い」だったが、今は「ブロイラー」のように世話をしないといけない学生さんもいますと言ったと聞いた。私は、「放し飼い」された。これが非常に良かったと思う。自由で、好きなように勉強させていただいた。また同期の学生達が素晴らしかった。京都大学の教育の最大の長所は、先ず第1に「最良の学生を集めている」点にある。次に学生に自由に勉強させ、独創性を発揮させている点にある。自由な学風を今後も重視し、創造性を大切にしていってほしい。 私は30年以上も前に教育を受けたもので、現在のことを詳しく知っていないが、要望としては、上で言ったことが大半の要望であるが、敢えて付け加えると(1)外国語の実践面の教育施設がどうなっているのか気になる。外国語を読解させるのは重要であるが、さらに「話す」、「聞く」を自分で自由に学べる教育施設を造り、学生の外国語実践性を高めてほしい。外国語の実践面の勉学は、長い時間がかかる。10年ほど前にドイツのケルン大学へ行ったが、ここではそうした施設が有り、教材を用意していた。生は能力に心配はない。教育の中で工夫していってほしい。 でも一番重要なのは、前に書いたが、「良い学生を集めてきた」のを最大の長所と捉え、「自由と独創性」を重視することと今までの「放し飼い」教育を続けることだと思う。（文, 50歳代, 男）

◆京大らしい雰囲気を大事にして下さい。（文, 50歳代, 男）

◆(1)学部の授業内容や見通し、所属ゼミ、サークル、それから就職についてガイダンスを徹底し、情報公開すること。（私事、衛生工学を専攻しましたが、これが土木工学に所属していて、何をやっているのか分かりませんでした。結局、卒業してから初めて自分のやっていることが分かるようになっているのではないか？学士入学で文学部哲学科へ編入しましたが、ちょうど大学紛争中とはいえ、講義は低調なものばかりでした。何も分からず大学院へ進学しましたが、学部と同じ授業で新味なし。宗教、政治的グループに所属しないと十分な教育は受けられないのではないかと今では思っています(被害妄想)。） (2)語学または数学を基礎から分かりやすく教育されていないと、他の大学に優越するところはないと思います。 (3)在学中にコンピュータについて学んでいたなったので、今、不便を感じています。 (4)現在、無職というのは、精神疾患で大学を終えたときに郷里に帰り、通院中ですので、他の地へ転地出来ないからと思っています。地元の女子短大に非常勤で出ていましたが、やらされていた「倫理学」というのが、低調で、没にされた（課目をなくす）ために本年職を失ったところです。 (5)当地元では、西洋哲学など必要としていないこと。英語は別として、ヨーロッパの語学より、中国語、韓国語などが脚光を浴びていることなど（私費留学、ホームステイなど何でもあり。）。（文, 50歳代, 男）

◆1. 京都大学のHP（ホームページ）、もっと早く作るべきだった。全国に散らばっている卒業生の心の拠り所（アイデンティティー）ですから。 2. 各専門のPC（パソコン）ソフトの開発を積極的に進めるべきだ。（文, 50歳代, 男）

◆期待すること：国際的な評価を高めてほしい。研究論文の発表、掲載の数、ノーベル賞級の受賞などにおいて注目されることはもちろんだが、今後の人類や文明のあり方全般においてグローバルな提言をより積極的に行ってほしい。 問題点：先般、話題の○○教授は、学生の頃の友人であるが、事の真偽はいざ知らず、世間知らずな甘さがあることは否めない。人間関係や社会関係に対して、大学人はより厳しい目で己を見つめることが必要であると考えます。（文, 50歳代, 男）

◆今日の教育・研究の現況を直接知りませんので、その点については何も申しません。構内の極端な無秩序状態があるならば、日本人の自治能力の弱さと重なりあう思いがし、残念です。構内の美しさを喜ぶ学生たちであってほしいと思います。（文, 50歳代, 男）

◆学会等で京都大学出身者は非常に先進的、先取り的な密学の濃い研究発表をされ、専門分野の先導的役割を果たし、信頼も○○い地位を占められています。学問研究発展のために京都大学の果たす役割のさらに大きくなることを期待しています。放任主義とは異なる教育性を備えた自由で創造的な学風を培っていただきたいと思います。（文, 50歳代, 女）

◆各方面で行き詰まりを感じさせる時代状況の中で自由な発想によって問題状況を打開する研究・教育を期待する。（文, 50歳代, 男）

◆世界最高水準の学術的総合力を常に目指し、下手にじたばたしない。今後とも自由と創造、遊びの精神、「世界一ええ加減な大学」という学風を保持してほしい。私の教養部時代を振り返ると、個人下宿と大規模寮（熊野寮のような）の中間程度の規模の寮（例えばハーバード大のハウス）にほとんどの学生が寄宿するのが、様々な意味で良いかも知れない。図書館（orメディアセンター）は24時間開館し、自学自習の場を提供してほしい。（文, 50歳代, 男）

◆京都大学の学風はよく言えば自由、悪く言えば放ったらかし。学生や院生に対するきめ細かな指導がなかったように思う。また、教師のかなり多くが、権威主義的で、学生が研究室に訪ねることもままならなかった。現在の状況は分からないが、せめて学生が自由に集まって語り合える空間（控え室など）が欲しかった。勉強会なども食堂を使っていた。（文, 50歳代, 男）

◆市民に対して開かれた大学であるべき。公開講座を増やす。図書館、資料等もっと一般の人に開放する。夏休み等の公開プログラムを作る。（文, 50歳代, 男）

◆（ナポレオンは人間、誰でもが出来るだけよく知らなければならないことを二語で表わした、それは幾何学とラテン語である。）

上は仏語学のテキストの一節ですが、ラテン語は文科系の学問、幾何学は理科系の学問を接していると思われます。京大教養部の頃、ドイツ語の授業に出たこともあり、卒業後もぼつぼつですが英仏独の教養書には親しむように心がけております。数年前他界致しました両親が残してくれたアパート業ですが、これがアウトローがらみの係争事に発展し、旧知の海軍将校（今は財界の重鎮）に窮状を訴えましたところ、潮が引くように一件落着致しました。京大では仏文学を専攻致しましたが、戦史にも少なからぬ興味をもっておりましたので、陸海軍の生計士官であった方々の知遇を得たわけですが、お礼の意味で、それまでの読書の集大成として「太平洋戦争は回避できたか」「太平洋戦争に勝機はあったか」の二点を中心に、諸子百家の読をダイジェスト版レポートでお送り致しました。私見を整えぬ引用文のみでしたが、3年間に200通近く発達致しましたところ、それがまとまった読物となったらしく、全国の海軍関係者の間で読まれたらしいのです。（らしいというのは、そのニュースが裏のルート（アウトロー）を伝わって当方に届くからですが）東京の政界で、青年将校と呼ばれた大物政治家の名前も聞こえて参りましたが、それらのレポートが何らかの参考資料として使われたらしい。という印象を得ております。実にも曖昧模糊とした話ですが、（具体的なことはドンキホーテ的となりますので書けないのです。）当方なりに得た教訓としては、「文書や情報は簡潔にまとめることによって人々の頭脳に強烈なインパクトを与える」という濃縮ウラン効果があるらしい、ということでした。長編小説のエッセンスは詩歌だという説をどこかで読んだ気が致しますが、政治や経済、歴史などの分野においても、文学と同じ手法が通用するのかという課題に当ってみたような気が致しました。（自由にお書き下さい）とありましたので痴人の夢のようなことを走り書き致しましたが、あしからずご容赦下さい。（文, 50歳代, 男）

◆同業者ですし、私の属する組織の京大の文学部、文学研究科は競合関係にある（もしくはこちらがそうありたいと願っている）ので、立場が複雑です。したがってこのようなナイーヴな質問には答えるのが困難です。（文, 50歳代, 男）

◆学部に2年の教養と後半2年の専門があった時代なので、現在どのようになっているかは、知らない。教養は、率直に言って、無駄であった。1. 最初から高度な専門教育を内容とする語学などのドリル的な訓練を経て、修得すべきものは、別途施設に収用して集中して教授すべきものと考える。2. 学生には、言わせる、意見を発表させる、議論させることを主眼とした、教授法を採用すること。自由に様々なことに挑戦し、思考を拡げ、視野をひろげられることが出来たことに、感謝している。（文, 50歳代, 男）

◆片寄ったエリートではなく、広い教養と基礎的な知識、特に思考することを、身につけさせるようにすること。社会での実践活動に対応できる能力（基礎的）をベースとして、実践の中で応用力と探究する専門的能力を高められるようにすれば良い。大学の専門的勉強と業務とは必ずしも一致はしないが、求められることは巾広い知識、語学力、造詣の深さをベースとした高い専門的知識であると思われる。（文, 50歳代, 男）

◆幅広い基礎学力を持った学生を入学させる。入試科目を絞るのは問題である。一方、上記とは反対のようではあるが、単につめ込みの知識があるというのではなく、考える力のある人材の入学を望む。（文, 50歳代, 男）

◆○退学、休学が多いのではないかと想像する。教養部のときに学生をぐっと引きつける魅力がほしい。また教師と学生、学生同志の結びつきがほしい。（自由な学風も維持しつつ）　○中高年で学習意欲のある人に機会を与えてほしい。（文, 50歳代, 女）

◆できることなら、時流にながされている現行の「改革」に超然としていてほしい。近い将来、かつての教育・研究のあり方の方がやはり正しかったと見直される日がやってくると確信しています。（文, 50歳代, 男）

◆①教官も学生も、常に優秀な人材を集めるように努力を続けてほしい。　②長い目で評価する。その一方で10年の単位ではきっちりと評価をくだし、はっきりとした選別をおこなうこと。　③上記2点をふまえ、良貨が悪貨を駆逐すべき。その逆があってはならない。（文, 50歳代, 男）

◆〈問12の続きとして〉・大学改革の流行に惑わされず、京大独自の道を切り拓いてほしい。虚学、基礎研究、実証、考証、文献研究など、京大にしてはじめてできることである。世間の迎合、国際化の美名に流れることなど、慎むべきである。・戦後、特に等閑視、無視されてきたことは、日本文化の面である、戦後の反動はもう過ぎたのではないか。昭和戦前、昭和戦後を起点とした新たな自国の学問を擁立したらどうだろうか。真に自由であるだろう。戦後の学風からも自由であるべきである。・市民への開放とか、公開講座とかに、一線を返してほしい。こんなことで京大の道を脱線してほしくない。研究型大学として、他の大学にはできないことを目指してほしい。・量的に増進する意味は、もうなくなった。内部の質的は充実に心すべきである。吉田、宇治、桂の三拠点でもう十分である。（量数として）（文, 50歳代, 男）

◆21世紀の現時点より、文系理系併せて古典を見直し、後世に伝承すべき古典を整理する。それに基づき、新しい古典教育のカリキュラムを組み直す。また、21世紀の現時点より、人類の進むべき方向を見極め、そのための学問の基礎となる教育を施す。以上のような教養を土台として、自由に、大胆に、学問・研究を行う。細部をおろそかにせず、物事を総合的、根源的に考える哲学的姿勢が、京都大学の特徴、学風たるものと考えます。（文, 50歳代, 男）

◆時流に流されず、人間の問題を根源的に課題にする教育を。日本、東洋に関する世界的な研究を、東京にない京都の風土に根ざした研究を。（文, 50歳代, 男）

◆第一線の研究をしていけるように、設備、研究室などを改善する。学生は非常に傍若なので、その能力を伸ばしていけるような指導をしていく。心理学は総合人間、文学部、教育学部と分かれているが、心理学部のようなひとつの学部にした方が、発展するのではないか。（文, 50歳代, 女）

◆正直に申しますと、京大からこのようなアンケートが送られてくるとは思ってもみませんでした。近年、大学改革の必要性が声高に言われており、小生の勤務する地方の公立大学でも、学生の臨時定員増の恒常定員化、大学受験生の少子化の傾向への対応、地域社会への貢献などの理由により昼夜開講制の導入を余儀なくされました。最後の理由には謙虚に耳を傾ける

べきだとは思いますが、ただ、大学が果たす社会的役割について誤解が余りにも多いと思います。大学は国家・社会に目に見える形で、貢献すべきだ。具体的な利益を生み出すべきだ、ということでしょう。これは俗耳には大変心地よくひびきます。しかし、京大は100年の伝統を有する大きな国立大学でありますので、世俗的批判にまど わされずに学内の知性諸賢の意見を集約して対応を誤らないようにしてほしいと思います。国立大学の独立行政法人化をひかえ、京大も検討すべき諸々の問題に追われていると思いますが、卒業生の一人としてはこれまでどおり社会を批判し、社会をリードする大学であってほしいと思います。人に広言はしませんが、京大に学んだことを今でも誇りに思っております。（文，50歳代，男）

◆ノーベル賞受賞者が、出ていることに誇りを持っている。独創的な研究に重点を置く大学であってほしい。国際的なレベルが高いと認められるようになるためには、教員のモービクティーが必要。外国人教官も一定の比率で入れる。学問領域の枠に捕われず、学際的研究や社会とのつながりを重視した研究体制が必要。学問のための学問のみに片寄らないバランス感覚がほしい。お受験で成長してきた偏狭な若者が一流大学に入学する傾向にあるが、ややこしい入試にこだわるより、一定のレベル以上でなければ単位を出さないようにするべき。卒業証書の乱発はやめる。それにしても、日本の若者は、小さい頃から不毛な知識のつめ込みに時間を浪費し、人間としての幅や本当の意味の知識欲に欠けている。これらは日本の一流校の硬直化した制度や人事に起因するのでは。京都大学が率先して改革し、国際的に認められる大学になってほしい。（文，50歳代，女）

◆小生はいま芭蕉を読んでいますが、役四十年前に教わった先生方のすぐれた物の見方や研究成果を借用すると、芭蕉の物の見方やコスモロジーがより鮮明になるので助かります。吉川幸次郎先生の杜甫についての熱論は、今も心に残り、杜甫に傾倒していた芭蕉を理解するのに役立っています。役千五百の詩の「一時として来歴無きは無し」と言われるほど、『詩経』以来の二千年の古典を深く学んだ杜甫は、没後千二百余年を経た今も、新鮮な詩情に満ちた世界や物の見方を示してくれる永久にモダンな詩人です。「一重一掩吾が肺腑／山鳥山花吾が友于（たたなわる山々はわが肺腑山の鳥山の花はわがきょうだい）」（岳麓山道林二寺行）という自然観・世界観は、あらゆる生き物を養い育んでくれる地球（地水火風の四元から成る）を汚染破壊し、同胞の生き物を絶滅の行進に追い立てているヒトに、警告を発しています。世界有数の詩人杜甫の詩法と自然観・世界観は、十七世紀の芭蕉に受け継がれ、その詩の高い連嶺の言語の美と詩境は、二十世紀の碩学の登頂によって解明教示されました。沢瀉久孝先生は、『万葉集』のすばらしさが門外の学生にもよく分かるように秀歌を選んで、懇切丁寧に解説されました。先生の講義のメモを端書きした四十年前のテキスト『新校万葉集』が今も残り、『万葉集注釈』と共に、芭蕉に接近するのに役立っています。俳諧では常に新しい句風を開拓した永遠にモダンな詩人は、荘子や杜甫などの古典を深く学んで、万葉人と同じように万物に呼びかける古代精神の持ち主でした。いかに古くても永遠のものは新鮮なのです。桑原武夫先生がルソーを高く評価したことは、世界各地に生まれた様々な文化・文明からすれば、二千年間も自然を蹂躙してきた極めて特異な西洋文明（古代ギリシア・ローマ以後の）を浮き彫りにし、私たちに視野の広い自然観・世界観の確立を促してくれました。西洋では始めて山の美を讃え、西洋人の美意識も変革しようとしたルソーは、西洋文明の異端者でした。自然を最大の教師としたルソーは、荘子・杜甫・芭蕉などの東洋人の仲間に入ることができます。とりわけ「山は静にして性をやしなひ、水はうごいて情を慰す」（洒落堂記）と言い、月山に登頂した芭蕉とは意志投合するはずです。荘子・杜甫などのコスモロジーを受け継いだ芭蕉は、「造化にしたがひて四時（しいじ）を友とす」（笈の小文）と言明しました。この約一世紀後、ルソーは『エミール』などで自然への回帰を唱えました。ルソーの自然観・世界観の変革のすすめは西洋文明の主流から敗訴されましたが、ブレイク、ヘルダーリン、ランボーなどの異端者がルソーの後に続きました。東洋のこの国でも、芭蕉が唱えた「自然に随い、四季を友とする」生き方も、明示移行の文明開化によって排斥されてしまいました。一粒の麦からコンピューターまで、ヒトが消費・利用するものはすべて「自然のめぐみ」であるという単純な事実すら認めない野蛮な文明は、二十世紀の期中の大部分を席巻し、二十世紀百年間の戦争の死者一億数千万人・広島長崎の原爆投下・水俣病などの地球環境汚染破壊・種の絶滅の加速度的な行進など、非道な野蛮行為を行ってきました。桑原先生を中心としたルソー研究の成果は、今後もこのような文明の蛮行を抑止する大きな力になるでしょう。今西錦司先生の自然学は、私達の自然を見る目を深めてくれました。誤った進歩史観と直結するダーウィンの進化論を鵜呑みにせず、先生が自らの目や足で見出した生物の文化論は、すべての生物をはらから（同胞）のきょうだい（兄弟姉妹）と見る荘子・杜甫・芭蕉・宮沢賢治などの自然観・世界観の正しさを証明しました。先生の最晩年の市民への講演では、ヒト以外のあらゆる生物は、弱肉強食をしているのではなく、地球の様々な場を分ち合い（棲み分け）、地球のめぐみを分ち合って共存しているという自然の真理を力説されていました。このような先生方が数多くいて、それぞれの分野で最も本質的で重要な永遠の問題に地道に取り組んでおられました。学問と自由の精神に満ちていた吉田山の麓から社会に出てみますと、職場・公的機関・企業・隣近所・市街の至る所に、奇妙な権威と論理が支配していて、このクニは「不自由のクニ」であることを痛感させられました。さらにこのクニでは水・大地・大気の汚染破壊がますます増大し、二重に息苦しい人生を余儀なくされてきました。この不自由のクニでは、まさに一木一草まで[権威・管理・画一・利益・便利]至上主義が浸透していて、[自由・平等・人権・個性・共存]を重視し、[地球・四元・生き物]に感謝する精神はますます乏しくなり、[社会・自然]はますます病んで荒廃するばかりです。真の学問は、どの分野の学問でも、ミクロの事物から[地球・太陽系・銀河系・宇宙]の空間と[人類史500万年・生命史30数億年・地球史40数億年・宇宙史百数十億年]の時間のマクロまでを視野に入れる物の見方で、万物（生物・非生物）を見つめ、万物の永遠の「理」を探求するとともに、万物の「理」から外れたこともする特異な生物ヒトの病める「社会・自然」の病原を見出し、生き生きした「社会・自然」に復活する道を示し、自らも努力するものです。（文，50歳代，男）

◆東京とは異なった特異な存在としての教育研究機関を目指すべきこと。教員の内部出身率を半数以下にすべきこと。外国人教員を増やすこと。英語による講義を必修化すること。学部教育もやることながら、大学院教育を充実させ、世界の有数の大

学に遜色なきようにすること。（大学院のカリキュラムは杜撰でないか）（文，50歳代，男）

◆30年前には、大学は何のためにあるのかとの問い掛けが到る処にりました。産学共同批判も盛んでした。今は独立行政法人化が問題になっています。いつも大学は社会の中にその波の影響を受けながら、存在しています。情報化の勢いは止まることを知らず、従来の学問のあり方が根本から覆えられそうな状況にあると見えます。そうであればこそ、余計に大学はゆったりとした時間と深い思考と種々の試行錯誤とが許される場所であってほしいと思います。余裕、ゆとりを持つことは、現在の社会においては、望み得ないかもしれませんが、大学は比較的、相対的に、それを可能にしてくれるものと存じます。問12にも書きましたが、学生の方々が、謙虚に自らの立場を省て、古い言葉ですが、世の為、人の為に働こうとする気持ちを持って戴きたく存じます。（文，50歳代，男）

◆2001年度ノーベル化学賞を野依名古屋大学教授が受賞した。彼は京都大学の卒業生らしい。これで日本人の同賞受賞者数は2ケタになった。出身大学で受賞者を分類すると化学賞は湯川秀樹氏他6名となる。文学、平和賞が3人いる。化学賞にひとりだけ東工大という人がいたがすべて京都大学であった。ところが文学・平和の分野は逆にすべて東京大学である。「私の京都大学」からは全く逆の結果だと思える。工学部の分野がメディアのはやすように革新的、自由、個性的であるか。そうだとすれば京大の文学や法経は保守で不自由で没個性的である、ということになる。全く個人的な感想というレベルであるが、京大の文学部でノーベル文学賞が出ないのはその「貧しさ」のせいだと思う。京大での4年間について、衣食住と闘う貧しい生活ばかりが残っている。ノーベル賞を取るほどの勉強する生活の余裕がなかった。今は、どうなっているか。（文，50歳代，男）

◆数ヶ月前、新聞報道のあった文学部のセクハラ事件は一卒業生としてたいへん恥ずかしい思いをしました。殊に、被害者が進学研究を断念し、加害者の教員がほんの二ヶ月程の、しかも夏休みに重なる時期の停職で済むというようなことがそのまま全学的に見過ごされているような本態は到底まともな大学のあり方とは思えませんし、私が今迄抱いてきた学風のイメージ（問13の①や②）を根本的に突き消すものです。残念でなりません。類似の傾向（そのようなものが無いことを切に望みますが）ともども善処を願います。（文，50歳代，男）

◆・京都大学と言えば、官僚ではなく創造性あふれる研究者というイメージがあると思いますが、このイメージを大切にしていただきたいと思います。・独立行政法人化が言われ、今後は過去の名前に頼っているところは次第に生き残りも難しくなってくると思います。常に時代の流れを見据え、基礎・基本と先端の両面での研究開発力を高め、それを学生たちに教授していただきますよう期待しております。（文，50歳代，男）

◆創造性、学の独立。それが、今後も続きます様。ノーベル賞という時、「又、京大か」とささやかれる周囲のグチの何という語らかなることか。私の会社は東京にあって東京は官僚社会なので、全く自由の気風がない。それだけに余計、京大の気風がさん然と私の中で光を放つのだと思う。教養重視の京大であってほしい。（文，50歳代，男）

◆今年のノーベル化学賞でＯＢの野依氏が受賞されました。これで理系分野7名中6名が京大出身者ということになります。別にノーベル賞を受賞することが優秀さの尺度でもなく、旧制一高から来られた方もおられるわけですが、しかし、純粋な東大(旧制一高含め)出身者に今まで一人も受賞者がいないということは何かを意味していると思います。文系の門外漢ですが、納得できることがあります。産業協同が先行していないこと。出世、実利、権力志向が余り見られないこと。基礎研究と自由な学風があるという(あったという)ことです。「虚学の塔」と言われることに対する面目躍如たるものがあります。現在大勢の後輩を送り出すという教育（塾・予備校）の仕事に関係しています。既にその段階で権力志向的な生徒と、そうでない研究者タイプとに分かれているようです。京大の英語の入試問題も（私は英語を教えています）虚学然としており、考えさせるという意味では、今のままで日本一だと思います。（明治時代から同じということでもありますが）もう少し他学との交流があればよいかとも思いますが、何よりも自由な学風が大切だと思います。（文，50歳代，男）

◆ノーベル賞受賞者数が日本の大学の中では京大がダントツの一番であることは卒業生として大変誇りに思う。　ノーベル賞受賞者を産む学・研究のメカニズムを大切にしさらにそれに磨きをかけるような努力を大学人は義務として遂行してほしい。それは単に京大のためだけに申し上げているのではない。　末期がんの症状を呈しているのになお根本治療を出来ないような日本経済は今や世界の「蔑みの対象」から「憐れみの対象」になってきた。　人間は尊厳なくして生きることは出来ない。国家も同様である。世界から尊敬　（以下、不明）（文，50歳代）

◆全ての分野において、日本の学術研究における最高水準を常に維持してほしい。（文，60歳以上，男）

◆これまで通りに、期待します。（文，60歳以上，男）

◆現在の京都大学は東京大学的になりつつあると思います。そのようなものは1つ（東大）だけでよく、京大はいまわしい思い出しかない学園紛争の前にもどるべきあると思います。（文，60歳以上，男）

◆一．時流に流されず、真に真理探求の学問の府であってほしい。このための自由の学風、創造性の尊重、独立性の尊重であるはず。二．真理探求の学問の府としてふさわしい大学体制を整えてほしい。国内外を問わず、全世界から教授助教授を登用して、研究、教育の体勢を強化する。このため大学自治と管理体勢の自己革進と民主化を大胆に実行に移し、古い体質を刷新すべきである。（文，60歳以上，男）

◆一にも、二にも総合人間学部（教養教育課程の）の大改策をすすめるべきであろう。旧教養部時代もそうであったが、現状は名を変えたがゆえにかえって教養教育がサンタンたるものになっていると思う。①第一に、総人に中途半ぱな研究者が多すぎる。学部（大学院研究科）教師になれない研究者が、研究者のまま教育にたずさわるのは、教師、学生の双方にとって大変に不幸なことである。語学、数学の教育のプロが徹底して基礎をきたえるべきだろう。一と、もう、とっくの昔に議論のすんだことである。実践あるのみ。②教養教育は学部の下準備という点でも、きわめて重要である。これは、いわゆる中途半端な「概論」（これが、本当にできる教師などマレである）ではなく、私見では、すべて「～学史」にすべきである。～文学史、語学史、西洋哲

学史、東洋思想史、‥‥すべて、それぞれの学問の歴史を学ぶことが出発点となるべきである。理系でも同様である。つぎに、いわゆる独立学部としての総合人間学部についてであるが、この文系・理系複合形態は、どだい学部レベルでは無理である。大学院段階でのみ可能であろう。最後に、残念ながら、東大に次ぐ第2位を自認しておられる我が京都大学が「個性のない2位」のままで終わりかねないことに、卒業生としては大変口惜しい思いがしている。どのレベルでも、改革は東大の方が次々と先手をうっている。生徒の質は、例外を除いて、圧倒的に東大の方が高いのだから普通のことをしていてはダメだと思う―というより、何もしないで看過している現状を見て、ほぼ絶望しているというのが実感である。（文, 60歳以上, 男）

◆最高学府として、すぐれた研究に励み、優秀な学者を育てていただきたい。目先の利益にとらわれず、知性をみがき、人類文化に貢献する人物を育てていただきたい。学閥的伝統は排除し、個人の実力が正当に評価されて、他者と台頭に協力し合える雰囲気を社会の中に作り出せる人物を育てていただきたいと思います。（文, 60歳以上, 女）

教育学部・教育学研究科

◆大学院教育が中心のため、学部だけで卒業した私としては、専門教育の時間が短いと感じた。教養の講義も面白いので、選択性にしてとれるようにし、一年生から専門を学べるようにしてはどうか。大学が高校化してきて、細かい点に及ぶ学生への指導や、しつけまで期待する世の中の風潮があるが、そういった事は必要ないと思う。その点については今までのやり方で良いのではないか。（教, 20歳代, 女）

◆大学生全体の質が低下しているらしいですが、基礎的知識は高校までに修得しておいてもらいたい。そのため入試では多少厳しい選抜があっても、それは構わないと思う。大学では2回生から専門分野に集中できるカリキュラムがいい。大学院まで進みたくても家庭の事情等で卒業し、働かなくてはならない人もいます。学部で2年程度の専門を学んだくらいでは、社会に出て堂々と「〇〇を専門としていました」とは言えません。ずっと卒業したことを誇りに思える大学であってほしい。（教, 30歳代, 女）

◆東大生に会うと100人が100人とも専門書の基本文献をみんな読んでくるようなトレーニングを受けているように思えるのに、京大ではそういうことは個人の努力以上のことはなく、自分で文献を集めどれだけ読むようにしたか…にかかっていました。つまり100人が100人とも、そこそこの水準まで、学部のトレーニングでひき上げられる東大生に比べ、個人的資質に帰されてしまし、気がつくと、何も読まずに4回生がやってくる京大生ということも起こりうるので、この点は、少し改善した方がいいと思います。（教, 30歳代, 女）

◆（残念ながら私の場合後になってからしか気づかなかったのですが）一見役立たないような、無駄、廻り道が結局その人の教養を生み出す素となっているので、その意味では無駄が許される環境である京大の雰囲気はよかったと思うのです。しかし、社会構造が激変し、教育をとりまく環境や人々の意識がこれほど変わってきている今の時代に、これまでの”自由”の学風の本当の意味を見い出せる学生はどんどん減って、単なるお気楽ブランド学生が輩出されていく危険が伴っていくような気もします。（教, 30歳代, 女）

◆東京で一度大学に行っていたときは（早稲田）、どちらかと言えば、実業主義、実務主義的で、企業で通用するようにという教育体系であったことと比べ、京大は、より学術的に学問そのものを深めている感があった。その点が何より魅力で、あえて東京から出てきた。現在東京で働いているが、実際の仕事は、働き出してから充分、今の日本であれば覚えながら働くことは可能であるし、また、いくら大学で実務的なことを学んだとしても、やはり実際には個々の職場で異なってくる。むしろ、どのように課題を見つけ、それをどのように解明していくかというプロセスや、手法を学ぶ、あるいは実践する事が、その後の仕事にも役立つと思う。分野や科目をがちがちにするのではなく、上記のプロセス的な部分を、あらゆる分野において、重視するようにしていってもらえば、京大生としての自信は、いつまでも持てると思います。（教, 30歳代, 男）

◆入試を（手間がかかってでも）工夫をして、ほんとうに勉学に励みたい人、伸びていく可能性のある人を受けいれるようにしていくべき。（教, 30歳代, 男）

◆ひとつの大学の中で総合的なバランスをとっていくという方向では個々の大学の持つ独自性がますます薄れていくと思う。大学のあり方自体が問われている現在だからこそ、これまで貫いてきた良い意味での“いい加減さ”を続けていったほうがよいと思う。（教, 30歳代, 男）

◆首都圏に住んでいますが、数か月前に電車のつり広告で興味深いものを見ました。ある受験指導の業者が、生徒募集の広告の中でのせていたのですが「高校の進路指導の先生に、生徒にすすめたい大学はどこか」とアンケートできくと、一位は「京都大学」という結果だったそうです。京大の卒業生としてうれしく思うと同時になぜだろうと考えました。私自身大学時代は、勉学もやるときはやりましたが、自分のやりたかった他の活動により多くの時間を割っていました。同級生を見てもそうする人も多かったようですが、、京大には、いい意味で学生にそれを可能にする雰囲気がありました。講義にほとんど出席しなくても、レポートをまじめに書けば単位をくださった先生、出席はしていたものの、テストは最悪でも、通してもらえた仏語など、今でも感謝・感謝です。それを可能にするのは先生方に、学生に対する一種の信頼感と若者が試行錯誤する時期を見守ってくれる大らかさがあるからだと思うのですが、そういう中で、学生はのびのびした発想や行動力を養っていけるのでしょうから、今後も京大はそうありつづけてほしいと思います。ノーベル化学賞を受賞された野依教授も、学生時代はラグビー、マージャン等に熱中したものの、4年で化学に再び目覚めて、のめり込んでいかれたとのこと。まさに「京大生」という感じがします。京大の良き学風が、古都京都という立地や京大生を大切にしてくださる京都の人たちといったほかの要素と相まって、今後もすばらしい人材を生み出し、多くの人の「あこがれ」の大学でありつづけるように願っています。（教, 30歳代, 女）

◆現在、高校の教員をしています。現在勤務している学校は地域ではいわゆる進学校です。（京大進学者は3年に1人位）現行

のカリキュラムでは、高校で全く日本史、地理を学習しない、あるいは、物理、化学を学習しないで大学に入学する生徒がいます。そういう生徒達を見ていると昔以上に大学で一般教養教育が必要な気がします。(教, 40歳代, 女)

◆・自主的、自律的な研究をすすめられるようにすることですね。・研究成果や資料等の一般への活用をしやすくすることも、よろしく。(教, 40歳代, 男)

◆情報の公開：具体的には各学部、大学院、研究所に所属する全ての教員(教授～助手)の研究テーマ、内容、著書の一覧的な公開(インターネット等)すること。大学の事務官でさえも教員の専門研究内容を知らない(手段も知らない)というお粗末さがある。 学部教育の教養課程の重視(独立法人化に対応して)：学部の教員(同窓生)に聞くところによると、教員(教授)が自分の研究のための「優秀な学生(助手の代替、無償補助要員)」を得るためには熱心であるが、社会に役立つ知的刺激を学生に付与する教育機関としての役割が最近窮めて軽視されている、と言う。独立法人化の流れの中で、各教員が生き残りをかけて過度な対応が出ないようにチェック機能を持ってほしい。(教, 40歳代, 男)

◆学問研究は自らが求めていく性質のものではあるけれども、講義は高校以下の授業展開法を参考にして、聴いていて「理解できる」と学生が感じるものにしていく必要があろう。折角講義するのであるから、教官のみがわかっているのではもったいない。(教, 40歳代, 男)

◆教職課程、教員養成教育が非常に貧弱で軽視しているように思われます。教育学部はもっと教育実践と結びついた研究をしていただきたいと思います。(東大に比べてこの点が弱い)(教, 40歳代, 男)

◆世界に通用する研究者の育成を目ざしていただきたいと思います。只、社会の流れとして、お金にならない研究は排除されていくようですが、将来性のある基礎的な研究にじっくり取り組める環境は残してほしいと思います。当時をふりかえると、「自由な学風」が京大生らしいユニークな人材を生み出していたように思います。この伝統は、ずっと受けつがれていくことを望みます。(教, 40歳代, 女)

◆大学を卒業して、はや20年以上がすぎました。職業生活の多忙の中で、「もう一度学びたい」という気もちが強まりつつあります。そのような要望にこたえるシステムは少しずつできているようですが、まだまだ不十分だと思います。職業人の「学びたい」という願いに応えられるシステムを、ぜひお考え下さい。(教, 40歳代, 男)

◆問12に記述した通りである。チマチマとした「改革」などやらないほうがいいのではないかと思う。すぐれた先達の方々の営為の中に『改善点』は既に見えているように感じるのだが・・・。(教, 40歳代, 男)

◆これらの質問項目が、はたして自己評価・点検に役立つものかどうか。少しばかり疑問に感じました。(教, 40歳代, 女)

◆・創造的な研究の推進とともに、社会サービスとしての実践的研究を大切にしたい。(教, 40歳代, 男)

◆人文・社会科学・自然科学何れの分野にせよ何のための学問か、哲学を忘れずに活躍できるよう若い方たちを育てていただきたく存じます。(教, 40歳代, 女)

◆徹底的な正義感の強さと、くそ度胸は京大生の良い所であるが、モラルの低い学生も居り犯罪行為も目立つ、学生運動をもう少し押さえてほしい。先生と学生は良いが学内政治的な面も目立つ理想を追求するのが大学の使命ならばそれを貫いてほしい。(教, 40歳代, 男)

◆現在の入試制度では、社会常識のない大学生が多数存在しています。これでは、国際的にものが言える人間に教育していくことはできないと考えます。まず、1年間は、徹底的に視野を広める教育が必要だと考えます。社会で活躍する卒業生がたくさんいるのですから、毎日、いろいろな分野の方の講演会を開催すればいいと思います。卒業生はボランティアで来てくれるでしょう。 大学院で、研究の指導をしようとしない、また、できない先生方は、学生にとっても迷惑であるし、大学の発展にも影響を与えるので、何らかの方策をとっていくことを考えていただきたいと考えます。(教, 40歳代, 女)

◆近衛の辺りにある学生集会所の建物を大学の予算で新築してほしい(老朽化がひどく、周囲の手の加えられた状態とのギャップがひどい)。学生の希望をよく聞き、自主的で自由な文化的精神的活動(サークル活動を通じての)を支援すべく…。そこで育った者として、放ったらかしにされている状況は見るに耐えぬ思いです。(教, 50歳代, 男)

◆自由な校風を壊さないこと(教, 50歳代, 男)

◆自由な学風、権力にとらわれない精神を残していってほしい。(教, 50歳代, 男)

◆・国立大学の教官側をもっと、自由にし、学外活動をしやすくし、社会へのPR活動の積極的展開、そしてそれが学生への正確なアドバイスを生むのでは……・学部、学科等についても、従来通りの固定化したものでなく、もっと変化すべきである。人口問題、食料危機、地球温暖化、環境問題等(将来の問題)を研究する具体的単位の確立。→それらを発表、警鐘を鳴らしうる→社会に貢献する学舎(教, 50歳代, 男)

◆東大と異なり、自由な発想のできる人間教育を更に推進して戴きたい。(教, 50歳代, 男)

◆(民間企業に身を置く立場から) ○基礎工学 ○マネジメント戦略スタッフ学 ○先進科学 等の領域で基礎を築いた人材の輩出を期待したい。(教, 50歳代, 男)

◆自由と独立の学風はいつまでも守り続けてほしい。一芸に秀でることも大事であるが、京都大学はやはり幅広い教養と豊かな人間性を兼ね備えた学生が集まるアカデミックな場所であってほしい。(教, 50歳代, 男)

◆このようなアンケートをするなら、現在の大学理念や研究と教育の実績や現状を示すような資料をそえて頂きたい。京都大学を卒業、修了したことを誇りに思う反面、他大学に比べて愛校心が薄い(なくはないが)。こちらにも問題はあるが、京大からの働きかけ、情報提供などがほとんどないのが一つの原因ではないかとも思う。受験の影響で知的な面だけが達者なエリート学生が多いようにも思う。人格面の形成をも怠らないで頂きたい。(教, 50歳代, 男)

◆1. 全教官の経歴、業績、著作、京都大学での担当講義のシラバス、学外での講演のタイトルと内容の概要等、すべて大学の

HPで公開願いたい。キーワード検索付で。 2. 社会人に広く門戸を開いてもらいたい。特定科目だけの履習を容易にしてもらいたい。 3. 大学図書館の24時間、とりあえず夜10時迄開館。社会人卒業生への門戸開放。 4. 独自の放送大学の開設。社会人のためだけでなく、その放送コンテンツは、学生の自習用としても有益でしょう。在洛他大学の学生も利用できるようにするべきです。 5. 生協でも学外の書店でも、丸善でもどこでも宜しいが、学部別に、全教官の著作が、いつでも誰でも買えるという状況を作って頂きたい。名誉教授も含めて。 6. 卒業生名簿は仕方ないと思うが、その他卒業生へのDMによる物販は禁止してもらいたい。わずらわしい。(教, 50歳代, 男)

◆世界のどこの大学へ行っても通用するような語学力(特に英語の量とスピード)と独立心を培うような「国際性を意識した教育」を行ってほしい。私はアメリカの研究機関と大学で4年間の学究生活を送ったが、当初は語学でとても苦労した。外へ出ると活躍しているのは、東京外語、大阪外語、ICU、上智、津田塾の卒業生達で、一般大学(京大を含め)の出身者は影が薄い。これからは、国際的に活躍できる人材を育成することを捉えて、教育の眼目に据えてほしい。(教, 50歳代, 男)

◆京大を出て議員や官僚になった人はかなり多いと思うが、その彼らが何をしたか、また何をしているかを見れば、 今までの教育というものが、どこか歪んでいたということが明らかである。京都大学に入ってくる人間は、多分その後の就職を考えているだけで、大学で何を学ぶかなどということは二の次である。そんな学生に大学は何を期待するのだろうか。 それも、受験のためだけの勉強をして、人としても基本的な生き方を学んでこなかった人間たちに何を教えてくのか、 根底から大学のあるべき姿が問われているわけで、改善などという甘いことではないような気がする。 試験から変えていくことが、まず必要なのではないだろうか。 大学側がどんな人間に来てもらいたいのか、明確な考え方を明らかにし、共通一次のような馬鹿げた試験体制から 早く抜け出ることでしょう。(教, 50歳代, 男)

◆京都大学は日本文化の原点とも言われる、京都にある世界に開かれた大学で、わが国から世界へその情報なり技術、また研究を発信していくべき大切な責務を負っていると言えるでしょう。　近頃、一般社会人として感じるイメージは、そんな京都大学も他の国立大学や有名私立大学と不要な競争をしているように見える事が有ります。現在は競争社会と言われていますが、その中でも常に光りつづける存在であってほしいと思います。　大学院大学などよりいっそうの高度化の中で、学生の研究年限も延長が必要なのでしょうが、優秀な人材を集め、「鉄は熱いうちに打つ」教育をほどこせば、京都大学の学部の場合は他大学の大学院並みの教育を受ける事が出来るなど、スピードアップした社会に対応できるでしょうし、それが人材の有効活用にも繋がるでしょう。　また、制度的にも変更を加え、文部科学省にも規制の緩和を迫り、修学年限の短縮等も検討し、短縮的に到達レベルの判定が出来るような教育システムなど、制度の変革や改革にもリーダーシップを取ってもらいたいものです。(教, 50歳代, 男)

◆大学の存在価値、使命は、大学に通えない人たちを差別するのが目的ではないはず。真の目的は、基礎学力を提供し、考える力を蓄えさせ、社会の変化に対応して自己改革できる力をつけさせる事にあると考える。今の社会の人たちは大学に通うことを目標とし、真の目的を見失っています。今の大学生の親が、人生目的と目標を混同して、子供を大学に通わせているがゆえに、自己中心的で思想の低い、それでいて知識に埋もれるだけでは豊富な人たちが多くなっています。人間は、独学では変われません。「人は人によって変わる」ものです。つまり、人は人の影響で初めて変化するものです。換言すれば、一人ではいくら努力しても報いられることはないということです。大学は社会人との交流の場をもっと頻繁に設けるべきです。それもいう人文分野の人たちとの交流の場を設け、象牙の塔からの脱却を模索し続けるべきだと考えます。人間本来の尊授性の「尊敬」と「感謝」の心は、人との接触からしか生まれないことを厳威出来ない限り、頭ばかりデカく(屁理屈ばかりの人間)自己中心的な人間は減らないと考えます。熱意と忍耐力を持って社会人との交流の場を増やしていって下さい。(教, 60歳以上, 男)

◆・設問と「添え書き」による調査趣旨に、ミスマッチを感じる。また、卒業間もない若年層なら回答が容易と思われるが、卒業後40年ほど経った小生には、回答がかなり難しい設問も散見された。(とくに、この後のキャリアの見通しなど)卒業生アンケートとして、あらゆる年令に同じ設問を行うならば、いささか、設問に配慮を欠くのではなかろうか。・今回、このような自己点検、評価にかかる調査を行われるこつについて。1つは、これまで、国立大学として自己点検というまなざしの持ち方が弱かったのではないかとの感を禁じえない。私立大学は常に社会から点検、評価のまなざしを感じながら、経営のあり方にフィードバックすることがなければ存立基盤にかかわる。京都大学も一国立大学として、自由な校風のなかにも、批判の精神にゆるみがなかったであろうか。もう1つは、これまで、このような自己評価のための卒業生アンケートは記憶にないが、「今の京大は、他所者に評価してもらないといけない程、自信がなくなってしまったか」との印象を受けた。情報公開は大変大切なことだが、それは、現在の大学人が大学をいかに考え、それを学生や職員、そして社会に問うことではないかと思う。(教, 60歳以上, 男)

◆・理系はともかく、文系(文・教)において、もっと教授の質を向上するべき。国際レベルの知名度を誇る教授がいったい何人いるのか。そもそも京大出身者だけに教員採用を限定するのは、時代遅れ。・京大は「自由な学風」というが、入学してみれば単なる「放任主義」だった。もっと学費にみあう教育を提供すべき。図書館なども分教しており非常に使いにくい。・在学中に、教授助教授からのセクハラを経験した女子学生が私の身の回りだけでも数名いた。学内の性差別を払拭するためにも、女性教員の採用、セクハラ相談窓口設置など、積極的に措置を講ずるべき。(教, 女)

法学部・法学研究科

◆・実学重視・学外→研究者だけでなく地域、市民、企業、海外などとの交流(法, 20歳代, 女)

◆・学生の自主性を重んじる点を変えないで頂きたい。・変にルール、規制をはめるのではなく。自主性のあるのもは大いに研究、学問に取り組めることができ、そうでないものは自然と自主性を身に付けられるような(付けざるを得ないような)雰囲気を

つくりだすようお願いします。「規定されているから」「ルールだから」「単位をとるため」といった動機で学んでも、身に付きません。人vs人として教える側、教えられる側が向き合える「箱」を提供して下さい。（法, 20歳代, 男）

◆学生にこびる必要はないと思いますが、もう少し学生が興味を持てるような講義のやり方を、工夫した方が良いのではないでしょう。また、実社会に結びつく講義等も、増やしていった方が良いと思います。（法, 20歳代, 女）

◆今現在の仕事が学部での教育と関連あるところでもあり、学生時代にもう少し真剣に取り組んでおけば良かったと後悔しています。ただ、今思いかえすと、大学のカリキュラムが、大人数に対して知識のみを覚えさせるだけであり、なぜそうなのかという点は一部のゼミでしか学ぶ機会がなかった気がします。卒業生が社会のなかで活躍するためにも、学生時代のうちに実務に役立つ経験をさせるような教育を導入できないものでしょうか？ロースクール構想について非常に関心がありますが、単なる弁護士等の量産機関となることのなく日本や世界でビジネスマンとして活躍できるような人材輩出の場にしていただきたいと願います。（法, 20歳代, 男）

◆大学の内外に、学生の居場所が多いことは、とてもよいことだと思います。自治の根本になるからです。人が寄り集まっていることはそこから互いに刺激しあうということが起こるだけでなく、しかも、人造的に（大学の意思が作用するように）ではないというところが、大きな資本になっていると思います。（法, 20歳代, 男）

◆社会人学生の受入をより幅広く行って頂きたいと考えております。（法, 20歳代, 男）

◆社会に役立つ知識・技術を有する人を育てるにふさわしい専門教育を行ってほしいと思うが、一方で伝統ある自由な学風も維持、尊重していってほしい。（法, 30歳代, 女）

◆社会実務の中で、京大と関わる機会が極めて少ない。東大や阪大に比べ極端に少ない。京大が他大学に比べ、社会との積極的な関わりを持っていない表れではないか。大学の役割は、教育と研究だけではない。人類と社会に貢献してこそ存在価値がある。社会への情報発信や行政施策、経済活動への関わり、社会からのフィードバックなど学府と実社会の相互交流が重要であり、京大も実社会への関わりを推進すべきである。（法, 30歳代, 男）

◆4年間の学生生活のうち、教養に1年半、就職に1年を費やしてしまうと専門課程の時間は相当短くなる（基礎・応用の両方出来る卒業生は限られるのでは・・・）。教養課程を短くする、社会人に門戸を開く、といった改革が行われればよいと思います。（法, 30歳代, 男）

◆知に溺れず、基本を重視し、人格的高〇のある人材の育成をお願いします。なかなか人材がいないとは思いますが。京都という古都で快適な空間の中にあることがいいと思っています。トップエリートではなく、人間的（humane）を重視していただきたいです。（法, 30歳代, 男）

◆ちゃんと勉強もせず、卒業者として恥ずかしい点は多々ありますが、京都大学を誇りに思っています。自由な学風、個性的な先生方、学生・・・今までのあり方を大事にしてほしい。（法, 30歳代, 女）

◆知的要求（欲求）に応える授業を。小規模のゼミ形式で語学を。最先端の学問分野についても積極的に外部講師を呼んでゼミを。現代社会問題（政・経）についての授業・ゼミが少なすぎる。タマには、ラテン語や、古典も教養としてよい。（法, 30歳代, 女）

◆私は、京都大学の学風の伝統を維持していただきたいと思います。（法, 30歳代, 男）

◆自由な校風をいつまでも保って下さい。（法, 30歳代, 男）

◆大学受験で管理されて勉強することに慣れてしまった学生が「独立・自由」を主体的に受け容れて大学教育に値するようになるには若干の時間がかかると思う。現在、一部で行われているらしい「入学生へのオリエンテーション」とか、必須科目を特定の国家資格に適合させること等がこうした学生の体質にピッタリだということはよくわかるが、他方でこのようなことが行われていない京大に卒業生として誇りを持っていることも確かである。学部の必須単位数を増やすとか、早くから必須の演習をとりいれる等として、学部の教育に対する信頼性を担保できればよいのではないか、と考える。（法, 30歳代, 女）

◆＜大学に期待すること＞社会への貢献。研究成果での貢献はもちろん、教員の社会的活動（マスコミ、インターネット等における情報発信、ボランティア活動など）また、その社会貢献を周知させてほしい。（法, 30歳代, 女）

◆大学では、自分なりによく勉強した方だと思いますが卒業してから、ああ、あの科目も聴いておけばよかったと思う講義が少なからずあります。講義は教授、助教授等先生方の研究途中の成果の発表の場でもあり、教科書、本では書けない、インフォーマルな情報も多いので、ビデオ録画したりして公開するという性質にはなじまないとは思いますが、（たとえば、イメージを学生に伝えるため、正確性を多少犠牲にしてもわかりやすい例を講義では用いられます。しかし正確な表現ではないので、教科書上にはのせられない、そういう情報伝達のメリットが講義にはある）非公開、インフォーマルなものであるということわりをつけた上で、講義をビデオ化して下さると、昼の講義は仕事をもっていて聴けない社会人の聴講生が格段にふえると思います。ビデオですと、仕事が終わってから、ビデオブースで聴講できるので、時間の都合がつけやすいからです。社会人になってから勉強したいと思う人間は要は知識を積極的に身につけたいと思っている人間が多いと思うので、（別に単位獲得がねらいではないので）単位認定試験をどうするかとか考えずに、ただ聴講できる場を提供して下されば十分です。ビデオによる記録化をのぞまない先生方も多いと思いますが、別に差しつかえないと思われる先生方だけでも実験的に導入を検討して下さい！京大のさらなる発展を祈念しております。（法, 30歳代, 男）

◆個人的には京大の自由な学風が大変好きであったが、学生は自由を謳歌できる程成熟しておらず、迷ってばかりである。クラブ活動に力を注ぐこともよい経験となったが、逆に学業はそれだけ手を抜いたということである。特に教養の2年間は廃止ないし、縮小し、専門を充実するべきだと思う。（法, 30歳代, 男）

◆京都大学が東京大学を始め、他の地方の大学との最大の違いの一つは、「京都」にあるということだと思います。京都には一

千年かけて蓄積されてきた数多くの知恵が隠されているのではないかと思うのです。近代化、西欧化、科学化の波の中で、特にこの半世紀には、見捨てられ、注目されてこなかったものが、京都には沢山あります。四季折々の祭りの中には、人間が生きていくための哲学や日本人が育んできた世界観が、当の祭りの担い手さえにも意識されずに隠されているのではないでしょうか。また、壊滅的状態にある西陣織産業では、色づかいやデザインなど現代日本の産業に欠けているすばらしいソフトが隠されています。今では家元制の中で硬直化しているかもしれませんが、能、お茶、華などの中には普遍的な哲学が秘められていると思います。何が言いたいかと申しますと、京都大学で足元（地元）のものを、近代化を超えるためのヒントや素材として、もう一度見つめ直してはどうかということです。「京都学」というものを、ローカルなものとして捉えるのではなく、普遍的なものを追求する新たな分野として打ち立てられないでしょうか。（抽象的な書き方ですみません。正直言ってこれ以上具体的な提案は今出来ません。しかし、世の中が、最先端だったはずのITで行き詰まり、かたや地元京都ですばらしいデザインの染めもの織り物を目にしたり、屏風や扇を見たり、或は、人間の中の狂いをあぶり出す能や不条理な世界を見事に現出させる京の祭りに出会ったりすると、「京都」をもう一度見つめ直すことに何か可能性を感じるのです。）（法, 30歳代, 男）

◆＜要望＞①まず、制度を「学生に学ばせるためでなく学生が学ぶために整備してほしい」と思います。具体的には、私の在籍した法学部は90年頃までは全く受講・受験の規制がないに等しく、「必修」もなかったと思いますが91年以降、次第に厳しくなっていきました。一時間に試験をかけもちして何単位もとれてしまった様な90年以前が余りに自由すぎたともいえますが、その一方で2年生で取得できる単位は限られていました。2年生でもっと単位をとり、各種試験（公務員試験等）や研究活動に時間をあてたい人もいるのではないでしょうか。必修を増やしたり規制を増やしたりして「学ばせる」よりも多様な選択肢を残した方が学生もやる気がわくと思います。法学部の事のみ書きましたが「2回生時の選択肢を増やす」という事は文系学部には大体あてはまると思います。 ②「大学が自由である事」「学生の自主性を尊重する事」が京大を選ぶ最大の理由の一つなのは今も変わらないと思います。それをいつまでも大切にしていって戴きたいです。（サークル、寮、大学祭の運営なども含めて） ③「他学部の講座や教官のことを殆ど知らないまま卒業してしまった」というのが残念です。生協が出している「らいふすてーじ」の教官紹介記事のようなものを大学で（HPなどで）作れないでしょうか（人選など難しいでしょうが、学生からの推薦制にするなどして）？ ④他大学に比べて神経症等で命を絶ったり学校に来られなくなったりする人が多い様に思います。新聞で長期欠席者に対する配慮をした制度等についての記事を読みましたが、「カウンセリングルーム」等も敷居が低い場所になるよう工夫して戴ければと思います。長期欠席者が、長期欠席から立ち直った人の体験談を読めたり（プライバシーに支障のない範囲で）メールでカウンセラー相談できたりする様にしても一助になると思います。学内で支障がある様なら他大学の例でもよいと思います。 ⑤法学部は「帰国子女枠」があったため様々な国で高校時代を過ごした友人が出来て嬉しかったです。他学部でも「帰国子女入試」を検討し、大学の活性化を図ってほしい。（法, 30歳代, 女）

◆知名度はあるのだから、その歴史と伝統に負けないよう、どんどん”新しい血”を入れて下さい。具体的には、私達から見て納得できる人物に、教授はなってほしい。不透明な人事があるように思います。理系の一部（工学部）ではマシなようですが、私の出身の法学部では、他大学出身者や女性が教授になった、という話は聞きません。伝統を守るというのは、保守に走って腐ることとは違う、と思います。このようなアンケートが送付されてきたことをうれしく思います。これからも卒業生であることを、誇りに思える京大でいて下さい。（法, 30歳代, 女）

◆自分の力で勉強なり、研究なりを進めていくべきという、良い意味（本来の意味）での自由な学風を、維持してほしいと思います。（法, 30歳代, 女）

◆官僚的な運営を、柔軟なものに改めるべき。資格取得など、実践的な目的にも脚光を当てるべき。国際性のある学生を育てるための施策を検討しては？（法, 30歳代, 男）

◆卒業後すぐに役立つ実務的教育を行うべき。（民間企業において、学部卒業後、法律的知識を活用することは難しいと思われる。）教授等は京大以外からも広く採用すべき。特に法学部は、学内の人間ばかりであり、もっと人材を多様化すべきと思われる。（法, 30歳代, 女）

◆「自由な学風」「創造性、独立性の尊重」を堅持しつつ、実践的教育に比重をおいた教育を行ってほしい。（法, 30歳代, 男）

◆学生の質の低下は否めない事実であり、大学の生き残りをかけた改善（改革までは行かないか）を模索しているものと思いますが、自由闊達な校風を失うようなことだけはして欲しくありません。（法, 30歳代, 男）

◆私の職場でも、「京大卒」の人は、変わり者が多いというのが、定評となっているが、そういう異質な人々を生む土壌は残して行ってほしい。なお、ノーベル賞等、理系の人の活躍が、はなばなしい反面、近時文系がパワー不足という気がしないでもない。法学部卒業生として、ロースクール設置については、興味がある。以上（法, 30歳代, 男）

◆問12にも記した通り、何よりも学生が自主的に学べる環境づくり。教授陣については、他大学や外国出身者を迎え入れるべきだ。その上で、教養では、語学を強化すべきではないか。社会科学を学ぶ際、やはりしっかりした語学力が必要なので。とにかく、学生が自らの問題意識を○○に深められるよう、見守ってあげてほしい。それは放任ではなく、図書館の24時間開館や自習室の整ビ（もちろん24H化）それと選択性の高い授業時間の編成など、改めて大学運営で実現されるべきだと考えます。個人的なことで言えば、社会人でもいつでも学べるよう、社会経験のある教授陣をそろえ、夜間の授業や通信教育も検討してほしい。（法, 30歳代, 男）

◆・ノーベル賞をとれるような人材をどんどん育成してください。・学生全員の平均的なレベルを高める教育よりも、一部の優秀な人のレベルを高める教育を望みます。（法, 30歳代, 男）

◆・前述の通り、自由・創造性を重視した放任主義が望ましい。・但し、学ぶ気のある学生が、容易にその場を得ることが出来る講義及び研究環境が用意されていてほしい。・また、社会人教育に対する門戸も拡大してほしいと思う。社会人向けに学生と

違い極めて専門色の強い特徴あるコースがいくつか用意されているというイメージである。(現在の受け入れ態勢よりももっと拡大したもの) (法, 30歳代, 男)

◆少子化が進む中で、選ばれる大学としての生き残り競争が、今後一層厳しくなるとは思うが、京大というブランドだけでなく、世の中に真に必要とされる人材を送り出すための教育により、実質的な面での高いレベルを保ち続けてほしい。そのためには、その方法を探るため、こうしたアンケートも有効だと思うし、外部評価機関によるチェックや自己評価も定期的にやっていけばいいと思う。(法, 30歳代, 男)

◆問12の答えと重なるが、押しつけでない教育をしながらも司法試験などの国家試験合格者数増加に寄与できるようなカリキュラムを(少なくともそれを希望する学生には)用意してほしい。他学部の話だが、例えば薬学部でも薬剤師国家試験の合格率はかなり低いと聞く。研究者を育てることも大切だが、第一線で働き、社会に貢献する人材を育成することも大事なのではないだろうか。その為に何ができるのか、考えていくべきなのではないかと思う。(法, 30歳代, 女)

◆・海外のトップクラスの大学との交流プログラムの充実を、学部、院で増やしてはどうでしょうか。ビジネスという実社会での、しかも国際的な経営判断ができる人材を輩出するために、ぜひご一考下さい。単位の相互認定等、(英語圏にとどまらず、フランス語圏、中国語、韓国語等も含めて)・インターネットでの、大学講義の公開等、ネットによる"大学の知"の、一般への開放もどんどんおしすすめていただきたい。欧米の大学(MIT, ハーバード)に遅れないでとり組んでほしい。(法, 30歳代, 男)

◆目先の事や、小さい事にはこだわらず、他の大学を気にしたりする事なく、これまでどおりの教育、研究機関であってほしい。(法, 30歳代, 男)

◆たとえ民営化されたとしても、東大に対する一方の雄、又、私学に対する(旧)国立大の良さを保ち、個性的で、創造性豊な学生を輩出していただきたい。(法, 30歳代, 男)

◆卒業後、米国の大学院行って感じたのは、やはり日本の大学生は勉強時間が少ないということでした。学生がもっと勉強するようになるためには、①単位の取得を厳しくし、勉強しなければならないようにすること。②授業を面白くし、勉強したくなるようにすること。の2点をうまく併用しなければならないと思います。①については、レポートや実験等を多くし、それらをクリアできない学生は例外なく単位取得できないようにすることや、少人数クラスにして発言の機会を増やし、クラスにどれだけ貢献したかを評価基準に加えるなどの工夫が必要でしょう。また②については産業界や公的部門との接点を増やし、授業内容をより実学的にすることや、学生による教官評価制度を導入し、学生に人気のない(授業のつまらない)教官は授業から外れてもらう等の工夫が必要でしょう。「日本の大学は東大でも世界のベスト100に入らない」などとよく言われますが、入学してくる学生の知識や意欲は、おそらく海外の大学を比べてもそん色ないと思います。伝統を生かしながら海外に学ぶべきは学び、改革すべきは改革し、競争力のある京都大学であり続けていただくよう、願っております。(法, 30歳代, 男)

◆今までの様な学歴社会では、京都大学卒業生はペーパー上ではそれなりの地位を確立してきたことと思います。しかし、実際に大学時代に学んだ知識を応用している卒業生は(京都大学卒業生に限らず)非常に少ないことと想像しています。大学に入る学生は、今までの受験戦争に勝った達成感を持ち、つまりゴール入りしたも同然でいるわけですから大学の講義の内容やカリキュラム如何によっては学業から離れていく学生も少なくはありません。大学の講義に私自身も始めのうちは熱心に出席しましたが、学生の興味・関心をひくものは期待に外れて非常に少なく、ただ単に本を朗読する単調なものなどばかりで、失礼ですが講義する側のやる気を疑いたくなるものがほとんどでした。これは一般教養科目だけではなく、専門科目も同じ事です。こうして学生は学業から離れていくわけですが、入学が非常に困難なわりに、卒業はいとも簡単で、つまり大学でなんの知識も習得することなく学生は京都大学卒業生として社会に出るわけです。社会はますます国際化していきますが、熱心に勉強する他国の大学生と日本の現状を比べると、自分の事ながら恥ずかしく思うくらいです。他国の大学卒業生は専門知識以外にもディベートやディスカッションの力も備えつけ、社会で役立つ知識を身につけています。日本で一流大学といわれる京都大学も、他国の一流大学を見習って、このような体制をとってほしいと願います。そうすれば、京大生、京大卒業生というものが、今のような「単なる肩書き」ではなくなるでしょう。これは京都大学に限った問題ではありませんが、京大生又は京大卒業生がその肩書きを特に誇りに思っているわりに、社会に通用する能力に欠けている人材が多いのはたいへんに残念なことです。自分自身、上に挙げた問題を肌で感じながら大学生活を営み、今になって大学での4年間の過ごし方を後悔する有り様です。学歴社会に疑問を感じ、お勉強だけできて社会性がなく、これと言って役に立つ知識を持たない京大生、京大卒業生を見るたびに、私自身もそうなのかもしれないと思うくらいです。現在、日本を離れ外国で就業、生活しておりますが、大学の教育システムは日本全体の問題だと一層痛感させられます。このアンケートは日本の大学における大改革の一歩になると願っています。(法, 30歳代, 女)

◆東京にいながらにして京大の卒業生としてのメリットを享受したいですね。 社会人向けのコースを東京で開講してもらえると非常にうれしいです。 卒業生の多くは東京在住なのではないでしょうか？最近、企業の本社は東京への一極集中化が進んでいますし。この状況へ対応すべく、サテライト教室を作っていただけると有難いですね。そしてできれば法律とか経営・経済のようないかにも社会人向けの講義だけでなく、人文系の哲学や倫理、社会学などのクラスがあればもっといいですね～。 社会人が望んでいるのは意外とそういう「日常学ぶ機会の少ないもの」なのではないでしょうか。(法, 30歳代, 女)

◆大学時代に得た人的ネットワークが有形無形に役立っている。 学部の枠を交流が可能であるのが、京都大学の優れた点であると思う。 (法, 30歳代, 男)

◆勉強らしい勉強をしなかった立場で言えることではないが、入学するのは大変で卒業するのは簡単という日本の大学の典型のようなところがあるので、これは改善するべきだと考える。学士号を取った卒業生の大半が、何を勉強したのか記憶が乏しいのが現状。教授陣が教育よりも研究に力を入れすぎていることと、成績の判断が甘すぎることが原因なのは明らか。これからの

大学のあるべき姿を考えると、見直していくべきではないか。 (法, 30歳代, 男)

◆変化の激しい時代だからこそ研究を重視し、常に新たな価値を産み続ける大学であってほしい。また、それらの成果をマスメディア等を通じて積極的に情報発信し、社会における存在感を更に高めていただきたい。(法, 30歳代, 男)

◆京大の自由な学風は自堕落に陥るリスクを含んでいましたが、私にとってはそのリスクと引き替えに手に入るものが非常に大きかった4年間でした。時に自由すぎる学風については当時から批判がいろいろあったでしょうが、京大にはこの自由さを含めた独特の「風土」のようなものがあり、この風土こそが京大生に他人に真似のできない独自の着眼力を与えるのだと私は思います。私は4年間の在籍中、能力・人格共に一筋縄でないものを持つ仲間と学問から趣味にいたるまで実に様々な事について議論をし、いろいろな活動をしましたが、その幸せな経験は現在の自分の仕事に非常に活きています。最近は京大といえども学生の生活をきちんと管理するようになっているのかもしれません。自堕落・無気力を防ぐのは大切なことですので、それは大いにやっていただくべきと思いますが、他人からの借り物でない自分の視点をしっかり持って、かつ柔軟に事にあたるのが、京大生の長所だと思いますので、学生がこの点を養うことができるような環境作りがなされることを希望します。(法, 30歳代)

◆京大は世界有数の大学になってほしい。そのためには人事の透明性を高めることが大切だと思う。卒業生だけを教員人事で採用していたのではいけない。広く日本全国及び世界から有能な人材を教員スタッフに招くべきである。私は法学部出身だが京大法学部が完全に東大に水をあけられてしまったのが残念である。(法, 40歳代, 男)

◆せっかくの機会を与えられましたので、愚見を半生を振り返って思うに、 ①やはり魅力ある基礎教育の必要性。自由自由というので遊んでいたら、そのままアッという間に卒業できた。しかし簿記原理を無視したマクロ経済学もあり得ようもなく、法律学の基本を抑えない法律論もない。また、あてからブラックショールズを理解したいと思っても、その素養がない。やはり魅力ある語り口で厳密性を犠牲にしても、素人にもバナッハの不動点くらいはマスターされておくべきでは。せっかく「自由」なのだから、単位数は大幅に減らしても、どの分野に進んでも、役に立つ基礎教育は必要なのではないでしょうか。創造性、自由といっても基本が分かっていないとどうしようもない。 ②専門教育でも例えば、法律学なら弁護士、研究者などハイレベルな人から、私のようにビジネスマンとして最近の素養が(ないよりは)あった方がよいと思われるケースまでいろいろあります。過日暇にまかせて市販されている税理士試験のテキストを本屋でパラパラ眺めていたら、昨今の重大な論点が一応網羅されている。ビジネスマンとしてはこの試験に受かる必要はないが、この論点の一通りを勉強しておくことは良いことだ。私は昔ある商社の法務審査部にいたことがあるが、その中で低次元の議論をしていたことが(今思えば)税理士試験レベルのテキストにほとんど全部書いてあることに驚きました。私の親しいところにヤブ医者がいるが、とにかく基礎トレーニングがなってないようにも思われる。これでも国公立はマシなのだそうだ。近藤誠氏がいささか筋が一貫していないところもあるが、初めて医者としても指摘された。医者を名乗る以上、"研究"以前に、最低限の基礎トレーニングは学ぶべき。同様に法務、経済でも基本的なところは学んでおくべき。 ③私は当然マトモに勉強したことがないのだから、何もいう資格はないが、大学は研究するところ。ただ、研究者を育てるにも基本がなっていないと仕方がない。応用と学問についてですが、どっちも大事。昔、純粋数学とか純粋法学というのがあったが、本質的に存立し得ない。個々の人がどちらに力点を置かれるかは別として、両方がスパイラル的に発展する他はない。 ④大学はやはり入学しやすく、卒業しにくくすべき。 ⑤私など大学も学問も小さいビジネス領域で細々と生きているに過ぎません。しかし私も含めて「昔、京大生！」という情けないプライドに生きている人物も多い。これは例えば司法試験に合格した、というだけで何かを履き違えている裁判官や弁護士の一部も同じ。京大だけの問題ではなく、日本の大学制度、教育制度全体の視野から改革をしなくてはならないと愚考します。(法, 40歳代, 男)

◆平和や民主主義の問題で、良識を代表した学問の府であってもらいたい。(法, 40歳代, 男)

◆私は法学部出身で文系なので、理系のことはよく分からないが、京大の先生方の中では人文科学系の先生の著書を未だによく読んでいる。具体例を挙げると、宮崎市定(東洋史)、吉川幸次郎(中国文学)、田中美知太郎(ギリシア哲学、この方は私の高校の先輩らしい)、その他多くの先生方の本が書棚に並んでいる。高橋和巳(中国文学)なんかの小説は特に好きだ。『我が心は石にあらず』なんかは就職してから読み返すと特に身につまされる思いがする。こういった点は京大独自のものがあり、他の大学では余り例がないことだと思う。東京に就職してしまうと、京大とのつながりはこんなアンケートが来ない限りほとんど切れてしまうものだが、上に挙げたような先生方の本を読むことで、京大とは精神的には未だにつながっているわけで、有り難いことだと思う。仕事についていうと、京大の出身者の企業での風説は良くいえば「個性的」、あからさまにいうと「変人」といったところか。私もそんな周囲の評価に随分反発したものだが、私の銀行でも京大の後輩が入行しても若いうちに辞めてしまって、京大大学院に入ったり、司法試験に合格したりした例がある。私は20代で結婚して子供も2人出来てしまったので、そこまで踏み切れず、同じ銀行に20年以上も勤めているが、未だに何の肩書きもないヒラ社員である。もっとも同じ職場には東大、東北大、北大、東北大、九州大等いわゆる旧帝大のヒラ社員がゴロゴロしているので、最近の企業の一般の風潮なのかもしれないとあきらめている。 (法, 40歳代, 男)

◆国立大学の役割は終わったのではないか。独立法人化について詳しくは分からないが、日本は実は巨大な社会主義的セクターを抱え込んでいて、その非効率は旧ソ連を思わせる。お世話になっていながら、こういうことを言うのは申し訳ないが、今の形態の大学に税金をつぎ込む必要はほとんどないように思う。と言っても、廃止も出来ないと思うので、ある国(確かオーストラリアかどこか、最近朝日新聞で読んだ)のように大学院というのを作って、卒業生から卒業後30年ぐらいにわたって採るというのはどうだろう。親に金が無くても、本人が後で稼いで払うわけだし、受益者負担原則が貫徹できる。もちろん払えない奴も出てくるだろうが、それはたくさん稼いでいる人に負担してもらおう。ま、これは政策論になってしまうが、もし独立法人化したら、たくさん稼いでいるOBから寄附を集めて下さい。(法, 40歳代, 男)

◆国際交流を深めること。ゼミ中心の運営の実践。(法, 40歳代, 男)

◆一企業の人事部門担当者としての期待を述べます。企業が、一般の大学卒新入社員に望むことは(特定の専門領域のスペシャリストとして採用する場合は除く)、 1。広い領域に対する知的好奇心を持ち、主体的に問題を掘り下げて考えられること(政治、経済、社会、科学etc. 自らの専門領域か否かを問わず)。 2。そうした問題に対して情緒的にではなく論理的に考える基礎的訓練を積んでいること(記憶している知識の量ではなく、問題解決へのアプローチの仕方、'辞書の引き方'を経験として理解していること)。 以上2点かと愚考します。(法, 40歳代, 男)

◆日本の学部教育のコペルニクス的改革を断行されんことを望みます。(法, 40歳代, 男)

◆私は大学卒業後、国際関係の研究をしたく、立命館大学で修士、大阪大学で博士(国際公共政策1999年)を取得いたしました。もちろん社会人入学であり、平日は働き、土日は研究をしたわけですが、京大にはそのような社会人の受け入れは極めて限られていると思います。社会に貢献できない学問は、ほとんど価値がないのではないでしょうか。特に環境や外交など実践を経験しない理論だけでどれだけ日本の置かれた立場を打開できるか疑問に思っています。常に社会との太いパイプを持ちつつ、研究活動を行う。社会人でも教員として受け入れる柔軟性も京大には持ち合わせてほしいと強く希望します。(法, 40歳代, 男)

◆学生であったのは昔(1979卒)のことであり、その当時の経験しか書けませんが、自由、放任が長所である反面、学部(法)の授業は決して初学者に親切なものではなく、「教育」としては、わかりにくく取っつきにくいものであったと思います。また当時「女子学生は院には採用されない」ということが周知の事実のようになっており、「女性が研究者を目指す」意欲は当初から持ちえないようになっていました。その後も女性の教員が他大学の法学部に比べ少ないことは、学部の閉鎖性、非近代性の結果のように思います。男女共働参画が国の課題である時代にふさわしい開かれた学生に対し、機会を平等に与える大学になってほしいと思います。当時法曹資格を得て、その道に行った女子学生の中に、研究者になったとしても優れた結果を残せた者がいるのではと思います。(法, 40歳代, 女)

◆京大は世俗から離れて学問に打ち込むには、大変よい環境だと思います。そのような環境が役立って日本の大学の中でも国際的に評価が高いのは立派なことであると思います。しかし一方で京大での学園生活の次の特徴があります。①学生の下宿率が高い②卒業生が東京、大阪にほとんど就職する。①、②は今後も続く傾向であり、変化することはないと思いますが、そのため学生中心の生活を送ることになり、学生、大学以外の情報に疎くなる結果に必然的になると思います。学士を終え、一般社会にもまれる際に不利になる条件が生まれることになると思います。私の大学時代には大蔵省や通産省の卒業生が就職の勧誘に来校してくれたのは貴重な接点だったのですが、企業内インターン制度のようなものなど、一般社会との接点となる機会をいろいろ提供してはいかがでしょうか。(法, 40歳代, 男)

◆最近の京大での教育・講義内容について詳細は存じないが、時代の状況、環境を踏まえることは当然としても、本学の歴史的な特徴であった(少なくとも私はそう考えているのだが)、現実問題の解決のために学問を合わせていくことに一線を引いて、常に本質を追求し、どんな場合にも当てはまる論理的な構成を重視するスタンスは守ってほしいと考えている。他の大学が余りに実用性を重視する動きが強まる中、京大らしい独自性(これは過去からの伝統と思っている)をしっかりと持っていくことが、我が国の更なる発展に必要と考える。(法, 40歳代, 男)

◆「自由の学風」は私のように自己管理が出来ず、取り違えると学生としての本分を十分に果たすことがなく、卒業する結果となってしまいます。(法, 40歳代, 男)

◆卒業生として、母校にほこりを持っている。(1)面白味のない東大に比べて、京大は一味ちがうという存在であり続けてほしい。(2)学生の学力は維持してもらいたい。入試を多様化して、本来の京大生にふさわしくない学力の者には入ってほしくない。(3)理系については、優秀性がノーベル賞の輩士等で証明されているが、文系(特に法学部)もがんばってほしい。(法, 40歳代, 男)

◆・京大の良き伝統としての自主独立、進取の気風は生かしつつもさらに「実践的な教育」としての実業に基づく教育プログラムの充実が望まれる。(特に文系において)・今後の独立行政法人化の中で大学の優勝劣敗がさらに明確になる。教育研究環境の整備としての施設改善、研究成果の社会還元のシステム、研究者への報償制度等京大というブランドが名実ともに認知られうる実体を伴うものにすべく一層産業界との連携を図ってほしい。(法, 40歳代, 男)

◆今後の社会状況をみれば、第一にますます社会が複雑化・高度化・多様化するところからみて、これらを統合し解決する形での知識のあり方が必要になる。第二に、社会における人間のあり方がますます見えにくくなっているところからみて、人間の本質に迫る知識のあり方が必要になっている。すなわち、第一の方向では情報の操作性・効率性と求める方向での技術の高度化が求められるよう。第二の方向では、もっと基本的な形での人間のあり方(本質)に根ざした情報の根源性を求める方向での知識の普遍化が求められよう。大学は第一の方向では高度技術(テクノロジー)を専門教育し研究する期間をこれまで以上に必要とし、第二の方向では、まさに基礎的なサイエンスを人間のあり方からとらえ直し、発展させるための基礎的な研究機関を必要とするものと考えられる。京都大学としてはテクノロジーを教育研究する機関の母体としての機能とともにサイエンスを人間のあり方から根源的に問い返す基礎的研究機関としての機能をあわせ持つべきである。前者のテクノロジー研究機関は実務との交流も必要であり母体としての基礎的研究機関と異なる側面もあり、別機関方式がいいかもしれない。後者の人間のあり方から根源的に問い返す基礎的研究は象牙の塔にこもっていては絶対無理であり、学生教育のみならず社会教育の充実とともに「教えることは学ぶこと」の実践により初めて可能となるものである。以上、京都大学は高度な専門教育研究を他の専門別の下部機関と妻ねつつ、社会人教育を重視した研究教育による母体としての基礎的研究教育機関となるべきである。(法, 40歳代, 男)

◆自由な学風を大切にしてほしい。独立心のある有為な人材を育ててほしい。（法, 40歳代, 男）
◆自由の学風を維持し、良い意味で自己主張の強い学生を引き続き生み出して下さい。（法, 40歳代, 男）
◆理系は日本の最先端で活躍するニュースをよく耳にするが、文系は何かこぢんまりとしている様な印象を受けている。専門誌だけでなく、マスコミ等の広範囲な一般的媒体にも大学として積極的に登場するよう力を入れてもらいたい。折角の人材をアピールするべきだと思う。在野の人間としての希望です。（法, 40歳代, 男）
◆高度専門教育研究機関としては、純理論的な研究を世界的な水準で行われていることは誰も否定しえないが、その枠組を世上に周知せしめるべく出版活動を展開されては如何か。実践的な教育機関としては、企業等との交流を通じて得られた体経験をKnowledge Baseとして教育に取り入れることにより問題解決型な教育が可能ではないか。生涯教育促進機関としては広くインターネット等により卒業生に現在の研究動向を理解せしめるのみに留まらず、世上では解決しえないような問題点を広く聴取して生涯教育の必要性とその有り方を追求し、広く世界的な水準を上回るものに引き上げるご努力を期待したい。（法, 40歳代, 男）
◆世の中はどんどん厳しくなって来ています。生徒はそれらに対する認識もないし、また何故勉強をするのかの目的や理由もはっきりしていない様に思います。そのような基本的なところは先生も十分に理解していないのではないかと思います。とにかくもう一度、その辺のところをよく考えてみる必要があると思います。（法, 40歳代, 男）
◆1. 社会人向け大学院（東京）の設置。2. 卒業生向けのゼミ・セミナーの設置。3. 卒業生向けのサロン（東京）の設置。（法, 40歳代, 男）
◆・C. S.（顧客満足度）ということから言えば、もう少し受講者たる学生の立場に配慮した、カリキュラム運営、時間割設定にしてもらっても良かったのではないか。例えば、同じ時間枠に聴きたい「国際政治学」と「行政法」があったが、行政法がⅠ、Ⅱと他の教授と毎年交替されるため、行政法受講を優先させると、結局「国際政治学」は受講できないまま卒業せざるを得なかった。つまり、専門コースの受講が、原則2年と短い点、及び教官同士の調整配慮がなされず、固定化放置されていた点が問題であったと思います。・専門科目によっては、ノート筆記に相当な時間を費やすものもあり、心理学的にみても、筆記等の行動と深い思考とは本来両立し難いことは、自明であるにもかかわらず、近代化されない、教育手法であった。（法学部）この点他大学のように必要な文書は、講義案として作成、購入させ、思考、思案、検証等、効果的、効率的な学習に役立つ実践的な教育メソッドについても配慮されれば良かった。・全体として、職業人育成に重点を置いた、実務的、実践的教育運営にも、考慮してもらってもよかったのではないか。（法, 40歳代, 男）
◆創造性豊かな人材を育成するよう、努めていただきたい。（法, 40歳代, 男）
◆・基本法の教育に加えて、倒産法、知的財産法、独占禁止法等、実社会関連法制についても、教材に加えておいて下さい。・世界史・日本史（等）は、政治・経済・社会を考える上で、基礎素養だと思います。これらが無くて、基本法や実社会関連法制のみを学ぶのは問題だと思っています。大学受験の必須科目として、世界史・日本史（等）を扱うことで、大学主導型で、是非高校教育（ゆとり主導で学ぶべきことを学ばせない）を改めてください。（法, 40歳代, 男）
◆個性は強いが、指導性や求心力が弱いように感じる。学外活動より補う道もあるだろうが、基本はゼミ等で養うべき能力であるように思う。（法, 40歳代, 男）
◆社会はゆとりをなくし、目標をなくしている。時間的、空間的に大学でしたできない自由な研究、学問は大切である。しかし、社会とのつながりを無視して大学が存在できるわけではない。実践的な内容の講座なども、取り組んでいくべきと思う。学術・研究が実践的な講座か、どちらを重視するかは、学生ひとりひとりが選択すればよい。どちらも提供できる幅広い体制、場であってほしいと思う。（法, 40歳代, 男）
◆自分で勉強するのだから、図書館を充実させるとよい。（法, 40歳代, 男）
◆1. 優秀なスタッフを、京大出身者に限ることなく集めること。2. 教授陣の業績評価を厳しく、かつ、客観的に行うこと。3. 講義レベルをもっと高めるとともに、深く考え、かつ広い視野で物事を判断できる学生を、一人でも多く育てること。（法, 40歳代, 男）
◆問13に掲げてある京都大学の特長をより鮮明に出すことによってより魅力ある大学に発展してほしい。要望点は、問12のとおり。一言で言えば教育機関としての機能により重点を置いた改革を望みます。（法, 40歳代, 男）
◆・従来の学問の区分け、内容を継続するのではなく、社会の変化を反映した新たな学問分野を新たに、創造、開拓する必要がある。私が、個人時に考える中では、例えば、“医療人間学”“会社学”などもその反映になりうるのではないか。<例>“医療人間学”：従来の医学に人間的な要素も加味した、新たな医療、健康観の創造。“会社学”：従来の大企業衰退の中でのサラリーマンの生き方、仕事の技術、転職又は、その対面としてのベンチャーＮＰＯの発展等を巨視時に研究する。→これらを実業で、活躍している人材と連携しながら研究し、新たな学問領域を作っていく。・そのようなことを自由な学風の中で進めることにより、魅力ある大学を創っていくことにつながると考える。（法, 40歳代, 男）
◆大学の自由な気風を今後とも残していくことは必要であるがそれが、確保できる工夫が必要である。すなわち本学の特徴とされている点を残すために何をするのかということを大学及び卒業生をあげて考えていくことである。法学部についていえば、司法制度改革に伴い法科大学院構想が唱えられているがこの中で本学がどのような役割を果たすのかが必ずしも外部からは見えないように思われる。一部私学のようなりふり構わぬ改革をする必要はないであろうが、本学でもこういう構想であるということを一定の段階では明らかにしてほしい。組織をあげて自由独立の気風を身につけた後輩が社会で活躍することを望む次第である。（法, 40歳代, 男）
◆・単に「大学」という教育の一段階の問題ではなく、中高教育、卒業後の役所や企業での職歴形成ともかかわる問題ですが、

特に役所における職員の専門能力を高める必要性を痛感しています。（今の役所は真の知力でなくて、勘と経験で勝負しているだけです。）・一般的な事務能力のある職員を採用するのであれば今の公務員システムでもある程度足りている（それでも真の使い物になるのはＩ種採用でも採用者の半分以下）のでしょうか。もっと専門的分析能力や分析手法に長けた人間が必要です。・そのためには、採用側で必要とする能力を明示しなければなりませんが、現在の試験制度では乏しい所もあります。・もし、採用側でこれを提示することができれば、大学院クラスの能力のある学生を選考することができるようになるでしょう。・大学側に対して　、単に教科書程度の内容を知っているのではなく、専門的論文の意味も多少は分かるような学生を育成していただきたいと思います。そうすると少なくとも修士課程程度の教育が必然となります。・以上、どちらかといえば、学生（特に文系）を採用する側としての意見を述べてみました。（法, 40歳代, 男）

◆時代に媚びないでほしい。東京大学の真似はしないでほしい。孤高ではなく実社会との関わりをもちながら、学究的な存在であってほしい。（法, 40歳代, 男）

◆1. 大学に期待すること現在及び過去の学風を維持してください。2. 要望学部専門課程においては文系においても小人数のゼミナール高度専門教育を主体にした方が良いと思われる。4年制でなく5年制6年制にできないだろうか。3. 問題点、改善すべき点法学は幅広く、専門課程2年では無理ではないか。3〜4年は必要（できれば制度として）4. その他このアンケート記入中、名大の野依教授がＯＢとしてノーベル賞を受賞しました。非常に喜ばしく誇りに思います。これも学風の伝統と思われます。卒業後22年経過し色々な人と出会いますがまずいえるのは全んどの人が哲学を持っていないことです。「哲学とはなにか」すら考えていない人が多い。その点京大出身者は心のどこかに哲学を持っている気がします。文系、理系を問わず専門馬鹿を作らない教育を引続きお願いします。（法, 40歳代, 男）

◆ノーベル賞受賞に象徴される理系分野に比し、文系分野の教育研究に改善点はないか。近年実業界で勢力を増大させている慶応大にあり京大にないものは何か等要研究と考える。（法, 40歳代, 男）

◆人文系などビジネスに結びつかない分野もありますが、これを含む基礎的研究を大切にしつつ、大学の殻にこもらず、自然系や法律・経済などでは産学共同での研究など積極的に進められたい。（法, 40歳代, 男）

◆・学生の個性を引き出し伸ばすような教育。特に異才を排除しない懐の大きな雰囲気を保ってほしい。（法, 40歳代, 男）

◆京都大学での勉学は私の人生に多大な滋養を与えてくれたように思います。不満は全くありませんでしたし、今も感謝の気持ちで一杯です。（法, 40歳代, 男）

◆共通一次試験が採用されたあと、学生が画一化して面白くなくなったと聞いていました。その後、帰国子女をいれて少し変わったようですが、自由度を重視する京都大学としては、できるだけ幅広く学生をとってもらいたい。 法学部は必修科目が外国書購読のみでしたが、こういうことは続けてもらいたい。 私は学生時代、教授と接触はしていた方だとは思いますが、留学の準備のときに推薦状を書いてもらったとき（故林良平教授、棚瀬孝雄教授）ものすごく熱心に考えてくださり、こういうことならもっと学生時代に話をしたかったとちょっと残念に思いました。同じ留学仲間でも東京大学の出身の人と比べると、京都大学の方が教授と学生の接触できるチャンスは多いと思います。ただ、米国に留学したとき（ワシントン大学ロースクール）はもっともっと密な接触があり、卒業後も外国人ながら会うチャンスも多いというのは、まだ日本の大学の方が学生が大学をうまく利用していない感じがありますね。（法, 40歳代, 男）

◆わが国の最高学府の長たるにふさわしい研究と功績を残すことで、大学の存在価値をアピールしてほしい。（法, 40歳代, 男）

◆国際性を高める。（法, 40歳代, 男）

◆自由、反抗力の精神を持ち続け、何が国民の為になるかの視点で大学運営をされます様に。（法, 50歳代, 男）

◆もっとハードに学生を鍛えるべきである。そのためには教授陣もハードに経験を積むべきである。教授は外に出て、活躍してほしい。思考力を養い、多様な考えのできる卒業生を送り出してほしい。最近特にであるが、京大は全国的にみても、基盤が弱いと感じる。なぜ、議論する癖を見に付けさせないのか。世界がどう動くのか、そのためにどの様な知識と議論が必要か、常にそれを念頭において役に立つ教育と学問を目指してほしい。京大生はそれが出来るはずであるし、生き残る方法でもある。（法, 50歳代, 男）

◆・研究レベルの向上を引き続き目指すこと。時々政治や市況に左右されない独立性を維持することには賛成だが、教授陣が学生に対する関心と社会への感覚を磨くことも重要。私の時代には学生との対話にそこそこに研究者（？）として閉じこもるタイプの人も多かったように思う。 ・教育者としての適正と研究者としての適正はかなり異なることから、この分野を併立的にし、教育を担当しない研究者のユースも幅広く作り、真に教えたい人が教師となる体型が望ましい。 ・文系学科は教養期間が長く、無駄が多い。旧NOスクールの名残を払拭し、専門教育のみを必須とし、一般教養科目は自由選択として、よりフリーな形にすべきではないか。（法, 50歳代, 男）

◆『自立型経営コンサルタントの実践指導ノートー会社の品質・管理の品質の向上を求めてー』参照。（法, 50歳代, 男）

◆将来の進路が、研究者・学者と実業界・サラリーマンでは少し教育内容を変える必要がある。（法, 50歳代, 男）

◆30数年も経過すると何か具体的な意見を述べることは難しい。だが、いろんなことを自由に出来た時代として満足している。専門とは関係のない歴史、文学、哲学などの本を読めたのが良かった。余り、時流におもねらない方がよい。国際性といっても京大は独自に東洋学、西域学（？）をやってきている。今後は環境問題が重要だ。教養時代にしっかりと教育すべきだ。役所に入った連中は、何も分かっていない。（法, 50歳代, 男）

◆現在（57歳）において考えることは、我が人生にとって欠けていたことを大学教育のみに集約させることは出来ないのか。あえてこれにあると仮定すれば、①中・高・大の受験戦争の中でやっと勝利した者として、一般教養に欠けた人生であったのではないか。②大学で資格を取得したためにそれだけを活用する進路に進み、それだけで終わってしまわざるを得なかったので

はないか。③しかし、他者から見た場合、それ以上は望むべきではないと判断されるし、満足すべきであるとは思うものの、さらに何かを合わせて行いつつ人生を終えるべきであったと考える。④これからは比較文明論的に専門科目を見てみるような作学をしたいと考え、⑤もう一度勉強をやり直す機会もほしいし、そのための「京大」であれば、私にとって幸いであります。（法, 50歳代, 男）

◆京都大学の特徴をますますレベルアップし、日本の将来を担う人材を多く輩出するようになってほしい。（法, 50歳代, 男）

◆古い伝統や権威に安住するのではなく、開かれた大学変化に対応していける（進化できる）大学になるべきである。競争原理や社会の実用を踏まえた現実主義の学風を入れていかないと、昔の名声に胡座をひいた古い大学（変化に対応できない大学）では生きてはいけないのではなかろうか。旧帝大としてよりも時代を先取りするNew大学として変容してもらいたいと思います。時代はドラスチックに変わってきていますから。（法, 50歳代, 男）

◆転職してから現在まで、種々な場面で京大同窓ということで立場を離れた近親感や理解と共にする場面が多々あったように思います。これは単に同窓というより、同じ自由で多様な価値観を許容し、包含し得る学者に育ってきたという相互に認め合えるベースがある。うまく言えませんが、一ということではないかと思います。京大生・・・これはこんなタイプとは決して数型化されない教育、学風が京大の京大たるところだと考えています。さらにfreeな学風を維持していただきたいと思います。いわゆる「官学」の一つでは意味がありません。少なくとも私たちはそう感じ、東大や阪大との違いを認識し、誇りにしてまいりました。一般論はさておき、産学連携ということには、もう一歩も二歩も踏み出してほしいと思います。抽象論は強いが、実学にはもう一つ弱いという学生が目に付くような気もいたします。これは理系だけでなく、文系にも当てはまることですが。（法, 50歳代, 男）

◆卒業して20有余年経過したので、最近の京大がどうなっているか全く不案内であるが、近年ノーベル賞、フィールズ賞受賞者を輩出していないのでは？偏差値優等生より少数の天才を育てるような教育に徹してほしい。また、世界の一流レベル（ハーバード、オックスフォードetc.）と並び称される大学づくりを目指してほしい。頑張れ京大!!（法, 50歳代, 男）

◆とにかく、アカデミズムに走るのも良しとしつつ、社会に、実ビジネスに貢献できる教育が肝要かと思います。（法, 50歳代, 男）

◆大学の特徴として、創造性の尊重が最も重要と考える。現行の入試制度では画一的な学生が多くなる嫌いがあるので、改善すべきではないか。特にセンター試験については、改革すべき点が多い。（法, 50歳代, 男）

◆歴史、哲学に基づいた各人コース毎の探求に注力すべきで総花的教育は不要。（法, 50歳代, 男）

◆世の中の変化に対応した講義、ゼミ、研究をもっともっと推進してほしい。（法, 50歳代, 男）

◆閥を作らぬのは良き伝統ながら、もう少しOBを含めたオール京大のまとまりがあった方がよい。（法, 50歳代, 男）

◆現状でよい。京大の独自性を守るべき（世情に流されるなかれ、巷間の教育論、他大学の同行etc）。（法, 50歳代, 男）

◆地方分権時代で、ますます役割は大きいと思います。京都の街の地盤沈下が著しいものがあります。原因は全国画一的な中央省庁の政策の結果でしょう。他の都市に追従するのではなく、独自のまちづくりをすべき時です。そのときに京都大学の果たすべき、また果たせる役割は絶大なものがあります。目先のトレンドに迎合することなく、建学の精神を生かすべきです。（法, 50歳代, 男）

◆①憩いの場を学内に多く設けること。教授、学生が、自由に出入りして、自由に討議、研究する場が必要。段々と学内が狭くなっている。②京大生としての実力をつけさせること。学生であるので、自ら目的を持ち、学ばねばならないが、安易に、単位取得させるとかは厳に慎まねばならない。又、講義、ゼミの欠席については、学生の本分が「学ぶ」ことである以上教授陣も教育者として、指導すべきである。③総長先生はじめ教授、助教授、講師、助手等が軌を一にして、総体的に、本学の国内外における教育、研究面におけるより一層の評価、地位向上に向けて、努力されることを期待します。（法, 50歳代, 男）

◆最近の学生、というより企業に入ってくる新卒者を見ていると、自ら工夫し学ぶという精神（というより習慣）が弱いように思われます。仕事の上で、こうしなければならないのではないか、こうしたらどうかと問いかけた際に送ってくる答えでよくあるのは、「そんなことは教えてもらっていません。」「教えない方が悪いではありませんか。」自ら学ぼうと、という姿勢があれば「すみません。私の勉強不足ですみませんが、教えてもらえませんか。」という答えが返ってくるように思うのですが？学ぶということは、単に教えてもらったことを覚える、なぞるというだけではなく、何を学ぶか、学ばねばならないか、どう学ぶかを自ら考える、工夫するということも含んでいるということをわかっていないということでしょう。このままでは、京都大学の誇る独創的な研究（世界的な）の伝統が失われていくのではないかと懸念します。学生たちには、まず学ぶとはいかなることなのか。（全く基礎的なことですが、しかしまさに重要なことであり、これを真に身につけられれば、それだけで学生生活を送った価値があるともいえるものと思いますか？）学ぶとはいかなることかを身につけさせる教育を是非お願いしたいと思います。（法, 50歳代, 男）

◆・京都大学に限ったことではないが、研究と教育という大学の使命について、両方をしっかりやる仕組みを確立してもらいたい。個人的な感想としては、研究がしっかりできないで、大学の場合、教育は成り立たないと思う。・勉強しない、レベルに達しない学生を卒業させないという厳しい態度をとるべき。入る時より卒業する時が大変というのが自然の姿であるのに現実は全く逆になっていると思う。・大学の教官の業績評価を点検してもらいたい。卒業後、長い年月を経てしまったので現状について正確に把握していないが、大学という名に守られた怠惰な教官を排除してほしい。（法, 50歳代, 男）

◆多様な人間を受け入れてほしい。例えば一芸（スポーツ・数学・文学・物理・コンピューター…）のみにすぐれた人など（法, 50歳代, 男）

◆・4年間で「基盤」と「専門」の双方を習得させるのはムリ。高校教育の見直しも含めて考えるべきでしょう。専門性～大学院かロースクール（2～3年）～通算5～6年必要～・現状の大学教育中途半端・外国語教育～読み書き（原書講読）“会話”含めて徹底的に。・体験教育～インターン教育・実践教育～企業の方が前へ行っている。教師も産学交流の経験を。巾ができるのではないでしょうか。・夏休み（冬休み）春休み～好きなことをさせるいい時間。まとまった時間にする。・ゼミナール、卒論、自由

研究の活性化。コミュニケーション能力不足、プレゼンテーション能力不足惣論中身が先きですが～単位取得～卒業は厳しく但し巾広く評価（特性も評価）。（法, 50歳代, 男）

◆学生を遊ばせないで、自由で良いから勉強させて下さい。（法, 50歳代, 男）

◆のびのびとした明るい大学であり続けてほしい。大いなる個性の養成を！（法, 50歳代, 男）

◆大学間の競争が激化する中、今後もノーベル賞学者を多く輩出する等、各分野において、日本の最高レベルを維持し続けてほしい。（法, 50歳代, 男）

◆京大の悪いところ。1）教員の独創性がない。東大のまねばかりしている。2）高技でハイレベルに達している学生のレベルを維持できない。3）イデオロキニ中心でダメ。4）できるやつが京大に残っていない。京大のよいところ。1）ルーズなので、自由なことができる。2）京都のまちでいばれる。（法, 50歳代, 男）

◆受験生の勉強のあり方が予備校によって歪められていることは大問題だと思います。試験問題、受験システムの根本的見直しを望みます。（法, 50歳代, 男）

◆1. 教養は1年で良いし、物の考え方の基本に注力。2. 語学は実践に役立つものを。3. 専門はゼミ中心で履習させる。（法, 50歳代, 男）

◆教育界や学会における京大の発言力、存在感の大小はよく存じませんが、一般社会においては、東大、一橋大、慶応大などと比較して京大の存在感が薄いと感じています。一般社会（世間とでも言った方が当たっているでしょうか）や経済界とのlinkingをより強くする方向へ大学経営を工夫しては如何かと考えます。（法, 50歳代, 男）

◆自分が在学した頃は、今から38年も前のことで、現状については、新聞など、マスコミを通してのものしか、理解する材料がない。但し、自由の空気は、今も変わらないものと思う。学生の自由に任せる、学生の意思を尊重するのは、今でも同じ、と思われる。それと、これからは地元のみならず、TV・インターネットなどで、もっと開かれた大学にして行うべきと思う。京大の学生でなくても、他の大学の学生や、一般社会人にも理解できる教養講座なども恒常的に提供できないものだろうか。高齢化社会は、こんな大学を求めるのではと思う。（法, 50歳代）

◆・技術的な基礎と認見と全体を見渡せる能力が必要。昔の開戦以前の海軍のエリート的国際感覚を身につけた人物等を養成してほしい。（法, 50歳代, 男）

◆1. 私は、大学において、“1つの問題点でも様々な考え方があり、定説はないこと、多数説を鵜呑みせず、一旦は疑ってみる。その上で自分で考えてみること”を学びました。これは私にとり大きな財産です。この学風（？）は絶対に失ってほしくないと考えます。2. 最近、時々、学部の講義を拝聴させてもらっております。先生がたの講義は、教科書、参考書の指定、レジュメの配布など懇切丁寧で頭がさがります。ただ、このことが逆に、学生に自ら学ぶ、自ら考えるという姿勢を欠落させはしないか、学生ではなく生徒になってはいないか、と一抹の不安を感じます。（法, 50歳代, 男）

◆大学の発展は、地域の発展にも直結すると感じております。研究と教育の相乗的効果を発揮し、特に次代を担う若人の教育に成果を期待しています。受験勉強オンリーでなく、幅広い教養・学習欲をもった若人が集まってこまるような入試制度を確立し、研究の成果を基礎として、激しい教育訓練を行って、有為な人材を育ててほしいと思います。（法, 50歳代, 男）

◆日本の大学すべてに共通する問題点として「入るのは難しいが出るのは簡単」というのを逆にして「入るのは簡単だが出るのは難しい」ものに変えてほしい。全体として日本の学生は遊んだりバイトしたりで、学業に励む学生が少ないのは残念です。（自分も含めて）欧米の大学は、どこでも、学生がよく勉強します。勉強しない者はドロップアウトして、大学を中退する数が、非常に多いと聞きます。それが本来のあり方だと思います。最近社会人を別枠で受入れる大学が増えてきました。いったん社会に出て、学びたいテーマをもって大学の門を叩くというのはモチベーションがはっきりしていて、とてもいいことだと思います。学歴を得るための大学ではなく、本当に学びたい気持をもって学ぶ大学であることが重要です。又、授業料がとても高いのが、日本の大学ですが、もっと安くしたり、奨学金制度を充実して、貧しい人も大学で学べるようにしてほしいです。（これは大学にお願いするより、国の予算をもっと増やしてくれるよう、国に要求すべきことですが・・・）（法, 50歳代, 女）

◆物事の心理を追求する。何故、何故と考え対策を考えるような人材を育成してほしい。人とのつきあい、先輩とのつながりを大切に、一時的に合宿を行うとか、全寮制で一時期を一緒に過ごすとか、教授、助教授とのつながりを強めてほしい。卒業してもつながりを強めてほしい。（卒業後のつながりは全くない）（法, 50歳代, 男）

◆問12においては、法学教育に絞って私個人の狭い経験等から記載したが、ここでは、法学以外の点について記す。 1. 最近の卒業生を見ても、企業に入ってから、実践的教育を施し直すのが実情である（他大学卒業者も同じ）。京大卒業者については、一般論としては潜在力が高く、企業人として再教育すれば、国際的にも通用する者が多い。大学時代には、物、現象に対する分析、解析力、広い知識、教養に基づく複眼的な見方と同時に、専門科目については初期教育としての知識涵養を図らせることが、国際的に見た日本社会（実業界に限らないと思われる）の平均水準のアップに必要であろう。 2. 京大においては、その立地条件からも、歴史、文化、哲学を感じ、考える機会が多く、また、人文、社会、自然の専門を問わず幅広い教養を備えた、先輩諸碩学を輩出した学風と共にまことに恵まれている。古今東西を問わず、あらゆる分野で業績を残す人物は見識と哲学を有する人物であり、今日の日本の社会の危機は、こういった面のかけた見かけの秀才リーダーが大半であったことにも起因することを考えると京大の期待されるものは大きいと思われる。（法, 50歳代）

◆国際的（グローバル）レベルでものを考えること。（法, 50歳代, 男）

◆ノーベル賞受賞者がさらに多く出るような研究成果をあげてほしい。研究者を大切にし、アジア各国からも留学生が多くきて、いっしょに成果をあげられるような大学になってほしい。（法, 50歳代, 男）

◆ビジネス、情報が東京に一極集中する傾向が更に顕著になっており、地方に所在する京大の将来に若干の不安がある。特

に法律の分野では、大手弁護士事務所、外国法事務弁護士事務所はその殆どが東京都心にあり、このような先端的な情報、知識がどこまで京都にとどくか、心配になる。勿論大学教育は、実業目的ではないと思うので、このような、ビジネス対応に専心するべきではないが、一方で会社、社会が求めているのは、このようなhow to知識であることも確かであり、ある程度の手当ては必要であろう。実務家を招くなどの講座の柔軟化、多様化が望まれる。(法, 50歳代, 男)

◆①広く、自由に、自律的に、意欲的に学ぶことの大切を指導してください。 ②①の学習指導と併行して、別の、専門的学習・研究の大切さ、その研究をすることの義務であること、その機会は学生時代がほとんど唯一のチャンスだということ。 以上、勝手乍ら、普遍的な知識の学習と専門をこれと決めたら、究極の段階まで、研究し進み、一定の成果までまとめるという程の内容をおねがいします。(制度としては、整備されているのに、私が、知らずに通りすぎたのかも知れません。大らかで自由な学風は感動的でしたが、振り返ると、もっと勉強しておけばよかったと後悔しておりまして、上記のようなことを書かせていただきます。) (法, 50歳代, 女)

◆最近のひよわな学生に迎合しない質の高い教育を徹底して下さい。中国や韓国のハングリーな若者と比較して、日本の若者は余りにも国際的にひよわで、頼りない、こういった風潮に負けない孤高な学問の府を守って下さい。(法, 50歳代, 男)

◆特にマスコミに登場するような、人文・社会科学系の教授のように、観念的、非実社会的な考え方をする者が、何の淘汰もそれずに生き残っていける仕組みは妥当でない。更にいまだに横文字を縦文字(今は横書きが多いが)にするだけで、価値判断、取捨選択をしていない教授が多すぎる。(法, 50歳代, 男)

◆現状を把握していないからなんとも言えないが、「自由の学風」「独立性の尊重」を守ってほしい。とんでもない人を大学教授にしないで下さい。(法, 50歳代, 男)

◆大学は象牙の塔ではないことは、言うまでもない。今まで以上に、社会との関連を真剣に考えてほしい。(法, 50歳代, 男)

◆京都大学の学生には、社会のリーダーになってほしいと思います。その要件としては、価値観や世界観が激動している今日、定見をもった人物であることと思います。そうした人物を育ててほしいいと思います。(法, 50歳代, 男)

◆1. 京都大学が様々な分野でリーダーを輩出するためには、目標意識の高い人材を養成する必要がある。そのためには、幅広い知識と様々な考え方の交流(議論)や、チャレンジ精神などが必要。具体策①学部を超えた交流の場を、定期的に作る。(PTでも可)(テーマは、環境問題など裾野の広い分野。) ②入学試験は、幅広い教科を必須とする。(新卒者の国語力や一般教養の低下は著しい。) 2. 学部・専門教育では、徹底してテクノクラートを養成する。現在は全員が学者になる前提でなされているのではないか。学者養成教育は大学院になってからやれば十分、と思われる。3. 実業界で成功した人の中から、教授を選出すべきだ。(期限付で可)テーマもその人材に併せてやってもらう。既存の学科、教授にとらわれない。一部私学では、企業の脱落者をMIT卒業者などの理由で、採用しているケースが見受けられるが、とんでもない話。4. 卒業生の数が、理科系に偏りすぎている。文科系、特に法学部の卒業生を増やすべきだ。分母が増えれば人材が輩出する可能性が高まると思われる。(法, 50歳代, 男)

◆一昨年法学部の有信会誌に寄稿したものを同封します。(法, 50歳代, 男)

◆一言でいうと「社会に開かれた」大学・大学院を期待したい。一つは、ロースクール・ビジネススクールといったもの。また、生涯いつの時点でも、勉強したい時に入る事のできるもの。学術的な面ももちろん大事だが、実践面も重視していただきたい。そのためには、奨学金制度、寮などの充実も必要になってくるものと思う。(法, 50歳代, 男)

◆科学が分析に偏り過ぎており、複雑、高度化した事象に的確な処方箋が出せない状況になっている。各部、学科がある事象につき、多面的に検討するようなセミナーを、一般にも開放する形で年2回位開催されたら如何か。京都大学は文化人類学の分野が強いが、人間は優れて総合的、複雑学的生き物であり、そのようなアプローチ法でしか把握できないのだから。(法, 50歳代, 男)

◆いわゆる文化系は、一旦大学を卒業すると、大学とはほとんど切り離された状態。会社よりアメリカ留学の機会を与えられたが、アメリカでは会社生活と学生生活が、日本のように切り離されておらず、会社生活からまた大学に戻る者もいれば、会社生活を続けながら大学で必要な講座を取得できるようになっている。非常に魅力的に感じた。京都大学での実状を知らないが、日本の大学は、もっと社会人に門戸を開いた勉強の場を提供すべきでないか。(法, 50歳代, 男)

◆大学に期待することは、高度な教育を行える機関でありつづける事につきる。高度な教育とは、国際的な水準で比較されることはもちろんである。日本の大学は、卒業していく学生に対して、どういう学識、能力を必須のものとして身に付けさせなければならないか、という基準がなさすぎる。必須の学識、能力というのは、単に知識ではないので、1回のペーパーテストで知識を試す、という評価方法では不充分である。学生への要求事項のスタンダードを決めて、それに対する適切な評価方法を定めることなど、実業界では当然に行われているマネージメント手法を導入すべきではないか。(法, 50歳代, 男)

◆ (1) 学内の建物は、建築等できれいになっているが、学内のビラ・パンフレット等、雑然としており、もっと「きれいに」すべきである。学生に「教育」を施す必要がある。これもひとつの大学の責務である。小学生相手みたいだが、現状をみればやむを得ない。学び、研究の場にふさわしい環境を！ (2) 卒業生等への公開講義をもっと充実して下さい。それと、PRもお忘れなく。HPを利用する手もある。(法, 50歳代, 男)

◆専門教育を一回生の時に重視すべき。例えば、法学部では、将来どのような進路を希望するかを学生に決めさせるために、司法試験コース、私法研究者コース、公法研究者コースなどによって、クラス編成をすればクラス内の有志により、「自主的な学生自身の運営するゼミ」ができるであろう。クラス担任は、それらのゼミのアドバイザーに徹する。学生のゼミのために届出を審査して部屋を一年間使えるように援助できないか？。(法, 50歳代, 男)

◆新しい世紀の百年を思ふ時、時代の変遷の中で京都大学の果たす役割は大きいと思う。現在は「国際化」と「市場原理」の中

での価値感の形成となっているか、人間は多様にて特に日本人の心は歴史に裏打ちされた「ゆとり」と「余裕」は文化として心の奥底にひそけ、「国際化」「市場原理」の洗レイを受けた后は必ずその＋αあるいは反省として日本固有の良さを取入れていくことになろう。京都はその地勢的有位さを生かし、「伝統＋進取の精神」を兼そなえた教育を実施されたい人は諸般有「22世紀をノゾく会」を結成する小生にとっては、いつでも返る所のある母校は一つの寄り所として、「心の安定」剤として目録みに加担してくれるものと思う。（法, 50歳代, 男）

◆自由の学風はいつまでも守ってほしい。教育へのIT技術の使われ方等興味のあるところだが、先進的手法のもと、時代の先端をいく教育を行ってほしい。（法, 50歳代, 男）

◆1. 今年のノーベル化学賞に名大野依教授が輝き、湯川博士以来本学出身6名となり大変嬉しく誇りに思います。巷間、本学の自由な研究雰囲気、学部を超えた人的交流、独創を重んじる気分等々が喧伝されてますが、この伝統の根本は何か、組織・制度・、他校との違いなどを究明され、将来に亘って維持発展できる土台を築いて頂きたい。2. 学究の徒として学内に残る人は別にして大多数が4～6年の学習の後社会へ巣立ちます。大学教育の基本は「発せざれば、啓せず」でよいと思います。当然乍ら自学自習で自己を練磨すべきです。大学が大多数の人に4～6年の自己啓発の場を供給するに当って次の2点を提案します。（1）年度初めの各講義ゼミの開講に先立って、担当教授、講師が「顔見世興業」をする。学生はこの後受講を申し込む。（2）世の中の動きは益々早くなり、しかも平均寿命は80才へと伸びました。「社会人教育、全人教育」プログラムを充実させ、社会の要望に応えるべし。（法, 50歳代, 男）

◆京都大学が素晴らしい学問の成果を優秀な人材を社会に輩出しているお蔭で、実に楽しい実りのある人生になりました。大変感謝しています。心暖まる社会的に大活躍している数人の友人がずっと一生を支えてくれました。全員京大の同学年のメンバーです。クラス会も30年以上になりました。重要な人生の一部のように感じます。大筋で文句をいう事は何もないような気もしますが、私のクラスでも何人かは現実を見失って姿を消した感じのする方がいます。大学で頭の栄養の摂り方は十分指導してしていただけていますが、心の栄養のとり方も指導していただければ、こういう方が減るのではと思われます。（法, 50歳代, 女）

◆小生は、20年前に企業派遣にて米国のビジネススクール（シカゴ大学）に留学したが、その授業がいずれもよく準備されていて、わかりやすく、かつ極めて実践的であることに驚いた。現在の日本の企業の没落は、日本においてこのようなビジネススクールが極めて少なかったという点に原因があるとも言われるが、論理的経営のためのtoolを提供してこなかった大学（又は大学院）、それを求めなかった企業に責任は確かにあると思う。米国におけるプロフェッショナル・スクール（ビジネススクール・ロースクール・メディカルスクール）の存在は、米国の強さを生み出している一つの要素と考えるが、京都大学においても、プロフェッショナルスクールの重要性をよく理解して戴き、この分野でも日本をリードする存在であってほしいと切望する。そのためには、学際協力、産学共同を進めるべきであると思うが、今では、積極的に取り組むように変化されているのでしょうか。（法, 50歳代, 男）

◆最近のノーベル賞受賞者が出るたびに京大出身者であることに誇りを感じます。自由闊達な校風の中、研究は打込める環境がそれを支えていると思います。是非、この環境を維持して頂きたい。一方、私は文系（法学部）出身ですが、京大出身者に限らず、国立大の特に旧帝大といわれる大学の出身者は総じて、企業への適合性が私大等に比べ弱い気がします。受験勉強等で、燃えつきたかと思われる者が多い。受験制度のあり方も含め有用な人材の育成に向け検討して頂きたい。（法, 50歳代, 男）

◆（要望）1. 世界及び社会に開かれた大学として、社会的意義を高めてほしい。2. ロースクールとしての地位を早めに確立し、司法試験合格者を多数出すようにしてほしい。（法, 50歳代, 男）

◆問14～17の様な二者拓一多岐な設問（課題）の立て方ではなく、多様な人材を育てることで良いのではないか。スペシャリストもジュネラリストも良い。様々な個性を専門的能力を育くむ（身につける）選択肢を未熟な学生に提供できれば良いのではないか。むしろ社会人として旅立つ前に社会の一員としての基礎的資質を身のつけるようチャンスを与えてやってほしい。（社会人としての思いやり・マナー・等々）（例）ごみ収集や福祉施設・ホテル等での実践体験の機会（選択）の提供。（私は各種アルバイトでそれを学んだが、社会に出てたいへん役に立った。）（乱筆失礼）（法, 50歳代, 男）

◆・私自身は、法学部在籍中も、余り法律の勉強はせず、もっぱら交友・登山・読書の中で青春を謳歌した。京都の街とともに、京大の自由な雰囲気が今でも私の精神のバックボーンになっていると感じる。・企業に入り、10年後、会社法務の仕事に携わることとなり、実務に即して、民法・会社法の本格的な勉強を開始した。しかし学生時代アバウトで勉強した大隅先生の会社法、於保先生の民法等は、基礎となり、後日大いに役立った。・従って私の個人的経験からすれば、私法の専門家にならない限り、法律の基礎的な勉強・研究で学生時代は充分ではないだろうか。・むしろ自由かっ達、創造性、何故その学問が必要か、学問の大きなとらえ方、人格形成がより重要と考える。・野依先生のノーベル化学賞受賞の報に接し、京大卒としてうれしく、誇らしい気持ちになった。・自然科学系が依然として目覚しい活躍をみせているのに比し、最近人文系に元気がないように感じるが、私の思い過ごしだろうか。（法, 50歳代, 男）

◆・学生を一個の個人と認め、自主性・自治を尊重する点は極めてよし。今、今後も受け継がれるべき。（法, 50歳代, 男）

◆特に大学のためになる協力を実行してきたわけではありませんが自由な学風の維持発展、国際化への対応等、時代の変化に応じた改善が進められているということを見聞しており、卒業生であることを誇りに思っています。今後とも時代を先取りする知識の発信地としての役割を果たしていってほしいと念じてます。（法, 50歳代, 男）

◆今から降り返ると、大学生の頃（特に1年生）はまだ自分の適性、将来社会で何をすべきか（方向性）といった基本的なことが十分判っていなかったように思う。1年生の前期には、このような将来の指針を得るのに役立つようなカリキュラムを集中的に用

意しては如何か。そして学部の変更（転学部、転学科）も弾力的に可とすれば、迷える子羊にとって大いなるプラスと思う。（法, 50歳代, 男）

◆今の時代は、IT時代。もっと京都大学の学者が政府の審議会において活躍していいと思うが、余り名前を見受けない。もっと、どんどん一般向けの本を書き、その存在を知らしめるべきである。　また、今は、政治主導の時代。京大卒の政治家が少ない。やはり官僚になる人が少ないことがその一因である思う。官僚の良さに触れる機会をつくるべきである。　今や、多方面において、完全にと言っていいほど、東京一極集中だ。これでは、日本の活力は弱ってしまう。是非、関西の復権のために、京大に頑張って貰いたい。なぜ、愛知万博に京大関係者がいないのか。かつての大阪万博のときの姿は最早望めないのか。多方面に存在感を示していかないと、日本の行く末は東大に決められてしまう。これは決していいことではない。こういった点の戦略を至急立てる必要があると思う。かつて、サル学といえば京大、中国学といえば京大、原子物理学といえば京大・・・。このような得意分野を再びつくるべきではないか。近年、慶応大学がいろいろな面で注目されているのは何故か。研究してみる価値がある。私の知るところ、地方公共団体とタイアップしている大学としては慶大は一番手ではないか。私は、関西にあるからといって、関西だけで固まる必要はないと思う。例えば、早稲田と、あるいは慶大と提携したっていいと思う。兎に角、元気で企画力のある学者を育てていくべきだ。（法, 50歳代）

◆東京の大学のように政治経済の中心、情報の中心にいるといろんな意味で刺激を受け、自分の進むべき道についてもいろいろ考えさせえくれるが、京都にいると特に甘やかされている気がしてならなかった。自分がしっかりしていないといえばそれまでだが、何か洗練されないし、東京の大学の人間よりプライドだけが高くて、考え方の古い人間になっているような気がする。特に文系は、部屋に閉じこもって考えているだけではあるいは京都と言う町の中だけに閉じこもっていては駄目。京都らしさもいいが情報戦に勝たなければ意味がない。　京都という環境の中独自性を持つことは大切だが世の中の流れについていけなければしょうがない。文化交流、観光都市京都にふさわしい交流をもっと盛んに大学も行いいろんな人の考え方を学生時代に身につけさせてやってほしい。大学は将来の日本を背負って立つ人間の人間形成の場。（法, 50歳代, 男）

◆・学生の基礎学力の向上を図ること。・指導者の指導技術の向上を図ること。研究に重点を置く教授陣と知識伝達に重点を置く教授陣とを区別し、分業させるのが現実的でしょう。（法, 60歳以上, 男）

◆自由であること、必須科目が少し、何を学んでも卒業できること、これは大学として重要なことである。出欠を取ったり、単位数を厳しくしたりして学生の尻を叩くことを当然とする風潮の中で、京大が独自性を保つとすれば、この自由を持つと拡大することだと思う。勉強しない学生がいたからといって、義務教育ではないのだから放っておきなさい、ということに至る。全ては本人の問題であって、教える側の問題ではない。教える側の義務は学生が学びたいときそれに見合った水準の教育環境を提供することである。私が学んだ頃の法学部には、昔書いた古い教科書をそのまま使う人、およそ研究らしい研究をしているとは思えない人が多勢いた。一度教授になれば、定年まで辞めなくてもよいというシステムはどう考えてもおかしい。優秀な研究者を外国から呼ぶ。世界中からもっと積極的に留学生を受け入れる。教育の場に競争原理を取り入れる。これらが必要なことである。（法, 60歳以上, 男）

◆1. 一時代の一時的な状勢によって国立大学（特に京都大学）を民営化方向に進める事に疑問を抱く。国立であり乍ら自由な研究、自由な学問の出来る大学の機能を充実し、学生の負担も軽減するのが百年の人材造りとなる本来の姿ではないか。2. 広範囲な知識・新しい国際化の学問を追求する場としての京都大学の変化は必要だが、学生規模のみの拡大や社会への対応のみを主眼とする専門分野の私熟化の傾向は好ましくない。（法, 60歳以上, 男）

◆管理主義が強化され反権力、自由へ伝統が弱くなりつつあるのではないか。法学部について言えば、もはや何の期待・幻想もない。研究業績も十分ありながら「思想」故に絶対に教授に上げずに外部に放り出すような法学部に自由や正義を言う資格は全くない。（法, 男）

◆東京に長期間いると、京大卒業生としての実感が余りない。卒業生としての団結力が他大学と比べると希薄なのかもしれません。（法, 男）

経済学部・経済学研究科

◆大学（経済学部）で学んだ知識については、今の仕事をする上でほとんど必要ありません。ですから、無理に実践的な内容を大学で教えるよりも、大学生の時期にしか学ぶことのできない、一般的教養や専門知識を学ぶ機会を提供すべきと考えています。そうした内容を学ぶ中で、身に付けたものを考える力や知的好奇心こそが、社会生活で最も役に立つであろうと思います。最近のダブルスクール等の流れに流されることなく、学問の府としてハイレベルな知識を身につけられるような環境を提供してほしいと思います。（ただし、現行の講義の仕方がベターだとは考えておりませんが…。）（経, 20歳代, 男）

◆これまで築いてきた大学のステータス・ユニークさを今後も保ち続けていってほしい。型にはまらないで、常に世の中を驚かせる存在であって下さい。（経, 20歳代, 男）

◆社会人向けにより開放して実践的な研究をできるようにしてほしい。 海外のＭＢＡ的な講座をどんどん増やしては？（経, 20歳代）

◆平成元年に大学を卒業し、就職してから早いものでもう12年以上経っています。バブル経済の崩壊以後、世の中は大きく変わってしまった観がします。今回、このアンケートを記入しながら大学生活の4年間を振り返ってみましたが、長いようで短い4年間だったように思います。大学では講義ゼミはもちろんサークル活動を通じて学ぶことが多くありました。私が大学に期待することは、この京都大学の自由な学風をいつまでも続けてほしいことです。大学生ともなれば、自己責任で自分のやるべきことを考えてほしいと思いますので、大学は学生に対し、高度な教育を一方的に与えるのではなく、自由に選択させる工夫をもっ

としてほしいと思っています。また大学の改革等に関しては、卒業生として応援したいと思いますので、ご連絡下されば行っても対応しますのでよろしくお願いします。(経, 30歳代, 男)

◆現在住居を大学の近くに構えておりますが、近くて遠き母校といいますか、足を向けるのはNFを少し覗く程度で、もっと卒業生として大学と関わりたいという気持ちがあります(具体的には大学生協の加入、図書館の利用など)。また、学生に期待することは、京都大学独特の校風を守ってもらいたいです。京大は官僚養成校ではない(T大と違って)。新しい分野の開拓、研究活動など単なるエリートではない気概を持った学生であってほしいです。また、そんな学生を世に送り出し続ける大学であってほしいです。(経, 30歳代, 女)

◆象牙の塔から開放系へ(特に社会科学)。(経, 30歳代, 男)

◆自由であるならば、どこまでも自由を貫いてほしい。「自由」って何か分かりませんけど。(経, 30歳代, 男)

◆「大学の自治」が社会との交流を妨げる障害になっているように感じます。企業等からの支援を積極的に受け入れ、また成果を社会に還元する仕組みを作るべきと思います。(経, 30歳代, 男)

◆学問をする所としての京都大学でありつづけてほしい。ただ、ビジネスの社会と連携する事で生き残ろうとする道もあって、そっちの方が今の社会風潮だと思うこともある。で、中途半端なのがよくないと思う。(象徴的にいうと)ノーベル賞をとることのできる人間を育てる母体としての大学は、大切だと思っているのだが。(経, 30歳代, 女)

◆大学で語学を教える者として、最近の大学生の知識のなさにはただただ驚くばかりである。新聞も読まない、TVのニュースも見ない、周りには全く無関心。趣味があるわけでもなく、友人たちとの狭い世界から彼らの生きる場所というのが、本当に恐ろしい限りである。なぜ、大学にまで入るような人間がこんなに周りの興味を持たないのか？なんのために大学に入ったのか？疑問に思うばかりである。今の大学生たちは物心ついた頃から不景気で元気のない日本を見てきたから、夢や希望のない、ただ毎日を過ごすだけの人間になってしまったのか？彼らは決して不真面目なわけではない。ただ、与えられなきゃ何もできないのだ。自分で考える力を全く持っていない。こんな人間を量産してきたのは、やはり教育だろう。「ゆとり教育」などと言って、結局は時間をかけるべき想像力の育成等を切り捨ててしまったのではないだろうか？考える力のない人間には、他人とのコミュニケーションをとる能力も欠けている。こうした人間を実社会に送り込まれても迷惑なだけである。本来は、初等教育で行うべき教育だろうが、こんな状態になってしまった今となっては、大学で学生たちの想像力を鍛える教育を行ってほしいと心より願う。(経, 30歳代, 女)

◆従来通り自由闊達な学風を今後も継承してほしい。(経, 30歳代, 男)

◆とにかく自由の学風を残すべき。(経, 30歳代, 男)

◆研究活動の面においては、世界的な地位の向上を目指して、研究環境の改善、人材の育成に努めてほしい。人材輩出の役割において、文科系学部において官と民の交流を深めていく為に、学内における講座の開放ないし冠講座の拡充、OB交流の場の提供を検討していただきたい。大学院学生を経験した立場からは、大学院重点化を学生数の増加で具体化するだけではなく、一人あたりの資源(研究上における意味で)を増やす方向でアピールしてほしい。サマースクールの学生にさえ、学内の施設を開放している米国の大学を手本として、研究に直接関係はなくとも学生生活を送る上で必要なインフラ(プール、ドミトリーetc)を院生が気軽に利用できる環境を整えていってもらいたい。(経, 30歳代, 男)

◆経済学部では基本となる経済理論を全員がマスターできるよう教える側も知恵を絞るべき。それと英語教育についてだが、かなり読み書きはできると思うので、より話すことと聞くことに力を入れ、4年間でコミュニケーションができるレベルにまで引き上げることが必要。日本有数の大学といわれながら英語の一つも話せないのは今となっては恥ずかしい限り。(経, 30歳代, 男)

◆・京大の良さは、問13にあるような自由の学風にあると思う。徹底した管理教育からは生まれない。良いものが自発的に芽生える可能性がある。それに某大学の「シンフリ」のように教育での成績で、専門の学科が決まると、大学入学後も、テストの点にしか興味がなく点取りのカンニングや足のひっぱりあいで、下手をすると友情さえ育くめない。すさんだ生活になるという危険性も、京大には無いのが良いところだと思う。・社会に出てからの京大生の評価は「自信過剰のエリート意識がなく、様々な人間関係をうまくやっていける」「いざという時に実力を発揮できる潜在力がある」といったところに特徴があるので、今まで通り自由度の高い教育をしてほしい。そのためには問12でも書いたように、一定の基礎学力が必要であり受験生に迎合しない、入試の水準を維持する必要があると思う。(経, 30歳代, 女)

◆今こそ、京都大のカラーを鮮明にしつつ、そして、その結果、個性の伸ばせる最高学府として卒業生も誇りを持てる大学として存在し続けてほしいです。そのためにもやはり、Thinkingのところでの独創性、論理性を深めるものをより強くしていってほしい。(経, 30歳代, 男)

◆・東京での活動を増加させてほしい。研究発表・OB会etc。・経済学部の教育では、もう少し実践的な方がよい。純粋な学問教育も重要であるが、学部レベルでは抽象的で理解しづらいと思う。(経, 30歳代, 男)

◆大学で学んだことは基礎的な物の考え方を身に付けるという意味では役に立っている。しかし、実務面で、役に立つ知識が身についてはいない。私は銀行に就職したが、銀行に限らず文系の人間が就職して必要となる知識は、会計、財務、マーケティング等。それに民法及び商法の知識、これらかないとやっていけない。私はマクロ、ミクロの経済理論を学生時代勉強したが、今となっては会計等の勉強をしておくべきだったと思っている。そういった実業を大学で勉強することは経済理論の勉強よりも軽くみられていたように思う。それにそもそも、教えられる教授がいるのか、という気もする。一橋、慶応がビジネススクールも作って頑張っているのに比べると、東京から離れているせいか、あるいは「東大、、京大・・・」と続く昔の序列にあぐらをかいているのか、どうも清彩を欠いているように思われる。元々頭の良い人間が多いので、卒業しても皆それなりに会社で頑張っているが、大学教育というより個人の資質で頑張れている場合が殆どと思う。西日本で1番の大学の名に安住するのでなく、大学の

付加価値をあげる努力をしてほしい（特に文系は）（経, 30歳代, 男）

◆古都京都にある伝統の大学として、今後も自由な学風の維持を図るとともに、既成概念にとらわれない創造的な活動を展開し、多くの在校生、卒業生に愛される大学であり続けてほしい。（経, 30歳代, 男）

◆変わらないこと。ドッグイヤー、ラットイヤーの潮流の中で、大所高所からの視点での教育方針を貫いてもらいたい。（経, 30歳代, 男）

◆社会に出てはじめて「自分の意見を持ってないことは大変恥ずかしいことだ」ということに気付きました。それまでの教育でもっといろんなことを考えて、自分の意見を形成していなければいけなかったのに…アメリカ等ではディベートが盛んだといわれていますよね。それを通していろんな事を吸収するために企業からアメリカへ研修に行くという話もよく耳にします。でもなぜアメリカなんですか？なぜ日本で十何年も教育を受けてきているはずなのに、身についてないんだろうと思うと悲しく思います。入るのが難しく出るのが簡単（特に私は文系でしたからそうですが・・・）という所に問題があると思います。考える力をつけさせる教育、ひょっとしたらそれは高校あるいは中学、あるいは小学校から始めなければならないのかもしれません。でも待っている時ではないと思います。大学からでもいいと思います。どこかがまず動かないと物事は進み始めないと思います。もちろん学生の自覚も必要だと思いますが、大学側の頑張りにも大いに期待しています。（経, 30歳代, 男）

◆大学の活性化は、一にも二にも、優秀かつ活力ある学生を集めることと認識すべし。 全ての施策は、そこに合致するかを諮るべき。 高校生は何を基準にして大学を選ぶか?何を自己実現できるか、何が得られるか、であり、決して単位の取得のし易さなどではないはず。 京都大学4年間で得られる具体的なものは何か?学士号だけか?これからは、具体的な成果を学生は求めていくはず。 そういう観点に立った時、今の改革の方針は正しいのか?　京大は、アメフトなど課外活動でも名を挙げている。それら優秀な成果を挙げた課外活動には積極的に支援をすべきだろう。その際もはっきりと、「優秀な学生を集めるのに貢献した」と 明確な根拠を示すべきだ。（経, 30歳代, 男）

◆大学を卒業して実感することは、いかに京大には優秀で多様な人材がいたかということ。ごたぶんにもれず、授業には余り出席しなかったが、出席すればよかったとも思わない。カリキュラムとしての学問もあるが、カリキュラムでは得られない学問もあるはず。じゅうぶんに自分の生涯の中での在学の価値はあったと思う。 いたずらにカリキュラムを強化したり、多様化させることは、どこの大学でも考えること。学生に潜在する能力を必ずしも生かすとも思えない。「てんとう虫」の研究をしたい学生にいかに「てんとう虫」の情報を得やすい環境を与えるか。「中国の比較広告」を学びたい学生にとって、大学が有益なものであるか。カリキュラムに組み込めない学生の「興味」をいかに大学が尊重していくか、京大の伝統と存在価値を信じてほしい。他大学との差別化に京都大学の意義があると思う。（経, 30歳代, 男）

◆就職の時は名前が役だったけど、就職後は個人の実力の世界なので、大学の名で、どうのこうのということはないので、特に期待することはないです。 まあ、京大出身ということで白い眼で見られるようなことにならなければ、問題ないのでは。（たぶん、こんなことはないと思いますが）　これからは少子化の時代で受験生が減ってくるけど、その時は入学者を減らして、入学者の質 を維持することが必要なのでは。研究、ゼミ中心の事業形態という方向に進むのも一つの手かと思います。（経, 30歳代, 男）

◆米国留学の経験ある者として、大学の更なる国際化を期待します。留学生並びに外国人教授により広く門戸を開いていただきたい。（経, 30歳代, 女）

◆先入観に縛られず常に自由に発想するためには、自主性を重んじ自ら考える習慣が不可欠であり、是非そのような人材を輩出する大学であり続けてほしい。（経, 30歳代, 男）

◆経済学部です。 ゼミはすばらしい経験でした。今後とも、是非、ゼミ活動は重点的にしてほしいです。また、私たちの時代は卒業論文が必須ではなかったので書かなかったのですが、これは非常に後悔しています。ぜひとも必須にすべきです。社会人になってから、よく思ったのは、卒論のために、4回生は費やしてもよい、ということでした。　それから、大学の情報発信ですが、せっかくすばらしい業績や研究があるにもかかわらず、大学そのもののマーケティング活動、すなわち、積極的に社会に発信していこうとか、社会や海外に対して、積極的に名前を売り込んでいこうというブランド戦略がないように思います。それは、すなわち、京都大学というネームバリューが、それらの活動を不要にさせていることもあるかと思いますが、もっと熱心になって、もっともっとブランド価値をあげるべきだと思います。そうすることで、プラスのスパイラルが生まれ、どんどんとよい学生が集まり、またよいスタッフが集まると思います。　また、産学協同も積極的にするべきだと思います。京都大学は、左翼が強いところではありますが、産学協同を推進しなければ、国際競争の中で負けてしまいます。日本をこれ以上脱落させないためにも、産学協同、冠講座は積極的に開設すべきだと思います。　（経, 30歳代, 男）

◆時代の要請に併せて変革していくことは必要ですが、現在の自由と創造性を尊ぶ学風は是非とも堅持し、後世に伝えていって下さい。（経, 30歳代, 男）

◆大学で勉強したことと現在の自分との関係というものを、普段はほとんど意識しないものですが、母校は自分の存在をどこかで支えているものだと思います。京都大学はその学風と一流の研究水準を維持して、日本の知的拠点として発展していってほしいと思います。 気になる点もあります。これも10年余り前の話なので現状では改善されているかもしれませんが、施設の貧困さと大学全体としての組織のあり方です。　大学は、ソフト面（教育、研究）が大切であることは言うまでもありませんが、それを支えるハード面（施設、物理的環境）も重要です。劣悪な環境からはよい成果は決して生まれません。我々が在学していたときの学習環境はお世辞にも良好とは言いがたいものでした。空調設備がなく夏暑く、冬寒い教室。自転車があふれ、自動車やバイクが我が物顔に走り回るキャンパス。貧困な通信インフラ、・・・。 予算面で困難な状況にあるとは思いますが、大学人が力を合わせて、授業や研究に集中できる理想的な環境を、他大学に先立って実現してほしいと思います。京都大学に特

有の歴史的建造物を残しつつキャンパスの近代化を図ることも京都大学の叡智を結集すれば可能でしょう。　もう一つは、大学の組織としての柔軟性での問題です。独立行政法人化の方向により大学がどのように変化するのか、これまた普段大学にいないものにはよくわかりませんが、民間の優れている点（迅速な意志決定、柔軟な組織間連携、等）のうち取り入れるべきものは取り入れ、活力のある使いやすい組織にしていってほしい。京都大学が組織論のケーススタディ（もちろん成功例として）に取り上げられるようになる位になることを望みます。（経, 30歳代, 男）

◆社会人に門戸をより開いてほしい。特に、法学、経済学の大学院教育。（経, 30歳代, 男）

◆良き後輩をどんどん出してほしい。そのためにも頭の良い人だけを入れず、色々な人（才能、国籍）を入れた方がよい。やはり「大学」であってほしい。（経, 40歳代, 男）

◆選択肢をもっと増やしてほしい。つまり基礎的な教養を高めたい。人のコースや米国MBA流の実践的知識を身に付けたいコースと。少なくとも私は、大学時代にもっとMBA的な実践的な勉強をもっとやりたかった。（経, 40歳代, 男）

◆教養教育は積極的にすべきであるが、いわゆる一般教育ではなく、課題を絞って開講してほしい（環境問題、臓器移植、日中関係、食糧問題、国際事件など）。（経, 40歳代, 男）

◆大学院における実践教育の充実を一層図る。学部入学後、学部学科に進学するための競争原理を入れる。入学試験のみで決めるべきでない。3年終了後、大学院進学を認める。他大学の大学教官の客員教官への任用を増やし、大学間連携・協力を進める。大学教官の出前講義を行う。（経, 40歳代, 男）

◆大学と社会が直結するようなあり方が、重要だと思う。大学を卒業し、社会人としてスタートを切る時、どうも京大卒の肩書きが残るだけで、社会人としてその専門性なりが活かされていないように思う（残念ではあるが）。難しいこととは思うが、社会に直結した、社会に貢献できるあり方を考えていくことが重要であると思う。（経, 40歳代, 男）

◆最近の卒業生を見ていると、自由な発想をする人が少ない感じがする。管理教育で「小粒」で「無粋」な人が多い。東京の私立大学（早大や慶應）の卒業生の方が発想が豊かな感じ。小生は'70年入学で試験の前になると大半がストライキで、試験そのものは1～2回しか受けたことがなかったので、レポート提出になったことが多かった。勉強とは、対象となる課題にコンタクトすることが目的であり、出来、不出来はその課題に対する本人の興味の度合いを示すものにすぎないと考える。大学生にもっともっと自由な時間を与え、「自由な発想」「創造性」を育む教育を実践してもらいたい。（経, 40歳代, 男）

◆実学にばかり拘わらず、思想、方法の自由、独立を堅持してほしいです。産学協同的な行き方は健全な人物形成を妨げると思います。（経, 40歳代, 男）

◆基礎的な研究も重要であるが、産業の発展に貢献出来るよう企業等との連携による応用技術の研究開発にも力を入れていくべきと考える。（経, 40歳代, 男）

◆1. 京都大学に期待すること：「優秀な人材の社会への供給」 ①英語教育 ②コンピュータ教育 ③パソコン・スキルを当然身に付け、これにかえて実践的な専門知識を習得したうえで、社会人として十分貢献できる人材の供給を大学教育の根本・必須事項にすべきである。「社会人への大学開放」 自分自身を含めて、社会人としてこれまで実践してきたことを一から見直すため、大学・大学院でもう一度勉強してみたいという考え方を持っている人が多いと思う。これを可能にするため社会人への大学門戸開放を強く希望します。「インターン制度の導入」 就職活動とは別に優れた企業への会社訪問、実験入社を大学で積極的に行うべきである。会社訪問として、神戸製綱所等の訪問は今にして思えば、非常に役に立ちました。トヨタ、ソニー、日本IBM等の会社訪問・インターン制度を導入することを推奨します。 2. 問題点・改善点：久しぶりに京都に訪問した際、京都大学を訪問してみました。その際、私の大学時代と同様に学生運動・宗教活動のビラが見受けられました。大学にこれらのものを持ち込まないよう警察等国家権力を用いても解決する必要があると思います。テロを根絶するためには大学時代のそれらの芽を絶つことが必須と信じます。（経, 40歳代, 男）

◆教授陣及び学生において、競争インセンティブの導入をもっと検討すべきである。優秀な研究成果や学業を修めた者には、研究費の配分や奨学金のメリットがあるべき。（経, 40歳代, 男）

◆京都という独特の文化環境を生かし、基礎研究の象芽の塔であればよいと考えます。独立行政法人とかいろいろあるのでしょうが、創造性は他と相異するものから生まれるものと考えるものであり、いたずらに応用研究に走る必要はないと考えます。（産学連携を否定するものではありません。）ノーベル賞を輩出してきた校風は誇りであり、これを大切にしていただきたいものです。資金難となれば、京大基礎研究の成果が問われるとともに、学生一人一人を大切に育てなかったことが問われるべき問題と考えます。学生一人一人を育てる意識が基本であってほしいと思います。（経, 40歳代, 男）

◆問12と同じ企業の東京集中に惑わされず、”京都学派”を謙虚に貫いて下さい。（経, 40歳代, 男）

◆・国際感覚にあふれ、自由な発想を有する有為な人材を育成するには、語学教育の充実（特に、英会話、外国人と接する機会の増加等）。留外制度の充実（対外文化に接する機会の増加）が必要である。・「基礎教育なくして、実践教育もない」と思うが、今は社会に出て成功した人が逆に「実践知識の不足を、公開講座や再入学により、基礎教育、更にはプラスを求めている」時代である。従って、教育は学者の教育にとどまらず、世間に一端足をふみ入れ、不足と感じた部分を補いたいとする人々にも、大学を開放し、人生教育、生涯教育の場とすべきでは。・プライドは必要だが、不必要なプライドを教育の場でうえつけることはよくない。大学の名で勝負するのではなく自分の力で上に登るあるいは成功する人材が必要であると感じる。（経, 40歳代, 男）

◆1. 起業家をまねいて講演してもらう。 2. 企業へのインターンシップの制度を導入する。 3. 全ての教育を、社会に出て、役立ち得るかという視点から見直し、実践的教育へ移行する。 4. 教授陣の改革も大いに必要。 5. 文学部のような、遊びの部は不要。（他の大学にまかせれば可）（経, 40歳代, 男）

◆文系の学生がもっと勉強するように、卒論や研究発表を法学部や経済学部にも、義務づけてほしい。又、講義に出なくても単位がとれるようにしない工夫を考えて、学生のレベルを上げてほしい。(経, 40歳代, 男)

◆「自由」は良いことであるが、現在のように社会が大学によりハイレベルのものを要求する時代にあっては「組織」的に大学生の能力を向上させるための仕組みを作っていくことも必要では･･･。京都大学は、もともと水準は高いのであるから、これらを組織的に、かつ総合的に統合し、向上させていくことができるなら、より大学の価値が社会に認知されていくものと思う。(経, 40歳代, 男)

◆(1) グローバルビジネスが展開のスピードを速めていくにつれて、日本人の国際競争力の無さがはっきりとしてきていると思う。そうなってきている要因のひとつに教育の質の低下が挙げられる。米国やアジアの名門大学では学生･院生がかなりの真剣度でもって勉学にのぞんでいる光景に出くわすが、日本の大学生･院生は一般的に緊張感が足らないように感じられる。京都大学ももはや例外ではない。その現況を打破する為には、大学と産業界との交流を通じての世の中の流れをもっと大学内に取り込むべきだと思うし、他国の大学との交流を通じて世界の大学のレベルに直にふれる機会を持つべきだと思う。要は、広く世界に目を向け、大学と学生との間の関係のあり様を変革していくスピードをあげていかなければならないと考える。(2) 社会人になった人々の間では、自分達の専門性を深めるために再度勉学をこころざす人達が増えてきている。このような人達のニーズに対応するために、京都大学でも社会人向けの大学院を京都･東京で開講すべきではなかのかと思う。そのような準備がすすめられることを望む。(3) 大学の卒業生と在学生との意見交換及びディスカッションの場のような行事をもっと意識的に企画していってほしい。お互いにとっての刺激の場となる事を願うものである。(経, 40歳代, 男)

◆期待1.「私の霊長類学は････」という書き出しで始まる今西博士のような学者･研究者が数多く出現することを強く期待しています。自由･独立の精神と創造性が京大の良さであり、単に時流に迎合するような気風は持ってほしくないと思います。2. 海外からの留学生ともっと大量に受けいれることのできるプログラムの開発を望みます。今の政府の進める表面的な数合わせでは、日本を嫌いになる各国のエリートを増やすだけの可能性が高いと思われます。1000年の都でこそ可能なプログラムがあるのではないかと考えます。個人の寄付も歓迎です。(経, 40歳代, 男)

◆1. これまで同様(現在は知りませんが…)中央から離れた田舎の大学として自由で独創的な学風を守っていただければと思っております。余り東大や慶応のような時代に敏感になりすぎないほうが、将来のためだと思います。(講座選定、テーマ設定etc……)2. 10代後半から20代前半はどちらかというと反社会的なメンタルティーの高まる年代と思います。成長した自我が周囲とぶつかり合う年代と思います。これらを大切に育てていくことが最も大事と考えられます。また、そうすることによってより多角的な視点を持つようにもなろうと思います。うまく自我を成長させるシステムをつくってやってくだされば よいのではと思います。(経, 40歳代, 男)

◆自然科学分野での華々しい活躍は、東大、慶応に比し、京大ってどこかが違う'という印象を与えているのも事実。追究する真理が一つの場合は研究に没頭する環境が成果を上げていることは否定しない。一方社会科学はどうであろうか。追究する真理は一つであっても、様々な力の構造の中で、客観性のみでは通用しない分野ではないか。戦後の成長構造が大きくかかわる中で一般の人々が期待しているのは自らの生活不安、雇用不安、精神不安、将来の社会に対する不安を、全てではないにしろわかりやすく説明してくれる人材、機関を望んでいると考えられる。従来京大は権力の東大に対峙する西の雄として自由な学風を誇ってきた成果があがっているのも事実であろう。反面余りに現実的な事柄への対応を軽視したが故に、潜在力の高い人達を社会の中である種かわり者として扱われるリスクへの対応を欠いてきたのではないか。小生は今や50才時代も変わりつつあるがいわゆる大企業重視時代にあって、数多くの京大生が組織の中で浮き上がり潜在力を発揮できる機会を得られることなく、消えてしまう例も見てきた。処世術、分析力、プレゼンテーション力、対人交渉力、グループ討議、国際対応(語学力)などをワークスタディ分析、グループ討議、パソコン、メディアを使った擬以ミニ社会、ミニ社会環境の中でみがいていけるコースを(プログラムを)使ってはどうだろうか。例えば現実の社会問題を英語の議論で"Power Point"を使いながらグループ討議していく。あるいはグループとして成果発表を行っていく。社会の中で30才過ぎにつまづき先の能力発揮の芽をつんでしまわないように学生をご指導いただきたい。社会から離れすぎた学術の世界ではなく現代社会に対するSolution Businessそれが京都大学であってほしいと思います。必要があればもう少しまとまったものを書くつもりはあります。(業務多忙中につき失礼します。)(経, 40歳代, 男)

◆京都大学の学生として学ぶことができたのは、とても幸せなことであり、卒業後も私の誇りとなっています。ただ、十分に学べたかどうかについては悔いが残っています。せっかくの環境も、設備も、蔵書も先生方の学問も私は十分に利用しないまま、吸収しないまま卒業してしまった感があります。今だに自分が学生に戻っている夢を見て、「まだ学べる！！」と嬉しくなることがあるのはそのせいだと思います。理系の学部の学生に比べ文系の学部の学生は「自由の学風」に溺れていたように思います。やる気のある学生にとってはいくらでも勉強できる環境が整っており、すばらしいことですが、反面勉強しない学生は放っておかれ適当に単位を取れば卒業できるようになっていました。やはり希望して大学に入学したからには勉強してほしい。そのためのチェック機能を大学は持つべきだと思います。卒業後は関東地方に住んでおりますが、小･中･高校生の進路として学校では東大と並んで京大という意識ですけれども、子供たちにとっては京都は遠いようです。東大の次は一橋、東工大あるいは早慶で、あえて京大を選択することは少ないです。これについては良いとか悪いとかはいえませんが、人材を集める上では少し寂しい気も致しますし、反対に関西、西日本の出身者が多いからこそ創造性も生まれるのかとも思います。これからの京都大学は全国から良い学生を集め、鍛えて世界の大学として発展していってほしいと思います。そして卒業した社会人にとってもまた帰って勉強できるところであってほしいです。学問における「自由」と「創造性」は京都大学の伝統であり、これからも柱にしていってほしい。そのためには学生の学問に対する姿勢への厳しさと社会人による新風を入れることを考えていってほし

いと思います。(経, 40歳代, 女)
◆他の大学にない特徴をしっかり維持してほしい。(経, 40歳代, 男)
◆自由・独立の学風は維持しつつも 社会に出た後、実学的に役立つような基礎教育に 重点をおく必要を感じる。 当時においても、アカデミックな講義内容についていける学生は1〜2割程度であったかと思われる。その他の8割の学生は受験学力に優れものの4年間における基礎教育に有機性・戦略性がないゆえに、社会に進出後、有力私学や他の国立大学卒業生に比し、充分な能力発揮をしているとは思えないし、評価もそれほど高いものは得ていないような感がある。(経, 40歳代, 男)
◆経済学部の卒業生であるが、学部の現状は知らないので一般論を書きます。経済学部の学生定員は少なすぎるのではないか。倍くらいになればよいと思う。経済学部の教育は国際性重視でよいのではないかと思う。教養の時から外国語で読み、書き、きく、話すということを大いにやったらよいと思う。教官および学生の国際交流をさかんにやったらよいと思う。寄付金などもそのために集めたら良い。京大から行くばかりでなく、欧米アジアの教官、学生を招いたらよい。私個人の経験では、外国を訪問し、外国の研究者と議論するということは、大変利益になる。もっとも英語でペイパを書くという準備は必要である。研究のための施設のみならず学生のための施設も充実したらよい。MITの教授は京大の施設がみすぼらしいのにびっくりして、絶好の投資対象ではないかと言っていた。(経, 50歳代, 男)
◆京都大学は教育界・産業界において高い評価を得ており、卒業生として誇りに感じております。しかしこの評価の拠ってきたるところは、京大生は「難しい入学試験を突破する努力・根性を備えた人間」であり、「厳しい実社会で試練に耐えられる人間」として、先ず見てもらえるところにあると思います。これは東大生にも共通するところです。ですから、入学試験の科目数が減り、理系の学生で物理が理解できない者が補習授業を受けているような事は、社会から「京大生はこの程度の者か」と馬鹿にされ評価が下がるだけです。以前テレビで放映されるのを見た時、驚きよりも悲しく感じました。子を持つ親とすれば、入学の難しい大学になればこそ子供に頑張って入学させようと思うものです。安易に学生を集めることのみに走らず、勉強とスポーツに情熱を傾ける学生を集め育てることに自信をもってやってほしい。早く又、ノーベル賞受賞者が出てくれるのを期待しています。(経, 50歳代, 男)
◆誇りに思っています。(経, 50歳代, 男)
◆こんなアンケートをしなくても、京大(いや日本の大学)の問題点はおわかりだと思うのに、なぜこんなアンケートを・・・情けなくなりますね。日本の教育・研究そのものがダメになっているのですね。(経, 50歳代, 男)
◆実務世界との研究活動や教育活動の交流を深めるべき。(経, 50歳代, 男)
◆出身学部である経済学部は、実業界から見ていて、余り存在感がない。社会のリーダーとして特色のある大学を目指してほしい。(経, 50歳代, 男)
◆1. 学問、研究の充実は当然であるが、産学共同も進めること。 2. 一定の条件をクリアした人、一芸に秀でた人の入学を積極的に認める等入学条件の緩和を進める。一方で進級、卒業のハードルを高くする。入試で体力を使うより、入学後の勉強や専門分野での努力に体力を使わせること。 3. 民間知識の講座の活用により、社会との接点を多くすること。 4. 自由な校風な大事にしてほしい。(経, 50歳代, 男)
◆学部を越えた専門科目の修得の拡大。国際人を育成する前提のカリキュラム。(経, 50歳代, 男)
◆1. より専門的な教育 2. より実践的な教育 3. 産学交流 4. 産学共同研究 5. 国際交流の活性化 6. 社会人への門戸開放(経, 50歳代, 男)
◆京大の現状についての知識が皆無なまま、日頃に気付いた点を記します。(社会科学系を念頭に)東京にも知の交流の場の出先を設置されては？1。知の自由な交流と発展の場の創出、提供:(Harvard大学のCollege Hallでの経験に基づいて)教官、学生(周辺他大学を含む)や政府や外国からのResearch Followなどが、あるテーマについて、Guest Speakerを招き、1時間などプレゼンテーションして、あとはフロアからの参加も自由なFree Discussionを2時間の中でやる。このようなプログラムで月〜金まで計15〜20組。または学生でも興味があればブラリと参加、フロアに座って聞き、質問し、意見を述べることが出来る。中東問題のセミナーでは、ある教官がプレゼンをすると元モサド長官の滞在フェローや政府の高官、アラブの学者が自由に意見を交換(本音の)する。大学が自由な討論を保障する場を提供し、結果として聴く者は深くそれぞれの立場や問題点を理解することが出来る。2。ホット問題についての臨時講義・セミナー・討論会の積極的に開催し、そのポイントをinternetを通じての公開等、発信の積極化。米国の同時多発テロなど問題が起こったときに大学の知の資産とアカデミズムの自由を最大限に生かして、テロリズムの系譜と現状、イスラム原理主義とは、国際政治や経済への影響、社会心理など様々な角度から切って正しい知識の流布と理解のために積極的に発信されてはいかがでしょうか？3。教授会からマネジメント機能を専門家に委譲し、任期の制限制や外部評価を採用すること。競争原理とは言わぬまでも、社会の変化に対して落伍者のような存在にはなっていただきたくない。緊張感を持ってそれだけの実績を挙げ社会をリードする一翼を担っていただきたい。それにはオープンにして、他者から評価される仕組みが必要だと思います。(経, 50歳代, 男)
◆特殊法人化等かなり変化があると思いますが、西日本の学問の中心的存在であり続けるように各学部の教授の皆様は一層の努力をお願いします。学部のセクショナリズムに落ち込まず、横に連携を持った組織であってほしい。(経, 50歳代, 男)
◆「優れた人間を作ること」これだけが京都大学の目的であってよいのではないか。国立大学では無理だと思いますので、京都大学も今や普通の大学だという自覚を持つことから改革を始めるべきだと思います。(経, 50歳代, 男)
◆1. 自由であることが京都大学のスクールカラーであるとよく言われているが、学生に勉強させること、また勉強してある水準に達しないならば卒業させないといった厳しさも必要なのではないか。そのためには教官のみなさんが絶え間ない努力に裏打ちされた魅力ある授業、高い専門性を持ち続けていただく必要があると思う。 2. 現在東京では拝金主義が横行し、東京の大

学では薄っぺらな議論を展開してマスコミから支持されている教授が多く見かけられる。時代や流行に流されないで、京都大学らしい本質は何なのかをしっかり見つめた教育・研究をしてほしい。 3. 時代の政治・経済の混迷は、また社会の混乱は家庭教育に一番大きな問題があると思われるが、小学校からの「ゆとり教育」にも責任があると思われる。現在国立大学では受験科目を増やす方向にあると聞くが、是非京都大学では受験生が減ることは気にせず必要な科目の受験を学生に課すようにしていただきたい。実質1科目入試の慶應、早稲田出身者は要領は良いものの教養は全く感じられず、国の将来を危ぶみます。（経, 50歳代, 男）

◆京都に拠点を置くことのメリット（独立性）を活かしながら、そのデメリット（政治・経済の中心東京から離れていること）を補う取り組みが必要。既に取り組みが始まった社会人向け特別講座の東京での開講を補うe-ラーニング（IT利用の遠隔ゼミetc.）の活用の推進。東京地区への学部生の企業インターンシップの推進。国内外の他大学との取得単位相互承認制の拡大。（経, 50歳代, 男）

◆1. 社会人に開かれた大学・大学院に。 2. 教授陣の多様化（他大学出身者、外国人、実業界の専門家等）と、実績（実力）主義の人事評価の徹底。（経, 50歳代, 男）

◆大学の同窓会、学部の同窓会とも年会費が高すぎるのではないだろうか。5年間に5000円程度（1年1000円）にしていただけると有り難い。OBを学部、大学院の教育にもっと使ってはどうだろうか。役立ちたいと思っている人は多いはず。（経, 50歳代, 男）

◆大学は実社会、産業界に色目を使うなかれ。実社会にすぐに役立つ教育、研究はすぐに役立たなくなる恐れが多分にある。大学はあくまで心理の探究を。（経, 50歳代, 男）

◆独立をたもち、世の流行にまどわされず伝統を保ってほしい。（経, 50歳代, 男）

◆独立法人化は絶対に避けて下さい。有名国立大が独立法人化すると、小生が現在在職している小規模の私立大学はひとたまりもありません。それでなくても少子化が進んでいる状況ですから、有名大学の慎重な行動を希みたいと思います。（経, 50歳代, 男）

◆・産官学連携の強化（社会に開かれた大学）・「京大ならでは」の特徴（強み）の構築・「立命館」に学ぶことが多いのでは？・学生による教師の評価を取り入れては？・「東大」の“変革”を研究しては？・学問を通じて、社会や地球に貢献する姿勢を強烈に打ち出すことが必要。（欧米の大学のように）・もっと危機感、マーケティングセンスを持つことが必要ではないか。（相対的にかなり地盤低下しているように思う。）（経, 50歳代, 男）

◆これからの日本の企業社会・行政界がどのように変化してゆくかにも大きくかかわってくるが、少なくとも私が経験して京大の教育のあり方は、中途半端であり、社会に出て専門性を発揮できる分でもなければ、さりとて国際性豊かというわけでもない。一般教養課程などスキップして、大学院・大学としての専門人育成の方向に進んではどうだろうか。（経, 50歳代, 男）

◆卒業以来34年、地方に引越し、5年経過する中で、現在の大学の実態がほとんどわからず意見具申は控えさせて頂きます。（経, 50歳代, 男）

◆本題とは離れますが、21世紀に入ってもなお「評価掛」という「掛」の文字が使われていることに、旧態然とした印象を持ちます。（経, 50歳代, 男）

◆（以下は文科系の話また大学の話である。一理科系こと、大学院のことはわからない。）大学まで進学したのであるから、内容においても高さにおいてもそれだけの勉強をさせなければならない。学問をやらなければ、大学ではない。ほかごとで名を上げてみても仕方ない。大学としての値打ちが上がるわけではない。京都大学が大学とは（大学生とは）、こういうものであると日本社会に示すような模範（学問の府）となってほしい。（経, 50歳代, 男）

◆旧態依然とした講義が行われているとは思いませんがもしそのキライがあるなら早急に改めてほしいものです世の中の変化の激しさ、竟争の激しさについていけていないのが今日の大学（特に国立大学）だと思います大学のシステムを抜本的に改め、学生の基礎教育レベルを高めるとともに世の中に求められる、もしくは世の中をリードする（影響を与える）ような実践的な研究分野でレベルアップすることが望まれます。あらゆる分野で京大の存在感をもっともっと高めるべきです何年にも亙って論文を発表しない、研究成果のない教官はリタイアさせるべきと思います。（経, 50歳代, 男）

◆自由と創造性を発揮するような、学風を維持すること。（経, 50歳代, 男）

◆京都大学を卒業した学生は、少なくとも、①外国語は一ヶ国語は少なくとも話せすこと②巾広い一般教養を身につけていること③専門分野について高度な知識とチャレンジ精神を身につけていること。そういう学生にして頂きたい。そうでない学生は○○すべきではないか。大学としてのあるべき方向につき、学部を出て、院を出て、専門分野の職業に就く人については倫理と哲学を身につける様な指示もベースか。それのない人は退学させるべき、ではないか？（経, 50歳代, 男）

◆世間に出てから、団結心が今一のように思うが、また要領のよくない者の割合が高いように思うが、それがまたよいのかも知れません。伸び伸びとした自由な学風を失くさないでほしい。（経, 50歳代, 男）

◆人文・社会科学について、巾広く。深い教育をすべき。自然科学についても、基礎的な教育をすべき。（経, 50歳代, 男）

◆・自由な学風は守って下さい。・”これが京都大学だ”ということを創り出しPRして下さい。・入試は今のままでいいんでしょうか？もっと個性的な人が増えてもいいと思います。我々の頃は個性の集りであったように思いますが・・・・・。（経, 50歳代, 男）

◆世の中との接点を増やすこと。メディア（特にTV）への登場、講演会等への講師、論文発表等、存在感を更にアッピール。国民に目に見える大学を！（経, 50歳代, 男）

◆学問の自由の尊重、創造性の尊重の伝統を伸ばし、放任ではなく学生に対して厳しく知的好奇心を刺激する場であってほしい。（経, 50歳代, 男）

◆とてもいい大学だと思っています。ただ、市内に強力なライバルがいないので、競争による進化がうまくいかない。2回生あたりで東大慶応などとディベートや交流やコンペをする機会を作られると必ず成功する。東京に交流施設が必要。友人と会えるとか、先生がいつも泊まっているとか。・・・・・かなり大規模なもの。(経, 50歳代, 男)

◆1. 国全体から考えると、官僚の世界は東大に偏重で、それも腐敗の一因です。京大も、もう少し、官僚を輩出させる雰囲気がほしいです。ライバル大学の良い意味での競争も、緊張感をもたらすと思います。 2. 独自のネットワークを持った社会に対するアピール(全国的な)手段を開発すべきです。端的に言えば、京都発のマスコミです。 3. 当時経済学部にはなかったのですが、やはり卒業論文は必要です。何をテーマとするのか？それも大学の先生と学生とのつながりをもたらす、一つの接点で、良く話し合ってもらいたいものです。 4. 大学も先生、学生の人集めが重要です。そのために、各先生、学部、学風について、折角のユニークなものが数多くあるのですから、高校生、社会などに強力にアピールすることが大事です。(経, 50歳代, 男)

◆在野の伝統を生かす為には、研究型の教育方法によりウェイトを置くと良いのでは・・・。資金面での問題もあるので、産学のウェイトも増すことが必要と思います。(経, 50歳代, 男)

◆・経済学部をとってみると、教官レベルでの水準が落ちているように思います。・○○先生のような実業界と強く接点のある人が目立ち、理論的に引っ張る人(例えば日経新聞の経済教室に登場する)が少ない。・私の在校した38～42年頃にはマル経と近経に2分され、マル経は政治的には一部偏りがあったとしても、それなりのプレゼンスがあり、近経は会計論、財政論などで目立っていた。・神戸大学経済学部では金融論にかなりの基盤があるように思われます。京大では何を特色とするのでしょうか。・卒業生は実業界に入る人が多いため、他大学でもやっているように、OBの臨時講義を積極的に開催し、在学中から実業界の息吹を感じさせる企画も有効ではないでしょうか。(経, 50歳代, 男)

◆(要望)○教員にも、学生にも「競争的な環境でこそ、人は成長すること」を再認識していただきたい。 ○"国立京都(帝国)大学"の意識は後向きのイメージでしかなく、特色のある私大に遅れをとることは明らかです。 ○社会の方向は ・自己責任→民営化 ・国際化→独善性からの脱却 ・独創性の重視→競争市場での評価などに向かっていることを先取りすることが重要かと思う。 ○世界の京大として評価されるようなシステムづくりが必要。(経, 50歳代, 男)

◆教官の質に問題がある。広く教官を求める必要がある。オリジナリティのあるものを生み出せる人材を、もっと育てていくべきである。(経, 50歳代, 男)

◆自由反骨の気風と裏腹の、一種の地方性、閉鎖性が、京大の伝統・特徴であったと理解するが、良い意味での地方性と自由の気風は、何としても維持してほしい。「閉鎖性」は徹底的に排除し前例にこだわらず、いかなる常識も権威も疑う学問の原点に常に立ち返ってほしい。その為には例えば、欧米中心志向から脱却して、いわゆる第3世界の実状・現場を重視した研究体制の充実・強化といった、特色ある方向も大胆に打ち出していってほしい、象牙の塔にこもらず街に出、野に出て、事実を事実として把握する、学問の基本を何よりも大切にする大学であり続けてほしい。(経, 50歳代, 男)

◆大学大衆化時代の今日では、大学教育は知的訓練・頭のマッサージの場だと思います。様々な分野の教官による、高校の授業内容とは一味も二味も違った、新鮮な講義やゼミで、学生を触発する場だと考えます。自立心と教養共に、豊かな社会人、あるいは学究者を涵養する機会や環境を提供する場であってほしいです。最近の入学試験における科目数削減傾向は、誠に悲しく遺憾に思います。(経, 50歳代, 男)

◆"怠惰な者は学校を去る"ということを明確にすべき。(経, 50歳代, 男)

◆象牙の塔に安住しないで、教授はじめ教職者が、レベルアップ並びに学問の伝承に努力して頂きたい。折角の研究が、世の中の役に立っていないか、役に立っているとしても、見えていないのが残念。(経, 50歳代, 男)

◆ノーベル賞の受賞者、輩出等、レベルの高を感じ誇りに思っております。特殊法人見直しの流れのなか、存在感をアピールするため、ぜひ引き続いての品の高い研究を追及して下さい。また、産業界との結びつきも大切と思います。(役立つ研究)(経, 50歳代, 男)

◆私は他大学から来て博士課程のみ在籍し現在私立大学の教員をしているが、 京都大学は一般的スタンダードからみれば大変質の高い大学であると思う。 質の高さはやはり教員と学生の質で測られる。 質の高さを保持できるならば、専門だの実学などの区別を無理矢理行わず、 そのときどきの最高品質の学問を専門実学両方とも学生に伝えればよい。 これは良い学生と良い哲学がなければできないことなので、大学経営にしっかりした哲学と最先端研究の二つを心がけていただきたい。 (経, 50歳代, 男)

◆問1～問10までの質問に対する感想として既に意見は述べたところである。 いずれにしても、これまで「京大出身であることを誇りの思ってきた」ように、これからも「京大出身であることを誇りの思いつづけることができる」大学でありつづけることを期待しております。(経, 50歳代, 男)

◆世界における日本の役割が益々重要視されていくなかで、集団的発想でなく、独自の考え方に基づき行動できる人材を養成するため、「わが道を行く」ことについてさらに徹底した雰囲気を作ってほしい。(経, 50歳代)

◆創造性に富む卒業生を輩出しているようで、誠に結構だと思います。地に足のついた議論の出来る学生を育てて下さい(例えば故高坂教授のような方)。(経, 60歳以上, 男)

◆私が世話になった学部の教授は共産党員(であることが卒業後判明した)であった。ゼミナールでは共産党のアジ演説をしていた。教授は高度成長をしていた日本経済下にマルクスの資本論にある「絶対的窮亡乏化論」を唱えていた。現下の大不況においてさえ、絶対的窮亡は起きていない。ソ連の崩壊によりマル経が誤った学説であることが実証された。教授は毛沢東の「実践論・矛盾論」を引用し、学問はおしゃべりではなく、実践することだと教えていた。かかる教授は定年退職しているが、教

授の弟子で現在も教授を勤めている者を含め、マル経学者は学者としての責任をとるべきである。沈黙するとか、世論に迎合して宗旨変えすることが、責任をとることではない。共産党の存在が京都大学に「失われた10年」ならぬ失われた50年の知的退廃をもたらした。私は文部省のいう思想統制を唱えているのではない。教授の「学問」もまた国民の税金で支払われているのであるから、その業績が世間に照らして、どう評価され、世の中にどのように貢献してきたかを明らかにする透明性がほしい。単に発表する論文の数が多ければ良い、とも思わない。広く世界の読者を対象とするのでなく、仲間内のものすごく狭い「世間」だけでしか通用しない論文を書くことが、研究だとも思わない。世の中一般にどのように対応しているかが、外界からは全然見えない教授が多いのではないか。(経, 60歳以上, 男)

◆学生が勉強しなくなった、質が下ったとよく言われるが、京大の学生はどうなのか心配される。遊んでいるように見えて、肝心な(大事な)ところは、しっかりと勉強し、意見をもっているという仲間、先輩が多かった。私もその一人と自負しているが、形式や表面的に「教育」に傾くことなく、自由に自分で学ぶ学風は変って欲しくない。大学としても、世の流れ、マスコミや間違った「常識」などに、影響されず、本当の教育を続けてほしい。(経, 60歳以上, 男)

◆時計台の改築は決して行わないで下さい。学内に高層建築をこれ以上増やさないで下さい。(経, 60歳以上, 男)

理学部・理学研究科

◆様々な研究テーマを提案する学生に自由に研究させるうえで、それをカバーできる指導能力の有無を基準に、教官の評価を2〜3年おきに行うべき。よって、論文数や予算額を評価基準にするべきではない。(理, 20歳代, 男)

◆【教養教育(問16)について】1、2回生のいわゆる教養教育については次の2本立てがよいのではないか。1)題材を厳選して、その題材に関して深く学ぶ。2)ある分野について最先端の話題をいくつか選んで、その話題の専門家(他学部から呼んでくる?)によるリレー講義。1)については「本立ち手道生ず」というか、基本的なことがよく理解できれば応用もきくと思う。2)については情熱をもって研究にあたっている人の話を聞いたら「なんだかよくわからないけど、心がときめいた」という経験ができるのではないか、いずれにせよ、網羅的な講義よりも動機づけになる講義がよいと思う。教養教育については科学教育の重要性が言われていて、私もその通りだと思う。例えばクローン技術など社会全体に関わる問題を真剣に議論しようと思ったら、少なくともある程度の科学知識は必須だと思う。そのためには、なるべく多くの人が、生涯にわたって科学に興味を持ち続けることが望ましいだろう。そのとき大学教育(本当は中等教育だろうが)の目指すことは、科学嫌いをなるべく作らないということではないか。日本では科学雑誌が余り売れないと聞く、サイアスは廃刊されてし、また日経サイエンスの発行部数も、本家のScientific Americanに比べれば少ないと思う。もし1)、2)の講義を受けて「面白さ」「楽しさ」を感じることができたなら、その後に(「教養のため」などと思わずに)興味をもって科学記事を読むことができるのではないだろうか。(←少し理想主義的すぎる?)《副専攻?》自由に書いていいということなので、教養教育のかわりに副専攻という考え方もあるのではないか、ということを付け加えたい。実現の可能性は低いだろうが、たしかオーストラリアの教育システムはそうだったと思う。大学で主専攻と副専攻の二つの分野を学ぶという利点には、次が考えられるだろう。A)二つの分野を深く学ぶことによって、結果として幅広い知識が身につく。また、強い目的意識もなく広く学ぶより、二つを深く学ぶ方がやる気がでると思う。B)選択の幅が広がり、つぶしがきく、「主専攻分野を学んでみたが、どうも自分に合わないから転学したい」と思うとする。このとき、大学で副専攻分野を大学院で学ぶことができれば、キャリア形成がし易くなる。また、就職のときの窓口も広くなる。C)異分野の深い知識が役立つ仕事もありそう。例えば、途上国への植林事業だったら、森林科学と開発学・国際関係の知識が必要そうとか。【広報の充実を】具体的にこうしたらいいというのはないのだけれども、普段から情報を発信し、多くの人に情報を共有してもらうことは大切だと思う。一般的に言って、事が起こってから急に情報を発信しても、普段から地道な係わり合いなしには、なかなか信用してもらえないのではないか。(理, 20歳代, 男)

◆学部間の人的交流を更に増やした方が良いのでは?学生・スタッフ・教官すべてにおいて。例えば複数学部・学科所属を可能にしても良いのでは?(理, 30歳代, 男)

◆私のいた頃は、単位の取り方や専門科目等について自由に選択できたが、今はそうでもないようで、京大らしさを失いつつあるのかもしれない。(理, 30歳代, 男)

◆・京都大学の伝統である自由な学風、学生の独立性の尊重を今後も守り続け、枠にとらわれないスケールの大きい若手を輩出していってほしい。・他の大学と比較した訳ではないが、京都大学のスタッフは母校出身者の割合が高いように思われ、人事において身内優先の傾向が事実であるという噂を耳にする事がある。このような傾向が事実であるとすれば、スタッフの努力により打破していってほしい。広く学内外の研究者の情報を収集し、人事は基本的に公募にするなど活性化に努められることを希望する。(理, 30歳代, 男)

◆京都大学の学風(?)として当時あったのは、「教えてもらう」より「自ら学ぶ意志をもつ」こと。多数を相手の最大公約数的な講義で満足することなく、自ら能動的に知識を求め考えること。で、こういう積極的な勉強・研究に対する姿勢はこれからの学生も持ちつづけてほしいと思います。(もっとも自分のいた当時ですら、上のような内容で先輩から諭されることの多かった世代なので、余り偉そうなことは言えませんが。)—ところで、学生の気構えとしては上のセリフは立派だと思うんですが、教官はどう思っているんでしょう。大学院をやめて、まがりなりにも「教える」仕事に就いてふと思うのは、「上のセリフを自分の生徒に言われたらショックだろうな」ということ。はっきり言って自分の存在を否定されているように思うんですが。教官は教育者でなく研究者として手本を示すべき、というなら、確かに学生が上のような考えをもつことは喜ばしいことなのかもしれませんが、それは教育者としての自分あるいは教育機関としての京大を否定してはいないでしょうか。もちろん学生の面倒を手とり足とりやることは学生の独創性を奪う行為であるというのはわかっていますが、「そこまで言われたら意地でもふり向かせてやる」と思うのが善

道だと思っていますし、そうやって教える側と教えられる側が、力を尽くしてこその「教育」だと思うのですが、どうでしょう。一と、理論を書いてしまいましたが、現実には当時より状況が悪化（最近の学生の「学力低下」を「まのあたり」に見れる職についていますので、どういう状況になっているかは想像に難しくないです。）している現在、そのようなことは夢のまた夢かも知れませんね。願わくば、日本の学問の「頂点」としてのレベルを ―相対的レベルではなく絶対的なレベルで ―維持してほしいものです。文部科学者の言う見せかけの「ゆとり」や「生きる力」など吹き飛ばすくらいの強力な個性で、本物の「生きる力」とそれによって獲得できる本物の「ゆとり」を示して。（理, 30歳代, 男）

◆現在高校教師をしております。科目は数学を教えていますが、同僚の言動にはいつも泣かされます。詰め込み、試験漬けの教育でもって、よしとする彼らの発想の源がどこにあるのかというのを考えるとやはり出身大学なのかなあと思われます。教育大学出身の教員は、ひたすら生徒にやり方の暗記を強います。勿論そのようなことで数学が出来るようになるはずがない、ということを彼らは理解出来ないところに問題があります。結局彼らは、大学でも、自ら学ぶということをして来なかった。又は、しなくてもいい環境であったのではないかと思われます。○○先生のおっしゃるように、生徒は学び方を知れば自ずと学んでいくものと信じております。（こう信じなくては、この職業は出来ません）、ですが、学び方を知らないものは、そんなことを教えることは出来ません。京都大学は、（少なくとも理学部は）自ら学ぶことなくしては、生き残っていくことの出来ない厳しい大学であると思います。そうしたことを卒業生は、少なくとも学ぶことが出来ます。今後もそうであってほしいし、更には○○先生のように社会に対し、大学とは何か、勉強するとは何かといったことを、知らせていって戴ければと思います。多くの高校教員がそんなことも知らないというのは、就職して初めて知ったことであり驚きでした。大学の教育方針や研究重視である姿勢は今のままでよいと思われます。△△先生を始めみなさま御苦労様です。（理, 30歳代, 男）

◆大学は（京都大学に限らず）これまで競争意識がなく、教官の中でも玉石混同がはなはだしい。よって独立法人化され、競争原理を導入し活性化すべきである。それが国家の基盤を作る国立大学の役割と考える。一定期間内に研究成果がない教官には職を辞していただく程の厳しさを持っていただきたい（民間ではこのようなことは当り前なのだから）（理, 30歳代, 男）

◆やはり、自由と創造性を尊重する学風は、これからもずっと保ち続けてほしいと思います。ただ、自由過ぎて、目標を失ってしまう学生も多いと思いますが、悩み事を相談できるような場が、京都大学には余りなかったと思います。（カウンセリング的なものか・・・）ときどきは、手を差しのべてほしいと思うこともありました。目標を見失ったら、相談できる、ただし、学生にアドバイスするというよりも、話しを聞いてあげるだけでも良い。そんな場があるといいかな、と思います。（理, 30歳代, 男）

◆卒業生がまた学問をやりたくなった場合、受け入れてくれるような環境（大学院のような正式な学問の場でなくてもよい）を提供してくれるとよい。つまり、仕事をやりながらでもできるような、学問の場である。また、図書館などの施設を利用しやすくしてほしい。（理, 30歳代, 男）

◆バランスのとれた、視野の広い人材の教育機関であることを望みます。（理, 30歳代, 男）

◆創造的研究を重視したい。そのためには片寄った知識ではなく、幅広い教養を持つ人材の育成を是非お願いしたい。専門外の教養教育を重視しない学生が増える傾向にあるようだが、是非充実した教養教育を。（理, 30歳代, 男）

◆・昨日のニュースで、ノーベル賞の京大出身の受賞者が、また一人増えたと聞き、卒業生として、とてもうれしく思っています。・時代はめまぐるしく変わり、大学が社会から求められるもの、学生が大学に求めるものも変わってきますが、目先の利害や流行にとらわれることなく、古き良き伝統を守っていって下さい。(もちろん改善すべき点は改善して)（理, 30歳代, 女）

◆私は、京大に入って、今も続いている人間関係をたくさん作らせてもらったが、実際の研究環境は今の仕事に全く役立っていない。たとえ国立大学であっても、京都大学であっても、学生の進路、研究者の就職には、大学が責任の半分ぐらいは果たしてほしい。個人の力ではどうしても限界がある。又、学生も研究者も、自分の将来にいつも不安を感じながら勉強しているのだから、彼らの就職活動のサポートに、全力を注いでほしい。ハッキリ言って、今の大学は、学生の人生の将来設計に、責任を何も果たしていない。だから、今の学生は、ビジネス社会では、何一つ役立たないと思うから。（理, 30歳代, 男）

◆自由な気風の中で、自らが答えを出していくことが重要。 余り管理主義になりすぎて、面白みのない画一的な人材では、これからの社会では通用しない。 個々人のやる気を引き出すことに専念すべきでは？ 具体的にどうすればよいのかはわからないが。（理, 30歳代, 男）

◆過去の業績に甘えることなく、常に自己改革を心がけ、それを力強く実行して下さい。（理, 30歳代, 男）

◆関東で仕事をしていると京都大学の実績を耳にする機会が少ないです。仕事の分野的な問題もあるかとは思いますが、もう少し、企業活動につながる分野の研究もすすめてみては如何でしょうか。 問19の業種の分け方はお役所的だと思います。（理, 30歳代, 男）

◆基礎研究に重点をおいた自由な学風を継続していただきたい（理, 30歳代, 男）

◆各学術分野で最高水準の知識をもった人材を有していることが「大学」という存在の意義であると思います。「独創性」とか「歴史的」な学術的業績区分は、そういったものを永い期間維持・継続することで自然発生するものと思われます。（理, 40歳代, 男）

◆大学しか知らない教官ばかりでは困る。（理, 40歳代, 男）

◆時代に流されず、建学の精神を持って自由・独立の気風を維持していただきたい。同時に学生同士が活発な議論が出来るような教育の場を構築していただきたい。（理, 40歳代, 男）

◆Ⅱ. 問12で記したように、私には何がそれ程深刻な問題かわかりません。大学に対してだけではなく、改革と称してやる事なす事すべて以前よりだめな結果に終わっていると思います。大学に限れば、センター試験の廃止のみを要望します。（理, 40歳代, 男）

◆・社会にだんだん余裕がなくなっているなかで、京都大学くらいは今後数十年を見通した教育と研究のできる場であってほしい。(理, 40歳代, 男)

◆大学を卒業して、大学の色々な面を客観的に見て、過去20年間についての私の感じることを以下に述べます。 ①問題点; a. 人の交流が少ない。(他大学、大学外の様々なもの(組織、など)) b. 大学は社会的な存在であるにもかかわらず、社会が要求していること(研究、人材育成など)にバランス良い対応が出来ていない。 C. 研究設備についての予算的な面で制約があるように思われる。(体制的な面が大きい?) ②私学との比較; 卒業して最近特に感じるのが、私学のシステムとの比較で、慶應、早稲田の方が教育システムとして優れているのではないかということである。特に①ーbについてである。 ③今後の展開について; 私の個人的な予想であるが、今後、日本が知の社会に突入し、知の暴力の嵐を通り抜けて、西欧社会の市民社会に対応した階級社会に変化をしていく中で、国公立大学の比重が低下し、私学がその経営の自由さを武器に伸びていくのではないか、それに対抗する(?)には『経営の自由』を市民社会の要求(needs)に対応するために、国公立大学は、持つ必要があると思う。(理, 40歳代, 男)

◆個として自立した学問の自由を謳歌できる人材の、尚一層の輩出を期待しております。(昨今、長尺物の書籍を読みこなす知的体力に、やや乏しい人を見かけます。京大のことですから、枠にはめた人造りなどされていないとは思いますが、自分で意欲的に取り組まない学生は、どんどん落としていくくらいの厳しさが、これからの人創りには、更に要求されるように思います。)ところで、大学院大学が実施され、既に久しいですが、優秀な学生の輩出という点で、本当にうまく機能しているのでしょうか。(京大に限らず。)(理, 40歳代, 男)

◆色々な発想で、自ら進んで物事を解決していこう、という人を育てていただきたい。(理, 40歳代, 男)

◆最近、学生の学力が落ちたとか、質が下がったという話を聞きますが、これは、小・中・高での教育に問題があると思います。今の若者は自分の頭で物事を考えるという経験が少なく、勉強することは覚えることだと思っている。この若者達に大学として「考える」ことの面白さ、大切さを様々な場面で、アピールしてほしい。公開講座等、最近はそういう試みをしていると聞いているので、これからも続けていってほしいと思う。(理, 40歳代, 男)

◆・教官人事について。・伝統性を重んじ過ぎる。論文数の偏重。・フロンティアに踏み込もうとする若い人の冒険をもっと高く評価して人事評価すべきである。・「塩漬」状態の教官への対処、流動性を増す、助教授までは任期制にする。・研究レベル・新しい芽を出すシステムを考えるべき。伝統性偏重。・設備の有効利用システムを作る。同じ装置を買い眠っていることが多い。・教育レベル・ドクターコースでは、プロポーザル能力を問うべきである。・社会性・教育・研究の危機的状況に対するより大きな政治力を持つ努力が必要。(理, 40歳代, 男)

◆私が在学した70年代後半にも至る所にまだ男女差別が残っていて、それは巧妙に隠されており、在学中自分では気づかないことが多かった。たとえば、私は女子であるために、教養部構内で男子学生に「女子を京大生にするのは国費の無駄使いである。オマエのためで男がひとり落ちている。」と言われることも度々であった。つまり、彼らの頭には「女は結婚し家庭に入るもので、『男と同等に社会で自分の力を発揮したい』というのは過ちである」という考えがあったからだ、また、「女はいいよなあ、永久就職っていう手があるからなあ。」と言われることも多かった。また、教員の中には、女学生を疎ましく思う者も多かったと思われる。理学部で4回生の配属を決めるとき、「女子には来られると困る」と言う助教授が、複数、現にいた。(それを押してまでその研究室に配属する勇気がなかった。これは、私の後悔するところの1つである。)それは、直接私に言う教官もいたが、私の同級生の男子学生を通じて「『来て欲しくない』と○○先生が言っている。」と言ってくる教官もいた。「女子は就職先がなく、教授が探すのに時間を取られることになり。研究に支障が出るので、女子は配属を断っている」という助教授もいた。その助教授は「女子の大学院進学は認めない」とも言った。やっと配属した研究室でも、夏休みの海洋実習で、「女子が船に乗ると、海が荒れる(船は女神だから)ので、みんなが迷惑するから(「遭難したら困る」と言われた)実習に来ないでほしい。来ても、泊まる部屋は用意できない。」と言われた。私はこのとき、「それでも」という勇気がなかったので(あとの研究に支障が出ることを避けるため。また、当時、大学院進学を希望していた)、海洋実習には参加せず、単位もない。現在、私が在学していたころに比して、女子学生が増加していると聞く。何年か前に、女子学生、あるいは、女子教員の地位向上の活動(含む「セクハラ問題」)が始まったとも聞く。私の世代で、明らかに男子学生より、その能力に秀でているのに、女子だからという理由で、研究職に就けなかった女子学生がいる。私たち女子学生は、研究に興味があり、持てる能力を最大限使い、努力を厭わず、一生かけて、研究に邁進したいと思って入学した。しかし、その思いも、願いも卒業するころには、挫折して果てた。特に、理学部ではそういう女子学生が多かったと思う。現在はどうであろうか。女子学生も差別を受けることなく、その能力を平等に評価される機会がほしい。また、平等に勉学する機会がほしい。それが、学問が進化する条件でもあると思う。ちなみに、私は、京大に進学できる能力がある女子には、東大に進学することを勧めている。東大の卒業生のほうが、希望の職に就きやすく、努力に見合う分だけの学問研究の機会に恵まれている。それは、東大の女子学生(卒業生)が京大の女子学生(卒業生)より優秀だからではなく、東大の方が、女子の能力を伸ばせ、社会に進出することができる機会が多いと思うからである。現在の教授、助教授の世代は、私が在学した当時「女子を差別した」学生だったことも明記したい。私は、京大卒業生として、京大が世界に名だたる大学として生き残るには、まず、「男の価値観」を捨て去ることであると思う。Y. K(理, 40歳代, 女)

◆いろいろと書きたいことがあったのですが、日常業務が多忙を極めており、期限までに書くことが困難ですので、申し訳ありませんが空欄とさせていただきます。(理, 40歳代, 男)

◆(1)日本の教育制度は、過去、国民の平均的な教育レベル(読み書き能力)を上げることに関しては、一応の成果を挙げてきたと思います。今後必要とされるのは、しかも早期に実現されなければならないのは、国家の将来を考察し、あるべき国家像を描き出し、その実現のための計画を企画立案実行できるような能力を有したエリート人材の養成です。フランス、アメリカには、

そうした国家としてのビジョンを創造し、実行できるエリート人材を養成する専門機関（大学院）があります。日本の過去の歴史を振り返ると、国家上層部の見識、能力の欠如が原因で国益を大きく損ない、国民へ多大な負担を強いてきた事例を多々挙げることができます。上記の意味でのエリート人材を育成し、そうした人材を登用して、政治家、官僚として、その力を発揮させる場を与えてこなっかたことが日本の過去の不幸の原因の一つと思われます。（従来の東大や京大の出身者は、そのことだけでは、必ずしも上記の意味でのエリート人材とは言えません。）そもそも能力のある人材を見抜く力を有した人材すら数少ないようです。日本人は自分の事にばかりこだわり、有能な人材に対して妬み、足を引っ張るようなことばかりをやってきました。自分より若くとも有能な人材を抜擢し、応援し協力するような度量の広い人間が少ないようです。自分より有能な人間はたくさんいるのだということを身にしみて知るという良い意味での挫折経験が少ないのではないでしょうか。切磋琢磨、本気での競争経験が足らないのではないでしょうか。⑵ 日本には、戦後、民主主義とともに、平等主義が入ってきましたが、個々の人間には元々能力差が厳然としてあります。それを無視して結果的な平等を押し付けてきたことが、戦後の人材育成の失敗の元でしょう。大切なのは、機会は平等に与えられなければならないでしょうが、結果については、個々人の努力の賜物であるのですから、平等になるはずがありません。大学教育も、入学は比較的広く門戸を開放して、努力したものだけが卒業できるようにしないといけない。簡単に卒業させると、学生の甘えを増長させるだけです。優れた品質の人材だけを栄誉ある卒業生として世に送り出してほしいと思います。また、重箱の隅をつつくような入学試験問題に対応するために、しかも社会に出てほとんど役に立たないような知識を記憶習得するために、貴重な青年時代を費やすのは、大きな損失です。入試で鍛えるのでなく、大学の中でしっかり鍛えてほしいと思います。⑶ 会社の中で気付くことは、同じ大学卒とは言いながらも、自ら目標とするテーマを調査して設定できる人材と与えられたテーマをこなすだけの人材の大きく二種類に分けられることです。会社としては両方の人材が必要ですので、人事配置さえうまくやれば、それなりに機能していきます。高度成長期は後者の種類の人材が多数必要であったでしょうが、これからの時代は前者の種類の人材が多数必要となります。＜社会情勢の調査・判断から始めて、近い将来必要とされるものを予測して、業務としてのテーマを設定する。次に、それを実現するための方法や物を研究・検討し、その実現のために試行錯誤を重ね、仮説を立て実証しつつ完成させる。＞という原則的な業務の流れを実践できる能力を身に付けておくことが大切です。学生時代に、こうした流れに沿った実践的な方法論を模擬的にでも経験させて、社会に出てから実際に応用できるように身に付けさせておくことはたいへん有用なことだと思います。（理, 40歳代, 男）

◆大卒新入社員においては、一般的に見て、専門分野の基礎知識の不足が感じられるので、京大卒業生だけはそのようなことのないような、専門教育の充実、徹底を実行してほしい。（理, 40歳代, 男）

◆時流に流されない基礎的な研究を続けていってほしい。現在、企業の研究者として働いているが、最近、学会等に参加しても大学の先生方がこんなことをしてていいのか？　ただ、実験を重ねてデータをならべているだけではないか？　というような　ものも少なくない。 また、教育に関しては、厳しくやっていってほしい。（理, 40歳代, 男）

◆先端科学が理解できる基礎能力を教育する必要があると感じます。好奇心が持てる教育方法が重要、そのために、基礎と先端科学の接点を理解させることが重要。（理, 40歳代, 男）

◆身びいきではあるが、結果として充分社会に貢献する教育がなされていると感じる。今後も、徹底した真理の追究、あるいは世界一の発見、発明を目差して研究を進めてほしい。それらのために必要なことは行い、これらに必要でないことはやらない、というような単純なポリシーでよいのではないか。（理, 40歳代, 男）

◆京大卒業生は、東大、その他の大学と比べ存在感のある者が多い。その傾向は、最近でも変わらない。自信を持って日本のアカデミーを主導してほしい。（理, 50歳代, 男）

◆①専門的な基本事項を把握させること②外国語（特に英語）を徹底的に慣れさせること③論理をしっかりと組み立てて、発表させる場を多くすること（理, 50歳代, 男）

◆期待することはない。＜理由＞体制に組みしようとする京大に何を望むことがあろうか。（理, 50歳代, 男）

◆入試は第一希望の学部、第二希望の学部を選択できるようにすべきだ。第一希望の学部の合格点に足りない場合、第二希望の学部の合格点を満たすなら第二希望の学部に入学でできるようにする。 理由 1. 高校でどれか一つに進路を決めにいく場合がある。 2. 全体のレベルが上がる 3. 学部間の交流が高まる。（理, 50歳代, 男）

◆1. 産学共同をもっと積極的に進めるべき。 2. 研究成果が分かりにくいので、予算とリンクさせて専門性の低い研究室は自然淘汰させるべき。大学院の研究室でも効果（成果）は必要。（理, 50歳代, 男）

◆大学の規模に比べて、キャンパスが少々狭いように思う。もっと広々とした環境のもとで教育が行われるとよい。（理, 50歳代, 男）

◆独立行政法人化の嵐に負けないで、学問を守って下さい。（特に今年の例を他山の石として下さい。）（理, 50歳代, 男）

◆・自由の学風は是。実践的教育をとり入れて「自由と実践」を2つの柱に。・文武両道の意味で課外活動を重視。・研究者の多様性を。（理, 50歳代, 男）

◆自由、独立ということで学生を放任している面が強かったが、もっと、一人一人の人生の面倒を見てほしかった。（理, 50歳代, 男）

◆理学研究科は特に優れた研究者を育成する事が重要と思う。（理, 50歳代, 男）

◆若手の育成が最重要課題だと思います。（特に理・工系）そのためには講座制を廃止することが先決だと思います。（大講座制は本質的には講座制と変わりがありませんから、これも廃止すべきです）若手の中で有望な研究者に対しては、研究費と自分の保障を約束して自由な研究をできるような体制づくりが必要だと思います。福井謙一先生の業績も、先生が若くして教授になられて自由な研究ができたことが大きな要因ではないかと思われます。米国のように教授、助教授、助手が独自に研究を

すべきであり、日本のように教授は何も研究しなくても、論文には名前が掲載されるというシステムは廃止すべきであると思います。(理, 50歳代, 男)

◆問13について、過去はそうであったといえるが、これから、急激にこれらの特色が失われることが懸念される。これらの特色をもつ、日本で唯一の大学であるはずであり、わずかでもそのような方向を維持するよう期待します。もっとも、このようなアンケートをとっていることは、この点の大きな自信喪失の現われでしょうけれども。(理, 50歳代, 男)

◆現在、地方の医科系単科大学で一般教育・基礎教育を担当しております。隣接大学(農・工・教育)との統合の話し合いが進んでおり、その中で教養教育のあり方が問題になっております。教養教育の学部(京大・総合人間、広大・総合科学部のような)をつくるか、センターを作り、企画立案して各学部にふりわける方式にするかが検討されています。京都大学の総合人間学部をモデルにしたいところですが、人間環境(院)が出来てから、方向性を見失っているという話も聞きます。将来的に、Medical、Law、EconomyなどのSchoolが出来たときにそのベースとなるリベラルアーツの学部を目指すというのはいかがでしょうか。京都大学は当然「遠山プラン」で言うトップ30に名を連ねると思いますが、文科省の愚策に踊らされることなく、学問の基盤を築いていく大学であってほしい。そして、願わくば、弱小ではあるがそれなりに頑張っている地方大学が潰されることがないような施策を引き出してほしい。(理, 50歳代, 男)

◆現在、役に立つ研究にしか予算が入らない。しかし、京大は役に立たない研究でノーベル賞を取ってきた。すぐに役に立つ研究はやめて、50年後を見すえた研究をしてほしい。そのような学生を作るべきである。(理, 50歳代, 男)

◆中央官庁への就職をもっと積極的にバックアップされてはいかがでしょうか。都心にビルを建て文系学部の1部をそちらに移動するのもいいのではないでしょうか。大阪の会社におりますと東京への一極集中の動きはすさまじいと思えます。(理, 50歳代, 男)

◆私たちの入学試験は5科目(国、数、英、理、社)でした。最近はどうか知りませんが、高校時代に幅広く学習できました。社会に出て、この受験勉強がとても役立っています。教養科目を充実させることも大切だと思います。特に最近の高校生はこれらを余り勉強しているとは思われないので。(理, 50歳代, 男)

◆米国のHarvard、Stanfordなどの教育、研究システムの方が、すぐれていると思う。京大でも、米国の一流大学と比べると、内容が見劣りする。(理, 50歳代, 男)

◆学外の社会とのアクティブな相互作用を通じて、開かれ生きた学術を育むとともに、個をして、あるいは社会を構成する人としての本源的な在り方を問う場であってほしい、と期待します。(理, 50歳代, 男)

◆自由な学風をもちつつも、学生の教育に対する責任は果たしてほしい。(理, 50歳代, 男)

◆我が国において「大学」が消滅しつつあるのではないかと危惧します。京大は「大学らしい大学」を追及していただきたい。(理, 50歳代, 男)

◆企業の管理職として、ここ10年の新入社員をみて感じることは次の2つです。1.論理展開力の不足実際に生じる種々雑多な情報を整理して、関連づけることができない。2.目標設定能力の欠除、現実をみすえて次のステップを描くことができない。これは新入社員だけでなく、日本全体が落入っている「日本病」でもありますが、このような能力をもった人材を多く送り出していただくことを期待します。(理, 50歳代, 男)

◆ノーベル賞にこだわる訳ではないが世界的位置付けのある、存在感のある大学であり続けてほしい。多少問題(管理上)はあるかもしれないが、施設、講義、場合によっては研究までも卒業生(本来は限らなくてもよいが)にフルオープンにしてはどうか。在野に決めておくのには勿体ない人材も多いはず、積極的に掘り起こす(声をかける)と学内にもいい刺激にもなろう。(理, 50歳代, 男)

◆自由、自主、自立といったかつての学風、理念には確かに素晴らしいものがあり、またそれを裏付ける優れた成果や業績もあったが、ここ最近の動きは必ずしもそうした雰囲気が伝わってこないように感じられる。在学中には、試験といえども、参考書持ち込み自由、相談すること以外は何でもOKの試験があったり、自分の考え方を述べさせるような訓練は、そうした試験や授業だけでなく、学生生活においても日常的に行なわれていたように感じられる。今多くの若い学生達と話をする機会があるものの、多くは多量の外部情報の表面をとりまとめたような考え方に類型化されており、自分で分析し、自分で考え自分の言葉で論理的に述べるという点では非常に見劣りする学生が多いのが残念である。京都大学での教育だけでこうした点を改善することは非常に困難であることは良く理解できるものの、是非こうした点にも目を向けていただきたいと切に希望します。(理, 50歳代, 男)

◆東の東大が官僚(高級)を育てている観が強く、文部科学省からの意向を強く反映しがちな優等生タイプの人材を多く輩出しているように思えるが、京大は、芯の通った、一種の“野人”を育てるべきであると思う。それが長期的に観て、激動期の日本に必要な人材を育てることになると思われる。(理, 50歳代, 男)

◆自由で創造性のある学風は残すとともに、社会との接点をもっと積極的に持ち、社会に卒業生が真に役立つと認める教育をしてほしい。 学業面ではすばらしい成果を上げ、能力を持っているが、社会でそれを持って十分に活用され、活躍できるものに研究がなっていない。 こんなにすばらしい能力を持ったという先生方が必ずしも世の中でそれが認められていない。端から見ていて、歯がゆい思いをすることが多くある。これが、京大から巣立つ学生にも陰を落としているように思える。(理, 50歳代, 男)

医学部・医学研究科

◆京都大学の良いところは多種多様な研究が自由な雰囲気の中で行われることだと信じております。ただ、昨今の”役に立つ研

究”重視でそうでない部分は切り捨てる、という実利主義的な考えが京大でも蔓延しているように見受けられます。長期的な視野に立ち、幅広い分野の研究が京大で行えるように、教授会を始めとして柔軟な考えを持って今後の大学運営に当たっていただきたいと思います。特に医学系においては、分子生物学や再生医学に力を入れる余り、その他の分野が若干手薄になっているように思われてなりません。(医, 30歳代, 男)

◆独創的な人間を育ててほしい(方法は私には分かりません)。(医, 30歳代, 男)

◆私も人のことは言えないが、京大に限らず昔に比べ学力の低下、人間性の欠如が問題となっている。親の躾の足らなさもあると思うが、教育現場でも行わねばならない。自主性を尊重することが、他人に迷惑かけてもいい、自分勝手でよい、訳はない。そういった当たり前のことが分かる教育をしていかなければならないのではないか？特に「不自由さ」を科すことも京大の学風に矛盾しているとは思わない。(医, 30歳代, 男)

◆極端な表現をすれば、1人の天才的な研究者を出す中で、100人はぼーっと大学を通り過ぎていったとしても京都大学としては構わないと思う。(医, 30歳代, 男)

◆大学を振り返ってみて。夏休みに世界一周したことや、医学部の友人と話しをしたことを思い出します。勉強ばかりだった高校時代から随分社会人として成長できたと思います。医師としてもそれなりにうまくいっていますし、それには大学が詰め込みばかりでない、自由な校風があったからだと考えています。私は大変満足しています。今のままで良いのではないでしょうか？(医, 30歳代, 男)

◆自由を吐き違い、何もしない人々はいる。しかし彼らに合わせる必要はなく、個々が思う勉強をつきつめればよいと思います。過剰に締めつけることは最高に伸びる人々を頭打ちしてしまうことになりかねない。やはり京大生は自分で自分を律することができる人間であるべきです。(医, 30歳代, 男)

◆京都大学は多大な税金を使い、人材を育成しているということを大学も学生も自覚すべきです。そして、大学で学んだことを社会に役立て還元すべきであると思います。京大は伝統的に「自由」な校風であるといわれていますが、この「自由」とは勉強しないで、テニスやスキーをやる自由ではなく、何かを学び考えることの自由であると後輩達によく理解していただきたい。海外の人々と接してみると、東南アジアにせよ、欧米にせよ、大学時代にいかに勉強しているかということが、最近よくわかります。大学生の学力低下やレジャーランド化が問題になっていますが、京大がこのような状態になっては、日本の将来に強い不安を感じます。(医, 30歳代, 男)

◆学年のレベルが低下しているのなら定員を割ってもある程度以上の学生のみ入学させてはどうでしょうか。(医, 30歳代, 男)

◆独立採算制などが叫ばれていますが、国の研究機関として採算を度外視、というよりもとから採算のとれない研究をするべきと思います。(医, 30歳代, 男)

◆大学病院のあり方について再検討すべきである。現在の大学病院でプライマリーケア、救急医療、頻度の高いありふれた疾患について教育しようとしても無理がある。市中病院のいくつかを大学病院に組み入れて、そこの責任者に大学のポストを与え、学生をローテートさせる方式にすべきである。現在も臨床教授等の名称を与えている関連病院はあるが、医局の人事で決定されており、系列にしばられている。他大学の出身や他大学の医局であってもよいではないか。大学医学部の教授は論文重視で選ばれるのは仕方がないことであろうが、現在のように基礎研究の論文で教授になる傾向がさらに強まれば、臨床の評価がどんどん落ちていくのではないだろうか。手術の出来ない外科系の教授はやはりまずいのではないかと思う。(医, 30歳代, 男)

◆学外で社会で活躍されている方による(いわゆる第3者による)評価等を導入し、業績や教育方法について、客観的かつ多面的に評価、検討される体制になれば、活気が出て若手の意欲も向上するのではないないでしょうか。(医, 30歳代, 男)

◆抽象的ではあるが、京都大学の卒業生として誇れるもっと魅力的な大学として今後生き残れるよう、大学側の努力に期待する。(医, 30歳代, 男)

◆車の入構規制、学生寮の廃止等大学当局の管理が強まっている印象を受けます。大学の主体は教官、学生の研究、教育活動にあるはずであり、事務部門はあくまでその補助に徹するべきと考えます。委託研究費を構領する事務官は論外ですが、独立行政法人となるならば、事務部門をスリム化し、従来の順送り人事を廃止すべきと考えます。どのような業務をしているのか見えず、勤務時間中に談笑する事務官が目につきすぎます。又、担当事務官が交代する度に提出書類の書式が変更される等仕事をわざわざ作っているとしか思えず、非効率です。(医, 30歳代, 男)

◆若く優秀な研究者を、講座制や学閥や医局等々にしばられず公平に雇えるような、研究室であってほしい。若い研究者が研究に専念できるような環境。(医, 30歳代, 女)

◆自由な校風のもとで、学生が画一的になることのない、個性を重視した教育を続けてほしい。(医, 30歳代, 男)

◆私が今、大学から離れた組織(東京大学)に属している。そうして外から見てみると、京都大学は全体的に「唯我独尊」の傲慢な風貌を呈していることに気づかずにはいられない。冷笑の対象である。　自らを積極的に評価するシステムが京都大学に必要であると感じ、今回のアンケートに返答した。　排他的な考え方は止め、他組織との積極的な人的交流が可能な、開かれた組織になることが、もっとも大切であると私は考えている。(医, 30歳代, 男)

◆卒業後も知りたいこと学びたいことがあれば、簡単な手続きで自由に学習目的の利用が可能なオープンな『知のセンター』であってほしい。(医, 30歳代)

◆自由な校風を残してほしい。(医, 30歳代)

◆1. 仕事柄(病院勤務)、先輩、同輩、後輩、数多くの卒業生と接する事が多いのですが、半分以上の方は優秀で、真剣に仕事をこなしておられます。京都大学が人を造るのか、そういう人が京都大学に集まるのかは私には分かりませんが、視野の広

い公共心に富む、なおかつ世界に通用する人材を集め教育し、支援していく大学となるよう心から願っております。 2. 新聞等でセクハラ教授等、大昔の教授達が存在していた事に情けなく思っています。研究成果だけで教授に推される現況には反対します。(医, 40歳代, 男)

◆俗物的なものの言い方で恐縮だが、私たちの頃と同様に「型にはめられたくない秀才」たちの器であり続けてほしい。東大の関西版に堕落しないように。(医, 40歳代, 男)

◆業績をもっと重視すべきである。多様性の尊重は維持すべき。(医, 40歳代, 男)

◆決して標準化された学生・卒業生を作ることなく、真の独創性、自主性のある卒業生を世に出してほしい。特に最近10～20年間は標準化された学生、卒業生が多いように思われる。(医, 40歳代, 男)

◆最近の京都大学は「ミニ東大」になってしまっていたので、将来の見通しは暗いと思う。(医, 40歳代, 男)

◆医学部(特に臨床系)はまず臨床医を育てることを目標にすべきではないだろうか？「ノーベル賞を獲る」研究者を育てるのが臨床系の目標ではないと思う。日本の医学教育全体が国民の求める臨床医を育てられていない現状がある。京大がその問題に率先して取り組み、患者(家族)の心を理解し、病気だけでなく、病んでいる人そのものを癒せる臨床医を育てる医学教育を作り上げるのは、決して動物実験で研究することに劣る事ではないと確信している。(医, 40歳代, 男)

◆京都大学や医学部附属病院の民営化には反対。教育や大学病院での業務は採算を度外視して取り組むべきである。(医, 40歳代, 男)

◆アメリカンフットボール部のサポート拡大を望みます。(医, 40歳代, 男)

◆・研究に関しては余りに自由、悪くいえば放任主義。9割の研究者や大学院生はつぶれる。(残りの1割の優秀な研究者が業績を残すが。)もう少し、しっかりした指導がほしい。・大学院大学を名乗るのなら、「研究」に焦点を当てるべき。教育との両立は困難。学部の学生募集は中止にしてはどうか。でないと、教育はおろそかになり、学生がかわいそう。(医, 40歳代, 男)

◆図書館などの関連施設をもっと利用しやすくしてほしい。(医, 40歳代, 男)

◆早く、国家による管理から離脱すること。本当の独立法人化をすること。(医, 40歳代, 男)

◆私は学生時代の6年間、京都大学交響楽団で定期演奏会と演奏旅行を行い、非常に活発な学外活動を行ってきました。この経験は私の人生にとって本当にかけがえのないものです。先日、田舎の当地へ京大の演奏旅行が回って来ましたので、初めて聴衆の一人として聴いてきました。受けた印象は身内の「ひいき目」もあるかも知れませんが、非常にまじめな演奏で、(昔から田舎の演奏会は体育館のにわかステージが決まりで、聴衆は床に座っている事が多い。氷柱が立っているが、暑いし、虫が多い。そんな中で彼らは一生懸命やっていた)、技術的にも低くない良い演奏会であった。東京の国立総合大学のオーケストラはこんな事はやらず、OBにチケットを押し付けて、地方都市のホールを回っていたし、今もそうしていると思う。本学には、小学生の頃こんな演奏会を聴いて、入団を希望して強く志望して入学してきた学生も少数ながら居た。一方、地方で京都大学のOBの組織は、余り活発ではない。自由と創造の学風は、群れない「一匹狼」的人間を作っているのかも知れない。この点はもう少し改善すべき点があると思う。私の専門である医学の分野においては京大卒は「お公家さん」的で非常に拡張主義的な一部の他大学に対抗し得ていない。(医, 40歳代, 男)

◆教官・職員の採用・昇進についての評価・決定過程に、上層部からだけでなく、下からの意見・評価も入れるとともに、情報を開示し、透明性の高い公正な選出・採用が行われることを期待する。そのために、教授陣においても、一定期間毎に再評価を行い、不適格な人物を排除できる機構制度への改善を望む。(医, 40歳代, 男)

◆医学部では教授の私利私欲で人事がなされることがあり問題と思う。(医, 40歳代, 男)

◆自由な校風はぜひ守ってください。一方で、ノーベル賞学者もどんどん出現してほしいと願っています。そのためにも各自の個性を伸ばせるよう、ゆるやかな時間を学生に与えてください。ただし、医学部に関しては残業人の教育ですから多少徒弟制度的な厳しさも必要かとも思われます。(医, 40歳代, 男)

◆よく分かりません。(医, 50歳代, 男)

◆他大学と比較して、自由な雰囲気を感じるので、これは継続してほしい。卒業生とのコミュニケーション、卒業生が気楽に大学の中へ入っていける(精神的に)とよい。大学の変革、改革等や改築等に伴って敷居が高くなっていく傾向がある。学外者を受け入れる間口を拡げて気楽に開放する、あるいは出入りできる状況を作り出す。(医, 50歳代, 男)

◆ともかく無責任だと他大学の先生方から思われているように思われる。京大は無神論でニヒルという批判があると想像。僕は初志と違い、下野したが、結局、同窓会、同級会などやればまとまっていって、お互い様という面もあり、有り難いこともあります。だいたい年月が経って誤解が解けることもあります。現在の心境：逆らわす風に身をおく草の花(医, 50歳代, 男)

◆多様な人材を集めてほしい。ノーベル賞は今最も金銭を注いでいる分野からは出にくいようである。(医, 50歳代, 男)

◆大学院の定員を増加した結果、考えられないほどレベルの低い学生が院に進学している。これが全体のレベル低下につながっているのではないか。また選択科目が増えているため、能力はあるがしっかり教育を受けていない卒業生が増えている。京大の学生だからといって安心してとれない。これだけ知識が複雑化しているのだから、しっかりした学部教育が必要である。問15の答えのように学部で講義を中心とした基礎教育を徹底的に行い広範な知識を与えたうえで、大学院で研究を主体に行わせることが重要と考える。学部4年で行われる卒業研究は視野の狭い偏った知識を持つ学生を作ることだけに役立っている印象を持っている。(医, 50歳代, 男)

◆一部の優秀な人と、大部分の平凡な人とか共に能力を引き出せるよう、余り締め付けないよう。(医, 50歳代, 男)

◆京大の学風は、慶応などと較べると自由である点はよいが、愛好心を卒業生に育てる教育をしていなさすぎると思います。米国(Johns Hopkins Unic School Of Med)へ留学した経験からも、そう考えます。学問、研究の追求は今のままでよい

と思います。(医, 50歳代, 女)

◆問12と重なります。京都大学に私自身は余り帰属意識・出身意識をもたない者ですが、京都での学生生活は生涯の思い出であます。大学そのものに提言する意志も立場も、又意見するほどのものはありませんが…1. 入学学生は可能なかぎり巾広く、難関(受験勉強の)のハードルを下げる2. 入学後は勉強しない人間(当時私もそうだった)はドンドン落す3. 勉強するが貧しい学生に支援を※私の学生時代の思い出の第一は空腹です卒後も何年か夢にみました。4. 勉学への動機づけ挑発を積極的に行う5. 真実をもって権力と斗う御用学者とならぬよう6. ボランティアの奨励7. より根源的な変革的な研究一方実用的な変革的な研究でリードを！(医, 50歳代, 男)

◆大学移転に関して、学内の検討委員会で3ヶ所候補地が上げられたのに対して、工学部の一部移転という結論になったことは不可解。大阪大学が、移転により魅力的キャンパスを得たのに対し、本来まとまりのあった京都大学が、後発の寄せ集め大学のような分割キャンパスになるのは21世紀に向けて大学として無責任。(医, 50歳代, 男)

◆京都大学の教育の特徴として「創造性の尊重」とあるが、実際の卒業生や、巨視的な意味での研究成果に創造性があるかどうか極めて疑問。高校時代の生活の仕方、入学制度に起因すると思われるが、京都大学卒業生の最近の状況をみると、頭脳は優れた者が多いが、他大学と比べ覇気に乏しい者が多く、京都大学に入学すれば人生の目的を達っしたと思っている人間が多い。自由、独力の学風は尊重すべき伝統で、京都大学を表わす姿勢であるが、入学後、卒業後何もしない自由を謳歌する者が多い。学問や職業に関する基本的な部分ではもう少し"締のつけ"の教育があってもよい。(医, 50歳代, 男)

◆大学の教養課程について、いろいろ問題点があります、もっと問題点があるとすれば大学入試であります。私個人について言えば公立の中・高から1年予備校で頑張って大学へ入る、この時点で大体燃え尽きています。私立の中・高一貫教育で大学へストレートで入る、私の想像ではもっと燃え尽きています。当然の様に教養の2年間は遊ぶものと心得違えをするものが出てくる、本当に遊んだものは、ドロップアウトして進級出来ない事態になります。途中で気付いたものは、何とか専門に進んでも教養の単位をとるという羽目になります。教養課程ではドイツ語や英語の予習に殆んど一週間が追われ、化学や数学等宿題や予習の必要な学科もあって、本当の所遊んでなどおれないのが実情でした。教養課程は人間形成に必要だ、といわれる。授業を受けた半数近くが落ちる学科は、学生よりも教師の方に資質を問われる問題点をかかえている様に思われ、こういう学生を引きつけない、出席の悪い授業は教養から陶汰されるべきと考えます。医学部について言えば、教養課程で解剖学や組織学を教える一方医学の最先端の現状をこの時期に知識として流すことは、革命的に学生が医学に真向から取り組むだろと確信します。専門課程のある学科でクラスの40名近くが赤点でした。この教授は世界的にも著名な学者でありましたが、事態を医学部長に依頼したのです。医学部長の部屋は出来の悪い学生で寿司詰めです。この時思いがけない言葉が医学部長から発せられたのです。「今日は教師と学生ではなく、先輩と後輩として君達と話しがしたい」と、何を皆が喋ったのか憶えてないが、教授を間近に囲み、興奮と感激で帰ったのを思い出す。当初問題の教授はこの世界のバイブルともいうべき一冊の洋書を紹介し、真に受けた私などは試験範囲を50頁も読んで試験に臨んだが、何も答えられなかった。その後真面目に授業に出席し、黒板に書かれた事を憶えて試験に臨んだ我々が皆合格したという次第であった。当時臨床講義でも脳外科や内科のＣＰＣは超満員であった、基礎でも解剖、病理、組織等は出席者が多かった。追試も随分受けたが、魅力的な講義には難なく通った様に思う。人を教えるという事は大変なことだと思います。(医, 50歳代, 男)

◆(私が消極的なためかも知れないが)卒業後の交流が比較的、限られている、と感じることがある。卒後に専門外の事についてアドバイスを求めたり、再学習する際の情報に乏しい。義務的にならない程度に自由にアクセスできる場があればよいと感じる。もしあるとすればその情報がうまく伝わっていないと思う。(医, 50歳代, 女)

◆京都大学の卒業生は、特に医学部の場合であるが、互いの交流が少ないと思う。また、他大学では、大学の昇進人事の際に同窓意識でいろいろなsupportをされるが、京都大学は全くそのようなことをしない。これは一面では実力主義ということでよい点だと評価されるかもしれないが、世の中は正当な実力の評価がなされないことが多く、その点で、いろいろ世間的な意味でいうと損をしていることが多いと思う。もっと同窓意識をつよくして連帯した方がよい。また個人的には京大特に医学部出身の人はプライドが高すぎて一匹オオカミになっている人が多い。人格的には余り尊敬されない。むしろいやみな人が多い。もっとプライド意識を捨てるべきである。受験戦争に勝ったからエリートという世間での通用はしない。記憶力のよいのを頭のよいことと勘ちがいしている人が多い。(医, 50歳代, 女)

◆権力におもねることなく、自由、独立した気風を今後とも大切にしてほしいと思います。(医, 50歳代, 男)

◆もっと柔軟性を期待する。例えば生物系をまとめてしまう。今更、農学部(名称)が残っていることにおどろく。(医, 50歳代, 男)

◆お互いにサポートする体制は乏しい。(他大学に比べて)それが、自由、創造という風潮なのかも知れない。(医, 50歳代, 男)

◆他大学への出向時のcollaborationを充実して頂きたい。卒業生であるからは勿論、大学間を越えた広い視点で、協力体制がとれることが望ましい。(医, 50歳代, 男)

◆①独立独歩、創造性、自由は悪くすると一匹狼になり、力のある人が相応のポストに付けない事あり、学問が必要な時もあるということを、少し位は考えても良いのでは。②東洋医学の講座がほしい。③ＯＢのスポーツ大会を聞いては？(テニス、ゴルフ)④広々が必要な研究には、キャンパス移転。(医, 50歳代, 男)

◆やはり京都大学は、初心に戻り反骨精神を発揮して、自由な研究、創造性の高い分野において、大いに力を発揮すべきだと思います。東大が官僚の入口であるなら、京大は研究者の入口であると思います。ノーベル賞も京都大学出身者が多くを占めています。大いに自由で創造的分野に、力を発揮すべきと思います。(医, 50歳代, 男)

◆自由な学風を尊重してください。(医, 50歳代, 女)

◆海外からの大学生、大学院生を積極的に入学させ、日本の一流大学のみならず、世界の一流大学を目指して下さい。（医，50歳代，男）

◆卒業後の大学は、当時、研究費がある程度自由に手に入ればと思った。多忙で研究する時間が、なかなか取れなかった。時間がほしい、と思った。（医，50歳代，女）

◆大学院大学に材構改革されて各部門の名称が長たらしくて、さっぱりと昔の大学のイメージが沸いてこなくなった。名称自体はともかくとしても、これひとつ取り上げてもあくまで大学の考え方であって、外部の者がどの様に考えているかを視野に入れた名称の変更であったのか理解に苦しむ。学際的な事が分化しすぎて無理な事かも知れないが、更に統合整理が必要でないか。時代を先取りするのも大事であるが、人間を大学人として形成するのに必要な部分は変わっているとは思われない。しかし最近の大学の動きは時代の流れに必要とされないものはさっさと整理されるし、整理されるから学生もその方面に進まなくなり、すべての学問の基本がおろそかにされている気がする。これでは伝統も何も必要でなく、総合大学である必要もなく、専門の単科大学（専門学校）や研究所で事足りる様になるのではないか。総合大学出身というからには、大学人としてふさわしい教養を身につけた学者・学生・教官がいてもおかしくないはずであるが。その分野だけでの能力を競い合うのであれば総合大学として膨大な予算をくう材構は不要であり、効率のよい施設を維持運営する方がよいとも思われるが。私の言いたい事は旧来の総合大学を将来も総合大学として維持していく必要があるのかということです。（医，60歳以上，男）

◆自由、創造性を重んじる校風を続けて下さい。（医，60歳以上）

◆学問の自由と独立、しかし独りよがりでなく開かれた大学であってほしい（医，60歳以上）

◆一般、社会人に講義の開放又は、聴講は出来ないものか、他分野の自己研修のため（医，男）

薬学部・薬学研究科

◆理学部、文学部はいいとして、他の学部では、応用性・社会性を持ってほしい。薬学部は特に名前だけで、中身は全く薬学を教育・研究していない。今のままでは、「薬学研究科」の存在意義がない。理学部・医学部に吸収された方がまだマシ。社会が大学に期待していることと、各研究者の自由の名の下で利己的、趣味的研究とのギャップが大きすぎる。京大の「自由」さは、わがまま、好き勝手とは違うはずだ。（薬，20歳代，男）

◆私立大学並に国際交流を活発に。卒業した薬学部は、実践研究でもなく、基礎研究とも言えなかった気がします。基礎研究は理学部などに任せ、薬学部はもう少し実践応用に目を向けてほしい。もう少し臨床に目を向けた方が良いと思う。製薬企業に就職した者の目から見ると、大学の研究はどっちつかずで考え方が甘いと思う。（薬，20歳代，女）

◆国語力を高めるための教育を充実させる必要があると考える。（薬，20歳代，女）

◆大学院講座のスタッフ（教授・助教授・助手）が卒業生、しかも同講座出身者に傾りすぎているように思います。出身者での良いのですが、卒業し直接すぐにスタッフになる点が悪い。これは学問の幅を狭めているという意味で非常に悪い状態にあり、学問の本質を追究するためには、より幅広い人材の採用、決定指針を定めることが急務であると思います。スタッフの任期制を取り入れることも一つの改善策となると思います。これは薬学研究科だけの問題なのでしょうか？（薬，20歳代，男）

◆京都大学に在学し、良かった点は、自由な学風に基づいたところです。受験勉強で疲れたところで、教養課程の2年間は非常に有り難かったです。自分を見つめ直し、将来のやりたいことを考えることが出来ました。反面、自由をはき違えて落ちていく人もいることは確かです。しかし、京都大学では義務教育である小中学校とは全く違う「伸びる者だけ伸ばす」「なりたくない者は勝手にしなさい」という風を失わないでもらいたいと思います。全員のレベルアップよりも少数の優れた人材が確実に世界トップレベルになれる環境を保ってほしいと思います。（薬，30歳代，女）

◆・京都大学の教授から優れた研究業績がどんどん出てほしい。これからも日本、世界を引っ張っていくような研究者が卒業生からどんどん出て活躍してほしいと思う。・独立法人化の波でお金にならない研究が軽んじられる傾向が出てくるとは思うが、学術的に優れているかどうかの観点を決して失うことなく、研究の評価をしていってほしい（企業では決して出来ない採算度返しの研究が出来るのはおそらく大学だけなので）。また、難病等、企業がやらない分野の問題の克服にも目を向けてほしい。・特殊法人改革で日本育英会の将来見通しが不透明だが、京都大学の学生がお金のことを心配することなく、学業に専念できるようにしてあげてほしい。・実験室の設備の改善、安全性の改善をして、教授、学生たちがよりよい研究が出来るよう環境の整備をしてほしい。・廃棄物についても環境に配慮した方法で処理することをこれからも徹底してほしい。（薬，30歳代，女）

◆社会に出て、多くの京大卒業生に接したが、皆個性的ですばらしい。特に物事を深く考慮する力は、すごいと思う。ただ、迅速な事務処理能力という点をみると東大卒業生の方が上に思う。（薬，30歳代，男）

◆他大学の卒業生で大学院に入学してくる人達の中には優秀な人もいるが、いろいろな意味で非常に程度の低い人が多いように思う。選考システムを改善すべきだと思う。（薬，30歳代，男）

◆薬学部では、教授が京大、薬卒業生ばかりである。もう少し、広く優秀な教授陣をそろえてほしい。薬系大学院の科研費取得状況では、京大、薬はいつも下から数えた方が早い。薬系独特な研究領域も存在はするが、真剣に医学研究科との統合を考えた方がよいと思う。（薬，30歳代，男）

◆・面接試験もあるべきではないかと思う。学力だけで「京大卒」のブランドを与えるのはどうか。・これからももっと世界的な学者を育ててほしい。そのためにはスパルタ的押し付け教育はしない。・留学生をもっと増やして国際的にするのもいいかも。何ヶ国もの人が集まってする英会話コースを教養課程で作るとかもできる。・やや学力が下がってきているように思う。何とかならないのか。（薬，30歳代，女）

◆・実用的な、「役に立つ学問」ばかりが世の中や文部科学者に重要視され、「役に立つかどうかわからない学問」が軽視される傾向が、近年強いように思う。京都大学には、実用的でない学問を自由に研究できる風土を守ってほしい。(「実用的」「非実用的な学問」両方が大事で、要は、そのバランスの問題だと思う)。・諸外国からの留学生をさらに、積極的に受け入れてほしい。(薬, 30歳代, 男)

◆1. 2回生のうちから専門教育を増やすようにしていただきたい。受験が終わって余り勉強しなくなってしまうから。(薬, 30歳代, 女)

◆世界に通用する大学に。時代の流れにおいていかれないようにしてほしい。研究は確かに大切。だが将来の日本のためにも、教育は本当に大事な根幹となるものだから、先生方も教育にもっと参加すべきです。教育に参画した先生方に対する高い評価が生まれるような地盤がほしいと思う。学生から先生に対する評価ができると、先生方も少しは動くのではないでしょうか。(薬, 30歳代, 女)

◆もっと社会人が職を失うことなく大学、大学院で学べるシステムを特に理科系の学部、研究科で広げていってほしい。更には時代を先取りするような分野の人材を創るための柔軟なシステムを大学として提供していくべきだと思われる。その一つとして、大学、大学院における「教育」と「研究」を明確に区別すべきだと考える。「できない教官」は直ちに辞退すべきだし、「出来ない学生」も切り捨てられるべきだと思う。しかしながら、どちらかができるのであれば「教育」又は「研究」それに特化してもいい時代なのではないだろうか。「できない教官」も「できない学生」もどちらも京大にとっては不幸をつくり出すだけであるから、「できる」システムを準備し、それにそぐわない者は辞める、でも別の受け皿もある、そんな大学にすべきだと思う。(薬, 30歳代, 男)

◆大学を人間教育の場と考えるのか、専門家養成の場と教えるのかで、教育内容は変わると思う。人間教育という意味では、一般教養の授業では全くダメだ。世界の政治、経済、歴史、科学、倫理など、授業ではなくdiscussionをして自分の考えを述べなければならない。正解のない議論をしなければならない。これがちゃんとできない人、余りに人間として問題のある人を、京都大学の卒業生とすべきではない。卒業基準を厳しくすべき。専門家の育成という意味では、助手や助教授の専門家としての、レベルアップが必要であろう。学生が助手や助教授の研究を進めるための労働力として使われてはならない。学生は授業料を払っている。様々な専門技術を、自由に好きな時に好きなだけ教えてもらう権利がある。現状は配属された研究室の労働力である。様々な研究室で幅広い技術の収得をし、助手や助教授がやりたいテーマをやらされるのではなく、学生がやりたいテーマを助手や助教授が専門的知識と技術により、サポートして指導、教育すべきである。教員の能力不足のため、それができていない。給料を払って研究をさせている企業と、教育機関である大学とは異なることを教員は自覚していない。(薬, 30歳代, 男)

◆・研究レベルで日本が上位をKeepするだけでなく、世界でも同様であってほしいと思います。・卒業生ネットワークを強化するのも良いかもしれません。(慶応大学では、卒業生一人一人にEメールアドレスをあげている、ということを2年位前に聞いたことがあります。) これにより、今までやっていた卒業生の最新情報を、郵送などで集める必要もなくなるし、もっと活発に情報交換ができそうなのですが…。(薬, 30歳代, 女)

◆1. 学内ばかりでなく、学外からも広く人材を登用する。 2. 教員任期制には、基本的に賛成だが、“学”には“民”には出来ないような長期的、基礎的研究も行える利点があることも忘れてはならない。下手に任期制に囚われると、そういった“学”の良さを奪いかねない。従って中期間(5年が目安)の任期制が望ましいと考える。 3. 英語能力の強化。もはや英語が出来ないと研究者として通用しない。英語が出来ないとたとえ手技が優れていてもトータルの研究者力としては、大きなマイナス点をつけられる。従って2回生までの2年間、“生きた英語”を学ばせる機会を大幅にアップさせる。“京大の卒業生は国際人として使える”という評価を各界から頂けたならしめたものである。 4. 研究環境の整備。学生数や研究レベルからは信じられない程、研究環境は、スペース的にも質的にも貧弱である。限られた資源の中で、いかに効率的に研究を行うか？を考える良いトレーニングにはなるだろうが、より良い研究を行う為にも環境整備は急務である。 5. “産”との共同。そのためにも積極的な産学共同研究を推進してほしい。学にとっては産の豊富な資金(最近はそうとも言えないかもしれないが)を期待出来るし、産にとっては豊富な人材の発掘につながる。(薬, 30歳代, 男)

◆自由の学風において、他大学より優れているように思うが、やはり所属する研究室によって研究テーマも決まってしまうことが多いように見受けられた。実際は分属して、しばらくしてから自分のやりたいことが見つかることも多いのではないだろうか。研究室の従来のテーマのみにしばられるのではなく、その分野の新しい研究テーマにも若い人(院生)が取り組めるような気風がほしいと思う。国際的にも、学術的に認められるような研究テーマ・分野をどんどん開拓していけるような機関であってほしいと願います。(薬, 30歳代, 女)

◆企業の研究所に入ってまず、「大学の研究設備はなんて貧しかったんだろう」と思った。勿論、金銭の問題であるため、改善するのは難しいだろう。しかし、アメリカの大学では企業との共同研究、ベンチャーなどを活用して最先端の研究設備を備えているのだし、学生には「京大に入って良かった」と思うような環境で研究させてあげたい。(薬, 30歳代, 男)

◆1. 他の大学と合併して欲しくない。 2. 自由な学風を尊重してほしい。最近自由さが欠乏しているように感じる。2年間ののんびりした教養時代を復活させてほしい。 3. 卒業した学部以外への編入学を容易にしてほしい。ロースクール設立時に他学部出身者に門戸を広げてほしい(ロースクールに入学してみたいと考えております)。(薬, 40歳代, 女)

◆薬学部でしたが、場所的にも孤立していたせいか、他学部との交流が全くありませんでした(サークル等に入っている人しか)。いろいろ視野を広げるために、何か意見交換の場を設けた方がよいと思います。(薬, 40歳代, 女)

◆京都大学の教育の特徴としては、問13でも挙げられているように、多くの良い点がある。これらに関して、あるいは具体的な活

動について、学外の人々への情報発信に努めてはどうか。私立大学がその経営上の問題から入学者増のための施策を種々行っているのと同様の視点で改善を進めて行くことも重要。そのことが長期的には京都大学への支持を生む。（薬，40歳代，男）

◆国際化を意識した教育・研究を実施するとともに教育環境を整備してほしい。学生の個性を伸ばす教育を実施してほしい。（薬，40歳代，男）

◆卒後20年も経っておりますので現在の大学の状況はよくわかりませんが、学生の質の低下が心配されているこの頃、京都大学には、変わらず、高い水準で、専門分野を率いていってもらえる存在であってほしいと思います。（薬，40歳代，女）

◆能力の高い学生を多く教育し、社会へと還元していくにあたり、卒業生の可能性や能力を最大限に生かせる社会の現場についても、身近なものとして感じることのできる教育を願います。恐らく、能力の高い京大生であれば、日本の中枢や世界で広く活躍できる場が数多くあると思います。その可能性を彼らに問うような教育を期待したいと思います。（薬，40歳代，女）

◆一般教養は大学入学までに修了しておくべきと考える。したがって、入試はクイズ的なものにならないように受験生の一般教養を広く試すべきものであることが重要である。そして、京都大学での学部の4年間は専門教育に特化すべきである。（薬，40歳代，男）

◆国内での立場は勿論、国際的な立場をはっきり打ち出してほしい。京都だけではないけれど、日本国内の大学は、国際的に”通用しない”、”知られていない”という感は否めない。卒業生の国際競争力のみならず、大学独自の国際競争力を高めてゆきたい。そのための語学教育と、語学（外国語）に触れる時間、活動を重点にカリキュラムを組んでもらいたいし、クラブ活動でも力を入れて行きたい。スポーツ活動も含めて、”知られる”大学でありたい。今年医学部一回生の息子がＥＳＳで活動している風景をみて、感じていることです。（薬，40歳代，男）

◆・先頃オープンした博物館は、大人も子どもも楽しめ、良かったです。・卒業生名簿がなくなり残念です。氏名と勤務先だけでもわかる名簿があれば、と思います。（薬，40歳代，女）

◆自由な学風の中、学部や成績にとらわれずのびのびと大学生活を過ごせた。この時代に培った人脈は専門領域を超えて多岐にわたり一生の財産である。大学院では、よき指導者のもと研究の面白さを知り、現在の専門性へと受け継がれている。同分野の卒業生が全国で活躍中であり、なにかと支え合えるのは強味でもある。（薬，40歳代，女）

◆京大卒の野依教授のノーベル賞受賞のニュースが飛びこんできました。おめでとうございます！。“貧しかったので・・・”という言葉がありましたが、今のこども達には、たとえば降りてくる予算が少なくて実験器具が揃わない“ハングリーさ”はあっても精神的にハングリー精神に欠けているので、“何がなんでも自分が・・・（発見する！）”という気概が感じられません。今の学生たちの中から、何人のノーベル賞級の学者が出るのかと案じています。（私が現状を知らないだけかもしれませんが・・・）大学での学問は学生側がactiveにすべきもので、先生が手とり足とり教えるものではないですが、教える側もたえず研讃して高い水準であってほしいと思います。またネットでリアルタイムに世界の状勢がわかる時代ですので自分の研究分野に関しては、学部学生の時から、国際的に意見を交換できればと思います。「ひらめき」を「きらめき」にかえるには、学生、教師、両者の高い資質が必要だと思われます。国際的に1目おかれる研究を看板に全国主要30大学のトップとして生き残ることを願ってやみません。独立行政法人後も母校の益々の発展を祈念いたします。（薬，40歳代，女）

◆京都大学で、自由の学風、創造性、独立性を尊重する精神のもとで、学べたことは、幸いだったと思い感謝しています。研究者としても教育者としても一流で尊敬できる先生が多く、周囲の学友も啓発される人が多かったのは、幸甚でした。このような貴重な伝統を守り続けて頂きたいと思います。また、専門分野だけでなく、幅広く教養を深めて、視野を広げ、識見を高め、豊かな人間性、常識を兼ね備えた人を育てて頂きたいと思います。大いに期待しています。（薬，40歳代，女）

◆これまでとくに自然科学分野で優秀な人材を多く輩出してきた背景に自由闊達な気風があげられる。このような研究・教育環境を堅持し、東大とは一線を画した独自の校風と社会への貢献を目指した大学運営を期待したい。（薬，40歳代，男）

◆三校出身の父と二代にわたっての京大出身ですが、父の話を聞くにつけ、西の雄としての誇りと自尊心を持ち、昔のバンカラムード満載の学生時代を送った父を羨ましく思います。 今の京大には、そのような派茶目茶な伝統？が消えつつあるのではないのでしょうか？ 知識を貪欲に学び、実践で生かせるようなノウハウも同時に習得していくと同時に、学生時代でしか味わえない学生同士、先生を交えての夜を徹しての喧喧諤諤の討論等々、貴重な経験を一杯積んでいかれることをこれからの学生に対して、やっかみ？半分のエールです。（薬，40歳代，女）

◆大学の建物が一時期に比べて良くなってきたが、環境としては劣悪である。また、学生の治外法権のようなブロックが多く、治安の悪さも気にかかる。自家用車などの障害物をキャンパス主要部から排除し、外から訪れたときに気持ちよいキャンパスを整備してほしい。教員については、無能な教官を排除するシステムをつくるべきである。（薬，40歳代，男）

◆・教授に任期（example：5年毎の評価）をつくること。 ・学生に教授の評価をさせるシステムを作ること（stanford大学院に留学しましたが、このシステムがありました）。（薬，50歳代，男）

◆問13にあるように京大の伝統的な「自由」、「創造性の尊重」、「独立性の尊重」といった学風を継続、重視していただいた方がよいと思う。研究、その前に教育の土台は国内的な調和や競合を重視するのではなく、国際的な存在を認知されるような方向で改善されるべきと考える。（薬，50歳代，男）

◆卒業以来30数年、大学との接点もほとんどなくなっています。こんな状態で大学に期待することと言えば、優れた人材を輩出してほしい、ノーベル賞学者が切れ目無く出てほしい、といったことでしょうか。最近時々卒後教育のための講座が開かれているようですが、大いに結構だと思います。今後は、こういったアンケートを取らなくて済むよう、時には学生、院生、教官、卒業生を交えた意見交換会のようなものがあればと思います。是非企画して下さい。（薬，50歳代，男）

◆この30年間に京都大学の学風は随分と失われてしまった気がします。1次2次と入試を施すことが本当にフェアなことなのか。人生は一発勝負なのにここだけやり直せるのがいい経験なのか。全科目一律200点、1000点満点の足切りなし採点が文系、理系で異なる配点となったことで、より専門的知識を有する学生が増えたのか。逆に学生の人間の幅が減ったのか。検討いただきたい気がします。私の卒業式は曲がりなりに出来ましたが、4月の入学式はバリケードで流れました。その後大学の雰囲気がどう変わったのかと想います。（薬，50歳代，男）

◆より創造性の高い研究へのフォーカス化と研究員の養成。学閥をこしての他大学の研究者の導入と外国研究者の教授陣への採用（薬，50歳代，男）

◆学部にもよるだろうが、卒業生に対して、特にラインから外れたような卒業生に対して、中央からのサポートが全くないことが一つの大きな問題ではないか？卒業生だけのクローズしたグループを形成し、「ととう」を組めということではないが、少なくとも東大、阪大の卒業生には仲間として中央からのサポートがあり、そしてその結果として東大、阪大の卒業生は社会の中で確実にポストを得つつあると思う。他方、京大卒業生は、地方でのポストを次々と失い、いまや京都の大学といった、いわば地方大学の一つになり下りつつあることが誠に残念。京大に残った人達のスケールが小さすぎ、自分のことしか考えないことが最大の問題。もう少しグローバルな見地から京大生の活躍をうながす必要あり。そしてそれをサポートする必要あり。（薬，50歳代，男）

◆教授の選考について．現在の教授の中には、京都大学に入学し、大学院、助手……教授と、全く外部（勿論海外への留学等はあっても）を経験しないで、教授になられた方が多いと思もわれますが、やはり、将来の京都大学の発展を考えた場合、教授選の選考基準に外部経験の有無を入れた方がよいと思う。これにより、外部から客観的にも京都大学をみなおすことも出来、人事の流動性も出来、又、非常に沈滞した講座も少なくなると思います。（薬，50歳代，男）

工学部・工学研究科

◆京都大学の卒業生は、独自性が強いため会社では「変人」として見られがちだが、それが京都大学らしさであり、他の大学にはない特徴であり、新しいものを生み出す力なので、今まで通り、なくさないでほしい。均質な人間作りはやらないでほしい。最近学力低下が言われているが、そのことはここ数年でも目に見えている。特に基礎学力の低下は激しいと思う。これまでの京都大学らしい入試や授業、学風を維持してほしい。（物事を自分の力で考えていける人材育成に期待します。）（工，20歳代，男）

◆京都大学の卒業生は将来の世界をしょって立つ人材です。だからこそ、高度な専門的知識、幅広い一般教養、豊かな人間性の全てを満たすことができる人材を育ててほしいと思います。専門知識のみに偏った教育だけは、是非とも避けてほしいです。（工，20歳代，男）

◆今にして思うと、大学でやったことが専門性がつき、今の自分のある姿に結びついていると思う。そう考えると基本的には自主性に任されるシステムは大学でしていいと思う。（工，20歳代，男）

◆世間ではなく、歴史が京都大学に求められていることを自覚して運営を行って下さい。（工，20歳代，男）

◆京都大学の良いところは、自由性を重んじることで、学生天国が天国のアイデンティティを確立していくことだと思います。近年の社会の流れに迎合することなく、古くからの伝統ある良き点を思い出して、改善すべきだと思います。（工，20歳代，男）

◆大学院（工・化学系・修士）の講義は先生方の研究紹介のような講義が多く、普遍性に乏しいように感じていました（先生にとっては準備が楽だとは思います）。このため出席者も少なかったと思います。研究室によっては学生が「教官の実験のための兵隊」のような扱いのように思われました。先生は10何年かかっても成果が出ればOKでしょうけれども、学生は2年（修士ならば）しかないのです。研究室間の交流が少なく、やや閉鎖的でした（建前は大講座制でしたが、余り効果はないようでした）。学生の囲い込みのような雰囲気もあり、学部→院への進学の際に研究室の移動がしにくいように思われました。流行に流されることなく、確固たる信念を持って独自のあるべき姿を探して下さい。「どこにでもありそうな大学」にはなって欲しくないと思います。移転するようですが、地域とのつながりがないのは良くないように思います。「つくば」のようなところは、余り教育には良くないように思います。（工，20歳代，男）

◆多くの研究室がありますが、成果のない研究室は廃止すべき。望まずに配属されてしまう学生たちの芽を潰してしまいます。（工，20歳代，男）

◆アメリカの大学で一般的に言われているように、大学に入学することでステータスを得るよりも、大学を卒業することでステータスを得られるようにした方が良いと思う。（工，20歳代，男）

◆夏期の冷房設備を整えてほしい。京都の夏はつらい。（工，20歳代，男）

◆入学を簡単にして卒業を難しくする。（アメリカ式）講義のジャンルや講師の幅を広げる。（工，20歳代，男）

◆理科系の研究に関して、もっと研究内容を特許化するとか、学外（国家プロジェクト・企業・他大学）と共同研究を進めるとか、外部に対してアピールした方が良いと思う。（工，20歳代，男）

◆学部がいろんな所に分散してしまうのは残念です。なるべくならば一ヶ所がいい。理系と文系の人間が交流できる、とか、ちょっとした空き時間に部活に顔を出すとか、小さなことのように見えて、実は大事な事なのではないかと思います。（工，20歳代，男）

◆京都大学に限らず、日本の大学全般に当てはまると思いますが、欧米の大学（一流）の卒業生と比べると、社会での”即戦力”となる人材が少ないように感じています。特に理系で顕著と考えています。学生に対して研究が社会とどのような関係を持ち、これからの方向性、発展性、経済的な効果がどうなのか、を意識させる必要があると思います。工学系は特許を書くことも

頑張って頂きたい。（工, 20歳代, 男）

◆工学部が属していたこともあり、やはり、大学では、研究を重視した教育を行ってもらいたいです。机の上の勉強などは、どこでもできることであり、工学部に必要なのは、研究。実験の中から、何かを見い出すことにあるのではないかと思うからです。（工, 20歳代, 男）

◆・自由な学風を失わずに維持してほしい。・独自色のある教育・研究活動を続けてほしい。（学生さんの様子も大分かわってきていますが、これまでの伝統的な雰囲気が伝わるとうれしいと思います。）（工, 20歳代, 男）

◆何をしゃべっているのか聞き取れない授業や、全く理解できない授業が少なくなかった。そんなとき、大学の先生方は、よく大学の勉強は高校までと違って、教えられるのではなく自分で考えるものだというような趣旨のことをよく言っていたことを覚えている。 当時はそんなものかなと思っていたが、それは教育者として責任を放棄した言葉のように思えてならない。 大学は、研究機関である以前に教育機関であってほしいと思う。 また、大学の先生には教育者としての意識をもっと強くもってほしい。（工, 20歳代, 男）

◆欧米の大学では入学するのは簡単だけれども、反面学位取得のためにはかなりの努力を要すると聞いたことがあります。京都大学はその逆のような気がします。入学者選抜試験を簡単にする必要は無いと思いますが、学位取得を厳しいものとしても良いのでは、と思います。そうすることによって結果的に優秀な人材も育ち、大学としての成果＆実績もさらにすばらしいものが得られると思います。（工, 20歳代, 男）

◆社会に出てみると、大学で学んだこと、特に大学院以降で学んだ専門的な知識を生かせる場所は ほとんどなかったです。おそらく、他の卒業生も同様だと思います。ただし、基礎的な数学や、 物理、化学はそのバックボーンがあるかないかで非常に仕事のやり方が変わってきます。 また、データに基づいて考えを展開していく方法などは、学生時代に学んだことが 生きているのが実感できます。 卒業生をリクルートする立場から言わせていただくと、専門的な知識が あるかどうかより、科学的な考え方ができるかが重要な判断基準です。 あと、会議等でちゃんと発言できて、他人とコミュニケーションできる人が好ましいです。（工, 20歳代, 男）

◆会社内で京都大学の学生担当のリクルータをしていますが、最近の学生は勉強はできると思いますが、人間的にはできているとは言えないように思えます。（勉強もできて人間的にもできているのはほんのごくわずかと思います。）人間形成の場を提供するのも大学の役割の一つだと思いますので、その辺りに期待したい。（工, 20歳代, 男）

◆東京では、最近、昔と比べて「京都大学」の名前を聞かなくなってきた。 入学当時、全国で最も偏差値の高かった京大を第一志望として入学し、 京大の卒業生として誇りを持っていたが、最近、京大は大丈夫か？と思う ようになった。卒業生として大変残念である。 個人的には、問12に書いた事項を早期に実現して、各分野で京大がトップの評価 を得るよう最大限に努力して頂きたい。（工, 20歳代, 男）

◆学外活動（サークル活動）への支援を期待する。 学部を超えた幅広い人間関係の形成の場であり、思慮深い京都大学生同士が様々なことを議論し熟考できる、いわばもう一つの学問・研究の場であった。こういう場も大事にして頂きたい。 最近は、周辺状況の変化で例会に使用できる場所が減少しているという噂も後輩から伝わってくる。公認サークルには相応の活動場所の提供をお願いしたい。（工, 20歳代, 男）

◆上にも書きましたが、自由で学生の自主性が比較的尊重されている点は、京大のすばらしいところだと思っています。今度とも、私たち卒業生が誇りに思えるような大学であり続けてほしいと願います。 気になる点としては、教員（研究者）が比較的出入りが少なく、硬直しているのではないか？という点があります。外部の優れた研究者をもっと積極的に登用していくべきだと考えます。また、外国人や女性の研究者が非常に少ないと思います。登用に際して差別があるとは思っていませんが、そのあたりの閉鎖性は改善していくべき課題ではないかと思います。（工, 20歳代, 女）

◆社会人を柔軟に受け入れる教育研究体制を希望します。社会人になって12年目の昨年、改めて専門分野について深く学びたい、できれば業務に関連した応用分野での研究をしたいと思い出身学部の教授に相談したことがあります。その際に伺った事ですが、 ①社会人受け入れは行っていない。②1人共同研究を行っている社会人がいるが、他大学の懇意の先生のところに所属する形で、実質こちらの研究室に通うという変則的な形をとっている。③その際は会社の業務と研究対象を一致させ、会社に勤務配慮を認めてもらい、研究に専念できる環境を整えること。 学者として学術研究で大成するためには、生半可な取組では無理であることはよく理解できますが、これは余りに高いハードルです。結局、現在他大学で学ぶ道を探しています。学術研究だけでなく、実社会と関連の深い応用研究や限られた時間で学びたい社会人のニーズを受け入れてもらえる教育研究体制が整えられることを希望します。（工, 30歳代, 女）

◆各教官、研究室、学部間で対話が行われるように配慮すべきだ。食堂のみならず複数の分野の人々が集まり、意見を交換できるような空間、セミナー、講演会等をプロポーズするべきで、京大の校舎、図書館、食堂などのパブリックなスペースを見れば金の使い方のバランスが悪いのが残念。（工, 30歳代, 男）

◆工学研究科修士出身で研究職に就いた私としては、京大での博士号取得の難しさ（結果として博士人口の少なさ）を感じた。京大では、博士号は大学研究員の人口のような印象があり、コースでも3年以上かかる場合が少なくなく、結果として博士課程への進学者も少なかったように思う（私の同期では2～3人／60人(修了者)程度）。一方、研究者の世界ではDr.で初めてstart line、国内、特に海外（米国）ではDr.を出て発展させ30台半ばで起業という一つのベンチャーまでの流れが大学のDr.コースから始まる例も少なくない。Dr.コースまで含めて一つの研究者育成の課程を考え、その就職活動も支え、場合によっては企業研究への道すじをサポートして、新分野の研究の礎を築いてほしい。（工, 30歳代, 男）

◆京都大学には優秀な研究活動を行ってる人々が多くありますが、残念ながら一般の学生にまでその活動が知らしめられ、広く

教育されることがありません。研究公開を進め、授業の中で、あるいは特別講義の形で専門外の学生たちにも情報を知らしめ、士気を高めてほしいです。また、近年は私学の環境整備が進んだために京都大学の教育環境が遅れてしまっている感が否めません。世情を調査し、計画的に整備を進め、将来の社会を担っていく学生たちにふさわしい先進的な環境を与えてあげて下さい。（工，30歳代，女）

◆京都大学の卒業生は各方面で幅広く活躍されています。本人の個性、能力を最大限に引き出すよう、これまで以上に自由な学風を尊重していただきたいと思います。（工，30歳代，男）

◆「教育の場」として国内ではほぼ最高峰の人気を誇るという当大学も、世界的に見るとさほどのこともないらしいと聞いています。ノーベル賞学者を輩出した理学部ばかりでなく、どの学部でも国際的水準に達するような学生が育つような人材と環境の養成と創出を望んでいます。（工，30歳代，男）

◆・西の京大である誇りをいつまでも維持していくこと。・教員の採用等おかしな点が多い。もう一度熟慮して。一つのやり方に固執しないこと。それは企業だけでなく、大学（院）も同じ。・白い巨塔にはならないように。（工，30歳代，男）

◆アカデミックな学風は残しつつも 起業の精神を育む教育を加えていけば、伝統を守りつつ新しい時代に向けた発展と京大らしさがつくれるのでは？と思います。（工，30歳代，男）

◆今後ともあらゆる研究分野において世界をリードする教育機関であってほしい。また、独りよがりの研究とならぬよう産業界ともより緊密な連携を取りつつ、最先端の研究に取り組んでいってほしい。（工，30歳代，男）

◆京大は東大と並び全国区の大学として認識されている。これを今後も続けていくためには、独自の方向性をアピール、進めるべき。エリート教育を明確に表明し、容易に卒業させないような校風を知らしめるには、今しかない。このまま他大学に追従していくようでは、地方の一大学になりかねない。（工，30歳代，男）

◆社会人が学べる場を提供されたい。（工，30歳代，男）

◆学部は基礎教育、大学院は専門的な研究の場として考えるべきだと思います。（工，30歳代，男）

◆工学部のことしか分かりませんが、重要なのは専門課程は基礎（科目）をしっかりマスターすることだと思う。したがって実習も含めて専門課程の基本に力を入れた教育をしたうえでさらに上のレベルの研究をするようにしたらよいのではないか。また大学院といっても修士の場合、就職希望者（研究職以外の）が多いので、余り研究というテーマに偏らないほうがよいのではないか。（工，30歳代，男）

◆基礎学力を高め、特に科学技術の分野で世界をリードする人材を数多く育ててほしい。（工，30歳代，男）

◆反中央として、独創性のある学風を今後とも維持してほしい。また、地盤沈下が叫ばれて久しい関西圏の中心となるべき存在であってほしい。（工，30歳代，男）

◆問題点：未だに残る小講座制的研究室体制→改善の方向：大講座制。講師以上の独立性と研究室単位での相互競争を奨励するシステムの確立。外部との積極的な交流。（工，30歳代，男）

◆創造力のある人間をつくることにもっと重点を置くこと。（工，30歳代，男）

◆図書館の文献を卒業生にも開放して下さい。インターネットに蔵書目録を登録し、検索できるようにする。マイクロフィルムのような形で見たいpageが全国どこでも見れるようデータベースを作る。最近の文献は全てCD-ROM化しているので、電子化は難しくないと思う。利用希望者には1回100円くらいで好きな文献を全国どこのパソコンからでも閲覧（印刷も含む）できるようHomePageを作ってほしい。もし上記のようなシステムが出来れば年間1，000円払っても構わない。いちいち図書館に行ってコピーする手間は大変な時間の浪費にあり、大学側も図書館のcapacityから考えて、電子化以外に蔵書を増加させる方法は難しいと考えます。地方にいてつらいのは、文献の少なさです。是非前向きにお考え下さい。よろしくお願いします。（工，30歳代，男）

◆社会に出ることによって初めて学べることが非常に多い。今一度、母校でしっかり学びたいと思うことも度々ある。自由と創造を重視する京都大学の学風は卒業して十数年が経っても未だに心に生きている。この学風は消えることのないよう、改革は改革として、保守は保守として進まれることを期待する。京都大学の卒業生は東京大学と遠い創造性、独自性に富み、また順応性にも優れている。社会学習と専門教育を併せて学べるこの学風が消えることとして大いに自信を持てている。この学風が消えることのないようお願いしたい。（工，30歳代，男）

◆特に大型ごみのごみ棄て場が表から見えなくなったのは残念。研究でどのような装置を使ってきたのか、昔はどう工夫していたのか、まだ工夫して使うことはできないか、他に転用できないかなど、じっくり考えるにはいい場所だった。学内を歩いていてもどこも小ぎれいになってしまい、興味を持って考える対象となるものが少ない。（工，30歳代，男）

◆・もっと京大閥というのを確固たるものにしてほしい。・他大学（阪大、神大、筑波大など）の学生が、院試だけ受けて、京大院生として、今後も名のるのはおかしい。京大院入試は、大学入試（京大入試）と比べて、格段とやさしい。（合格しやすい）（ちょっと勉強するだけで通る。）・日本をもっと学閥第一主義になるよう、京大出だけで、もっと楽に出世できるようにしてほしい。（強く要望）（工，30歳代，男）

◆・自由な風土は伝統でもあり、今後も良い意味で維持してほしい。・産学共同など、さらなる積極的な姿勢で民間企業との交流を図ってほしい。（工，30歳代，男）

◆仕事上のつきあいや学会活動等で交流することのある理・工・農系の先生方から、雑用が多すぎる。事務官の仕事を代わりにさせられる。何のための雑用かわからない雑用も多い。といった不満をひんぱんに聞かされます。学内の仕事の必要性を再点検し、不要な業務は廃止し、先生方が少しでも多く教育や研究に使える時間を確保できるようにしていただきたいと思います。また、研究室に配属されている技官がほんとうに必要なのか再検討する必要があります。同じ研究室の教授よりも大きな

顔をしてのさばっている技官もいるようです。もちろん、大多数の技官の方々はそんなことはないでしょうが…業務の再検討の結果、事務官や技官の必要数が現在よりも少なくてもいいということになれば、人員削減に取り組むべきです。このようなことは民間ではごく当たり前のことです。独立行政法人化に向けてこのような取り組みを強化されることを、納税者の一人として切に願います。（工, 30歳代, 男）

◆自由な風土で研究できたことは、良かったと思いますが、社会人になった現在としては、世の中に必要とされる研究をやってもよかったのでないかと思っています。とにかく、余り浮世離れしないことが必要かと思います。（工, 30歳代, 男）

◆学ぶ意欲を持つ学生が多く入ってくる大学と考えているのだが初年度に魅力的なカリキュラムが少なく、スポイルされていると感じる。少人数ゼミ形式で専門家（教授等に限らず）と深くほりさげるようなクラスが多くあって、単位も講義と同じだけとれるようになっているべき。とにかく1回生前期を重視すべきである。（工, 30歳代, 男）

◆最近京大卒の社長の割合が減っているとのデータをみた。学風が自由すぎて、ベンチャー育成を目指す人材が育ってないのでは…（工, 30歳代, 男）

◆1. 教職員の流動性不足の改善。・少くとも、工学部、経済、経営学部では、企業経験のある教授陣をもっと増やすべき。・一いまのままでは、全くもって、授業が面白くない。2. 学生のインターンシップの奨励。・学生（大学3年）の夏は、いろいろな企業にインターンシップにいかせることで、学術を現場の両方を理解させる。3. グループ学習の導入・4〜5人のチームで、グループ討議等をより活発に行わせる。4. 客員教授を社会人から受け入れる。・上記1が、すぐに行えないのならば、出来る限りはやく、客員教授を、社会から受け入れる。（工, 30歳代）

◆京都大学が他の大学との違いが明確にわかるようにしてほしい。しかし、京都大学の悪い面も良い面も残しつつ。（工, 30歳代, 男）

◆日本社会ひいては、地球社会を支える人材を産みだす場所として技術・知識・人格を兼ね備えられる様な大学になってほしい。又、学外の人材も受け入れ、向上心を持ち行ける事を忘れずに、社会人にも活躍の場を提供して下さい。（工, 30歳代, 男）

◆・個人的には、今後、社会人教育と人の交流です。・後進の為には、高いレベルの教育を続けて頂く思います。今、入学前に自身の専門の方向性を自覚している学生はわずかです。彼ら、彼女らに早く専門に目覚めてもらうと同時に、広い教養を身につけてもらえるような教育を目指して頂ければ、と思います。（工, 30歳代, 男）

◆問13の教育方針を今後も続けていって下さい。特に「自由の学風」、「創造性の尊重」は他の大学では考えられないものだと思っています。（工, 30歳代, 男）

◆のびのびと種々の活動が行える場所であってほしいと思います。目先の成果にとらわれず、先を見通した研究ができるように。（工, 30歳代, 男）

◆京大ならではの自由な学風はどうかなくさないで下さい。どうやら特に教養課程については、勉強をしない学生が多すぎるから改革を進めるような気配ですが、高校の延長のような大学が増えつつある昨今、京大らしさはぜひとも守っていただきたいと思います。（工, 30歳代, 男）

◆「井の中の（日本の中の）蛙」にならないでほしい。（工, 30歳代, 女）

◆教育についてアンケートするという時点で大学としてのポリシーの希薄さを感じさせてくれる。京大は自分で決められないのか？東京あたりで2流といわれる大学ですらライバルは東大やワセダやケーオーであって決して京大ではない。京大はそのことを自覚しているのかしら？しかも、人事から何から閉塞感が強くて、つきあいにくい雰囲気をつくってしまっている。なんとなく孤立していて、外からみていると本当に危いと思う。アンケートなんかしても意見百出で何も決められない。みんな勝手な立場で勝手なことをいうだけなんだから。きちんとポリシーをもって前へ進めばどのような批判にも耐えられるはずで、アンケートなどという時間と金のムダしか思いつかない京大の偉い先生方の能力を疑うばかりだ。（工, 30歳代, 男）

◆社会人向け専門の実践的な経済、経営学の講座を数多く開設してほしい。（理系出身の会社員でも経済・経営の知識が会社内では、常に必要となる。）基本的に、基礎的研究を中心に、教育が行われるべきであると思うが、実務レベル又は実現象のどの位置を占める研究なのかを具体的に指唆した上で、研究指導を行う必要があると思う。⇒研究室卒業生による研究背景の説明。卒業分野とは、異なる研究分野・成果にも興味があるので、手軽に情報が手に入るようにある程度の情報開示をしてほしい。留学先の紹介（卒業した研究室しか現段階では、紹介して頂けないのが実情）をしてほしい。（工, 30歳代, 男）

◆要望：研究重視の為とくに①研究のあるべき姿、基本的な研究のすすめ方を徹底的に教育すべき。②もっと創造性を発揮できるような教育を目指すべき。講義より→ディスカッション、討論③卒業／単位取得などのハードルを大きくし自由の風土をくずさない程度に”まじめに学ばせる”ようにする④研究室、学科毎の差を少なくする（人気のあるところとそうでないところの差が大きいのでは）論文、学会活動に力を入れていない研究室もあると聞くが・・それでいいのか。（工, 30歳代, 男）

◆ある京都大学の関係する会合で、現代の東大生の資質の議論となった。現役の医学部教授が、「最近の試験では論文をとり入れ、知識偏重をなくそうとはしているが、論文の採点につき教授内でバラツキがあり困っている」との話があった。私はこの話自体が大変大きな問題と考える。なぜならその教授は「論文には正解がある」と考えていることであり、受験勉強を批判しているご自身が受験勉強の正解は一つという考え方にどっぷりとつかってしまっている。大変残念なことである。論文を採点するには、まず採点する側の主体性を定義しなければならない。つまり京都大学は如何にあるべきか、故にどういう学生を評価すべきかが初めてわかるのであり、論文の採点が可能になる。このアンケートは、その京都大学の意義付けを行うためと思われるが、まずそこから変えなければ、「国家は人なり」であり、日本の将来を深く危惧する。（工, 30歳代, 男）

◆最近、同級生で助手をしている人から、「役に立つ研究成果」を求められていると伺った。もちろん、全く何の役にも立たない

研究を金と時間を浪費して行ってはいけない。ただ、最近の「役に立つ」は数年先の近視眼的な有用性を指すことが多いような気がするので、それに向かうようでは良くないと思う。学校によってはそういった指向のところがあっても良いし、京大の中でも一部はそういう研究室があっても良い。だが、京大全体がそういう流れにあっては、短期的には良くても長期的には存在意義が失われていくと思われる。「近視眼的な有用性」を目指すという点では大学よりも企業の方が優れている。はやりを追って成功する企業もあれば失敗する企業もあるであろう。バブルの時代では特に失敗例が多かったように思う。そういった失敗した時にもう一度基礎に返るという意味で大学が存在するべきではないだろうか？京大のような中心となる大学は特にそのような役割を強く果たすべきだと思う。学生の教育にしても、ある程度は実用性を意識する必要はあるが、即戦力である必要はないと思う。研究、開発などの内容はたいていの事柄が数年サイクルで変化してしまうため、特化し過ぎていると却ってすぐに使いものにならなくなる可能性がある。環境が少しぐらい変わっても困らないだけの基礎学力が重要であろう。（工, 30歳代, 男）

◆自由な学風を貫いていただきたい。管理教育は東大のイメージが強い。東大と敵対するつもりはないが、京大は自由というオリジナリティを伝統として維持すべきである。（工, 30歳代, 男）

◆大学卒業後も、何度か京大に訪問することはあるものの、再度、在京して、何らかの研究に打ちこむ、という機会が一部には見られるが、まだ不充分である。むしろ、卒業後、再教育の必要性を感ずることが多く、日常の実務をこなしながら、独学で新たな勉強をするのはかなり困難を感ずる。可能なら、自分が卒業した以外の研究室に再度、入り、新たな知識等修得したいものである。そのような機会はもっと増やすべきだ。また、逆に、インターンシップ制をとっている会社も多くあり、有能な学生こそ、そのような制度を利用し、他流試合を経験させるべきだ。余りに、世間を知らなさすぎる新人が多い。常識を身につかせるにも、前線の現場を経験させるのにも是非必要である。以上の点で、さらに、京大の自由度を向上させ、ユニークで国際性も豊かにしてほしい。専門科目の講義は全て英語で行うなどもしてほしい。（工, 30歳代, 男）

◆大学生は、学業だけでなく、サークル、アルバイト、人づきあいなど社会勉強をする事も大切なことなので、これからも余り学生を締めつける事のない様にしてほしい。個々人の単位取得は自己責任になってくるので、こういったことも勉強になる。（工, 30歳代, 男）

◆今後の世の中を生き抜いて行くためには、実用的な法律や財務、税制などについて実践的に教養課程で教えるべきである。また、音楽をはじめとした芸術の分野についても教養課程で取り入れるべきである。（工, 30歳代, 男）

◆社会に出たときにリーダーとして活躍できる人材の育成に力をそそいでほしい。（工, 30歳代, 男）

◆大学の法人化、社会への貢献、社会との連携･･･最近の動きで非常に気になっている点があります。ここで言う「社会」とは何を指すか。どうも一連の動きでは「社会」＝「産業」という文脈に偏っている様に思えます。産業への貢献が少ない、法人化して競争原理（経済社会で言う）を導入する。それで本当に良いのか。ある意味では、均質で質の高く従順な人材を毎年、大量に産業界に送り出してきた、教育界は、その意味での貢献はし過ぎる程、これまでしてきたわけであり、近年その弊害こそ問題にすべきと思います。日本がこれまで余りにも「産業中心社会」であって、右肩上りの経済の中、馬車馬の様に走って（人を走らせて）きて、それが持続できない原因を、また、教育界に突付けて、現在よりもさらに「産業中心」化を進めて良いはずがない。その価値観こそ見直して、日本社会のあるべき姿を見つめるべきです。大学は大切な社会資本です。　卒業後、会社等の日常業務に追われると、物事を深く考えたり見通す事がなくなり（する余裕を与えられない）、頭が経年劣化する中で、また大学に戻って勉強したいと思う様な者もいます。その様なレベルダウンした卒業生でも広く受け入れる制度を整えていただけるとありがたいと思います。（工, 30歳代, 男）

◆抽象的な表現なのですが、「東大と同じにはなってほしくない」という思いがあります。東大に在籍したことはないので、実態を知っているわけではなく、本当のところ違いなどないのかもしれませんが。入学してくる学生には「東大とは違うぞ」という思いを持っている方が多いのではないでしょうか。高校の時にも周囲ではそういう考え方をしている人が多かったように思います。独立行政法人化とか、いろいろあるとは思いますが、京大ならではのIdentityは捨ててほしくないです。（工, 30歳代, 女）

◆○これから大学の改革が始まると思うのですが、余り経済性のみに重点を置かないようにやっていっていただきたいと思います。　○教養課程（今もあるのでしょうか？）は緩く、専門課程は厳しく、という姿勢を続けていってほしいと思います。（工, 30歳代, 男）

◆京大の卒業生は、優秀な人が多いが、一匹狼的な人が多い。東大出身者が、協力的な人が多いのと対照的である。企業に入った場合は、ある程度、みんなで協力して大きな事を成しとげることも大切だと思う。これまでの学風を維持することは大切だが、ある時には協力できるような人材に育ててほしい。（工, 30歳代, 男）

◆権威主義的にならずに、自由な学風で、能力ある学生の期待に応えてほしい。（工, 30歳代, 男）

◆今になって振り返れば、私は大学時代に時間の垂れ流しをしてしまった様に思い後悔しています。その一番の原因は「勉強するmotivation」の欠如にあったと思っています。多くの京都大学生は「志（こころざし）」を持って、大学へ入って来ているとは思いますが、少なからず（私の様に）「志」の低い人もいると思います。ですから、大学全体として「京大生は各々個人個人が自立した意志を持っている」という雰囲気で学内を満たしてほしいと願っています。「変わり者」や「勉強好」の人間がバラバラに存在しているより、その方が良いと思います。（工, 30歳代, 男）

◆少子化に伴う学力レベルの低下がますます進むと予想されるので、京都大学のレベルを維持するためにも、適切に定員を削減し、対応してほしい。個人的には、社会人になってからの論文での修士課程や博士課程を積極的に進めてほしい。社会での経験が、また大学へのエネルギーになれば幸いと思います。（工, 30歳代, 男）

◆卒業生であることを誇りに思っており、学生時代に貴重な経験を多く得られたように思われる。抽象的だが、そんな学生が増えれば良いと思う。細かいところは別として体勢は今のままで構わないのでは。移転の話を伝え聞き、事情は理解するが、少

し残念な気もする。京都の地の利、他学部の学生との交流の機会が失われてしまうのは惜しい。（工, 30歳代, 男）

◆現在までのアカデミックであり創造的な独立性を維持してほしい。只、余りにも協調を欠いたようにも見えるので、それらのバランスを考慮しつつ。（工, 30歳代, 男）

◆問12でも書きましたが、京都大学のレベルが低いということから考え直すべきだと思います。社会において、京都大学出身ということは、そのネームバリューと、京大に入学できる程度の能力があるという以外に、何ら優位性を持ちません。最先端の自然科学において、どうかは分かりませんが、私の取り組んでいる分野である。文学において、私が大学で学んだことは、ほんの少しも役立っていません。4年間、図書館を自由に使うことができた、ということにのみ感謝しています。自由さ、活気ある大学であることと、何も教育しないこと、あるいは少数の京大出身者の成功と、大学教育の成果とを混同してはいけないと思います。（工, 30歳代, 男）

◆学生は学問をするため、知識・技術など何かしら”学びにきている”のであり、”労働力”ではない、ということは常に頭に入れておくべきである。・学生が今行っていることが、社会にとってどんな意味があるのか、テーマを与える立場にあるものは、その回答を明白にもっていなければならない。個人的な趣味を学生に押し付けられる時代ではない。・京大の特徴である”自由、独創”といったところは忘れずにいてほしい。昨今の学力低下の問題から、管理教育化が進もうとしているのは、残念である。他大学との特徴がはっきりしなくなるのは、最終的に良い結果は産まれないだろう。・仕事の効率が著しく悪い、または、全く仕事をしていない事務官、教員の淘汰をすみやかに行ってほしい。大学全体の活気をそぎ、学生への悪影響もはかりしれない。・いずれにしろ、私個人は京都大学での生活に満足していて、その卒業生であることを誇りに思っている。貴大学の今後の益々の発展を心より念じている。（工, 30歳代, 男）

◆①研究環境の整備。技術面の専門職を作り、ネットワーク等の管理を任せられるようにする。②奨学生制度を充実させる。優秀な人材が、博士課程へ進んで進学するよう、経済的に援助できる制度をもっと充実させる。③会議（事務的なもの）の簡略化。教育・研究に専念できるよう、教官の事務的な負担を軽減させる。（工, 30歳代, 男）

◆・研究設備の充実。・助手、講師も含めた教員の雑務軽減。・産業との共同研究拡大。（企業との接点を増やす）・中央委員会等への参画（政府）。東大教授は多いが、京大教授は少ないと感じる。（工, 30歳代, 男）

◆京大の「自由の学風」はいいが、その言葉に甘えてほったらかし、何もしないで学生まかせ、というのではダメだと思う。ノーベル賞をとるような、世界で通用する人を育ててほしい。（工, 30歳代, 男）

◆京都大学に入ったらゴール、というイメージは、我々バブル時代の学生にはなかったとは言えない。しかし、現在の状況では全く関係ない。その年その年の実力本位の時代であり、大学自身も研鑽を重ね、その年毎に成果を上げないと生き残れない。こういう時代にあって、京大が今までの自己のブランドイメージを持つことは、返って不利な立場である。厳しい自覚が必要である。（工, 30歳代, 男）

◆京都大学の学生・院生には、将来世界レベルにも重要な仕事が出来る、優れた者が含まれていることを十分に心に留め、学生・院生の活躍をつぶさず、大切にする姿勢を重視していただきたい。そのためにも、平均点レベルを上げる教育ではなく、優秀な者がより力を伸ばせる教育を重視すべきで、安易に教育、研究指導のレベルを、世の中に迎合して下げないで下さい。多少の勉強不足ぐらい、本気になれば自力で補えるのが京大生でしょう。京大にいることの1つの快さは、優れた能力をねたむような、横並びの意識が学生間には全くなく、優れた能力をもつ者を素直にそう認め、又、人によって様々な能力や活躍の仕方があることを、素直に普通に認識している事でした。勉強ができる事を、ややもするとジェラシーの対象とし、無理にも横並びの位置に合わさせようとするのが、常の日本社会の中で、この点は貴重です。小・中学時代に勉強ができることで、孤立させられそうになることが、おそらく多かったであろう者達にとっては、いい意味（現実を直視することに、何の不安も気負いもない）での能力主義の京大の学生社会が、いかにストレスが少なくて快いか。余り指摘される事ではないので、少し強調しておきます。（工, 30歳代, 女）

◆京大で6年間勉強したりしなかったりしたこと、誇りに思っています。自由さ、発想の尊重の学風を守り、ユニークな人材を育てて下さい。（工, 30歳代, 男）

◆理系で社会人になった時点で、”モノ”を知らない人が多い。この為、ポテンシャルの高さ、検討の詳細さ等では優れているが、いざハードのこととなると、高卒以下の場合が多いのが残念です。（工, 30歳代, 男）

◆よく遊ぶが、勉強・研究もする、という人材を育てないと、東大との差はますます広がると思う。社会に出て感じるのだが、やはり東大出身者はただ者ではない。遊ぶだけの奴はやめさせる、といったドラスティックな改革も必要。（工, 30歳代, 男）

◆・社会人の受け入れ等、社会の開かれた教育センターの役割を持つ。・他大学との連携を持つ。・卒業生の活動成果、実績の活用、ビジネスセンター的な役割を持つ。（工, 30歳代, 男）

◆基本的にこのままで良いが、より国際的な人材の育成を望む。（工, 30歳代, 男）

◆専門性を高める事は重要ですが、それだけでは不十分だと思います。総合的な広い視野の人材を育てることも、これから特に重視されるべきで、それらのバランスをとる教育方法について、研究していく必要があるかと思います。企業と共同研究や、国際協力研究などを積極的に行うことにより、実際に有効に活用される技術や、国際貢献による人材育成、経験を大切にしてほしいと思います。（工, 30歳代, 男）

◆自由な学風は非常に好きなのだが、それにかまけて聞いてくれる学生だけを対象に、先生側は勝手に講義をしている感じが強くした。又、東京にいて感じる事は、大学とは地域経済とも密着に関係しており、最近関西が地盤沈下気味なのは、京都大学のせいではないかとも思う。逆に関西がどんどん沈下していくと、京大にも優秀な学生は集まらず、東京一極集中はもっとひどくなるだろう。京大の偏差値も低くなるだろう。大学に期待する事は、地域の産業ともっと密接な関係を保ち、優秀な人材

を輩出し、投入していく事だと思う。他には、京大は基礎研究に強いと思うが、それを活用して新しい産業を起こす、あるいは、ベンチャーキャピタルなどを学生が起こせるようなビジネスプランの講義などがあっても良いと思う。他には、一橋大学がやっているような、社会人向けMBAを京都だけでなく、東京でも開講できたら、私はぜひ参加したいと思う。（工, 30歳代, 男）

◆京大の研究活動は、学術的なものが多いと思われる。今後は産業（企業）との共同研究を増やす方向で、実業分野にも研究活動を拡大することを望みます。（工, 30歳代, 男）

◆これまで通り、自由な学風であり続け、創造の場を提供していただきたいと思います。（工, 30歳代, 男）

◆大学は研究機関である以前に教育機関であるべき、実社会に対して多くの有用な人材を輩出することが重要。多種多様な学生が混在していることが有益である。教授、助教授等学内の人間の視点ではなく学生の視点で、ものごとを評価すべき。学生にうまく使われてこその大学である。大学が学生をコントロールするという意識は強くもたない方がよい。（工, 30歳代, 男）

◆世間に流されず、本質を見極め、社会（教育界）のリーダーとなってほしい。もっと専門科目のウエイトを増やしてほしい。一般教養は事務的な授業も多く、ノルマ的な感覚でしかない。フィールドワーク的な授業を増やしてはどうかと思う。（工, 30歳代, 男）

◆本日ちょうど、野依先生のノーベル賞受賞が発表され、ギリギリで卒業させていただいた私としても非常にうれしいことでありました。野依先生の錯体は既に工業化されており、基礎的な研究が猛烈な速さで応用研究、用途開発されているのが実情です。この事実をみますと、「基礎重視か応用重視か」という議論は空虚なものと思えます。基礎研究で培ったことを今後の大学運営で大きな柱となるベンチャーで応用研究していくことが肝要と思います。以上（工, 30歳代, 男）

◆「京都大学」という“ブランド”が社会的に永続的に保たれる環境を常に求めていっていただきたいです。在学生だけでなく教官、卒業生、また、その関係者の協力のもと、日本人に愛される「京都大学」世界からあこがれられる「京都大学」であり続けてほしい。具体的には、京都大学ブランドマーケティング担当なる組織を整式に作っていただき、社会における認知度の調査、時系列での推移、ブランドを広める活動を行っていただきたい。担当のメンバーには、ぜひ社会人でブランドを専門とする人材の協力をとりつけ、即効性のある方法で進めていただきたい。（工, 30歳代, 男）

◆現在は東京に居て叶いませんが、もし関西在宅であるならば、受講してみたい。可能でしょうか？。担当教官によりけりでしょうか？。また図書館も利用したい。貸し出しは管理上、無理なのだと思います。私の卒業後、車の駐車が難しくなったことや、専門校舎にテンキーの施錠がなされた事はとても残念でした。車の長期の放置駐車や、研究室等での盗難・放火もあったと聞きました。そういう事をする少数への対策としてあのような管理体制しかなかったのでしょうか？。それ故、問13の自由の学風には○印がつけれません。独立性の尊重も体制としては、疑問です。研究所のようです。研究・教育では、ともに○印であり続けてほしい。（工, 30歳代, 男）

◆また、卒業生のノーベル賞受賞おめでとう！。やはりこれだけ京大からたくさん出るということは学風とも大きな関連があると思う。この学風はもち続けてほしい。京大に望むのは、授業料、入学料が高くなりすぎているのでこれを安くしてほしいということ。今後独立法人化されたりすると他と差別化できるので、やはり国立大として、私大の授と入とは大きく差をつけてほしい。(究極はタダ)。ドイツなどは、無料と聞いたこともある。教授を学生が評価できる仕組みを導入して活性化にしてほしい。（工, 30歳代, 男）

◆基本的に京都大学は変る必要がないと思う。問題は大学生の方にあって、又は大学入試までの勉強の仕方に問題があると思う。社会人になって初めて基礎教育、一般教養の重要性に気付く者が多いと思う。（私を含めて。）卒業後、まずはサラリーマンになる者が多いと思うが、サラリーマンになってみて感じるのは、社会を動かしている力とそれを支えている知力が少し離れていることだ。大学が講義を通じて提供しているのは、そういった知力のさらに深い部分にあるもので、これを受験勉強ばかりしてきた青年が興味をもって取組めるのか極めて疑問である。社会を動かしている力が何かなどと考えるキッカケもなかった学生には消化不良をおこす。工学部における問題は、実験の忙しさだろう。社会問題について十分考える時間のないまま、実験浸けの2年間を過ごす実態は少しバランスを欠いているように思う。これも大学受験システムの弊害の1つだと考える。（工, 30歳代, 男）

◆総合大学としての幅の広さ、懐の深さを実感できるようなシステムづくりを望みます。（工, 30歳代, 男）

◆卒業生の大部分は、将来ビジネスの世界に身を置くこととなるか、そこで要求されるのは経営管理能力であり、その向上をもたらす教育（経営戦略・マーケティング・マネジメント・会計等）を工学部の中でも一般教養専門科目の中で体系的にとり入れていく必要があるように思う。（工, 30歳代, 男）

◆知識はもちろん、常識のある学生に育ててほしい。（工, 30歳代, 男）

◆常に世界に目を向けた自由の学部としての活躍を期待します。（工, 30歳代, 男）

◆・「自由の学風」の陰に「放ったらかし」があるのではないか。そのうち光る優秀な人はいいが、磨けば光る玉を見過ごしてないか。大学はそんな人も磨かれ、方向付けができるべき。・ビジネスと融合した社会人向け、修士課程のカリキュラム等あればいいと思う。大学側にもそういった企画をコーディネートできる能力が求められる時代になってきたように感じる。（工, 30歳代, 男）

◆・自由な学風を守って。（工, 30歳代, 男）

◆社会人でも、大学で勉強できる、勉強しやすい環境ができたらいいと思う。と同時に大学の研究と企業の研究がもっと交流してもいいのではと思います。（工, 30歳代, 男）

◆様々な意味で教官・学生の人材交流を活発にして風通しをよくしてほしい。たとえば、①他大学、民間からの教官招へい。②社会人学生の受け入れ。③外国人学生・教官の招へい。④民間との共同研究の強化。いずれも今までやってきている事と思

うが、より強化すべきと考える。（工, 30歳代, 男）

◆・他の大学にない指導（教育）テーマ・社会で役立つ知識だけでなく「考え方」（発想）などをもっと教育にとりくんでほしい。（ありきたりな教育は他大学にやらせておけばよい。京大は独創性を極めるべき。）（工, 30歳代, 男）

◆基礎学力の低下が著しいと感じる。（日本全体に言える事だが）学部、大学院の初期で、基礎学力をみっちりとやってほしい。もしくは、大学院の試験を基礎学力（数学、物理など）に重点を置いて、定員制ではなく、資格試験でも良いのではないか？会社に入ってからの実践教育は、会社に入ってからも学べるので、大学時代は基礎学力の向上を念頭に置いた教育を望む。（特に、京都大学はじっくりと基礎学力を学ぶ場にすべきと思う）（工, 30歳代, 男）

◆・自ら考え、自ら行動できる、自由な校風の堅持・個性的な人材育成。（工, 30歳代, 男）

◆・私が学生であった頃（S58～H1）は、先生方と生徒の接触が少ない時代であり（今もそうかも知れないのですが）、高等学校と大学の教育内容のギャップが大きいことから学生も勉強の仕方が分からず、当惑していることがあるため、当時で云えば教養部報などでガイタンス頂くなどしていただければ幸いかと存じます。その他広く読書法（読む物等）についても青年期に見合った間違いのないものをご紹介くだされば幸いです。・私は実務の方ですが将来実務に携わるものからすれば、学術的な教育よりも資格取得などの実践的教育の方が就職難ですし、有難いですが、一方で将来研究職に就かれる方にとっては、研究活動を含んだ高度の学術的研究は当然必要だと思います。本アンケートの問14ではどちらか一つというのではなく、どちらも必要なのではないかという気が致します。いずれにしましても数学・語学などの基礎的な分野は重点的に教育がなされることを期待致します。・クラスで何かまとまって話をしたりとかの機会がなく、例えば講師よりテーマを与えてもらってクラスのみなさんで自主討議するなどの講義形式があってもよいのではと思います。・国公立大学の先生方は、公務員でいらっしゃるのだし、学生ばかりを啓発されるのではなく、広く一般大衆をも積極的に啓発され、これまで以上に開かれた学府作りに参画して頂ければ我々としても尊敬・感謝の念を新たにするものと確信致します。＊末尾ではございますが、被災自治体に勤めている者として、ボランティアにかけつけて下さった学生さん達に単位を認めて頂いたことに大学関係者各位の皆様に深くお礼申し上げます。（工, 30歳代, 男）

◆・東京大学の大学院にも在職したことがありますが、国際性では東大の方が格段に上だと感じました。具体的には、英語による講義が多いこと、留学生の受け入れ体制が充実していることなどです。改善すべきだと思います。・工学部に在職していましたが、実社会で役立つような、実践的な教育に力を入れるべきだと思います。一般企業出身の教員を増やすとか、海外の大学・企業での勤務経験のある人を教員や研究者として、もっと受け入れるべきだと思います。（工, 30歳代, 男）

◆自主性を尊重する伝統は素晴らしく、今後も守り続けてほしいと思います。志のある者は極めて質の高い教育が受けられる環境が整っていたと思うので、特に改善すべき点は思いあたりません。画一的な教育をするようには決してならないでほしいと思います。（工, 30歳代, 男）

◆学部教育は、演習問題への取りくみを増やす方がよい。大学院の講義は単位をそろえるためだけに受講する感がある。もっと研究活動に比重をうつす方がよい。（工, 30歳代, 男）

◆・若者だけでなく社会人、退職者等に幅広く開かれた大学であることを望む。例えば定年退職した人が博士号を取ることがもっと一般的に可能なことを望みます。・大学とは色々な意味で教養を深める所と考えるが、今後は大学として独自性がなければ存在意義が薄くなると思う。京都大学としては純粋に高度な学術を極める所であることを望む（実践的な部分を多少犠牲にしてでも）。他大学ではとうてい追いつけないような高度な研究、最新の技術学問が学べる場であることを望む。・最近の日本の大学（大学生？）のレベルが低下していることを報道等にて聞くと大変悔まれる。しかし今の大学では本当に学びたいこと、興味のあること等が学べる場となっているのだろうか？（自分の在学中の講義の内容はいまから考えてもつまらないものが多かった。⇒良い講義もあったのは事実ですが）・まず大学として「本校はこういうことを目標に学生にはこういうことをやっていただける場を提供する」と明確な方向付けを示さないと、今後の大学という場の存在意味が小さくなっていくものと思う。（工, 30歳代, 男）

◆出席すれば良いというわけではないが、勉強(講義を聞いたり、自分で研究したり)せずに、アルバイトしているとか、政治活動している学生に対処できる制度改革は、できないものか。(勉強しながらなら、かまわないが、…)（工, 30歳代, 男）

◆「自由」を口実に、自らの研究の殻に閉じこもり、「教育」を放棄している研究者が敬見されるように思う。「自由な学風」はあくまで教育の為の方法論であって、「教育」の視点が欠如しては本末転倒である。（工, 30歳代, 男）

◆(要望)①京都の都市自体は大学の存立基盤であることから、国際的、全国的な貢献はもちろん大切であるが、地元のまちの活力の担い手としての役割も充分に果たすことが望まれる。②一方で関東の大学教官の方が、国政への関与は実態として、大きなものがある。地理的なハンデはあるが、もっと活躍してもいいのではないか。③教室の運営は透明性を高め、先生方同士で批判し合うことのないように願います。④社会人(特に京都から遠隔地)であっても、M論、D論の指導、学位取得ができるような方策が検討されることを望みます。宜しくお取り計らい願います。（工, 30歳代, 男）

◆個々の独立性を侵害しない程度に、大学として(その時点で重要であると判断した)特定の目標に重点をおいた活動をし、かつ、きちんと学外に情報発信していただきたい。（工, 30歳代, 男）

◆学業レベルの向上もさることながら、社会に出て魅力ある人間、リーダーの資質を持った人間の輩出を目指してほしい。（工, 歳代, 30男）

◆大学が狭く、汚すぎる。 私が在学中は、東大に継ぐ難関と言われながら、その環境は劣悪で、スラム街のようだった。環境を整えて、 α波が常に出るようなリラックスできるようにした方が良いのでは？？（工, 30歳代）

◆日本の大学教育そのものについて色々言われているが、「自由」という雰囲気は持ちつづけてほしいと思います。（工, 30歳代,

男）

◆京大に限らず、大学生は自分の将来の役に立つことをもっとたくさんすべきだと思う。 私は土木工学科ですが、大学が民間のゼネコンや建設コンサルタントと人事交流を行っているのはいいことだと思いました。（工, 30歳代, 男）

◆語学教育は、明治以来の伝統的な文法・読解中心から、会話中心に改めてほしい。 また、理工系の学生の場合、学習すべき科目が年々広まっているのが実世界の現実、 したがって教養の人文科目は選択として卒業までに取得すればよしとして、できるだけ専門科目を演習中心に指導するようにしてほしい。 今後も、京大には優秀な考える力を持った人材を期待している。（工, 30歳代, 男）

◆もっともっと社会、世界に開けた場所としてほしい。 世代を問わず学べる場所にしてほしい。 聞きたい講義、ゼミに志ある社会人が気軽に参加できるシステムがほしい。 海外から学びたいと思い入学してくる方が学校の半分くらいになってよいと思う。同時に卒業後に海外に実践の場を求められることも必要。 （工, 30歳代, 男）

◆独立行政法人化を控え、京都大学は、大学の存在理由に立ち戻り、それをまっとうすべく、自己革新を継続する必要が有ると思います。革新には、評価基準が必要ですが、その基準は、入試ボーダーラインといった旧来のものでなく、より合理的・総合的なものでなければならないと思います。京都大学の真の革新の成功を心から期待するものです。以下詳細を述べます。大学は社会の中の一つの装置であり、研究成果などの知的財産や、すぐれた人的資源を生産して社会に送り出すのがその役割と考えます。 この、大学の役割の達成度の評価基準は、入学志願者数、就職者数、卒業生の年収、民間奨学金の数といったもの、あるいは論文数、論文引用数、また特許料収入、企業寄付金収入、などの形であるのが本来の姿だろうと思います。さ らに露骨になれば、資本主義の論理に身をまかせ、大学としての役割が果たせていなければ収支が悪化して最終的に大学は倒産、リソースは他の大学に再配分され社会全体の最適化が実現される、ということになるのでしょう。 しかるに今までの日本社会では、センター試験のボーダーラインの高低といっ た無意味な基準また、私の発言は、私個人の見解であり、私が現在勤務するヤマハ株式会社の見解とは一切関係ありません。（工, 30歳代, 男）

◆大学でどのような研究が行われ、どのような成果があがっているのか、一般の人が情報を容易に入手できることが必要。HPについてはかなり改善してきているが、 私学に比べるとわかりやすさ等で改善の余地があると思います。（工, 30歳代, 男）

◆東大と違う校風を今後も維持していただきたい。 校舎がかなり古くてごみごみしているので、そのあたりを改善していただきたい。 独立法人化が検討されているようですが、学生を縛り付けるような教育にはしていただきたくありません。自由な研究（基礎研究）を今後も行っていただきたい。（工, 30歳代, 男）

◆在学していた10年前は、女性や外国からの人に対するハラスメントを容認する雰囲気があり、修士課程在学中には退学を考えたこともあった。京都大学の評価が上がれば上がるほど、これまで以上に女性、社会人、外国からの人、障害者など「健康で若い日本国籍を持つ男性」以外の人材が集まるはずであり、それは名誉なことだと理解するべきである。理解した上で、大学として、スタッフ、学生の「多様性」を担保する具体的、根本的な方策を取る必要があると思う。（工, 30歳代, 女）

◆学生の個性と能力を重視し、意欲のないものにはとても学びづらく、意欲のあるものにはこの上なくすばらしい教育・研究環境であるような大学でいてほしいと思います。（工, 30歳代, 男）

◆受験勉強を一生懸命して、高校を卒業したばかりの大学生に、学業せよというのは難しいことかもしれない。仕事あるいは旅行などで見聞を広めないと、学業するモチベーションは発生しないように思う。 目的意識のしっかりした社会人／留学生の積極的な受け入れ、在校生の課外活動や留学、企業へのインターン推奨、研究室と企業との結びつきの強化等を期待している。（工, 30歳代, 男）

◆・卒業後も自由に活用、利用できる場であってほしい。 ・大学の教官には優秀な人をどんどん外部から、特に海外からも採用してほしい。その方が活気が出るであろう。内部進学者がダメというわけではないが、内部しか知らない人というのはどうか？ ・変化の激しい今日、講座制は大学の硬直化につながる。 ・実用的な英語力が今後はますます必要である。それに対応したクラスや留学システム、外国人教官、英語によるクラスなど、努力すべきである。 ・起業やビジネスにもサポートできれば、よりよい。（工, 30歳代, 男）

◆大学院まで進んで専門性を高めようという意思を持って入学する学生に、現状のいわゆる「一般教養科目」が応えられているとは思えない。広く浅く多くの領域に接するよりも、「副専攻」制のように複数の興味ある分野について、学部4年間のうちにある程度深く学べるシステムがあってもよいのでは。（工, 30歳代, 男）

◆大学の特徴を、対外的に鮮明にすべき。もっと各界にスターが出てきてほしい。（工, 30歳代, 男）

◆一般教養を含む基礎教育をしっかりやるべきだと思います。大学ではどちらかと言えば広く浅い知識を身に付けることが望ましいと思うからです。基礎がしっかりしていれば応用も利きますが、基礎がないと後々困ることが多いです。企業に入ってから基礎を身に付けようとしても実際問題としては非常に困難です。企業が学生を即戦力として期待していると言っても、大学での研究内容そのものが事業に直結するケースは稀です。むしろ、研究の方法や困難に直面した時の乗り越え方に関してどれだけ確固とした自分のスタイルを持っているかが重要だと思います。大学院ではそれなりに専門性も重要だとは思いますが、学部では基礎的な講義に比重を置いてもらいたいです。例えば電気系であれば、数学、物理学、電磁気学などが重要だと思います。あと、学生のうちにプログラミング言語を1つ（例えばC言語など）習得しておくと強いと思いますし、これからは当然のスキルとして期待されてきそうな気がします。（工, 30歳代, 男）

◆・各自の個性を引き出す方法で、教育を行ってほしい。 ・京都大学は、教養および全学部が基本的に一箇所に集まっているので、他学年および他学部の学生とも多く交流できて非常に有意義であった。今後も校舎の移転や分散などがないようにしてほしい。（工, 30歳代, 女）

◆研究重視＝学部学生軽視の大学院偏重は避けるべきで、学部での基礎教育をもっと尊重すべきである。 キャンパスの分散は絶対にしてはならない。（工, 30歳代, 男）

◆文部科学省の言いなりにならず、独自の道を歩んで行って下さい。 そこが京都大学の長所だと思っていますので。（工, 30歳代, 男）

◆もう一度勉強し直したいと思っている社会人への教育の機会を増やしてほしい。東京には他の大学が開講しているので、地方でもお願いしたい。（工, 30歳代, 男）

◆研究スタッフの教育者としてのスキルアップを期待します。（工, 30歳代, 男）

◆ペーパーテストだけ出来る人間では社会に通じない！ということをはっきり認識できるような機会を与えることができればいいのでしょうが･･･やはり社会に貢献できる人材を育成すること、あるいは学生がそういう意識を持てるようになることを期待します。（個人的にも難しいことなのですが。） ところで今回のアンケートは具体的にどういった具合に役立てるつもりなのでしょうか？ホームページに具体案を掲載されることを期待いたします。（工, 30歳代, 男）

◆国立大学の法人化について、懸念する点がある。 たとえば「経営に民間手法の導入」「研究成果による収益」などが検討されている。そのような改革の方向では、目先の研究成果にとらわれるのではないかという危惧が、様々な研究者からあがっている。これは、狭い意味での研究予算の配分の問題だけでなく、研究のあり方、学問のあり方という意味で重大な問題が横たわっているからだと思う。 京大出身で、ノーベル賞の受賞が決まった野依良治･名古屋大学教授が「学術は芸術と同じで、自分が一番面白いと思うものに全力をつくす。…（ノーベル賞は）狙ってとるものではない」と最近の記者会見で語った。 それぞれの研究者が、それぞれの知的探求の努力をしていくことが、全体として学問の発展になるということではないのか。 とくに、京都大学は自由な学風と伝統をもつ。いますぐ役に立つかどうかではなく、ユニークな視点を大事にしてほしい。しかし、いまの「改革」は、すぐ目に見える研究成果ばかり追うやり方に見えて仕方がない。そうした流れに対抗してほしい。 また、国家権力などの介入から、大学の自治が守られるのか、心配である。（工, 30歳代, 男）

◆社会で活躍するためには、学問的な事柄は必要不可欠ですが、同時に統率力等のリーダーシップ等が必要になります。個人の資質はもちろんのこと、大学自体の文武両道のイメージを社会に植え付けることは重要なことだと思います。そのためには、アメリカンフットボール等のスポーツの奨励をしていただきたい。 さらに、社会で活躍できるように学生時代から会社に出す等、実務に早い時期に触れさせる必要があります。また、研究分野の発展が必要であり、助手等の優秀な人材を学内に留めるわけですから、実績主義を明確にするとともに効率良く研究に打込む環境を整えてあげる必要があります。アメリカに負けない実績を上げられるよう環境整備をお願い致します。（工, 30歳代, 男）

◆ご自身の研究分野に関わらない自由な研究テーマの応援をして下さる教官の存在を期待する。（工, 40歳代, 男）

◆京都大学の出身者は、各方面で活躍されている方が多く、実社会に出てからも、工学部の先輩に薫陶を受け、また、後輩に対しても自分がいろんな面で役立つ事が出来たと思います。同窓会で集まって思うのは、大学に勤めている人たちは何となく年次の壁があって窮屈そうにしている。また「先生！」と呼ばれる習慣からか、一部に謙虚さが欠けていることであります。優秀な研究者はそれなりにますます年次の壁を越えて活躍してほしいと思います。また「先生」は、学内では先生であっても、世間一般では、一人の人間で肩書きが通用するのはごく狭い社会の中だけで、実力･人となりがモノを言うことだと思います。良識ある社会人となるよう大学内の気風作りの面でも期待したいと思います。（工, 40歳代, 男）

◆全国規模で優秀な人材が集められるような企画も必要ではないか。比較的西日本地域の出身者が多く偏りがある。国立大学とはいえ、メディア等を通じて元気な大学であることをアピールし、老朽化した施設にも投資を。卒業後は暗くて、孤高の大学というイメージしか伝わってこない。（工, 40歳代, 男）

◆卒業生と教員、現役学生の交流の場が少ない。（工, 40歳代, 男）

◆･向学心に富む学生に対する積極的な教育体制 ･向学心に乏しい学生の積極的な排除（無理に卒業させない）。 ･極端に専門性の高い分野のみに偏った研究･教育偏重を避けて、卒業生全体のレベルアップ（平均）を図る。（工, 40歳代, 男）

◆（問12でも述べたが）「ジコチュー」の学生･教職員が多すぎる。一例を加えればCOP3が開かれた地元でありながら、CO2削減に努力した生活を実践している学生･教職員が一体何％ほど存在するというのか。私の見積もったところおそらく1％もいないであろう。自慢じゃないが我が家の年間のエネルギー消費量は（一般に10Gcal前後なのに対し）2。5Gcal前後のクリーン生活を実践している。もちろんゴミの減量にも人一倍努力している。こうした地球人としての基本を心得てない人が世に出て人の上に立っているのだから、日本も三流国家に成り下がってしまったのも当然ということか。（工, 40歳代, 男）

◆京大の自由の校風は今後も守っていってもらいたい。（工, 40歳代, 男）

◆企業人を講師に招いて「特定実践分野のワンポイント講座」を多く（幅広く）取り入れることにより、実学としての基盤教養は何か、学生自身に気付かせてはどうか。（工, 40歳代, 男）

◆･英語を用いた講義（専門分野）や論文を書くこと、プレゼンテーションをする演習が必要。 ･基礎的な数学の演習が不足しており、近年の電子･情報分野では高校数学が多用される傾向にあり、大学教育でしっかりやらなければ、企業では限界がある。 ･実験やフィールドワークが専門分野では重要で、特に最近の計算機偏重の傾向だけでなく、実験を小規模でもやる必要がある。（工, 40歳代, 男）

◆学部では、幅広い教養人を育成すること。大学院では、高度な専門家を育成することを重点化し、学部と大学院の教育にアクセントをつけてほしい。（工, 40歳代, 男）

◆京大の良さ（自由、創造）をさらに高め、国際的ビジネスマン、研究者、経営者になれる素養と知識を身に付けさせてほしい。私は外資系証券会社で証券アナリストとして勤務しているが、国際的な業務活動の中で常に自己研鑽を強いられている。常

日頃感ずる日本人の優れた部分、劣っている部分を考慮し、次の改革を期待する。・内外に開かれた産学共同研究（MITやスタンフォードの様に）・一線のビジネスマンとしてDebateができる経営全般の実践的教育（慶応○○の様なMDAプログラムがあってもよい）（現在のアカデミック指向からカリキュラムをもう少し実務的、実践的プログラムへ○○）・ノーベル賞や一流の経済人を輩出できるEnergishな学風とPowerの復活（工，40歳代，男）

◆大学に入学できたことで人生の目標に到達したと感じ、腑抜けになった学生が多くなったような気がする。受験勉強の弊害であろう。入試制度の改革が望まれる。京大に入って「こういうことをやりたい」と強く希望する者を入学させ、能力がなければ退学させるなど、入学資格試験程度の能力があるものはどんどん入学させ、卒業認定を厳しくする、などの方法を是非考えてほしい。パンツのゴムが伸びきったような学生は多いことに最近つくづく嘆かわしいと思っている。（工，40歳代，男）

◆社会人にも研究をする場を提供してほしい。（工，40歳代，男）

◆最近10年間の会社に入ってくる京大卒の後輩を見ていると、非常に優秀なのであるが、静かで、余り挨拶しない、上司から言われたままの仕事ぶり、没個性などの人材が多いように感じる。入試システムにも問題があるのかも知れないが、大学教育や研究システム、また基本的な人間関係など、何かおかしいように思う。思い過ごしであればよいのだが・・・。そこで次の2点を要望したい。①大学教育にあたっては、人間としてあるべき姿、人間関係などにも配慮したカリキュラムや教育を行ってほしい。②何事にも問題意識を持ち、自己解決を図る能力を持つこと・自己研鑽をたゆまず行うこと、他人への説明・納得・議論できること、そのような人材を育てていただきたい。（工，40歳代，男）

◆学部での基礎的教育が大切であり、それを基にして専門研究の成立がある。優秀な人間である学生を大きく育てるためには、自由な雰囲気と先見力ある教授を揃えることが重要です。（工，40歳代，男）

◆要望：大学での研究成果を特許に限らず公表し、学外（産業、企業）との人的交流を進めてほしい。：研究者・研究室・研究内容への企業・個人からの直接の寄附・委託研究を制度化してほしい（独立法人化を支持します）。・収賄などにならないような制度・大学での報酬は講義・学生指導に対して、支払われ、研究活動は企業からの研究費獲得など自由にした方がよい。・おおむね米国の大学制度を参考にすべきと思います。（工，40歳代，男）

◆大学を卒業して20数年が経ちました。学生時代に学んだ技術をそのまま使える現在の職ですが、技術的な基礎をいかに築いていくかが、問題なのかもしれません。技術の進歩は早いため当時の個々のものは当然通用しないのですが、基本的な考え方（具体的に表現するのは難）は今でも十分に使えます。もう一点、同様の職業に大学の関係者が多いため人脈が非常に有効になってきました（大学で学んだことと全く異なる職業だとこうはいかないのでしょうが）。こういう点では社会人になってからの大学のフォローも必要なのかもしれません。（工，40歳代，男）

◆・日本の大学に子供を入れたくない。・極めて問題が多い。 1.学生が勉強しない。 2.社会の役に立つ研究が極めて少ない。 3.産業界への価値が年々低下。 4.卒業生の価値が年々低下。 5.技術移転が卒業生により、ほとんどなされていない。 6.技術移転する価値のある技術があるのか？（工，40歳代，男）

◆フィールド重視の研究姿勢は大いに伸ばすべきであるが、もっと多様な人々との対話が必要ではないか。ややもすると一面的な見方しか出来ない方もおられるように思います。（工，40歳代，男）

◆単位取得判定を厳格にし、卒業生レベルの確保に努めること。卒業できない人間がたくさん出ても仕方がない。教育者、教師としての教授の資質をチェックすること。教育者と研究者は区分けされて良いと思う。（工，40歳代，男）

◆期待すること：ノーベル賞受賞者の輩出。関西にある立地を活かして、東京から距離を置き独自性、独立性を維持してユニークな大学の頂点に立ってほしい。 改善すべき点：社会の変化に適当なスピードで対応すること。大学も組織である以上、取り巻く環境の変化に対応して組織を見直し、削減、廃止、増加、新設等のリストラクチュァリングを実行しなければ、生き残っていけない。（工，40歳代，男）

◆大学に期待することを具体化しようとしたとき、やはり大学、時に京大は日本社会の変革者足るべき行動をとるべきだ。①willとpassionを持たすために、学生が自主的に何かをやりたくて、自分で考え、世界に何をするか磨ける教育をすべきだ（共通一次でそれを破壊された人には難しいと思うが・・・）。②世界で最も優れた学者やビジネスマン（経営者）を受け入れ、京大出でなく、世界という観点で世界で最も優れたものを生み出すことを主な活動とすべきだと考える。③国のムダ使いが止まらず、日本人という（古い考え方で）ものを栄えさせるためには、やはり教育に金が要る。②の人々を呼ぶにもそうである。もっと企業とタイアップして社会と接して、お金を吸収しながら大きくなるべきであるうえ、アメリカのように新しく起業して、それが花開く世界を作るべきである。日本はベンチャーにお金が集まらないので、その舞台をアメリカに求めるべきであろう。だとすると、国立かも知れないが、まず京大は米国に分校を作って、その世界を同時に築き、日本と交流（人的にも）し、拡げるべきであると考える。（工，40歳代，男）

◆実社会との交流、国際化など要望すべき点はありますが、良い点（問13記載）をしっかりと保持することこそ大切と思います。今の世の中は「思想、魂の教育」「日本のアイデンティティ」について忘れられすぎと思います。じっくり考えられる時期にこの点をしっかり教育することが重要です。（工，40歳代，男）

◆50歳以上の教授たちを原則退任させる。40歳以下で体制を組み直す。（工，40歳代，男）

◆大学を出てから20年以上過ぎていることから、現状の問題点を把握していないが、自由で個性を大切にした研究を進めてほしい。世の中の雑念を気にせず、これぞと思うことをとことんやってほしい。（工，40歳代，男）

◆私は京大卒業後（工学部）就職し、法律の知識が必要だったので、夜間の明治大学法学部に入りました。その際京大の教育課程で何を習ったのか明大に提出する必要があったので、京大に電話をし、修得科目の何があるのか記した案内書を送付してもらえないかお願いをしました。すると「そのような案内書は配布用に用意していないのでコピーする必要がある。こちらに来

てコピーしてほしい」とのことでした。コピーのために東京から京都へ行くのは大変なので「コピーしてもらえないか」と言うと仕方なさそうにコピーしてやるとのことでした。一方明大の事務の人は何かと親切でした。京大は結局お役所と同じかと感じ、自分の母校と思うと恥ずかしく感じました。国大というところは結局、そういうところがある。（工, 40歳代, 男）

◆社会の将来的方向を踏まえながら、求められるニーズに合ったカリキュラムや制度を検討すべき。（工, 40歳代, 男）

◆即戦力の実務を磨くより、ものの考え方、議論する力、説得する力、原理・原則等の基礎的素養を育むことが大切と考える。（工, 40歳代, 男）

◆民間企業との共同or受託研究に力を入れるべき。社会への情報発信を積極的にすべき。（工, 40歳代, 男）

◆私は自由と独立性のある学風を期待して入学し、その通りの学風に満足した学生時代を過ごしました。同じ会社に入社してくる後輩も同様の雰囲気を持っており、その学風が持続されていることに感謝しています。最近の民営化議論等の中で、もっと京都大学の存在をアピールし、発信して大学のあるべき姿を示してほしい。それが出来るのは京都大学だけで、東大や他の地方大学には出来ないことだと思うし、京都大学はそれが出来る力を持っていると思う。（工, 40歳代, 男）

◆大学の卒業生として、最近入社してくる京大出身者のスケールが小さくて、特に自分の専門性にこだわり過ぎていて、管理職、経営者としてのキャリアを積ませようとしても、どちらかといえば、イヤがる傾向がある。そのくせ、同期横並び主義そのものの論調で、公式な場面で話す連中が多いものだから体系に悪い。もっと自分に自信を持ち、いろいろなことにチャレンジするのが京大卒業生の気風であったと思っているが、そのような考え方になるような教育をしていただければと思う。（工, 40歳代, 男）

◆私の所属する建築学科は教員間、研究室間の人間関係が非常に悪かった。教授陣の態度はなべて暴力的、封建的であり、学生の潜在力を潰す方が多いように感じた。教官はもう少し世の中を知った方がよい。（工, 40歳代, 男）

◆田舎への移転反対。吉田山の麓にあってこその京大である。留学生の人数を減らすべきである。最低でももう少し日本語がしゃべれるべきである。非常にレベルの低い帰国子女枠の卒業生が存在する。日本一の大学である。誇りがなくなってきている。先生方も日本一の気位がなくなってきている。文部省（旧）の言いなりへ変わっては絶対いけない。（工, 40歳代, 男）

◆最近の入試制度を見ていると複雑に過ぎると感じます。また、試験科目にしても減らしすぎたために教養の基礎がない（バランスが崩れた）人が増える傾向にあると思います。物の見方を広くバランスのとれたモノにするには専門知識だけではなく、広い視点が必要だと思います。我々の頃にあった教養部の復活をご検討されてはいかがか？（工, 40歳代, 男）

◆社会、企業側のニーズに合ったシーズの研究を。（工, 40歳代, 男）

◆①大学教員の流動化を進め、純血主義ではなく、民間で活躍している人材等も非常勤の教育スタッフとして採用してはどうか？②関西TLOや関連の外部との交流期間を通し、研究成果のビジネス化にも積極的に取り組んでいただきたい。関西TLOは、外部から人材を獲得し、もっと活性化しても良いのでは。京大のリソースであれば、相当の成果が上がると思います。大学で開発した「ソフト」や「アルゴリズム」の場合、今後も無償公開でいくのかどうか要検討です。③講義はパワーポイント等を用いて液晶プロジェクターですると良いと思います。また、その講義資料は学生はインターネットでHPよりダウンロード出来るとよいと思います。板書に費やされる時間が節約できますので。（工, 40歳代, 男）

◆国立大学の独立行政法人化をはじめ、国立大学を取り囲む環境は、急激に変化しています。AO（アドミッション・オフィス）入試の導入、JABEEへの対応、高校新学習指導要領（2006年問題）等の問題に対して、どのように取り組もうとされているのか開示いただけると有り難く存じます。（工, 40歳代, 男）

◆官民との人的交流をより積極的に進める。情報を収集、あるいは発信することにより、学内満足ではない基礎研究を行ってほしい。最近目立たないのでPRを提言等を積極的に行っていく。（工, 40歳代, 男）

◆研究活動は重要であるが、卒業生にとっては、実際の社会活動の中で、現実の問題に対し、考えを述べ意見を言える先生がたくさん出てほしい。具体的には情報の中心である東京での役所の会議（審議会、委員会等）やマスコミの中で数多く大学の先生方に活躍していただきたい。（工, 40歳代, 男）

◆自由・自主を尊重した学風を重視し、基礎的ではあるが、ユニークな研究成果を挙げられるよう努めてほしい。官僚的ではなく社会に誠実に奉仕できる人材作りに努めてほしい。国内外の大学、教育、研究機関と連携を深め、世界的な貢献が出来るよう努めてほしい。保守的でなく、個性を伸ばす大学として機能してほしい。（工, 40歳代, 男）

◆産学の連携には道を拓いてほしいですが、大学らしさは失わないでほしいと思います。特に学生には即戦力よりも教養の高さ、豊かな品性を望みます。（工, 40歳代, 男）

◆自由な学風、創造性を重んじる学風を大事にしていくべき。今後、企業にとっても定型的な課題に対する解決力よりも創造的な考え方ができる人材が求められる。大学全体がより実践的な方向にシフトするのは悪いことではないが、その中でも上記特徴は守ってほしい。（工, 40歳代, 男）

◆京都大学が特徴としている、自由、創造性、在野精神を失なわず、今後もその特徴を生かした教育風土を作っていってほしい。（工, 40歳代, 男）

◆・理工系は新しい設備の導入が最先端技術の研究には必須であるが、予算の制約もあり、すべての領域で設備を導入することは困難であると思う。分野を絞って集中的に投資することが必要と考える。・なるべく校舎を分離しない事が望ましい。（工, 40歳代, 男）

◆研究のための研究という印象が強い。産業界等とのコンタクトをもっと持つべきと思う。又教授陣も民間から多く採用したら良い。（工, 40歳代, 男）

◆政府の御用大学東大に対する反骨の砦として、ガンバッてほしい。（工, 40歳代, 男）

◆京都市と言う独特の文化地域において、自然科学、人文科学ともにバランスの取れた学風が大きな特色です。権力に背を向けた我々、大学闘争の経験世代は、学問以外に色々な事を学びました。現在の大学生を見ると、画一化＝どこの大学でも一緒と言う図式が見られてなりません。センター試験をボイコットして、昔の一期校の特色を出すべく、独自の入試（国・社・数・理・外国語にて900点）を実施し、頭の体力のある若者を入れるときではありませんか？（工, 40歳代, 男）

◆湯川博士の研究に代表されるような、物理学基礎研究に重点をおいて、世界的に通用する研究者を多く輩出してほしい。（工, 40歳代, 男）

◆これからも社会に役立つ人間を輩出する誇り高き学問の府であり続けていただければ、と思います。（工, 40歳代, 男）

◆・学生の採用面接試験より就職に対する意欲が強くないように見える。京大という肩書きに頼っていて、自己PR等が下手。経済動向、技術動向等を少しでよいから教えることが必要。もともと能力はあるのだから、少し押してやれば、自ら進んでいくことで、世の中とその流れを把握し、自分の考えを確立できるハズ。例えば、いわゆる二流の私大生は、このような点が十二分に訓練されているので、採用面接では中身に比べてよく見えてしまう。面接者の能力にもよるのかもしれないが、京大生は損をしているように思う。自らのばしてきた創造性やフィールドワーク・実験の実力を産業界で活かしていく人も多いことを考慮した教育も必要と考える。・企業の研究所にいた経験あり東京の大学では企業との共同研究が盛んになりつつあるが、京大ではいま一歩という感じがする。企業や他大学を経験した教授が増えているのであるからもっと実社会にすぐに役立つあるいは実用化フューズのテーマをとりあげ、他大学、他企業と連携した研究の推進も必要と考える。（工, 40歳代, 男）

◆独創性を発展させるよう、官の象徴である東大の対局をなす存在であってほしいと期待する。（工, 40歳代, 男）

◆大学の問題は大学内の問題ではなく、小学校からの教育や学校と社会との関係が根本であり、大学の万台を議論してもほとんど何も変わらないと考える。日本の社会全体をどのようなシステムにし、どのような方向に整備するかを提言し、それに対応した大学があるべき姿である。大学が大学のみに勝手な改革をしていても危険なだけではないか。京都大学としては、大学外への問題に打って出る気持ちが必要でしょう。（工, 40歳代）

◆社会に影響する大学であることを期待したい。・優秀な人材を世中に出す・進歩的な研究をプロモートし、リーダーシップをとって、研究・開発等を進める。（工, 40歳代, 男）

◆米国式にシラバスを導入し、単位取得をより難しくすべし。（工, 40歳代, 男）

◆これからも優秀な人材を育てるところであってほしい。（工, 40歳代, 男）

◆OBとして情報、現状の大学の組織、活動についてアナウンスがほしい。（パソコンでHOMEPAGEではある程度わかりますが）（工, 40歳代, 男）

◆応用は、極論なことを言えば、企業で検討できる大学学生に求めるのは、高度な基礎技術力の修得である。くり返し経験を通じて、マスターできる実力をつけてほしい。駄目な学生は、違う分野への方向付けを示すべき。一方、大学教官に求めるのは、上記教官とともに研究者としての自覚性である。自覚すると得られるのは、金を確保することであり、それができない研究者は補助員として処遇すべき、一律平等な扱いはないはず。京大生は相対的に優秀と感じるので、今以上の発展を期待する。（工, 40歳代, 男）

◆東大は官僚を生み、京大は学者を生むイメージがある。大学4年間を生活してみて、1、2年は受験疲れもあり余り勉強した覚えがない。むだに2年間過してしまったと反省している。この2年間をもっと研究にあてていればと悔まれる。京大には自由な学風を活かし、もっと研究活動に力を入れてほしい。1年生の時から専門過程を学んでも問題ないと思う。私は工学部であったので、1年の時から研究室に配属された方が良かったのではと思っている。前半2年である程度研究活動の基礎となる部分を構築した方が良いと思う。また、米国と対応できる日本を作るためには、工学分野でももっと基礎的分野に力を入れ、学生に創造性をうえつけるような教育をしてほしい。創造性を生みだすには、自由な校風も結構だが、やはり米国の教育方法を取り入れるなどの方法も必要だと思われる。これから、グローバル化が進めば更に、独創性、創造性が重要になると思われる。世界に遅れない日本を造るため、京大が他の大学の先頭に立って、学生の教育に努力してほしい。（工, 40歳代, 男）

◆自分が居たころと（20年程前）と変わりがなければ、自由な学風だし、学生の自主性（よくもわるくも）を尊重しているので、このままでよいと思う。但し、やはり入試により、（他大学よりは、学生のいろいろな意味での分布は広いと思うが）柱のそろった学生が固まっているのではないかと思う。まず、学風等伝統にかかわる事の変革より、入試の有り様を変えて、学生の値の分布を広げて受け入れることが大切だと思う。（工, 40歳代, 男）

◆大学改革をさかんにやられているが、余り組織体制を複雑化（それを総合化といっているみたいだが）してしまうと、対外的にわかりにくいだけでなく小粒な人材しか育ってこないように思う。基本的には、単純化したシステムとして、その中で、光ってくる個性を受け入れブラッシュアップできるような体制が望まれる。（工, 40歳代, 男）

◆1. 工学部が桂キャンパスへ移ると聞いておりますが、桂キャンパス⇔吉田キャンパスの移動手段を検討していただきたく、お願いします。2. 京都大学の風土を伝承していって下さい。3. 京都大学出身の各界の著名人の情報を在学中に知ることができるような何か工夫ができないでしょうか？（アナウンサン・スーチー女史（ミャンマー）や、李登輝前総統（台湾）が京都大学に席を置いたことがあることを卒業後、知りました。）（工, 40歳代, 男）

◆昔に比べキャンパスが汚ない！学内が駐車場と化していた（数年前）。現在は？（工, 40歳代, 男）

◆偏差値教育の影響で、大学に入学することを目的として生きてきた学生が多く、彼らは入学後も伸びなやむ傾向がある。彼らは自分から学ぶという経験がないため、一般教養科目の授業でやる気を失い、無気力になる専門科目のゼミ・実習・演習・や研究活動を通じて彼らの能力、やる気を発掘する工夫を講じるべきであろう。（工, 40歳代, 男）

◆企業に就職した場合（研究職はともかくとして）大学の教育が直接役に立つ場合は少ないと思うし、企業側もそれは理解して

いる。高等教育は、むしろ基礎的な学力や教養を目標として行われた方がbetterではないでしょうか。但し、研究者となる人間は勿論違うと思いますので、大学院ではこの辺の考慮が必要では。また、京大卒ともなれば、将来の立場においては語学、特に英語の会話力も重要となりますのでこの辺も充実する必要があると思います。（工, 40歳代, 男）

◆学部、修士コースの勉強はどちらかと言えば基礎的学力をつけることが目的であると考えます。ですから、余り早い段階から専門に特化した教育をおこなうのではなくできるだけ幅広い、基礎的学力をつけるようなカリキュラムにすべきだと思います。一方、修士～博士コースでは専門をきわめて高度な研究ができる能力をつけるべきだと考えます。しかしその研究の内容は学問のための学問を目差すのではなく、常に社会への貢献、社会・産業の変革・進歩を念頭においたものでなければならないと思います。（工, 40歳代, 男）

◆大学院の研究（修論）は、実践的な内容を主にしても良いのでは？工場実修、海外メーカ研修など、学生の間に視野を広げるべき。産学の壁をとり除いてほしい。（工, 40歳代, 男）

◆研究テーマの選定を、現状どのように実施しているのかを知る由もないが、世の中の動きに応じた研究を実施しているか否かが心配。（工, 40歳代, 男）

◆1. ・京都大学において「自由な学風」のもと、生活できたことはよかったと思う。・この「自由な学風」は「京都の町」のよさとともにいつまでも大事にしてもらいたい。2. このごろの新卒の学生を見ると自らで考え、自らで解決するという能力が落ちている。学部、特に大学院教育においては、専門的知識の教育もさることながら、この「思考力」「分析力」「企画力」を高めることをお願いしたい。3. また、教養として「英会話」の強化を是非お願いしたい。大学入学時は皆「英会話」の大切さを認識しつつも、卒業まで特に対応しない場合が多いと思う。強制的に「英会話」を学習するような仕組みにしてもらえるとありがたい。（工, 40歳代, 男）

◆・第一線の現場で活躍する教師を配置すべき。（建築設計）・学生間の競争が少ない。もっと競争が生じる教育をシステムとする方がよい。・学外への情報発信が少ない。京都という他の特性なのかもしれないが、活動をもっと社会に対してアピールしてほしい。（工, 40歳代, 男）

◆京大のＯＢの方々は仕事の関係でがんばっておられる方々が多く、誇りに思っております。（私も活躍に励まねば…）（工, 40歳代, 男）

◆資源の乏しい我国にとって、必要不可欠な研究開発や技術力が流出してしまうことがないよう、これまで多数のノーベル賞受賞者を輩出してきたように、国家、政府、イデオロギーに左右されない、独創的で、世界に通用するヒューマンな人材を育くむことができる、オープンな研究活動の場でありつづけてほしい。卒業後の社会人としての研究活動の場、インターネット講座や、オープンゼミの開催などについて、生涯学習の場としての役割についてなどなど検討いただけたら幸いです。（工, 40歳代, 男）

◆インターネットのホームページをもっと充実してほしいと思います。アメリカの大学などに比べると情報の発信基地としての役割がまだまだと思えます。運用は各研究科、研究室にまかされているようですが、もっと体系的な取くみをお願いしたいです。（工, 40歳代, 男）

◆全体的に、京都大学の学風は、自由で真面目でアカデミックなところが好きですが、逆に方向性なり展望が抽象的で、（一部の最優秀な学生は自立していて好環境だが、）95％の多くの学生は、自主を重んじる陰で自堕落に落ちいり易い状況がありました。普通の学生に対する環境改善―――今、巨大で多様な組織となっては難しいのですが―――基礎的な学習、研究、応用的な実習、全く独創的な試み、といった多層なレベルを逆にエリアと捉え、自分に適した場をどこかに、早期に見つけ、早くから試行錯誤できることができればいいですね。失敗、挑戦のくり返しの中でこそ、信念も創造性もできてくるものですから。トコロテン式（効率のみの）では、社会に出てから困ると思います。（工, 40歳代, 男）

◆学部間の転部についても柔軟に考えていく。（工, 40歳代, 男）

◆私は京都大学の、「野武士」的な考えが大好きである。会社に入社後、東大や早大、慶大は同門会等で集まっているが、ウチの京大は決して群れない。今までに同門会もなかった。こういう精神は是非受け継いでほしい。基礎的な学力（能力）の高い人は、長い目で見ると能力を発揮する。大学では是非短期的なテストの結果で、学生を評価しないでほしいし、一芸に優れた人を尊重してほしい。京大生は入試によってそこそこの基礎知識はもっていると思う。又、私の時の入試の配点は、理系は英、国、数、理各200点、社会100点であった。従い、理系でも結構バランスのとれた人が多かったと思うし、社会に出た時はこういうバランスのとれた人が能力を発揮する場面が多い。 乱筆お許し下さい。（工, 40歳代, 男）

◆大物、おおもの先生という感じの風格のある教官が少なくなっていると思う。（世代が近くなっているのでそう感じるのか？）最近は研究レベルでの東大の方が上という感じがする。何か優秀な若手教官を思いきって昇進させるとかが必要ではないか。旧来の「しきたり」は21世紀には捨てるべきだ。（工, 40歳代, 男）

◆20年以上前に大学を離れ、現状がわかっていないのに、記入できません。（工, 40歳代, 男）

◆世界の研究をリードできる大学であってほしい。（工, 40歳代, 男）

◆①近年、入学試験科目を減少させて受験者数を増やすという手段をとる大学が増加しているが、安易な迎合は人材の質を落とすことになる。諸外国の若者に較べて日本の若者は精神力も含めて水準が低下しつつあると感じている。京大だけでも、この歯止めになるべく、がんばってほしい。 ②講義に関しては、受講者の一割程度しか理解出来ないような難度の高いものもあった。ここらは学生にアンケートをとる等で、せめて3～4割程度の者が理解出来るように講師は工夫してほしい。（工, 40歳代, 男）

◆京都大学に閉じ込もらず、もっと開放することが、かえって”京都大学”の名を高めるのではないか。 公開授業、社会人・主婦

入学、出前講座etc（工, 40歳代, 男）

◆1. 優れた研究者に対して、日本中で最も開かれた大学を目指してほしい。 国内外の優秀な人材が互いに切磋琢磨する場となる為に、 ⅰ. 大学院生入試選考において、京大学部卒業生の比率を漸時低下させていく。 ⅱ. 教官採用において、京大学部、大学院卒業生の比率を漸時低下させていく。 日本の大学も米国等の大学に倣い、基本的に上記の方向を目指すと予想されるが、京大がこの動きを先導することを宣言し、数値目標をたてて実行してほしい。 2. 政策提言の発言を増やしてほしい。 政府審議会、国際機関等の委員としての活動が目立たない。静かな古都で研究に没頭することは大いに結構だが、外へ向けて大いに発言する人もいてよいのではないか？（工, 40歳代, 男）

◆私の在学中は、特に、拘束、半拘束となる時間が少なく教養時は、テストとなるとストライキであった。この点は、アルバイトや部活動を行う上では好都合であった。しかし、大学入学後の勉強などの進め方が自分で探せなかった。特に教養時代の2年間と研究室に入るまでの3年次は、学業的、専門的知識とも余り成果はなかった。私の場合、テーマを与えられないと自分でそれを見つける事が下手なようだ。（それは現在でもそのように感じている。）私のような人間を社会に有用な人材として育てるには、研究室時代（2年間）の教育が最も適しているように思う。研究室時代は、親身になって指導してくれる教授をはじめとした先輩達に囲まれ、自分なりに成長したと感じている。現在の教養部が何年間あるのか知らないが、2年間は長過ぎると思う。職業柄医学部のアルバイト学生と話す機会が多く、それより得た印象は、テーマを定めたゼミ授業（実技を含む）を早目に採用して、いくつか（5〜10程度か）の専門的基礎の教育と各自の興味をもてる、または、才能を発揮できる道を探させるべきであると思う。これには、私の卒業した工学部においては、製造業の会社の協力を得ることが最善であるのではないかと思う。（いわゆる産学協同の事だと思うのだが・・・）（工, 40歳代, 男）

◆大学（国立）の教育研究機関としての社会的貢献のあり方として、国内外への研究成果の公開、優れた社会人、職業人の育成に加え、現在は大学（組織やその代表としての人）が高度情報化され、技術に支えられた社会を方向づけする、またはそれに足る存在であることを示すことが必要。政治は不信、かといって民意、世論だけで国の方向は定まらない状況下で、いわゆる有識（者）である、且つ人文、社会、自然（科学）の知識を総合している大学が、社会の進むべき方向を示すべく、情報発信に努めて頂きたいと思います。（工, 40歳代, 男）

◆最近、特に世の中の動きが早く、かつグローバルに展開しているように思う。この点では、大学と社会のギャップはますます広がっているのではないだろうか？しかし、これは大学にとっては必要な事である。なぜなら、私の経験から言えば、大学生活は、社会に出るための準備段階であったからである。とはいえ、プールでしか泳いだことのない人が、いきなり濁流に飛び込むのも問題があるので、少なくとも流れのある川で泳ぐ方策は知っておかないといけない。これを4＋2＝6年間でうまく行えるようにしていただきたい。（私は学士だけで4年でしたが、少し短い気がしていました）もう1つは、あくまで学生の自主性を尊重していただきたい。良い校風は、引き継いで行くべきものと思います。 以上（工, 40歳代, 男）

◆大学生活を通じ、卒業後に社会の第一線で活躍できるだけの知識と意識を学生に与えてほしい。また、卒業生が京大卒であることを誇りに思い、人生の中で一つの支え（プライド）として大きな力となり得るように、優れた研究、人材創立できるような大学のシステムを常に考えてほしい。特色ある大学教育として、大学院教育のより社会的ニーズとマッチする方向性を出すべきであろう。また、そのチェック及び評価機能の確立も大切である。（工, 40歳代, 男）

◆当時の合成化学では、英語の教科書を使用したが、会社で研究職についてから、非常に役立った。現在における英語の重要性は、その頃よりも高い。英語による専門科目の講義、外国人教員による専門科目の講義等、英語に接触する時間を増やすべきだと思う。一方、教養課程における文学的な英語は役立たない。専門英語、ビジネス英語、英会話に、理系は絞るべきだと思う。（工, 40歳代, 男）

◆本年4月に独立行政法人化された、元国立研究所の研究員です。京大がこのようなアンケートを卒業生に送付されるのは、国立大学の独法化をにらんでのことと推察します（間違ってますか？）が、高等教育（研究）機関である大学本来の使命（これは5年程度の短い単位ではなく、20〜30年という長いタイム・スパンで評価されるべきと考えます）と、期限を区切って業務をいかに効率的に遂行するかを競う独法の目的とは本質的に相反するのではないかと考えます。大学の独法化は不可避の情勢であり、貴学が組織の活性化を計るため自己点検を実施されるのは結構なことと考えますが、時流に流されることなく、大学本来の使命を果たせるような自己改革計画を立案されることを期待します。（工, 40歳代, 男）

◆才能豊かな有意の人材が多くいると思う。学ぶ雰囲気を大切にして、大いに学ばせるべきである。「自由」という名のもとに、学生を放置している点があるように思う。基礎的学力に関しては、「自ら学ぶ」精神論でなく、ある程度「均一」に学ばせる必要があると思う。（工, 40歳代, 男）

◆自由な学風、創造性の尊重は絶対に失わないでもらいたい。ミニ東大化的な傾向がうかがえる。新”京都学派”を育ててほしい。（工, 40歳代, 男）

◆大学側の自主的な改善は大いに結構ですが、それらが学生の束縛とならないように希望します。また、母校の発展のためには、全国唯一とも言える強制・束縛の少ない校風の維持を希望します。勉学・研究に励む者は、本人の意思でいくらでも上昇の可能性を大学側が備え、他の方向を重視する者には、その道で自主的に上昇できるように放任する気概を持った旧来の京都大学の姿を私は理想と考えます。（工, 40歳代, 男）

◆関西地区の地盤低下＝若年人口の減少に引きづられているように思う。これは、止むを得ないので、大学の規模を小さくして質をキープすべきと思う。（特に工学部）（工, 40歳代, 男）

◆1. 教育に関して。問12とも関連するが、「大学は勉強するところ」、「大学院は研究するところ」という基本と、多大の「国民の税金で支えられている」という視点から、「欠陥商品である単に難しい入試を通っただけの学生を社会に送り出さない」、「思い切

って学生を落第させる」といった姿勢が望まれる。同じ専門分野（工学部機械）でみると、同志社大学では5年で卒業する学生が多いが、それなりに考え方のしっかりした学生が輩出しているように思われる。また、「東大、東工大と比べ京大に行くと遊べる」という情報が受験生には流れている。「自由、創造」という学風のはき違えも甚だしいが、京大の製品、すなわち卒業生を見ていると、問題性の比率が増えているように思われる。2. 研究・社会貢献に関して。京都大学は今後とも日本を支える研究と人材の創出を行う大学であってほしい。そのためには、独立行政法人化に当たっても、「10年後、20年後をにらんだ研究」と「社会の要請に対応した現実的研究」のバランスを考えた体制になってほしい。現在の小講座制を認めるなら、各学科／専攻内でビジョンの議論をしっかりして、上記バランスをとるべきである。また、大講座制を実質的に運用し、これまでよりもう少し大きな単位で上記課題を両立することも一つの方法であろう。「京都」の風土として、これまではどちらかというと国家プロジェクト等に積極的でない面があった。しかし、これからは学科内でグループを組織して、大きなプロジェクトを取る、といった試みも重要になる。このためには、普段からのビジョンの議論、専攻内での運営方法の改善も必要と考えられる。ただし、10年後、20年後にプロジェクトが取れる基礎研究、各分野の基礎研究も怠るとすぐ息切れするわけであり、バランスの取れたマネージメントは非常に難しいと思われる。外部と協力したプロジェクトを進めるためには、専攻群単位くらいで、外部との相談窓口等の設置も必要になると思われる。そのためには、「企画能力をもった中央官庁の行政技官的な事務官」の配置と養成も必要になると思われる。3. 後継者の養成。自分自身も修士課程しか出ていないのであるが、現在の研究の進歩を考えると、研究者養成には、博士課程進学が欠かせない。しかし、現実的に、修士課程の最優秀層の学生が博士課程に進学している状況にはなっていないように見受けられる。また、博士課程進学促進のため、博士課程学生の授業料免除、学生宿舎整備等、経済的支援も欠かせない。海外からの学生受け入れも重要な課題である。聞くところによると、留学生宿舎等、極めて貧弱な状態にあり、障害になっていると思われる。（工, 40歳代, 男）

◆自由で創造性豊かな人間を育ててください。（工, 40歳代, 男）

◆一般教養、基礎教育、専門教育／研究のバランスが重要であるが、京大（私が在籍したころ）は非常にバランスが良かったと思う。社会が実利重視になり、専門性、実務への注力を要請する圧力があるかも知れないが、一般教養、基礎／学術を軽視するべきではない。社会に出た場合、大学での専門知識は重要だが、それよりもはるかに人間としての幅の広さが、その後の自分の成長発展を左右する。今後、国立大学は独立法人化していくと理解しているが、経営感覚は必要とは言うものの、単に採算性のみで大学を運営するのではなく、学問の府、人材育成期間のバランスを組持し、ユニークなポジションを目指してほしい。教官の流動性は一つ重要な改革と思われるが、成果の評価システムとして短期の成果だけでなく、学問への取り組みという長期的な価値も反映されるべきだろう。（工, 40歳代, 男）

◆想像力豊かな人材育成。国際社会で通用するための下地を持つ、人材の育成を期待します。（工, 40歳代, 男）

◆基礎的素養と実践的経験とも、どちらも社会で重要なことではあるが、会社ではどちらつかずの状態で入ってくる、新卒者が多い。何をやりたいのかがわからない、と言われる人が多い。確かにその会社で、実際にどんな事をしており、またどんな事ができるのかがわかるのは、難しいことではあるが。工学系においては、そういった意味では社会実習をもっと広げて頂き、例えば、会社で実習したことを単位にするなどの工夫があってもいいのでは。（工, 40歳代, 男）

◆ (1) 専門性への特化よりも、一般教養・語学など幅広い分野での基礎学力が養えるようにしてほしい。(2) また、独創力・創造力が発揮できるテーマ・講義・演習をさらに広げていってほしい。企業では単に知識だけではだめで、行動力、自分で考える力、さらに他人と違う選択をする判断、決断力が必要であり、そうした観点からもカリキュラムを変化させていって下さい。（工, 40歳代, 男）

◆大学に期待することは、世界をリードする水準の研究と、有望な卒業者の供給です。資金的、スペース的制約で、設備・機材が充実していないとすれば、残念な事です。企業との連携もルールを明確にしつつ、前に進めて良いと思います。講座の組織も見直しが必要かもしれません。教授から雑用を減らして、研究に向ける時間を確保する方策を考える必要がありませんか。（工, 40歳代, 男）

◆プレゼンテーションスキルの教育を、もっと実施すべきと考えます。リクルート活動をしているが、最近は京大生といっても、採用面接で落とさざるを得ない学生が増えている。自分の考えていることを他人の前でしっかりと表現できることが、今後、会社生活においてますます重要になってくる。プレゼンテーションは、ある程度は教育で身に付くものである。米国にも留学したが、授業において、ディベートや研究発表の仕方をちゃんと教育している。京大においても、もっとこの点に重点をおいた教育をすべきと考えます。（工, 40歳代, 男）

◆吉田キャンパスの充実を計り、都心から離れてはいけない。特に土木工学。（工, 40歳代, 男）

◆自由な研究、開発の推進。（工, 40歳代, 男）

◆大勢に流されずに、常に創造を心がけ、また、自分自身の価値観を大事にするように生きてまいりましたが、これは京大時代に培ったものが原点です。21世紀に必要な人材こそ、京大が送り出すべきです。多様な価値観とオリジナリティーをどんどん伸ばしていけるような校風にして下さい。その意味で、教養は幅広い価値観に応え、院では徹底した専門性とオリジナリティーが求められるやり方が望まれます。（工, 40歳代, 男）

◆自由な学風と独立性で、東大と相対する地位を占めてきたが、最近の卒業生を見ていると、何か型にはまっており、一回り小さくなったような気がする。大学は学業のみを学ぶ場のみでなく、長い人生の道標のようなものであってほしいと思い、そのような教育を望んでいます。（工, 40歳代, 男）

◆工学・理学系の産学連携の気連が、今ひとつの様な気がします。その方面では阪大の方がはるかに進んでおり、過去に京都系（？）ベンチャーであった、堀場・村田等、企業創成時での連携の様な、活性化を期待したい。（工, 40歳代, 男）

◆半導体の技術開発を担当しています。この分野における関西企業、特に京都の企業（ローム社、村田など）の活躍の裏には、京大の果たした役割は大きいのでは、と推察しております。一方においては、大学が中心となる研究センターは、プロジェクトでは、京大は目に見える成果を出していないと感じます。立地条件の制約が大きいと思います。予定されている郊外移転はひとつの解かもしれません。個人的には、学生のmobilityを高めることが有効と思います。夏休みの企業経験or海外含む他大学での研修といったような、人材の流動化をベースとする、広い視野を養成する仕組みを導入して、京大単独ではなく、広いグループとして活動を広げることに価値あり、と考えます。学部改称、再編が多いことは時代の流れではありますが、一方ではしばらく大学へ顔を出していないと、流れがわかりにくく、寂しさを感じることもあります。ダイナミックな研究と教育を中心にして、今後も輝く京大であることを期待していますし、卒業生として支援していきます。（工, 40歳代, 男）

◆学生の気風が大きく変化していると思う。早急に結果のみを求める所が見受けられる。じっくり真実を追求する場を提供し、その精神を育む大学であってほしい。一般教養科目は、軽視すべきでない。世の中は広いと判っただけでも良いのではないか。多くの学問のほんの入口だけでも身に付けておくことが大事だと思う。（工, 40歳代, 男）

◆京都大学への求心力が弱まっているのではないか。大学から卒業生への情報発信を強化すべきだ。（工, 40歳代, 男）

◆京都大学の学風、アイデンティティを継承しつつ、新取の気概を保つ（教官も事務官も学生も）こと。他大学とは違う何か、を維持、発展させたい。キャンパスが分散しないように努めてほしい。（桂キャンパス構想には反対でした。）（工, 40歳代, 男）

◆今まで以上に独創性が重要視される時代ですから、より自由で独創性を生む教育を続けていただきたい。また、好き嫌いにかかわらず、英語は国際社会の共通語になっている。大学での英語教育に取り組む方法を考えられたらいかがですか。教授の問題もあると思いますが、英語で行う授業がもっとあってもよいと思う。（工, 40歳代, 男）

◆他大学を凌駕する優れた人材を多く輩出されることを期待しております。（工, 40歳代, 男）

◆資源の少ない我国にあっては、知識・人材の育成による立国は必須であり、その為には質の高い高等教育は欠かせない。現在、民間企業の持つ応用的技術力は大学程度の遠く及ぶ所ではない。大学は単に潜在的能力を持った人材の輩出を行ってきたに過ぎず、社会に広く有用な知識・技術の創造で貢献してきたわけではない。今後も旧態依然たるそうした姿に終始していてよいだろうか？。答は否であろう。京大の特徴とも言える創造性、独創性をいかんなく発揮した知識人材の育成に当ることが重要と考える。またそうした人材・知識は単に国内にとどまるだけでなく広く国際性を身につけ内外共に活躍できるものであってほしい。そのために以下のことを提言する。1）基礎科目教育の充実（学部）2）応用科目教育の充実（大学院）3）外国語教育の充実（すべてのレベル）4）プレゼンテーション技術の修得もはや英語は当然であろうが、今後、その他一ヶ国語程度は必要であり、論文の2本に1本は外国語で書いて頂きたい。私は過去に京都大学教授or助教授でありながらひどく英語の下手な人を何人も見たが、あれでは通用しない。また、自分の考える所を明確に相手に伝える訓練も我々の学生の頃は全くなかったと言ってよい。これも今後非常に重要である。最後に自分の経験をふり返り、大学の先生は教えるのが極めて下手であったということも参考にしていただきたい。大学は教育と研究の場でありながら、後者に重きがそがれ前者は重要視されていなかったが、はたしてそれでよいのか？。先生は研究成果のみによって評価されるというシステムである限り教育の場としての大学の姿は軽視されるであろう。教育という大学の果たすべき役割を十分に認識し、この面からも先生が評価されるシステムの整備も必要ではないか。（工, 40歳代, 男）

◆“教養”教育を如何に考え、どのような方針で臨むのか、大学としての意見を明確にされたい。近年、専門学校他の実務教育や指導に高卒者など若年層の眼が向いている。大学教育を受けてきた者、また、社会経験を積んだ者にとって、若者の価値基準が眼先の実利にしかないのは、はなはだ情けないことである。一方、私学においては、その学生募集で“全人格的教育”“豊かなキャンパスライフ”など、学生時代を社会に出るまでの「モラトリアム」としてしか従らえず、根本的に、また科学的な論点から「何を提出するか」「何を学ばせるか」の観点が示されないように思われる。国公立大学もそれぞれ独自の教養、教育カリキュラムを一般に示し、その目的としての教育理念を世に問うていただきたいと思っている。（工, 40歳代, 男）

◆自由の気風は維持してほしい。管理教育は反対。（工, 40歳代, 男）

◆大学生活は教養や専門教育を身につける大切な時期であるが、ややもすれば目的を見失い充実すべき時期を浪費しがちとなる。インターンシップ等企業との接触を図ったりしてモチベーションを高める必要がある。基礎教育と研究を両方充実させて、「追試」等の“甘く卒業させる”ということを廃して、値打ちのある卒業生を送り出してほしい。（工, 40歳代, 男）

◆①卒業後(社会人になって10～20年後)、最新の学術理論や、調査、分析手法について、社会人としての経験を踏まえて、研修あるいは研究できるサポート体制を構築してほしい。②京大アメリカンフットボール部の活躍は卒業生にも、大きな元気と誇りの気持ちを起こさせる。学校としてももっと大きな支援をすべき。（工, 40歳代, 男）

◆大学時代は勉強をしたいと思い、多方面の分野をいろいろかじったが、結局、長続きせず、余り何もしなかったように思う。7年ブラブラして、怠惰な生活にイヤ気がして、企業社会に入った。現実の問題に直面して、勉強する目的がブレなくなり、30才代、40才代と少ない時間の中で、やっと本気で学ぶことを始めた。自分にこんなにも集中力と根気があったんだと認識する一方、なんで若さも、時間も意欲もあった大学時代に何もできなかったのだろうと思う。・・・と書きながら、京都大学に望むこととしては、学生をほったらかしにして何の面倒もみないという伝統をきっちり守ってほしいということだ。まともな社会人を育てようなどという目的意識は組織として決してもってほしくない。勉強したい人は、自分でやれ。何をしたら良いのかも示さない。それが京都大学の良いところだと思う。（工, 40歳代, 男）

◆問題点、改善すべき点について、以下独断と偏見（でもないと思いますが）をあえて承知の上で、私見を述べさせていただきます。①他大学出身者の本学への学部編入学あるいは大学院への受け入れの基準を厳しくすべきである。（現在受け入れ中の者を含む。）理由最近、巷に「学歴改造」なる言葉が出回っていて、それに関するノウハウ本も何冊か出版されている。高

卒、大卒を大学院終了に、あるいは、いわゆる受験偏差値の低い大学卒を編入学等で高偏差値大学出身に変えることを意味するらしい。特に大学重点化以後、定員を満たすため、京大、東大でも他大学出身者を多数受け入れるようになっていると聞く。身の回りでも、私の知人Tの息子で国立M大学教育学部の出身者が、M大学の修士課程に籍を置きながら、2年間、本学理学部の某研究室に内地留学しそのまま博士後期課程に編入している。T曰く「その研究室はよくM大学から学生を受け入れており、息子はほとんど無試験で潜り込めた。うまいことをやってるやろ。」と言う意味のことを吹聴していた。私はこれを聞いてにわかに信じられなかった。偏差値がすべてではないが、学部の受験偏差値が10数点も下で、本学の修士課程の試験すら受験できないレベルの人間が、博士課程に編入を許されること自体が驚きであり、不思議でもあった。しかも、看板学部の一つである理学部にたやすく。しかし、考えてみれば事実上、論文審査と面接だけであれば、コネあるいは情実が入り込む可能性もなきにしもあらずである。少なくともそう見られてもやむを得ない。彼らは、京大で勉強・研究したいというよりも、京大を出たというステイタスを求めているだけとしか思えない。厳しい見方をすれば、本学の自由で開かれた学風を悪用し、食い物にしているのではないかとさえ思う。この様な現象は京大に限らず、関西の中堅私大の余り出来の良くない学生が親のコネクションで阪大の大学院に入れたとか、「大学なんてどこでもええんや。京大の大学院にうまいこと潜り込んで最終学歴にしたらええんや。」という高校生の声が電車の中で聞こえてきたり、某東京R大学などでは予備校よろしく東大大学院への合格者数のPR記事を雑誌に掲載しているなど、一昔前では考えられなかった事例が随所に見聞される。本学出身でノーベル賞を受賞された先生方を見ても分かるように、東大に行けるだけの学力を充分有しながらあえて京大を選択し、東大に対する良い意味でのライバル心を糧に各分野で研究に励み成果を挙げてきたというのが、京大のアイデンティティの一つではなかったか。その意味で、京大に対するコンプレックスをもった人間を安易に受け入れるべきではない。京大にとって、多様な学生を受け入れるメリットよりも、レベル低下等のデメリットの方が大きくなってきているように思えてならない。そういう「お客さん」の「学歴改造」の片棒を担ぐ余裕があるのなら、生え抜きの学生をしっかりと厳しく指導し、世界に通用する研究者に育ててほしい。世間では依然として、大学院の入試が大学入試のように厳正、公平に行われていると信じられている。社会の京大に対する高い評価というのも、研究レベルの高い大学だからということと共に、東大に次いで入試に合格するのが難しい大学だからというイメージによるものがあると思う。定員充足の必要性等、諸般の事情があるにしても、大学院の特に博士課程の選抜がいい加減に行われているといった風評が立つこと自体が問題である。最近、私同様、大学院に対する疑念、不信感を持つ人が徐々に増えてきているように感じる。このままでは、大学に対する信頼も揺るぎかねない。対処法の一つとして、他大学出身者はすべて研究生として受け入れ、すぐれた学位論文を書いた者に対して学位を与えるだけで良いと考える。要するに、他大学出身者に安直に京都大学大学院修了の肩書きを与えないことである。そうすれば他大学からも、純粋に京大で研究したいという優秀な若者が集まるはずだ。現状のシステムでは、必要以上に他大学出身者を優遇し利することになり、社会的不公平を招いていると思う。②大学で発行している卒業者名簿等において、京都大学学士と他大学の学士とは別冊にする、あるいはページを分ける等、何らかの形で明確に区別（差別ではない）してほしい。以上、京都大学を愛する者のひとりとして、これからも、日本の優秀な若者のあこがれの存在としての京都大学であり続けることを願って、一言苦言を呈させていただきました。失礼をお許し下さい。（工, 40歳代, 男）

◆4年間の教育としては短かすぎるので効率性を高めた内容にすべきと考えます。これからはますます国際化の時代ですので外国人（欧米系etc）の教育者や学生をどんどん迎え入れ、英語による講義をどんどんやればいかがでしょうか？京大卒業生は自由な学風で育っているものの、語学力は個人の自己啓発にゆだねられている部分が多く、個人格差がはげしいように思えます。語学の単位取得はTOEIC等のきびしい関門を設けて、あるレベルをクリアできなければ、与えないというようにきびしさも必要かと考えます。（工, 40歳代, 男）

◆特にありません。母校の一層の発展を祈願いたします。（工, 40歳代, 男）

◆多くのノーベル賞受賞者を輩出しているように、人に強制されない、本人の自主性を尊重する自由な学風が京大の何よりの財産であることを痛感している。（工, 40歳代, 男）

◆・20才前の青年には、まだ自分の適性が解っていない人が多いと考える。入学試験の募集枠組は余り細かくならないほうが良いと思います。（工, 40歳代, 男）

◆①研究分野において高い成果を出すこと、またそれらの成果の周知を図ることを期待したい。京都大学の場合、卒業生が地理的に離れたところにいることが多いため、大学に期待することは、高度の研究成果となる。②大学卒業後、大学院修了後の継続教育についても、今後の検討課題かと思います。（工, 40歳代, 男）

◆日本の大学制度は明治時代に欧米列強に負けない為に「富国強兵」の政策を掲げ、その目的達成の為の日本国民全員の啓蒙の一環として設立されたものであった。最初に日本政府を支える優秀な官僚を育成する為に東京帝国大学が創立された。そして東の東京大学に対抗し、学究を目的とした、京都帝国大学が明示30年に設立された。その学園は今も残っているのだろうか。どうも当大学は学究に偏り過ぎていて、産学協同とか社会への貢献が少ないように思えてならないし、当大学を卒業しても大学時代に難しい理論ばかりが叩き込まれていて企業の第一線では暫く役に立たない人材を輩出しているように思えてもらない。社会にすぐ役立つのは残念乍ら、早慶・大阪・神戸・同志社等である。そこで以下の様に当京都大学の人材養成の理念に変更願いたい。即ち（東の東京大学が官僚養成大学？）・実業（財界・医学界etc.）で日本の中心となる人材を育てる学風の再養成。例えばハーバード大学やM.I.T等の様に！。・理論だけでなくもっと企業など社会の第一線の技術を取り入れた教育カリキュラムを整備願いたい。（松下電器も「大学卒は使いものにならない。だから入社して1～2年社内教育をやる」と言っている。）（小生も製造会社に入ったが、最初は工具の名前も知らなかったし、ポンプや産業用空調機の構造すら知らなくて、結局会社の中で覚えてゆくしかなかった）・もうそろそろ「象牙の塔」のおろかな考え方、学風は廃棄すべし。・もっと

産学共同プロジェクトを推進して社会貢献をすべし。・ノーベル賞を頂くのも名誉なことだが、もっと社会の第一線で活躍できる人材を育ててほしい。・また先にも触れたが、自由な大学の気風がかえって「天プラ学生」を産んでいる悪しき事態である。学生の本分はあくまで「社会に出て活躍する為の勉学にあり。真面目に勉学に取り組まない人間はもっと振り落とすべきだ！。（工, 40歳代, 男）

◆1. 教育面。⑴ 知識レベル、情報量が以前と大きく変化しておりますので理科系学部では専門学科に偏らずバイオテクノロジーやナノテクノロジーといった大枠的なものを基礎から理解できるような共通カリキュラムが必要と思います。⑵ 理科系卒業者でも社会では管理・経営に関係する事が多く学部在学中もしくは卒業後に将来必要となる関係文科系教育を履修し、希望する学位（学士、修士）が取得できる様にできないものでしょうか。⑶ 実習教育には技術修得だけでなく、自分で課題を設定し、実験・検証・まとめ・発表議論するプロセスを取り入れ、入学後できるだけ早くから主体的な活動を創造性の発揮を刺激する様なシステムが必要と思います。（受身的な教育の是）　2. 研究面。⑷ Dr.コース以上では基礎的な研究を重視し、学部を統合する様な組織、予算、研究課題設定によって社会的にインパクトの大きな成果が上がる事を期待します。⑸ 産学協同研究をより活発に効率よく行える様に基礎的研究部門を別に受ける部門を設ける事は如何でしょうか。各学部に担当者を置き、全学で運営する組織を大学組織として持つ。担当者は大学教官でする必要はなく、企業出身者もしくは派遣者でも良いと思います。又、担当者はDr.で大学、企業両面に通じてる人が適任と考えます。⑹ 京都大学に限らず大学人は先見的な教養人、指導者としてもっと社会に向かって発言すべきと思います。（学会の影響力が低下している事もあります。）例えば、国際的感覚に乏しい官庁（国、さらには地方）、特に文部省には国際化、人的交流をより積極的に働きかけ、国内ローカルな対応に多く終始するのではなく人類、地球環境に対して必要な事を研究し、世界に貢献しようとする事がひいては日本の国益（信頼性も含めて）や産業振興にも役立つという事を主張すべきです。　3. その他。社会の多様化、成熟化が顕著になっておりますが国際的な教育、研究のセンターとして本学が今後も先導的な役割を担っていく事を期待しております。日本の大学は戦後数が多くなりすぎており、全体的に卒業者の室が低下していないでしょうか。本学の校舎が一部郊外に移転する事になっていますが、それによって全学の機能が分散、低下しない様に運営される事を祈ります。一卒業者として微力ながら協力出来るところが有ればと思っております。（工, 40歳代, 男）

◆自由で独立した大学の雰囲気は大切にしてほしいと思うが、社会とのつながりを太くするように努力してほしい。工学系で言えば、産官学の連携をもっと強化すべきと思う。どのように連携を強めるかはいろいろ議論のあるところだと思うが、京大らしいやり方を模索してほしい。（工, 40歳代, 男）

◆自由な学風を守り、「変人」が生まれつづけるように期待したい。（工, 40歳代, 男）

◆・建築系教室を卒業したのですが、当時製図版も自分のものを用意しなくてはならないなど研究設備の予算を充実してほしい。・総合大学のよさは、各学部の交流にある。このため、研究施設はできるだけ分散しないでほしい。（工, 40歳代, 男）

◆今後の大学卒業生への希望1.基礎知識を持つ事。2.物事に論理的に取り組む思考を育む事。3.新しい発想を持つ様心掛ける様、意識すること。対策1.教養での勉強を厳しくする。但し、内容は、専門課程の必修を増やす。具体的には、必修が取れなければ、専門課程に進めない。2年以内に進めなければ退学とする。2.学生の意見を持って教授、助教授の評価を行う事。改善が見られなければ退職する。3.企業学生の受け入れ。企業との共同研究の推進。（工, 40歳代, 男）

◆◎産学協同の立場を明確に打ち出し、内部の先進学問の実績等を、もっと積極的に、情報発信するべきと考える。◎特許出願も、軽んぜずにより積極的に取り組んだ方が良いと考える。◎入学試験が終わって、力尽きた感のある多くの学生に、『京大生として、社会に貢献すべき立場にある』ことを、しつこいようだが、大学から啓蒙していくべきである。彼らは、進むべき方向を見失っている……ように感じる。（工, 40歳代, 男）

◆・図書館等卒業生、社会人にも解放してほしい。（工, 40歳代, 男）

◆産学協同を推進する（工, 40歳代, 男）

◆気概のある学生となる教育体制を作ってほしい（工, 40歳代, 男）

◆・自由な学風の継承を願う。（工, 40歳代, 男）

◆東大とは一味違った校風で、在野で活躍する人材を多く輩出し、今後も西の雄として君臨にいってほしい。（工, 40歳代, 男）

◆京大の魅力はやはり、自由と創造性と思う。卒業後、九州大学(地元)の研究室に一年在籍したが、テーマやスケジュールはすべて教授の云うまま、すべて教授の研究発表のお手伝いという状況を見てがっかりした。学生の自主性を育てる事は社会に出てから、本当に大切と思う。日本の教育に関しては、すべて「先生の講義を拝聴する」スタイルが小学校から大学まで定着していて、これから改善しない限り、日本に未来は無いと思う。私が会社経営に就いて、社員に望むのは、自分の意見をきちんと述べれること、他者との議論が冷静に出来ることである。京都大学こそ、この日本の悪習慣を立ち切り、新しい教育、人材育成の学舎として歩き出してほしい。＊社会を知らぬ教授はできるだけやめていただいた方が良いと思う。（工, 40歳代, 男）

◆問12に答えた様に、教育機関としての京都大学に期待するのは、学生に対し、短期的な知識を与えるのではなく、長期に渡って使える知識や、広範囲の分野に応用できる知恵を教えてほしいという事である。京都大学にいれば、自然とそれが身につくものと考えるが、積極的にそれを進めて頂きたい。 研究機関としての京都大学に対しては、研究者が研究しやすい環境－金銭的な援助、自由な研究、人の自由な交流－を支援できる仕組みを考えて頂ければ良いと思う。閉鎖的に京都大学に所属している人だけが恩恵を受けるのはなく、「研究テーマ」によってこの恩恵を受けることができる仕掛けが必要だろう。卒業して長いため現状を知らないので、現状既にそうであれば、それを維持される事を望む。 なお、京都大学に望まれる事と大学一般に望むまれる事は異なる。それを混同した一般論調に惑わされないで頂きたいと考える。（工, 40歳代, 男）

◆海外留学生と外国人教官を増やし国際性を高める。キャンパスや実験室の面積を拡げ余裕のある研究環境を作る。(工, 40歳代, 男)

◆海外留学、企業留学等、外の世界を体験できる制度をもっと充実してほしい。(工, 40歳代, 男)

◆京都大学は、社会から毎年、優秀な人材を預かっている。その人材をさらに育てて社会に送りだすかが使命と考える。自由な学風は、その観点で、①やる気のある人材を伸ばす効率の高さ ②自由な人材を型にはめて将来の価値をかえって低めて送り出さないこと、は評価するが、自由な学風を継続しつつ、4年間自由のままである人材について、本人のやる気出る分野の教育機会を提供し、優秀な人材の育成効果の点で総ポイントを高めていただきたい。(工, 40歳代, 男)

◆大学と企業との人的交流の促進が重要。 大学教官の一定期間の企業研修の義務づけなど研究テーマなどに対する企業の問題意識と大学のそれとの差違が目立つことが多い。 また、国家公務員である国立大学の教員の皆さんにも 民間企業の業績主義などの厳しさの一端を実感してもらえる機会が必要。 これからは国際化の時代、英語くらいはもれなく日常会話ができるように仕上げてほしい。文学的英語は一部の人を除いて不要。例えばTOIEC600点を卒業資格くらいにしてはどうか。(工, 40歳代, 男)

◆私の限られた経験の範囲では、東京大学卒業生の方々は「利に聡く、物事の処理に長けた人」が多いように思います。それに比べると京都大学卒業生の方々は「利に疎く、外見・見かけにこだわらない質実な人」が多いように感じます。この差が学生を含めた大学の性格を表現しているように思います。今後も、「決してアカ抜けてはいないが、高邁な精神のもとに世界一級の研究を行う大学」であり続けてほしいと希望します。(工, 40歳代)

◆京大は京都にあってはこれ以上の発展はない。第二キャンパスで期待したが、西のかつての京の都の「焼き場」に移る神経が、現在の日本政府以上に官僚的と思う。 なぜ、人の多い地域を目指さないのか？？ 医学部でも、老人ばかりの京都市内でやっていてもどうしようもない筈。大阪のように吹田・千里へ移ったり、大都市メリットを最大限に活かして、国の○○センターを牛耳っている才覚が京大には全く無く、その存在すら危ぶまれている。仕方なしに「移植」しか目玉が無い。 このままでは、卒業生の明るさや有能さで、名古屋・大阪・東北・九州に負け続けるという危機感がないのだろう。 ビジネス面で見ても、京大出身者で成功した方を大事にしてPRする努力なんぞ、全くしていない。 共産党の多い土地柄と、お公家さんの意識から脱却した大学ビジネスを展開しないと、あと10年もすれば、「廃墟」または「文化遺産」となるでしょう。やはり、京都市の影響から逃れるか、京大内を徹底してレッド・パージをかけるかしないと、まとまらないでしょう。私の中では、どうも、京大・共産・阪神タイガースのイメージです。 うちの社の、すぐに徒党を組んで「紅燃ゆる」をやる連中をもう (以下、不明)(工, 40歳代, 男)

◆アカデミックな京大の独自性および国際的学術レベルの維持を追求してほしい。東大を頂点とする日本的価値観の後追いはして欲しくない。(工, 40歳代, 男)

◆大学は社会に移る前段階でもあるので、勉学のみならず、ボランティアその他の、社会と直接かかわる機会をより多く持ったほうがよいのではないか。 ただし、十分な意欲と能力(学力を含むがそれだけではない)を備えた学生であることが前提ではある。 特に、官僚志望者には「苦労」を望む。(東大ほどではないはずだが) (工, 40歳代, 男)

◆東大並に学位の取得しやすくしてほしい。(工, 40歳代, 男)

◆問題解決型の教育をしていただきたい。実際の現場(文系・理系問わず)での実習を夏期休暇時に「必須」としてはどうでしょうか。 京都の学生は、幹部候補生として育成することになりますが、問題点を見つけることと、解決に当たって率先垂範することが重要です。評論家を育てないように注意してキャリアパスを組み立てて下さい。(工, 40歳代, 男)

◆私はラグビー部に所属していたのですが、市内と宇治のグランドの距離が負担でした。 今後、桂に新しいキャンパスができると聞いていますが、その際ますますクラブ活動がしにくくなるのではと心配です。あらたな運動施設などの整備が必要かと考えます。 ---------- このWebアンケートは、だれでも送信できてしまうと思われますが 正確な情報が得られるのか心配です。(工, 40歳代, 男)

◆独自の気風を無くさないようにお願いします。(工, 40歳代, 男)

◆私が就職した頃の京都大学に対するわが社の周囲の人間の印象は、「徒党を組まない一匹狼型」「あくが強い」など、ともすれば組織の中で浮いた存在、というイメージであったが、そういうイメージが年を追って減りつつある。 これが喜ばしいことなのか悲しむべきことなのかは微妙なところだと考える。 私としては残念な気持ちのほうが強い。(工, 40歳代, 男)

◆型にはまらず、道を切り開く創造性・独創性を教育すべきであり、社会に出てからもその教えを請えるような雰囲気とその制度のある京都大学を希望します。(工, 40歳代, 男)

◆現在、京都大学で教える側にあるので、書きにくいが、1点だけ言えば、すべての教官が教育にも一定の労力を払うように啓蒙 (あえて啓発ではなく啓蒙を使う) することであろう。 研究するためには優秀な学生が必要であるが、従来、優秀な学生は何もしないでも何人かは出てくると思っていたし、実際そうだったのだろう。 しかし、状況は変わり、優秀な学生は育てなければならない。(工, 40歳代, 男)

◆ノーベル賞を生み出した学風を大事にしてほしい。 最近の京都大学のポジションの低下を憂える。 もっと、日本の技術をリードするような大学になってほしい。 それと、より開かれた大学を目指すべき。 教授陣に対して、一般の企業と同じ評価が必要。 それと教授会の前近代的な運営方法を変えるべし。 具体的には、全員の合意主義はだめ。一人へんな教授がいると何もできなくなる。(工, 40歳代, 男)

◆共通一次試験等によって、京都大学の京都らしさが失われていると感じている。東大に入れない者が、一ランク落として京都を受けるというような偏差値教育の歪が大学の特徴を奪っているのは残念である。中央に位置しない京都の国立大学として、特徴ある教育システムづくりを期待する。(工, 40歳代, 男)

◆学生と卒業生との連携を強化すべきです。京都大学主催の討論会など卒業生が来たくなるような実践的な議論が出来る交流の場をもっと持つべきと思います。（工, 40歳代）

◆教養の年間をもっと専門分野の教育にあてないと遊んでばかりの学生になってしまいます。自分の経験から （工, 40歳代, 男）

◆昭和52年の工学部・修士卒です。 国内企業に勤務していましたが、会社買収により、思いもしなかった外資系企業で仕事をする身になりました。英語のコミュニケーションで苦労する毎日です。英文法を知っていることが却って障害になっているように思えてなりません。一般教養教育にはさほど必要性を感じませんが、会話能力だけは必須だと、今思っています。（工, 40歳代）

◆・工学関係では、企業の方が規模、予算、現実性、レベルなどで大学を凌ぐことが多く、学外の経験が無いと現実の課題の有り様も理解し難いのではなかろうか。大学の教官については、一定期間、民間企業での実務経験を有することを要件とするような制度も検討しては如何かと思う。（工, 40歳代）

◆日本の組織特有の弱点である縦割り、官僚制を配して効率よく研究・教育を進めてほしい。 教官の事務負担をできるだけなくして、研究・教育に専念できるようにすべきである。 研究の成果を公正に評価する仕組みを導入して、成果主義、競争原理を導入すべきである。産業界ではとうに行われている。（工, 40歳代, 男）

◆出口の見えない昨今の世相の中で、日本の向かうべき方向を示唆したり誘導するような役割を期待したい。具体的には、①ともすれば実利を優先する社会に対して、理科系でいえば基礎科学の研究の充実を文科系でいえば哲学や社会科学の一層の充実を図っていただきたい。②一方で、大学や学問の世界だけにとどまることなく社会への積極的提言を図ることでその存在を大いに知らしめていただきたい。③自身の経験からして、教養課程こそ充実を図るべきだと考える。学生時代は、その価値がわからなかったが、社会に出てみるとその価値がわかる。従って新入生のオリエンテーションに際しては、この点に関して卒業生とのコミュニケーションの場を持つことで早期にその価値を理解させてあげるようにしていただきたい。④大阪等の都会で、社会人用に経営学や哲学、文学等のコースの設営をお願いしたい。（工, 40歳代, 男）

◆実用英語教育、ビジネス・スクールでの生涯教育を中核に据え、海外大との相互乗り入れ等、先進的な改革を実行すべき。（工, 40歳代, 男）

◆実践的な面は社会に出てからその方面に応じて身につければよいので、どの方面にも対応できる基礎的な面を重視すべきと思います。（工, 40歳代, 男）

◆問12に、重複するところは多い。以下、いくつか追加する。 ・学生時代（特に学部時代）は、自分の進路を決める場でもあるので、大学入試で入った学科とか学部にくくりつけるのは、意味がない。 専門選定の自由度を高め、大学院入学において専門分野を明確化するぐらいでもよいのではないか。 ・大学教員が、大学のことしか知らず、学術的な評価のみの狭い感覚でしか活動していないとすると、やはり教育機関としては問題である。学生を社会に出すことを使命とするには、それなりに社会に対するインターア （以下、不明） （工, 40歳代, 男）

◆卒業生としては、やはり学業のレベルにおいて日本でトップレベルを維持してほしいと思うとともに、単に学術だけでなく特徴のある大学であってほしい。特に、中央官庁とは離れた地域に存在するので、東京大学とは違った道を進むべきと思う。また、国際的にも通用する大学として、各国の大学との連携を深めるとともに、留学生受け入れについては是非日本で一番の大学（数、質ともに）になってほしい。（工, 40歳代, 男）

◆○ほとんどまともな進路指導のない高校教育を考えた場合、大学に進学してから、学部在学中に自分の進路を考え得る、変更しうる（文化→理科、理科→文化の双方を可とする）システムとすべきである。 ○京都大学は、研究大学、大学院大学を目指すべきである。その場合、大学院については修士課程（高度な知識を有する専門家：例えばエンジニア、医者）と博士破堤（研究者、大学の教員）の役割をはっきり区別すべきである。 ○現在の、工学系の修士課程の教育は、研究に偏りすぎている。（工, 40歳代, 男）

◆紙の上の勉強ではなく、活きた研究をする場であってほしい。「独創性」は他人の成果の借り物ではなく、自分で考え抜いた中からしか生まれない。 また、同時に厳しく意見を戦わせる場も、自分の考えを高めるうえで必要である。 教授クラスが対外活動に忙しすぎて、学生の研究活動に対する厳しい意見を与える機会 が少なくなりすぎていないだろうか。共同研究をしているある私学では学外活動のため 教授がほとんど不在のため、助手と学生の研究内容の練りこみが不十分になっている。（工, 40歳代, 男）

◆自由な学風を維持してほしい。 教育効果や研究成果について、外部評価など客観的な評価が必要ではあるが、短期的なものや比較しやすいもののみを評価の対象とすることがないよう希望する。 大学についても、個人の場合と同様、自己点検、客観的評価、反省は不可欠ではあるが、京都大学が外部評価に振り回されてしまわないことを望む。（工, 40歳代, 男）

◆工学部などが田辺？へ移転するようですね。昨今の状況からそれがBETTERというのも理解できるのですが、市街地の中にある大学が学生に与えるいろいろな大切な経験、影響はかけがえのないものだという思いが（私には）あり、残念です。（工, 40歳代, 男）

◆卒業生が気軽に講義を聴く事ができる制度。（社会に出てから改めて勉強したい内容ができる）（工, 40歳代, 男）

◆自由な学風、独立性の尊重を失わないでほしい。同時に、責任感の涵養もお願い致したい。（工, 40歳代, 男）

◆仕事柄、大学の研究者や学生と話す場も多いのですが、研究に対する社会的ニーズの理解が、社会に出ている者に比べて希薄に思えます。基礎研究より応用研究を重視せよという趣旨ではなく、基礎研究であっても、社会的なニーズは常に意識しておくべきだと思いますし、応用研究であっても研究のための研究は避けるべきだと思います。これは、個々人の能力というよ

りは、ある意味で社会から隔離されている大学内にいる限り避けられないことだと思いますが、積極的に大学外へ出ていくことや、社会人を大学に呼び込んで交流するなど、克服の努力を図るべきだと思います。それが、開かれた大学の神髄のような気がします。（工, 40歳代, 男）

◆これまで通り、創造的かつ独創的な研究を続けてほしい。私は社会に出てからも研究職を続けているが、必ずしも京都大学の研究者が第一線で活躍しているとは言えない。活性化されていない研究室も数多くあると思う。是非、あらゆる分野で活発な研究を進めてほしい。（工, 40歳代, 男）

◆自由な学風は絶対に守っていくべきだと思う。（工, 40歳代, 男）

◆情報通信分野で働く人間として一言。大変技術革新の激しい分野ですので、大学でまず、しっかりとした基礎学力を身に付けるよう指導してほしい。研究を通じて発想の柔軟さ、問題解決手法を培うような指導が望ましい。今後も知的探求心を持つ京大卒業生の輩出を期待します。（工, 50歳代, 男）

◆基礎力を備え、応用性のある活動的な人間を育てるべき。特に対人間関係も重要で、そのトレーニングが必要と思われる（根暗な学生も多い）。また、国際性を身に付けさせるよう、もっと実用英語もトレーニングすべき。（工, 50歳代, 男）

◆期待すること 1。創造力のある人材を育てる。考え、工夫し、打破する練習と方法を各個人が独自に見出すことができる環境を整える。決して教育すると考えない。自立を促す場を提供することに徹する。 2。単位の取得は廃止する。卒業は卒論のみの審査でよい。必要とする場の提供さえあればよい。大学院も同じ。教授は勉強会での指導のみで講義をする必要などない。ただし、定期的に開催する勉強会で要点を討論する。 3。教授には時代に流されない独自の研究を全うしていただきたい。（工, 50歳代, 男）

◆日本の大学は急がし過ぎる。1。教育といっても準備していると研究ができない。2。課題型提案による予算獲得が増え、予算がとれなければ、研究室の電気代程度の予算しかこなくなる。→獲得に走る。→講義、学生は忘失する。 講義をないがしろにするのは構造的なものなのでいたし方ないと思います。研究とシステムから免除された教育コース専任のエキスパート教官を増やさないと、研究の方もレベルダウンしていると思います。（工, 50歳代, 男）

◆未だ、中核派だ核マル派だとかの組織があると聞く。京大の恥であり、早く処分されたい。（工, 50歳代, 男）

◆数学は難しかったです。きっちり教えて欲しかった。今でも記号∈とか∋、∩とか∪の発音がどういう読み方をするのか分からない。講義する時間が少ないからといって飛ばし飛ばし（教科書を）教えるから余計分からない。英語は点が取りやすいが、もう英語の科目は必要ないのではないでしょうか。英会話を教えたらいい。（工, 50歳代, 男）

◆東京一極集中となり、政治、経済、情報、文化全てが東京でしかないという情況となり、関西の沈下が激しい。ニューヨークのテロ事件といい、新しいシステムが確立する前の人間の行為の不確実性、無秩序性、また地震、噴火等自然界の異変等を考慮して、危機管理の意味から、日本の発展の意味から東京一極集中でなく、少なくとも二極でその一つは関西が担っていかなくてはならない。そのため、多様化した価値観に対応するための異業種提携、産官学の提携は大変重要となってきた。その一角を担う大学で京大は関西のリーダーとなり、大学間の連携をネットワークの中心となって図るべきと考える。自由、創造性、独立性等の尊重する学風が、唯我独尊となっているように思われ、学のネットワークの中心となり得ず、関西の地盤沈下の一端を担っているように思われてならない。（工, 50歳代, 男）

◆・大学でも産業界で必要としている研究ニーズに関して、密着した研究（あくまでも基礎研究）をもっとやるべきだと思います。 ・基礎研究もただ単に現象を解明するための研究ではなく、はっきりとしたターゲットを持った（品質改善なり、新プロセス開発等）研究を大いにやるべきと思います。（工, 50歳代, 男）

◆自由な校風が損なわれつつあるのは、極めて嘆かわしい。（工, 50歳代, 男）

◆ドイツ語、数学、物理、化学は極端に減らすこと。こんなものを学んでも、シャバに出ても全く役に立たない。私はドイツ語の単位を取って以来、ドイツ語のドの字も喋っていない。微分方程式など解いたこともない。全くの不毛の4年間を過ごした。工学設計教育や創造的実験などのカリキュラムを組んでほしい。基礎実験も専門実験も実験の指導書がなくて、実験のテーマは学生自らが決める。学生が自分で決めたテーマだから、もの凄く興味を持って実験を行う。日曜、祭日にも学校へ出てきて実験をする。こちらが強制しているのではなく、学生が面白くて面白くて仕方がなくてやってくるのである。自分が学生だった頃、決められたテーマで、決められた手順に従って実験をやるだけ。そこには何の感動もなければ、単位を取るために嫌々やっているという感じである。したがって後になって何も残らなくて、何の実験をやったのかも思い出せない。発想を根本的に変えて、学生自らが発案し、学生自らが主体となり、実験や物作りを行っていく。卒業研究のテーマも学生が決めていく。人から強制されたものは駄目で、学生自らが発案したものは、学生が喜んでついてくる。なぜなら自分が決めたものであるからである。ここに創造力の開発が生まれてくる。そのためには、先生は夜寝る時間も惜しんで勉強せざるを得ない。なぜなら学生は突拍子もないテーマを選んで持ってくるからである。電気の先生でも機械や土木や化学の知識も必要になり、先生は非常に苦しい。しかし学生にはとても大評判で、学生のやる気を起こさせるのに十分である。「非常に優秀な学生→入学→京都大学→卒業→駄馬になる」「大した学生でない→入学→付加価値をつける→卒業→社会の第一線で即リーダーになるくらいの知識、技術を持って卒業していく」理論もヘチマもあるか、創造力を養う教育をすること。これこそが今後生き残れる大学になるかの分かれ目である。4年間徹底的に自ら考えることを要求し続けること。受け身の教育を受けた者はシャバに出ても落後していくだけである。人から命令されないと動けないロボットと一緒である。自ら考え、自ら切り開いていく技術をぜひ、大学在学中に修得させてやってほしい。（工, 50歳代, 男）

◆産官学の連携重視（工, 50歳代, 男）

◆国家レベルの審議会等への教授等のスタッフの参加（工, 50歳代, 男）

◆･他大学に比し、先輩･後輩の結びつきが薄いのは残念。 ･ 哲学や文化といった他大学にまさるイメージをさらに充実されたい。（工, 50歳代, 男）

◆京都（関西）の、京都である点は、東京との対比で出てくるように思える。既成の権威や世の流れに対抗（よい意味での）するような勢力であってほしいと思います。そうでないと東京との補完にしかならないと思います。（工, 50歳代, 男）

◆自分の経験してきたことを述べ、それがひいては大学への期待となると思いますので、作文します。大学時代全体的に楽しく過ごしました。今から思うと教養時代人文系にもう少し力を入れておけばと思います。4回生で研究室に配属され、先生が立派な仕事をされていると聞きながら過ごしました。しかし、少しも圧迫するようなことはなく自由に研究をやっていました。私も大学院の勉強のため夏休みも一生懸命勉強したのですが、その頃から記憶力が大いに低下して試験ではそこにあったと思うようなことが2、3以上ありました。会社に入って学生時代にやった電子顕微鏡を扱うようになりましたが、物性一般を本で学んでもすぐ忘れます。仕方がないので、実験で知識を増やしていこうと思いました。実験で出来たことを本で見て覚える。そして次の何か新しいことを思い続ける。上司と衝突する事もありました。。友人は○○さんは京大出てなかったらとっくに飛ばされているよと言います。しかし逆らえず、世界初をと思って実験に向かいました。卒業して9年目に父が亡くなりましたが、その夜、夢にうなされ寝汗をかいて起きました。その夢は大学時代の単位を落としそうだというものでした。しかし、大学時代の嫌な思い出はありません。実験の合間に何をしていたかというと、哲学、心理学、文学書等を読みました。以上の様なことから、学生時代に楽しみながら研究をするような動機や雰囲気を知らず知らずのうちに体で覚えるということが必要ではないかと思います。そして、研究室の全体の空気が自然と京大らしい、ゆったりしているようで創造的だというように。（工, 50歳代, 男）

◆要望というものではありませんが、いささか我田引水的な疑問を一つ書きます。私の職場は地方庁（都庁）なのですが、出身が関東か関西かを問わず、昭和61、2年頃までは1～2名ではありますが、毎年学卒･院卒者が入都してきました。学科毎やあるいは全学的な懇親会等も時々催し、皆様ご活躍の様子なのですが、「平成」の時代になり十余年、入都する卒業生が激減しているのです。都庁は膨大な組織なので正確な数字を把握している訳ではありませんが、OBとして淋しくもあり、また不思議なのです。大学生から見た「地方自治」の魅力というようなものが、少なくなっているのでしょうか。それとも学生の気質というか就職への意識というものが変化しているのでしょうか。もし、何かの機会にこのような点をお教え下されば。私は都庁の行く末を考えるべき歳と立場になってきましたので、有り難く思います。（工, 50歳代, 男）

◆社会に出て感じることは、社会は期待しているのだろうが、大学で受けた教育が実社会では全く役立っていないことが多すぎるということである。実社会は範囲が多岐にわたり、大学の先生のような一分野の専門家では対処出来ないものが多い。したがって結果的には、物事を解決する考え方や、専門家を多く知ることが役に立つ。伝統ある京大etcの卒業生のメリットは先輩等が色々なケースで助けてもらえることが多いからである。今後とも大学は卒業生へのアフターケア（特に困ったときの情報提供や専門家の紹介）に力を入れるべきだと思う。（工, 50歳代, 男）

◆教養部時代は早く単位を取得し、専門課程で懸命に勉強･研究しようと考えていました（教養課程では講義の内容には重きを置いていませんでした）。卒業して今になって振り返れば、立派な先生の内容のある授業は、他の場所、他の環境ではなかなか得られるものではありません。人間形成に大きく影響を与えると考えられる一般教養課程の講義を学生に真剣に受講するよう何らかの方法で伝えてやりたいと考えています。（工, 50歳代, 男）

◆このままの特色のない教育を続けていると一部私学に対抗し得ない。研究教育と実務教育を明確に分け、柔軟なSocial Mindを育てるべし。（工, 50歳代, 男）

◆日本と世界を代表する大学の一つである京都大学として、その期待に応えるため、制度、インフラ等の見直し、充実を図られますよう要望します。1。国の研究･開発補助金の十分なる確保2。助手から教授まで教員の給与向上（安心して世界一流の研究開発が出来る動機付け）3。教員処遇（給与含む）における一定の成果主義の導入4。教授1人に対し、秘書1人の支援体制確保 （平成5年、7年の各前期、会社から非常勤講師として京大に派遣され、学生の演習授業に参画させていただきましたが、その際の印象です。）（工, 50歳代, 男）

◆大学はやはり、国の将来を担う人材を育成するところであり、責任は大きい。勉強や研究は目一杯させてほしいが、各個人がいかに興味を持てる学問や専門分野と遭遇出来るかが大変重要と考える。そのためには大学生活の比較的早い時期に、広く浅く、多岐にわたるバラエティーに富んだ様々な学問分野を紹介する。そして各個人がその中で 出会うことが大事である。後は、学生の責任で興味を持った分野で深く追求してもらうようにするべきであろう。そのために、そのフォローがうまくいくようシステムの整備をしていただきたい。（工, 50歳代, 男）

◆授業料を値下げし、奨学金を増額し、学生の経済的負担を低減するよう努力されたい。（工, 50歳代, 男）

◆第三キャンパス（桂キャンパス）、新研究科設置等、個別の構想、計画はマスコミを通じても伝えられているが、大学全体の長期ビジョンを公表し、広く意見を求めてはどうか。（工, 50歳代, 男）

◆総合大学としての特徴を活かした学際分野の充実を図る。キャンパスの分散化よりも統合して総合大学のメリットを活かしてほしい。より一層の国際化を図る。（工, 50歳代, 男）

◆大学の教官について、京大の卒業生以外からも幅広く優秀な人材を登用すべき。教官の業績について、評価のための客観的な基準を作り、結果をオープンにすべき。ユニークな研究がし易い環境を作り、東大等との差別化を図る。一般市民には、ノーベル賞を受賞する学者が続出することが最もインパクトを与える。そのためにどうすればよいかを考えてほしい。独立行政法人化で他の大学（特に東大）にない特徴を出してほしい。総長（学長）は大学の顔であるので、広く一般市民にも影響を与えることの出来る行動力のある人を選んでほしい。京大の教官は自身が偉いのだと（世間ではそう思っている）いう自覚をもって、研究、教育に取り組んでほしい。（工, 50歳代, 男）

◆ゆとり教育の名の下に最近の中高生の学力が低下傾向にあるとの新聞記事や雑誌記事をよく目にする。事実であれば、技術立国たる日本の将来にとり、極めて憂うべき状況と思う。日本の教育制度はいかにあるべきかについて、大学人の立場からもっと発言し、改善案を提示してほしい。（工, 50歳代, 男）

◆物理学など基礎学問では京都大学は傑出している。しかしながら、政治、経済などの面では、日本をリードできるような人が少ないように思う。また、同じことだが、大企業でトップまで行ける人は京都大学生では少ない。これは何かの面でバランスが欠けているためと思う。独創的、個性的であることとバランスは両立し難いのかもしれないが、バランスのとれた人材の育成にも取り組んでほしい。（工, 50歳代, 男）

◆全学部に関して、知っている訳ではありませんが、関連する学部の教官の活動を見ていると、過去に比較して広く社会（全世界的、全国的）に対するオピニオンリーダー、あるいは最先端を走る研究活動をしているように全く感じられません。研究論文等を読んでいても、余りにも狭い分野での精工化に進みすぎであり、もっと地球、人類、社会、文化、その他に対して、広くかつ高い視野からの主張がほしい。歴史的にも京都大学の研究はそのような任務を持っているのだと思いますが。（工, 50歳代, 男）

◆周辺の卒業生を見ていても京大OBは独立志向が強く、キャラクター明確な人が多く、学風というかカラーは保たれていると言える。授業、実習etc厳しくやってほしい。（工, 50歳代, 男）

◆工学部出身で修士修了の者ですが、感じることは工学部の大学院の定員が多すぎるのではと。社会的ニーズが本当にそこまであるのか。修士・博士課程までの勉学を必要とするpositionが会社でどれだけあるのか。大学院修了者が学んだ事を本当に生かせる業務（直接に学んだ事だけでなく）に何％の人が就いているのか。以上大変疑問に思います。 学部卒業で早急に業務に就く人、徹底的な大学院での研究を通じ、研究職に就いていく人とに分化するのがよいのでは。最近の修士修了者の学力は20年くらい前の学部卒業者のそれと変わらないような気がしてならない。（工, 50歳代, 男）

◆入学試験は幅広い知識を要求するうえで各学部とも5教科とした方がよいと思う（よく知らないが前期・後期のどこかの学部は3教科になっているような気がするので）。（工, 50歳代, 男）

◆自由、反骨の気風を育てて下さい。（工, 50歳代, 男）

◆自由な学風、独立心等京大のよき伝統を維持してほしい。21世紀になり、ますます世界は混迷を深めている。「21世紀における大学の改革、発展を目指す・・・」と言葉で言うのは簡単であるが、大学自体も社会の一構成機関である。世界がどこに向かうのか、真に平和で豊かな社会・世界を実現する（一部の満たされた国だけでは世界は動かせない。テロの背景は余りにも貧し過ぎることだ）ためには21世紀だけでなく22世紀に世界はどのようになっているべきかとの視点が重要だ。すなわち基本的な考え、哲学が社会全体に必要であるのに、誰もそれを提示できない。大学こそ、それが可能なのではないかと思う。大学の学者先生は自身の専門分野に留まらず、哲学を提示し、若者の道選びに力を注いでもらいたいと切に願う。（工, 50歳代, 男）

◆小中高教育の欠陥を補うことを含め教養を重視されたい。教科書が絶対的正でないこと。実践が大切なこと。学問と一般社会生活は無縁でないこと。（工, 50歳代, 男）

◆教授陣の拡充and/or、学生数の絞り込みにより、手作り、マンツーマン、キメの細い教育の提供を図られたい。（工, 50歳代, 男）

◆産学共同での基礎研究、技術開発を積極的に実施し、日本の行き詰まり状態を打破すべきである。（工, 50歳代, 男）

◆京都の街を離れては、京大はあり得ない。（工, 50歳代, 男）

◆1. 国際性を高める： 一層海外からの留学生、客員教授が住み、勉強しやすい環境作りが必要。京都という文化の宝庫を持つ優位性を活かすことが必要。京都大学を卒業した学生が日本で就職できる、よりしやすくなる制度作りにも寄与すべき。 2. 独立性を保つ： 大学発ベンチャーとの風潮が強い中、風潮に流されることなく、大学らしさ、基礎科学重視の姿勢は貫いていただきたい。ともすれば流されて真の姿を見失いがちな大学が多い中、京都大学の学風の維持、改善に期待する。（工, 50歳代, 男）

◆2つの方向で特化したらどうか。①社会で直接対応可能な実践的教育部門②基礎研究部門（成果に時間が必要な部門）（工, 50歳代, 男）

◆ノーベル賞を数多く受賞している伸び伸びとした自由な学風は、今後とも大いに伸ばしていただきたい。技術革新のスピードが本当に速い時代、大学の基礎技術（シーズ）と世の中で必要としているニーズを結びつける場の設定が必要。企業、大学ともに手を伸ばし合って作っていくことが大切と思う。（工, 50歳代, 男）

◆1. 大学として社会への発言を積極的に行ってほしい。 2. 大学のスポーツクラブ活動を盛んにして、アメリカンフットボール以外にも強いクラブを育ててほしい。 3. 社会への進路指導に際しては、大学として官界へ優秀な人材が進むように指導してほしい。（工, 50歳代, 男）

◆教養部が日本の大学において廃止されたがこれは間違いである。広い教養と基礎的知識のbaseなくして専門研究もあり得ない。その意味で京大のような「university」においてはもっと基礎教養を重視すべきである。社会にすぐ役立つような知識はすぐに時代遅れとなる。その点で従来（少なくとも私が学んだ頃の）京大の方針は正しかったと考えている。また、最近の傾向（社会的）として分かりやすい講義、学生に教官の評価を問うような風潮が日本の大学全体に見られるが、大いなる幻想である。学生が自ら学び取る姿勢が重要である。そのような学生（人材）を育てることこそ京大の使命である。世の風潮に媚びる必要はない。「分かりやすい講義・・・・」など小学校の教育方針を聞いているようでおかしい。日本の社会の大学教育に対するconceptが狂っているとしか言いようがない。（工, 50歳代, 男）

◆京都大学はよくアカデミックと言われるが、一方では社会と連携することも不可欠であり、オープンな積極的な大学であってほしい。特に「東京」とのパイプをもっと強化していかないとローカル大学になってしまうのではないかと心配する。私にとって25年前に勉強したことは（人生のほんの一部ではあるが）一種の財産となっていたが、今となっては陳腐化している。社会人がもっと気楽に再教育できる環境を今以上に整えてほしい。（工, 50歳代, 男）

◆1. 自由と創造性重視が実用性に傾きつつあり、多少心配。 2. 国際性は関東系に比べれば全くだめ。 3. 自分の頃は実に講義に不真面目な教官が多かったが、最近はどうでしょう。（工, 50歳代, 男）

◆京都大学は大学当局（教授、事務局等）、在校生、卒業生、それぞれによく言えばエコとイキがない。悪く言えば冷たい。京都大学の本当の良さを知っているのは卒業生だと言うことを少しは考慮してもいいのではないか。（工, 50歳代, 男）

◆権力におもねることなく、真理の追求に真摯に取り組む。伝統の学風を維持し、人類の文明の発展に寄与する人材を供給し続けてほしい。（工, 50歳代, 男）

◆卒業生に対して優先的に大学の行事、取り組み（講義、施設も含む）を利用できる環境を整えるべき。第二外国語の現状の講義はいらない。その国の歴史、文化を教えるべき。第一外国語も含めて、3ヶ月くらいの短期留学を可能なら進める工夫は出来ないのか。もちろん費用は留学先でのアルバイト、研究補助でまかなえる仕組み。社会で活躍している民間人を授業に組み入れる工夫は出来ないのか。（工, 50歳代, 男）

◆教養課程の、政治・経済学に、一部、学部の著名な先生の講義（故高坂先生）を取り入れる（工, 50歳代, 男）

◆京都大学には、高度な研究を行なうことを期待する。矛盾するが大学は本来研究よりは、教育に重点をおくべきである。学部／教育と大学院／研究とをもっと明確に区別して運営するべきである。（工, 50歳代, 男）

◆・大学と企業の研究者の交流をシステム化する。スタンフォード型インキュベーション及び投資を可能とする独立法人化する。（工, 50歳代, 男）

◆（1）ゆったりした気持で勉学、研究に打ち込むには、ゆったりした広いスペースが必要である。大学移転を検討したらと思う。（工, 50歳代, 男）

◆現在他学で教職についてはおりますが、京都大学とのつながりは余りありませんので、固有の問題点などはわかりません。一般論として書きます。私の勤める大学も含め、学生の学力の低下には目を見張るものがあります。割り算のできない大学生は、幸いまだ発見しておりませんが、決してジョークではありません。これは市場原理がしっかり働いているからです。多くの大学が手招きして高校生を集めております。いかに大学が魅力的かをPRしますが、それは決して、きびしい学問的訓練を施すぞという魅力ではありません。幸い京都大学ではそれほど学生の学力低下を聞いておりません。社会的使命は伝統的に技術者、研究者を送り出すことでしたし、これは今後も変わることはないであろうと思います。したがって問題は大学生の質ではなく、次の点です。日本の社会の問題点でもあります。（1）基礎的なあるいは創造的な技術、研究開発を若いときから自分の創意で進展できるか。年寄りに先生の権力の枠組みに束縛されない外部からの評価機構が作れるか。若いうちから教授の秘書役に徹していると創造的なことは決してできない。若い人は年寄りを踏み越えて行くべき者だからである。（2）アルバイトではなく、真の意味の研究費を事前で稼げる仕組みができるか。研究費が少ないのは万国共通であって日本だけではない。外国との激しい戦争は欠かせない。そのためには旅費を含めた研究費が必要だ。これは自分の手で取ってくるしかない。欧米の教授の役割は金集めである。もっともこれは見よいものではない。（3）身分として大学、民間、公共団体への相互通行が保証できるようになるか。多くの大学の教官は「何とか審議会委員」に出て、評論家になっている。官庁と大学のもたれあいと言われても仕方のない状況が確かにある。教官が責任のある行動をするためには、委員会での発言が常に公開されなければならないし、また欧米のように大学、民間、政府への移籍が自由になるような機構を作る必要がる。今の経済担当大臣はその走りだ。大学側から周りに呼びかけてはどうか。また民間の技術者との交流を増やすためにも大学院では民間技術者を入れる方向がいい。（4）学生への教育活動が評価の対象になるか。京大の授業は東大に比べてわかりにくいと言うことをよく言われる。これは研究者が教室で話をしているからで、教育者が話していないからではないか。学生は大学に入って初めて話を聞くのだから、わからなくて当然で、教育のステップを作っていくのは時間が掛かる。これに対する評価はどうやっているか。私は学生が卒業時に、あるいは卒業後1年で行なうべきものであると考える。在学中の学生の意見は参考に採用するのがいい。（工, 50歳代, 男）

◆工学部は最近特に産官学の共同作業を重視し、独立行政法人化を狙んで金集めや、すぐに役立つ開発をやる先生が重きをなす傾向があります。これは、よくないと存じます。京都大学は、もっと徹底して基礎研究を重視すべきと思います。（工, 50歳代, 男）

◆全くの独創的な研究内容というのは、やはり欧米に多い。日本人の独創的な研究も外国でなされた物が多い。何故か、良く考える必要があるのではないでしょうか。（工, 50歳代, 男）

◆就職は官庁を選びましたが、京大時代は、余り実社会の様子を知らなかったせいか、中央官庁の中の生き馬の目をぬくような動きに当初は圧倒されたものでした。その後、かなりたってから、国際的な業務を多く経験することになりましたが、語学面では、かなり苦労しました。こうした経験の中で、私は基礎力（人文・自然・語学を含む）の充実こそが、大学でこそできる重要なことであることを強く感じました。京都という伝統的な文化の中で、落ち着いて勉強できる時に十分な基礎力を身につけておくことが、その後、どのような進路に行ったとしても役に立つことを確信しています。決して、目先の社会の雑事に忙殺されることなく、長い目で役に立つ教育に努めていただきたいと願っています。（工, 50歳代, 男）

◆最近の卒業生は自信を失っているように思います。“さすが京大”という、いい意味での自惚れがもてるような人材形成を望みます。（工, 50歳代, 男）

◆企業で生活していると、大学卒業生に期待するのは、大学に於いて学んだことよりは、修得した思考力を求めることが多いのです。私自身も、同様であったかと思います。知識に偏重せず、思考力向上を目指していただきたい。（工, 50歳代, 男）
◆問13の①～⑥を世界的レベルの最高水準まで更に高めるべき。（工, 50歳代, 男）
◆伝統である自由の気風と反骨精神をいつまでも保ち続けてほしい。（工, 50歳代, 男）
◆西日本、世界の雄としての存在感を維持されたい。最近京大には近畿地方からのみの学生が多く、ともすればローカル大学になりがち。初心を忘れないようにしたい。（工, 50歳代, 男）
◆次世代のリーダを、非官僚的国際性をもって育成する「教育」に重点を移す方が、存在価値が増す。（工, 50歳代, 男）
◆・他大学（外国の大学も含める）との単位の交換制度の充実・学生による教授の評価制度の導入・教授のパフォーマンスに応じた年収制度の導入・産業界からの教官の登用・授業を魅力あるものにする為、教授、教官を対象とした授業方法のトレーニングの実施・理系の分野で、実際に起こったことに基づいたケーススタディの導入以上のような方向をもっと押し進めたらどうでしょうか。（工, 50歳代, 男）
◆客観的に評価しても京都大学の卒業生の実力に比してとくに東京における位置づけが低いように思う。距離的なハンディもあるが学校、卒業生が一体となってIT等を利用してより広範囲にわたって実力にあった位置づけを築けるようBackUpするべきと思う。（工, 50歳代, 男）
◆特になし時代の潮流に乗って、新企画をテーマに積極的に枠を破って取り組むべきである。（工, 50歳代, 男）
◆・多くの先生方が、東京大学の亜流になりつつあることに危機感を抱いて居られるのかどうか。ごく一部の分野を除き、学問・研究レベルでも受験生のランクづけでも、特定私大に追い越されている現実にどう対処されようとされるのか。もう一度、京都大学の存在意義その原点に深く思いをいたすべきと考えます。（工, 50歳代, 男）
◆今後、学生数は急減すると思われる。工学系キャンパスの移転には反対です。京都大学は百万遍にあるから、京都大学であって、他へ移転してしまっては、もはや伝統はなくなってしまいます。今は、窮屈でしょうが、我慢して、有効的に今のキャンパスを使って下さい。（工, 50歳代, 男）
◆国際的に活躍出来る人材の育成、環境作りを希望する。（工, 50歳代, 男）
◆・学問のレベルの高さだけでなく人格レベルの高さを追求されるよう希望します。（工, 50歳代, 男）
◆・工学部の移転には反対。研究・教育のポテンシャルの低下を招くおそれ。・境界領域的応用研究の拡大は慎重に。基礎、学的研究を重視すべき。（工, 50歳代, 男）
◆・教授等の個人の顔が外に向かって自由に出すことができるような、外からも見えるような、場合が増加することを期待します。・機関としての大学は、その支援インフラとして充実させると共に、信賞必罰の枠組を固めてゆくことも有益かと思います。（京都大学での研究等の「出版会」の創設は、リスクがありますが、その活動維持が一つの大学の目に見える評価指標となりますが・・・・）・人間的な都市京都を基礎とする自由な学風の発達を祈念申し上げます。（工, 50歳代, 男）
◆☆大学の先生は、一度民間で経験（3年～5年）を積んでからそれなりの職につく制度をつくるべきである。☆かけた税金は、本当に国の役に立ったのか、一度自己策定をされたらどうか（学生を育成したのとは別の観点）（世の中の役に立たない、やってもやらなくてもよい。研究の事を云っています）（工, 50歳代, 男）
◆企業から見た大学ランキングで上位にくるような大学をめざしてほしい。又、国際性を高め外国の優良大学と肩を並べるような知名度の獲得をめざしてほしい。ノーベル賞学者を今後とも数多く輩出するような大学であってほしい。（工, 50歳代, 男）
◆講義か実験かというテクニカルな観点より、”京都の特長を生かした形で「社会に貢献する大学」のあり方は”の検討も必要と考えます。（工, 50歳代, 男）
◆1. 京大の伝統である自由と創造性を特色としてほしい。2. 卒業基準はもっと厳しくすべきと考えます。3. 日本、世界を代表する大学をなるべく誇りをもって世間に迎合することなく独自の道を歩いてほしい。4社会、実業界と多くのつながりをもつようにしてほしい。（工, 50歳代, 男）
◆京都大学の卒業生には、非常に優れた先輩等多くの方々がおられる。また反対に京都大学を出ているのにと思われる方々もよくおられる様に思う。これは、京都大学の教育の特徴が非常によく表れているのではないかと思う。京都大学に入学される方すべて大変優秀な方ばかりなのだが、卒業後は両極端に別れる様に思う。これをどう評価するかは意見の別れる事と思うが、私はこれで良いのではと思っています。つまり、阪大、神大等の卒業生は実務に優れ、実社会では重宝がられ、京大はどのように考えているかわからない様な人が多い。が、ここぞという時には実力を発揮するということでよいと考える。（工, 50歳代, 男）
◆英会話は必須と言ってよいぐらい、実社会では重要である。教養課程で、必須課目として、取り入れたらどうかと思います。（工, 50歳代, 男）
◆・大学をサークル活動の場や友人交流の場でなく楽しい学問の場とすること。 ・教官の人事を更にオープンにして他大学、産業界等との交流を頻繁に。 ・学生（学部）にはしっかり（厳しい評価で）基礎学力をつけさせ、研究所は、その道に情熱を持った人がユニークなテーマで自由に活躍できる環境を（更なるノーベル賞をめざして）。 ・最近の学生は学力も一般常識も以前と比べ、1ランク落ちているのではないか（院卒→大卒、大卒→高卒等）。大学の一般化という背景もあるが、大学レベルの基礎学力は絶対に維持してほしい。（工, 50歳代, 男）
◆一般教養を十分自分のものとすると共に専門的な基礎知識を理解し、社会に出てからのベースの確立を目指す。（工, 50歳代, 男）
◆自由の学風を大切に。学生の自己責任を養う世界最大の大学と自負しています。自己責任で強く生きていける人間を送り出

して下さい。学問のレベルは高く。学生の自由と自己責任を。（工, 50歳代, 男）
◆自由な学風といいながら京大卒の教官の比率が他大学に比べ極端に大きいのは自由ではないのではないか。ダイナミックさえ欠ける戦力的でないなとの欠点もあるように思われる。（工, 50歳代, 男）
◆・自分で考え、行動できる人材育成・創造性・優れたところをどんどん伸ばす教育。（工, 50歳代, 男）
◆（要望）問12と重複しますが、以下の要望を致します。・マーケティング講義／バランスの育成・英会話／TOEIC800点以上を有して卒業される（全て）事を期待します。（工, 50歳代, 男）
◆今までの京都大学の持ってきた自由、創造性の良い点を維持しながら、更に専門性の高いかつ世界に通用する学問と学者の育成が重要。（工, 50歳代, 男）
◆1968年学部卒業後米国の大学に行き、修士Ph.D.をとりましたが、その時点でも、米国の大学の教育の方がダイナミックでした。現在でも差が開いているのではないかと思います。学生の質は良いはずですから、ベンチャー企業を輩出する位の気概やって下さい。教育の教育内容を同窓会報で見ますが、30年前と同じようなものを続けてやっている感じ。時代を追いかけろとはいわないが、もう少しワクワクするような事やってほしい。要は古い。（工, 50歳代, 男）
◆自由な学風の意味を理解していない大学人が多いと思う。原子力に関係する研究に従事している教官の中に自分達の研究を公の場でレビューされることを避けるために大学の自治を言う人達がいる。そういう人達は研究に対するしっかりとした見識を持っている訳ではなく、役人の言いなりになっている。時の権力の圧迫に抗しているのではなくて、まさに下僕となっている。学問の自由を勝ち得てきた大学の学風を多としたいが今日的状況における学問の自由、特に自然科学研究における「自由な研究」の定義は何なのか、定義なしの状態で安易に使われ過ぎている。学問の自由などは誰でも本来持っているものであり、その実態的意味は何なのでしょうか、具体像を示してもらいたい。特に予算、研究費との関係に於て何を意味するものか、大学人はいろいろ批判、評論にかまびすしいが、少しも自己変革能力が無い集団となってきている。外圧でしか変革できないところに日本の大学の根本的問題があると考える。大学改革にあたっては是非終身雇用制を見直してもらいたい。終身雇用を自ら返上してこそ初めて活力ある大学に生れ変れるものと考える。（極めて多くの業績を挙げてきた研究者に終身雇用の身分を与えて好遇することは理解できる。しかし、研究者になったとたんに終身まで保証する必要はさらさら無い）（工, 50歳代, 男）
◆独立行政法人化に向かい、特に工学系では企業化できる応用研究のみが重視され、「教科書」に将来載せられるような基本的な研究や時間のかかる地味な研究が軽視されるようになってきているようである。従来の京大の自由で独立的な学風が失われつつあるように感じられて残念である。（工, 50歳代, 男）
◆最近の京大卒の人の中に何も考えないマニュアル人間、指示待人間が多く見うける。東大卒にもいない訳ではないが、少ない京大卒の人が目立つ。京大卒のレベル低下は情けない！！マスプロ教育の結果か？社会の高度化、急速な変化に追随して活躍できる能力は基礎的教養と応用能力しかないのではないか、高度に分化した専門的なことは、ほんの一部の人で良い。京大は巨大マンモス大学である。卒業生のうち学者は一部大多数は社会（実学）で活躍することが期待されている。（工, 50歳代, 男）
◆先日、20才の息子と二人でアメリカ旅行をして来ました。息子は学力も京大は無理でしたが、それ以上に奈良の大学が良い。（勉強ではなく街の活気・活力に魅力を感じたのでしょうか…）ということで早稲田の応用物理に行っています。丁度「テロ」騒ぎに巻き込まれましたが、そのお陰といえば問題だが息子と二人で話をする期間が長くなりました。息子の行動・話から教えられたこと、残念と思ったこと①大学の先生の講義に何の魅力も感じてない。②アルバイト先の店長・お客様（飲み屋）の話が主体③なんと、“何故、飛行機が飛べるのか？”など全くの好奇心が少ない。“なぜ？？”という疑問をもたない。④大学は適当に卒業できれば良い。あとは“楽に、生活できる仕事がないかなあ…”と考えている。自分も大学時代、似たような態度であったが、それでもクラブ活動に冒頭したり、夜は“英会話”を学びに行ったりしていたつもりであるが…。要は大学生は大人であるから、個々人が責任もった行動をすれば良いのでしょうか？学校では“学び・遊び”の必要性（人間としての）を情熱をもってタタキ込んでくれたら良いのですが…。（工, 50歳代, 男）
◆①今後、グローバル化の中で、英語が必要不可欠になる。語学に通じる学生の育成を期待する。 ②自ら考え、解決していく態度を取得する教育をお願いしたい。（私の卒業した時代はそのような教育をしていただいた。社会にでて、非常に役立っている。）（工, 50歳代, 男）
◆総合大学として、夫々の特色をもっと出していくべきではと思う。総合にこだわる余りに、あれこれ広げ、予算なく薄められ、特色が見られない。中部ローカルからみると、影が薄く、卒業意識が底にあるだけのイメージともいえる。国立大学間の人材交流も最近は多く行われているようだが、先述のように、工学系ならこの分野といった特色をもっと出し、分り易くしてもらいたいと思う。最近の専門をまたぐような、研究科が起されているのは、時代の先取りで期待しているが、中味が逆に分り難くなっているので、アピールがほしい。官からの独立法人化には、難しい課題も多くあると思うが、企業からみれば、歓迎したい。研究という道が閉ざされるというデメリットはあろうが、何のための研究という源に立脚すれば、新しい視点、価値が生れるものと信じる。いずれにしても、世界に取り残されている感のする教育の現状を、先を切って打破する大学であってほしい。京大新聞とか学生諸氏が取組んでいるが、有志が購読という現状から脱却し、ベンチャービジネスそして、大学の宣伝として、全員への配布も、考えてはいかが！ 以上 乱筆失礼。（工, 50歳代, 男）
◆社会に出て会社等就業先の業務に関する教育を受けて直ちに業務に貢献できるようなフレキシブルな物の考え方を身につけてほしい。（工, 50歳代, 男）
◆単なる研究（基礎）ではなく日本の将来の核になる技術を確立する役割を果してほしい。（工, 50歳代, 男）

◆当大学のような一流大学においては実践的教育は必要ないと思います。並の大学では即戦力と称して、社会の需要に対応できることをうたっている場合が多いのですが、実態は難しい問題に取り組んで解決することを逃避して、ワープロ、メンテナンス等のオペレーター育成または職業訓練学校程度のことしかできていません。これは学術（基礎）的教育をしようとしても学生に消化能力がないために仕方なくこれを放棄するのが実情です。京大がこの時流に迎合して実践的研究に重点を映すようなことがあると、世界のトップクラスと対抗できなくなるでしょう。日本が工業国として世界一、二位に既にいるような言葉が聞かれますが、これはある意味で錯覚で、世界のレベルはそれほど低いものではありません。もし仮に世界第二位であったとしても、第三位、第四位がすぐ後ろについていることを忘れてはいけません。（乱筆失礼）幸い京大なら存分に基礎教育に取り組む体制が整っているのではないでしょうか。（工, 50歳代, 男）

◆大学の講義には専門家が必要で大学にその分野の人材がいない場合は、積極的に外国人を含めて、レベルアップをすべきである。また第二外国語では、自由に会話できる程度に授業内容を充実すべきである。これからは、自分の専門以外でも、高度な知識が必要で、例えば、私は土木の専攻だが、化学、電気等の知識が必要であるので、一般教養の充実がのぞましい。（工, 50歳代, 男）

◆○京都大学の卒業生には、世のリーダーとしての役割が期待されている。国際社会に出て、日本を語る役割が求められる。○それに応えるなら、教授陣は学者だけでなく、政官界や実業界からも求めていくのがよい。講義内容も、彼らの体験―哲学や工夫したこと―を語らせるのがよい。（工, 50歳代, 男）

◆開かれた大学というが、いろいろな課題に具体的に答えていただける大学であってほしいと思います。（工, 50歳代, 男）

◆社会経済の大きな変革期にあり、IT革命により情報が全世界に瞬時に伝達する、まさに世界がひとつの状況にある。大学の位置づけも国内での狭い範囲での位置づけ、価値観では世界の中の日本の位置づけはより矮小なものになる。大学の中で感覚的に10～30％は真理探究の従来の位置づけ（但し世界の一級のレベルで自由であるからとのんびりとテニスばかりしている情況から脱却すべきだが）としても、まさに産官学一体の研究に残りの90～70％はあてるべきと考えます。大学を出て企業に入る場合、今後実践的なすぐ使える人材が急速に望まれて来る筈である。企業も実践教育は企業でやる形態から脱皮しようとしている。企業で再教育する余裕は世界を相手にするメガコンペティションの時代ではなくなって来ている。本質的に日本の終身雇用と年功序列制が急速に崩壊しつつある。終身雇用制と年功序列制が日本の特質として企業再教育と大学への基礎技術力のみで良いという従来の状況をもたらして来た。しかしこの2つの制度の崩壊によりフロー型の雇用体系への転換変革をもたらしている。現状の大学の講座制や一大学一学部に重復した研究テーマは設定しない等、競争とはほど遠いのんびりした低質のすぐ使えない人材の企業への送り込みを生んだ。このままでは大学も企業も世界の中での位置づけが低いものとなることは明らかである。産学連携の名のもとで実践とは一番遠い大学が見かけのベンチャー育成学の見掛け倒しでなく、実践的な教育はどうあるべきかを大学内でももっと議論する場を設け自ら各教職の人々が奮起せずには日本の大学はとり残されるのではないか？文部省の改革は大学の教職員のひとりひとりが奮起することを期待したい。アジアは大きく変化してきている。このままでは日本はとり残されると考えます。（工, 50歳代, 男）

◆新入社員を見ていると研究の手順、進め方が身についていないように思われる。自分自身で課題を設定して解を見つけていくような能力を大学で教育しておいてほしい。英語についても実戦力を身につけさせておくべきだと考える。しっかりした文章を書く能力にも欠けているようにみえる。卒論等でしっかり指導してもらいたい。（工, 50歳代, 男）

◆最近は、大学の研究の社会への還元化、実用化等がよく言われるが、余り社会の流れに気にせずに今まで通り基礎的な研究に重点をおいてほしい。ただ基礎研究がゆえに研究室に閉じこもり、一般の人に顔が見えないのも困る。京大の先生が、メディアに出てくる機会が少ないような気がする。一般の人は分らない。過ぎたるは及ばざるがごとしで、むずかしいが。従来の基礎的研究を重んじつつ、いかに社会的、人類に貢献が出きるかを考えて、常に社会に発信してほしい。（工, 50歳代, 男）

◆企業から見ると、大学は学生に社会人として必要な最低限の教養、知識を付与することは当然ですが、最も重要なことは ①物事に当たり、自分で考え、対応できる能力を身につけること。 ②相手の言っていることを正確に理解し、コミュニケーションできる能力を身につけること。 であろうと考えられます。このような基礎的能力を身につける教育が出来ればgoodと考えます。（工, 50歳代, 男）

◆時計台のアンテナを残すべき。（工, 50歳代, 男）

◆京都大学のIDを大切にして下さい。（工, 50歳代, 男）

◆・図書館の利用が可能なようにしてほしい。（土・日利用が必要）（工, 50歳代, 男）

◆・社会の要望は、ファッションの如く、コロコロ変わるものですが、その様な、短期的、近視眼的視野で京大の方向を考えるのでなく、100年単位で普遍の価値、真理探究の府であってほしい。日本の他の大学がどう動こうとも、京大には、そうであることが使命であると思う。 ・それが、京大の魅力であり、それを求めて人は京大をめざすのです。 ・又、経済理論だけで、京大のあり方を決めるのには反対です。経済理論は単なる一側面に過ぎない。もっともっと高いレベルで、考えてほしい。京大の京大らしい所に、我々卒業生も誇りを持って生きているのですから・・・（工, 50歳代, 男）

◆○自由で、創造性を尊重する学風等良き伝統を堅持してほしい。（工, 50歳代, 男）

◆最近、大学生の学力低下が指摘されています。この低下は幼少時からの人としての育てられ方に問題があるからと考えます。こうした問題が日本国内の全体に及んでいることから、部分に着目して改善を図ろうとすることには、多大の困難が予想されます。そこで一つの提案ですが、大学生が履習するカリキュラムの中に、小学校と中学校の生徒を教えることを義務として含ませることは如何でしょうか。人を教育するあるいは人が育むのを手助けすることの難しさを体験することは極めて大切であると考えるからです。（工, 50歳代, 男）

◆大学は研究と教育がその基本的な機能ですが、その機能をそれぞれ高度に発揮させようとする際に、教授から講師に至るまでの方々一人一人に、研究と教育のいずれも高度なレベルで求めることは難しいことであります。従って、研究活動に優れた方は、教育に余り負担をかけず、十二分にその能力を発揮できる環境を持って頂き、教育活動に優れた方は、少なくとも最先端の研究内容を常に把握して、講義内容の本質と意義を、広い視野に立って興味深く学生に伝え、彼等固有の能力に目覚めさせて、新たな優れた人材が生まれる土壌を提供して頂きたいと考えます。尚、研究と教育いずれにおいても、その内容について何が重要であるか、社会的な意義があるかについては難しい問題ですが、研究者、教育者いずれも、少なくとも社会全体がどのように動きつつあり、その動きに対して研究や教育の内容がどのように影響し得るかを常に考え、学生にも伝えられる事が肝要と考えます。そして現在、京都大学に限らずこのような意識が高いとは、まだまだ言えないと思われます。この原因の1つは、大学というものが伝統的に閉鎖的になり易い体質を持ってしまったからと思われますが、これを変えていくためには、研究と教育いずれにおいても、もっと多くの成果を生み出している民間の組織（法人等…中小企業の中にもこの対象となるところが数多くあります）の人や個人を招いて、研究や教育を協同して行いながら、社会全体との関わりを常に持ち、互いに刺激し合える環境を作る事が肝要と考えます。京都大学が日本を代表する大学の1つであるとすれば、今後上記のような体質を持って、その成果を出していく事が、将来の日本が国力を持ち得ていくにあたっての、大きな使命であると考えます。（工, 50歳代, 男）

◆・Originalityの育成と尊重。・研究と実践教育のバランス。中途半端ということでなく、研究を追求するコース、実践を追求するコースの選択ができるように備える。（工, 50歳代, 男）

◆①社会、科学、技術の急速な変化に対する、敏速な対応。IT化・ゲノム開発の進展・ナノテク開発・知的知脳等まで踏み込んだ、情報科学の進展、など急速な変化に対応を期待する。具体的には産官学協同など、開発研究体制のスケールアップ、学科構成／カリキュラムの変更など敏速化（官統制の緩和等）、予算、人員の重点配分など。特にウェートアップに期待する。②国際化。海外有力大学等との提携、活用など。③高度教育の強化。卒業後、社会で活躍／経験を積んだ人材に対する専門分野／経営などの、再教育機能（特別大学院や、ビジネススクール）。④上記を総合して国立大学が、独立法人／民営化になった場合、これを歓迎し、トップバッターになれる総合力の具備を期待す。（工, 50歳代, 男）

◆1. 実践的学問、産業界への寄与でも、一流大学となってほしい。2. 研究室間の連携が弱く、教授がばらばらな印象を受け、結果として強い領域が見えて来ない。特徴的学問、学際、技術領域をデファインし、ここでリリースを集中すべきと思われる。立命館の法がこのことをアクレッシブに進めている。米国ではMIT，UCBerkeley等が、工学分野では特徴ある。（工, 50歳代, 男）

◆40年弱も前に学生として過ごし、会社一筋に生きてきたため、その後の大学の事情について深く存じあげませんので、特にありませんが、一つだけ、私の尊敬する恩師（京大工学部合成化学科、古川淳二先生）の生き方が好きでした。特に80才を越えても、学会の発表者としてお会いした時の驚きは忘れません。高分子学会賞はじめ、賞という賞を受賞し尽くされた有名な先生だけに、退官後、楽な仕事はいくらでもあった筈ですので、自ら学究の道を極めようとされるその姿に、私だけでなく、同期生のほとんどが畏敬の念を持ったものです。京大の先生は、汚職と無縁なその道の第一人者となるような人になって頂くように、期待しております。（工, 50歳代, 男）

◆専門分野と違う業種に進んだが、工学部時代に学んだ、自由かつ創造を重視した教育は、大変役に立っている。独立心を持った創造性を育てる教育を継続してもらいたい。（工, 50歳代, 男）

◆学部・大学院とも、自由・独立の気風が強く、希望通りの研究ができた事は良かったと思う。ただ、自由放任の雰囲気がある反面、自己のオリジナリティーを求めて、研鑽を積む事の、つまり、ややもすると孤独な闘いとなる厳しさも味わった。大学教育が一般社会レベルより、かなりかけ離れたところにあるので、実社会に出たときに、周囲と合わせにくい点はあった。（もう少し、実社会での実務的な内容も学んでおいた方が良いように思った。もっとも、研究者で大学に残るのであれば、必要ないかもしれないが。）（工, 50歳代, 男）

◆専門的知識は十分深ければ深いほど好ましいが、社会に出て職業に就いてからでも身につけられる。専門的なことを理解できる方法を知っていればよい。（知識は会社で教えられる。）むしろ大学においては、物事の徴候や、様々な要素を組み合わせて大局をとらえる能力を養ってほしい。大学を出てきても指示待ち、もしくは指示されても、そのことだけを実施するだけの若者が多くなってきた。間違っているかもしれないが、自分で考え整理し、それを表現できる能力が社会に出たらまず必要だ。（工, 50歳代, 男）

◆・国際的にもトップクラスの大学として発展してほしい。・大学の特に工学部の教官は、実業界からの割合を増やすべき。・理系学部においても、文系の学問を強制的に受講させるべき。（工, 50歳代, 男）

◆学部の基礎教育等、第一線の優れた研究者の負担でやらせるのは、問題だと考える。本当に基礎的なところは、『外注』でよいと思う。国際的に活躍している教授クラスの研究者には、大学院の専門教育、又は研究指導に専念してもらうべきである。教育をもっと徹底すべきだろう。誠にに中途半端である。実績の土ない教官は、やはり京大を去るべきであろう。人事交流がもっとあるべきと考える。（工, 50歳代, 男）

◆独創性、自由の重視を通して、専門分野で優秀な人材を育成する。（工, 50歳代, 男）

◆1. 専門の教育については、詳細な専門部門の教育も必要であるが、・専門分野の学問に興味を持たせるようにする。・専門分野の基礎理論を十分行う。・数学を十分行う。2. 一般教育については、国際会議などは、ドイツ、フランスで開催されても、英語が使われている。第2外国語なども必要かとも思うが、英語だけは充分使えるように重複して行うべきである。（工, 50歳代, 男）

◆・一般教養に十分な時間を。・社会人としての規律遵守。・一つの事をチャレンジし、完結させる成功体験。・一つの専門分野に於ける基礎学力（理解力）の養成。・好学心の醸成、等。（工, 50歳代, 男）

◆大学はしっかり研究成果を出してほしい。制度いじりは、世の中の仕組みが変化しているのにつられて、ある程度はしょうがないが、卒業生が40年たって尋ねて行く先が解らぬという状態。やむを得ぬが。工学部（土木学）－建設省－民間、というコースをたどったが、恵まれたコースだと実感している。本人の努力等、強調してもしょうがないので、大学の研究、卒学者個々のその努力の総体ににより、何とか人並みのコースをたどれた、というのが実感。この前にも、ちまちました研究、教育でなく、ちゃんと成果の出る（何十年間に数度）研究をしてもらいたい。（工, 50歳代, 男）

◆個性を尊重する伝統を続けてほしい。（工, 50歳代, 男）

◆一側面としての人脈形成！（工, 50歳代, 男）

◆本日、野依教授のノーベル科学省受賞の報に後輩として喜んでいる。京大出身5人目のノーベル受賞者（＋1名三高）とのことでこれは自由かっ達な学風と、基礎研究、独創性を重んじる伝統によるものと考える。今企業にいて感じる事は人間そのものの基礎力と人間性（独創性＋責任感＋好奇心・・・）の重要性である。世の中の安きに流れず、今迄以上京大の伝統を継承される事をお願いしたい。（工, 50歳代, 男）

◆さすが、京大卒と誰もが感嘆するような人物を世に送り出すような教育システム・研究設備を完備してほしい。最近、訪問時、建物が新しくなっており、又、桂方面への一部移転するとの話を伺ったが、外観だけでなく、内面のレベルアップを期待します。（工, 50歳代, 男）

◆国際的に通用する大学、国際的に評価の高い大学になる。他の国立大、私大との連携（最大限の成果を得るために）教職員の能力向上（テーマとか、成果評価を判りやすくオープンにする）研究と教育機関としてのバランス、どちらを重視するか。民間企業が気易く技術的に相談できるようなsystemの構築。さらに役に立つ大学になるような努力を期待したい。（工, 50歳代, 男）

◆今のままでいい。（工, 50歳代, 男）

◆最近元京大教授とお話をする機会があった。その時「工学部が現在の百万遍から右京区桂方面に移転されるが他の学部と離れ孤立する事になり学部の垣根を越えた交流の場がなくなり本当によい研究ができるか心配です」といわれておりました。移転の話は知りませんでしたがもし移転ということになれば私もその点は同様の気持です。自分をふり返っても他学部の人との交友が当時およびその後も大変役に立ったと感じています。研究と教育のバランスは大変難しいとは思いますがいずれにおいても世界のトップクラスに入るよう、今後の更なる改善をお願いします。（工, 50歳代, 男）

◆今後、世間の傾向の1つとして、国際化（グローバリゼーション）が強調され、教育の分野にもその影響が色々出てくると思われるが、京大の教育に期待するのは、世界に出ていくのに恥ずかしくない1人前の国際人としてのしつけのようなもの、即わち責任感をちゃんと持った人材を育てることが要ると考える。責任感としては、世界に対する日本国としてのもの、国に対するもの、日本社会に対するもの全てが、必要であり、偏りのの無いバランス感覚のとれた責任感覚を持たせなければならない。それから伝統的な自由の学風というものを今後、伝えていく必要がもちろんあるとは思うが、既成からはみ出すだけが自由ではなく、正しい自由とは何か、規律と自由との均衡、守るべきことは何かを、大げさに言えば日本の教条の1つとなるよう教育され度いと考える。何故ならば現行、日本社会は安っぽい表面的な自由が横行し、判断の拠り所、基準と自信が無いように思われるからである。（工, 50歳代, 男）

◆時代が異なるので、一般論化することは、リスクが有るが、、最近の卒業生には、以下の弱点が共通化している様に見受けられる。①論理的思考能力の弱体化②問題発掘能力の弱体化（上記と同根）③表現能力の低下・目的の明確化・要旨のまとめ（Briefing）・全体の中での位置付けの認識（自分の役割、ミッション）・Convincing能力④意思決定能力の弱体化・上記の総合的結果として。現時点で40才半ば迄は、京大卒の共通の強みが顕著であったが、現在、その特徴が希薄化し、専門性に於いては他大学（東大、東工大、阪大等）に競争優位性においてはリードされ、総合的には、「光る人材」の供給源ではなくなって来ていると思われる。今一度「頭の良し悪し」ではなく、上記①～④の改善を図って頂きたい。（工, 50歳代, 男）

◆自由な学風、独創性尊重は大いに結構であるが、国際社会及び各界に於ける変化・変革は甚だ激しいものがあり、京都大学の研究・教育に於いても、これら外部環境の激変に応じた世界観の構築や、戦略の立案が強く求められる。（工, 50歳代, 男）

◆自由・創造性の校風をさらに発展させてほしい。（工, 50歳代, 男）

◆数学・英語・物理・工学・あらゆる学問の基礎と物事を考える時間を大学で修得することが、肝要と考えます。HOW TOは会社に入ってからでも間に合います。Computerも会社に入ってからで充分です。さらに異なる気風の教養を身に付けておくこと。物事の考え方に、幅と奥行きがもてることが、必要かと思います。私の学生の頃には、長島愛生園の見学。日本古代の道を歩く等、、様々な催しがあり、学生運動の最感期にもかかわらず、自分の生きる上での肥やしとなりました。また、部活動もしていましたが、大学の部活動への支援があればこそ、文化にも、親しむことができました。大学に望むことは、多くあります。今後とも、かえること、守ること、続けていただきたく思っています。（工, 50歳代, 男）

◆大学の活性化を計るためには、教授の他大学との入れ替え、他学部、他大学又は研究機関を経験した人の教授への起用が必要。大学は人材を供給してくれるということで、企業は遠慮して来た。しかし、日本の学生よりアジアのほかの国の出身者の方が優秀であるという事象もある。企業と大学の接点を増やし、もっと遠慮の無い活発な意見交換をしていかないと、バカな教授とバカな学生の集団になりかねない。（工, 50歳代, 男）

◆学外との連携を深め、人類・社会の発展に貢献する成果を挙げること。またそのような人材を育成すること。（工, 50歳代, 男）

◆もっと中央（東京）に出てほしい。自由と放任とは違う。両者バランス良く、教育してほしい。ともすれば学生の資質が高いため、、教授は放任主義になっていないだろうか？。学校が個人主義の尊重する余り、京大の組織的な力が民間では弱い。（工, 50歳代）

◆・大学院での研究は、将来の専門分野の入口としての教育というより、研究の方法・進め方の教育とトレイニングと位置づけて、本人が将来自身でテーマや専門を決定する、あるいは卒業後の進路にあって、担当する業務・課題を遂行する能力と要素を高めることであることを明確にし、その視点で学生を教育してほしい。・理科系の教養教育の中に、工業経営・企業会計・税法など一般の事業経営にかかわるビジネス教育の基礎を取り込んでほしい。（工, 50歳代, 男）

◆1. 野依先生がノーベル賞をもらって、自然科学では京都大学卒業生もが圧倒的となっている。これが京都大学研究の成功を意味するものが偶然の一致か、自由な学風が成せるものか？。2. しかし、実業界では、主都が東京ということもあって圧倒的に東京地区の大学（特に東大）に遅れをとっている。なぜか考える必要があるのでは？。（工, 50歳代, 男）

◆私は京大精密工学科をS42年に余り勉強せず卒業し、一年研究科に行って精密企業に就職し実践的に役立たないものであった。その後、7年たって和医大に再入学し、今は医療法人の理事長兼院長として活躍している。私の不勉強な京大生活をみて、実践的な学問が必要であったように思う。医大で6年のうち4年学んだことは今でも役に立っている。実践あるのみであると思う。しかし、入学して、ふりおとす必要もある。100人入学すれば、60人から70人残って、他はかわいそうだが他の大学いくか別の職業につくことが、これからの道であろう。（工, 50歳代, 男）

◆このあいだ、何年ぶりかで吉田キャンパスに寄ってみたら、ずいぶん高い建物が新しく立っていました。少なくとも戦後すぐは、高さのそろったレンガ造りの建物が並び、思索に適した落ちついた雰囲気があったものです。手狭になっていることはわかりますが、ただ、小ぎれいな容れ物を並べればいいというものではありません。京都の景観がくずれていくように、大学もかつての面影をなくしているのが残念です。建物の配置やバランス、まわりの自然との調和、全体の統一感、大切だと思います。そういうキャンパスがあってこそ、学問の成果も研究業績も向上するのではないかと思います。（工, 50歳代, 男）

◆教養部の充実と学生に教育できる人材の養成も必要。教える側の人材の問題となるが研究者と教育者の両方の資質を兼ね備えた人材の育成が必要ではないか。（工, 50歳代, 男）

◆市井の中に素晴らしい技術をもった企業、技術者がいるが、それをインキュベートするような機能を強化してもらいたい。（工, 50歳代, 男）

◆自由で創造性に富んだ大学であり続けてほしい。（工, 50歳代, 男）

◆アンケートへの回答および問12に対する回答をもって本問に対する答えとします。（工, 50歳代, 男）

◆京都大学での研究成果が産業界にどのように役立っているか不明である。論文発表の数などにとらわれず、社会にどのように貢献したのかの評価軸で教授や研究内容を査定したらどうか。（工, 50歳代, 男）

◆①時の政権に反対する意見を、大看板（横8m×高さ12m位のもの）に書いて道路に立てておくのは良くないと思う。反対意見を大書するなら、賛成意見も大書すべきだと思う。学生は純心でまだまだ幼い。片一方の意見だけを注入するのは、良くないと思う。②講義について難しい講義はやめてもらいたい。やさしく、平易に解説してほしい。③青春の一時期において幸福な時を送らせて頂きまして、真に有難うございました。（工, 50歳代, 男）

◆工学部に関して言えば、大学院修了者が大部分だと思います。学部と大学院をあわせれば4年間の専門教育が実施できるので、教育課程での連続性を強くし、学生の興味分野が色々な範囲に広められるようにした方がよいと思います。今から20年後にどのようなテーマが主流となっているのか誰にも予測できません。基礎的な力を身につけておけば、そのような分野にも取り組んでいけると思います。（工, 50歳代, 男）

◆1.実用化研究、実用化を念頭においた研究は大学以外の諸機関の研究施設や民間会社にまかせ、大学は基礎研究を重視すべき。 2.学生には研究に取り組む姿勢を身に付けさせる。（工, 50歳代, 男）

◆1.大学に期待することは、将来の日本を背おう企業に役立つ人材を育成してもらいたいことです。特に、国際化対応、IT関連技術の即戦力は不可欠ですがそれとともに柔軟思考、応用力、躾、活力（潜在）が求められています。一般専門の全体の中で育成していたゞきたい。 2.要望事項としては、大学と企業間の情報連絡が少ないと考えます。特に、技術関連はほとんどないと考えます。例えば、産学でのData Bank、大学のHome Page、最近のITを使えばその手段（改善案）はあると思いますが。企業側には、技研新聞（公開）、Home Page（公開）等準備している企業が増えております。（小?の卒業したS44項には、”産学共同…”は禁句でしたが）（工, 50歳代, 男）

◆歴史と伝統ある京都大学の卒業生として誇りに思っている。が、社会貢献できる人材の育成の面では、教育のあり方を見直すべきだと考えている。（私の専門分野に限定した話ではあるが）理学分野etc.は、ノーベル賞を受けるに値する、すばらしい人材を輩出とてきたが工学研究の分野では、社会とやや遠い。真に求められる人材や、研究テーマのあり方、及び教育体制の（構造）改革をしなければ、存在価値を低下させてゆく気がする。母校を思う気持ちは、大きく、このようなことにならぬ様に改善をお願いしたい。その一つの方法として、大学の先生（助教授以下助方）と民間企業の研究者（伝研究員以上）又は、公官庁、財団etc.の研究者とを入れかえたり、産学共同研究プロジェクトの推進等を、取り入れることを提案するものです。（工, 50歳代, 男）

◆「NHKの課外授業」ではないが、在学生に卒業生の現在取り組んでいる課題について説明、紹介することにより、現在大学で学んでいる科目の知識がどのように活用されているか、考える機会が与えられないものだろうか。大学で学ぶ科目が、実社会でいかに活用されるか、明らかにしておく必要がある。（工, 50歳代, 男）

◆’’75年卒業後、大学の動向には無関心であった為、特に記すべきことはないが、京大としては、社会人として、各々の分野で

リーダーとして活躍するという気概を持つ卒業生を送り出してほしい。(工, 50歳代, 男)

◆基礎的研究と教育重視で21世紀を担う人材を育てていただきたい。TLOにしても、大きく育つような原理的なものに取組んでいくべきで、目先の実用に偏しない方が良いと思います。工業試験所的になったり、中小企業の実利のみの役に立つのも大事かも知れませんが、京都大学の役割はもっと大きくあるべきかと思います。(工, 50歳代, 男)

◆独立法人化等、国立大学の運営方法は変革していくが、京都大学の伝統、風土を守っていく努力を惜しまずに。日本の頭脳の中枢となるべく、優柔な人材を集める。(内外を問わず)また、京都という土地柄は、研究環境として、最高。英国における、オックスフォード、ケンブリッジを目指せ。(工, 50歳代, 男)

◆能力のない(衰えた)教職員はいつまでも大学に残っていられない環境を作るべきである。(工, 50歳代, 男)

◆工学部・工学研究科が桂地区に移り、限られた地区に統合された学部学科が分散するとのこと、発展のためとはいえ、訪問時の不便や寂しさが感じられます。宇治地区とは違い、多くの学生が移動するので、学生への配慮をお願いします。十分な適合能力を持った学生も、軌道に乗るまでは、通学への不便や不満で実力を発揮できないことが考えられます。大学院大学であり、学部教育にゆとりを持たせられないでしょうか。教養に2年を過ごし、3, 4年次に集中的に専門をやってきた年輩者と、近年の1年次からの専門教育を受けた卒業生とで、教育・研究についての比較や評価ができないものでしょうか。時代や環境の異なった世代の比較は難しいと思われますが、歴史のある京大では検討する材料は蓄積されていると思われます。研究面では、創造性、信憑性のある成果がだされていると思われます。教育面でも他大学への模範となる制度や編成を示して頂きたいと思います。(工, 50歳代, 男)

◆学生、院生ももっと社会の現実の動きの中で自らの学んでいる事を評価していくことが必要であり、社会人(OB等)を講師に迎える、あるいは外へ出て学習する等が求められる。又助手講師等教える側のスタッフも短期、あるいは集中講義方式でも良いから迎え入れ活性化する必要。(工, 50歳代, 男)

◆まずこれまでの通りの自由な学風を守ってほしい。「反戦自由の伝統」が守られることが特に大事だと思います。(工, 50歳代, 男)

◆先般、今年度ノーベル化学賞受賞が決まった野依良治先生は、丁度、学生時代に助手として学生実験その他でお世話下さいました。やはり、京都は海外の方の訪問も多く、留学して来られる方にも多く接しましたが、何といっても在学中から、学生・院生が国際人としての視野を育みつつ学べる素地を諸先生方の配慮で身にけられるよう、考えていただきたいと思います。市民参加の研究育成という新たな試みがなされているとのNewsに、よき成果が生まれるよう願っています。たゞ、国立試験研究機関の独立訪政法人化に続いて、国立大学もそうした動きがある中で、自由な創造性を育くむ教育・研究が後退しないよう、大学独自の特性が生かされるStaff及び予算確保の基盤はきちんとしていなければならないと思います。(工, 50歳代, 女)

◆・環境関係の独立大学院設置計画を新聞で拝見しましたが、行政、企業あるいはNGOで、国際的にも活躍できる学際的な力を持った人材、指導者を是非養成して頂きたい。(工, 50歳代, 男)

◆産業界との積極的な連係を強め、特に東京を中心とする産・官・学の連係に楔を打ち込んでもらいたい。(工, 50歳代, 男)

◆1. 講座制の廃止教授に全ての権限を持たせるとは恐ろしいことである。このような場では、自由な発言は出来ず、助手や助教授の従弟制度は無くならない。必ず腐敗が生じる。 2. 教授の公募制上記1. の弊害を防ぎ、世界の一流の研究者を集めるために教授を公募制にする。3. 活発な交流他大学、他研究機関諸外国との交流をより活発にし、開かれた大学にする。4. 問12の答に書いたように、教養、専門共より現代的でより合目的に見直すべきである。(工, 50歳代, 男)

◆京都大学は日本社会の紘図の一つであり、大学にすべてを期待する訳にはゆかないが、現在の日本は文明の危機状況にあると考える。この状況を改善し、将来の日本社会をよりよい状態にもってゆくため大学の改革は必要。①先ず外国人に徹底して門戸を開放すること、日本で学び研究することが諸外国の若者の憧れになるようにしなければならない。②入試等入学選考過程の改善多面的な潜在能力を見い出す選考方式の導入が必要。例えば①とも関係するが英文で書類を作成し、英法で試験を受けられる仕組みを入れること。③人事制度米国のTevuie制の問題があるようであるが、終身雇用に近い実態また師弟関係の中で昇進を争うような近親結婚的人事風習は改めるべき。①も合せ広く人事交流を行うべし。(工, 50歳代, 男)

◆世の中はいつも変化している大学が世間の変化にとり残されないように願いたい(工, 50歳代, 男)

◆①社会にアッピールする大学であってほしい。京都大学はガンバッテル！！②卒業生の社会経験を引出すシステムがあったら良い。③学生らしい気力、学風を育てる教育のあり方を教授一丸となって進めてほしい。(工, 50歳代, 男)

◆問13の①～⑥の校風の実践(工, 50歳代, 男)

◆京大は自由な学風の下で創造的な研究を行う研究重視の大学と考える。ところが現状は他大学と同様最近の流行にとらわれ産学協同などに浮き足立っているように思われる。本来、独創的研究とは個人の大変な努力の下で行なわれるものであり、訳のわからないセンターや組織作りに明け暮れるのではなく、京大の教官には、マスコミに取り上げられない地味な研究でもいいから各分野で世界の誰も行っていないような研究を行ない、その成果を各分野で最も権威ある国際専門誌に発表することだけに集中していただきたい。特に教授人事ではこの点に注意すべきであると考えるが、最近のノイズの多い社会では、問題点が多いと思われる。現在叫ばれているような産学協同型の先端研究は本来、多数の有能な研究者の抱えている大企業がやってしかるべきとも考えられるものが多く、そのような仕事を京大が行っていたのでは京大の未来はないし、学生が大学にいる価値もなくなるであろう。京大はすぐに役立つ研究を行なわなくてもいいから、ともかく各分野で最も権威のある国際専門誌に研究発表を行う研究者で溢れる大学であってほしい。そこにこそ、未来に役立つ大発見が生まれるであろう。(工, 50歳代, 男)

◆現在はどうか知りませんが、十年近く前に一度、京大構内に行きましたが、キャンパスが大変汚く乱れているようでした。美しい

大学にしてほしいですね。（工, 50歳代, 男）
◆時代の要請を先取りするような、学術的洞察にもとづく、研究がなされるための環境づくりが大切ではないかと思います。（工, 50歳代, 男）
◆・学問の府として一層の存在感を期待。・巾広い人脈、見識を持つ人材の育成を期待。（工, 50歳代, 男）
◆私は、建築学科出身であるので建築学科について話したい。まず、風評程度の話ではあるが、建築学科では若手の意欲ある助教授が新しい研究の取り組みを行う場合これを抑制する方向の先輩格の教授が多いようである。理解を示さないばかりか、助教授が指導する学生に迄不利な対応をされると聞く。以上は、単なる教授～助教授の確執にすぎないかもしれないのであるが、自由で創造的な京大として、風評がたつこと自体良いとは言えない。大学の運営や、方針を検討する会議に民間人を参加させてはどうだろうか。また、民間人講師の採用は、京大ではどうなるだろうか。私自身も大阪市大で、わずかの時間であるが、講師をさせていただいている。助教授クラスが、単時間の学外講師になる講義を組みこんでのプログラムを組んではどうだろうか。（工, 50歳代, 男）
◆・人と情報のネットワーク及び開かれていること。・独創性～誰もが（理系も文系も）「なるほど」と感じ入るもの。（工, 50歳代, 男）
◆基礎的な研究と実用化を目指す研究のバランスに常に留意して大学を運営していくことが必要であると考えます。大学側から一方的に与える教育ではなく、博士課程を中心とする大学院課程の学生が自主的かつ意欲的に最先端技術の研究に取り組むような体制、雰囲気を作り上げていっていただきたいと思います。（工, 50歳代, 男）
◆教養過程では、社会人の講義等を多く導入するなどして、大学在学期間は勉学、人間形成において非常に重要な時期であることを強調・認識させることが必要。（工, 50歳代, 男）
◆従来個性の強い人を輩出してきたのではないかと思いますが、時代とともにそれは変化しているのではと思います。今後益々社会は個性を要求するのは間違いありません、個性と創造性に優れた人材の輩出を願って止みません。（工, 50歳代, 男）
◆・幅広い教養を身につけ、視野を広く持った人材を養成してほしい。 ・大学は研究で一流になること目指すだけでなく、学会、業界をリードする役割を果たし、多くの分野で社会に積極的に貢献することを念頭において活動してほしい。 ・学生には議論を奨励し、種種の場面で議論に耐える人材を要請してほしい。 （工, 50歳代, 男）
◆大学前の中学、高校生活が貧困なのか、創造的な意見を積極的に言う提案型人間が少なくなってきている。（評論家が多すぎる） これらの解消のためには、社会人を巻き込んだ実践的教育を行う必要がある。（工, 50歳代, 男）
◆独創性豊かで、視野の広い、コミュニケーション能力の高い学生を送り出してほしい。（工, 50歳代, 男）
◆日本のサイエンス・テクノロジーのレベルアップに果たす京都大学のポジションは 非常に大きい。大学を出て、国内・外で仕事をするようになり、特に京都大学の地 位の高さを実感するようになりました。大学関係者はこの点をもっと学内向けに伝達し、教職員・学生のモティベーションを図るべきだと感ずる。（工, 50歳代, 男）
◆京都大学の存在価値をひとつだけ掲げるとしたら独創性ではないだろうか。独創性は自由の風土と人間相互尊重の精神から生まれる。自己の追求と国際社会への貢献が独創性を通して両立かつ極大化される場を提供して頂きたい。（工, 50歳代, 男）
◆学部・学科に細分化されたとたんにその分野は陳腐化する。社会の要請・国民の要望に応える柔軟な学問分野に変化出来るようにした方が社会に出たとき役に立つ。世の中の動きにもっと関心を持つべきだ。結果的に社会に役立たない学問・研究はお金と時間の無駄。（工, 50歳代, 男）
◆工学系学部は産業界との連携強化を意識していくべきと思う。（工, 50歳代, 男）
◆京大の良さは、京都という地域の洗練された感覚と技への厳しさが学究に反映されてきたことにあるのではないでしょうか？それがこれまでの輝かしい成果に結びついたのだと思います。 しかし、世の中が大きく変化している今、良い意味の個性を堅持していくためには従来よりもさらに広く優秀な人材を求めないと、単なるローカル色に堕してしまう恐れがあります。今こそ、過去の栄光に酔うことなく、厳しい自己点検を期待します。 問14は質問の意味が理解できません。 大学とは、いかなる形であれ実践するための学術を行なうところだと思います。 問16に関連して：今思うと教養部の2年は長すぎたように思います。（工, 50歳代, 男）
◆○教育及び研究とも激しく、実力本位であってほしい。その時の基準は当然、実用的、 非実用的という問題や社会に受け入れられるか否かというより、その分野で十分高度なレベルかどうかです。 ○分野を細かく区別しないで、幅広い領域で学習、研究できるような環境を作るべきだ。 ○硬直した体系、官僚的な境界意識が無くなるように意識した行動を期待したい。（工, 50歳代, 男）
◆問12での要望に加えて、開かれた大学（門戸開放、情報開示・発信等）への脱皮。（工, 50歳代, 男）
◆・日本からノーベル賞受賞者が出るたびに、「また京大関係者か」と知るに及んで、誇りに思う人、ウンザリする人等いろいろだと思います。 ・大切なのは自ら情報を発信して、諸外国から高く評価されている点です。 ・独立行政法人化の動きの中で、これからは文部科学省の役人に気兼ねすることなく、絶えず外部に向かって情報を発信してほしいと考えます。 ・それも学術分野に限らず、 Center of Excellence として時代を導く指導原理を確立してほしいと考えます。（工, 50歳代, 男）
◆校内にある学生専用病院の歯科に通ったことがあるが、虫歯でもない歯を削ったりして治療がいい加減であった。若い医者の経験の場でもあるようだが、しかるべき経験者の指導が行き届くようなシステムの導入が望まれる。（今は改善されているかも知れないが） （工, 50歳代, 男）
◆実践的な教育が叫ばれてはいますが、京大においては自由な研究活動に重点をおいた教育を望みます。実務は、いずれ社

会にでて自ら学びます。自由な思索環境は社会においてはなかなか得られません。（工，50歳代，男）

◆国語論理学重視産学共同すぐに役立つ ―社会（企業で）。（工，60歳以上，男）

◆専攻した学科の知識をスタートとして、その延長上の人生を選ぶのではなかった私にとって、京大は無駄であったのかと言うと、決してそうではありません。では、専門が何らかの形で役に立っているのかと言うと、そうではありません。それ程であるのに、何ゆえに無駄と感じていないのか。それは京大に来たからこそ学べたと感じているものが、厳に存在しているからです。でも特定の教科とか、ある講座というわけではありません。京大とは、私にとって「哲学する、ということの意味を真に知ることができた空間」として存在しているのです。そして、共に語り、議論し、思考を整理し、思索を深めるすぐれた朋友たちに、京大という空間であったからこそ、巡り会えたし、得ることができた、と感じているのです。そのことが、私にとって京大を誇りに思い、なつかしく思う理由です。60の年令となった今、京大って何、と問われたら、哲学できる大学だったと言うことのできることを幸せに思います。これからの京大の改革に於いて、そういう風土、伝統を、そしてさらに何がそういう風土、伝統をつくり出す源であったのかを、心して振り返る作業を決して忘れないでいただきたい。それがなくなった京大は、既に京大ではないと思うのです。（工，60歳以上，男）

◆地球的規模で役立つ、地求が永遠に生物の栖となるための研究テーマを全ての学部で行って下さい。（工，60歳以上，男）

◆学生に課題を与え、その課題解決のために、いかにつっ込んで、調べたか、演繹したかの訓練を主体にした教育はできないものだろうか。（工，60歳以上，男）

農学部・農学研究科

◆他の大学は知らないけれど、京大に入って勉強に力を入れる学生が特に多いという印象を受けなかった。自分自身の反省もこめて、サークル活動、アルバイトのみに重点を置くなら、大学は必要なくなってしまう。一般教養での座学はもっと実用性のあるものに変えるべきだと思う。語学も、経済も、化学も、今後社会に出て生きてくる内容であるべきだと思う。全体の雰囲気が変わらなければ、学生は皆同じ色に染まっていくと思います。講義の内容、単位取得制度などから変えていくべきです。（農，20歳代，女）

◆自由と自分勝手を勘違いして理解している人が多く見られる。これは大学の学風によるところが大きいのでは。最低限のモラルを守れない人間が育っていく場になって欲しくない。大学の教育は余りにも専門化しすぎている。幅の広い、京大生らしい人間の育成が妨げられているように思う。無駄のように思えるものを取り入れてほしい。具体的には文系の人間に生態観察のフィールドワークや理系の人間に哲学とか。（農，20歳代，女）

◆今でも（私の在学中は）そうであり、これからもそうあってほしいが、大学は学生を大人として扱い、型にはめず、個人の長所を大いに伸ばすことに傾注して下さい。良からぬ考えの学生、問題ある学生も大勢いるとは思いますが、ケアの門戸（特に精神疾患に対する）は広く開けておいて、後は学生のみなさんに自由にやっていただくということで、よいのではないでしょうか？（農，20歳代，男）

◆理学部（研究部門）では、活発に行われていると思うが、文系学部でも社会人の受け入れを積極的に行ってほしい。今はやりであるが、MBA国内制度を導入し、社会人にもっと門戸を開放してほしい。（一橋大学の取組みは社会人にとって非常に魅力的である。そう思うと同時に、京都大学もそのCapacityとPotentialは十分にもっていると思う。）東京、京都という地の利の差はあるかもしれないが、京都というDamesticな場所にとどまらず、国際的な教育もどんどん取り入れてほしい。あと、産学協同の取り組みもどんどん行ってほしい。いずれにせよ、学生だけでなく、社会人にも、もっと学ぶ場を提供してほしいと思う。（農，20歳代，男）

◆産学の協力も必要ではあるが、大学での研究は、基本的には学術的であるべきだと思う。ある成果が大学で得られた時、それが特定の企業や産業に利用されるのではなく、企業や産業でワンクッションひねりが入った後に、商品化等のアクションが起こるような成果であってほしいと思う。そうでなければ、大学が博く、自由に、かつ独創的に活動することが難しくなってくるし、その結果、大学の存在意義そのものが疑問視されてくると思う。（農，20歳代，男）

◆これからも、独創性のある学生を育てていってほしいと思います。（農，20歳代，女）

◆・他の研究機関とともに研究を推進していくという面がほしい。指導も行ってほしい。・もっと京都大学のカラー・良い所などをアピールしてほしいです。（農，20歳代，女）

◆京都大学の良さは決しておしつけでなく、やりたい人が自発的に学問・研究を行うところだと思います。確かに大学は今変わらなければいけない時期なのかもしれませんが、決しておしつけの「勉強」を強制することの無い様にお願いします。学生の自主性を重んじてほしい。（農，20歳代，男）

◆独創性、独自性を生み出すための意識づけをいかに教育するか？そのためには、放任主義的教育は有効と思う。ただし放任したまま卒業を許すのではなく、「京都大学卒業」を名乗るのに必要な最低限のレベルは達成されるべきであり、そのための到達すべき（期待される）レベルは、入学時に示しておくべきであろう。（農，20歳代，男）

◆一般教養2年間は長かったように思える。勉強をしたいと思っている学生は、意外と多いと思うが、入学後すぐにそれに対する受け皿を考えてあげてほしい。（農，20歳代，男）

◆私が感じている現在の自由かつ創造性のある気風を維持してほしい。加えて、大学外、諸外国との交流を広げて、様々な情報を収集できるよう、大学側の働きかけも必要。（農，20歳代，男）

◆社会や教育が画一化されている中、自由で型にはまらない人間が育つような環境を維持していってほしいと思う。（農，20歳代，女）

◆・その道のスペシャリストとなる人を育成する能力を持ち続けてほしい。（農, 20歳代, 男）

◆・今後とも日本を代表する大学として、現在の室を落とさずにいてほしい。・できれば、京都から移転しないでほしい。・大学生の全体的な印象としては、ハングリー精神のようなものに欠けている感じがする。なんとなく、京都大学でガムシャラにやるのはかっこ悪いという雰囲気があるのではないかとも思う。・京都大学に入ったということがすごく大きなことだったので入ってから何をしたかというのは、私は余りなく、他大学でも、できることしかできなかったような気がする。せっかく京都大学に入ったのだから、京都大学でしかできないようなことを、今後の学生ができたらいいなとは思う。よけいなお世話かもしれませんが。（農, 20歳代, 女）

◆1.要望今後も欧米のまねでなく、独創性に富んだ研究活動を続けていってほしい。2.改善すべき点一部で年功序列的人事が見られた。少し残念です。一卒業生として、実力本位に展ずべきだと思う。3.問題点大学の改革が激して、中身が良く分かりません。我々ももっと関心を持って、今後は、Checkしていきたいと思います。Plan→Do→Check白書→Aetienをとってください。（農, 20歳代, 男）

◆一言でいうと、「京都にあるけど中味は東大と一緒、にはしないでほしい。」に尽きます。私の東大像自体も歪んでいるかもしれませんが、「東大でなく京大に入ってよかった」と思っていたのに、近頃京大側が東大のまねをしている？と思えてなりません。東大と京大のちがいは入試問題からして明らかでした。国語にしても英語にしてもちまちまと小問に答えさせる東大に対し、この用紙のような広いスペースに字数制限も何もなく「述べよ。」「訳せ。」これをみて京大がいい、自分にあうと思ったのはまちがいではありませんでした。加えて、東大に入った知りあいから「1, 2回生の成績が平均いくつ以上じゃないと入りたい学部に進めない」と聞かされ、「いつまで高校生みたいなことさせるんだ」と思いました。その後、私の研究室と同じ分野にあたる東大の研究室の方から、「うちは成績悪かったやつの吹きだまりみたいなとこだから、みんなやる気ないですよ」と聞いてやっぱりその制度はいかん！！と思いました。京大は私の入学当時、農学部は10の学科に割り振って入学させていました（今は3コでしたっけ）。入試のときの希望学科に入れず、屈折した気持ちの人も多くいましたが、自分の学科の専門講義や先生とのちょっとした話の中で、「この分野で勉強したい」と思うようになり、最後までいじけた雰囲気ということはありませんでした。今、農学部は途中から学科に分かれる制度にかわり、基本的に成績での振り分けはしないと聞いていますが、どうでしょうか。自分の分野に愛着をもつ期間が十分あるのか気がかりです。「入試だけで決まるのはおかしい」というのは正論かもしれませんが、研究分野に対して成績の優劣をつけるという行為を、大学生の途中までひきずるのは反対です。テストの成績がいい人と、学問・研究を深められる人は決して同じではありません。社会人になって仕事のできる、できないに関しても今痛感しています。大学院でも、入試はぎりぎりだったという先輩が次々と発想、実験…をくりかえしているのを目にしました。大学としても何もしないわけにはいかず、悩むところかもしれませんが、しめつけや成績による振り分けなどで、大学の余裕をなくしてしまっては、京大の存在意義はなくなると思います。よろしくお願いします。（農, 20歳代, 女）

◆自分が新採を手伝って実感したが、京大はOBと現役学生との連絡が悪い。学生の就職を学校としてもっと支援すべき。実社会で学んだことを活用してはじめて学校の価値。そのための環境支援が重要。また、OBの講演会（役員級～若手）の機会を増やすべき。京都大学とはいえ、東京への就職の支援が特に弱いと思う。（農, 20歳代, 男）

◆日本で最も遅れている基礎研究を推進できる期間であると思いますので、そこは世界をリードできる研究教育機関として存続してほしい。独立行政法人となれば、民間とのタイアップで実践的な研究も必要となるでしょうが、より先を進む基礎研究を行い続けてほしい。 また、独創性や創造性といった点は、徐々に弱くなってきていると思いますので、ここを伸ばして、優秀な学生を国内でつぶさないようにしてほしい。なぜ優秀な学生や研究者は海外に行ってしまうのか猛省してほしい。 あと、教授間のどろどろした争いによって、優秀な人材を喪失するのは犯罪的な行為。今の総長、学部長の能力を疑ってしまう。真に能力ある人が開花できるのかどうか、くだらない争いに埋もれていってないか考えてほしい。民間企業であれば、優秀な人材が流出するのは存亡の危機。権力をなんとか規制できないものか。（農, 20歳代）

◆最高学府という奢りを捨て、謙虚になるべき。（農, 20歳代, 男）

◆キャンパスの移転はしないでほしい。（農, 20歳代, 男）

◆全員をすくいあげるような改革よりも、やる気のある2割の人はとことん伸ばせるようなシステム作りをしてほしい。そのかわり、学部の授業を余りやる気のない人も排除するのではなく、ほったらかしにしておく器の広さがほしい。そうすることが、大学主導の教育ではできない部分のインキュベーターとなってきたことも否定できないと思います。　あと、関西の他の大学や企業、地域との広く深い連携を進めてほしい。国立大では難しかったかもしれないが、今後はもっと可能になってくると思う。（農, 20歳代）

◆（1）単位認定難度はぜひ現在のままで 京都大学は他大学に比べ単位認定が甘いと言われてるが、是非このままで。 これが甘いと単位のために消費されるエネルギーが少なくて済むので、他に振り分けられるエネルギーが増える。よって、学生自身が学生時代に興味有る事象に没頭できる。 結果、脇道に逸れる者も出るが、ノーベル賞級の実績を出す者も生まれる。 日本の将来を考えて、平均近くの人物多数よりも、少数でも傑出した人材を生み出す方がよいと考える。まさにこれが京都大学の役割ではないだろうか。（農, 20歳代, 男）

◆大学教育を義務教育の延長のごとく、がんじがらめにするのはどうかと思います。 京大の特徴である「自由な学風」と「高水準の教育・研究機関」をこれからも両立してほしいものです。（農, 20歳代）

◆・「自由な学風」を売り物にすることをやめないでほしい。ということは、余り色々と規則を使ったりして欲しくない、ということです。とはいっても学生側がそこまで大人になっていない以上、仕方がないのかもしれません。ただ「大学」はあくまで「大学」であって「高校」ではないことは忘れないでほしいと最近特に思っています。 ・今、大学の内部評価がなされているようですが、「一

度教員になれば職を追われることはない」今の制度には不満があります。かといって学生の投票で、一種の人気取り的な人が残るような制度もよくないと思います。研究と教育の両方を同一人物に求めるような制度がいけないような気もします。両方の事ができる人もいるでしょうが、まれです。同じ大学教員でもどちらかを選択して、それぞれ別の評価をするべきです。どちらから見ても中途半端で結局何もしない人が余りに多いです。学生時代、研究員時代と私の大学生活は15年近くになりますが、人間的にか、あるいは研究者として、尊敬できる人には、数名しか出会っていません（会えただけ幸せかもしれません）。一方、何でこんな人が給料をもらっているの・・・と思う人には、数多く会いました。後者の数が少しでも減ってもらいたいと思っています。（農, 30歳代, 女）

◆研究・教育の方向性に関しては、「高度専門性追求路線」「創造性開拓路線」の二通りが考えられる。このうち前者については京大のみならず大学一般で重要視され、資源が投下されていると思われるが、その一方前者重視の弊害として、学生の自主性や創造性は低下してきているようである。実際、大学の現在の教育システムでは、後者には全く対応できておらず、大学の余剰的機能であるサークル・ボランティア活動にかろうじて教育責任を肩替わりさせているに過ぎない。京大が独創性を発揮し得るニッチの一つはここにある。すなわち、大学と社会とを結びつけ、有意義な活動を生み出している公益性の高い学内サークル・ボランティア・NPOなどを大学の重要な機能として正規に位置付け、正規に人的・経済的支援を行い、正規に活動成果を社会に公表することである。冒頭に掲げた二つの路線を一個人が両立し得ることは困難でも、せめて一方の能力を身に付けることは十分可能である。学生に多様な選択肢を確保してもらう、という意味もそこには込められている。後者の路線は、社会に京大の存在をアピールするうえで、また独立法人化を念頭におくという意味でコストパフォーマンスの高い成果が得られると信じられる。（農, 30歳代, 男）

◆卒業するために努力（自己啓発）が必要な大学にすべきと思います。（農, 30歳代, 男）

◆教養部の頃（1～2回生）、今でも見たことも聞いたこともない学問にたくさん出会い、驚いた。こんな学問の存在を知っていたら、大学入学時の選択も変わっていたかもしれません。どうしてここまでこんな学問に出会わなかったのか・・・これが現在の義務教育や高等学校教育の問題かもしれない。大学は基本的に専門教育だけではないと考えている。本当に勉強することは何か？研究の基礎は何かを教えてくれた京大には感謝している。（農, 30歳代, 女）

◆大学院教育における専門性は維持すべきである。（農, 30歳代, 男）

◆研究に必要な基礎科目をもっと絞り込み、各学部、各学科で対応できるか？（農, 30歳代, 男）

◆画一的でない学生がいてほしい。超一流から三流まで揃った幅広い大学であってほしい。京大での6年間は満足しているので、普通の大学のようにはならないでほしい。社会人大学をやる予定はないですか。社会に出て、もう一度学び直したいと思うことがよくあります。社会人の目で講義を聴けば（特に教養）、その価値がもっと分かったのにと悔やまれることがあります。（農, 30歳代, 女）

◆社会の意見に惑わされず、今まで通り真っ直ぐ進んでいただきたい。（農, 30歳代, 男）

◆独法化に伴い大学の教育・研究環境が多くの点で変化せざるを得ないと思いますが、自主性・創造性に重点を置いた教育研究の確保・増進を期待します。（農, 30歳代, 男）

◆大学にというよりも教授、その他先生、学生が本気で生きている美しい場であることを願っています。寺子屋であればいいと思います。（農, 30歳代, 男）

◆卒業生として思うことは、京都大学が社会に貢献できる人材を多く輩出し、社会の発展に役立つ研究活動を多く行うことの出来る大学であってほしいということです。それには総合大学である必要はなく、強みのある（世界的に魅力ある研究をしている学科等）ものを他から吸収して、専門大学になってもよいと思います。中途半端な総合では上記は望めないような気がします。企業も強い部分を強く、弱い部分を切り捨てリストラを行っています。これがそのまま大学の改革に当てはまるものと思いませんが、中途半端はいけないと思います。もし、自分がもう一度大学に行くとするなら、実社会に即実戦可能な充実した講義や研究のある大学に行きます。今後は大学の有名度ではなく、そうなると思います。（農, 30歳代, 男）

◆学生の教育・研究を更に押し進める環境を整えてほしい。遠隔地の学生はほんのちょっとした書類を出しに行ったり、印を押すためだけに、研究で忙しい合間、片道1時間かかる道の往復を強いられたりしている。事務をもっと有機的に結びつけ、コンピューター等を駆使すれば、ムダな時間、労力を使わずに済むのではないでしょうか。これは大学というより、国に対する要望となるかも知れませんが、建物や設備の補修工事をもっと行うべきだと思う。新しい建物にはお金が付くが、古くても必要な設備には補修費が出しにくいのは問題だと思います。（農, 30歳代, 男）

◆・語学や専門基礎など、必須科目を増やし、学生の知識、基礎学力を高める。（文学科学省によって、京大へ進学できる子でも学力の低下はあります。高校までとは違うんだ、という点をもって強めたらいいのではと思います。）最低限なすべきことを減らせば、やればできる（やらなけらば、最低のことしかやろうとしない）学生の層は、増えていきます。・学部4回生、大学院生など、研究、実験などをどんどん行わせてほしいです。（農, 30歳代, 男）

◆創造性の豊かな学生が1人でも多く卒業されることを望みます。（農, 30歳代, 男）

◆・目先の利便性や環境の変化に対応することにせきたたれ、人としての広い教養や知性を身につけることは、社会に出てからでは難しいと実感している。専門教育は非常に重要だが、若い時期に文学、芸術、歴史、科学に関し、広い知性を身につけた人材の育成を期待したい。官僚主義に侵されていない京都にこそ、実現しうるはず。（農, 30歳代, 女）

◆世間の人は京大というと一目おく。京大という看板を一応は背負って仕事する。だから努力もできる時もある。でも実際は京大に入るために高校時代、人の数倍勉強したが、大学では普通に勉強した程度でそう苦労もなく卒業できた。だから今になってもっと勉強しておけば良かったと思うことがよくある。アメリカのMBAのように社会で即戦力となるような教育が必要ではないか

と思う。そこそこまじめに大学で学ぼうとしている学生に徹底的に動機付けて高い教養を更につけるよう仕向けるべきだと思います。私もそうでしたが、自分で高い志を維持するのは難しく、楽な方へ流されてしまいます。自由な学風で一部の天才を生み出すことも大切だとは思いますが、自信を持って京大を卒業しましたといえる社会人を生み出すことも大切だと思います。（農, 30歳代, 男）

◆東大の卒業生と話をしても面白みがないので、京大は、今の体質を維持してほしい。（農, 30歳代, 男）

◆教授の権力が強すぎて、縦割りの害が多い。教授も任期の制限（10年など）を行って、より風通しを良くすべきである。また、社会に出たことがない方が多いので、社会常識に欠けている人が多い。より積極的に、民間と交流すべき。（農, 30歳代, 男）

◆研究等に関しては今のままで良いと思うが、学部や学科、教室によって余りにも研究費の差がありすぎるのは何とかならないだろうか。もちろん設備等にお金がかかる研究室があるのはわかるが、例えば医学部の研究室と理学部のマイナーな研究をしている研究室をくらべると、医の方は冷暖房は好きなだけ使ってよいし、（何千円もするキカイも買いまくってるし）キムワイプやキムタオルも無駄使いと思える使い方をしているようだが、一方理の方は節約を強いられ「1時間ごとに冷房は切って下さい」とか「キムワイプ等買う時は1コずつ買って下さい。」とか言われると聞いた。こんなに差があるのもいかがなものか？就職に関しては大学側は余り何もしてくれていないような気がする。もちろん京大生ならそれほど苦労なく就職できるとは思うが、他大学の（新聞による）話では、就職の説明会やセミナー等が3回生からあり、最近では希望する職業に体験入社してみる、といったような事まであるとのこと。「外から見るのと中に入って見るのとは大違い」等と言われるように実際に企業内部を体験できれば大変役立つと思う。京大が研究の大学で、院に進み、研究者への道を歩むのがベストというのは理解しているが、実際には学部卒で就職する学生の方が今でも多いと思うので多少考えてみては（学校側が企業研究・情報収集のサポートをする等）いかがでしょうか。（農, 30歳代, 女）

◆・問12で書かせて頂きましたが、日本の大学も生涯教育の場としてもっともっと貢献出来ると思います。京大独自の方法で、自由な学風を活かして、30代、40代、50代の新入生があたりまえになる様な世の中づくりを引っ張っていって下さい。卒業生としても出来る限り応援します。・学術的教育か、実践的教育か、の問題ですが、総合大学としてはどちらも大切だと思います。学生や社会のニーズに合わせて、どちらのタイプでも世界レベルのプログラムが選べる様になれば素晴らしいと思います。（農, 30歳代, 男）

◆昨今、大学教育に実務的能力の教育を求められる風潮があるようですが、むしろ京都大学には基礎的学術の府として、より発展してほしいと思います。そのほうが京都大学の学風に合っている気がします。実務能力は社会に出てから十分身につけることができますし、大学のうちにこそ基礎的知識、教養、思考力を養うべきです。自分の経験からいっても学生のときにもっと基礎学力、さらに専門外のことを学んでおくべきだったという後悔があります。（農, 30歳代, 男）

◆・京大の自由で、生徒の自主性を重んじた校風はいつまでも続ける教育方針でいってほしい。私大の名門校は、伝統の校風が失われてきている気がしますし。（農, 30歳代, 男）

◆帰属意識が薄いので特に期待するものはありません。私が在学中は、偏差値教育のせいでしょうか、学生がある一定の層にまとまっていたような気がします。今後は、社会人入学等、年齢に関係なく学びたい人が入学できるようになれば、学ぶ側も多様化して互いに刺激しあい、雰囲気も活発なものとなるのではないかと思われます。（農, 30歳代, 男）

◆学びたい者が学びたい事を自由に学べる雰囲気を保ってください。学力はともかく、おそらく学生の教養はどんどん低下していくでしょうが。（農, 30歳代, 女）

◆・情報交換の充実　・研究成果の一般への情報開示（海外、東京、大阪等京都以外においても講義を行うなどフィールドワークに関しても）　・他の研究機関との連携　・大学と民間との間の人的交流の促進。（農, 30歳代, 男）

◆具体的にどうすればよいかは難しいかも知れないが、いつまでも個性を残していってほしいと思う。これは京大に限ったことではないが、近年各大学においてそれぞれの個性（のようなもの）が失われていきつつあるように思えてならない。そういう観点から言えば、「独立行政法人化」もプラスになるかも知れないと思うが。（農, 30歳代, 女）

◆教官の純粋培養（純血主義）は即刻廃止すべき。（農学部・農学研究所）特に私の関わった専攻では、ほぼ100％であり、人事の硬直化につながっている。うまく上司（教授）にとりあっていれば、将来的には何とかなるという、順通り人事は、研究の継続性を考えれば良い面もあるが、新規の発想や更なる研究の発展を妨げている、という面も多々あると思う。（農, 30歳代, 男）

◆学生の課外活動を、制度的にしっかりバックアップしてほしい。例えば、サークルボックスや学部レベルでの自主ゼミ、活動スペースの確保等。（農, 30歳代, 男）

◆①特許教育をもう少し熱心にやってほしい。（ノートのとり方、特許戦略的研究戦略の取り組み方など。）②企業のプロジェクト成功者、ベンチャービジネス経営者、投資家など、「産の知恵」「成功体験」などを、特別講義で語り合える場があるとよい。③1. 2年の時から研究室のHelpなどを経験させ、実務経験をした方が、講義への身の入り方が全然違うと思う。また、研究室のHelpも単位になるようにしてもよいと思う。④米国のバイオベンチャービジネス成功者、失敗者などを講師に招いて講義をしてほしい。⑤教授同士が厳しく採点し、職務怠慢なスタッフをリストラしてほしい。（農, 30歳代, 男）

◆教養科目は、人間の巾を広めるためにも是非全学生に義務付けてもらいたい。社会人大学（院）の検討はないのでしょうか？。（農, 30歳代, 女）

◆国内だけでなく、海外の時事問題や研究動向などを視野に入れて、国内の大学のリーダー的存在として他大学を引っ張っていける、元気で行動力のある大学像を期待しています。常に変化する世間の動向に背を向けたり流されたりすることなく、流れを制御していける柔軟さと強さの感じられる大学でいて下さい。（農, 30歳代, 女）

◆自由な学風を是非守って頂きたい。独法化の波により効率性、経済性などが言われるが、その時代にこそ学問の府としての姿を明確に打ち出すべきである。（農，30歳代，男）

◆問13の「自由」の意味については学生が自由気ままに遊びほうけることとはき違えられやすい。本当の意味での「自由の学風」というのは研究テーマ・研究内容についてのあるべき姿だと思う。その意味では4年生以上、特に大学院において尊重すべきことではないか？。現在教養部は解体されたが、その後どう変ったのか私は知らない。私が、1，2年生の頃は、授業に出席せずノートのコピーで試験を受ける者が教養部生の大半だったように感じたが、それが「自由の学風」だとしたら大間違いだと思う。一方で学生への連絡もなく（掲示板への張り出しもなく）無断欠勤する教授（一人だけ）もいた（教室で待ちぼうけを食らったものだ）ことは今でも忘れられない。一方で、専門課程では（3年生以降）大変充実していた。特に大学院に進学してからはずいぶん研究に打ち込んだものだった。卒業生としてはやはり研究を重視し、世界的レベルで張り合える研究機関としての京都大学を維持してほしいと思う。（農，30歳代，男）

◆大学の講義に工夫を加えてほしい。大概の講義がつまらなく、興味がわくものが少なかったため。教官も教え方も真剣に考えてほしい。一般に京大は自然科学分野において基礎を重視すると言われているが、基礎・応用という枠組みに取らわれず、研究強化を図ってほしい。社会に出るとバランスが良いという、中庸的な人が好まれるが一部非常にとがりつつもバランス感覚にすぐれた人材の輩出を考えてほしい。ゆくゆくはこういう人材が、日本を引っ張っていくことになるから。旧来からのバランス人間のい養成は、東大などに任しておけば良い。何にせよ、何か深めていきたいという学生のニーズに色々の形で応えてくれる大学であってほしい。（農，30歳代，男）

◆卒業生が改めて入学できる様な制度があれば良いと思います。（既にあるのかも知れませんが、地方に居ますと敷居が高く感じます。）現在、私は専門とは全く異なる分野で働いておりますが、同分野の教育を受けたいと思った際に受け入れてもらえる制度がほしいですね。どんな形でも良いので、卒業生のメリットとして是非お願いしたい。（農，30歳代，男）

◆今後も自由な校風を維持して頂きたいです。あとできれば、キャンパスの移転は避けてほしいです。（部分的にはやむを得ないかも知れませんが）。また情報公開に対する積極的な姿勢も大変すばらしいと思います。今後もそうした姿勢を持ち続けてほしいです。（農，30歳代，男）

◆・学生の自主性を尊重する学風を是非維持してほしい。（農，30歳代，男）

◆学生が期待する数多くの事（学業以外のことを含む）に対して応えられる「ふところ」の深さを持ち続けてほしい。（農，30歳代，男）

◆・放し飼い・考えるための材料の保持、提示・自治を巡る論争の場を確保（農，30歳代，男）

◆問12に多く記入しましたのであらためて簡潔に。私は今京都大学に入学、卒業して本当に良かったと心から感じております。学生生活に関する学校、先生方からの干渉が全くなし、学生の主体性に任された事は、今の私のアイデンティティ形成の上で非常に大きな影響を与えました。恐らく、他の国立大では学べなかった事、京大だからこそ学べた事だと思っております。当然、こういった学風は一朝一夕にできるものではなく100年の歴史の中で築き上げられたことだと思います。先日のノーベル化学賞で野依先生が受賞されましたが、日本におけるノーベル賞受賞者は京大ＯＢが東大ＯＢを圧倒しております。また、学生スポーツでもギャングスターズの活躍は周知の通りです。東大ＯＢが大蔵省はじめ国の中枢に入って日本は本当に良くなったのでしょうか？少なくとも京大の学風、教育方針、排出してきた人財は日本・世界の各分野で活躍され、評価されています。これからも京都大学の学風を大切にした教育をして下さい。後輩諸君に期待する所も大きいのですが、現役学生の中から芥川賞作家が出たり、吉本の漫才師が出たりと、相変わらずの「自由」ぶりに、少し安心しています。もっと枠にとらわれない豪快な人物が続々と出てくれる事を期待し、また、それを許す学校であり続けてほしいと考えております。乱筆乱文をお許しください。（農，30歳代，男）

◆大学院重点化および改組により、大学における講義が充実してきていると思います。ただ、残念なことは、それが一部の学生にしか理解されず、相変わらずの学生もいて、そこが困ったところだと思います。学生参加型の講義を決してみるとよいのではと考えます。学生実験や、その結果をレポートにまとめさせた時などは、学生諸君もかなり考えて、自分なりの意見なり、考えなりをぶつけてくる場合が有ります。実習教育等にも、積極的に参加できる体制をつくってやりたいものです。（農，30歳代，男）

◆問12への解答でも書いたように、異分野のバックグラウンドを待った人が、新たな分野に興味を抱き、活躍できるような環境を整えほしい。それが、各方面で広い視野を持った人が活躍できる素地となろう。そのためには、今も進めておられる単位の共有（学内、学外を含む）や社会人の受け入れなど、有効な方策だと思う。もう一つは、異分野の人や一般の人から見ても信頼され、愛される人材を育てていってほしいということ。専門分野で信頼される独創的な個性あふれる人材を育てることも大切で、そのために十分な役割を京大は果たしてきていると思うし、これからもそうあってほしい。しかし、社会一般から必要性を強く認識されるためには、社会の隅々にまで入り込んで一般の人から常に人間として信頼される人材が多数いないといけないと思う。さらに、それらの人を導き、国のあるべき姿を示せるような人が現れれば、言うことはないのではないでしょうか。（農，30歳代，男）

◆大学の教員に求めたいことは、大学の構成員＝教員ではないことを認識すべきである。また、教員＝教授・助教授でもない。事務教員や学生のことを考えて行動すべき。若手研究者の研究環境を考えるべき。（農，30歳代，男）

◆徹底して基礎研究にこだわっていただきたいと思います。何の意味があるのかわからないようなテーマを研究できるのは大学しかないと思いますから、そういう無駄を大切にしていただきたい。世間がいかに早急な結果を求めようとも、京大には自由な学問の場というものをなんとしてでも守り通してもらいたいと思います。（農，30歳代，男）

◆よく言われていることではあるが、先生方は、研究だけでなく、学生の教育をもっと重視してほしい。研究論文の数で評価される以上、研究に重点を置くのは仕方のないことかもしれないが、大学は教育機関であるということをもっと認識してほしい。特別な例かもしれないが、私は、研究室配属後の3年間（学部4回生の1年間と修士の2年間）、直接の指導教官である助教授から「教育・指導」といえるようなことをしてもらった記憶がない。教育・指導という重要な職務を修士課程や博士課程の学生に押しつけるような怠慢は許し難い。京都大学という大学に母校としての愛着はあるが、出身の研究室には何の恩も感じないし、愛着もない。そんな状況は悲しいと思う。（農, 30歳代, 女）

◆教養部において、岡山への博物館・美術館巡りの旅行があり、実際の古代遺物や美術品を目の前にしての先生のご説明には非常に感銘を受けました。現在でもこのような催しが行われているか不明ですが、担当される先生方の知識の豊富さ・熱意や、参加する学生の理解力・感受性の高さは京都大学ならではと思いますので、このような理系・文系を問わない体験学習を様々な分野で実施されると、幅広い人材の育成に役立つのではないかと考えます。（農, 30歳代）

◆企業の人事・採用担当に携わった経験から申し上げると、京都大学の学生は概してプレゼンテーションスキルやコミュニケーション力が他大学の学生に比して見劣りすることから、潜在的能力の高さは認められるものの、十分な評価がされにくいケースが見受けられる。 小手先のスキルを求めるものではないが、ビジネス基礎能力として前述のスキルは必須であり教養課程において十分にトレーニングをする機会を設けることを提案します。 具体的には、ディベートや即興スピーチ等のオーソドックスなものを繰り返し行うことが、スキルアップにつながると思います。（農, 30歳代, 男）

◆専門的なことは、時として、技術的であって、本質的でないことがある。大学では、まず教養過程にて、じっくりと基礎を充実してほしい。ベースとなる知識をきちんとマスターする過程は必須である。そして学問の本質とは何かを考えることが大切であると思う。実学も大切だが、柔軟な応用力をつけるためには、何度も組替えられた基礎知識が必要である。そして科目については、選択肢がある方がよいだろう。専門過程の高度化を実施するためにも、上記過程が必要であると思う。（農, 30歳代, 男）

◆理科系学部の卒業生には、より専門的な教育を行うべきである。自由と何もしないことの区別がはっきり区別できるような自由な学風をつくるべきである。（農, 30歳代）

◆ゴチャゴチャした構内が何とかなると嬉しいですね。あの混沌さが居心地よいという説もあるのですが。。。。（農, 30歳代, 男）

◆自由な学風もいいが、もう少しは厳しいほうがよい。（農, 30歳代, 男）

◆お金を外から取って来ないと研究できなくなるようなシステムにしては絶対にいけない。学問の自由が保証されるような財政基盤が必ず必要。行政や産業界に近過ぎすぎて、学者として重要な倫理を失っている大学人が多い。モラルハザードが起こっている。。京大は自由な立場で社会を正しい方向に導く義務がある。京都大学は、自由な学風を大切にすべきと考えるが、教授・助教授・助手の封建的階級社会が存在し、学問の発展を害している。教育・研究上は全て平等にせねば、益々世界との差が開くと思われる。教官自身が民主的討議を行っていない。教える側がこれでは、良い人材が育つはずが無い。（農, 40歳代, 男）

◆ビジネススクール・研究（性）室より専門性・分野を追求・指向する体制にするべき。（農, 40歳代, 男）

◆専門バカでもよいから日本の最高峰を維持していただきたい。京大は自由の気風といわれていますが、本当にそうなのか。人脈に支えられただけの名門大学ではなく、学問の内容で世界的に評価を受けられるようになってほしい。（農, 40歳代, 男）

◆・教育・研究を行うに十分とは言い難い施設の改善、教室ひとつとっても、マルチメディア対応の教室は、現在も大変少ないのでは？（農学部） ・キャンパスの手狭さ。 ・地域に開かれた大学。 ・全体として管理強化の方向にあり、憂慮している。（農, 40歳代, 男）

◆研究体制をサポートし、一流の研究を育てる。（農, 40歳代, 男）

◆問13の特徴項目①～⑥は、まさに京大の伝統的な美風であると思う。特に①の自由ということ、これを今後の京大にも期待したい。これがなくなれば、京大の存在価値がなくなるといって過言ではないと思う。（農, 40歳代, 男）

◆一方的（一方向）講義も知識を得るに有効な手段と考える。しかし知恵は学べない。知恵を得るには、相方何のレクチャーが必要だ。人文系ではゼミの形成が多く取られているが、自然系は研究室配属からである。しかも当時は四回生の途中からであり、わずか、半年余りである。少ない。スタッフが少なく、難しいと思うが、善処をお願いしたい。何故なら卒業後大学で学んだことをストレートに生かせる人はそれほど多くない。知識は後からでも自ら学べる。必要なのは思考方法であるからと考えるからである。なお、このようなアンケートを行うことは時代の流れとも感じるが、英断とも受け取っている。すみやかなパラダイムシフトを願う。（農, 40歳代, 男）

◆①大学の内部、周辺をもう少し美しくしてもらいたい（これはすぐに出来るはず）。②駐車場の整備（地下化等）。（農, 40歳代, 男）

◆今でも私の見方、考え方は学生時代を基盤にしたものです。軟弱になっていないだろうか、考え方の変化に居直りはないだろうか・・・等々、25年以上経た現在でも自問自答する事があります。その意味ではその当時の「大学」が私に与えてくれた「もの」は大きな存在として、私の人生の上にあります。期待する「大学」は決してノーベル賞を獲る大学でなく、あらゆる分野において自由な発想、独自性に裏打ちされた「行動的な大学」です。もう少しは問題意識を持った活動があってしかるべきと考えます。大学生の親としてもちろん子に主張していますが、現在の学校（おそらく社会～学校での連環）での流れ（いじめ、登校拒否、安易なドロップアウトetc.）を憂慮しています。日本を変革できうる拠点として「大学」を再構築して下さい。（農, 40歳代, 男）

◆今も余り変わらないでしょうが、キャンパスが狭く伸びやかな感じがなかった。農学部には演習林などもあるので、他学部の学生にも開放するとかして狭さを感じさせない工夫も必要だと思います。もちろんキャンパス自体が広がるのが最良ですが、現

在の場所に移転するのにしても財政上の問題はあると思いますが。改善すべき点としては、大学は学生を社会人として育てるという面をもっと重視すべきだと考えます。つまり単に学問を修得するための場ではなく、マナーの身に付いた一人の人間として学生を教育する修練の機会を与える場としても大学を位置付ける方が適していると思います（これは私が反省の上に立っての意見ですが）。（農, 40歳代, 男）

◆1. 日本を代表する大学として、日本のサイエンスを支えるべく研究重視の教育を行ってほしい。 2. 現行研究施設は極めてお粗末。建物を含め、研究施設の充実を図ってほしい。 3. 学生には、勉強してほしい。システムとして欧米のように進級を厳しく、厳格な試験を行って、勉学意志のない者は卒業させない。 4. イントラネットの整備。（農, 40歳代, 男）

◆現在の大学改革は方針に一貫性がなく、右往左往していると思う。確かに教養の先生が専門の先生に比べ評価が低かった等があったかと思うが、教養とすべて専門学部にするのは問題がある。教養では、教育専門の先生をおいて、もっと学生の教育、特に語学と基礎学問を充実すべきである。（農, 40歳代, 女）

◆企業に勤める立場から見て、京大は研究活動への注力がやや過度になっているように思われる。実業界での即戦力となり得る人材を供給するために、基本的なコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力にまでも配慮した教育機能を強化することを検討されてはいかがでしょう。（農, 40歳代, 男）

◆人生において最後（？）の自由な時間であったような気がします。出来るだけ自分の意志で自由に活動できる場であってほしいと思います。手取り足取りのお世話は、ええ加減にせなあかんのではと思っています。高校1年や2年で私立理系、国公立文系などと分けてしまわずに済むようなことを考えていただければと思います。（農, 40歳代, 男）

◆学外の、かつ企業に勤務する人間としては、いかに社会の進歩に直結する成果を大学に求めたいと思います。深く真理の追究をすることも重要ですが、一方で社会の進歩に直接つながる研究にも力を注いでほしいものと考えます。また、一部に見られる教室のBoss支配（言い換えれば老人支配）は排していただきたいと思います。「あの先生の顔を立てる」というのはscienceとは全く裏腹な前近代的思考だと考えます。（農, 40歳代, 男）

◆4年間の中で自分のテーマを模索し、そのために必要な知識を主体的に講義をいろいろ受けて卒業論文を作成する手法を検討願いたい。①これにより安易に3回生まで楽して4回生で論文を作成すればよい、ということもなくなり、主体性が発揮可能。②自分で悩むことが20歳前後には重要であり、4年間を1つのユニットとして活用することが大事。アルバイトの苦労が生きているというのは、数年間の経験が1つに結実しているから。（農, 40歳代, 男）

◆官の大学としての東大に拮抗する学問の府としての東大の校風を守ってほしい。権力に距離を置く自由な校風が大好きです。（農, 40歳代, 女）

◆大学の改変等大変な時期だと思います。京大はやはり帝に世界的な研究機関であってほしいものです。（農, 40歳代, 男）

◆卒業して、4半世紀も過ぎたので最近の事情は分かりませんが、大学からの情報発信が少ないように思います。かつては良きにつけ、悪しきにつけ色々な話題が大学から出てきたように思います。時々、大学に残った友人から聞く話は、教授間の覇権争いのような事ばかりで、民間では経営革新が進むなかで、旧態依然なのは大学だけで、これでは世間から取り残されてしまうと思います。もっとフロントランナーである気概を持って頂きたい。（農, 40歳代, 男）

◆上記それぞれのメニューが用意され、学生の意思により、選択し、自分の学問体系を主体的に形成することのできるヴァリエーションをもっていてほしい。（農, 40歳代, 男）

◆専門の勉強を進めて行き、研究もするようになると、ふとその内容や意義、意味を考えてみたくなったり、人間そのものや社会、宗教、思想等まで考えが及ぶような時があった。そんなとき、自分の学部や専門の枠を越えて授業や実習、実験、ゼミに参加できるような自由度があって助かった。当時教養課程は押しつけのように感じた。少しでも早く専門を深めることを希望し、早くから研究室にもぐり込んだりした（ゼミなどを通じて）。しかし、多くの考える時間をもらえた大学時代、単位不要の精神で教養も勉強させてもらえたと思っている。（農, 40歳代, 男）

◆京大の卒業生として、京大に期待することは、ぜひ基礎と自由な研究を重視して、世界に冠たる研究や、時流に阿ない着実な研究を進めていただきたいということです。また、これらの研究を将来担う人材の育成に努めていただきたいと思います。大変厳しい経済状態が続き、国立大学の独立行政法人化が進められ、研究費の効率的重点的配分が強く叫ばていますが、今こそ、基礎重視の自由な研究、時流に阿ねない着実な研究を推進することが、国立大学特に京都大学の使命であると考えます。これは、大げさに言えば国家百年の計を考えるに、重要なことであると考えます。また、このような学風を構築することにより、失われた十年や第二の敗戦とさえ言われた、1990年代の後を受け、新しい日本の社会システムを構築し、発展されることのできる人材が京大から育つと考えられます。（農, 40歳代, 男）

◆京都大学と地方大学の間に大きな格差を感じる。同じく研究を志す者として共通の基盤となるものを必要とします。人的、資金的基盤がこれ程違っていると我々の生き残っていく道は厳しい。これらの面で流動性を高めていくことが必要である。（農, 40歳代, 男）

◆京大の伝統の一つである自主・独立な学風は、個人の創造性にとって重要なので、これからも増々発展してもらいたい。また、実社会で要求されていることについて、もっと良く調査して、それに見合った授業形態を学んでいくことも必要。（農, 40歳代, 男）

◆自由、自立の校風を継続して頂くとともに、世界をリードする研究大学としての地位をより高めてほしいと思っています。また、卒業生（在学生）にエリート（社会的な責務を認識し、社会的貢献に打ち込む）としての自覚を高める教育も必要と思います。（農, 40歳代, 男）

◆・理論的な考え方、書き方（考える技術）について指導して下さい。・米国の大学院を経験しましたが、あのような厳しさが日本

にあってほしい。京都大学も、もっとdemandingでchallengingな場所であってほしい。（農, 40歳代, 男）
◆海外大学との友好関係を強化し、交換留学制度を充実したらもっと巾広い経験ができるでしょう。（農, 40歳代, 男）
◆・現在でも、大学の同窓会などに参加して感じることですが、良い意味での「Going My way！」が京大の気風の第一だと思います。若い研究者の方々が、自由に伸び伸びと研究に取り組める体制、環境の整備をお願いいたします。（農, 40歳代, 男）
◆期待に答えるよりも、大学が何をめざしているかを先に示して、自信を持って運営してほしい。時代を越えてよいものはよいのだから。（農, 40歳代, 女）
◆大学の講座制は大講座制になっても実質は何もわからないと聞いています。教官同士のコミュニケーションが活発になれば講座間同志（研究室同志）の共同研究等活発になると思う。それがひいては良い論文を出す原動力にもなると思います。まず講座の壁をくずして下さい。また特許意識を常に持ち続けないと困ります。出題費用は安く（21, 000円）明細書を書くのも少し慣れれば論文を書くより楽です。知的資産である特許を運用しない手はありません。外国の大学では大学に特許部があるというのに日本の一流大学ですら特許部が無いのはこれは異常な事態であると思います。（農, 40歳代, 男）
◆教育にかかわっている者として、「最近の子どもは勉強しなくなった。」というのは、かなり当っていると思います。しかし、その中にあって、ごく少数派の、「きちんと勉強する子供達」の中でも優秀な子達が、京大に進学しているのも事実だと思います。いい素材なのですから、大学に入ってからの教育法しだいで、いくらでも能力を発揮する人材に育てることは可能だと思います。「数学のできない大学生」とか、嘆いていないで、真剣に大学教育の方法を練り直していただきたいです。魅力ある教師が、魅力ある講義を行えば、必ず学生はひきつけられて来て『深く学びたい』という気持ちになるはずです。（農, 40歳代, 女）
◆地方大学で教育・研究の場にいますが、若い教官を採用する際にその能力は十分にあると思われるのに、業績が少なく採用できない場合があります。これは業績主義の悪い影響なのですが、現在、地方大学をはじめ大学全体として、そういう方向に進んでいます。ですから、研究者を目指す、MC、DCの人達に対し、ある程度業績を作るような指導が今後、より必要になると思われます。自由な学風は今後ともより重視していただきたいと思いますが（これは京大出身者の大きなアイデンティティだと思います）、ある程度は、（形式的にでも）業績主義を満たす様な条件づくりも必要だと思います。（農, 40歳代, 男）
◆1. グローバル化への対応； もとより世界的な視野に立った教育の場であった京大だが、急速に進展するグローバリズムに主体的に対応する人材育成が急務である。 2. 21世紀をリードする人材育成； 日本社会が明治維新以来の転換点に立っているとの認識に立ち、各界で活躍する人材を輩出する大学であり続けることを期待します。（農, 40歳代, 男）
◆社会に出て思うことであるが、「研究のための研究」が大学という聖域をバリアとして成されている嫌いがある。一部の研究者（大学のスタッフ）は、論文の「はじめに」が書けたら、その論文は半分仕上がったも同然という発言をする。これは、その研究の目的をデッチ上げるのに苦労するということに他ならない。悲しい現実である。農・工学部では、もう少し現実を見すえた研究をしてほしい。（農, 40歳代, 男）
◆学業は怠け続け部活動のみに専念した4年間でしたのでいばれたこともいえませんが、20数年前のことで印象に残っているのは、教養学部での東洋史学講座の期末試験、一行も回答すべき知識を持ち合わせていなかった私は手持ち無沙汰なので「設問はともかく・・・」と書き出し、その頃、国立博物館で観た安宅コレクション展（現大阪市東洋陶磁美術館）の感想をレポート用紙いっぱいに書いて出したところ、お顔・名前も覚えない先生は単位を許してくれました。母校について誇れるのはこんなことくらいですが、今もう既にどうかは知りませんが、できればこういう気風は残ってほしいと思ってます。（農, 40歳代）
◆「京都大学として」などと格好をつけることがいやらしい。「京都大学らしさ」は個々人が精一杯がんばった「結果」として蓄積されるものである。（農, 40歳代, 男）
◆・今はどうか知りませんが、卒業後の進路について、どんな道があるのか、先輩方の進んだ道を教えてほしかったです。（自分で情報を探すべきだったのかもしれませんが…。）・創造力は、専門的な講義や研究だけでは育たないと思います。という意味で、一般教養は大切にすべきと思います。（農, 40歳代, 女）
◆学部教育については、基礎学力を中心に幅広い教育が必要です。このため、余り専門分野に特化しないことが肝要です。実社会において本当に役立つのは、健全な教養であると思います。（農, 40歳代, 男）
◆大学で接することのできるOBは、教授をはじめ、大学に残った先生方ばかりですが、学生は全員が京大教授になるために、入学したわけではありませんし、それを希望したところで、ポストが限定されており、全員が大学の先生になれるわけではありません。しかしながら、先生方が講義の際に話される事は、学生をあたかも自分の後継者として、認識されている様なニュアンスが多く、そうでない者は本当は関係のない者なのだ、と言われている様な印象を受ける事もしばしばでした。大多数の者が外の社会へ、そしてその内でも多くの者が、民間企業へと出ていく運命にあることは、在学中にも明白であるので、そのことを想定した語りかけができなくては、教授としては充分とは言えないのではないでしょうか。教授になられた方々は、大学院博士過程まで進学することのできた、いわば特権階級的な方々が多く、そうでない者のことまで考えられないとしたら、他に進路専門の相談員をおくとか、企業に就職したOBからの情報に、学生が接する事ができるような、窓口をつくるべきだと思います。（農, 40歳代, 女）
◆ミニ東大に決してならないよう望みます。世間とは異なる価値観・世界観を持って、独自の研究を推進していただきたい。（農, 40歳代, 男）
◆同じ型の優秀な人材を育てるのではなく、個性的な人間を育てる場であってほしい。歴史に名を残す人を、数多く出す大学であってほしい。（農, 40歳代, 男）
◆①私は化学系の会社に勤めていますが、大学で化学合成といいながら、実はバイオをやっていた人が多く、会社としては化

学合成ができると思って採用しても、すぐに会社で化学合成ができる人が意外と少ないと思います。論文を書くには、化学合成とバイオと結びつけた研究をやる必要性があるのだとは思いますが、昔と比較すると、一般に化学合成の能力が全般的に低下しているのではないか、と感じています。化学は実験が大切なので、今後の教育のカリキュラムは、化学合成を強化してもらいたいと思います。企業は即戦力となる人を求めています。②私は博士課程までいきましたが、当時でも博士課程の人は修士、学士の人の指導までしていました。大学院に入った人には、奨学金（返さなくてもよい）を充実させ、その代わりに各講座で何らかの役割を果たす義務を課することを、各講座の教授の先生の判断で行ってもよいと思います。そのための資金として、もっと産学協同を押し進めてよいのではないでしょうか。企業は大学でできる研究は、大学にお願いするというのが、この頃の方針となっています。③特許などの知的財産権に関する法律の講義や、コンピューターの代表的ソフト（ワード・エクセル・パワーポイント等）を使いこなせるようになるセミナーなども、大学でのカリキュラムに導入されてもよいのではないでしょうか。（農, 40歳代, 男）

◆高度情報化はたったひとつの勝ち組と、その他のすべての負け組という図式を定着させてしまった。が、”サイエンス”は今やいち早く情報をキャッチして、次の到達点へたどり着く者の勝ち、という”ビジネス”に地位を奪われつつある。京大という大学は、日本で唯一真のサイエンスを追究できる基盤がまだ残っている大学と思う。これからも、これだけは失ってはいけないと思う。（農, 40歳代, 女）

◆国際創造融合センターが設立の趣旨どおりに、機能できることを期待するとともに、民間からの社会人大学への門戸をもっと開放してほしい。（農, 40歳代, 男）

◆基礎研究の重視。他を追うような研究ではない、独自の研究。（農, 40歳代, 男）

◆具体的なことは申し上げられませんが、伝統を守りつつも最先端の大学として存在してほしいと希望します。大学の危機管理と研究分野でのリーダーシップをとり、日本を代表する大学へとさらに発展していって頂きたいと願います。ノーベル賞受賞者の多くが京都大学出身者であるのは単なる偶然ではなく、必然性のあることがつい先日も証明されました。私は某私立大学に専任教員として在籍していますが、京都大学を離れ外部から見れば見るほどに京都大学の偉大さを実感します。こんなすばらしい大学に在学していた時代、あたりまえのように毎日を過ごし、たいした感激もないまま卒業してしまったことを後悔しています。在学中の学生には特に、従来以上のプライドを抱かせ、さらなる京都大学の恩恵を受けられるようなシステムを充実していってほしいと思います。（農, 40歳代, 男）

◆自由な気風は、研究の原点だと思います。これまでの気風を壊さぬようがんばって下さい。（農, 40歳代, 男）

◆我が国に“京都大学あり”と海外が認めるような個性のある独立性の高い大学を今以上、目指してほしい。（農, 40歳代, 男）

◆職業によると思われるが、専門分野について深く学べる場であるべきと考える。ただし、余りの専門バカでは、社会では通じないケースがあるため学習としての一般教養ではない一般教養を身につける場でもあるべきと考える。自由の学風は尊重しつつも一定学習に対する厳しさを学ぶ場にすべき。（農, 40歳代, 男）

◆従来どおり、自由な学風で、のびのびとした教育をお願いします。ノーベル賞受賞者が多いのもうれしいです。（農, 40歳代, 女）

◆近頃社会人になる層は指示待ちで、自ら工夫して動ける人が余りいない。結果は出せるが、それから自ら何をすべきか発想しない。自発的に動いていけるような物の考え方ができるような指導を望む。（農, 40歳代, 男）

◆自由、創造性の重視を軸にしつつ、国際社会でも確立した個を主張できる人材の育成に力を注いで頂きたい。そのための教養課程の充実と学部専門における理論（学術基礎）の重視がこれまで以上に充実させることが必要と考えられる。（農, 40歳代, 男）

◆京大卒業生は、当然の事ながら社会からは、京大生として、その能力、活躍が期待されている。それに対応する技術・知識を身のつける必要があり、その一つの方法としては、学会等での研究発表が有効と思われ、日々の勉学・研究を学会活動に結びつけていくべきと考えます。（農, 40歳代, 男）

◆自由な学風は変えないでほしい。突飛なこと、(パフォーマンス)をせず、基礎的な学力を持つ者を入学させ、地道に研究を進めてほしい。また政府、企業に同化せず(協同は必要だが)独自の道を進んでほしい。＊私は、不真面目な学生でしたので、反省しております。（農, 40歳代, 男）

◆今、京都大学が直面している課題について、十分な情報と問題意識が欠けていますので、適切な意見や指摘ができるかどうか、自身はありませんが、せっかくの機会でもあり、感想中心ではありますが、少し述べさて頂きたいと思います。大学時代は、本当に自由な雰囲気の中で学ぶことができたと思います。（20年も前ですから、今とは相当違うのかもしれませんが…）遊びも含め、したい時に集中的に取り組む。ゆとりというのか、余裕というのか、そういう中でこそ創造性のあることができるのかもしれません。知識と理屈中心で、頭のいいやつはT大学に任せておけばいいのではないでしょうか。政治や行政とは少し距離をおきながら、基礎的な学問分野でじっくり力をつけるというのが理想なのではないかと思います。ただ時代の流れや経済社会の動向には機敏でなければ、社会から見向きもされなくなります。経済界や産業界との連携の重要性が取り沙汰されていますが、これも社会のニーズを的確につかむ上で欠かせないものの一つだと思います。ただ、大学の学問や研究が何のために行われるのか、研究成果をどのように、また社会のどの分野に還元するのか、明確な目的意識をもたないと、大学教育や研究の存在意識が見失われてしまうことになると思います。そのために、是非とも、教育や研究についての開かれた評価システムを構築する必要があると思います。効果や効率性、手法や手段の妥当性、将来性等について、客観的な評価を行うシステムが必要だと思います。また、外部からの評価についても、配慮が必要です。閉鎖的なシステムは、独善に陥りやすく、硬直化が免れないと思うからです。（とても難しい点ですが…。）ところで、私自身はある地方公共団体に身を置いていますが、決して広

いとは言えない役所社会の中での京都大学出身者を見ると、個人的偏差を捨象したとして、一般的に言えることは、柔軟性とバランス感覚があるという点は指摘できると思います。一方で、弱点という点で見ると、（自分に当てはまるだけかもしれませんが）相対的に、基礎的知識力が弱いということでしょうか。社会に出て、環境に適応して課題に的確に対処できる力、応用力とでもいえる能力を身につけるためには、先ず基礎的な学問知識を習得することが必要です。基礎ができた上での応用力だからです。ただ、決して知識偏重を申し上げているわけではありません。受験や試験における能力でもありません。幅広い知識と的確な見解、つまり「見識」ということです。物事を正しく理解する力を兼ね備えていなければならないと思います。また、何事にも積極的な好奇心を養うことが大切ではないかと考えます。飽くなき好奇心は前進の原動力です。少し、パーソナリティの問題かもしれませんが、講義や演習の中での工夫で引き出せるのでは、と思います。少しとりとめのない話になってしまい、申し訳ありません。少しでも今回の参考になれば幸いです。（農, 40歳代, 男）

◆アメリカの影響ばかり受けている文部科学省の方針や、生き残りばかり考えて、真の学問、研究、教育を忘れている他の多くの大学に影響されず、基礎～応用まで、幅広く自由に研究できて、それらをお互いが認め合っている。大学であり続けてほしい。（農, 40歳代, 男）

◆私が学生生活を送っている時代は、まだ、学生運動がかなり残っていて、学内で学生がアジ演説をやっていました。いろんな問題を取り上げている中に、産学協同を批判する運動がありましたか？当時、私は学生の立場でそれを聞いていて疑問に思ったのは、大学の研究が企業の為に使われていることを、どうして批判する必要があるのかということです。最近では米国でのITの発展をみるまでもなく、大学（研究機関）と企業が手を結ぶことによる相乗効果は大いなるものがあります。国立大学は国民の税金で成り立っている以上、自由に何でも好きな研究をすればよいということでは、何も意味がありません。いかに今取り組んでいる研究が社会に貢献できるかを念頭において産学協同を進めていくのが、日本の将来の為になると思います。特に、中小企業は、資金面でも余裕がなく、大学の研究設備がとても魅力的であると思います。（農, 40歳代, 男）

◆このアンケートを受領してから、野依教授のノーベル賞受賞のニュースが飛び込んで来ました。本学卒業生として、嬉しいことではありますが、名大教授ということで少々残念な気持ちも否定出来ません。ノーベル賞など賞を受けることが全てではありませんが、今後とも自由で創造性のある学風を尊重し、母校が発展することを期待しております。（農, 40歳代, 男）

◆・問12の2で回答した点。・ドロ臭くて良いから、骨太の大学であってほしい。特に、今後、独立法人化は避けられないと思うが、京大のこれまで築いてこられた伝統精神を見失わないでほしい。・ただ、余りに社会と解離していないか。ハンセン病患者の治療に、社会の圧力を押しのけて心血を注がれた某先生のように、世間の注目は浴びなくても、本当に信念を貫いて何かをやり通す。そのような人材が多く育つ環境を作っていってほしい。（最先端のみが目指すべき研究目標ではないはず）・一方で、行政や産業との協同研究ももっと積極的に進めてはどうか。財源確保はともかく、外に触れることにより、新しい視点が生まれることもあるはず。（農, 40歳代, 男）

◆・人文、自然科学いずれにおいても、世界をリードする研究業績を継続して出していかれることを期待致します。・応用面より基礎に特化した研究を進めてほしいと思います。（農, 40歳代, 男）

◆自由な雰囲気を大切にして下さい。卒業後社会人10年目に筑波大学の大学院に行きましたが、管理のきつさに非常に違和感を覚えました。（農, 40歳代, 男）

◆京都という歴史ある街で、 4年間生活できたことがなによりよかったです。 50才に手が届くところに来て、歴史に対する興味が大きくなっています。 もっと京都にいた時、 歴史に触れておけばよかったと思っています。（農, 40歳代, 男）

◆今、京大は全く存在感がなくなっている。東大卒の官僚が次々に悪いことをしてニュースをにぎわしても、そのアンチ勢力として京大が話題にされることはない。化石のような○○先生が一人がんばってはるだけのような感じです。次代を担う者を排出できていない。それは、時代の変化に大学のあり方が対応できていないからではないかと思います。かつては、「俺の行き方は俺が決める」、「中央には尻尾をふらん」というような骨のある輩が自然と集まってきていた、だから大学は何もしないで放っておくのが一番でしたが、今の若者にはそんなことを期待しても無理です。良くも悪くも、ある程度方向付けしてやらないと次の行動に移れず、せっかくの能力も生かせず、成長する機会もなくしてしまうというのが、今の若者の現実です。敷居だけ高いお公家さんになっては、21世紀は生き残っていけません。「サービス業」として割り切って、一皮、二皮むけて、泥にまみれて、再び「さすが京大」といわれるようになる日を期待しています。誰でも受け入れて、その代わり課題をいっぱい与えて、こなせなければ次々落第・留年させるというようなありかたでもよいのではと思います。（農, 40歳代, 男）

◆高度な専門性と広い視野と国際性を兼ね備えた人材の育成を望む。　また、研究機関としての役割も今以上に発揮できるように、得意（特異な）分野を育成すべく今後の発展を期待する。（農, 40歳代, 男）

◆京都大学にしか無い「自由、自主独立」の学風が、これからも世界の秀才を集める魅力になります。決して東大の模倣をしないでいただきたい。 そして、安直に実践研究に手を出さずに、基礎研究に重点を置いて下さい。社会に出れば、基礎さえ出来ていれば応用研究は十分対応できます。（農, 40歳代, 男）

◆個人の将来の方向付け（現在もあると思われるが、決定すべき選択肢が何となくぼやっとしている様な気がする）となる様なカリキュラムがうまく組み入れられれば、良いと思われる。（農, 40歳代, 男）

◆文部科学省が提案した独立法人化の施策は、基礎研究の発展に大きなマイナスになると思います。日本の大学の中のリーダー的存在である京都大学は、毅然として、国の方針を正す姿勢を示してほしいと思います。（農, 40歳代, 男）

◆私が卒業して25年余の隔たりがあるのでなんともいえないが、京都という土地は慣れるまでには大変閉鎖的なところに思える。新しく京都大学に入学される学生・院生の方々の受け入れ態勢充実して、入学と同時に学業に専念できる環境を整備したらどうだろうか。（農, 40歳代, 男）

◆米国の様に、学部、大学院を異なる大学にすることも文化がマンネリしないためにも必要。また、社会人への門戸開放も必要と考えます。（農, 40歳代, 男）

◆学生を管理するという体制・体質がだんだん強くなってきているのではないか ？（農, 40歳代, 男）

◆小生、学部生の頃は京大の良いところの一つに独立性の尊重があると思っていた。しかし、研修員時代にいた某研究所の内側は、権力志向の強い教授が所長選を操り、研究所を意のままにし、その上本部と対立し、一部研究室の卒業生のみがその研究所の職員となり、自分と対立する教授及びその研究室を阻害するという実態を目の当たりに見て、京大にもこんな最低の所があったことに驚いたものである。ほんの一部の者だけに過ぎないと思うが、一部、学問よりも政治・権力好きの教授が暇に任せて妄想に取り付かれた結果、多くの良識ある人々に多大な迷惑をかけたのだ。（もっと驚きあきれたことがあったが、次元が低すぎて書く気にもならないし、本部でも有名なことであろう。）あんなことが平気で行われていたのは一つは相互理解がしにくい僻地にあったこと、教授になれば後は助手が働いてくれること、国家公務員は首になりにくいこと、京大の恥になること故、蓋をするしかないと良識ある先生方が判断されたことなどが挙げられる。 この様なことは京大でほとんど滅多に起こらないとは信じたいし、二度とあってはならないと考える故、以下の改善を期待したいです。 ・教授の評価制度（同僚、助教授、助手からの採点などで問題点を抽出し、何らかの方法で確認・評価できるようにする） ・助手の任期制を導入するらしいが、こんなことは教授から行うべきではないか。5年おき位に教授の様々な分野での業績を調査・評価し、業績の悪い教授は退官して頂くようにすれば如何か？実際は助手の働き次第であるが、その様な結果を招いた教授が責任をとるほうが筋であろう。 小生はなにも京大を告発するためにこんなことを書いている訳ではもちろん無く、友人も多く残っておりますし、尊敬すべき先生が多くおられ、京大を卒業したことを当然誇り思っています。 それだけに上記のことが腹立たしくてなりません。 ことが大きくなる前に、早いうちに手が打てるシステムを考えて下さい。（農, 40歳代, 男）

◆1. 昨今の大学院重点化でこれまで合格できなかったレベルの学生が入学していると聞きます。文部科学省に「院生定員の確保」などでこびることなく、厳しい選抜と精鋭の教育を行なうのが京都大学の社会的義務だと考えます。 2. 私は農学研究科の修了生ですが、改組を繰り返しても旧態依然とした学問の枠組みを維持しているように感じます。また、学生に人気のない講座・研究室も自己保存のため無理やり定員確保に努めているとも聞きます。学問や教育にダイナミズムを与えるには、発展している研究室や分野に多くのスペースや定員を割いてもいいと考えます。なお、現在の時点で人気のない分野でも、学問の継続性と未来において必要になることを想定して廃止することなく存続する配慮も必要かと思います。 3. 教授を含め5年～10年の任期を設け外部評価や業績評価にかける必要を感じます（自らに厳しくなければ改善など小手先でしょう）。 4. 助教授・助手はもっと短い任期とし、全国を転勤させることも大学の発展に寄与しませんか？（農, 40歳代, 男）

◆研究者として特に実践的かつ総合的知識を備えた人材育成。（農, 40歳代）

◆卒業生に開かれた大学。卒業生の図書館利用をオープンに。卒業生が利用できるクラブハウス開設。（京大会館の拡充か？）（農, 40歳代）

◆自然科学で考じ、また大学に残っている仲間の話と外から見た感じから思うに、(1)社会の進歩を先取りして指導的研究をしている。また水平展開をしている（学生に教えるetc。）。(2)安住の場所として栄々と優雅に保身をしている。前記(1)(2)両方に分かれているように思う。大学自ら私立のごとく各部評価部門があってもよい（ムダの削除）。また、組織が肥大化している。私立は教授は、ほんとに研究し、政治的、保身的奥院に住わることはせず、行動も研究に専念できるようにしている。体制が組織に中心を置いていることは、見直すべきと思う。私学は頑張っている。見本になる。（農, 50歳代, 男）

◆学部教育：演習実践が少なかったため増やすということで、ベースは講義であり、講義を軽視することはあり得ない。6年一貫教育として、2年間の教養教育、2年間の専門基礎、2年間の研究重視教育を見直す。そうすると2年間の教養教育の充実が必要。現状では手抜きになっている。 修士課程教育：研究中心だが、教官が少しづつ講義に慣れ充実してきている。大学院修士は現状問題は少ないと考えている。（農, 50歳代, 男）

◆京大ばかりじゃ無いですが、最近の大学の学部、学科の呼称が昔と随分違って今風に変えられてきています。私たち昔の卒業生は、自分の卒業した古巣が無くなった様で、もう一つピンときません。学問と学問の垣根が無くなってきたとか色々理由があるのでしょうが、単に一般受け、時代の流行の為だけにならないように、少なくともその名称を聞いて、どういう学部、学科かが解るような改称を期待します。（農, 50歳代, 男）

◆1. 大学関係者は、企業人と大いに交わることが望ましい：大学は企業に教えるという立場でなく同一の立場で共に相手の役に立つという共存の考え方が必要である。一方的に考えると、立場では知識的にも人間的にも孤立する。 2. 研究形式の授業の充実：入学時より研究形式（ゼミ）を取り入れた授業を行い、考える力をつけるとともに評価制度を設ける。現行では大学生は時間的余裕がありすぎる。課題を与えて大学で学問を行ったと感じられるカリキュラムが必要である。 3. 基礎研究の充実：基礎研究は比較的少人数で行いやすいので大学には適切である。研究者への報酬として特許料還元が考えられる。大学または全国的組織として特許審査・出願機関を持ち、ここで一括審査・出願・権利化して実用化時は発明者に還元する方法である。大学での研究成果が権利的に保護されていないと日本は国際化に十分対応できない。（農, 50歳代, 男）

◆・幅広い基礎知識を身に付けさせる。 ・英語教育の強化（実践的）。 ・1専門分野について、国際的に第一線級の知識・技術を身に付けさせること。 ・自由・放任の時代は既に時代遅れである。 幅広い教育を受けたことは、現在の財産である。しかし大学院時代の放任は意味を持たない。京大出身という誇りが現在のモチベーションの一つになっていることは事実。しかし、もっと能力を大学院時代に引き出せたのではないか？（ポスドク6人、大学院の学生25人、学部学生5人を持つ研究職、教育職に勤務）（農, 50歳代, 男）

◆教養とバランス感覚を持って人材を輩出して下さい。（農, 50歳代, 男）

◆最近の学生は個性が無くなっている。個性を伸ばす教育。社会、政治の出来事にもっと関心を持つ学生づくり。物事の全体を捉えられる視野の広い人材を。（農, 50歳代, 男）

◆ビジネススクールではないので、実社会で直接役立つものである必要はないが、研究者が一般社会とかけ離れているとすれば問題があると思われます。研究は客観的に評価できるものではないとしても、社会に対し、説明責任は果たすべきでしょう。（農, 50歳代, 男）

◆学術基礎教育が充実することが前提だが、実社会での実態を知る機会を多く作るべき。それには、現役の実務者（経営者を含め）を大学に教官として招き、学生に「理論と実社会の整合」を自ら考え、まとめる機会を与えるべき。今、大学での講義内容はよく分からないが、実務での発生現象や要因分析をもっと取り入れるべきと考えます。（農, 50歳代, 男）

◆余り勉強しなかった方ですが、卒業出来たことを誇りに思っています。京大生は個性が強いが、逆に個に埋没するタイプが多いような気がします。もって経済・政治等一線で活躍できる人材となるような教育をお願いします。（農, 50歳代, 男）

◆共通試験などとは絶縁し、真に学問を目指す人材を選別できるような入試制度を構築すべき。教員も京都大学が輩出すべき人材をいかに育てるかという任務意識で教育に当たられたい。（農, 50歳代, 男）

◆高齢社会の進展に伴い、社会人、退職者が再度大学で学びたいと思ったとき、大学の敷居は余りに高いと思う。学ぶ意欲のある者に対して、特に高齢者について別枠を設けてほしい。また、近頃「飛び級」を採用している大学が出て来ているが、理数系で特に優れた学生であれば、高1、高2でも入学させてはどうか。また、帰国子女などで数カ国語を自由にあやつれる一方で日本の教育制度に馴染めないでいる子供がいるようである。こういった能力に光を当てることも必要であると考える。（農, 50歳代, 男）

◆☆社会の進むべき道を考えられる人材を養成すべき。だんだん、社会の流れに流される人を作ってはないか？☆研究面で基礎からの見直しのできる研究者を養成すべき。基礎的な事がらの中から新しい発見があるので。☆室社会の産業、特に一次産業に目を向け、その中から研究テーマを選べるような人材を養成すべき。（研究者として）以上問題点ではないが、たえず学生に心がけさせるべきことを考える。☆自由はよいことであるが放任になると良くない。（農, 50歳代, 男）

◆理科系に対して、国語のなかでも作文、とくに「科学日本語の書き方」の必修課目科と添削指導を望みます。このことは、研究意識の明瞭化にも結びつくと考えられます。理科系は就職しますと研究報告書やら特許明細書や技術説明書など文書を作成することが増加します。一方、多くの企業は、新入社員の国語力の向上と矯正のために多大な労力を費しています。英語学習の以前に国語をとり入れていただきたいものです。（農, 50歳代, 男）

◆小生の場合農業土木科を専攻、民間建設会社の現場管理として従事したが、学業と実際とのギャップの差が激しく、理論的な思考でカバーするようになったのは主任就任以後であった。（農, 50歳代, 男）

◆学生に対する進路指導を専門家チームで実施する。学究あるいは応用実践といった区分を本人の意思とコンサルティングで、本人のベストとなる方向づけを行なってほしい。（農, 50歳代, 男）

◆最近、全国の国公立大学のそれぞれの特徴が薄れ、画一化してきているように思います。生物の多様性が重要なのと同じように学問・教育の世界でも様々な方針を持った研究・教育機関が必要と思います。大学の評価が卒業生の平均的な活躍の度合いで測られることの無いよう希望します。京都大学の以前からの自由・独自性を尊重した学風を今後も守っていってほしいと思います。（農, 50歳代, 男）

◆・学問的な成果をあらゆる機会を使って情報発信すること。特にマスメディアに対する発信はローカル都市京都である故に意識的にする必要がある。・政策（国・地方）の場に積極的に提言（案）すること。（農, 50歳代, 男）

◆・文部科学者の線上ではなく、グローバルベースでの教育基盤に基づいた、教育体系確立を期待する。・専門性と国際性の両面での掘り下げができる教育。（農, 50歳代, 男）

◆ニューフロンティアを開拓する意欲と気概を育てる教育自主・独立心を育てる教育独尊におちいらない協調・調和性も大切にする教育。（農, 50歳代, 男）

◆人間性も向上する教官育成も必要。社会に貢献出来る人間養成高い学力、実践も必要。基礎学力から応用（専門・実践）へ。但し、根生がひん曲ると良くない（農, 50歳代, 男）

◆大学の先生方が教育と研究に専念できるような状況を作ることが重要。昨今、独立行政法人化や少子化に伴う若者数が減少などを受けて、改革のために先生方が大きな労力をさいているように思う。こんなことが続くと大学の活力は確実に低下する。先生方が雑用にあけくれしないことを切に望む。（農, 50歳代, 男）

◆最近の学風はわからないが基本的な自治、自由、独立性を忘れない大学のままであってほしい。（農, 50歳代, 男）

◆研究・教育の水準を維持向上させるため、教官人事は教授を含め、”純血主義”にこだわることなく、内外から有能な人材を集めていただきたいと思います。この傾向は米国の一流大学でも特徴的なのではないでしょうか。（私事ながら、自分は京大卒業後、ペンシルベニア大ウォートン校にてMBAを修得した者です。）（農, 50歳代, 男）

◆実社会では大学で学んだことが役立つわけではなく、一から勉強することになるのでスペシャリストの養成は不必要。むしろ大学ではゼネラリスト養成に力を注ぐべきだと思うしそのためには、文科系・理科系を問わず ①世界史、特に現代史 ②コミュニケーションツールとしての外国語 ③自分の考えをまとめてディベートする能力 ④他人の意見を聴いて理解する力 ⑤サークル活動やアルバイトに単位を与える ⑥他学部や他大学との交流 ⑦一般教養 ⑧コンピューターに使われない人間の育成 、を重視した教育を期待している。（農, 50歳代, 男）

◆たまたま、今年長男が農学部受験という事になり、あらためて過去10年位の入学試験等を調べました所、農学部の学科がまた前のように分かれたという事で、何となく釈然としないものを感じております。どういう形が良いのかわかりませんが、受験生を

持つ親としては、余り変えないでほしいという気持になりました。又、最近、一般にも門戸を開くとか、すそ野を広げるなどの話題もあるようですが、古い考え方でしょうか、京大は昔の京大であるという形は余りくずしてほしくないなと感じています。（農, 50歳代, 男）

◆京大の学生は能力を持ちながら卒後会社に入った時に（自分もサラリーマンをしたが）大学よりのサポートが少ない。東大と肩を並べるべきが教官の地方性（ローカル性）が目立ち中央において大学や教官の発言が余りにもローカル色が目立つ。良い建学の精神を持ちながら（素質も）卒後の教育にも大学が積極的な指針を出せる存在になってほしい。（農, 50歳代, 男）

◆①大学の理念を常に掘り下げ、新しい時代に積極的に適応していくこと。 ②国家より教育権の独立をめざすリーダー的存在たれ。 ③学生として社会に甘え過ぎのものがあった。自らを律する人材を育ててほしい。 ④学生と教授。職員等の交流をもっと活発に。 ⑤卒業生の地方活動も活発に。（農, 50歳代, 男）

◆①京都大学の学生は、社会で生活する場合の基本的なマナー、礼儀や行動に欠けるきらいがあるので、こうした教育を施す必要があるのではないか。②京都大学の教官には、外国人が少なく、国際的な感覚を養うのに不利である。もっと幅広く外国人を登用すべきと思う。③京都大学のキャンパスは、他大学に比べて、決して美しいと言えない。校舎の内外共に、もっと美しい教育環境にした方がよい。④京都大学の学生は、社会に出てからも卒業生同士、協力し合うことが少なく、孤立することが多いように思う。もっと協力し合う雰囲気を作った方がよい。⑤欧米に比べて、学部教育はとても甘い。もっと厳しく教育をしないと、欧米に遅れてしまう。卒業できない学生がもっといてもいいと思う。（農, 50歳代, 男）

◆大学は専門学校とは違い、学問が社会の中で存在する事を意識してあるべきもので、職業訓練としての学校ではない。社会に役立つ学問は、どんなものかを多くの人の中に意識しながら、学問が出来る事が良いと思う。（農, 50歳代, 男）

◆学科の名称などを安易に変えすぎているように思う。本当に新しいビジョンの元にならないけれど、国の予算獲得に対する迎合に過ぎないように思う。会議に明け暮れるような教員ではなく、もっと研究活動に邁進する教員が多く出てほしい。（農, 50歳代, 男）

◆一般教養科目・専門科目ともに、大切と思いますので、なるべく多く受ける方が良いと思いました。語学は大切です。英・独会話も必要です。卒業生が大学内、図書館等に自由に使えるようにして下さい。（農, 50歳代, 男）

◆卒業して早30年を経過して、今自らの子弟の大学生活を横に見ながら感じることであるが、現在の大学教育のあるべき姿と、当事者である学生自身のイメージする学生生活に、大きな隔たりを感じる。これは京都大学に限らないが、とにかく一段高いレベルの人間への醸成へと考える立場と、社会人に押し出される前の予遊期間としての、学生生活のとらえ方の差は、なんとかならないものだろうか。大人が社会がこうした、責任はそこにあるとは言え、かって「京都大学は良い意味で、市民社会全体が学生を尊重し、又学生もそれに見合った、自覚した行動をとっていた。」というパターンを重視し、こういった伝統を復活した大学になってほしいと思う。又、大学院、研究室に関しては、より専門領域の水準を深め、世界をリードする成果を期待する。その為には、自由な革新的なテーマ運営、人事交流も判断しなければならないし、それが又学部学生を含め、若い人々の活性化にもつながる。（農, 50歳代, 男）

◆『気づきと問題点、課題発見能力、及び、問題点に対しての各自の考えを言える能力』の育成を期待します。（教養、専門を通じて）（農, 50歳代, 男）

◆昭和40年代の学生運動の華やかれし頃に在学した私共にとって、大学の自治とか、自由とか言われて、京大でそれを十分実感できたと思います。ただ、あのような経験が大学においてどのように検証され、改善につながっていったのかということを良く知りません。検証し、明らかになされていればとても有意義なものと思われます。ここで述べることは、まず大学とはどうあるべきかということが前提にあって、それから京大は何をめざそうかという順序になると思います。経済的に中間所得者層が増加したからかもしれませんが、今頃は大学も大衆化されつつあるというのか、それは門戸が拡がり、機会が均しくなって良いことなのでしょうが、逆にそれならば卒業は難しいということが同時に起きてきても良いのではないかと思うのです。外国の大学をさほど知りませんが、その傾向があると聞きます。又、大学（一般の学校も含む）も社会の歯車の一部であることを十分認識し、驕り高ぶることなく最終的に社会の健全な発達に寄与すべきものと考えます。たとえば利益追求は問題外ですが、理工系の研究についてもこの研究は、社会のこういうところで役立つことになったというようなことを、筋道立てて公開し、PRしていくことが必要ではないでしょうか。文科系の先生方もマスメディアで活躍されていますが、関東の大学の先生方に比べると少し歯切れが悪いと思います。日本の政治経済の比重の違いもありますが、もっと関西の視点を入れて堂々発言願いたいものと思います。その点、今回ノーベル賞を受けられた野依教授は京大に縁りが有りますが受賞直後から、教育なり、研究なりに歯に衣をきせぬ発言をされており、感銘を与えていると思います。少し長期的な話かもしれませんが、日本は明治以来の官学ということがありますが、自立の精神からすると各家庭が豊かになれば自己負担での子供の教育を受けることが自然な姿なのだと思いますし、独立法人化でしたか、そう言う話が出ているのはないかと考えております。（農, 50歳代, 男）

◆私は京都大学の卒業生として誇りを持っています。京大生は、全体として茫洋とした人が多く、不思議な魅力をもった人が多くいます。このことは、京都大学の自由、独創的な学風に依るものと思います。混沌とした現代を打開する、真の賢明で豊かで有為な人材が京都大学から輩出することを願います。又、その土壌は京大にはあると思います。昨今、国立大学の再編などの動きがある中で京大の良き伝統と学風を守り続ける努力と熱意を尚、一層期待いたします。（農, 50歳代, 男）

◆京都大学としてこれまで培ってきた学風を引き続きすばらしい伝統として引き継いでほしい。また、あらゆる分野で日本を引っ張っていけるような人材の育成に努めてほしい。特に研究部門ばかりでなくMBA養成のような課程の充実も望まれる。（農, 50歳代, 男）

◆自由な学風で、学部を超えて、広く学べたことを恩恵としています。今後もこうした学風を持続してもらいたい。気になることは、

官学の癒着です。各分野で学問の独立性を示してほしい。（農，50歳代，男）

◆・問14，15等の回答は、学部・学科・研究室によって違ってくると思われる。自分は自然科学系（農学系など）の立場で回答した。・自分は県の試験場の研究職として勤務している。県の試験場の場合は、地域の中小企業に即使ってもらえる技術開発（確立）が中心となる。従って大学とりわけ京大の農・工学部等においては、主として実用化の基礎になる研究とその理論付けに力を入れてほしい。（純粋な基礎研究も必要）また、研究内容としては現実的なもののみでなく、20～30年先を見すえたものも対象にしてほしい。（先見性も持ってほしい）・研究室に分属してからは、きびしく鍛えられた。そこで身につけさせてもらった基礎的な姿勢が、実務でも役立っている。他の大学、大学院の出身者と触れる機会が多いが、出身の研究室の雰囲気（研究に取り組む姿勢等）がその研究者の将来に大きく影響しているように思われる。ぜひ、今後とも研究室の雰囲気を大切にしていただきたい。（農，50歳代，男）

◆⑴大学として、研究を重視し、教育を軽視する傾向があることは、問題である。特に人文社会科学系の大学院レベルでは、この問題が深刻である。　⑵大学の研究政策として基礎研究と応用研究、短期的研究と中・長期的研究のバランスは不可欠である。最近の国立大学の独立法人化の議論の中では、短期的な視野からの効率性に基づく議論がみられるが日本の学術の中核的大学として機能する為には、基本研究、長期的研究などを重視することは不可欠である。　⑶国立大学である為、財政基盤を自らつくり出すという指向性がきわめて弱く、政府など外部から与えられるものとしての指向性が強く、そのことが、そのまま大学の改革姿勢に反映している。つまり、与えられた限られた財源の中でどす発達するかを考える為、学問的なあり方から発展策を考えるのではなく、テリトリーを拡大する縄張りあらそいのレベルに陥っている傾向がみられる。　⑷大学の研究および教育の実たいを外部により定期的にチェックするシステムを導入するべきである。この外部評価には、学会以外の分野や国外から人材を集めることを前提とする。（農，50歳代，男）

◆共通一次試験やセンター試験制度の導入後、それまで京大の学生を表現する言葉として用いられてきた独創性や独立権を尊重する気風は急速に失われつつあり。きわめて均質かつ平均的な学生像になりつつあり。特に東大との気風の差はなくなりつつある。この傾向は若手教官にまで及んでいる。（農，50歳代，男）

◆業績至上主義の世の中、京大はせめてこのような風調に染まらずにいてほしいです。（農，50歳代，男）

◆今後も「自由の学風」「創造性の尊重」……を維持して頂きたい。（農，50歳代，男）

◆・学生の興味を引くような動機付け　学生に対して「これをやると面白いよ」と興味を引くようなメニュー（エッセンス）を提示することが必要だ。そのためには、新しい最先端の研究を分かりやすく学生に示せるようなPR活動は研究者（教授他）に求められていると思う。　（農，50歳代，男）

◆具体的にメリットの有無を問われると確信できないが、自由・独立の校風は残されるべきと思う。即効性の問題ではなくて、長期・大局的にみて、結果として乏しいということになる。（農，60歳以上，男）

人間・環境学学研究科

◆サークル活動のスペースについて。私の在学中は、合唱団の練習できる場所がなくて、困っていました。その後も「オーケストラが困っている」とか「自主ゼミに部屋を提供して下さった先生の異動で、自主ゼミ用の部屋がなくなった」とかいう話も聞きました。現在はどんな状況か存じませんが、学生の自主的な活動ができる環境が、なくならないよう願っています。（人・環，30歳代，女）

エネルギー科学研究科

◆①体育会のクラブ活動の衰退の原因を究明し、危機を救ってほしい。（原因の根は深く、小中高教育や社会情勢にあるのかもしれませんが）②学部時代に、学生同志で相互に助け合ったり、支えあったりできるような環境作り。③比較的年代の近い社会人との積極的な交流。機械学科では始められていてとても良いと思います。私も参加させて頂きました。企業側の努力も必要だと思います。④工学部の入学時に学科を細かく分ける。進振りをしない。（問12の理由）⑤国公立大学には税金をたくさん使ってよいと思います。そのためなら少し多めに払っても納得する。私立なみに授業料が上がっているのは反対です。企業と同じ価値感で教育や研究をするのも反対です。⑥京大に入学できる程学力と根気を持っている若者に伸び伸び学生生活を送ってほしい。就職も問題ないし。⑦協力（？）します。（エネ科，30歳代，男）

アジア・アフリカ地域研究研究科

◆・自由の学風、自主性の尊重は今後も守ってほしい。　・その一方で、語学や数学、コンピューター等大半の者が就職していく中で必須とされるものは、ある程度ハイレベルにまで徹底的に教育する必要があるのではないか。（ア・ア，30歳代，男）

◆社会人を受け入れる大学院の充実：駅近辺のキャンパスの開講（特に大阪）。専門性の高い教育内容。インターネットを使用して講義を受講し、単位が取得できるようにする（特に社会人向けの専門性、実用性に富んだ講義）。（20歳代，女）

◆ややもすると自由すぎるきらいが有ると思います。自主的は良いが海外をしばし眺めるのも必要と思います。開かれた研究室、ゼミ、大学を望みます。存在意義と常に問いかける様な姿勢での運営を臨みます。（30歳代，男）

◆・事務員の不親切、傲慢な態度。改めるべき。私学じゃクビだよ！特に農学部!!　・卒業生に誇りを感じさせてほしい。　・学部卒業生で仕事についている人々に対し、社会人大学院の設置を。　・経営に危機を感じている私学は必死で学生サービスの努力をしている。京大はその問題意識がないのでは？学生は顧客。ゆえにマーケティングが必要！　・私は学部卒業生として

大学院について事務室に問い合わせたが、非常に不親切な態度だった。事務室は「大学の顔」。是非改革を！ ・卒業生への学校設備利用の便宜を図ってほしい（図書館など）。（40歳代, 男）

◆私の卒業した学部の教官は概してレベルが低かった。彼らから高度な知識を得ることはできなかったし、学問・科学の仕方も教えてもらえなかったし、科学の面白さも彼らからおそわったものではなかった。そのようなレベルの低い教官が大学にいすわっている限り、優秀な研究者を育て上げることは困難である。優秀な教官を採用する方策、無能な教官を追放するための制度を作る必要がある。国家公務員法のしばりがあるから困難かもしれない。しかし一般の社会では、業績の悪い場合に降格、降給、ひどい場合にはクビはあたり前である。大学ではそのような世間の常識が通用しないのか。（40歳代, 男）

◆教育の成果に何を求めるか。専門的知識を充分に保有したその道のプロになるべき人材の形式（研究者タイプ）あるいはバランス感覚に富んだ、幅広い知識を保有した社会対応性の高い人材の形成か。いろいろなタイプの学生が、いろいろなタイプの人材形成を目差すわけであり、学生の間に選択が決定されるわけではないもののかなりその筋道が写し出されるように思われる。社会に出て働くことの経験が無い学生にとって、実社会の業務について体験することは、大きな財産となるのではないかと思う。その意味で課外学習は有益と思う。（40歳代, 男）

◆京大の研究者がノーベル賞等を取ると創造性や独創性があるなどといわれるがすべての学部、学科でそうであるとは思えない。（40歳代, 男）

◆親日派で来た留学生を反日派にして帰すような、まずい教育が行われたことがあったと聞く。このようなことが無いように。多くの留学生を優秀な社会人として、指導者として母国に帰してやってほしい。（50歳代, 男）

◆1. 独立・自由な学風の涵養が第一ながら、最高学府として高度な専門性と深遠な哲理を究めうる環境を築くことを望む。 2. 教育といい、学問といい、それ自体で完結させることなく、現実に対し開かれており、批判を受け入れ得るものではなくてはならない。 3. 孤高に陥ることなく現実に堕することなく、人間性に立脚した社会への貢献を目標とする教育を期待します。（50歳代, 男）

◆・組織が肥大化して、硬直が見られる。・同期の学部卒業生、さーくるの友人達の境遇（現在の）をかえりみると、60年代後半から70年代初頭における京都大学の教育は彼らに取ってどのような意味があったのかを問うことは、解答のない問題を解くことである。 ・上記の解答（一時的な）としては、入試をクリアして能力（偏差値）では高い人間が出合う環境であったが、必ずしも大学から体系的な教育（役に立つ）を受けたとは思えない。ある者は、自らの力で、成功し、ある者は逆境の中にある。 ・結局、大学の使命は有能な人材が集う場を維持することにあると思う。その意味で、最近の入試制度の多様化により、基本的な学力に問題のあるような学生を受け入れる体制の変化は嘆かわしい。 ・一部の要求に迎合し、大学としての水準を落としめる行為は、京都大学の伝統を著しく傷つけるものである。（50歳代, 男）

◆京都を離れ25年経ちますが、最近京都大学のポテンシャルが落ちている様に感じます。大学改革への提案、基礎研究の充実、社会への提案、人材の育成等々、一層の発展を期待しています。（50歳代, 男）

◆政経も必要だと思う。産学合同面が薄らいできているのではないでしょうか。私学に負けている点を反省すべきだと思う。愚才にて許されたし。（50歳代, 男）

◆京都大学卒業の”カタガキ”は役に立たない。在学生も卒業生も一度は忘れること。私自身恩恵を受けたとは思っているが…。（50歳代, 男）

◆・自由な学風を堅持する。・優秀なスタッフ・学生を国内外から積極的に集める。・効率を重視する風潮に染まりすぎると京大の良さが失われる。一方無視すると、治力が失われる。・京都という土地を大切にする。（50歳代, 男）

◆自由の気風、創造性の尊重、独立性の尊重、研究の重視、国際性の重視は大学の方針として堅持してほしい。大学人は広い識見をまって研究に勤しみ、学生におもねるのではなく、刺激すべきである。（60歳以上, 男）

◆何もありません。なくなっても、社会には全く影響はないと考えます。他大学がバカにされるような教授を選ぶ教授会がなさけない、と日々感じます。いつまでも50年前のことを語っているのか。（女）

◆1. 必要不可欠の教養科目とそれぞれの学生の専門に応じて高等学校教育の復習とそれらと連続する専門を取り巻く基礎分野の大学教育を行うこと。 2. 学部学生の卒業、院生の修了認定を厳しく実施すること。 3. 教官の採用、昇進を儀式的、閉鎖的な教授会や委員会で行わないこと。また、専攻理由を公開すること。 4. 専攻、学部、研究科間の教育、研究、人事的障壁を取り除く努力をすること。

◆京都大学、わたしが勤務した大学、勤務している大学、すべての国立大学で共通していえることですが、教養教育が行われる講義室は大変汚く、メンテナンスも手薄です。 A号館の黒板は3分の1程度は、ポスターが張ってあったり、それをはがしやすくするために ニスでコーティングされてたりしました。こんな講義室は日本国中、京大だけです。 大学に入学して初めて受ける講義が、あのように汚い講義室というのは、いかがなものかと思います。　教養1年のころ廊下で撲殺事件がありました。人が殺されて血を流して倒れていても、 淡々と授業を進めるという学風には大変印象が残りました。大学の治安向上はやはり重要だと思います。　大学院時代には、倫理的にお手本とはならない教授がいらっしゃいました。最近、学会でお見受けしたときもあいかわらず若い愛人を連れ歩いていらっしゃいました。 教育公務員特例法の保護下にある地位なので、刑事事件を起こさない限りは、処分の対象とはならないわけですし、教授に昇進してしまった後では、人事移動は全くないわけですから、一般企業と比較すると倫理的水準の向上は望むべくもないわけです。 し （以下、不明）

京都大学卒業生アンケート（本文）

京大総企評第７６号
平成１３年9月２１日

京都大学卒業生　各位

京都大学大学評価委員会
自己点検・評価等専門委員会
委員長　丸　山　正　樹

自己点検・評価等専門委員会
「教育･研究と社会」作業部会
主査　北　村　隆　行

京都大学自己点検・評価を実施するに当たって
アンケートのご依頼

拝啓　平素より，卒業生のみなさまにおかれましては，京都大学の教育・研究に対して多大なるご理解とご協力をいただき，有り難うございます。

本学では，21 世紀における大学の改革・発展を目指し，教育・研究・運営の全般にわたって自己点検・評価を実施して，社会的貢献をはかるとともに，情報の開示に努めております。本年度は，『教育・研究と社会』に重点をおき，社会との連携について自己点検・評価を行っております。この件に関しまして，卒業生のみなさまからご意見を賜りたく，アンケートを用意いたしました。

大変お忙しいところ恐縮ですが，アンケートにご回答いただき，同封の返信用封筒にてご返送いただきますよう，お願い申し上げます。

また，Web サイト（http://www.adm.kyoto-u.ac.jp/kikaku/sotuan/）においてもご回答いただけます。（ご回答期限：平成 13 年 10 月 19 日）

なお，アンケートは，自己点検・評価の目的以外に使用することはございません。また，個人が特定できる形での公表はいたしません。

いただきましたご回答をもとに，今後，京都大学における教育・研究の改善を図り，社会に貢献してまいりたいと考えております。ご協力のほど，よろしくお願いいたします。

敬具

ご返送先・お問い合わせ先
〒606-8501　京都市左京区吉田本町
京都大学総務部企画課大学評価掛
TEL:075-753-2088　FAX:075-753-2089

京都大学卒業生アンケート

以下の設問についてお答え下さい。このアンケート用紙に直接ご記入いただき、選択技のある設問については、番号に〇を附して下さい。

なお、Web サイト（http://www.adm.kyoto-u.ac.jp/kikaku/sotuan/）でもご回答いただけますので、ご利用下さい。

年　　齢： ［　　］歳　　**性　　別：** ① 男　② 女

学　　位： ① 学士　② 修士　③ 博士

卒業学部・研究科： ① 総合人間学部　② 文学部・文学研究科　③ 教育学部・教育学研究科
④ 法学部・法学研究科　⑤ 経済学部・経済学研究科　⑥ 理学部・理学研究科
⑦ 医学部・医学研究科　⑧ 薬学部・薬学研究科　⑨ 工学部・工学研究科
⑩ 農学部・農学研究科　⑪ 人間・環境学研究科　⑫ エネルギー科学研究科
⑬ アジア・アフリカ地域研究研究科　⑭ 情報学研究科　⑮ 生命科学研究科

学部卒業年：１９［　　］年　**修士修了年**：１９［　　］年　**博士取得年**：１９［　　］年
（**研究指導認定退学年**：１９［　　］年）

Ⅰ．学生生活についてお答え下さい。

問 1 学部の講義では、一般教育科目と専門科目のどちらを熱心に学びましたか。

一般教育科目 ←→ 両方 ←→ 専門教育科目
① ② ③ ④ ⑤

問 2 講義形式と演習・実習・研究形式（ゼミ，卒業研究，修士・博士論文の研究活動を含む）では、どちらに熱心に取組みましたか。

【学部】
講義形式 ←→ 両方 ←→ 演習・講義・研究形式
① ② ③ ④ ⑤

【大学院】（終了した方のみお書き下さい）
講義形式 ←→ 両方 ←→ 演習・講義・研究形式
① ② ③ ④ ⑤

問 3 大学での勉強と学外活動（サークル活動・ボランティア・友人との交際・アルバイト等）ではどちらに熱心に取り組みましたか。

【学部】
勉強 ←→ 両方 ←→ 学外活動
① ② ③ ④ ⑤

【大学院】（終了した方のみお書き下さい）
勉強 ←→ 両方 ←→ 学外活動
① ② ③ ④ ⑤

問 4 学部の勉強と大学院の勉強では、どちらに熱心に取り組みましたか。
（修了した方のみお答え下さい）

学部 ←→ 両方 ←→ 大学院
① ② ③ ④ ⑤

【裏面　**問 5** へお進み下さい】

Ⅱ．京都大学の学部・大学院における以下の学業・活動は、教養を高めるためや業務を遂行するために役立っていますか。

問 5 外国語教育

役立っている ← どちらとも言えない → 役立っていない

① ② ③ ④ ⑤

問 6 一般教養教育（人文・社会科学系）

役立っている ← どちらとも言えない → 役立っていない

① ② ③ ④ ⑤

問 7 一般教養教育（自然科学系）

役立っている ← どちらとも言えない → 役立っていない

① ② ③ ④ ⑤

問 8 専門科目の講義

役立っている ← どちらとも言えない → 役立っていない

① ② ③ ④ ⑤

問 9 専門科目のゼミ・実験・演習

役立っている ← どちらとも言えない → 役立っていない

① ② ③ ④ ⑤

問 10 研究活動（卒業研究・修士・博士論文）

役立っている ← どちらとも言えない → 役立っていない

① ② ③ ④ ⑤

問 11 学外活動（サークル・アルバイト等）

役立っている ← どちらとも言えない → 役立っていない

① ② ③ ④ ⑤

問 12 京都大学の教育についてご意見、改善策等を自由にお書き下さい。

【次頁　**問 13** へお進み下さい】

III．京都大学の教育の特徴についてお答え下さい。

問 13 京都大学では、以下の点を考慮しつつ特徴ある教育を行っています。これらの点のうち、特に優れているとお考えになるものをあげて下さい。（複数回答可）

① 自由の学風
② 創造性の尊重
③ 独立性の尊重
④ 研究の重視
⑤ 国際性の重視
⑥ フィールドワーク・実験の重視
⑦ その他（具体的にお書き下さい）

IV．京都大学での教育のあるべき姿について、ご意見をお聞かせ下さい。

問 14 学術（基礎）的教育と実践（応用）的教育ではどちらに重点をおいた方がよいと思われますか。

【学部】

学術的教育 ←― 両方 ―→ 実践的教育

① ② ③ ④ ⑤

【大学院】（進学した方のみお答え下さい）

学術的教育 ←― 両方 ―→ 実践的教育

① ② ③ ④ ⑤

問 15 研究活動を含む高度専門教育と講義中心の基盤教育では、どちらに重点をおいた方がよいと思われますか

【学部】

研究活動を含む高度専門教育 ←― 両方 ―→ 講義中心の基盤教育

① ② ③ ④ ⑤

【大学院】（進学した方のみお答え下さい）

研究活動を含む高度専門教育 ←― 両方 ―→ 講義中心の基盤教育

① ② ③ ④ ⑤

問 16 教養教育に積極的に取り組むべきかどうか、お聞かせ下さい。

積極的にすべき ←― どちらとも言えない ―→ どうでもよい

① ② ③ ④ ⑤

問 17 大学院で研究に重点をおいて教育を行うことをどう思われますか。

よい ←― どちらとも言えない ―→ よくない

① ② ③ ④ ⑤

【裏面　**問 18** へお進み下さい】

Ⅴ．京都大学へのご意見をお聞かせ下さい。

問 18 京都大学の卒業生として、大学に期待すること、要望、問題点、改善すべき点などを自由にお書き下さい。

【次頁　**問 19** へお進み下さい】

以下の設問は、あなたのお仕事についてお聞きします。差し支えのない範囲でお答え下さい。

Ⅵ．あなたのお仕事についてお答え下さい。

問 19 現在の業種をお答え下さい。

① 農林水産業
② 建設業・鉱業
③ 食料品・たばこ産業
④ 繊維工業
⑤ 出版・印刷業
⑥ 石油・化学工業
⑦ 鉄工業・金属製品業
⑧ 電気・精密機械製造業
⑨ 電気・ガス・水道
⑩ 運輸・通信
⑪ 卸売業・小売業
⑫ 銀行・信託業・証券・商品取引
⑬ 保険業
⑭ 不動産業
⑮ 法務
⑯ 教育
⑰ 公務
⑱ 無職
⑲ その他 [　　]

問 20 現在の役職をお答え下さい。

① 経営者・役員
② 部門の管理者（部長）
③ 実務の第一線の管理者（課長）
④ 実務者
⑤ 専門職（弁護士，医師，教職等）
⑥ その他 [　　]

問 21 これまでの職業キャリアについてお答え下さい。（複数回答可）

【キャリア形成】
① 特定の分野の業務のみを経験してきた
② 特定の分野の関連するいくつかの業務を経験してきた
③ 幅広い業務を経験してきた
④ 転職しながら、自分の専門分野を形成してきた
⑤ その他 [　　]

【主なキャリアの内容】
① 専門性･技術性の高い業務を経験してきた
② 国際的な業務を経験してきた
③ 経営･企画に関する業務を経験してきた
④ 現業労働を経験してきた
⑤ その他 [　　]

問 22 将来の見通しについてお答え下さい。

【退職までの昇進の可能性】
① 経営者・役員
② 部門の管理者（部長）
③ 実務の第一線の管理者（課長）
④ 分からない
⑤ その他 [　　]

ご協力ありがとうございました。このアンケート用紙をご返送下さい。

なお、このアンケートの結果は、平成 14 年 3 月頃に京都大学のホームページ(http://www.adm.kyoto-u.ac.jp/Official/publish/)にて自己点検･評価報告書として公表いたします。

京都大学の教育と京都大学卒業生について（集計結果）

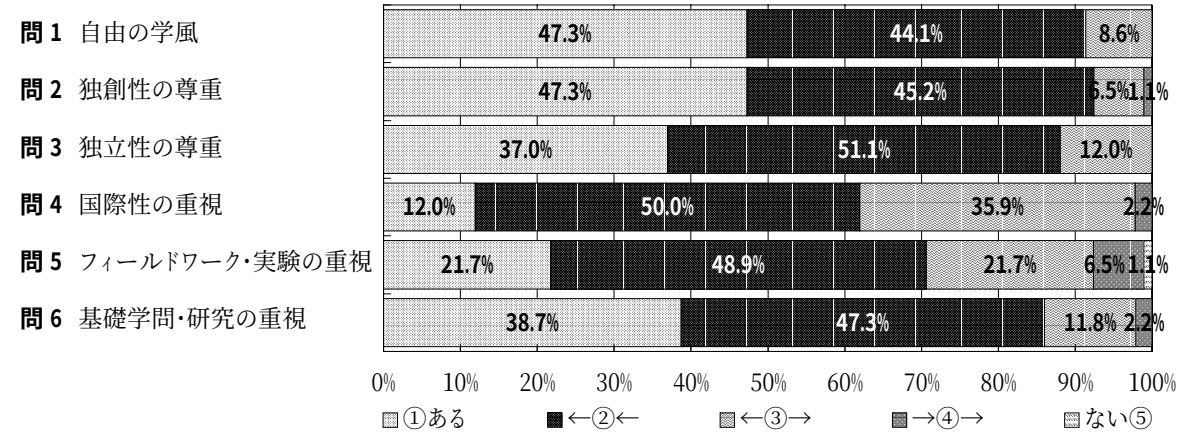
			回答数	回答率
I	問 1	①	44	47.3%
		②	41	44.1%
		③	8	8.6%
		④		
		⑤		
	問 2	①	44	47.3%
		②	42	45.2%
		③	6	6.5%
		④	1	1.1%
		⑤		
	問 3	①	34	37.0%
		②	47	51.1%
		③	11	12.0%
		④		
		⑤		
	問 4	①	11	12.0%
		②	46	50.0%
		③	33	35.9%
		④	2	2.2%
		⑤		
	問 5	①	20	21.7%
		②	45	48.9%
		③	20	21.7%
		④	6	6.5%
		⑤	1	1.1%
	問 6	①	36	38.7%
		②	44	47.3%
		③	11	11.8%
		④	2	2.2%
		⑤		
	問 7	記述	37	39.8%

			回答数	回答率
II	問 8	①	55	59.8%
		②	32	34.8%
		③	5	5.4%
		④		
		⑤		
	問 9	①	38	41.3%
		②	47	51.1%
		③	7	7.6%
		④		
		⑤		
	問 10	①	6	6.5%
		②	37	40.2%
		③	45	48.9%
		④	4	4.3%
		⑤		
	問 11	①	23	25.0%
		②	50	54.3%
		③	17	18.5%
		④	2	2.2%
		⑤		
	問 12	①	22	23.9%
		②	46	50.0%
		③	24	26.1%
		④		
		⑤		
	問 13	①	11	12.1%
		②	33	36.3%
		③	38	41.8%
		④	8	8.8%
		⑤	1	1.1%
	問 14	①	33	35.9%
		②	55	59.8%
		③	4	4.3%
		④		
		⑤		
	問 15	記述	53	57.0%

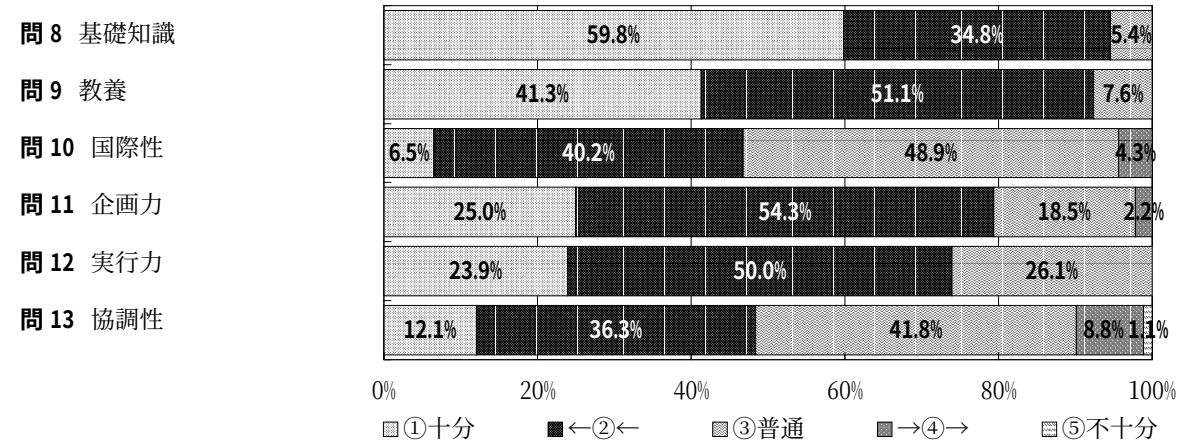
			回答数	回答率
III	問 16	①	1	1.1%
		②	17	18.5%
		③	41	44.6%
		④	28	30.4%
		⑤	5	5.4%
	問 17	①	17	18.5%
		②	59	64.1%
		③	16	17.4%
		④		
		⑤		
	問 18	①	52	57.1%
		②	26	28.6%
		③	13	14.3%
		④		
		⑤		
		⑥	59	63.4%
		⑦	50	53.8%
		⑧	29	31.2%
		⑨	52	55.9%
		⑩	1	1.1%
	問 19	①	28	30.4%
		②	38	41.3%
		③	21	22.8%
		④	3	3.3%
		⑤	2	2.2%
	問 20	①	29	31.5%
		②	35	38.0%
		③	22	23.9%
		④	5	5.4%
		⑤	1	1.1%
IV	問 21	記述	40	43.0%

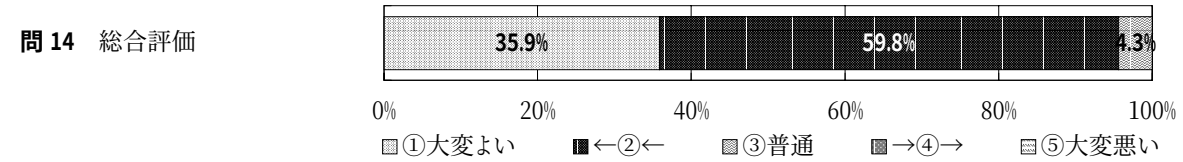
アンケート回答数	**93 件**
アンケート回答率	**12.1 %**

Ⅰ．　京都大学では、教育を行う上で下記に重点をおき、専門的･一般的知識のみならず、実行能力を高め、社会へ大きく貢献できる人材の育成に努めております。この教育についてお答え下さい。

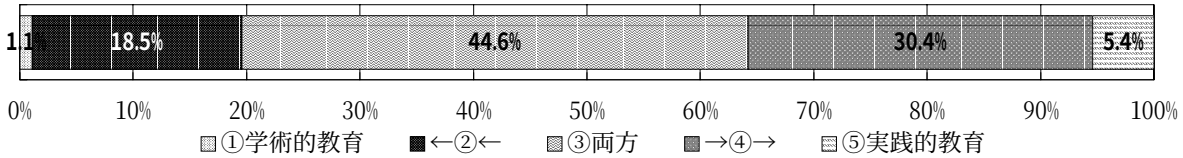


Ⅱ．　京都大学卒業生の印象についてお答え下さい。

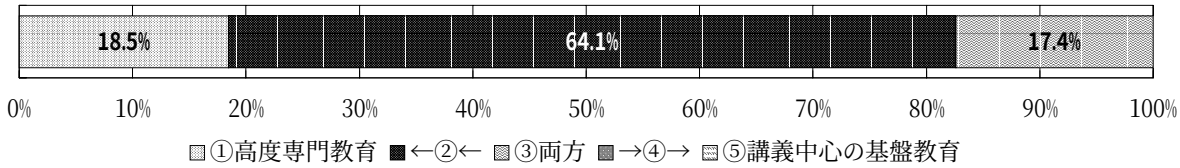




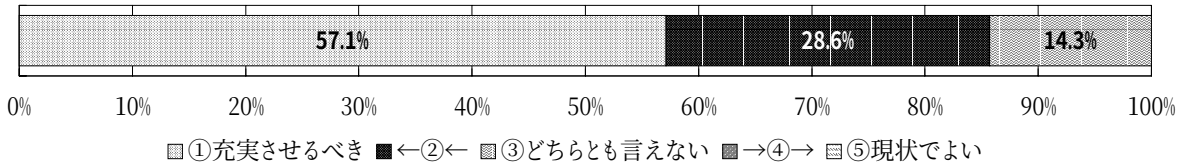
問16　学術的教育と実践的教育とではどちらに重点をおいた方がよいと思われますか。



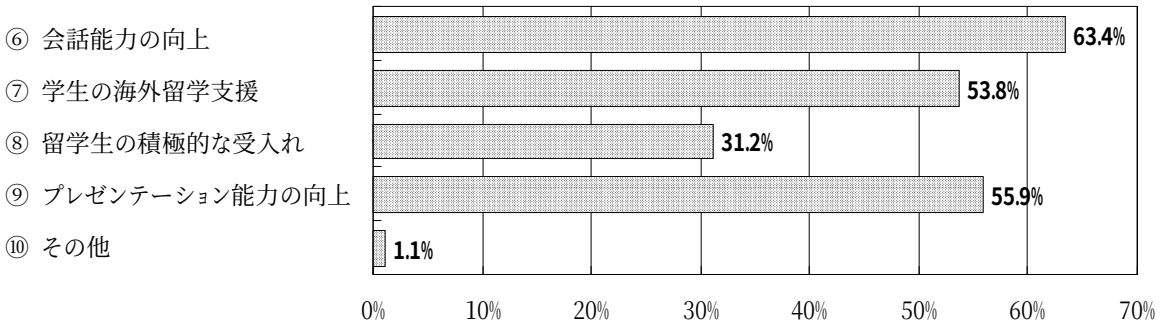
問１７　研究活動を含む高度専門教育と講義中心の基盤教育とでは、どちらに重点をおいた方が良いと思われますか。



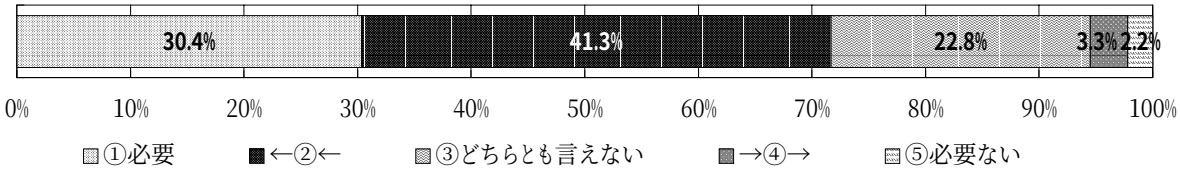
問１８　国際的センスを養成する教育



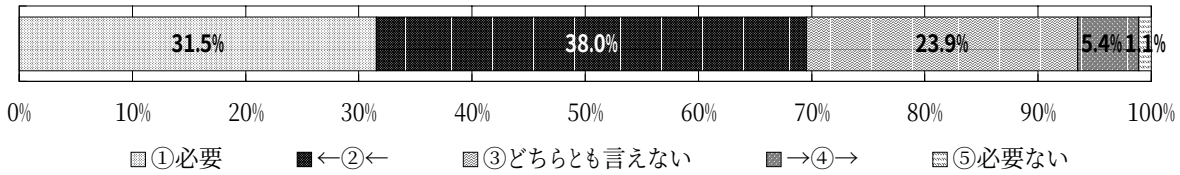
【具体的な方法としてどのようなことが考えられますか】（複数回答可）



問１９　ボランティア等の社会連携や人材育成についての教育



問２０　社会人に対する高度教育（社会人の博士後期課程への就学など）の必要性



問７　京都大学の自由の学風にもとづく教育のあり方について、自由にお書き下さい

◆国立大学は、多額の国費を使って運営されているのであるから、教育・研究両面において高い成果を上げる責任があると思う。京都大学は自由の学風があり、それが結果的に立派な学者・研究成果を生む環境にあったといえるが、同時に義務・責任の薄い環境にあるともいえる。結果として学術研究の成果においても、学生の教育においても総合的成果は決して高いとはいえない。大学にいる人の資質に原因があるのではないか？
◆京大の自由の学風に基づく教育により、各部門における研究内容は充実しており、その成果も上がっていると思う。しかしながら、現在より以上に個性ある教育を推進して欲しい。
◆大切な風土だと思います。
◆現状も素晴らしい学風を感じます。
◆・能力ある学生を伸ばしていく教育体制に共感を抱きます。・独立性を尊重される教育を今後も是非強化していただきたい。
◆大いに賛成である。今までの常識が通用しない激変する世の中においては、自由な発想、考え方が必要になってくる。ただし、基礎理論については、十分な習得を期待したい。
◆アカデミックで自由な学風に基づく現教育方針を継続していただきたい。
◆真理を追求し、独創性を重視している。
◆より一層のご尽力をお願いいたします。
◆目的・目標のない自由な放恣に堕しやすい。外部評価を反映するシステムの導入が必要である。
◆自由であることが、自立と協調の意識を育てている印象を受ける。是非この学風を続けて欲しい。
◆従来よりももっと広い範囲から教員や研究者を集めてはどうか。
◆昨今の学生においては自由の学風をはき違えているようです。「自由」の本質を理解できる教育を望みます。
◆より以上強化してもらいたい。ただし企業、社会のニーズも忘れずに。
◆外見等にこだわることなく物事の本質を捉えようとする思考育成には有用な教育方針と思われる。国際的感覚の育成を早期からもう少し入れたらどうか。
◆その学生の卒業後の進路にもよるが企画、実行能力のレベルアップ→社会への貢献、といった一般論では済まない複雑な要因が実社会では働く。所詮は本人の持つ全人格的なもの（人間性）が効くとも考えられる。企画、実行能力のレベルアップを教育のうえで図るのに「自由の学風（具体的に何なのか不明）」が、どう結びつくのか、どう教育するのか、小職には分からない。
◆企画力、実行力が高く、社会においても卒業生が即戦力となっていることは、自由の学風の賜だと思います。
◆見かけの変化に惑わされず、原理原則をしっかりと探求する姿勢を持たせること。
◆時間経過とともに、全国区から地方区の大学になりつつあるように感じる。自由の学風は尊重すべきであるが、プラスアルファを付加し、全国区に戻すように配慮してもらいたい。
◆学生の持てる能力を個人毎にきめ細かく分析していただきたい。能力も多方面にわたると思います。各個人の能力の「独自性」を引き出し、しっかりした基礎能力（これは充分にある）の上に一本の芯を植え付けてもらいたい。
◆自由の学風に基づき、独創性を尊重する方針は、京大の輝かしい歴史の源泉であり、今後も継続発展させるべきである。ただし、自主的に学問（研究）を進める学生が一層増えるよう大学が変革をすることも肝要だと考える。
◆国際社会で通用する人間（特にリーダー）として育成していただくにあたり、1～6の問に関する事柄を重視していただきたいと考えます。
◆京都大学の卒業生は、学術的フィールドに留まらず、文化・芸術・スポーツなどの幅広い分野で活躍していますが、この活躍は大学時代の教育方針に拠るところが大きいと推測されます。何故ならその活躍は自由な学風の下で自主性を育んだ学生が、自身に最適なフィールドを見つけ出し、能力を最大限に発揮している証拠と言えるからです。したがいまして京都大学の教育は学生の可能性・能力を引き出し、社会に送り出しているという点において、成功をおさめていると思います。
◆学生個々人の主体性を尊重する御校の学風は評価できる。企業を取り巻く環境は、ここ数年で大きく変化してきており、企業人に求められる能力も比例し、大きく変化しているのが現状であり、基礎学力を有していることが大前提となるが、独創性や独立性（自立）を養う御校の学風は今後も持続すべきであると考える。
◆先のノーベル化学賞受賞者の野依先生も京大OBです。両雄の京大・東大を比べて圧倒的に京大卒のノーベル賞受賞者が多いのは京大の学風が大きく影響していると思います。これからも素晴らしい人材を送り出して下さい。
◆京都大学の自由闊達な学風は柔軟で自由な人を育て上げると同時に、その見通しの良さ、徒党を組まない性格ゆえに軽んじられることもあるが、バブル崩壊後の激動の時代を向かえて、ますます貴重な存在となっている。
◆個性のある学生が伸び伸びと育っている印象有り。
◆自由の学風の内実が不明。社会に分かりにくい。
◆自由の学風であることが影響していると思われますが、良い意味で組織に依存しておらず、しっかりと自分の意見、考えを述べる学生が多いと感じられます。今後もその学風により魅力ある学生を輩出していただきたい。
◆これだけスピードが速く、先の読みにくい時代の中で、固定観念を捨て新たな発想を創設し、将来を切り開いていくには、均

一化されるのではなく、個（性）を活かしていくことが大切であると感じています。そういう意味でも、自由な中から創造力豊かで実行力のある学生の育成を期待します。

◆京都大学のイメージは自由の学風が第一に感じられます。現代の多くの大学に感じられる管理された大学は高等学校／専門校の延長の様なので、大学という独立した自由な教育・研究の場としての存在が高く評価されていると思います。

◆自由の学風、独創性の尊重が確保されていると思われるが、半面の厳しさに欠ける面があるのではないか。

◆非常に重要なことだと思います。少々遠回りかもしれませんが、自ら課題設定し、自ら進んでいくという経験がどうしてもこの時期必要だと思います。ただし、これを「自由」の雰囲気の中で醸成していくには、学生の側にも相応のレベルというか能力が要求されますから、だれでもそれでいいというわけではないでしょうが・・・。

◆大いに賛成です。大学の意欲が学生にどこまで浸透するかが問題ですが、その素養のある者が入学しているはずですので、大いに鍛えて下さい。

◆ノーベル賞受賞者をはじめ優れた研究者を多く輩出してきた教育環境を保持し、個人個人の独自性を尊重した、自由で独創的な研究環境をさらに充実して行ってほしい。

◆この伝統を残していって欲しい

◆東京大学とは違い、自由な学風が企業経営にも良い影響をもたらせて頂いており、今後とも、伝統を重んじ、更なる新しい京都大学を構築して頂ければと思います。

問15　京都大学卒業生の印象について、普段感じておられることを自由にお書き下さい。

◆・基礎能力が高く探求熱心。・誠実、まじめ。・協調性があり周囲と信頼関係が築ける。・少し控え目
◆・高度な能力を有する・行動力は物足りない
◆・基礎的知識が充分教育されたとは思えない。・企画立案は必ずしも優れていない。・学部間の交流が少なく、卒業後も同窓意識はあっても、助け合い的な交流に欠ける。・逆境にあっても根気強く解決を模索する性格の人が多いと思う。・個人的な能力の優れている人が、各方面で活躍しているが、総合的な連携に欠けているように思える。
◆京大卒業生は官僚型ではなく、校風による自由闊達な印象を受ける。しかし、現在の教育環境が原因と思われる学生の画一化が進み、個性がなくなりつつあるように感じる。京大らしさをもっと全面に押し出せる個性ある学生を出すようすることが望ましく思う。
◆各人各様の個性があり、自由な中に夢を追い続けられる土壌を感じます。
◆総合的に見て優秀と感じる。
◆・強い個性を持つ方が多い。その個性や創造性をうまく引き出すと、社会に出ても非常に伸び伸びと活躍される。・一方その個性が発揮されない場合、やや唯我独尊に陥りやすい傾向が若干見られるため、社会に出てからフォローが大事と思う時もある。
◆・よく仕事が出来る人が多い。・ポテンシャル（能力）が高い。・個性豊かである。・人と違う視点を持っている。
◆個人差はあるが、概して「他の大学」とは違うという良い意味での自負心を感じる。個性豊かな反面、協調面に多少気掛かりな点がなくもない。
◆若干押しの弱さを感じる事がある。
◆特に基礎知識、行動力について評価が高い。
◆ポテンシャルが高く自由人。
◆自由な学風の中で、個性重視の教育を実践していることからか、入社後も各分野でその専門性や個性を生かし活躍できる人材を多く輩出している。
◆一般の他大学卒業生に比べると温和しいし、資質は高い。しかし、リーダになるべき気概に欠ける人が多い。
◆知識をもとに自由な発想で業務を遂行できる方が多いと思います。
◆日本の大学の中で、知識・資質等は卓越したものを感じているが、かといっていわゆる「頭でっかち」ではない印象。判断力だけでなく、企画力を持ちながら、現実主義でもある。組織の一員としても個々一人一人としてもあらゆるポジションをフレキシブルかつ迅速に対応できる印象。
◆他大学、特に国立大学の学生と比較して、自由で伸び伸びとした印象が強い。また、自らの大学への愛校心を持ち、大きなもの（権力等々）に迎合しない姿勢が感じられる。
◆学力は十分にありますが、受験勉強のせいか、マニュアル人間が多くなっているように思われます。もっと積極的に自立のできる学生を望みます。多少の学力低下を犠牲にしても企画力のある社会性を身に付けた学生を望みます。
◆基礎学力・教養は十分な人材が多い。反面。企画力、実行力においては他大学とあまり差がない。
◆単なる秀才の集まりではなく、アメリカンフットボールに見られるようにガッツと戦略を兼ね備えたナイスガイが多い。
◆枠にはまらず、このままでやって欲しい。
◆東大は国（省）を見て研究・教育する。一方京大は外国を見て仕事をする、とかつて教えられ実感としても納得していた。昨今そういった印象が薄れてきたように思われる。
◆『質実剛健』、『実直』、『素朴』、といったイメージがあります。実際にはそれほど多数の御学出身者が当社で仕事をしている訳ではありませんので、あくまで回答者の主観がかなり入ったイメージとお考え下さい。
◆論理的思考性が強く、理性で物事を判断できる。課題に対して部分を捉えるのではなく、全体最適を目指した解決策を考えようとする。創造的な課題解決が出来る思考力が高い。
◆・発想がすばらしい。自由な学風の現れか。・基礎的知識豊富・個性が強くそれが良い方向に表れている。
◆会社生活で約30年になるが、先輩、同僚、後輩で知っている（程度の差も大）京大卒業生は数えたこともないが、200～300人くらいになろうか。それぞれ個人により異なり、こういう一般的な設問は無意味と思う。大学のカラーというより、むしろその進出分野（従事する職業、企業）に染まっていて、その中で個性（大学のカラーでない）が表れている。言い換えれば、後から聞いて京大卒業生だと分かるくらいで、一見して京大卒業生だと分かる特徴はないと言える（研究生活に従事している世界は別として、逆に大学のカラーが強すぎては実社会ではやっていけない）。
◆多識と教養を兼ね備え、かつ、行動力、実行力もある、日本の未来を担うにふさわしい印象を受けます。
◆京大生らしさが薄れつつあるのは、他学も同じかもしれません。ただ、京大を受験する際の判断に偏差値が影響しており、「何が何でも京大へ」という気概を持った若者が減っているのではという気がします。これは大学の問題でもあると思います。
◆能力や知識は充分であるが、リーダーシップに欠けるように感じる。
◆小さくまとまっておらず、個性的であり、印象は良い。ただし、他校の学生と比し若干アカデミックな感が強いことも否めず。問16にもある実践的教育を身に付けた学生が企業は望んでおります。

◆専門的な能力は充分にある。ただし京都大学を卒業したという意識からか、ハングリー精神が少し不足気味な面も伺える。常に満足することなく、自分で問題を作り、それを解決していく積極的な精神を持てば万全。近年少しおとなしくなったような気がする。
◆大学卒業生全体として見ると総合的学力や洞察力が下降気味であり、京大卒業生といえども同傾向にあるのは残念な気がする。ただし、他大学卒業生を比べるとその差は縮まっているものの相対的には優秀な人材が多い。企業としてはチーム研究やプロジェクトに協調でき、かつ独創的、独立心を有した人材を求めている。両方にバランスの取れた人材の輩出を望む。
◆自由の学風が基礎にあってのものだと思われるが、発想が独創的で明確であると感じる。
◆特に京都大学の卒業生と言うわけではありませんが、学生全般に学力はあるが、実行力がない傾向があります。
◆新卒採用時の面接を通じての印象になるが、いい意味でのプライドを持っている。ただし、それがコミュニケーション能力等に活かされていない面もあるように思えたのが残念である。
◆学業知識、探求心は非常に高く、個人で物事を成し遂げる力に優れていると感じます。一方英語コミュニケーション能力チームで目標達成する力は、平均レベルではないでしょうか。
◆基礎知識・教養を十分に身に付けている人材が多い。独創性に優れ、既成概念にとらわれない発想をすることが出来る。
◆弊社に既に入社をしている学生、及び受験していただいた学生ということで記述させていただくと、御校への一般入試で入学された学生とバイリンガル入試（表現が不適切かも知れませんが、帰国子女枠）で入学された方の基礎学力のレベル差は著しく開きがある。この話は弊社だけでなく、広く有名な話で、御校の在学生、または卒業生ということで企業と接してくることを考えると、入試方法がそれでいいのかいささか疑問を感じる（基礎学力の差が大きすぎる）。外国人の方の受け入れ、入学後の海外留学支援等の必要性は感じるが、邦人の帰国子女についての入試は一考を要すと感じる。受け皿という意味でそのシステム自体を否定するつもりはないが、一般学生との差があまりにも大きく、またそう感じたのが弊社だけではなかったので、あえて書かせていただきました。
◆マイペース、良くも悪くも自信があるので、周囲への影響力も大きい。ただし、やや独善的な傾向もあり、打たれ弱さを感ずる面もある。総合的な実践能力は高い人が多い印象を受ける。
◆難解、スタイリスト、見通しの良い仕事ぶり、要領良し、徒党を組まず。
◆基礎能力の高い人が多い。個性的で前向きな取り組み姿勢の方が多い。
◆与えられた問題への解答は良いが、自ら課題を決め、解決する能力に疑問を呈する時がある。
◆人物面、能力面ともにバランスの取れた人材が多いと感じられる。
◆学力面での能力は十分有しており、会社の中軸として将来を担っていくであろう優れた人材も多い。対人能力面での個人差は若干感じる。
◆日本の大学で確固たる地位を築いている大学の学生であることからも、水準以上の基礎学力を持っており、それといって知識にのみ走っているような感じは受け取れなく、活躍の場も学・官・民と何処にでも置くことが出来る理想的な大学生のイメージが強い。
◆基礎能力に優れており、専門分野の領域を越えた所での応用力に秀でている。
◆全般的には高い資質と能力を備えた人材がほとんどであるが、なかに協調性、社会性（協調性と道義に近いか）、自己実現意欲などが希薄ではないかと思われるものもみうけられる。（両者を対比してしまうため目立つということではあると思う。）
◆・前項にも通じますが、弊社に入社・会社訪問して来られる方々については母校の「自由な雰囲気」を語られることが多い気がします。・就職活動については、良くも悪くもおっとり構える姿勢が目立ちます。（官立の有名校にはありがちですが。）もう一歩、自身のキャリアについて踏み込んで考える姿勢が望まれます。・全体的にはポテンシャル高く、かつ人間的な幅や余裕を感じさせる方が多いと感じています。
◆やはり優秀です。面白い人が多いとも思います。これは文系か理科系かでも違うのでしょうが、少々考えすぎる嫌いの人も時々見受けられます。会社に入ってどうなるかは、その人の能力だけでは決まらない部分が多々あり、断定的な言い方は避けたいと思いますが、能力的には優秀であることは間違いないのですが、マネージャ層にまでなったときにどうか？という目で考えますと、二通りに分かれるような気がします（うまくいきそうだ、という人と、みんながついて行けそうにないのではないか、という人）。
◆京大生は東大生と比較されることが多いと思われるが、一番違っている点は、大学が力を入れている「自由な考えを持つ」学生が多く見られることです。東大生は「型にはまっている」印象がありますが、京大生は枠にはまらない人材がおり、この学生が就職先に選んだ会社が今まで就職実績の全くない中小企業であったりする例があります。いわば、自分の信念に基づく会社選びといえます。これらの学生がときたま訪問するのが人事担当としてうれしいことでもあります。これからも、ユニークな人材を養成すべく大学は力を入れて頂きたい。
◆優れた基礎知識と専門性は高いと思うが、ある面では視野の狭いところが見受けられる。しかし、基本的なスキルが高いために新規業務に対しても，順応性がある。
◆個人個人様々で一概にいえないが個性的な人物が多い。
◆仕事熱心であり、実行力に富み業務の中心的人物が多く輩出されており、今後とも期待しております。

問21　京都大学の教育・研究のあるべき姿、今後の方向性などについて自由にお書き下さい。

◆・産学協同へのより積極的な活動による社会貢献。・グローバルな視野での研究開発。・人格教育としての素養開発。
◆・社会人教育（社会人入学）の門戸開放
◆・大学教授のあり方について、問題点があるのではないか。1. 教育（学生に対する）に熱心であるが、何を教えているのか。2. 研究結果の発表をしているか。評価されているか。3. 人間的性格に欠陥はないか。4. 採用任官制度の改革が必要なのではないか。5. 他大学との交流をもっとすべきではないか。6. 教授に任期(3年程度)を定めて活性化してはどうか。優秀な教授は再任すればよいと思う。・教育・研究・管理運営の原則を明確にする。・社会との交流を一層進める。1. 企業との連携により、社会が利益を得て成果を求めるべきで、単に研究室費用の獲得とか、企業の利益を目的にすべきではない。2. 社会において何が求められ、どのような学術研究が必要か、人間社会に何を提供すべきかを身近に感ずる機会を作る。・他国との交流をさらに進める。従来より以上に数多くの国と数多くの部門において学術研究の交流域は共同研究を行う。
◆京大の教育・研究は自由の学風に基づいており、過去から現在へと脈々とその学風を受け継いでおられる。しかし、徐々に学生自身の画一化からかその学風も過去程のものでなくなりつつあるのではないか。このことを踏まえてもっと自由な学風を進展させ、またグローバル化が推進されるなか、京大の自由の学風を活かして産官学が一体になり、日本が発展するような教育・研究を押し進めて欲しいと思う。その結果として、京大が各大学の規範となるような姿を示す事を大いに期待している。
◆若い”可能性を秘めた”人材の集まる場所として、様々な活動を通じ、試行錯誤を良い意味で体験できる自由な風土を持ち続けていかれたらと思います。変化する社会環境への対応力は、やはり若い人々にあると思います。弊社へも、どんどん人材を賜り、ますますの野の底上げを期待します。
◆バランスのとれた学生の育成に期待しております。
◆日本を代表する大学として、基礎理論（学力）の修得はもちろん、日本をはじめとし、世界に優秀な人材を輩出できるような体制（教育）を望みます。
◆高度な研究と自由な学風を尊重され、国際的に通用する教養人を育成して下さい。
◆大勢の入学生を入学試験で選別のうえ受け入れている筈であるが、卒業時に期待通りに育っているとは言い難い。学内で厳しく教育と選別を繰り返し、全員でなくても社会のリーダーとなる人材を育てて欲しい。研究を通じた教育においても単に研究者の卵を育てるのではなく、全人的教育を実施すべきである。
◆これまで、京大で伝統的に培われた自由な学風を維持しつつも、時代に合わせ世の中のニーズに合うカリキュラムを用意していただければと思います。
◆若干、マスコミ等への執筆、出演等が他大学に比較して少ない印象を受けるので、高校生、企業、その他にアピールして「京大」の今の姿を知っていただくのも良いのではないか。
◆今後とも東京大学とは異なった校風を持ち続けていただきたい。
◆・自由を大切にして下さい。・学と民はもう少し近い関係で良いのでは。・世界一を目指して研究活動をして下さい。
◆1. 実践的教育は社会に出てから機会はいくらでもあるので、やはり学術的教育をしっかりしていただきたい。2. これからは国際社会で活躍出来る人材の育成も重要であり、いくら学問的に優れた人材でも国際舞台で活躍できるよう少なくとも国際標準語である英語にて会話、ディベート（討論）、プレゼンテーション（学会発表等）できる能力を持った人を育てていただきたい。3. 産官学協力行動できる人でもあってもらいたい。
◆素養の備わった集団は、的確な方向性を示すだけで開花する。独自性、自主性を重んじ国際的センス育成を付加した教育を行って欲しい。
◆繰り返しになるが、大学としての特色、存在感を維持する必要があるか疑問。研究部門に卒業後も従事する人間とそうでない人間（実業界～私企業というか、大学のレッテルが通用しないその人間のPersonalityで勝負していかなくてはならぬ世界に飛び込む人間）の教育、育成は自ずと異なると考える。前者について言えば、従来の教育、研究のやり方で続けていけば、十分通用すると考えるが、後者（今回のアンケートの主旨はこの面についての設問と思うが）についていえば、これといった処方箋はないと考える。むしろいろんな場面で対処できる基礎知識、学力の育成、専門分野にとらわれない幅広い知識（例えば工学系といえども法律、経済などの知識）が卒業までに得られるような教育体系が望ましいと考える。極論すれば、入学時に色分けして（研究部門、実業部門に二分）実業部門に進む人間については、専門教育→教養部門教育と逆転したやり方もあるのではないか。或いは修士課程で専門部門以外の科目を必須科目とするような方法も考えられる。
◆①京大だけに限りませんが「専門教育」と「学術研究」の両立を求められる大学として、これまで以上に独自性を持っていただきたい。・流行に流されない真理を探究する姿勢。・原理原則を中心とした専門基礎教育の充実。・科学技術・未来を見据えた学術研究体制（特に企業との共同研究の拡大は、企業サイドのニーズも高い）。・特に大学院の研究テーマは、より先進性を持つとともに、社会のニーズに沿ったものも取り入れていただきたい。②これも大学だけの問題ではありませんが「人間教育」を常に忘れないでいただきたい。
◆教育：リーダーシップを持って企業を引っ張って行くような左人間に教育してもらいたい。研究：世界的に見てトップレベルの研究、実績を期待します。

◆共同研究、社会人教育、インターンシップ、T.L.O（Technology Licensing Organization）等、多様な形で産学交流の活性化に期待する。
◆専門技術はますます高度なものが必要になり、またその技術は数年で陳腐化してしまいます。すぐに役立つ専門教育とともに将来の新しい技術に対して柔軟に対応できるベースとなる基礎教育をみっちりとやってもらいたい。京都大学の学生ならば、手をゆるめず、厳しく教育し、研究をやらせれば絶対に対応していけると考える。学生の時代は高々4～8年くらい。あまやかすことなく、厳しく特に国際性を身に付け、諸外国のコンペティターを意識しながら仕事が出来る人材を育てて欲しい。
◆大学は独立行政法人化、研究成果の社会への還元など大きな変革を求められています。京大と言えども、教育内容（手法）、教官の採用、研究テーマの選択などにもっと競争原理を導入して新陳代謝を図らないと魅力に乏しく世の中から取り残されるのではないかと懸念しています。このような懸念に対し、すでに手は打たれているとは思いますが、あまり目に見えて来ないような印象を持っています。
◆国内において確立された地位をさらに世界に広めるための国際化を進めることが望まれるのではないかと思う。
◆国際社会で通用する人材の教育、育成を目指していただきたく考えています。特に大学院においては「プレゼンテーションスキル」や「会話力」は必須だと考えます。私どもも京都大学の卒業生は将来リーダーになっていただきたく考えております。そのためには単なる知識教育だけでなく、総合的な育成をお願いいたします。
◆このような自己点検・評価を実施する姿勢は素晴らしいことと思います。
◆学生に対して自由な学風による教育を実践する一方で、常に現状を見つめ直し、さらに高度・良質な教育の実践を試みる姿勢はまさに「日本を代表する教育機関」にふさわしいものであると思います。このような大学側の影の努力が、優秀な人材を多数輩出している土台になっているということは、創造に難しくありません。今後も学生の自主性を重んじた教育により、社会に貢献できる人材の育成に努めていただきたいと思います。
◆御校の学生は、非常に基礎学力も高いことから、より実践的な教育を行って欲しいと思います。現在社会・企業を取り巻く環境は急速かつ大きく変化しています。今までは受け継がれてきた考え方、手法をブラッシュアップしながら、次へと引き継ぐ力が必要でしたが、現在では今までの常識を一度スクラップし作るというスクラップアンドビルドの考え方が必要となってくる。そこには今まで全くなかったものを新しく創造する能力が非常に重要なエッセンスとしてあり、またそれを実行していくには個々の持っている引き出しの多さがキーポイントになってくる。その引き出しを増やすための教育、つまり実践させる教育が急務であると考える。もし御校でなければ、引き出し作りのための基礎学力の見通しを求めると思うが、上述した通り御校のそれは十分であると考えられるため、さらに次のステップとして実践力の養成を御校には求めたいと考えます。
◆これからも独自性を失うことなく、国内はもとより国際的にも影響力を発揮してください。
◆京都大学の教育・研究は、日本の中では独創性を活かす方向として評価することが出来ると思う。しかしながら、IT革命に見られるような世界規模での競争を自ら、個人が国営レベルでの資質を求められることを勘違いすれば、それは必ずしも十分なものとは言えない。むしろ今までの京都大学の美点である自由な発想、個人を変視する同士といったある部分を伸ばしつつ、さらには国際競争に耐えうる人材を育成していく必要があるといえる。
◆画一的でなく、個性を持った人材が育つように、自分自身で考え、行動することが必要とされる能動的な、参加型の教育をより充実していけばよいのではと思います。
◆社会に役立つ大学とは、して応える大学教育・研究に努めて欲しい。
◆現在の自由闊達な風土に加え、各分野において国際的なセンスを身に付けた上で、リーダーシップを取れる教育・研究を目指していただきたい。
◆ますますスピーディーに激しく変革していく時代に、柔軟に対応した教育・研究を促進していくことを望みます。産官学の連携により、より社会に開かれた身近な大学であって欲しい。学力低下が叫ばれる中で、世界に取り残されず、逆にリードしていく人材としての機能をより充実させていって欲しい。
◆各都道府県の主要都市には必ず大学がありますが、少子化現象も伴って、今後は淘汰されていくことになります。現在は総合大学として一応の規模と世間的な体裁があり、取り敢えずIT化を進めておれば、何とか学生を集めることは出来るでしょうが、今後は各大学の個性、独自性を発揮しないと存続できなくなると思います。京都大学は、世間的には日本の大学の両雄の一方と認められ、非常に高い評価を得ておりますが、これに安んじること無く、更なる改革・発展を目指されるべきです。日本が世界でトップグループに残る為には、弱点といわれる基礎研究分野を充実し、それを基とする革新的な研究を進めなければなりません。京都大学は所謂就職教育の場ではなく、飽くまでも学術的な教育を優先し、且つ、学の研究を民の産業に反映させるように実践的な教育活動も実施して行かねばならないと思います。自由と独立を宗として、数少ない真の大学としての存在を今後も進んで頂きたいものです。
◆日本を代表する大学として、今後は国内のみならず世界的にも高い評価を受けることができる教育・研究を行い、多彩な人材を輩出して欲しい。
◆国際競争力を磨くこと。ビジネス競争力を高めること。
◆・研究と基盤教育のバランスについては迷うところですが、今後の大学改革の方向性を考えると、貴学の場合は高度専門教育に期待するところが大きくなるかとは思います。ただ、やはり専門能力とそれを支える幅広い基礎能力が高いレベルでバランスした人材を輩出されることを貴学には望みます。・就職指導という面では他校と比べて余りご熱心ではないという印象を持っております。産業界としても企業の活動について就職活動を控えた学生の皆さんに極力歪みの少ない形で伝えていきたいという希望を持っています。学内説明会などで広く場を提供していただければ、企業・学生双方にとって有益かと思います。

◆問15に書きましたが、「国立旧帝大」の印象は私企業には不必要です。自由な発想ができ、柔軟な頭脳を持った卒業生を期待します。

◆研究成果を単なる学問とせず、企業とのベンチャービジネスを積極的に行い、世界に通用する理論, 技術及び製品を開発して、技術立国日本の中心的な教育・研究機関を目指して欲しい。

◆他の大学では実行できないようなテーマ・分野の研究を追及していく姿勢を守っていって下さい。

◆IT 化、少子化、若年層の意識の二極分化等、時代の流れはかなり速く激しいものとなっています。ある意味国立大学の教育の在り方は時代の流れに沿っているとは言い難い部分もありますが、私立大との違いはそこに、伝統や校風が息づいているものと思われます。しかし、文部科学省の制度や考えが足かせになり、自由さや進取な動きが取れていないこともまま見られます。独立法人化の動きが見え隠れする今日ですが、自由と実践の伝統を重んじられ、新時代を支えていく人材の輩出を願うものです。

京都大学の教育と京都大学卒業生について（本文）

京大総企評第７６号
平成１３年9月２１日

関係各社

京都大学大学評価委員会
自己点検・評価等専門委員会
委員長　丸　山　正　樹

自己点検・評価等専門委員会
「教育･研究と社会」作業部会
主査　北　村　隆　行

京都大学自己点検・評価を実施するに当たって
アンケートのご依頼

拝啓　平素より，貴社におかれましては，京都大学の教育・研究に対して多大なるご理解とご協力をいただき，有り難うございます。

本学では，21 世紀における大学の改革・発展を目指し，教育・研究・運営の全般にわたって自己点検・評価を実施して，社会的貢献をはかるとともに，情報の開示に努めております。本年度は，『教育・研究と社会』に重点をおき，社会との連携について自己点検・評価を行っております。これに関連しまして，産業界からの評価を賜りたく，アンケートを用意させていただきました。

大変お忙しいところ恐縮ですが，アンケートにご回答いただき，同封の返信用封筒にてご返送いただきますよう，お願い申し上げます。

また，Web サイト（http://www.adm.kyoto-u.ac.jp/kikaku/kisotu/）においてもご回答いただけます。（ご回答期限：平成 13 年 10 月 19 日）

なお，アンケートは，自己点検・評価の目的以外に使用することはございません。また，貴社が特定できる形での公表はいたしません。

いただきましたご回答をもとに，今後，京都大学における教育・研究の改善を図り，社会に貢献してまいりたいと考えております。ご協力のほど，よろしくお願いいたします。

敬具

ご返送先・お問い合わせ先
〒606-8501　京都市左京区吉田本町
京都大学総務部企画課大学評価掛
TEL:075-753-2088　FAX:075-753-2089

京都大学の教育と京都大学卒業生について

以下の設問に差し支えのない範囲でお答え下さい。このアンケート用紙に直接ご記入いただき、選択肢のある設問については、番号に〇を附して下さい。

なお、Web サイト（http://www.adm.kyoto-u.ac.jp/kikaku/kisotu/）でもご回答いただけますので、ご利用下さい。

企　業　名：

部門･部署名：

Ⅰ．京都大学では、教育を行う上で下記に重点をおき、専門的・一般的知識のみならず、企画・実行能力を高め、社会へ大きく貢献できる人材の育成に努めております。この教育の印象についてお答え下さい。

1 自由の学風

ある ←→ ない

① ② ③ ④ ⑤

2 独創性の尊重

ある ←→ ない

① ② ③ ④ ⑤

3 独立性の尊重

ある ←→ ない

① ② ③ ④ ⑤

4 国際性の重視

ある ←→ ない

① ② ③ ④ ⑤

5 フィールドワーク･実験の重視

ある ←→ ない

① ② ③ ④ ⑤

6 基礎学問･研究の重視

ある ←→ ない

① ② ③ ④ ⑤

7 京都大学の自由の学風にもとづく教育のあり方について、自由にお書き下さい。

1

Ⅱ．京都大学卒業生の印象についてお答え下さい。

問 8 基礎知識

十分 ← 普通 → 不十分

① ② ③ ④ ⑤

問 9 教養

十分 ← 普通 → 不十分

① ② ③ ④ ⑤

問 10 国際性

十分 ← 普通 → 不十分

① ② ③ ④ ⑤

問 11 企画力

十分 ← 普通 → 不十分

① ② ③ ④ ⑤

問 12 実行力

十分 ← 普通 → 不十分

① ② ③ ④ ⑤

問 13 協調性

十分 ← 普通 → 不十分

① ② ③ ④ ⑤

問 14 総合評価

大変良い ← 普通 → 大変悪い

① ② ③ ④ ⑤

問 15 京都大学卒業生の印象について、普段感じておられることを自由にお書き下さい。

2

III．京都大学での教育のあるべき姿について、ご意見をお聞かせ下さい。

問 16 学術的教育と実践的教育とではどちらに重点をおいた方がよいと思われますか。

学術的教育 ← 両方 → 実践的教育

① ② ③ ④ ⑤

問 17 研究活動を含む高度専門教育と講義中心の基盤教育とでは、どちらに重点をおいた方がよいと思われますか。

研究活動を含む高度専門教育 ← 両方 → 講義中心の基盤教育

① ② ③ ④ ⑤

問 18 国際的センスを養成する教育

充実させるべき ← どちらとも言えない → 現状でよい

① ② ③ ④ ⑤

【具体的な方法としてどのようなことが考えられますか】（複数回答可）

⑥ 会話能力の向上

⑦ 学生の海外留学支援

⑧ 留学生の積極的な受け入れ

⑨ プレゼンテーション能力の向上

⑩ その他（　　）

問 19 ボランティア等の社会連携や人材育成についての教育

積極的にすべき ← どちらとも言えない → 必要ない

① ② ③ ④ ⑤

問 20 社会人に対する高度教育(社会人の博士後期課程への就学など)の必要性

必要 ← どちらとも言えない → 必要ない

① ② ③ ④ ⑤

Ⅳ．京都大学への要望をお聞かせ下さい。

問 21 京都大学の教育・研究のあるべき姿、今後の方向性などについて自由にお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。このアンケート用紙をご返送下さい。

なお、このアンケートの結果は、平成 14 年 3 月頃に京都大学のホームページ（http://www.adm.kyoto-u.ac.jp/Official/publish/）にて自己点検･評価報告書として公表いたします。

4

京都大学との共同研究に関する調査（集計結果）

		回答数(率)
問 1	①	43 (9.3%)
	②	289 (62.3%)
	③	71 (15.3%)
	④	29 (6.3%)
	⑤	21 (4.5%)
	⑥	6 (1.3%)
	⑦	1 (0.2%)
	⑧	4 (0.9%)

			回答数(率)
問 2	(1)	①	93 (22.1%)
		②	112 (26.6%)
		③	58 (13.8%)
		④	102 (24.2%)
		⑤	56 (13.3%)
	(2)	①	26 (6.1%)
		②	28 (6.6%)
		③	27 (6.4%)
		④	176 (41.5%)
		⑤	167 (39.4%)
	(3)	①	29 (6.8%)
		②	33 (7.8%)
		③	46 (10.8%)
		④	153 (36.0%)
		⑤	164 (38.6%)
	(4)	①	22 (5.2%)
		②	43 (10.2%)
		③	64 (15.2%)
		④	152 (36.0%)
		⑤	141 (33.4%)
	(5)	①	45 (10.7%)
		②	64 (15.3%)
		③	103 (24.6%)
		④	164 (39.1%)
		⑤	43 (10.3%)
	(6)	①	47 (11.2%)
		②	41 (9.8%)
		③	80 (19.1%)
		④	173 (41.4%)
		⑤	77 (18.4%)
	(7)	①	31 (7.3%)
		②	26 (6.1%)
		③	58 (13.7%)
		④	177 (41.7%)
		⑤	132 (31.1%)
	(8)	①	134 (32.1%)
		②	111 (26.6%)
		③	108 (25.8%)
		④	55 (13.2%)
		⑤	10 (2.4%)
	(9)	①	44 (10.4%)
		②	76 (18.0%)
		③	120 (28.4%)
		④	118 (27.9%)
		⑤	65 (15.4%)

			回答数(率)
問 3	(1)	①	14 (3.4%)
		②	39 (9.4%)
		③	121 (29.0%)
		④	114 (27.3%)
		⑤	49 (11.8%)
		⑥	80 (19.2%)
	(2)	①	14 (3.3%)
		②	43 (10.2%)
		③	254 (60.2%)
		④	36 (8.5%)
		⑤	21 (5.0%)
		⑥	54 (12.8%)
	(3)	①	14 (3.3%)
		②	48 (11.4%)
		③	242 (57.5%)
		④	35 (8.3%)
		⑤	10 (2.4%)
		⑥	72 (17.1%)
	(4)	①	1 (0.2%)
		②	
		③	19 (4.4%)
		④	125 (29.3%)
		⑤	271 (63.5%)
		⑥	11 (2.6%)
	(5)	①	3 (0.7%)
		②	11 (2.6%)
		③	70 (16.6%)
		④	159 (37.7%)
		⑤	159 (37.7%)
		⑥	20 (4.7%)
	(6)	①	2 (0.5%)
		②	17 (4.0%)
		③	103 (24.4%)
		④	158 (37.4%)
		⑤	103 (24.4%)
		⑥	39 (9.2%)
	(7)	①	5 (1.2%)
		②	36 (8.6%)
		③	109 (25.9%)
		④	154 (36.6%)
		⑤	78 (18.5%)
		⑥	39 (9.3%)
	(8)	①	7 (1.7%)
		②	25 (5.9%)
		③	115 (27.1%)
		④	159 (37.5%)
		⑤	63 (14.9%)
		⑥	55 (13.0%)
	(9)	①	6 (1.4%)
		②	25 (6.0%)
		③	131 (31.3%)
		④	117 (27.9%)
		⑤	37 (8.8%)
		⑥	103 (24.6%)
	(10)	①	9 (2.1%)
		②	8 (1.9%)
		③	168 (39.7%)
		④	96 (22.7%)
		⑤	86 (20.3%)
		⑥	56 (13.2%)
	(11)	①	11 (2.6%)
		②	14 (3.3%)
		③	171 (40.8%)
			98 (23.4%)
			46 (11.0%)
			79 (18.9%)

			回答数(率)
問 3	(12)	①	11 (2.6%)
		②	6 (1.4%)
		③	52 (12.2%)
		④	207 (48.7%)
		⑤	136 (32.0%)
		⑥	13 (3.1%)
	(13)	①	15 (3.6%)
		②	14 (3.3%)
		③	77 (18.2%)
		④	193 (45.7%)
		⑤	105 (24.9%)
		⑥	18 (4.3%)
	(14)	①	12 (2.8%)
		②	34 (8.1%)
		③	100 (23.7%)
		④	156 (37.0%)
		⑤	57 (13.5%)
		⑥	63 (14.9%)
	(15)	①	12 (2.9%)
		②	22 (5.2%)
		③	70 (16.6%)
		④	179 (42.5%)
		⑤	86 (20.4%)
		⑥	52 (12.4%)
	(16)	①	15 (3.5%)
		②	28 (6.6%)
		③	122 (28.7%)
		④	140 (32.9%)
		⑤	55 (12.9%)
		⑥	65 (15.3%)

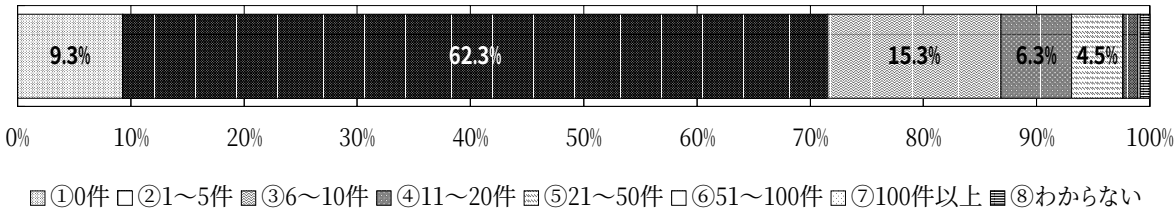
			回答数(率)
問 4	(1)	①	5 (1.1%)
		②	14 (3.1%)
		③	41 (9.0%)
		④	209 (46.0%)
		⑤	185 (40.7%)
	(2)	①	9 (2.0%)
		②	27 (5.9%)
		③	64 (14.1%)
		④	213 (46.9%)
		⑤	141 (31.1%)
	(3)	①	9 (2.0%)
		②	15 (3.3%)
		③	115 (25.3%)
		④	177 (39.0%)
		⑤	138 (30.4%)
	(4)	①	11 (2.4%)
		②	13 (2.9%)
		③	56 (12.4%)
		④	196 (43.4%)
		⑤	176 (38.9%)
	(5)	①	13 (2.9%)
		②	40 (8.8%)
		③	110 (24.2%)
		④	198 (43.6%)
		⑤	93 (20.5%)
	(6)	①	18 (4.0%)
		②	65 (14.4%)
		③	135 (29.9%)
		④	162 (35.9%)
		⑤	71 (15.7%)

			回答数(率)
問 5	業種	①	5 (1.1%)
		②	20 (4.4%)
		③	33 (7.2%)
		④	62 (13.5%)
		⑤	115 (25.1%)
		⑥	8 (1.7%)
		⑦	4 (0.9%)
		⑧	82 (17.9%)
		⑨	8 (1.7%)
		⑩	5 (1.1%)
		⑪	4 (0.9%)
		⑫	2 (0.4%)
		⑬	
	規模	⑭	50 (10.9%)
		⑮	7 (1.5%)
		⑯	3 (0.7%)
		⑰	15 (3.3%)
		⑱	36 (7.8%)
		①	17 (3.7%)
		②	64 (13.9%)
		③	88 (19.1%)
		④	40 (8.7%)
		⑤	109 (23.6%)
		⑥	73 (15.8%)
		⑦	70 (15.2%)
		⑧	

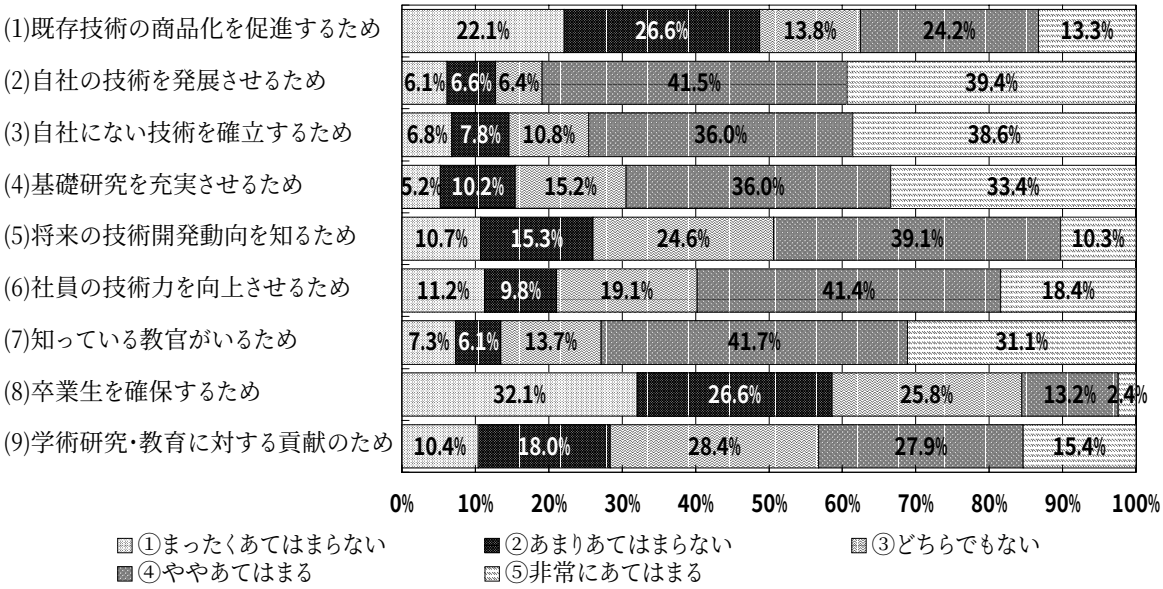
		回答数(率)
問 6	記述	241 (51.2%)

アンケート回答数	471 件
アンケート回答率	40.9 %

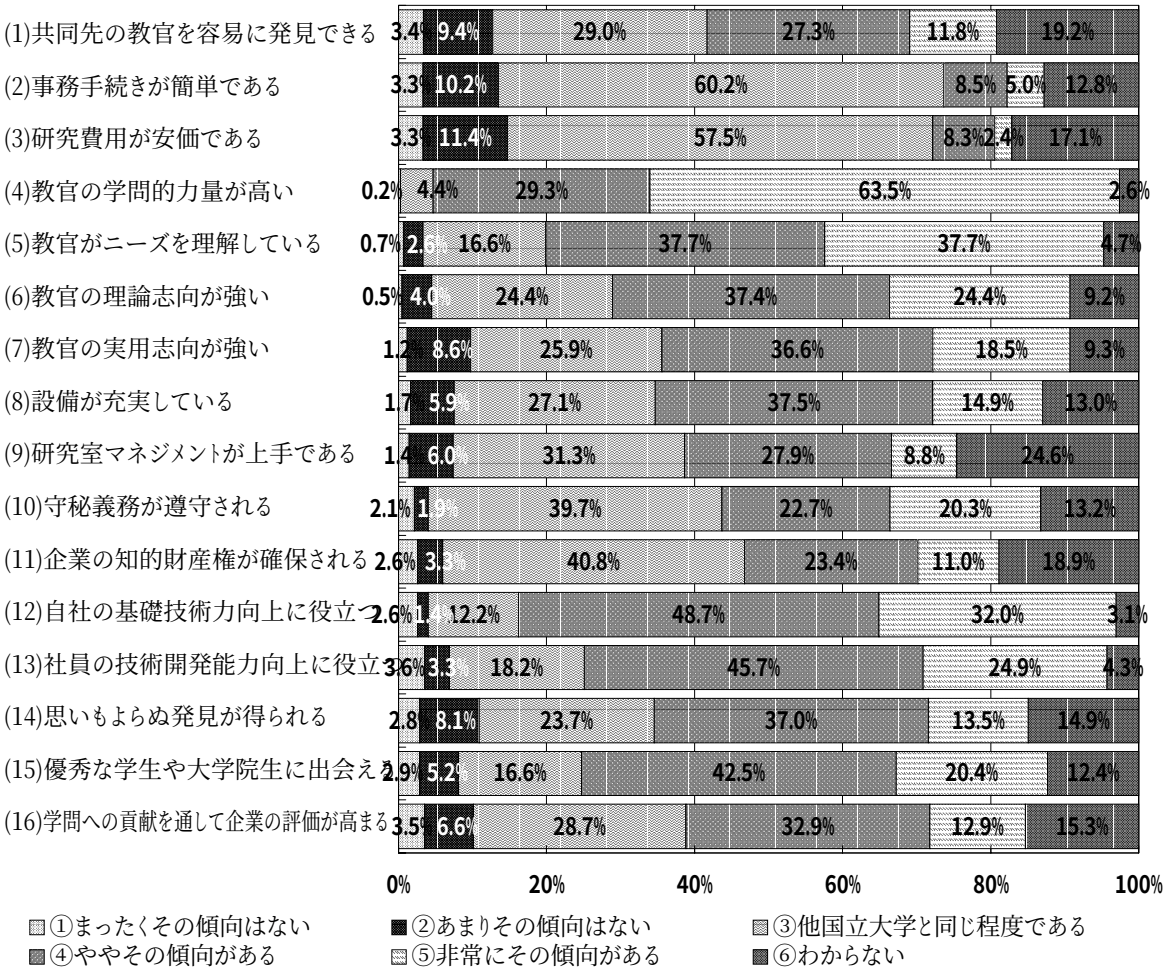
問1　貴社（貴部門）において、過去 5 年間に京都大学の教官と実施された共同研究の概数はどのくらいでしょうか。あてはまる数字に○印をつけてください。ここで、共同研究とは「受託研究」「民間等との共同研究」「奨学寄附金」など、資金の提供を伴うものを指します。同じ教官を対象とするものでも、入金 1 回ごとに 1 件と数えてください。



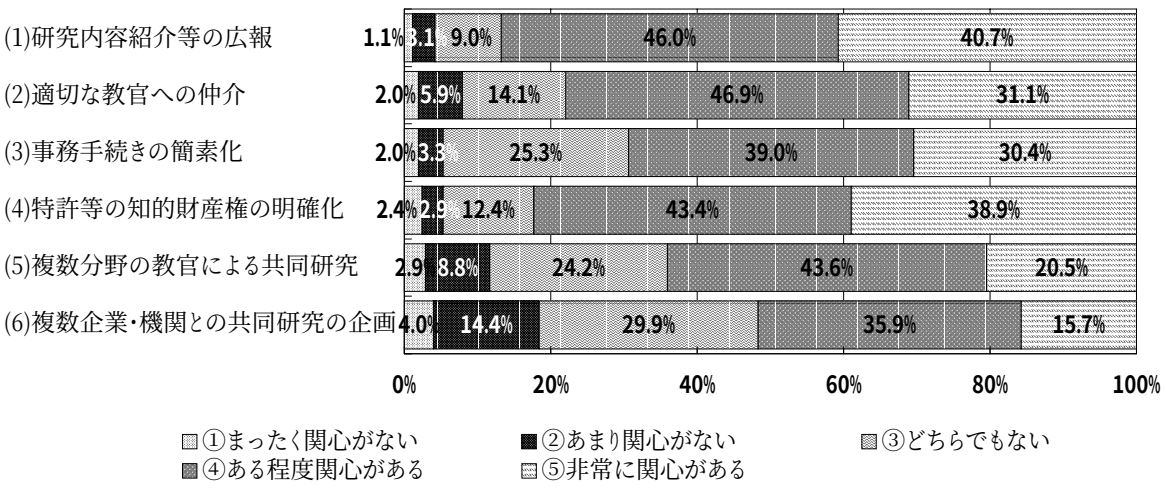
問2　貴社（貴部門）が京都大学の教官と共同研究をなさってきたのは、どのような理由からですか。次の各項目について、あてはまる数字に○印を付けてください。



問3　京都大学の教官と実施された共同研究は、どのような特徴がありましたか。各項目について、全体的な印象が最もあてはまる数字に○印を付けてください。

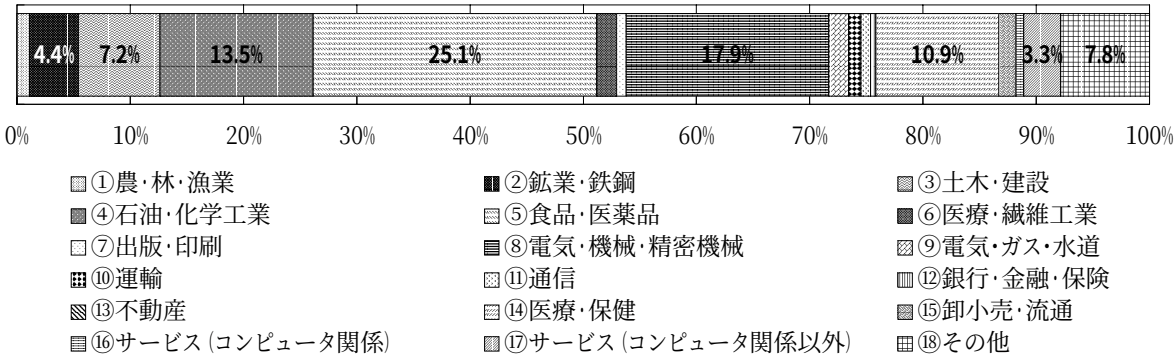


問4　京都大学は、近年、産学連携の推進に力を注いでおり、次のような点について改善・充実を考えています。それぞれについて、貴社（貴部門）はご関心がおありでしょうか。各項目について、あてはまる数字に○印をつけてください。

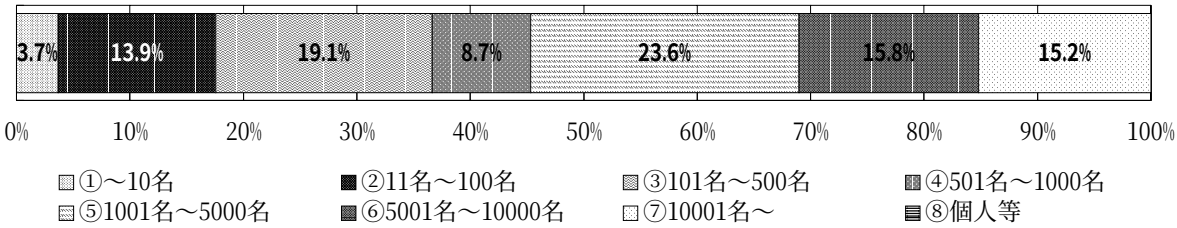


問5　貴社の業種と規模（従業員数）についておたずねします。それぞれについてあてはまる数字に○印をつけてください。

業　種



規　模（従業員数）



問6　京都大学との共同研究をなさってみて、どのような感想をお持ちでしょうか。また、京都大学の産学連携を中心とした社会貢献が今後どうあるべきかについて、現状の問題点やご要望を含め、お考えを自由にお書き下さい。

◆とても勉強になり有り難かった。ただし、研究者として個人的なつながりがあり、そこを通して京都大学の総合力を利用させていただき、ある程度情報提供などもしてGive＆Takeのいい関係になっているけれども、企業のNeedsと研究者のNeedsがぴたりと合うのは難しいでしょう。その辺がうまくいったらいいのですが、京大というのも巨大システムですから、その中の個々の人とどういうコンタクトを取るか・・・。そういうインフォメーションがうまくできるといいですね。

◆高度先進医療のための基礎的研究費が不足している（私が大学院在籍中から）ので、若い研究員の先生達に十分な研究環境が揃えるように、微力ながら応援している次第です。

◆我々の様な中小企業の場合、どうしても結果を急ぐために共同研究というレベルより、相談、助言という形が現状です。また委託研究となると費用対効果の面で厳しいものがあります。正直なところ未だ〇学の効果的活用方法が見出せておりません（ベンチャーの様に少人数が自由度が高い）。よって今は企業のイメージup及び他企業の紹介等を別の目的としています。

◆1. 短期の専門的な研究を実施したい場合、設備投資が節約できる。2. 自社で出来ない基礎研究を委託することで、リスク低減が可能になる。

◆自社だけでは改善困難な技術・開発事項について、広い視点からの御指導がいただけました。定期的な打ち合わせを通じ、担当技術者の技術的向上が図られるなど、大きなメリットがあるため、今後も機会を見つけこの制度を活用していきたいと考えます。

◆・木質科学研究所　劣化制御（〇〇教授）／受託研究員：業界の指導的な立場におられる先生から直接御指導をいただいたことや設備的にも他では望めないほど充実していて非常によかった。・建築構造　〇〇教授／奨学寄附金：専門的な見地から有効なアドバイスをいただけて良かった。・建築　〇〇講師／奨学寄附金：先生の専門外の材料ポリシロキサンの有効性についての共同研究だったが、専門外ということでうまくいかなかった。まだまだ個別のつながりにより共同研究が発生している。大学側の窓口を明確にして、何でもそこに聞けば専門の先生とコンタクトできるようになればベターです。

◆教官は尊大な態度の人ばかりである。企業人に頭を下げるべきである。

◆教官の学問レベルが高く、科学的な面では信頼がおける。最先端学問領域で吸収できることが、多く社内研究者の刺激ともなる。一方、知的財産権の確保、あるいは秘密保持という面では必ずしも意識レベルが高いとは言えない先生方もおられる。将来的には、共同研究成果の特許出願については、権利の持分ということと、費用負担などを明確にして（外国特許は大変費用もかかる）発明をより効果的に利用できるようなルールを作っていただけるよう希望します。企業側ももちろん相応の貢献をする必要があると思います。

◆私どもでは、常に新しい技術に対する理解能力を保持することが必要であります。そのための基礎知識を得るための定期的講座を開設していただけないものでしょうか？ただし、テーマをこちらが設定し、かつ講師の先生にご出張いただけたらと存じます。当然のことながら、有償です。

◆現在、分野の全く異なる2テーマについて共同研究中でそれぞれ大きな成果が期待されています。1テーマ担当の教授は小職の出身研究室の大先輩です。もう1つのテーマ担当の教授は、その教授の書かれた新聞情報の中に弊社技術との接点があり、共同研究に発展しています。いずれの教授も学会では著名な先生で大変activeなご指導をいただいております。理論解析はもちろんデータを大事にし、突き詰めていかれるのは共通で工学部としては好ましい研究開発の進め方と考えます。接点も含めて産業連携のあるべき姿なのかもしれません（恐縮ですが）。特に工学系の研究開発は実用化されて初めて価値が認められると思います。企業とは違い実用化までに何年、何十年とかかるかもしれませんし、それでもいいと思いますが、流行を追いかけたマッチポンプというか、閃光発火のような研究はいくら大学でも避けるべきと考えます。京大の伝統的でactiveな生かせる研究の発展を一OBとしても期待します。

◆現在、貴大学との共同研究におきまして、主に弊社の新商品開発に伴う物性評価及びアドバイスをお願いしております。こちらの疑問点に対する的確な回答及び物性試験に対するアドバイスをいただいており、感謝いたしております。産学連携が今後加速されていくと思われますが、企業化に向け迅速に対応出来るようなアドバイス等もいただければ幸いです。今後ともよろしくご指導いただきたくお願い申し上げます。

◆知的・経済的資源の有効活用のために、京都大学学内との連携やEBM研究所を中心とした産学連携により、一層の成果が上がることを期待します。

◆本回答者は、米国のバイオ医薬分野の仕事に携わっている。苦言を一言。京都大学を問わず、昨今ベンチャービジネスへの取組が宣伝されているが、基本的にうまくいくとは思えない。理由は多くあるが、産学連携ベンチャービジネスが思いつきの域を出ていないこと、実際にベンチャービジネスを経験し成功させた専門家が参加していないこと、知的所有権（特許）への対応がお粗末（弁理士を雇用すれば十分と考えている節がある）であること等々、失敗する理由はいくらでもある。バイオ医薬分野に限定して言えば、証券会社、投資会社及び金儲けにしか興味がない（例えば株式公開によって一攫千金を狙うような）取り巻きとチームを組むのではなく、腰を据えて先端的な製品開発、技術開発に取り組む必要がある。提携もそうした観点を有

している法人またはグループ（または個人）と実施すべきである。その際バイオベンチャーを成功させるためには、特定の分野で、大手企業よりも研究開発力や技術力において、よりプロフェッショナルでなければならないことに気付く必要がある。欧米、特に米国の上位バイオ医薬企業の研究レベル及び技術開発力を十分に学んで、どのような産学連携が求められるかを十分にスタディしたうえで取り組むのが望ましい。現状を鑑みるに、それほどの数のシーズが日本の大学に埋もれているとは考え難い。従って、長期的な展望にたって持続的に研究成果を出していく方針を大学側は持つべきであり、産業界はそれを社会に送り出す（開発）ノウハウを提供することを惜しんではならない。産業界の成果は、その研究開発成果をもって社会公共に貢献してこそ意味がある。京都大学においては、最近多く見られる「マスコミ吹聴」「出資者集め、ベンチャー企業設立」「株式公開」「金儲け」の図式を追っかけるような真似をして欲しくない。

◆社員（研究職）が、在学中の指導教官である貴大学の教官に相談したことが○○となり、共同研究に発展した。教授はもとより、研究室のメンバーとの共同作業・ディスカッションを通じて啓発され、刺激を受けることが多かったようで、社員の能力開発という面でも極めて大きな成果があったと考えている（単なる社会人大学院への○○では新たな効果は挙げ得なかったと考える）。

◆・教官・研究員共に共同研究（特に先端科学）には非常に熱心だと思います。また、論文化に対しても迅速に対応していただいている。・著名な研究者との共同研究の場合でも、研究を実施する研究員（医・薬）の質がそれに伴わない場合が散見され、データの質が問題になったことがあります。

◆・非常に貴重な提言やご指摘をいただき、貴学のレベルの高さを実感しています。・今後の日本の社会の発展には、産学がお互いの見識をぶつけ合い、お互いの利点を生かしつつ、新たな創造をしていくことが不可欠。・グローバル化の中で、世界の技術レベルを認識すること。・環境・資源問題や少子高齢化など、21世紀型社会に役立つ取組を進めること。・目先のものだけでなく、長期的な視点から役立つ技術を開発することが、重要だと考えます。

◆1. 優れた教官・学生が多く、かつ幅広い視野を持っている方が多い。そのため、理論面のみならず、民間にとって必要な事業性の観点にも配慮していただける。2. 奨学寄附金の手続き、枠組（年度単位等）に自由度が低い。また、教官にとっても用途の制限が大きいのではないか。3.「学」の側から「産」の側への連携の動きがもっと分かり易く、かつ活発になって欲しい。4. 学内・学会等で多くの優れた研究が発表されている。これらの研究成果の実用面での意義を分かり易く紹介する媒体が欲しい。

◆工学は応用であり、ニーズに対応しなければ価値がないと考えます。その意味で産学連携は、推進すべきです。問題は研究費用の処理ですが、①奨学寄附金は使いにくい（と聞いている）②研究者個人が領収書を切るには後ろめたさが残る（たとえそのお金が研究室の直接経費や学者の旅費に化けるとしても）、の問題があります。①公明正大で②担当研究者が実体に則して使える研究謝金の制度を作る必要があります。欧米の大学ではどうしているのか○を調べて①②を満たすような仕組みを考える必要があると考えます。清廉な学者ほど、この問題に悩んでいるように思えます。

◆受託研究員の期間が合計2年間しか在籍できないのは何故でしょうか？大学へ毎日通うことは、企業からの研究者の場合難しく、共同研究も長期になることがあります。しかし、正規に大学に籍をおける期間が限定されてしまっていては、十分な研究が出来ません。改善して欲しかったです。

◆私と家内、さらに子系の出身教官に対して少しでも御恩返しをしたいと考えてささやかな研究費の提供をさせていただきましたが、それがどのように活用されたか何ら報告もなく、虚しい気がいたします。私も厚生省の研究費をいただいた時には、詳しい報告を課せられたものです。民間企業（病院）から喜んで研究費の提供を促進するためにも、今回の調査を契機になお一層の連絡が必要と考えます。

◆教授・助教授の先生方は、非常に積極的かつ紳士的で、企業としてもお付き合いしやすい。構内に宿泊施設などがあれば、より共同研究に参画しやすいと感じている。不況の中、企業では基礎研究がやりにくくなってきている。企業ニーズに沿った形でより、実用指向の強い基礎研究を共同で行えれば、社会貢献できるものも多くなるのではないかと考えます。

◆産業界でのご経験のある方を教授、助教授に登用されますと、学部、学科の雰囲気がずいぶんと変わるのではないでしょうか。昔と異なり、大学の方が産業界よりも進んでいる（大学は産業界を指導する）といった通念は、成立しないと思われます。いたずらに起業を唱える必要はないと思いますが、大学が産業界のニーズに応えられていないのも、事実ではないかと思います。産学連携の前提として、大学教官の人事の流動化を促進すべきです。

◆いつもクオリティーの高い研究内容をご紹介いただいておりまして大いに感心すると同時に、同じサイエンスを志す者として刺激を受けております。私どもとしましては、京都大学におかれましては、普遍的で応用性に富む優れた基礎研究を数多く世に出していただきたいと考えております。

◆一言で共同研究といっても、その形態は様々であります。研究委託契約を締結して実施する共同研究の場合はその目的、内容等極めて明白であり、得られた結果は相互に高い価値を有するものです。反面、実行に際しては必要に応じ大学内IRBで審議されたり、いわゆるGCPやGPMSPといった法の下での諸手続を必要とし、時間と労力を必要とします。一方奨学寄附による共同研究（？）は私どもが理解する限り共同にはなり得ないと考えています（例外はあると思いますが・・・）。すなわち寄付行為は寄付者にとっては対価を求めない【求めてはならないと公正競争規約（→究極は独占禁止法）で規定】からです。利益の社会還元として、広く当該教室の研究発展のために提供、寄附されるものです。しかし、寄付者はその行為を付加価値の一つとして位置付け間接的なメリットを求めていることは事実です（情報提供など）。後者において相互に確信できる成果の検証が出来るようになることを願っております。具体的には寄附対象者となる研究の目的やEnd Pointを差し支えない程度に予めopenにしていただけると社会貢献の意味が強く表れてくるものと思われます。

◆共同研究について：私の目標とした成果が、得られています。研究の実行について良い討議がなされ、高いレベルのご指導もいただきました。産学連携について：相互情報交流と適切な仲介者が必要と思います。
◆1. 色々な研究を共同でやることが出来、それが論文、雑誌になることで当社にとって大変評価を受けるものができ、有り難うございます。2. 今後も連携出来る研究を協力して実施させていただきたいと考えております。
◆・非常に技術は先端性があり高い。・基礎研究と応用研究のバランスが必要。とんでもない研究を世界に発信して欲しい部分もあるし、すぐ役立つ技術を取り組んでも欲しい。
◆専門的な知識の吸収や学術的な観点から得られる様々なアイデアは、企業の立場にとって非常に有益なことです。また、私ども企業側の考えを聞いてもらうことについても、社会貢献を目的とした研究活動の一助になるものと考えます。
◆大学の先生方（京都大学に限らず）は、ご自身の専門分野について往々に保守的になります（と思います）。そのことがややもすると中小企業のベンチャー精神（意欲）を阻害することがあると思います。
◆教官及び学生の質が高いため、当方が期待する研究成果に応えていただける確率が高いと思います。一方、産学連携での問題点としては、企業側の研究内容の機密漏洩が挙げられます。先生方とは信頼関係もあり、企業側の機密が保てますが、研究を実施している学生にまで、厳格な管理は困難と思われます（担当学生がライバル会社へ就職するなど）。したがって、企業側の重要な応用研究での大学との連携は、現状では難しくその目的のための基礎学術的な研究内容について、大学側にお願いするに留める必要があると考えております。
◆企業では新しい技術を確立しても、その実効のみを求める傾向にあり、理論付け／現象解明のための研究はなかなか実施出来ないものである。このような研究を実施してもらえるのが大学の研究であり、企業技術と合わせて完璧な技術となるのではないか。また、大学にとっても、実学に結びつくよい研究テーマが得られるし、共存関係が得られると思う。
◆共同研究や寄附金が関係するもの以外、例えば学会の場や政府関係の委員会の場などでは交流も多い。教授スタッフはもちろん、学生諸氏のレベルも高い。ただし、研究施設はおおむね貧弱である。大学に対する理論面、基礎研究の部分への期待は大であり、今後とも積極的に連携を図っていきたい。また、優秀な卒業生の輩出への期待も大きい。
◆・弊社の部門（林産業）には、貴大学の長年の研究実績と多数の研究者及び人脈が非常に役立っている。・共同研究に対する大学の機能と研究者の高い能力が有効です。
◆現在の顕在化したニーズではなく、今潜在化しているが将来顕在化するであろうと考えられる技術の展望について、サジェスチョンが得られれば企業として非常に有益である。たとえば、半導体に製造用装置であるステッパは現在248mmのkvFが最短波長のレーザであり、次いで193mmのAvFレーザが実用化されるところまでは確実だろうが、その後の見通しについての情報が得られれば効果は大きい。
◆学問レベルが高く自社基礎技術の向上と企業評価を高める意義があり、また地元であるため連携が取りやすいメリットがある。今後、機会があれば共同研究を進める用意があるが、企業側の知的財産権に対する考えが明確になり、手続きが簡略化（スピード化）されないと難しい。特許に対する権利は共同出願が基本であり、特許実施権の許諾が10年となっている。現行規約では、医薬品のように開発に10年以上必要な場合には意味がなく問題である。
◆当方の委託内容を正確に把握し、綿密な実験計画を立て実行して下さる。また、中間での意見交換も適切で希望期間内で当初の目標を達成して下さいました。今後も必要に応じ、ご相談をしたく存じますので、相談窓口を作っていただければ有り難いと存じます。
◆大学側の優れた研究成果を積極的に活用させていただきたいと考えておりますので、今後ともこのような機会を多数設けていただければと思います。
◆京都大学との共同研究は比較的上手に進められることが多いと考えています。事務的手続きが簡便であるばかりでなく、会社の研究開発における状況を理解していただいてる点にあると考えております。企業としても産学連携は極めて重要であり、これを積極的に進められるとの方向は歓迎すべきと思います。しかし、産学連携を目指すばかりに基礎的研究への貢献が少なくなる傾向がある大学もあり、若干憂慮しております。企業と大学の各々の立場で協力できるものを追求することが肝要と考えています。
◆非常に丁寧に試験をしていただきました。感謝しております。また、研究をお願いしたいと思っています。
◆共同研究といえるのかどうかは判らないが、木質科学研究所と常に情報のやりとりを行っている。企業がニーズを伝え、大学が適切なアドバイスをされる。場合によれば実験も行っていただいており、その成果は確実に企業化される。現実には「建築廃木材のリサイクル」については先生方の研究成果が企業として生かしている。困ったときには先生に相談すると参考になるアイデアを頂戴できる。社会に対する貢献という意味では、我々がそのことを十分に社会に伝えていない嫌いがある。120％満足している。
◆・産学共同研究に対して全般的にもう少しフランクに考えてもらいたい。・教授会を意識する必要はあまりないようにするべきである（教授会の承諾を得る必要など）。・あまり関係がないが、外来者の車の置き場所を十分とってもらいたい。
◆会社として企業の発展につなげる技術確立が出来て非常によかった。
◆・特許出願した場合の大学での権利関係をフレキシブルに話し合える第三者（仲介者）が必要である。・教官の特許に関する知識（認識）が不足している場合があるので、この分野の教育（知識を習得）するシステムが必要である。・共同研究のスタイルが多様化しているので、いくつかのフォーマットがあると良い。あるいは相談にのってくれる窓口が必要。
◆当社は京都大学へ研究員を派遣して研究をしております。この時に問題なのは、研究員は2年間しかおれないという制限があるので、2年毎に研究員を入れ替えざるを得ません。一つのテーマを長期的にわたって追求する場合、途中で人を入れ替え

るのは無駄が多いと思います。このような制度は必要なのでしょうか？研究成果はかなり良好で、これからの省資源、環境保全社会に適した医療貢献に役立つと確信しております。我々がご指導いただいている先生方は実社会に本当に役立つ研究をやるという意欲が高く将来を見据えた研究をさせていただいています。

◆現在、共研は中断しておりますが、優秀な人材を推薦いただいたことに感謝いたします。基礎研究の強みが継続されんことを期待します。

◆・貴大学との共同研究は非常に有意義であり、今後とも継続して行いたいと考えております。・文献の複写サービス等について、郵送、FAX等でも対応していただけたら大変有り難いです。

◆実際には共同研究ではなく、発注先から大学へのトンネル会社として機能しただけであるが、研究成果等について親切にご指導いただき、経験の少ない分野での知識を得ることができた。産学連携を中心とした社会貢献については、大きく2極化することが考えられ、一つは新技術による新たな分野の開拓であり、一つは基礎分野のボトムアップではなかろうかと考えられる。新技術の利用法としては、新分野のみでなく、既往技術のコストダウン等も含め今後期待されるものであるが、現状では大学との情報交換の場が少ないためか、どのような研究が行われているか把握していない場合が多いと考えられる。大学からの情報公開と民間からの接近が今後必要となるものと考えられる。基礎分野のボトムアップについては、現在の経験的土木からの脱却を目指すものであり、具体的には各種マニュアル、指針等の見直し等を有識者からなるワーキンググループ等を組織して実施する等が考えられる。

◆・京大の伝統である理論をさらに発展させるようにしていただきたい。・実用化は企業の役割であり、大学は理論や新しい発想を創出する所と考えます。世の中で大学の成果が役に立ちたいと言っていることに、おもねることなく、100年後に役立つ成果を出していただきたい。その先導的役割を京都大学は負う立場にあると思います。

◆明確なニーズを先生にお伝えしての共同研究であったが、こちらの考えるようなペースで研究は進まなかった。大学には的確な助言をお願いする程度で実務までは期待できないと感じた。大学の研究者は産業界の真のニーズを理解していないのではと感じます。分野にもよると思うが、今のままでは大学発の技術が産業界で花開く可能性は低いと思う。産業界の真のニーズを理解した人材が大学で活躍する（産から学への人材の移動）が、大学はより基礎的（それも的はずれでない）な研究の中で、学生の教育に活かした方がよい。中途半端な起業、大学発のベンチャーは日本の将来のためにならない。

◆1. お世話になっている先生には技術的課題について、適時的確なアドバイスをいただいている。また、その分野における技術、研究の動向、見通しについてお教えいただいており、開発に役立っている。2. 今後の製品、技術は、今までの学問の分野の範囲を越えた部分での発展があるものと思う。大学の立場を生かし、企業の技術と融合して新しい分野の形成を期待しています。3. 共同研究、研究委託などの研究費用（企業の負担分）の算出の基準が不明確な場合があるように感じます。

◆企業の実態を十分にご理解していただいていることに感謝しています。教授間のセクト主義もなく、幅広い交流をさせていただけることも企業にとっては、やりやすく、有り難い。特に大きな問題点は感じていない。

◆幸い共同研究テーマが企業で出来、大変うれしく思います。今後とも産学が連携して社会貢献が出来ることを望みます。

◆（感想）教官によって多少のバラツキはあるが、大抵が研究開発目標を達成出来ている。弊社の知識・技能ではやれないことを期間内に高いレベルで実現していただけている。（今後どうあるべきか）企業側の関心事は共同研究によって、自分たちでやれないことをやっていただき、その成果をもとに新製品開発に生かしていくことである。具体的には新製品開発におけるアイデア発案のもとになる人間情報をいただくこと。あるいは開発した製品のパフォーマンス評価方法を開発していただくことである。その場合、共同研究や委託研究では手続きが面倒くさいことや知的所有権については、双方で十分話し合いのうえ、双方にとってメリットのあるような形で決定することができる。したがって、弊社では奨学寄附金が主流を占めはじめている。これは京大に限るわけではなく、他の国立大学でも同様である。お金と成果の取り扱いをもっと多様な工夫をしていただきたい。

◆今回行った共同研究については、弊社の技術レベルも向上するなど、その直接的な結果だけでなく、人的交流についても大きな成果が得られたと評価しています。しかし今後は、弊社のような中小企業が行う研究事業については、1企業体が出資するだけじゃなく、公的な資金援助による助成が受けられれば、さらに共同研究が行いやすくなると考えています。また、現在公的な研究助成に頼っている部分についても、今後は研究計画の内容をインターネット等で公開し、共同研究の相手を公募する、または出資を募るなどの方法をとられることにより、さらに産学連携が進むのではないかと考えている。

◆一言で言えば、共同研究を行ってよかったと思います。当社は自社内に研究所を有しており、各分野の専門研究者が居りますが、利潤を追求する企業人と純粋に学術的な研究が行える教官とでは、モノを見つめる視点が異なります。よって立場の異なる研究開発者が、一緒に一つのモノを観察し議論することは、産業の発展に寄与すると思います。現状の問題点としては、大学の先生と共同研究を行う場合に発生する費用（企業が京都大学の教官にお支払いすべき費用という意味です）の処理方法が、非常に手間が掛かり面倒なところです。例えば一緒に研究開発をしたモノを評価したり、テストしたり、或いは一同に集まり議論する場合には、様々な細かい費用が発生します。企業としては大学側の教官の労力に対して、相応額をまとめてお支払いしたいわけです。ところが、謝礼というかたちは国家公務員法上採るわけにはいかず、当社の社長が貴校の総長宛に寄附金の申し入れをし、逆のルートで許諾の通知があり、一旦学校に納めた後、教授会の承諾を得て初めて教官の手に渡るといった複雑な手続きが必要になってきます。こういった手続きを簡素化出来れば、さらに産学が身近になり、共同研究を通じて社会に貢献出来ると思います。勿論、簡素化しながらも、貴校の教官と企業の関係が適正に行われているか、学校側が把握されるガラス張りの管理体制というのも必要かもしれません。

◆親切で適切なご指導により共同研究が順調に進んでいます。感謝しています。研究完成の暁には社会貢献が出来ると楽しみにしております。予想に反して分かり易く実学的と喜んでいます。

◆京都大学との共同研究は前年に指導いただいたことの延長でありますが、基礎知識を開発していただき誠に有り難うございました。今後このノウハウを活かし産学連携を中心とした社会貢献がより大きくできることを確信しております。
◆1) 共同研究先（教授）により対応がかなり異なる。誠実であり、共同研究が相互にメリットがある形で進行する場合もあるが、その一方で、研究費を確保するための名目上の共同研究も多い。民間企業であるため、後者のタイプを受け入れざるを得ない場合がある。2) 委託研究：一応満足している。しかし、研究期間が大幅に過ぎても報告書を提出しない場合もある。3) 共同研究するのには地理的に不便である（関東のため）。密接な情報交換が出来ない。4) 国内の大学・研究機関が推進するベンチャー起業にはあまり期待していない。独自な発想・発見によるものが少ないこと及びいわゆる殿様商法的であるため、そのほとんどが実際には役に立たないと思われる（京大に限ったことではないが）。5) 企業の研究・立場を良く理解したうえで、真に相互メリットがある共同研究システムを構築してもらいたい。
◆バイオ関係の共同研究を行っている当社は物とり、天然物、微生物代謝産物、京大はその免疫効果の研究を分担している。社員の技術開発力の向上に役立っている。
◆大学研究室の研究テーマが次々と変わるので、ちょうどタイミングよく共同研究が出来れば効果が上がると思うが、それが常にそのような状態でもないと思う。学生の質が高いので、共同研究に貢献できる点はさすがに京都大学ならではと思う。共同研究をするならば、成果が思わしくなくても、連名の論文発表という所までは、最低限行き着きたい。
◆私どもが対応いただいている先生は、共同研究に関しては積極的に対応されており、共同研究自体は進めやすいと考えています。今後、ともに継続していくことを望みます。
◆優秀な人材が集まる京都大学では埋もれている研究成果も多数あると考えられる。積極的な情報開示や、TLOとの連携によるこれらの特許化を進め、産学連携を推進していただきたい。
◆京都大学は知財に関する考え方、仕組みがきちんとしている大学だと思います。貴大学のみでなく、多くの（全ての）大学で、共同研究に関する考え方、システムが統一され、スムーズで効率的かつ独創的な共同研究が行われるよう期待しています。他大学との連携も同時にご検討いただきたいと思います。
◆共同研究により、当社の技術レベル向上を図ることができた。企業内で実施中の施策を推進していくうえで、大学の存在は大きな精神的な支えになっている。
◆これまで共同研究をいくつかさせていただき、工業的視点、基礎技術育成両面で多くの成果を得てきており、今後も継続させていただきたく考えております。
◆・大学の先生も益になり、企業も益になる共存共栄の研究が最もよい。・大学との共同研究は、テーマさえよければやる用意がある。
◆（1）高度な研究ポテンシャルの教官等と課題とする研究テーマについて的確かつ迅速に対応いただけ、かつ対外発表まで実施いただけた。（2）一般企業の研究開発部隊のみでは、課題解決上、時間を要したり、解決能力が不足する場合がある。よって、産学連携することにより、解決のspeed upを図り、実務上の新製品、新工法、開発等社会貢献していくべきと考える。
◆昨今の研究においても、差別化するためには、産・官・学の研究開発が必要だと考えております。京都大学の教官方には、以前からご指導いただき、適切なアドバイスがいただけます。
◆大学の研究に望むこと。①基礎的な研究②誰もやっていない研究③企業がやりそうもない研究
◆研究の進捗にスピード感が無く、技術進歩の早い業界ではやや苦しい印象がある。
◆研究能力が高く、また他の大学と差別化されている。
◆弊社では、セルロースを用いた素材開発に関する共同研究をさせていただいていますが、この共同研究は大変有意義に遂行できていると思っております。弊社においては、セルロースに関する基礎的知見のベースが乏しいため基礎からの研究を起こすには大変な労力と時間が必要と思われましたが、ご専門の先生方のご指導をいただくことで、研究の開始をスムーズに行うことができました。このことが今回の共同研究に関し、弊社にとっての大きな利点の一つであると思っています。また、2ヶ月に一度ディスカッションをお願いしていますが、このディスカッションを通じて新しい視点、アイディアが得られ、弊社における検討にも大変役立っています。ご担当の教授及び講師の先生には、お忙しい中にも関わらず、ディスカッションにお時間をお取りいただいていることに感謝しております。京都大学の基礎研究により生まれた要素技術を産学連携による共同研究にて生産可能技術となるまで育て上げ、もって社会貢献を果たすことは、非常に意義のあることだと認識しています。大学の研究が全て実業への展開を目指すべきものであるとは必ずしも思いませんが、産業への展開が可能なものについては、今後とも産学連携をさらに進めていくことが、企業側にとってはもちろんのこと、京都大学側にとっても望ましいのではないかと思います。
◆煩雑な事務手続きは多大な時間を要し、研究遂行の障害となるため、事務手続きの簡素化、融通への配慮を強く希望します。企業と連携するうえで大きな問題の一つではないでしょうか。
◆適切なご指導のおかげで3つのテーマ全て完成しましたが、実用機開発資金が不足してしまい、現在補助金申請をしているところです。
◆現在、産学連携の経験豊富な教授と進めており、研究は大いに進展している。実用化までには至らないかもしれないが、企業の基礎技術を深化させるためにも、さらに共同研究を継続したい。
◆1. 民間ベースをとらえた研究に重点を置く：将来の日本の頭脳である大学が、ITをはじめ民間の開発者に手柄を取られている。特に特許も民間の件数にはかなわない。それは、大学の持つニーズが学問のためのニーズであり、民間が望んでいるニーズではないこともある。将来の大学は、政府の補助が少なくなり、独自に金を稼ぐ機関として自己改革する以外に発展の道はない。つまり、民間との交流を大学から求めないと明日はない。民間企業がどんどん淘汰されているのに、大学だけいつま

でも安泰でいられる訳がない。2. 民間から教授を採用する：実際に金を稼いできた人でなければ、将来のニーズは分からない。お金を稼ぎ出さないぬるま湯の大学の中からはもはや人材を育成できない（立派な方もいるが、ごく少数である）。今、研究が行き詰まり閉塞感のある分野こそ明日のニーズであり、そんな部門が、より民間の教授を採用して研究を行えば必ずよいものが研究できるはずだし、ヒットが打てると考える。3. 大学の勉強は、専門教育を主体として一般教育の期間を専門教育に置き換え、4年間のうち、企業に1年間研修に行き、学生自身に民間のニーズをつかませる方策を提案する。社会に出ると自然と自分の能力の足りないところは勉強するようになる。また、大学在学中でも原書を読んだりすれば外国語は自然と勉強するようになる。つまり、一般教育を一生懸命に教えたからって、単位を取るための勉強であり、すぐ忘れるものである。だから、企業で研究のニーズを掴まえさせたら大学の4年間は素晴らしいものとなるはずである。研究ニーズは学生が本当に考えたものでなければ、本人のやる気は出ないはずだ。ニーズを見つけられない学生は2年間でも3年間でも研修させ、3年で見つからない人は退学させるという厳しさを学生に求めたら真剣に研究するし、成果も上がると考える。

◆私どもは関西に研究所（の一部）があり、場所的にも近く、研究室の設備を一時的に使わせていただくなど、人的交流も含めた共同研究的なコンタクトもさせていただいており、感謝しております。今後は大学－企業での目標（共同研究）に対する役割をはっきり定めた上で、更に実効の上がる共同研究となるように進めていきたいと考えております。

◆貴学の改革がもう少し敏速に行われることを期待します。

◆産業界からの技術者の受け入れを積極的に行っていただきたい。学界としては、研究の具体的な方向性、目標を決定するうえで非常に参考になるはずです。

◆試験結果が予想以上に好成績であったことに感謝しています。また、これに伴い追加試験を考えていますが、このことに対しても教授の全面的な協力が得られることになり、うれしく思っています。新規で共同研究を希望していても、その窓口機関が分からないため、諦めざるを得ない状況ですので、もっと中小企業から参加しやすいようにしていただければと思います。

◆教育という範囲内で共同研究には限界があることは事実だと思いますが、先生方の科学技術を世に出したいという思いが、予想以上に強く、我々の開発が大きく進展いたしました。有り難うございました。今後は、大学発信のオリジナリティの高い技術を活かす形での産学連携、及び大学の先生個人からのご指導という最低二つのタイプを分けて、大学とのお付き合いをさせていただければと思います。

◆感想：教官・学生とも優秀であり、安心して共同研究が出来た。成果も上がり、企業の立場を考えて公表していただけた。社会貢献：工学は企業のニーズを通して、研究の必要性があり、ポテンシャルが上がっていく一面もある。さらに、工学の問題点を理学から論理的に明らかにされる場合もあり、共同研究は必要であると思う。ただ、いつ役立つか分からない基礎研究も必要であり、このバランスが大切であると思う。

◆・貴大学の理論面、基礎分野でのレベルの高さにつきましては、弊社内関係者におきまして、評価が一致しております。・今後の要望といたしまして、是非独立行政法人化後の現在の定型的な共同研究契約内容にとどまらず、研究内容に応じた柔軟な内容の共同研究契約の締結が可能となればと願っております。（例：守秘年限、知財権の取り扱い等）

◆共同研究の成果については、ほぼ満足している。より身近に共同研究できる（教官の研究内容と専門性）情報の提供をお願いする。

◆研究に関する手法や得られた結果に対する考え方については、該当分野における最新の情報を踏まえながら、ご指導いただき大変に参考になっている。当方における技術課題も十分にご理解いただき、実用的な検討を支援する基礎的知見を提供いただいている。産学連携の際には、守秘義務や知的財産所有権の問題、さらには人的交流の物理的制限が大きな問題と思われる。現状の壁を払拭するような大胆かつ柔軟な連携のあり方を取り入れていただくことを期待する。

◆先端の学問分野への研究展開及び現実社会の工学応用について高いポテンシャルを感じ、今後も機会があれば共同研究を実施したいと考えています。産学連携の課題としては、企業で現実的に必要としている研究分野、研究課題と大学側の研究科、講座がマッチングしていないことを感じます。企業のニーズのみで学科、講座の数を決定する必要もないと思いますが、現状ではごく一部の学科、講座にニーズが集中してしまい、現実的に対応できないといったことも発生していると思います。また、京都大学の学問追求に対する自由な校風は共同研究、産学連携において他大学より優れた環境であると感じています。

◆当社からの教官との共同研究でしたので、企業背景もよく理解いただき、スムーズな共同研究を進めることが出来ました。ただし、大学の研究内容が分かりやすい形で入手が困難なため、人脈を通じてのアクセスしか出来ず、この点でのプロパガンダは必要と考えます。

◆大学との共同研究や委託研究では、先生の能力、キャラクターに左右される部分がかなり大きいと考えております。その点で私どもがお願いしている情報学研究科の○○先生には大変感謝しています。産学連携ということに関しては、企業側の勝手でいえば、1. 情報入手のための窓口設置（コーディネーター）：例えば何かについて先生の意見を聞きたいといった時に、その分野に精通されている先生を見出すのは、WEB上で研究内容が公開されてはいるが、なかなか困難です。大学にコーディネーターがいてくれればと考えます。2. 大学の先生への評価（学内の）：企業で実用化し、商品化するものは必ずしも最先端技術とは限らないが、社会的な貢献は大きい。そういう場合、論文の引用回数などだけではなく、別の基準で大学の先生が学内できちんと評価されるようにすべきです。3. 個人的には大学の先生がどんどん特許を取得し、それを企業に使わせて商品化し、ロイヤルティーをもとに新たな研究設備などを導入していけばよいと考えています。

◆京都大学との共同研究を通じて、京都大学の教官の基礎研究レベルの高さを認識した。また、実用化、産業化に向けた姿勢についても、評価できるものと考える。ただし、複数企業との共同研究、別テーマ等での他企業との共同研究に関し、権利化、特許、研究テーマの分担等についての認識、配慮に改善の余地があるように感じられます。今後より一層の共同研究体制を

希望いたしますことより、上記問題点等の改善により、トップレベルの産学連携システムの構築を希望いたします。

◆当社では、技術研究所は関東地区にあるにも関わらず、京都大学とは比較的つながりも深く毎年3件程度の共同研究（主として指導受けの形）を行っています。これは本社が関西ということもありますが、それだけではなく、以前から指導を受けている京都大学の先生方の学問的力量が高く、また企業のニーズをよく把握した指導を受けることが出来てきたためと考えています。経済の成長が停滞している現状で今後はより一層研究部門の削減や効率化が要求されると予想されています。社会貢献についてどうあるべきかは難しい問題であり、一般論になりますが、民間の研究レベルが上がってきている今日、大学が社会貢献するにはこれまでより高度な役に立つ知識、技術レベルを保つことだと思います。

◆京都大学の共同研究担当教官の方々には、我々の研究目的に対し、深い理解を示していただいており、このことと大学で擁立された効果的な課題解決評価技術により、これまでに目的とする成果に結びつくことが出来たと考えております。今後も、当社といたしましては、さらに現在の課題につき検討を進めさせていただき、貴大学との共同研究をさらに発展させて進めさせていただきたいと考えております。その場合には、お互いに研究の目標及び利益を共通して持つことが大切であると認識いたしており、大学としての学問的研究課題の充足と、企業としての利益獲得が十分に得られることが重要と考え、課題達成による社会的な貢献性とともに、いかに独創的なテーマになりうるかが、今後の我々のレベルで吟味しなければならない課題と認識しております。今後とも当社は、貴大学との共同研究を通じて、さらに実りある研究開発が出来ますことを希望します。

◆当社は貴大学出身の技術者が多数おり、また、当社より貴大学の教職に就かれた方もいらっしゃいますので、関係は深いと思います。個人レベルの交流は相当あると思いますが（学会等を通じて）、大学対会社という関係での連携は少ないので、双方向での情報公開により、新たな関係の構築のきっかけが作れるのではないかと考える次第です。

◆当社は奨学寄附金の形で共同研究を進めている。担当教授とは共同研究テーマ以外の技術課題に対しても相談をお願いし、適切なアドバイスにより課題解決に効果を上げている。産学連携による社会貢献においては、研究成果を通じての製品開発の形で社会貢献に結びつくと考える。研究成果の内容にもよるが、産学連携を謳いその技術優位性を製品PRとしてとらえている。特に「京都大学」と明示することにより、その技術レベル以外にも＋αのイメージを高める。

◆知的遊戯としても、現実の成果を出すべき研究としても、とても良い時間を持てました。ただし、新しい手法が必要となったときに共同研究者も初めてのことだったため、結果を出すのに手間取りました。その際にはすでにその手法を使っておられた他の方のadviceが必要でした。→themesやmethods毎に、どの研究者が得意とされているのかのdatabaseや需要と供給を結ぶ対話式情報プールなどがあればよいと思われました。

◆・会計年度をまたいだ契約が不便である。契約書を何度も交わさないで済む方法はないか。・覚書と契約書が必要。契約書のみに出来ないか。・契約書作成時に民間側の記入項目の確認が印刷物として郵送される。電子メール化を希望。・民間必須項目の書式を電子ファイルでいただきたい。印刷物からフォーマットを自ら作成することは不便。

◆研究者の派遣を伴う共同研究は極めて有意義であったと思います。先生方や院生との人脈を作ることができ、帰社後の研究に幅が広がったように思います。将来の企業内研究は多分に応用研究（実用化研究）にシフトせざるを得ない状況になることが考えられます。企業内研究で出来ない基礎研究は大学の研究機関の分担となり、企業の期待は大きいものがあります。大学と企業との情報交換ができるチャンスが今以上に増す仕組み作りが重要になるのでは考えます。

◆優秀な教官と学生がいるので、共同・委託研究は企業の費用対効果でみても有効なシステムである。さらに先生を介して専門家の紹介も期待できて有り難い。

◆・望むべき成果に応えられる人材が揃っている。・米国等の諸外国と較べ、まだまだ産学連携が充実していないと思われる。法的整備を含めシステム構築を図る必要がある。・技術の実用化を図るシステムの検討も必要ではないか。

◆当企業とて京都大学の先生とは数十人の規模で個別に仕事のご相談をしているのがほとんどである。すなわち企業内のある部所の責任者（担当者）が大学の一先生と特定のテーマを設定し、情報交換させていただいている場合とテーマを設定せずに「寄付」のみ行い、大学の先生に何も「ノルマ」を要求しない場合がある。現在は私の部門は「寄付」タイプを取っておりますが、その理由は手続きが簡単なこと、先生に喜ばれること、先生とのお付き合いも長く続きやすいことが挙げられます。大学の先生が 10 企業を一つの研究テーマのもとに組織化され、共同研究し、新しいソフトを開発した経験がありますが、ソフト開発の軽減にもなり、各社の know-how も提供し合って作成したため、大学の先生なしには開発できないものでした。このソフトは 10 企業以外には有料で販売され、利益も上げています。しかし、開発費の分担では契約書作成が面倒でしたが、仕方ないでしょう。パテントの帰属については全面的に大学に帰属させたと思います。応用と重点に考えられる先生、基礎を重点に考えられる先生、どちらも企業にとって大切であり、両方の目的意識をもって私たちは共同研究を指向するでしょう。

◆・企業側からの思い切った資金供与の出来る仕組み作りが必要である。・実験設備等を快適な環境で使えるための器（実験公用）の建設が是非必要である。

◆我々にとって全く未知であった分野を切り開いて下さったという感じです。また、こちら側が企業であることを十分理解されていたようで、方針等を含め適切なアドバイスをいただきました。

◆1. 要望に対して適切な助言や情報提供を受けた。2. 応用研究のみがクローズアップされるのではなく、基礎研究への貢献を十分に考慮願いたい。

◆今後、産学連携は非常に重要なテーマであると考えます。透明性が高く、スピードのあるコントロールセンターの早期稼働を要望します。

◆人、設備とも基礎技術のレベルが高く得られるものが多いと思う。ただ、企業のR&Dと大学の場合はスピード感が違うことから、共同研究テーマを絞る必要がある。今後としてはさらに開かれた大学として諸々の施策を実行いただきたい。

◆先生のなさっておられる研究内容と当方での研究内容のオーバーラップが重要。重なっているところは当方での検討も含めて進展するが、将来を見通しての共同研究は、なかなか方向性を見出しにくい。産学連携については、より一層進めていただきたい。企業テーマにおける課題点は、学問的位置付けとしては、個別事象における課題点となりがちで、企業ではこれを試行錯誤で解決に導いている。先生方には、こうした現象への直接的なアドバイスと共に学問的整理による方向性発見への誘導を期待する。企業間競争の中での動きであり、守秘義務のより一層の適切な運用を望む。設備的には、先に研究を目指してより一層の充実を望む。

◆1. 論文を書くことが重要ではあるが、それを基にもっと社会に貢献できる能力を持っている。十分に活かされていない。2. 他の研究者の結果、成果を生かそうとしない。3. 産学連携はリストに記載して配布するだけでは失敗するだろう。企業のニーズについても学ぶべきである。

◆1. 非常に有効でした。具体的には最新情報の入手、学会、業界動向の把握等です。2. 問題点があるとしたら、1人の先生のご意向の範囲だけでなく、いろいろな技術、コンセプトを組み合わせるときになかなかフレキシブルに動けない点です。やはり企業として配慮するところがあります。

◆共同研究をさせていただいている○○教授は、社会貢献を実務レベルで連携して推進する先生であり、今後さらに実務レベルで進めて欲しい。

◆大変専門性に優れ、また国際的にご活躍されている先生が多いと感じました。同じく学生さんも優秀な方が多くいらっしゃるようです。このため各研究が充実しているとの印象です。産学連携については、官も加え産学官連携が良いかと思います。1つのテーマをそれぞれ異なる角度から見て、同じテーブルで議論することで、より実効性のある成果が得られています。特に深く専門的な研究、理論と民間の現実的な考え方（エンジニアリング）が意見を交わすことが具体的かつ実用的な提案に結びつけられることと思います。

◆1. 企業独自では達成できない世界トップレベルの基礎研究を行っており、大いに参考になっている。2. 実際に起業化するには、いろんな問題点を解決しなければならないので、複数の研究室、企業との共同研究が望ましい。

◆当院は企業立業院で、このアンケートの対象となっているメーカー（製薬会社etc.）の会社ではありませんから、少しニュアンスが異なりますが、現在のところ、大学病院に依頼された臨床研究のうち、実際の患者さんのデータを必要とするphase II IIIIVの共同研究という形で協力してやっているのが現状です。

◆基礎研究の充実は当然だが、技術の実用化、商業化も合わせて考える人がいても良い。特に医療技術の実用化は医学の基礎研究と並んでもっとも重視されるべきものです（＝産業及び福祉の両面から）。

◆高く幅広い専門能力があり、私たちの開発課題に対して親身にアドバイスをして下さる先生に奨学寄附金を申し出ています。日本では、いかに創造的な研究を行っているかよりも、リーダーシップ能力が高い研究者が高く評価される傾向があると思います。産学連携を重視しすぎるあまり、地味ながら国際的に高い評価をえている研究者の活躍の場を奪う大学にだけはなって欲しくないと思います。なお、京都大学は10年前と比べ、人材交流が活発になり、学科再編も行われ、研究の活性化という点では望ましい方向にあると思います。

◆今後とも貴校との機会を積極的に持ちたいと思っています。

◆京都大学と幣所とは地理的に近い、卒業生が多く入社しているということもあり、長い間に渡って複数の研究室と主に奨学寄附金の形でお付き合いさせていただいております。お付き合いさせていただいている研究室はその分野では世界でもトップクラスにある研究室であり、お付き合いを通じて最先端の技術に接する機会が得られる、研究員の技術的レベルアップが図れるなど技術面でのメリットが得られております。また、1～2年前までは上記のような技術的レベルアップ主体のお付き合いでしたが、それ以降大学側に企業との共同研究によって実用材料の創出に貢献したいという姿勢が見られるようになり、より実業に役に立つ関係に変わりつつあるように感じられます。日本が今後とも世界でトップレベルの技術力を保持し続けるためには、より一層の大学と企業の密接な関係が不可欠と思っておりますので、現在のその方向への動きをさらに進めて定着していただけたらと思っております。

◆企業はグローバル化、スピード、効率化の波に追われておりますが、革新的、創造的はやはり個人が源泉。その意味で京都大学人とそのネットワークに今後期待します。一つ希望とすれば、企業でこうしたい／共同開発をこのテーマでやっていきたいというケースの時に、どこがベストの受け手／能力があるかを見出すことが（やや）困難。これを相互に解決する手段が欲しい。

◆WHO健康調査当方は主に労力を提供しただけで、feedbackは若干あったが、研究成果についての情報は十分にいただけなかった。担当教授の発想も対応も良かったが、配下の担当者の質が悪かったこと、当該自治体も大幅に関与したことから、途中からは自治体－大学の関係のみに収斂してしまった感があります。色々の事情はあったと思われるが、協力病院としては、おいてけぼりのようになってしまった。教授が替わって継続されるのかどうかが危ぶまれます。継続する方がいいと思うのですが、その他にも当方と研究者の間に接点があれば極力は協力していきたいので、研究者の意向などの情報が欲しい。

◆大学で開発された基礎研究効果が現場で実用化されるよう、また現場のニーズが大学の研究者に伝わるよう、大学と企業が常日頃から気易く交流できる気運を醸成してもらいたい。

◆大学内での共通した対応がなく、研究室によっては、共同研究が容易ではない。特許の権利の所在についても担当研究者の権利を強め、もっと柔軟性を高めて欲しい。

◆大学の研究レベルの高さは素晴らしいものがある。しかし企業における化学は現状のところではold chemistryで成り立っており、そこのギャップが大きく、どのように大学に相談してよいかの戸惑いがある。しかしながら、化学知識の豊富な点ではよきア

ドバイザーとして十分に活用させていただいている（コンタクトを持てば同じ化学同士で相談することはいくらでもある）。日本の化学技術をもってすれば、世界で通用している触媒反応が日本発となり得たかも知れない感じでいます。企業ニーズ（古い化学の新しい切り口）でも見直しを企業人との交流が絶対的に少ないと感ずる。国際融合創造センターの活躍が楽しみです。どのような事業内容を行うのかお知らせ下さい。

◆研究途次、業界で活性水素に対する疑問の声が出、残念ながら途中で断念いたしました。1回のみの依頼で研究事項に対する評価は出来かねます。

◆ある明確な作用機序を有する化合物の医薬品への展開の可能性について基本的レベルで、社員の派遣下、ご検討いただき当社としては十分満足出来る結果を出していただいた。今回のケースは医薬品とはならないとの結論であったが、当社としては納得のいく結論であった。最近は産官学の共同研究もずいぶんと様変わりして来ているようだが、大学との共同研究で頭が痛いのは、研究費等必要とされる経費の扱いである。「研究費」の場合、多くは「奨学寄附金」として納入されるが、実際に行われている研究題目はほとんど表面に出ず、あたかも会社が「寄付」した形になる。しかし、現実には研究をしていただいた、あるいは指導していただいた報酬であることは間違いない。この点を明確に出来ないと産官学の共同研究は一部国等が主催するものに限られ、競争の厳しい民間対民間が互いに「学」の協力を得ながら真の競争を展開するのは難しいように思われる。

◆学問的には優れているが、生産、品質向上・コストダウンなど製造原価に関する研究はやや弱いのではないか。

◆非常に優秀な先生方と共同研究させていただき課題の進捗・達成はもちろんのこと考え方をご教授いただきました。企業サイドとは異なった視点から物事を捉えておられ大変参考になりました。また、企業サイドの種々の条件をご理解いただき厚く御礼申し上げます。企業の事情で研究が完成とまで至らなかったのは残念でしたが、これは先生方の責任ではありません。企業サイドの問題です。企業ではどうしても成果を求められますので、ある期間毎に進捗状況や得られた成果をアピールする必要があったものと反省しております。いづれにいたしましても、貴大学と共同研究させていただきましたこと心より御礼申し上げます。将来機会がありましたら、是非共同研究をさせていただきたく存じます。

◆学内での基礎研究は重要であるが、企業経営、事業となると学究的発想から実用化、商品化的発想に切り替えないと本当の産学連携にならない。例えばこんな馬鹿なと思うような実験が本当は商品として現場で使用したときに雰囲気条件の劣悪な使用場所がある。教室内では分からない場合が多々ある。社会貢献については、まずベンチャー企業を大学が助ける制度の改革、開かれた教室にし、それを基にベンチャーが成功したとき、経営者は当然寄付で返す、また機械機器を寄付し、より充実した研究室、または大学にするよう協力すべし。また寄金はベンチャー助成金制度をも考えて行く。U.C的大学制度を考慮することもまた一考かと存じます。世界の大学に頭脳で負けるはずはなく、ただ行政を頼らず社会に貢献できる大学制度の改革こそ21世紀型大学の姿では!?

◆産学の人事交流がもっと増やせないでしょうか？例えば大学教授が1～2年企業で研究を行い、応用の視点を理解していただく。一方、企業の研究員も大学で1～2年教育と大学での視点での研究を行わせる。これらによって大学と企業の考え方のギャップが狭くなると思います。現在、企業では目先の利益確保のために大切な基礎研究がおろそかになっています。そこで大学では企業で出来なくなってきた基礎的研究（応用目的がはっきりしたもの）を行う機関としての社会的期待が高くなってくると思います。

◆1. 共同研究に関する感想：共同研究先の先生及び研究室は非常にactiveで、大学で実験を実施していただいた他に、当社での実験等の際にもいろいろ便宜を図っていただき（市販されていないキットの送付・私的研究会への参加の誘い・投稿論文の指導）、非常に感謝している。ただ、問題点としては薬剤開発における先生の興味範囲（臨床応用が無理でも学問的に価値がある）と、当社での興味範囲（臨床開発出来ることが第一）とがずれていると思われることが度々あり、討議することにより認識の差を埋めていった。2. 共同研究に関する感想（事務関係）：事務手続きに関しては、窓口の担当者を決めていただき、年度を跨ぐ研究であった等に関わらず、スムーズに進めていただけた。3. 京都大学との産学連携について：ぜひ、積極的に進めていただきたいと思う。先生には内外の多くの研究者・学会を紹介していただき、また多くのアドバイスをいただき、薬剤開発において大いに貢献いただいた。当社では医師や患者さんに信頼いただける薬剤開発を目指しており、世界競争の激しい中、産学連携することにより魅力的な薬剤開発が迅速に進められたらと思っている。

◆私の場合は、すでに知っていた先生が当社の研究テーマの実施を調責にあたり、手法に精通していた先生であったため、すぐ共同研究が出来たが、もし例えば材料工学範囲での先生方の研究テーマなどが、私たち企業に紹介していただければ、非常に共同研究先として適切かどうか見つけやすいのですが。

◆有用な成果・情報が得られている。

◆社会人大学院制度を活用した技術力向上は、当社の教育戦略として重要な位置にあり、現在貴大学院に3名在籍させていただいております。共同研究は現状、院生の研究を支援することとして、奨学寄附金の形で行っていますが、将来的にはこうした人材を接点にして実務に直結する技術開発を共同で研究したいと考えております。

◆今後も貴学の知見を弊社の事業のみならず、各業界の発展のためご利用させていただく機会をいただけるよう、よろしくお願いいたします。

◆最近、改善されたことは確かであるが、産学の連携はまだまだ不十分であると感じています。自社の研究所で全てを行うことができる大企業と違って中小企業はうまくいくかどうか分からない研究のために人を育てたり、他社から人を引っ張ってくる余裕はない。研究の初期の段階で大学の先生に指導を受けたり、アドバイスを受けることは非常に有り難いことである。

◆過去の受託研究等の成果については満足しています。今後成果物の扱い（例えば開発したソフトを譲っていただけるか否か）

に関して明確な形で契約しやすい環境が整えば、さらに共同研究を拡大できると考えます。

◆非常に有意義な共同研究をさせていただいております。また、他の先生をご紹介いただいたりして、研究の幅を広げることもでき、よい研究をさせていただいております。

◆1. 共同研究の分担責任体制を明確化する必要がある。2. 共同研究の評価体制が必要と思われる。3. 共同研究の受け入れ体制を広報化してほしい

◆基礎研究を推進するにあたり、有能な人材が存在し、企業単独では対応が困難なテーマに対応が可能となる。実用化を目指す初期段階の開発にも協力していただける面がある。社会に貢献できる基礎研究への取組みを一層積極的にしていただくことを期待します。

◆【感想】①目的を明確にしての共研を実施した場合がほとんどであるが、他大学との共研に比べ、具体的目標の明確化は共有しやすく、対等のパートナーとして率直な討論が行いやすかった。②成果指向の研究はやりやすかったが、基礎的な専門研究の場合には双方の分担がともすれば不明確になり、endlessの学問研究になってしまう場合もみられた。産業界の目標設定型にスケジュール管理への理解を大学にも取り入れていただく必要を感じる。③奨学寄附金の性質をより明確にしていただくこと（文部省規程が煩わしい、大学もしくは学部の統一規定が定かでない）、オーバーヘッド費用を差し引かず、連携先の大学研究室に全額入るようにして欲しいと感じた。④特許など共有のときは出願費用、維持費用などは双方負担が原則ではないか（慶応大学規定はそうなっている）。折りに官尊民卑の意識の見られる場合もあった。【要望】①産学連携はもっともっと充実して欲しい。中央から派遣された文部官僚が規則で縛るのではなく、産学連携研究を円滑に実施できるための奉仕者であるという公僕の意識を徹底させて臨んで欲しい。かけ声で連携をうたい、実態で阻害する事務規則が多い。実働者の意見を一義的に尊重すべきである。②連携担当部局を設置し、民間人を期間限定で、国家予算で採用すること。また、全学の研究テーマの応用可能性を単純明快に記述したリストのようなものを作成すること、学部ごとの発表会や企業からのフィードバック、評価を受けられるよう、シーズの共有化、民間と一緒での評価、組織化を図って欲しい。③大学人が3～5年企業へ、企業人が大学で3～5年研究するといった双方向性のある人的交流を活発にして欲しい。1人の教授ですべてを（教育・研究・産学連携）やるのは無理。インキュベーター・センター（大学と産業界の橋渡し研究、国家予算）の設置が望まれる。京都サイエンスパークや同所のTLO活動をより透明に、かつ、活発化する必要がある。製薬業界との販促活動との線引きは明確化する必要がある。④企業人OBを組み込んだ産学連携・シーズ発掘、実用化のための共同研究センター（フリーゾーン）を設置することが大切。本センターが上記インキュベーターと連携し実用化を目指す。

◆他大学との共同研究を行った経験が未熟であり、比較は出来ないが、問3にあった項目の全てにおいて満足している。現状、産学連携及び社会貢献に向けて仕事をされる人材が十分確保されていないことと推察されるが、せっかくの高い能力、知見の集積を上手に社会貢献に結びつけていただきたいと考える。

◆現在は良好な関係を保っているとのことです。

◆適切な指導・助言をいただき感謝しております。

◆自社にない技術を時間的・金銭的に効果的に修得出来たので、満足している。学問だけでなく、企業の現況等について、教官の理解が他大学に比べて深いと感じた。産学連携がブームとなっているが、基礎研究に対しても従来にも増してしっかり取り組んで欲しい。

◆教官及びスタッフの技術レベルが非常に高い。また、最新の測定機器を所有しており、大変興味深いデータが得られる。しかし、測定試料を提供してから、測定データの報告を受けるまでの期間が長く、年間の測定サンプル数も少ない。したがってテーマの進捗が遅くなっていることが問題点として挙げられる。

◆感想：先生方の積極的な応対に感謝している。現状の問題点及び要望：研究室及び先生方の研究内容等についてホームページ等で開放して欲しい。

◆・仕事仲間が先生と面識があったことにより、ご指導を受けるようになったが、先生の持たれる知識の豊富さによって我々の研究の方向性が明確になったように感じています。また、物腰の低い接しやすい雰囲気を持たれていたので、大いに歯車がかみ合って研究を推進でき、感謝しております。今回はたまたま知った先生がおられたために委託研究が出来ましたが、おられない場合についても技術指導受けやすい環境づくりを切に希望いたします。・バラエティーに富んだ基礎、応用研究をどんどん企業や社会にアピールし、産学にて新しい展開を多くの分野で持てるようにしたいと思います。そのためにも相互の人的交流が不可欠と思われます。大学のスタッフの企業での研究、企業研究者の大学での研究、そしてそれを橋渡しする集団の必要性もあると思われます。これを一つ一つ短期的にフォローするのではなく、長い展望で見て、地道に継続していくことが大切だと考えます。企業も大学も、人・物・金をケチってはいけない。・貴大学に限らず、国立大学の共同研究制度に関する問題点ですが、大学と企業の共同研究における知的所有権の取り扱いが企業側に不利な契約となるように思います。この点について、同等の扱いを受ける制度となれば産学連携がますます活発になるのではないかと思います。

◆貴大学との共同研究は弊社の研究基盤充実に役立ち、有用であったと感じています。

◆弊社は高分子分野で技術指導をいただきました。弊社はこの分野にはほとんど実績がなく、技術蓄積もありませんでしたので、ご指導いただいたことが弊社の技術向上に大変役立ちました。実際のところは弊社の関心事と先生のご専攻が必ずしも一致せず、当初はフェーズを合わせることで時間を費やしましたが、先生の方から歩み寄っていただき、最終的には共通の課題に取り組むことが出来ました。今回のテーマは、弊社にとって直近の課題でしたが、できれば将来に向けてのテーマ探索を行いたいとの希望は持っています。しかし、先生のご研究は実用上は10年先のテーマであり、それに対し弊社では短期に結果が出せる（せいぜい5年）テーマが要求されており、そのギャップはあると感じました。大学は本質的に将来を見据えた課題発

掘・研究探索が重要であり、それは欠くことが出来ないと考えますが、その一方中期的課題への取り組みがもう少しあると共同研究しやすいと思います（大学一般論なのか、弊社がご指導いただいた先生の課題なのかは判断できません）。一企業として勝手なことを言わせていただくと、長期的なネタを探しながらも、それを実用化しようという企業とも中期的な研究を進めることが好ましいと思います。ただし、企業はその研究に自社の独自性を求め、結果を公表されることを嫌います。大学の評価基準が論文数であったり、学生の論文のための研究であると企業としてはどこまで深く踏み込んでいいのか、迷いが生じます。産学共同のためには、それに対する大学の評価基準の見直し、確立が必要だと思います。

◆私どもがお付き合いさせていただいている先生方は、学会の研究等を通して企業の研究員との交流を深め、その関係の中から産官学共同の研究テーマを見出し、テーマ選定、研究員の配置をしていただいている。先生方ご自身も社会貢献ということに非常に意識を持たれている。また、京大というと著名な権威的な先生陣を思い浮かべがちだが、若手のやり手の先生方が多く、最新の技術で社会貢献する面からも40代までの先生方の充実を今後も期待したい。企業との共同研究を通して共同テーマでの学位授与等も活発にやっていただければと思う。

◆奨学寄附金をお受けいただいている先生方に最新の研究成果について当社でご講演いただく等、当社研究者に対し、大いに新技術を啓発いただいております。将来貴大学の研究成果を利用させていただく機会があれば、実用化に至るまで、応用技術面でのアドバイスも是非よろしくお願いします。

◆企業単独の研究では、挑戦し難いチャレンジングなテーマに取り組むことが出来、さらに基礎と応用科学の関連付けについては企業側として学ぶ点が多い。大学は理論的な思考体系の基盤がしっかりしているので、断面的、散発的な研究が多い企業側研究者にとって、体系的に理解する上で非常に有益である。共同研究による成果を社会に還元する仕組みの整理、さらには国による予算の効率的な配分がなされるならば、双方の利点を相補し合うことが出来、より有益・有用なテーマを選択することが出来るようになると思う。

◆現在進行している共同研究では、専門分野の学術的理論に基づくとともに、研究成果に立脚した技術指導を教授いただけていると考えております。メーカーでは理論面を充実させることよりも実用化に重点を置いてしまうため、十分に理論的な裏付けを行うことなく開発に着手することもあり、後になって期待した機能・性能が得られない事態に遭遇することもあります。今後も産学連携により、大学とメーカーの得意分野を生かしていくとともに、共生していく必要性は大きいと考えます。

◆専門技術・知識が高く、非常に技術指向性の高い研究を行っている。今後、産学連携して共通の目的意識（世の中にどのような形で研究成果を活かせるか）をもって共同研究の深耕を図っていくべきと考える。

◆産学連携の成功にはスピードが不可欠。現時点では、どの大学も非常に遅い。

◆これまでに、工学部、医学部、及び再生医科学研究所と共同研究を行ってきました。この数年の間にいうまでもなく、大学を取り巻く環境は大きく変化しつつありますので、4～5年前と直近では我々企業との接点の持ち方が大きく変化しているように感じます。5年以上前の京都大学は、旧帝大系の大学の中で、企業にとっては最も「敷居」が高く（それは先生方の意識の持ち方とそれが醸し出す雰囲気）、なかなか近寄り難い存在というのが、率直な印象です。しかし、この1～2年で京都大学側から企業にアクティブに働きかけるという傾向も生まれてきており、旧帝大系の他の大学とやっと同じラインになってきているという印象です。京都大学は先生方や研究室のレベルや資質、雰囲気がそれぞれ個性的で、他の旧帝大系の大学と比較した場合、京大はやや理論に強い、逆に言えば理論（論文）にこだわりすぎる傾向を感じておりますが、この1～2年は実用化を強く意識した研究を進めようとしているように感じます。企業としては一緒にやりやすい方向に動きだしているという印象です。大学の社会貢献については、それぞれの学部（学系）によっては異なると思います。理学系は基礎的な研究が主となるべきですが、工学系はやはり実用化を常に念頭に置くべきで、実用化のための既存の企業と連携するのが最も早道と言えますし、場合によっては大学発のベンチャー企業も大いに結構ではないでしょうか。

◆測定装置は他大学にない優れたものであるが、メンテナンスも含めてもう少し装置自身及びそれを含めた実験環境を充実させていただければ幸いです。total的に実験の質の向上と効率の向上に取り組んでいただければと思います。

◆研究から実用化にギャップがまだまだある。実用化を企業任せでは途中で破綻してしまう。しかし、実用化まで手を貸すと論文にならないとよく言われるが、教官の出す「論文の体系」で判断すべき問題で、個々の論文で新しい理論展開がないから評価が下がる、というのはおかしいのではないでしょうか。

◆京都大学に限ったことではありませんが、現状、企業と大学の共同研究は各分野の第一人者の先生に奨学寄附金という形で企業が研究委嘱を行い、「先生への委嘱」から「技術への投資」の色彩がより強くなると思います。京都大学には将来の日本の産業を支える独創的な基本技術を提供し続ける頭脳としての機能を大いに期待しています。このような独創的提案を発信し続ける研究、そしてそれを生み出す若い人材を数多く育成していただくことが、産学連携を中心とした社会貢献の基本路線と考えております。京都大学の今後の一層のご発展を切に念願しております。

◆ホームページで各学部の研究内容が紹介され、大学の概況が理解できるようになった。ただ、入学案内のPRのように受け取れることと紹介の内容が数ヶ月も改訂されないというのでなく、タイムリーにホットな情報が得られたら、地域に密着した裾野の広い産学連携が出来るチャンスが多くなるのではないかと考えます。

◆共同研究をする先生に依存する部分が多いと思うが、今回の共同研究では、開始時点での決断がスピーディで的確なアドバイスがいただけた。研究者にとっての心地よい刺激が感じられ、有意義な共同研究となっている。今後、日本の産業が国際社会の中で生き延びていくためには、大学を中心として応用により踏み込んだ産学連携が必要不可欠となるのではないだろうか。

◆企業や公共研究機関と比べて貴学のみならず大学は、一般に研究設備等の整備が十分でないという印象があります。その

ためか、先生方の理論やアイデアは世界に冠たるものである一方で、実証の面では物足りなさを感じます。実用（実践）を主眼とする企業にとっては、共同研究先として不満を感じる一面であります（勿論、役割分担により共同研究を進めるのですが）。特に先生の考えを実証できるような、希少・オリジナルといった装置及び解析力に魅力を感じます。様々な情報を分かりやすく世の中に公開するようにしていただきたい。優秀な研究をされることは大事なことですが、研究の優秀さが理解しやすく、かつ企業に役立つものであるということを発信することも重視していただきたい。そのような「分かりやすい発信」をすることによって産学連携等の共同研究は促進されるものと考えます。TLOが発足して間もないところですが、主として権利関係が複雑化した感じがあります。これは正しく理解していないためかもしれませんが。また、大学によってそのやり方が異なるようであり、そのことも話を複雑にしている要因であると思われます。

◆学問的レベル並びに実用化ということに積極的で非常に良い。我々中小企業にとっては、と思います。中小企業でも弊社のような特徴のある分野においては、人材の紹介を推進して欲しい。〔ただ、我々のような中小企業においては1人の重要度が非常に高いので、人間性という点で注意する必要はあると考えられますが。人間性というのは協調性（良い意味での）、特にこのことですが。〕

◆コンクリートの材料関係の共研を行い、その後その延長線上のテーマで日本材料学会に委託研究を実施した経験から若干の感想を述べさせていただきます。(1)材料の試験方法や評価について、異分野の専門家にご指導を仰ぐケースも多く、日本材料学会をコーディネーターにした方がその機会が得やすかった感じがする。(2)共研の進捗に伴い、若干の方向修正やスピードアップなどの相談は日本材料学会の方がしやすく、より効率的な研究が出来たように思う。 技術屋は事務手続きに弱く、貴学に申し入れる際も無作法や非礼な点も多々あったことと存じますので、お詫びを兼ね、ご検討いただければ幸いです。

◆初めての症例研究であり、どのようにまとめていくべきかに戸惑いながら進めてきました。「研究」という文字から立派にまとめ上げなくてはいけない・・・との気持ちが先行してしまい「研究」への抵抗感を持っていたというのが正直なところでした。しかし、自分が接している目の前の対象者を評価し、分析し、文章化することが、臨床場面での「研究」となっていくことを体験し、おもしろさを感じることが出来ました。今回の研究が第一歩であり、今後も積極的に「研究」に取り組んでいこうと思っています。そのときは再度先生方のご指導が必要となってくると思いますので、助言いただければと思っています。よろしくお願いいたします。

◆共同研究を通して、京都大学の教官及び学生がいかに優秀であるか常に感じており、今後とも継続していきたいと考えている。新たな産業の創造、新規技術の実用化などを考えると大学における学術的な研究の有効活用は今後ますます需要になっていくと考えられる。その点で大学と産業界の連携は不可欠であり、その要求、必要性はさらに強くなると思われる。今後、大学のシーズ研究の成果を企業がいかに有効活用していくか、産業界のニーズに沿ったテーマと大学、研究機関が進めていけるか、が課題であると考える。

◆ご担当いただいた諸先生とも、企業の研究・開発の意義を認識いただき、貴重なアドバイスをタイムリーに教授いただいている。また、当社若手の基礎技術力向上にも大いに貢献いただいている。

◆企業はともすれば、多忙にかまけて技術の基礎や落とし穴、発展性を見落としがちであり、逆に大学側は、技術の応用面や実用化に疎いところがあります。産学共同により互いの欠点を補い、長所を伸ばすことは、教育や科学技術の発展、企業の差別化のために重要であり、貴大学への委託研究もこの観点に基づいて継続的に実施しているところです。ただし、貴大学に限らず、日本の大学、特に学生には未だ企業と共に研究するという積極的な意志、必要性、義務性を感じていないようで、あくまで卒論、修論のために対応しているという状況であり、年間を通じて研究という意味では、空白期間が多く、開発のスピード、目標設定と到達度が十分とは言えず、やや不満があるというのが実状です。この背景には大学の教育や就職活動、終身雇用のあり方、特許権利の帰属ルール、企業人の容易な学位取得、企業人の一時的大学教育の受講等、未だ十分に解決されていない難しい問題が多々ありますが、真の意味での委託研究、共同研究はこれらの問題を乗り越えて、より密接な協力関係による成果の向上が必要であると思われます。個別の先生には、我々の顧客の関連する産官学のプロジェクトに委員として参加をいただき、政治的、技術的に渡り、当社に有利なように動いていただくことも期待しております。ただし、互いに競合する複数の企業を含めた共同研究は、排他的に大学を利用したいという企業側の思惑、企業間の利害関係の対立のために、企業から見れば良い関係を維持することは非常に難しいと考えております。

◆企業ではなかなか時間をかけて取り組めない基礎研究成果を共有することができ、実用化開発に大いに役立っていると感じます。共同研究にも色々なレベルがあり（例えばご助言をいただくのみ、設備を借りて会社の人間が開発、設備も人も大学より出していただいて開発等）、その共同研究費は個別に先生と相談して決めておりますが、種々の共同研究形態について一定の基準のようなものが大学側にあれば有り難いと考えております。

◆新商品・新工法の研究開発に熱心で、これらを具体化するご努力に感心しています。今後とも適切なご指導をお願いいたします。

◆先端技術の修得、実用化を通じ、京都大学の研究成果を広く世界に役立てるために弊社として協力させていただきたい。そのため研究成果の広報、教官との交流の場を活用させていただきたい。

◆特に他の国立大学と違っているところがあるとは思えません。逆に言うと最近産学連携の話がどこの大学からも案内等が来る頻度が増えました。極めて日本的な「猫も杓子も」や「金太郎飴」スタイルでない貴大学独自のスタイルでの取り組みを期待しています。

◆教官のレベルは高いが、事務手続きにうるさく、研究費は比較的高いとの印象を持っている。京都大学とは限らないが、国立

大学は垣根を低くして外との交流をオープンにすべき時期である。その意味で京都大学がこのような調査をされたことに敬意を表するとともに、先駆的な役割を果たされることを期待します。

◆大学の高いレベルにある研究成果を実用化できる意義は大きいと考えます。最近ベンチャー企業が多く生まれ、盛んにシーズを公開しています。同様に大学においてもシーズ公開等を開催し、広く技術を産業界に支持していただければと思います。また産業界との共同研究を積極的に進めるコーディネーション機関の放置も必要ではないでしょうか。

◆最近、産学研究と言うことで、新聞紙上にもよく取り上げられていますが、我々の業界では中小が多く、人材不足が悩みの種の1つであると同時にかなりの部分が外国製品で占められているのが現状です。製造技術的には何ら外国に引けを取ることはないが、開発力の強化（企業規模にもよるが）が望まれているところです。その意味では医学・工学両方の専門家を擁しておられる京大との共同研究開発においては、長年の基礎研究を基に社会に貢献できる製品を世に出すことができれば、産業界のみならず、国益にもつながることと思います。ただし、ノーベル賞を受賞された野依教授いわく、大学は隠し球を持っているわけではなく、研究結果即製品化出来るものではない。また産業界が元気がないのは創造力が足りないから、とのこと。この言葉をよく考え、今後共同研究を進めることが大事であると思います。

◆共同研究で得ることができた基礎技術、アイデアをいくつか発展させることが出来て、当社の製品として採用できているものがある。そのほか、基礎技術自体の向上も出来、極めて有益であったと考えている。今後も機会を捉えて共同研究させていただきたいと考える。

◆共同研究の先生が特許に対する理解度が高く感謝しています。複数の研究費が生み出す成果配分の方法に少々心配を持っておりますので、TLOのような組織と一緒に活動させていただけるとトラブル発生の危険度を下げ、社会貢献の方策が明確になると感じます。

◆京大は研究計画がしっかりしていてよい。共同研究をうまく進めるには、担当する院生や学生さんに企業人として実社会での重要性や発展性についてよく説明することが重要だと思った。

◆世界最先端のtechnology

◆現在大学院エネルギー科学研究科〇〇教授にお願いし、過去6年間ほどシリコーンのゾル／ゲル反応を利用した木材改質剤の開発で指導いただいています。本件のきっかけは、先生からのアルコキシシラン、シランカップリング剤の問い合わせを受けたことにありますが、先生のテーマである「細胞膜内におけるゾル／ゲル反応による、木材セラミック化」技術に関連し、基本的な実験データ処方等を提供していただきながら、これまでに風合いを変えずに吸水性改良により寸法安定性を向上できる溶剤系木材改質剤、その発展系としてボロン、リン酸エステルを導入した難燃性改良タイプさらには弊社製品である抗菌加工材を組み込んだ防腐性付与タイプ等いくつかの開発品で市場開拓を実施中です。先生の一時化学企業に在席されたという経歴もあるかと思いますが、極めて実用的な見地からご指導いただき、一部については実ラインでの評価段階にあり、今後の実用化に期待しております。また、〇〇研究室の卒院生にも弊社に入社いただき活躍していただいております。今後とも更なるご指導を継続していただけることを強く希望しております。

◆【感想】シーズ技術としての完成度の高さ、及び大学側の協力体制（適切なアドバイス等）により、当社製品開発を加速することができた。【今後】大学としても市場ニーズを十分に把握する（企業研修など）。要素技術としての完成度向上（論文完成がゴールでない）。大学の研究ニーズを必要な時にすぐ見られるようにする。

◆大学に産業界のニーズを伝え、短期、長期に実用的、効果的ば研究テーマをインプットするのが企業の役割と思っている。その意味で京大の先生は、企業ニーズをちゃんと受け止めていただけるので感謝している。しかし、新しい分野へのシフトに関しては、動きが遅く、昔ながらの研究分野をやっておられる先生も多いように思う。企業としては前向きな先生を応援すべく共同研究をしているつもりである。米国のように社会ニーズによって研究テーマの比重をダイナミックに変えるような体制にして欲しい。

◆産学連携は今後の日本の発展のために欠かせないことであると思う。特に貴大学は優れた研究を数多く行っており、企業にとって産学連携の相手先としては非常に魅力的である。現状の問題点として、結果重視の企業と課程重視の大学とのギャップが挙げられると思う。そのため、今後の産学連携において重要になってくるのはスピードと結果を重視する企業に対し、いかにスムーズに研究成果を反映していくことが出来るかということであろう。希望として貴大学における取り組み成果を積極的に外部に開示、反映させ、これからの日本経済の発展に寄与していただけることを望みます。

◆京都大学は学問的志向が強く、企業との共同研究はあまり積極的ではないとの既製概念を持っておりましたが、実用志向の強い教授との共同研究においては企業にとって大きな成果に結びつけることが出来ると感じております。国立大学としての独自性や公共性を維持しつつ、一企業との共同研究を行うことは多少矛盾も感じられるでしょうが、もっと積極的に企業の研究開発を支援していただきたいと思います。

◆当方のニーズをよく把握していただき、理論的に探究していただいており、その成果は学会等でも反響があって満足出来るレベルであると考えています。ご報告いただく内容で当社社員の知識・技術が高められる効果が大きいと考えています。基礎レベルの研究であるため、実用に結びつけるためには、双方の今一歩の努力が必要だと感じています。

◆先生方の知的財産権に関する知識や認識が他大学の先生方に比べて低い。あるいは甘い傾向が見られる。

◆過去10年にわたり、京都大学の研究室と共同研究させていただき、大学での理論研究の成果を企業の実用化研究に反映させることが出来、感謝しております。また、わずかでありますが、企業の実用化面での成果を京都大学の研究にフィードバック出来たかと思います。このような経験を通して、大学と企業がそれぞれの立場を尊重しながらお互いにメリットが出るような産学連携を図ることが重要と考えております。

◆弊社より提示させていただいた課題に対し、積極的に御参画いただき、適切なご指導をいただいていることに感謝しています。また、私どもの業務としているヒューマンインタフェース評価・開発のための手法として、現在ご指導いただいている方法論が応用できるとの期待もしております。今後ともよろしくお願い申し上げます。
◆研究内容は学術的かつ実用的で、信頼できる。産学連携について現状を必ずしも把握していないが、研究テーマや成果については、可能な限り公開されることを希望する。
◆理論と実験によるバランスのとれた研究に学ばせていただくことが多い。
◆社会人ドクターコースに大変興味がありますが、通常のドクターコースより、より負担を軽く企業内での研究環境を維持しつつ、短期間で学位が取得できるようなシステムを希望します。従来の論文博士と比較すると社会人ドクターコースでの学位取得は企業人のとっては、時間的（費用的にも）かなりの負担に感じます。
◆研究内容の情報公開を積極的に進めて欲しい。研究テーマが現状と離れない方向であること。
◆十分な研究費がないために行っている。
◆人的交流を含め、産学連携をどしどし進めていただきたい。ただし、企業では困難となりつつある基礎的長期的な学術研究を進めること、天下国家10年～30年後を担う人材育成・教育を行うことも大切と考えます。
◆現在、貴大学と弊社での共同研究は大学OBとその恩師という関係のものが多い。それ以外の研究室、先生とはほとんど交流がない。このため、貴大学で共同研究の供給と民間会社の需要を斡旋する仕組みを作っていただけませんでしょうか。
◆京大出身の野依教授が話されたように、教育と研究を主な社会貢献と考えるべきで産学連携は現状においても非常に活発である。京大の伝統として実用に供し、学問的にも高いレベルを伴った研究を行っている。これからもこの伝統が持続することを願う。いたずらに産学連携が進めば、京大の伝統である自主・独立の精神が失われ、御用大学となりかねない。
◆優秀な学生が多く、有益なデータを早期に入手できた。また、情報の取り扱いにも気が配られており、安心感がある。【産学連携について】1. 共同研究スタート時：新しい事業分野である場合、どの教官にコンタクトすべきかが非常に難しい問題である。大学の垣根を越えて教官を紹介することも必要かと思う。また、共同研究をスタートする前に簡単な実験をお願いする場合、その費用の支払方法がない。2. 権利化：共同研究成果を特許出願する場合、発明者、出願者をどうすべきか教官との相談になるが、何か目安があれば有り難い。企業が開発に成功した場合、大学への報酬はいかに？
◆担当の先生が徳島大学から京都大学に移ったので、両方の大学でお世話になりました。内容に関しては、同一研究だったので、両者に変わりはないと思いました。
◆地震動及び振動工学の分野の最先端の技術を短期間で習得することができた。これらの技術は数年前には基礎的な研究であったが、時代の進展に伴い、世の中から必要とされる最先端の技術となったものである。こうした意味で大学には長期的視野のもとに、民間では実施しにくい基礎的研究に地道に取り組んでいただきたい。
◆1. ご指導教官の情報量が多く、各企業から持ち込まれる問題解決を支援されていることから、実用的なご指導をしていただける。2. ご指導教官の交際範囲が広く、問題に応じて各専門分野の教官を紹介いただけるための技術相談に苦労しない。
◆弊社では合計260万円程の委託研究／共同研究であり、そのうち200万円分については、来年（H14年）2月まで期間を残しております。お願いしております工学研究科○○教授には今後のご指導を賜ることになっております。今後ともよろしくお願い申し上げます。
◆貴大学におかれましては、ノーベル賞受賞をはじめとして、日本が世界に誇る大学であります。既製概念にとらわれることなく、新しい研究を世界に先駆けて行っていただきたいと思います。産学連携につきましては、是非とも私どもの研究所ともさせていただきたいと存じます。
◆研究開発分野のお世話をしていただけるアドミニストレーターのような方がいらっしゃるとあいがたい。
◆優秀な教官と交流を持てるという点では、非常に有意義である。共同研究の内容に関しては、教官に任していることが多く、当社の研究に直接役立つことは少ない。これからは、当社のニーズも積極的に伝える事が必要と感じており、また教官側からも研究に関する提案をして頂きたい。いずれにしろ、今まで以上に産学の連携を密にし、お互いに意味のある体制で研究をすすめていくべきと考えている。
◆当社は、過去に京都大学の先生方と共同研究をさせていただき、当社の研究内容や将来の研究の方向づけに様々な助言をいただき感謝をしております。さらに今後産学の連携を進めるためには、⑴ 明文化した覚え書きに基づいて研究を進める。⑵ 特許等に関しては、別途基本的な取扱を明記する。⑶ 公開が原則であるが、一定期間非公開も可とする。⑷ 現在、共同研究先は個人情報に基づいておこなっているが、将来は、大学の中にコンサルタントを行う部門（窓口）があっても良いのではないか。これにより、特定の先生方に共同研究が集中することが防げるのではないでしょうか。
◆1. 過去5年間にお二人の先生に研究・指導をお願いしましたので、上記回答は、その平均的なもの（あるいは、どちらか）となっていますことをご了解下さい。2. ご指導頂いたお二人の先生は、非常に高いレベルの研究者であるとともに、実用を追求する民間企業の立場も良く理解して下さり、自ら親身なご指導をして下さっています。往々にして大学への委託研究は、修論のテーマになり、学会論文にはなっても企業にとって実効に繋がらない場合もあるようですが、私たちの場合は、全くそのようなことはなく、大変ありがたく感謝しております。3. 成熟産業と言われる鉄鋼・重工メーカーである私たちの研究活動も、10年程前までは、3～5年間の計画を作るのが普通でしたが、今は、長くて2年、短ければ半年間となっています。従って、大変勝手ながら、（今後、一般論としては）大学にもそのような対応を期待する面もでてくると思います。4. 一方で、バブル期に比べ研究員数も半減しており、（これまた身勝手な話ですが）大学の研究への期待はますます高まっています。企業ではとても対応できない、中長期的かつ社会ニーズにマッチした（あるいは5年後、10年後にマッチするであろう）技術を、大学独自の見識に基

づいて発信下さることを切に望んでいます。

◆大学側に対する要望や問題点と思われるところはありません。ただ産学協同研究において両者の目的、利害などが一致すれば、結果がどうあれかなりの成果が得られる。 しかし、企業側はどうしても利害、利益の追求を第一と考えがちで研究者の立場に立ち得ず、両者不本意な結果となることが多かった。 大学側はあくまで学術研究が第一でありその辺を企業側が理解していなければ良い結果が得られない。

◆核医学診断の学術研究に貢献でき、診断技術の向上にも寄与できた事で企業としての評価が高まったと考えています。我々医療業界で働く者としてこのような共同研究や、育英資金等に参加出来る事は社員に対するモチベーションも上がると考えています。営利だけでなく、社会貢献している。情報公開には積極的に取り組んで頂き、他大学の手本となるようにして頂きたい。

◆貴大学との共同研究は、十分以上の成果を上げ、当社の経営トップからも積極的に進めるように指示を受けています。当部門としては、既存技術だけでなく、これからの技術に大変な興味があります。ただ、最新の技術にどのような物があるのか把握しきれないのが問題となっています。このため、貴大学より最新技術等の情報発信が多角的な視野から行われたならばこれ以上の喜びはありません。具体的には、最新技術等の紹介をインターネットで発信されているメールマガジンで行っていただければと考えています。このマガジンは、多量になるでしょうから、分野別、技術別でのネット検索に工夫していただければ、貴大学のどの関係者とのコミュニケーションが必要なのかが迅速に判断でき、今後のプロジェクトのスピードアップと効率化を図れますので、ぜひお願いしたいと考えます。要望ばかり述べましたが、どうか今後ともよろしくお願い致します。

◆まだまだ不十分、もっと地域で踏ん張っている企業体と連携をとりつつ日本全体の利益に繋がるようにして欲しい。

◆①当部門は医療に関係し、社内の技術蓄積が少ないために、共同研究は非常に有益と思っている。大学研究機関の研究成果を企業が実用化努力を行い、社会貢献を果たすことは非常に重要であるとの認識を持っているので、先端的なかつ価値ある基礎研究を実行して頂くことを期待する。②事務的な手続きでは簡略化が望まれる。一般にいうお役所的であり、融通のきいた運営が望まれる。

◆大学側知識レベルが会社技術側との技術レベルに追いつくまでには、時間を要する継続的な取り組みが有用。

◆実用化には結びつかなかったものの、良い悪いをはっきり言い合えたので技術、知見の蓄積には大い役立った。今後も機会があれば是非共同で研究開発を行いたい。

◆教官のキャラクターによって決まる面が多い。企業のニーズの把握が出来る方、社会のニーズの把握の出来る方など企業を経験した人やそうでなくても社会常識を備えた方は的確に事を進めていただける場合が多いように思う。学問も最終的には世の中のためになる必要があり、それまでの時間をどの程度の長さで考えるかである。基礎的なものはどうしても長くかかるが、それでも実用化の意志を強く持たないといけないが、その意識が弱い教官も多い。アメリカは基礎と応用がうまく連携して次々と新しい発見をしているので、そのようになるためにはどうすれば良いかを考えて欲しい。

◆世界最先端の技術や教官の熱意にふれ、若手社員の意識向上には、大きな成果があり、効果的な印象をもっている。

◆基礎研究が終わったあと、応用開発、製品化研究まで、共同研究できるように、大学内にラインがあると良い。

◆共同研究を行うことで視野の拡大を図ることが出来た。

◆特許等の知的財産権の取り扱いに関して、教官ごとに異なり、一定の考え方が無いように思います。知的財産権の価値そのものが以前と異なってきていますし、企業はその権利を確保することが最重要課題ですが、先生方のなかには学会発表など、あまりその影響を考慮されない場合もあり、秘密開示に苦労することが多々あります。秘密保持、成果の取り扱いなど契約の重要性に関して、学内での周知をお願いしたいと思います。発明委員会の位置付け、秘密保持の確保、発明者認定、国との権利関係など、発明委員会の活動は学外から理解しにくいものです。先生方によっても考え方がいろいろあるようですので、学内で徹底していただくとともに、外部への広報もしっかりとしていただければと思います。

◆・先生にもよるかもしれませんが、技術の実用化に対して熱心という印象を持ちました。産学連携を進め大学の技術を活用していくことは、企業から見ても研究のトータル効率向上のために必須ですので、強化を図っていきたいと考えています。・技術(特許)の移管に関して、過去手続き面で煩雑になったケースがあります。今後はTLOをうまく活用して技術移転を図っていくのがいいと思っています。(まだ、実績はないのでスムーズにいくかどうか不明ではありますが・・)・TLOに対しては、出来上がった技術(往々にして企業ニーズとずれていることあり)の移転よりも、研究の早期からの共同研究コーディネート、及びそこで生まれた技術移転をスムーズに進める機能、を期待します。

◆最先端の情報から実験の技術的な細かいことまで御指導いただいており、大変助かっております。また、他大学の先生も紹介していただき有意義な研究ができております。

◆これまでの共同研究において；企業研究員（研修員、受託研究員）の受け入れに際しては、開放的かつ柔軟に対処していただいた。また、研究期間中は常に企業の立場を尊重していただき、単に学術的探求だけでなく社会貢献（産業の現場で活用できるもの）も主眼においた、懇切丁寧な指導をしていただき、企業として大変満足しております。また、京都大学の自由な校風に感謝しております。今後の産学連携に対する問題点；特にございません。今後の要望；一年未満の短期共同研究も可能にしていただきたい。大学の研究に差し支えない範囲で、共同研究とは別テーマでも研究設備を自由に利用させて欲しい。

◆学会をリードしている諸先生方と（ここで言う）共同研究やご相談できることは我々民間企業にとって非常に有意義です。今後とも是非継続していきたいと考えていますし、京都大学はその場合外せない重要な研究機関と認識しております。京都大学に限らないことではありますが、自由記述ということで。これまでに所内でも共同研究や出向を幾度か経験しましたが、事務手続きが非常に煩雑で大変です。国立大学ですのである程度のことは止むを得ないとは思いますが、大変なことの要因のひと

つに我々の直接的相手となっている先生（研究者）ご自身がその大学で必要とされている事務手続きをほとんど把握されていないことがあります。今後、産学連携を推進されるのであれば、システムの構築に加えて、その中心となる先生方にシステムや手続き等を十分に理解して頂くよう配慮して頂くと助かります。

◆教官が国内だけではなく国際学会の世話役に就かれているなど、グローバルに活躍されているという印象が強い。特に京都大学の教官が色々な国際学会でpostgraduate courseを担当されており、このことはその分野での研究活動、成果が世界に認められている証であると考えている。共同研究の成果を国内外で発表する多くの機会が得られたことは、当社にとっても大きな収穫となっている。

◆私共が共同研究させていただいた先生は、細胞工学とりわけ細胞株の樹立に非凡なものをお持ちでした。株を多種多様に持っておられ、様々な分野の方々と共同研究をしておられました。物腰もやわらかく、親しみやすい接しやすい先生でした。近年の遺伝子工学の発達に遅れず、先生とお話した後は我々の勉強不足が強く認識させられました。産学連携を考えた場合、出身大学（研究室）でない場合は特にコミュニケーションを取りにくいといった弊害が生じると思われます。新しいものの探索・発見をしていく上で、ディスカッションがやりやすい環境を整えていくことが大事と考えます。その際「産」が近づくこともちろんですが、「学」も門戸を広げて戴ければよりディスカッションしやすい（話しやすい）環境になると考えます。参加しやすい公開シンポジウムが開かれたり、その案内が様々な分野に伝達されるシステムも大事な一つではないかと考えます。昔に比べ、産学の融合がやりやすい環境になってきたと思いますが、より良くお互いが発展するよう、進んでいきたいと思います。

◆「廃棄物処理に関する研究助成」として寄付させて頂きましたが、弊社が商用化を進めていますガス化溶融システムの実証試験において、処理物の多様化に対して新たに発生する有害汚染物質の研究に具体的なご指導を頂きました。共同研究という形態を取っていないにもかかわらず、現場にも2回来場頂きご指導頂けた事に感謝しています。また、本実証試験を利用して他企業の新しい分野での研究に一部参加出来たことも弊社の技術の幅を広げる意味で有益だったと思います。弊社のように京都大学の卒業生が在籍していない企業では、貴大学の情報を得るためには先生方との個人的な繋がりに頼るしかありませんので、インターネットのホームページ等で広く情報を公開して頂けることを望みます。

◆1. 当社の研究開発および事業化に関して、理論的な側面から大きなサポートをしていただいており、今後も継続していくつもりである。

◆過去5年間に限定すれば0件ですが、それ以前では複数件の実施例有り。国際会議等での発表も含め、成果のオーソライズ化も達成され、高い評価を得ることができたと確信しています。企業が大学との共同研究に求めるものは、実用化（商品化）に向けて、それらを構成する個々の要素技術についての、・成果のオーソライズ（高いレベルの研究成果）・スピード、と思います。また最近では、企業の社会的評価のひとつとして、学位取得者数が指標にあげられる場合があり、共同研究を通じて、学位が取得できるような指導をしていただければ、企業としてもさらにメリットがあると思います。

◆大変親身になって相談に乗っていただき、感謝しております。ただ、こちらの要求が高かったため、希望するレベルにまで達することができず、それは残念です。そういう意味では、1年間の契約期間は短すぎるように思いました。もう少し腰を据えて研究を進めていけば、もっと面白い結果が得られたのではないかと考えます。こちらが抱えている問題に関して、どのように解決すればいいのか見通しがあまりない状態で相談を始めるので、どのような先生とおはなしをさせていただけばいいのかよくわかりません。また、こちらの考え付かないような解決方法を考えていただける場合もあるでしょうから、いろいろな先生のおはなしをお伺いしたいとも思います。そのあたりの仲立ちをしていただけるところがあればいいと思うのですが・・

◆貴学の先生方はそれぞれのご専門分野についての知識や情報を豊富にお持ちで、研究レベルも高く、さらに、弊社内には貴学の卒業生が数多く在籍されているので、先生方とのコミュニケーションも比較的容易にとることができ、有意義な産学協同研究が実施できていると感じております。今後も、単に産学協同研究の当事者だけの関係に留まらず、企業の人間が高度な技術や知識を身に付けられる場として、利用させて頂きたいと考えております。

◆基礎研究の充実

◆・委託研究の当初目的が達成でき、十分な価値があった。さらには弊社内で他方面へ展開するきっかけとなり、非常に有意義であった。・（委託した教授は）研究室運営のマネジメントがうまく、研究内容の開示、委託研究成果の報告など適切に処置して頂いた。さらに、適時個別討論の機会を作っていただけるので、弊社の要望やニーズの変化を伝えることができた。・最先端の科学知識を追求する姿勢が強いがために、産業（の育成）に影響しようとする意気込みが弱く感じられる。企業・産業との連携、共同研究にもっと積極的に取り組んで頂きたい。・大学教官の意識（民間との共同研究、委託研究を積極的に推進する）は変わってきたが、事務処理とその体制は旧態依然の感がある。欧米並みに教官の裁量で研究費を集め、研究者（博士課程の学生）に奨学金を出せる体制の構築が望まれる。・（一般論であるが）大学と企業とが、さらに交流を深め、製造現場や大学の研究室（実験室）で議論できれば、一層の効果がある共同研究になると考える。これにより、研究費（国家+企業）の効率的な運用と成果を期待でき、社会への貢献につながると考える。・ビジネスライクに共同研究（委託研究）を進めるように変えたい。現状では、企業側の責任が大であると考えているが、一般的には大学教官に対して遠慮があり、大学教官も企業に遠慮が感じられる。極論すれば、成果が十分でない研究には、企業が大学に支払う研究費を（一部でも）支払わないような、よりドライな関係にできないだろうか。

◆貴学との共同研究は当地区研究者に歓迎されており、件数も多く、トップクラスに位置付けられている。貴学の益々のご活躍を祈念しております。企業から見た今後の課題として、ひとつの契約がひとつの申請手続で複数年度にわたって実施できること、研究成果が対価の支払なしに自由に実施できること、国税・会計法等の頚木を外す立法化を推進すること（民法、特許法との融和、貴学の裁量権の増大）、秘密保持が満足できる体制を整備すること、依頼研究を開始するときに実施内容、到達点、

それに至る手段・方法・時間が提示されること、依頼テーマによっては、異なる教室、学科、学部の参画するプロジェクトが組めること、企業のR&D戦略に直接関与・参加できる体制を整備（企業のサイトに長期滞在、秘密保持等）すること、などが考えられます。

◆・基礎研究を通じて、社会的な問題に対して公正な判断を与えるデータを提供されている。・共同研究先を探す上で、欧米に比べて発信されている情報が未だ少ないように思う。インターネットの普及で欧米の研究情報は格段に入手が容易となり、論文リスト（論文の本文）や学会・公的委員会への参加状況など、場合によっては国内の方が情報が集め難いケースもあり、連携の妨げになっているように思う。

◆企業では生まれにくい「高度の専門的知識、先端的研究成果」と、大学ならではの「新鮮、斬新的なアイデア」を可能な限り公開していただくことにより、”企業・大学”の共通の目的（例：社会貢献）を実現すべきと考える。

◆先生方の学術的レベルが高く、企業として研究のやり易さとメリットを大変感じております。一般的に、国立大学との研究おいては、国の仕組みとして経費前払いですので、結果として、研究成果と掛かった経費の関係において、正当な評価が難しい点があげられます（得られた成果が投資に見合ったものであったか等）。また、年度単位の予算ですので、年度をまたがる研究推進の困難さや矛盾を感じることがあります。

◆京都大学が先頭を切って、産学連携に取り組まれることのインパクトはたいへん大きいと思います。日本経済が大きな壁にぶつかっている現状を雇用確保の観点からも大学がその知恵と人脈を生かしたビジネスに乗り出して打破していかれることを期待します。

◆京都大学は、他の国立大学と比較して、実用性が高くしかもユニークな研究をされている先生が多い。また、フランクに議論ができて、お互いのニーズを理解しあえるメリットもある。一緒に考え、一緒に研究して、日本が世界に誇れる技術を早急に確立すべきと考える。

◆大阪大学が民間企業に対し、受託研究員制度を取るなど民間との共同研究や研究指導に対し熱心であるのにたいし、京都大学には民間企業にとって敷居の高い印象がありました。京大が広く民間との門戸を開き、産学連携に力を入れて頂けたら、京大・阪大という非常に大きな後ろ盾が出来、関西企業、関西経済にとって非常に有益と思います。

◆なかなか当初考えていた研究予定が消化できず、先生にはご心配をおかけしております。

◆産学連携は積極的に進めるべきと考えております。そのためには、大学での研究内容についての広報活動の充実と事務手続きの簡素化が重要と考えます。また、アンケートの内容にある、適切な教官への仲介も重要な機能であると思います。

◆回答内容は、研究開発のやや基礎的な部分を主に担当するコーポレートＲ＆ＴＤ部門の産学協同活動を中心としております。京都大学のポテンシャルに大変期待しております。

◆事務手続きに関する確認や問合せによる対応が他の国の機関等に比べて、的確かつ迅速であると感じてます。

◆・一口に共同研究と言っても、さまざまな方法が考えられると思います。京都大学と他社で行っている共同研究のいくつかをモデルケースとして紹介して頂き、活用できたらと思います。・京都大学との共同研究では、開発している技術を基礎的な面から体系的にまとめるのに役立ちました。また、今後の展開の方向についても有益な示唆が得られました。今後は適切なテーマが選択できれば積極的に共同研究を実施していきたいと考えております。そのため、京都大学の研究テーマの紹介などの研究内容の公表の場を学会以外にも作って頂き、共同研究の可能性を検討できるようにして頂きたいと考えております。・共同研究契約までの事務手続きがやや煩雑であったことを除けば、ほぼ満足できる結果が得られたと考えております。機会があれば今後も行いたいと思います。また、大学側が企業の具体的ニーズにもっと積極的に関心を持つようになっていただければ、産学連携はより発展すると思います。

◆京都大学に関しては、一部に民間企業が求める有能な人材がおられるが、京都大学全体の評価は難しく、産学連携による共同研究における民間企業は有能な研究者個人を強く求めております。

京都大学との共同研究に関する調査（本文）

京大総企評第７６号
平成１３年9月２１日

関係各社

京都大学大学評価委員会
自己点検・評価等専門委員会
委員長　丸　山　正　樹

自己点検・評価等専門委員会
「教育･研究と社会」作業部会
主査　北　村　隆　行

京都大学自己点検・評価を実施するに当たって
アンケートのご依頼

拝啓　平素より，貴社におかれましては，京都大学の教育・研究に対して多大なるご理解とご協力をいただき，有り難うございます。

本学では，21 世紀における大学の改革・発展を目指し，教育・研究・運営の全般にわたって自己点検・評価を実施して，社会的貢献をはかるとともに，情報の開示に努めております。本年度は，『教育・研究と社会』に重点をおき，社会との連携について自己点検・評価を行っております。これに関連しまして，産業界からの評価を賜りたく，アンケートを用意させていただきました。

大変お忙しいところ恐縮ですが，アンケートにご回答いただき，同封の返信用封筒にてご返送いただきますよう，お願い申し上げます。

また，Web サイト（http://www.adm.kyoto-u.ac.jp/kikaku/kisan/）においてもご回答いただけます。（ご回答期限：平成 13 年 10 月 19 日）

なお，アンケートは，自己点検・評価の目的以外に使用することはございません。また，貴社が特定できる形での公表はいたしません。

いただきましたご回答をもとに，今後，京都大学における教育・研究の改善を図り，社会に貢献してまいりたいと考えております。ご協力のほど，よろしくお願いいたします。

敬具

ご返送先・お問い合わせ先
〒606-8501　京都市左京区吉田本町
京都大学総務部企画課大学評価掛
TEL:075-753-2088　FAX:075-753-2089

京都大学との共同研究に関する調査

本調査票は過去に京都大学との間で研究委託契約を結ばれたり、奨学寄附金をお寄せいただいた企業またはその特定部門にお送りしています（お送り先は封筒の宛先をご確認ください）。以下の質問には、お送り先の企業や部門のお立場でご回答ください。
なお、Web サイト（http://www.adm.kyoto-u.ac.jp/kikaku/kisan/）でもご回答いただけますので、ご利用下さい。

問１．貴社（貴部門）において、過去５年間に京都大学の教官と実施された共同研究の概数はどのぐらいでしょうか。あてはまる数字に○印をつけてください。ここで、共同研究とは「受託研究」「民間等との共同研究」「奨学寄附金」など、資金の提供を伴うものを指します。同じ教官を対象とするものでも、入金１回ごとに１件と数えてください。

京都大学との共同研究（過去５年間）
１．0 件
２．1～5 件
３．6～10 件
４．11～20 件
５．21～50 件
６．51～100 件
７．100 件以上
８．わからない

問２．貴社（貴部門）が京都大学の教官と共同研究をなさってきたのは、どのような理由からですか。次の各項目について、あてはまる数字に○印を付けてください。

	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらでもない	ややあてはまる	非常にあてはまる
(1) 既存技術の商品化を促進するため	1	2	3	4	5
(2) 自社の技術を発展させるため	1	2	3	4	5
(3) 自社にない技術を確立するため	1	2	3	4	5
(4) 基礎研究を充実させるため	1	2	3	4	5
(5) 将来の技術開発動向を知るため	1	2	3	4	5
(6) 社員の技術力を向上させるため	1	2	3	4	5
(7) 知っている教官がいたため	1	2	3	4	5
(8) 卒業生を確保するため	1	2	3	4	5
(9) 学術研究・教育に対する貢献のため	1	2	3	4	5

1

問３．京都大学の教官と実施された共同研究は、どのような特徴がありましたか。各項目について、全体的な印象が最もあてはまる数字に○印をつけてください。

	まったくその傾向はない	あまりその傾向はない	他国立大学と同じ程度である	ややその傾向がある	非常にその傾向がある	わからない
（１）共同先の教官を容易に発見できる	1	2	3	4	5	6
（２）事務手続きが簡単である	1	2	3	4	5	6
（３）研究費用が安価である	1	2	3	4	5	6
（４）教官の学問的力量が高い	1	2	3	4	5	6
（５）教官がニーズを理解している	1	2	3	4	5	6
（６）教官の理論志向が強い	1	2	3	4	5	6
（７）教官の実用志向が強い	1	2	3	4	5	6
（８）設備が充実している	1	2	3	4	5	6
（９）研究室マネジメントが上手である	1	2	3	4	5	6
(10) 守秘義務が遵守される	1	2	3	4	5	6
(11) 企業の知的財産権が確保される	1	2	3	4	5	6
(12) 自社の基礎技術力向上に役立つ	1	2	3	4	5	6
(13) 社員の技術開発能力向上に役立つ	1	2	3	4	5	6
(14) 思いもよらぬ発見が得られる	1	2	3	4	5	6
(15) 優秀な学生や大学院生に出会える	1	2	3	4	5	6
(16) 学問への貢献を通して企業の評価が高まる	1	2	3	4	5	6

問４．京都大学は、近年、産学連携の推進に力を注いでおり、次のような点について，改善・充実を考えています。それぞれについて、貴社（貴部門）はご関心がおありでしょうか。各項目について、あてはまる数字に○印をつけてください。

	まったく関心がない	あまり関心がない	どちらでもない	ある程度関心がある	非常に関心がある
(1) 研究内容紹介等の広報	1	2	3	4	5
(2) 適切な教官への仲介	1	2	3	4	5
(3) 事務手続きの簡素化	1	2	3	4	5
(4) 特許等の知的財産権の明確化	1	2	3	4	5
(5) 複数分野の教官による共同研究	1	2	3	4	5
(6) 複数企業・機関との共同研究の企画	1	2	3	4	5

問５．貴社の業種と規模（従業員数）についておたずねします。それぞれについて、あてはまる数字に○印をつけてください。

業　種

1．農・林・漁業
2．鉱業・鉄鋼
3．土木・建設
4．石油・化学工業
5．食品・医薬品
6．衣料・繊維工業
7．出版・印刷
8．電気・機械・精密機械
9．電気・ガス・水道
10．運輸
11．通信
12．銀行・金融・保険
13．不動産
14．医療・保健
15．卸小売・流通
16．サービス（コンピュータ関係）
17．サービス（コンピュータ関係以外）
18．その他（　　）

規　模（従業員数）

1．～10 名
2．11 名～100 名
3．101 名～500 名
4．501 名～1000 名
5．1001 名～5000 名
6．5001 名～10000 名
7．10001 名～
8．個人等

3

問６．京都大学との共同研究をなさってみて、どのような感想をお持ちでしょうか。また、京都大学の産学連携を中心とした社会貢献が今後どうあるべきかについて、現状の問題点やご要望を含め、お考えを自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。なお、評価報告書(冊子)をご希望の場合には、連絡先を下欄にご記入ください。発刊（来年の予定）の際に、お送りさせていただきます。

なお、京都大学には本年４月に「国際融合創造センター」が設置され、本部事務局の研究協力部や各学部の研究協力課等とともに産学連携の諸事業を展開しております。今後ともご支援をお願いいたします。

貴社（部門）連絡先

4